岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調查報告書第399集

泉屋遺跡第16·19·21次発掘調查報告書

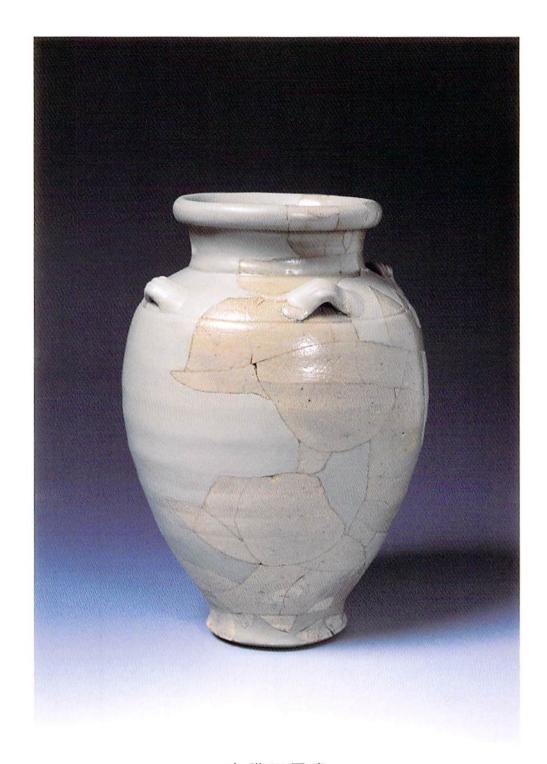
一関遊水地事業関連遺跡発掘調查

(第2分冊)

国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所 (助)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書

(第2分冊)



白磁四耳壷



旧河道跡 調査状況



木柱列

第2分冊目次

卷頭	カ	ラ	_	X	版
----	---	---	---	---	---

Ħ	次	•	H.	例

第5章 泉屋遺跡第19・21次調子	第	5	耷	泉	屋間	猕箕	19	. 21	次調
-------------------	---	---	---	---	----	----	----	------	----

第1節 検出した遺構
1 掘立柱建物
2 井戸
3 土坑
4 游
 5 古代の竪穴住居 ·
6 焼土 (19次調査分)
7 土器埋股设格
8 カマド状遺構・焼土(21次調査分)
9 旧河道跡・木柱列
第 2 節 出土
1 縄文時代の遺物包含層について
2
3 土師器
4 須恵器
5 かわらけ
6 国産陶器 (
(1) 猿投産陶器
(2) 渥美産陶器
(3) 常滑産陶器 (
(4) 須恵器系陶器
(5) 水沼産陶器・瓷器系陶器 (5)
7 中国産陶器・朝鮮産陶器
8 中国産磁器
9 中·近世陶磁器
10 土製品
11 石製品
12 金属製品
13 木製品
14 その他の遺物
第3節 まとめ
1 遺構
2 遺物
第 4 節 自然科学的分析(5 篇)
報告掛抄録

〈図版目次〉

第1図	遺傳配置図		第49国		. 91
第2図	拙立柱建物①	2	第50团		. 92
第3図	掘立柱建物②	4	第51図	机文時代の石器②	. 93
第4図	掘立柱建物③	6	第52図	和文時代の石器❷	. 94
第5网	掘立柱建物④	8	第53図	縄文時代の石器図	95
第6図	掘立柱建物⑥	9	第54図	縄文時代の石器❷	. 96
第7図	烟 业柱建物⑥	11	邻55図	縄文時代の石器圏	. 97
第8図	掘立柱建物⑦・柱列	12	第56図	和文時代の石器図	. 98
第9図	井戸①	15	第57凶	和文時代の石製品①	. 99
第10図	井戸②	16	第58図	和文時代の石製品②	100
第11図	井戸3	18	第59図	和文時代の土器①	101
第12図	井戸①	19	3760国	和文時代の土器②	102
第13図	井戸⑤	20	第61团	和文時代の土器③	102
第14図		23	第62図	和文時代の土器④	104
第15図		25	第63国	和文時代の土器⑤	105
第16図	上坑③	29	第64図	和文時代の土器⑥	106
第17図	游①	33	郊65図	和文時代の土器⑦	107
第18図	海②	34	第66团	縄文時代の上器⑧	108
第19図	海③	35	郊67図	机文時代の土器 ®	109
第20図	游④	37	第68図	机文時代の上器⑩	110
第21図	古代の竪穴住居	40	第69図	机文時代の土器①	111
第22図	焼土・土器埋設遺構(19次調査分)	43	第70図	縄文時代の土器⑫	112
第23図	カマド状遺橋・焼土(21次調査分)	45	第71図	縄文時代の上器®	113
第24図	旧河道全体図	49	第72図	和文時代の上器図	114
郊25図	旧河道断面①	51	第73図	縄文時代の土器⑮	115
第26図	H河道断面②	52	第74図	縄文時代の土器⑯	116
郊27 刘	旧河道断面③	53	第75図	机文時代の土器⑰	117
郊28図	旧河道断面④	54	第76图	縄文時代の土器®	118
第29図	木柱列(平面図)	56	第77図	和文時代の土器⑩	119
第30図	木柱 (断面図)	57	第78図	和文時代の土器20	120
第31図	和文時代の石器①	73	第79図	縄文時代の土器②	121
第32図	和文時代の石器②	74	第80国	和文時代の土器②	122
第33図	楓文時代の石器③	75	第81团	和文時代の土器②	123
第34図	和文時代の石器④	76	第821刘	縄文時代の土器②	124
第35図	縄文時代の石器⑤	77	第83国	和文時代の土器圏	125
第36図	和文時代の石器⑥	78	第84図	和文時代の土器会	126
第37図	和文時代の石器①	79	第85図	和文時代の土器②	127
第38図	和文時代の石器®	80	第86図	和文時代の土器図	128
第39図	和文時代の石器⑨	81	第87図	和文時代の土器図	129
第40図	和文時代の石器⑩	82	第88図	縄文時代の土器	130
\$\$41 X	和文時代の石器①	83	郊89図	和文時代の上器③	131
第42図	和文時代の石器図	84	数90図	和文時代の土器®	
	机文時代の石器圏				132
第43図	_	85 86	数91以 数02函	和文時代の土制日の	133
第44図	柳文時代の石器⑭	86	第92図	柳文時代の土製品①	134
第45図	細文時代の石器⑮	87	第93図	和文時代の土製品②	135
第46図	柳文時代の石器圏	88	第94図	机文時代の土製品③	136
第47図	柳文時代の石器切	89	3395[X]	十 6 230	137
郊481×1		90	क्रा५६।श्र	土師器②	138

第97团	土師器③	139	第147図	湿美産陶器③	•••••	189
第98 図	土師器④	140	第148図	淫美產陶器④		190
第99図	土師器 ⑤	141	第149図	渥美產陶器⑤	***************************************	191
第100図	土師器⑥	142	第150図	洲美產陶器®	***************************************	192
第101図	土師器②	143	第151図	湿美產陶器⑦	***************************************	193
第102図	土師器 8	144	第152図	渥美產陶器®		194
第103図	土師器⑨	145	第153図	渥美產陶器⑨		195
第104図	須思器①	146	第154図	渥美產陶器⑩	••••••	196
第105国	須忠器②	147	第155図	常滑產陶器①		197
第106図	須恵器③	148	第156図	常滑產陶器②	***************************************	198
第107図	須恵器④	149	郊157図	常滑產陶器③	***************************************	199
第108図	須忠器⑤	150	第158図	常滑產陶器④	***************************************	200
第109図	須忠器⑥	151	第159図	常滑產陶器③		201
第110図	須恵器⑦	152	第160図	常滑產陶器⑥		202
第111図	須忠器®	153	第161図	常滑產陶器⑦		203
第112図	かわらけ①	154	第162図	常滑產陶器®		
	かわらけ②					204
第113図	<u> </u>	155	第163図	常計産陶器⑨		205
第114国	かわらけ③	156	第164図	常滑產陶器⑩	***************************************	206
第115図	かわらけ④	157	第165図	常滑產陶器①	***************************************	207
第116図	かわらけ⑤	158	第166図	常滑產陶器⑩		208
第117図	かわらけ⑥	159	第167図	常滑產陶器⑩	***************************************	209
第118図	かわらけつ	160	第168図	常州産陶器・		210
第119図	かわらけ®	161	第169図	常滑產陶器19	***************************************	211
第120図	かわらけ⑨	162	郊170図	常滑產陶器10		212
第121図	かわらけ⑩	163	第171図	常滑產陶器团		213
第122図	かわらけ⑪	164	第172図	常滑產陶器®		214
第123図	かわらけ⑫	165	第173図	常滑產陶器⑩	***************************************	215
第124図	かわらけ⑬	166	第174図	常滑産陶器20	***************************************	216
第125図	かわらけ⑭	167	第175团	常滑產陶器到	***************************************	217
第126团	かわらけ <u>(ii</u>)	168	第176因	常滑產陶器②	***************************************	218
第127团	かわらけ⑯	169	第177团	常計產陶器圖		219
第128团	かわらけ⑰	170	第178図	常滑產陶器図		220
第129团	かわらけ®	171	第179 刘	常滑產陶器圖	•••••••••••••••••••••••••••••••••••••••	221
第130図	かわらけ⑲	172	第180図	常用產陶器圖	***************************************	222
第131図	かわらけ劉	173	第181図	常滑產陶器②	***************************************	223
第132図	かわらけ②	174	第182図	常滑產陶器圖	***************************************	224
第133図	かわらけ@	175	第183図	須惠器系陶器①)	225
第134図	かわらけ幽	176	第184図	須思器系陶器②		226
第135国	かわらけ❷	177	第185国	水沼產陶器①		227
第136团	かわらけ歯	178	第186図	水沼産陶器②・	瓷器系陶器	228
第137团	かわらけ⊗	179	第187図	中国産陶器①		229
第138図	かわらけ劒	180	第188図	中国産陶器②・	朝鲜産陶器	230
第139図	かわらけ幽	181	第189図	中国産磁器①		231
第140図	かわらけ幽	182	第190図	中国産磁器②		232
第141国	かわらけ⑩	183	第191図	中国產陶器③		233
郊142図	かわらけ <u>鐗</u>	184	第192図	中国産磁器④		234
第143図	かわらけ <u>@</u>	185	第193図	中国產陶器⑤		235
第144团	狼投產陶器	186	第194図	中国產陶器®	***************************************	236
第145図	迎美産陶器①	187	第195回	中国產陶器①	•••••••••••••••••	237
第146図	渥美產陶器②	188	第196図	中国產陶器®		238

		Advanced to the second	050
第197 図 中 · 近世陶磁器①	239	第214図 石製品①(砥石・石鍋・碁石)	258
第198図 中・近世陶磁器②	240	第215図 石製品② (焼けた磔ほか)	259
第199以 中・近世陶磁器③	241	第216凶 石製品③(石臼)	260
第200 図 中・近世陶磁器④	242	第217図 石製品④(板碑)	261
第201図 中·近世陶磁器(5)	243	第218図 金属製品①	262
第202 図 中·近世陶磁器⑥	244	第219図 金属製品②	263
第203図 中・近世陶磁器⑦	245	第220図 金属製品③	264
第204 凤 中·近世陶磁器	246	第221図 金属製品④	265
第205 凤 中·近世陶磁器 ⑨	247	第222図 金属製品⑤	266
第206 团 中 ·近世陶磁器⑩	248	第223团 金属製品⑥	267
第207図 中・近世陶磁器(I)	249	第224 国 金属製品	268
第208図 中・近世陶磁器 ¹	250	第225図 木製品①	269
第209図 土製品① (土錘)	251	第226図 木製品②	270
第210図 土製品②(土錘)	254	第227团 木杭	271
第211図 土製品③(土錘)	255	第228図 その他の遺物(ガラス製品ほか)	272
第212図 土製品④(フイゴ羽口・土鈴ほか)	256	第229図 中国産陶器の比較	275
第213図 土製品⑥(12世紀の瓦)	257		
<	写真図版	(付図) 泉屋遺跡第19·21次調査遺構配置図 (S = 1 / 目次)	100)
写真团版 1 空中写真	309	写真図版30 - 和文時代の石器③	338
写真図版 2 遺跡近景·基本層序	310	写真図版31 和文時代の石器④	339
写真図版 3 掘立柱建物・調査風景	311	写真図版32 純文時代の石器⑥	340
写真図版 4 井戸①	312	写真図版33 和文時代の石器®	341
写真図版 5 井戸②	313	写真図版34 和文時代の石器⑦	342
写真図版 6 井戸③・土坑①	314	写真図版35 和文時代の石器®	343
写真図版 7 土坑②	315	写真図版36 和文時代の石器⑨	344
写真図版 8 土坑③ ·	316	写真図版37 和文時代の石器⑩	345
写真図版 9 土坑④	317	写真図版38 - 44文料代の石器①・石製品	346
写真図版10 土坑⑥	318	写真図版39 	347
写真関版11 土坑⑥	319	写真図版40	348
写真図版12 土坑⑦	320	写真図版41 組文時代の土器③	349
写真网版13 土坑®	321	写真図版42 和文時代の土器④	350
写真阅版14 土坑® ···································	322	写其团版43 机文時代の土器 ⑥ ····································	
写真図版15	323	写真図版44 縄文時代の土器④	351
写真図版16	324	写真図版45 縄文時代の土器②	352
写真図版17 净③	325	写真図版46 和文時代の土器®	353
写真図版18 古代の竪穴住居	326	TO ME TO BE AN AMALANA IN A LINE OF	354
写真図版19 焼土①	327		355
写真図版20 烧土②	328	写真因版48 和文時代の土器⑩	356
写真図版21 土器埋設遺樽・カマド状遺樽①	329	写真図版49	357
写真図版22 カマド状遺構②	330		358 250
写真図版23 カマド状遺構③		写真阅版51 和文時代の土器③	359
	331	写真図版52 縄文時代の土器図	360
写真図版24 遺物出土状況	332	写真図版53	361
写真図版25 旧河道の調査状況①	333	写真図版54	362
写真関版26 旧河道の調査状況②	334	写真図版55	363
写真図版27 旧河道の調査状況③	335	写真図版56 縄文時代の土器®	364
写真図版28 - 和文時代の石器①	336	写真図版57 縄文時代の土器⑩	365
写真図版29 和文時代の石器②	337	写真図版58	366

material union	Am to take the section of				
写真図版59	和文時代の土器② ····································	367	写真図版109	湿美產陶器(5) ····································	417
写真図版60	和文時代の土器②	368	写真図版110	混美産陶器⑥	418
写真図版61	縄文時代の土製品①	379	写真図版111	渥美產陶器⑦	419
写真闵版62	楓文時代の上製品②	370	写真図版112	巡美産®・常滑産陶器①	420
写真团版63	縄文時代の土製品③	371	写真図版113	常滑産陶器②	421
写真团版64	土師器①	372	写真図版114	常滑產陶器③	422
写真团版65	土師器②	373	写真図版115	常滑産陶器④	423
写真図版66	土師器③	374	写真図版116	常滑産陶器⑤	424
写真図版67	土師器④	375	写真図版117	常滑產陶器⑥	425
写真図版68	土師器⑤	376	写真図版118	常滑產陶器⑦	426
写真团版69	土師器⑥・須恵器①	377	写真図版119	常滑產陶器®	427
写真团版70	須恵器②	378	写真図版120	常滑產陶器⑨	428
写真团版71	須惠器③	379	写真図版121	常滑產陶器⑩	429
写真図版72	須恵器④	380	写真図版122	常滑產陶器⑪	430
写真図版73	須恵器⑥	381	写真図版123	常滑產陶器⑫	431
写真図版74	須恵器⑥	382	写真図版124	常滑產陶器圖	432
写真図版75	かわらけ①	383	写真図版125	常用產陶器到	433
写真図版76	かわらけ②	384	写真図版126	常滑產陶器圖	434
写真図版77	かわらけ③	385	写真闵版127	常消産陶器⑯	435
写真図版78	かわらけ④	386	写真図版128	常滑產陶器团	436
写真团版79	かわらけ⑥	387	写真図版129	常滑產陶器®	437
写真团版80	かわらけ®	388	写真図版130	常治産陶器⑩	438
写真図版81	かわらけ⑦	389	写真図版131	常計産20・須忠器系陶器①	439
写真図版82	かわらけ⑧	390	写真図版132	須恵器系·②木沼産陶器①	440
写真团版83	かわらけ⑨	391	写真図版133	水沼産陶器②	441
	かわらけ⑩	392	写真図版134	交器系陶器·中国産陶器①	442
写真团版84		393	写真团版135	中国産②・朝鮮産陶器	443
写真図版85	かわらけ⑪			中国産磁器①	444
写真团版86	かわらけ⑫	394	写真図版136		445
写真図版87	かわらけ®	395	写真図版137	中国産磁器②	
写真図版88	かわらけ®	396	写真図版138	中国産磁器③	446
写真図版89	かわらけ(b)	397	写真図版139	中国産磁器④	447
写真図版90	かわらけ⑱	398	写真図版140	土製品①	448
写真図版91	かわらけ⑰	399	写真図版141	土製品②	449
写真团版92	かわらけ <u>®</u>	400	写真团版142	土製品③	450
写真図版93	かわらけ <u>®</u>	401	写真図版143	石製品④	451
写真図版94	かわらけ <u>@</u>	402	写真図版144	石製品⑤	452
写真図版95	かわらけ御	403	写真図版145	石製品⑥・動物遺存体	453
写真図版96	かわらけ❷	404	写真図版146	金属製品①	454
写真図版97	かわらけ御	405	写真团版147	金属製品②	455
写真团版98	かわらけ❷	406	写真团版148	金虹製品③	456
写真团版99	かわらけ圏	407	写真团版149	金属製品④	457
写真図版100	かわらけ谷	408	写真团版150	木製品	458
写真図版101	かわらけூ	409	写真团版151	木杭・その他の遺物	459
写真团版102	かわらけ幽	410			
写真図版103	かわらけ2回	411			
写真図版104	猿投産陶器	412			
写真团版105	湿美産陶器①	413		<表目次>	
写真図版106	湿美産陶器②	414		へびログノ	
写真团版107	湿美產陶器③	415	表 1 柱穴	計測表 5	8~61
写真团版108	湿美産陶器④	416	表2 中・	近世陶磁器観察表 251	252

凡 例

- 1. 本報告書に掲載した遺構図の方位は、平面直角座標第X系の座標北を、遺構図の水糸レベルは海抜高度を示す。
- 2. 遺構図の縮尺は、掘立柱建物・溝断面図・旧河道跡断面図 1 / 100、溝平面図・旧河道跡平面図 1 / 200、 井戸・上坑・古代の竪穴住居・焼土・カマド状遺構・木柱列平面図・杭断面図は 1 / 60、上器埋設遺構 は 1 / 30とした。図版内にはそれぞれスケールを付している。
- 3. 遺構・遺物図版に使用したスクリーントーン等は、本文中あるいは図版内にその内容を示した。
- 4. 巻末に付図として遺構配置図を縮尺 1 / 100で添付した。この中で、第19次調査で確認された柱穴については、次の 5 に示す「19」を省略した。同じ遺構配置図を第1 図に掲載しているが、これは任意縮尺である。
- 5. 遺構名については、その遺構が検出された順の連番を遺構を表す略号の後ろに付け、さらに調査次を示す「19」および「21」の数字を一番前に付けて呼称した(例:19SB1、21SE2など)。遺構にはそれぞれ次の略号を用いた。

SB: 掘立柱建物、SE: 井戸、SK: 土坑、SD: 溝、竪穴住居: SI、その他の遺構: SX なお、柱列と木柱列については、SXを使わずそのまま連番を付けた。

- 6. 層名は基本層序にはローマ数字を、遺構の埋土にはアラビア数字を用いて区別した。なお、旧河道跡の 層序についてはこれらとは別扱いとし、大別層にはアラビア数字を用いた。
- 7. 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。
- 8. 本報告費掲載遺物についての選択基準は、明確なものを設けていない。遺物の種類が多岐にわたっており、より多くの遺物を載せることを心がけたつもりである。
- 9. 報告背中の遺物番号は、時期および種類毎に次のように付けている。

1~240: 縄文時代の石器・石製品

301~802:縄文時代の土器・土製品

1001~1096:土師器

1101~1170: 須恵器

2001~2534:かわらけ

3001~3381:国産陶器

4001~4018:中国産陶器·朝鮮産陶器

5001~5112:中国産磁器

6001~6085:中·近世陶磁器

7001~7078:縄文時代以外の土製品

7101~7118: 縄文時代以外の石製品

7201~7258:金属製品

7301~7315:木製品

7401~7404:その他の遺物 (ガラス製品・琥珀・坩堝)

10. 遺物実測図の縮尺は、 $1/2 \cdot 1/3$ を基本にした。遺物の種類や大きさによって、 $2/3 \cdot 1/4 \cdot 1/5 \cdot 1/6 \cdot 1/8$ としたものもある。これらについては、それぞれの図版内にスケールを付けて

示している。

- 11. 遺物観察表は、中・近世陶磁器を除いてそれぞれ実測図と同じページに掲載した。観察表の掲載順は、 遺構内出土遺物をまず最初にまとめ、次ぎに遺構外の出土遺物をグリッド毎に整列させた。金属製品等、 一部の遺物に種類を優先させて扱ったものもある。
- 12. 各遺物観察表において、() 内の数値は、残存値または推定値を示している。
- 13. 石器・石製品以外の遺物観察表においても、法量の単位は「cm」重量は「g」である。
- 14. かわらけ観察表の項目において、「残存」とはあくまでも観察者の感覚による残存率であり、数値的な要付けがあるものではない。
- 15. 遺物写真図版の縮尺は、遺物実測図のそれにほぼ準じたものとした。
- 16. 国産陶器・中国産陶磁器・朝鮮産陶器の産地同定および分類は、平泉町教育委員会八重樫忠郎氏に依頼した。
- 17. 中・近世陶磁器の産地同定・分類は、当センター羽柴直人が行った。
- 18. 第4節「自然科学分析」は、次の5編である。

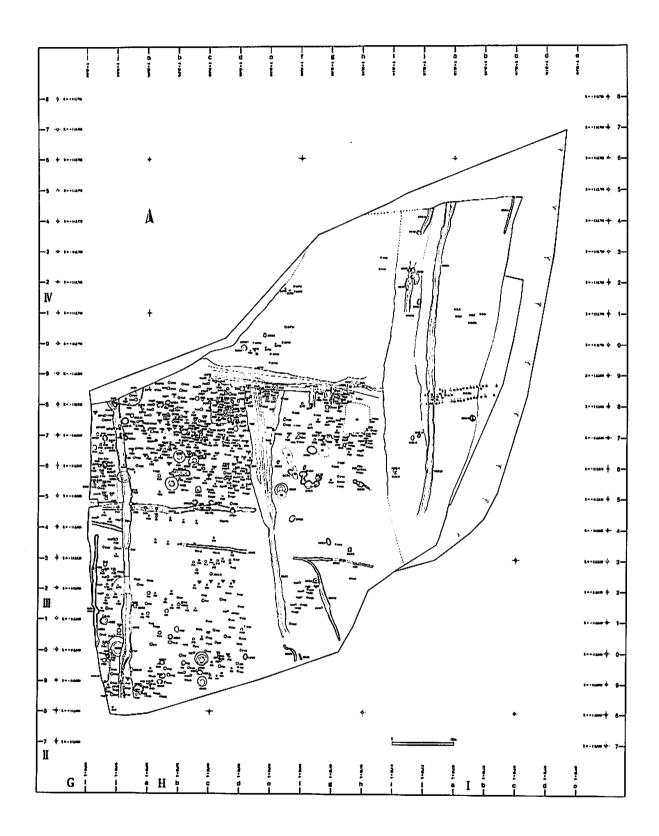
「泉屋遺跡第21次調査出土材の樹種」(高橋利彦)

「泉屋遺跡出土ガラス玉の非破壊分析法による調査結果」(咲山まどか・赤沼英男)

「泉屋遺跡の火山灰分析」(パリノ・サーヴェイ株式会社)

「動物遺存体鑑定結果」(熊谷 賢)

「平泉町泉屋遺跡から産出した植物遺体群」(辻誠一郎・辻 圭子)



第1図 遺構配置図

第5章 泉屋遺跡第19・21次調査

第1節 検出した遺構

泉屋遺跡19・21次の2カ年にわたる調査で検出した遺構は、掘立柱建物(略号:SB)17棟、柱列3条、井戸(SE)9基、土坑(SK)34基、溝(SD)12条、古代の竪穴住居(SI)3棟、焼土(SX)10基、縄文時代の土器埋設遺構(SX)2基、近世以降のカマド状遺構(SX)5基と、調査区東端に確認された旧河道跡1筒所である。

各遺構の検出面は、縄文時代に属するものは基本層序のV~VI層上面、古代以降はIV層上面(旧河道内で 検出された遺構は除く)である。IV層面においては、時期の異なる遺構が複雑に重複し合い、また本層と遺 構埋土との区別が不明瞭なこともあって、遺構間の新旧関係を明確にできなかったものも多い。

遺構名は、これらの略号を用いて確認された年次およびその同一遺構での連番を付したが、掘立柱建物については、21次調査検出の遺構として扱っている。

1 掘立柱建物·柱列

確認した柱穴650基あまりを検討した結果、掘立柱建物は17棟、柱列は3条示すことができた。うち12世紀 に所属するものは1棟のみで、それ以外は主に16世紀後半から18世紀代に所属するものと思われる。

21SB1 (第2図、写真図版3)

[位置] 調査区北西側のⅢH6a·7a·8a·6b·7b·8b·6c·7c·8cに位置する。

[平面形式] 桁行 3 間 (675cm)、梁間 2 間 (436cm) の身舎の四面に庇がまわる掘立柱建物である。使用した 柱穴は20個である。

[建物方位] 桁行の軸方向はN-87°-Eである。

[柱間寸法] 桁行では226cm (7.4尺)、梁間で214cm (7.0尺) が多く使われるが、他に様々な寸法があり基準寸法は不明である。

[出土遺物] 出土していない。

[性格] 唯一の12世紀に所属すると思われる建物跡である。具体的な性格は不明である。

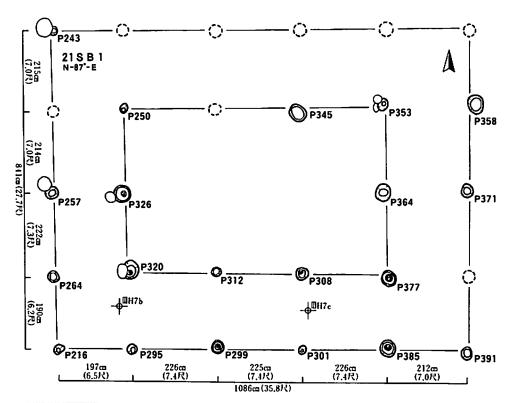
[推定年代] 平面形式・柱間などから12世紀の掘立柱建物と考えられる。

21SB2 (第2図)

[位置] 調査区北西側のⅢG7i・6j・7j・ⅢH6a・7a、21SB1の西側に隣接する。

[重複] 21 S B 1、21 S B 4、21 S B 7 とプランが重複するが、柱穴間に切り合いがなく新旧関係は不明である。

[平面形式] 堀立柱建物で、桁行4 間以上、梁間1 間 (392cm) の北側と南側の二面に庇が付く。使用した柱穴は10個である。

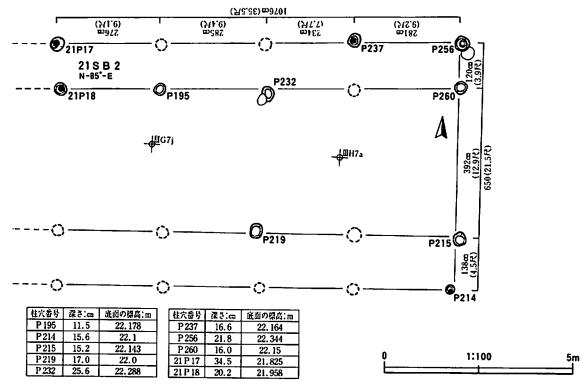


柱火备号	深さ:cs	底面の標高; m
P216	12.2	22.164
P 243	15.4	22.256
P 250	19.6	22. 108
P 257	17.4	22, 144
P 264	11.4	22, 153

柱穴番号	深さ:ca	底面の標高:m
P 295	40.2	22.257
P 299	11.3	22. 134
P 301	42.6	21.803
P 308	23.2	22.016
P312	14.8	22, 1

柱穴番号	深さ:ca	底面の標高:m
P 320	40.7	21.899
P 326	11.2	22.33
P345	21.1	22.099
P 353	33.6	22.009
P 358	19.7	22. 155

柱穴番号	深さ:co	底面の標高:m
P 364	31.3	22.038
P 371	16.0	22. 15
P 377	18.0	22. 1
P 385	15.7	22.013
P 391	18.9	21,931



第2図 掘立柱建物①

〔建物方位〕桁行の軸方向はN-85°-Eである。

〔柱間寸法〕桁行は28cm(9.2尺)前後、梁間は392cm(12.9尺)が使われるが、桁行では使われる寸法が区々 で基準となるものは不明である。

[出土遺物] 出土していない。 [性格] 不明である。

[推定年代] 平面形式・柱間などから16世紀後半から17世紀代の掘立柱建物と考えられる。

215 B 3 (第3図)

【位置】調査区北西側のⅢH5c・6 cに位置し、21SB5と規模(柱間等)・軸方向をほぼ同じとする。本遺構北側で21SB6、21SB7と平面プランが重複する。

〔重複〕21 S B 5 との前後関係は、P399とP400との重複関係から、本遺構のほうが旧い。21 S B 6 ⋅ 21 S B 7 との関係も同様である。

[平面形式] 桁行3間 (687cm)、梁間1間 (300cm) の掘立柱建物である。使用した柱穴は7個である。

[建物方位] 桁行の軸方向はN-4°-Eである。

「柱間寸法」梁間は300cm (9.9尺) が使われるが、桁行では寸法が区々である。

[出土遺物] 出土していない。 〔性格〕21 S B 2 の付属屋となる可能性がある。

【推定年代】平面形式・柱間などから16世紀後半から17世紀代の掘立柱建物と考えられる。21 S B 5 の建替えか。

21SB4 (第3図、写真図版3)

[位置] 調査区北西端のⅢG6j・7j、ⅢH6a・7a・6b・7bに位置する。建物規模や平面形式を同じくする21SB2の西側4mに平行移動した形である。

[重複] 21SB2と平面プランが重複するが、直接柱穴どうしの切り合いがないため、前後関係は明らかでない。

[平面形式] 既述のとおり、21 S B 2 と同様の形式をもつ掘立柱建物である。桁行 4 間以上、梁間 1 間 (391 cm) の北側と南側の二面に庇が付く。使用した柱穴は19個である。

[建物方位] 桁行の軸方向はN-88°-Eである。

[柱間寸法]桁行は219cm(7.2尺)・233cm(7.7尺)など、梁間は392cm(12.9尺)が使われる。基準寸法は不明である。

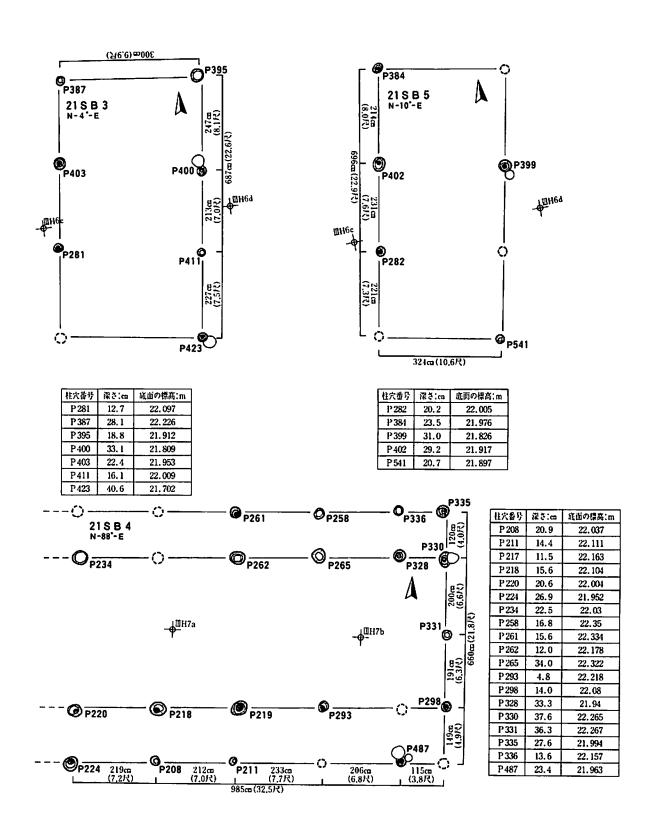
[出土遺物] 出土していない。 〔性格〕不明である。

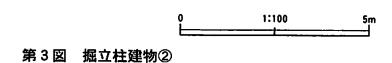
[推定年代] 平面形式・柱間などから16世紀後半から17世紀代の掘立柱建物と考えられる。前後関係は不明であるが、21SB2あるいは本遺構が建替えられたものであろう。

218 B 5 (第3図)

[位置] 調査区北西側のⅢH5c・6cに位置し、21SB3で記載したように規模・軸方向をほぼ同一にする。軸方向は、21SB3よりも東に6。傾いている。

[重複] 21SB3との前後関係は、柱穴間の切り合い関係から本遺構のほうが新しい。本遺構北側で21SB1、21SB6、21SB7と平面プランが重複するが、本遺構は、21SB1より新しく21SB6・7よりは旧いものと考えられる。





[平面形式] 桁行3間(696cm)、梁間1間(324cm)の掘立柱建物である。使用した柱穴は5個である。

〔建物方位〕桁行の軸方向はN-10°-Eである。

〔柱間寸法〕梁間は324cm(10.6尺)、桁行では寸法が区々であるが230cm前後のものが使われている。

[出土遺物] 出土していない。 [性格] 21 S B 4 の付属屋となる可能性がある。

〔推定年代〕平面形式・柱間などから16世紀後半から17世紀代の掘立柱建物と考えられる。21SB3に示したような建替えがあったのであろう。

21SB6-1·2 (第4図)

[位置] 調査区北側のⅢH6b·7b·6c·7c·6d·7dに位置する。

〔重複〕21 S B 1、21 S B 2、21 S B 7、21 S B 8 と平面プランが重複する。直接柱穴間の切り合いがないため、前後関係は明らかでない。

[平面形式] 21 S B 6 - 1 は21 S B 2・21 S B 4 と同様の形式をもつ掘立柱建物である。桁行 3 間以上、梁間 2 間 (419cm) の南側に庇が付く。北側にも庇が廻るものと思われるが、確認できなかった。使用した柱穴は14個である。21 S B 6 - 2 はこれに付属する付属屋と思われる。

[建物方位] 桁行の軸方向はN-87°-Wである。

[柱間寸法] 21 S B 6 - 1 では、桁行は265cm (8.7尺)・309cm (10.2尺) など、梁間は222cm (7.3尺)・197 cm (6.5尺) が使われている。21 S B 6 - 2 では、240cm (8.1cm) が使われている。

[出土遺物] 出土していない。

[付属施設・性格] 21 S B 6 - 1 が主屋で、21 S B 6 - 2 は同時に使用された付属屋か。

[推定年代] 主屋の平面形式・柱間などから、17世紀後半から18世紀代の掴立柱建物と考えられる。

21SB7-1·2 (第5図、写真図版3)

[位置] 掘立柱建物が集中する調査区北西側のⅢG7j・8j、ⅢH7a・8a・7b・8b・6c・7c・8c・7d・8dに位置する。

[重複]21SB1~6、21SB8の複数の建物と平面プランが重複している。本遺構は、柱穴間の切り合いなどから、これらのいずれの建物よりも新しい。

[平面形式] 21 S B 7 - 1 は、桁行1637cm、梁間783cm、面積128.2㎡の掘立柱建物である。使用した柱穴は25個である。21 S B 7 - 2 は、桁行868cm、梁間413cmで使用した柱穴は4個である。

[建物方位] 前者の軸方向は $N-83^{\circ}-W$ 、後者のそれは $N-7^{\circ}-E$ である。

[柱間寸法] 梁・桁、それぞれの総長が割り切れる6尺台の寸法がうまく見いだせなかった。

[出土遺物] P242・P246から石臼 (7116・7117) が出土した。 礎盤として利用されたものである。

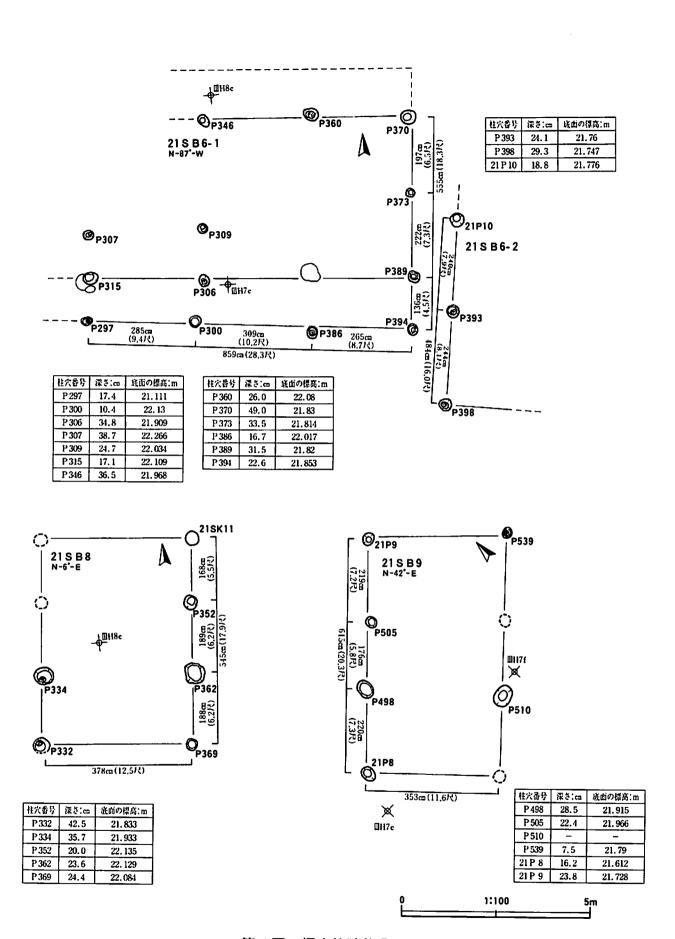
[付属施設・性格] 近世民家の主屋 (21SB7-1) と付属屋 (21SB7-2) と思われる。

[推定年代] 平面形式・柱間、他の建物との関係などから18世紀前半頃の掘立柱建物と考えられる。

21SB8 (第4図)

[位置] 調査区北西部のIIH7b・8b・7c・8cに位置する。

[重要] 21 S B 1、21 S B 6、21 S B 7 と平面プランが重複する。直接柱穴間の切り合いがないため、前後関係は明らかでない。



第4図 掘立柱建物③

[平面形式] 掘立柱建物で、桁行3間(545cm)、梁間1間(378cm)の規模を有する。使用した柱穴は6個である。

〔建物方位〕桁行の軸方向はN-6°-Eである。

[柱間寸法] 桁行は188cm (6.2尺) と168cm (5.5尺)、梁間は378cm (12.5尺) が使われる。

〔出土遺物〕出土していない。 〔性格〕不明である。

[推定年代] 所属時期は不明である。

21SB9 (第4図)

[位置] 調査区北側の中央部、ⅢH6e・7e・7fに位置する。

[重複] 他遺構との重複はない。

[平面形式] 桁行3間(615cm)、梁間1間(353cm)の掘立柱建物である。使用した柱穴は6個である。

〔建物方位〕桁行の軸方向はN-42°-Eである。

[柱間寸法] 桁行は220cm (7.3尺) と176cm (5.8尺)、梁間は353m (11.6尺) が使われる。

[出土遺物] 出土していない。 〔性格〕不明である。

[推定年代] 所属時期は不明である。

21SB10(第6図、写真図版3)

[位置]調査区西側の中央部、ⅢH3a·4a·3b·4bに位置する。

[重複] 他遺構との重複はない。

[平面形式] 桁行3間 (612cm)、梁間1間 (381cm) の掘立柱建物である。使用した柱穴は8個である。

[建物方位] 桁行の軸方向はN-85°-Wである。

[柱間寸法] 桁行は206cm (6.8尺) 等、梁間は381m (12.6尺) である。基準寸法は不明である。

[出土遺物] 出土していない。 [性格] 不明である。

「推定年代」所属時期は不明である。

21SB11 (第6図)

[位置] 調査区西側の中央部、ⅢH2b・2cに位置する。

[重複] 21 S B 17と平面プランが重複するが、柱穴間の切り合いがなく新旧関係は不明である。

[平面形式] 桁行3間(594cm)、梁間1間(375cm)の掘立柱建物である。使用した柱穴は8個である。

[建物方位] 桁行の軸方向はN-86°-Eである。

[柱間寸法] 桁行は192~204cm(6.3~6.7尺)、梁間は375m(12.4尺)が使われる。

[出土遺物] 出土していない。 〔性格〕不明である。

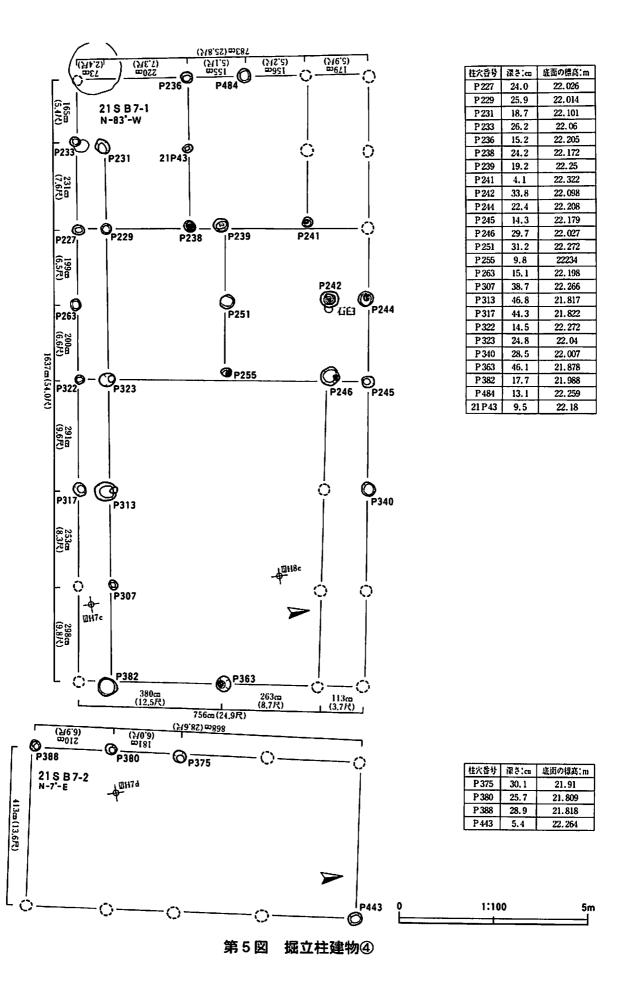
[推定年代] 所属時期は不明である。

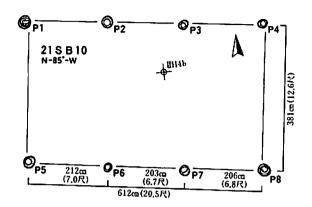
21 S B 12 (第6図)

[位置] 調査区西部南寄りのⅢG1i・2i・1j・2jに位置する。

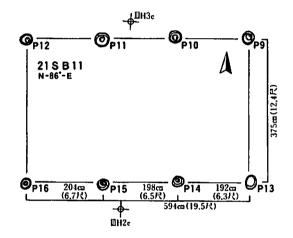
[重複] 平面プランが19SD6と重複する。それと柱穴の切り合いがなく新旧関係は不明である。

[平面形式] 桁行3間(670cm)、梁間1間(364cm)の掘立柱建物である。使用した柱穴は7個である。

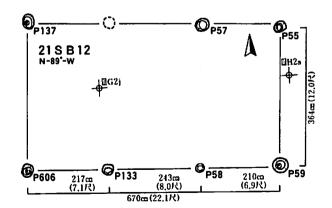




柱穴番号	深さica	底面の係高:m
P 1	29.6	21.932
P 2	25.9	21.908
P 3	24.1	21.863
P 4	22.5	21.884
P 5	16.5	21.96
P 6	20.3	21.853
P 7	8.2	21.988
P 8	11.0	21.96



1545-4511	70.00	IV-12 A JH W I
柱穴番号	深さ:四	底面の標高:m
P 9	33.8	21.577
P 10	15.9	21.825
P11	33.2	21.649
P 12	23.2	21.745
P 13	36.3	21.907
P 14	29.0	21.615
P 15	35.1	21.553
P 16	29,5	21.60



柱穴番号	深さ:00	底面の標高: m
P 55	18.4	21.994
P 57	13.2	21.917
P 58	10.6	21.894
P 59	22.0	21.754
P 133	14.4	22, 135
P 137	23.0	22.03
P 606	20.9	21.96

0 1:100 5m

第6図 掘立柱建物⑤

[建物方位] 桁行の軸方向はN-89°-Wである。

「柱間寸法」桁行は210~243cm (6.9~8.0尺)、梁間は364m (12.0尺) が使われる。

[出土遺物] 出土していない。 〔性格〕不明である。

「推定年代」所属時期は不明である。

21SB13(第7図)

[位置]調査区南西隅のⅡH0a、ⅢH1aに位置する。

[重複] 平面プランが21SB14と重複するが、柱穴間の切り合いがないため前後関係は不明である。

[平而形式] 桁行・梁間とも1間の掘立柱建物である。使用した柱穴は4個である。

[建物方位] 桁行の軸方向はN-10°-Wである。

[柱間寸法] 桁行は487cm (16.0尺)、梁間は304m (10.0尺) である。

[出土遺物] 出土していない。 〔性格〕不明である。

[推定年代] 所属時期は不明である。

21 S B 14 (第7図)

【位置】調査区南西隅のⅡH9a・9b・0aに位置する。

[重複] 21 S B 13に記載のとおりであるが、21 S B 16の平面プランとも重複している。 P 99と P 98の柱穴同士の切り合いから、本遺構が21 S B 16よりも旧い。

[平面形式] 桁行・梁間とも1間の掘立柱建物である。使用した柱穴は4個である。

〔建物方位〕桁行の軸方向はN-7°-Wである。

〔柱間寸法〕桁行は569cm (18.7尺)、梁間は306m (10.0尺) である。

〔出土遺物〕出土していない。 〔性格〕不明である。

〔推定年代〕所属時期は不明である。

21 S B 15 (第7図)

【位置】調査区南西隅のⅡH9b・0b・9c・0cに位置する。

〔重複〕これも21 S B 16の平面プランと重複している。柱穴間の切り合いはなく前後関係は不明である。

[平面形式] 桁行3間 (589cm)、梁間1間 (373cm) の掘立柱建物である。使用した柱穴は6個である。

〔建物方位〕桁行の軸方向はN-7°-Wである。

〔柱間寸法〕桁行は193~200cm (6.3~6.6尺)、梁間は373m (12.3尺) が使われる。基準は不明である。

[出土遺物] 出上していない。 [性格] 不明である。

〔推定年代〕所属時期は不明である。

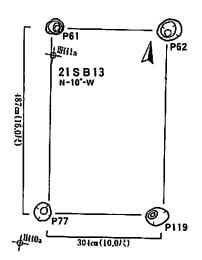
21SB16(第8図、写真図版)

〔位置〕調査区南西隅のⅡH9b・9c・0cに位置する。

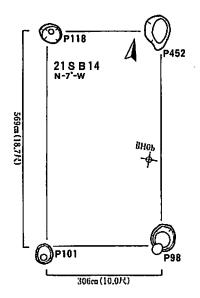
(重複) 21 S B 14・15に記載したとおりである。

〔平面形式〕桁行 4 間(870cm)、梁間 3 間(395cm)の期立柱建物である。使用した柱穴は10個である。

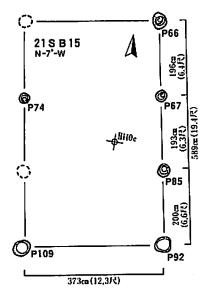
〔建物方位〕桁行の軸方向はN-78°-Eである。



往穴番号	深さ1四	底面の採高:m
P61	41.3	21.534
P 62	29.6	21.627
P 77	67.8	21.308
P 119	48.4	21.085



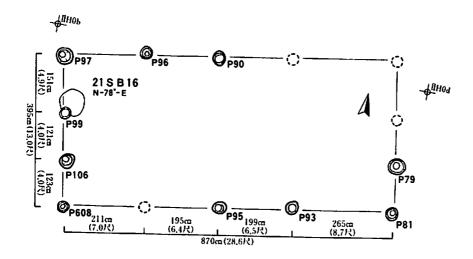
让穴番号	高計	光面のほ為: 加
P 98	12.8	21.95
P 101	20.2	21.95
P118	41.0	21.285
P452	24.0	21.375



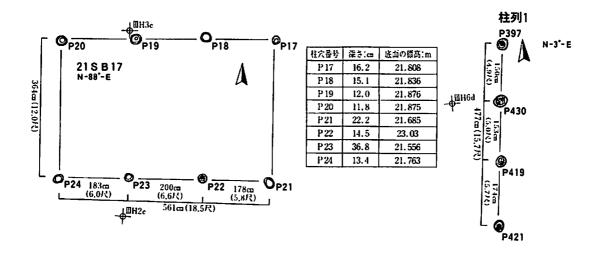
往穴番号	深さ:ca	成団の標高:m
P 66	22.4	21.528
P 67	13.6	21,79
P 74	15.4	21.674
P85	23.8	21.598
P 92	30.2	21.51
P 109	41.0	21,661

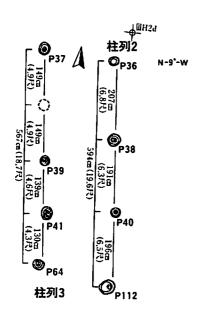
0 1:100 5m

第7図 掘立柱建物⑥



柱穴番号	深さ.cs	成面の標高:m
P 79	23.8	21,626
P81	25.8	21,606
P 90	16, 2	21.858
P 93	30.8	21.53
P 95	39.2	21.884
P96	10.8	21.912
P 97	21.6	21.85
P 99	12.8	21.95
P 106	43.6	21,702
P 608	26.1	21.788





柱穴番号	深さ:ca	成面の標高:m
P36	41.4	21.411
P38	36.9	21,458
P40	28.3	21.496
P 112	24.4	21.466

柱穴番号	深さica	成面の標高:m
P37	33.3	21.547
P39	16.9	21.647
P41	11.5	21.613
P64	15.0	21.574

柱火品号	深さ:co	底面の標高: m
P397	33.0	21.665
P419	7.5	21,89
P421	13.5	21.845
P430	16.9	21.87

0 1:100 5m

第8図 掘立柱建物⑦·柱列

[柱間寸法] 桁行は195~265cm (6.4~8.7尺)、梁間は121~151cm (4.0~4.9尺) である。

〔出土遺物〕 P95から16世紀末~17世紀の志野皿が出土している。 〔性格〕不明である。

〔推定年代〕出土遺物からその頃の年代が考えられるが、詳細な時期は不明である。

21SB17 (第8図、写真図版3)

[位置] 調査区中央西寄りのⅢH2b・2cに位置する。

(重複) 21SB11で記載したとおり、平面プランがそれと重複している。柱穴間に切り合いはない。

[平面形式] 桁行3間(561cm)、梁間1間(364cm)の掘立柱建物である。使用した柱穴は8個である。

〔建物方位〕桁行の軸方向はN-88°-Eである。

[柱間寸法] 桁行は178~200cm (5.8~6.6尺)、梁間は364cm (12.0尺) である。基準寸法は不明である。

[出土遺物] 出土していない。 [性格] 不明である。

〔推定年代〕所属時期は不明である。

柱列1 (第8図)

[位置] 調査区北側中央部のⅢH5d・6dに跨っている。

[重複] 21SB6の平面プランと重複するが、新旧は不明である。

[軸方向] N-3°-Eである。

[柱間寸法] 3 間で、柱間は150~174cm(4.9~5.7尺)である。

[出土遺物] 出土していない。

[性格] 不明である。

[推定年代] 所属時期は不明である。

柱列2 (第8図)

[位置] 調査区南西隅、ⅡHOc、ⅢH1cに跨がる。柱列3と1.5mほどの距離で平行する。

[重複] 遺構間の重複はない。

[軸方向] N-9°-Wである。

[柱間寸法] 3 間で、柱間は191~207cm (6.3~6.8尺) である。

[出土遺物] 出土していない。 〔性格〕不明である。

[推定年代] 所属時期は不明である。

柱列3 (第8図)

[位置] ⅡH0d、ⅢH0cに跨っている。 〔重複〕重複はない。

[軸方向] N-9°-Eである。

[柱間寸法] 4 間で、柱間は130~149cm(4.3~4.9尺)である。

[出土遺物] 出土していない。 〔性格〕不明である。

[推定年代] 所属時期は不明である。

2 井戸

井戸跡は19次調査で9基確認されている。そのうち、12世紀に属するものは1基のみで、その他は近世に 所属するものがほとんどである。

19SE1 (第9図、写真図版4)

【位置・検出面】ⅡH9bに位置する。検出面はⅣ層である。 〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径215×220cm、底部径71×72cm、深さ342cm。

[底面・壁] 底面には凹凸がある。壁は底面から直立気味に立ち上がり、その後外傾する。漏斗状を呈する。

[埋土] 人為的に埋められた様相である。11層に分層される。上位~中位にかけて礫が混入する。

〔出土遺物〕かわらけ数片、縄文上器片、珪化木が出土した。

[年代] 近世に属するものと思われる。

19SE2 (第9図、写真図版4)

【位置・検出面】ⅡG0jに位置する。検出面はⅣ層である。 〔重複〕なし。

〔規模〕 開口部径118×122cm、底部径82×85cm、深さ343cm。

〔底面・壁〕底面には僅かな凹凸がある。壁は底面から直立気味に立ち上がる。

〔埋土〕人為的に埋められた様相である。11層に分層される。最上位と最下部に礫が混入する。

〔出土遺物〕かわらけ、縄文土器片、石器剥片、近世陶器、10層から漆塗椀1点が出土した。

[年代] 出土遺物から、近・現代に属する。

19SE3 (第10図、写真図版4)

〔位置・検出面〕 **I G** 9 i · 0 i · 9 j · 0 j に跨っている。検出面はⅣ層である。

[重複] 19P148・162と重複する。柱穴のほうが新しい。

〔規模〕開口部径298×320cm、底部径150×174cm、深さ383cm。

〔底面・壁〕底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

〔埋土〕人為堆積の様相を呈する。39層に分層された。上位に礫が多数混入している。

【出土遺物】手づくねかわらけを主体とし、中国産陶器・白磁、石器剥片、植物種子、焼成粘土塊、炭化材などのほか、漆塗皿2点が出土した。

[年代] 出土遺物から、12世紀後半に属するものである。

19SE4 (第10図、写真図版4)

〔位置・検出面〕ⅢG5jに位置する。検出面はⅣ層である。

〔重複〕19SD6と重複するが、本遺構のほうが旧い。

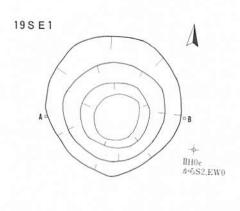
〔規模〕開口部径184×214cm、底部径71×81cm、深さ368cm。

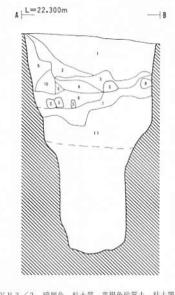
〔底面・壁〕底面はほぼ平坦で、断面形は漏斗状を呈する。

〔埋土〕人為堆積と思われる。精査途中で断面が崩落し不明な部分があるが、8層に分層した。

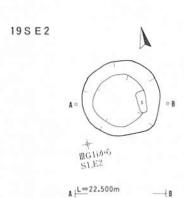
〔出土遺物〕かわらけ・土師器の細片、近世陶器、植物種子などが出土した。

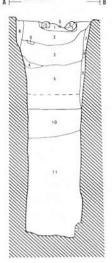
〔年代〕出土遺物から、近世に属する井戸と思われる。





1 10YR3/3 暗褐色 粘土質 黄褐色砂質土、粘土塊、2~5 cm大の円踝含む
2 10YR3/2 黒褐色 粘土質 黄褐色年度塊をまだらに含む
3 10YR5/6 黄褐色 粘土 5~20cm大の膿含む
4 10YR5/6 黄褐色 砂質土 粘土塊少量含む
5 10YR4/3 にぶい責褐色 粘土 暗褐色粘土塊、10~20cm大の硬含む
6 10Y4/2 オリーブ族色 粘土 暗褐色粘土塊、10~20cm大の硬含む
7 5Y3/1 オリーブ場色 粘土質 路上費 針上塊少量含む
8 2.5Y4/4 オリーブ場色 粘土 崩落土?
9 10YR4/4 褐色 粘土質 下層に能似
10 10YR4/4 褐色 暗褐色土塊含む
11 10Y3/2 オリーブ黒色 粘土 粘土塊少量含む

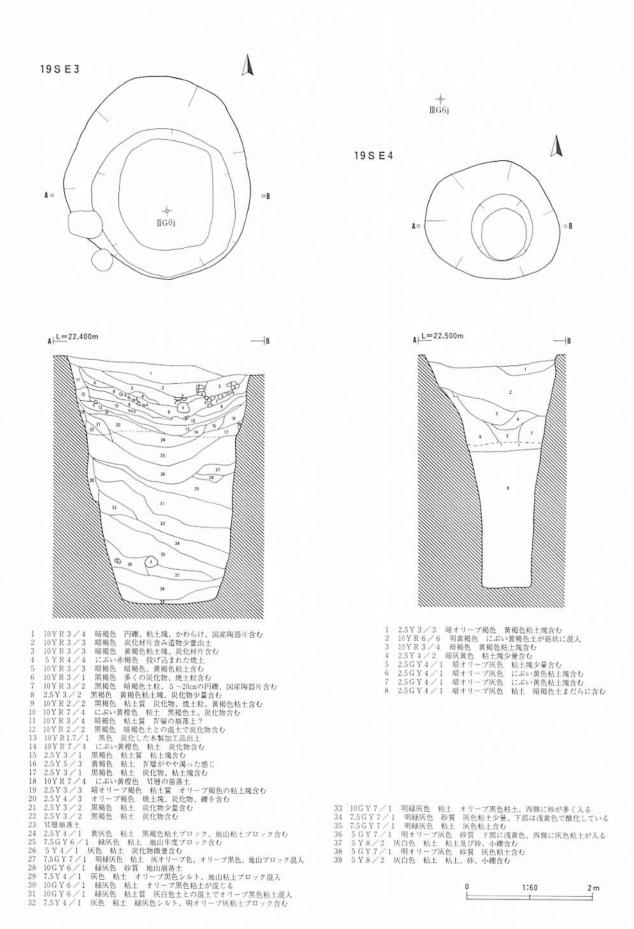




1 コンクリート片混じる提乱
2 10 Y R 4 / 3 によい黄褐色 灰色粘土粒、下面に響合む
3 10 Y R 3 / 3 暗褐色 粘土質 灰色粘土塊、黄褐色土塊含む
4 10 Y R 3 / 3 暗褐色 粘土質 灰色粘土塊、黄褐色土塊含む
5 2.5 Y 3 / 2 黒褐色 粘土質 黄褐色砂質土含む
10 Y R 4 / 4 褐色 地山の崩落・
7 10 Y R 4 / 4 褐色 地山の崩落・
8 10 Y R 2 / 3 黒褐色 粘土質 地山崩落土
9 2.5 Y 7 / 4 淡黄色 粘土 地山崩落土
10 7.5 Y 4 / 1 灰色 砂質土 粘土塊、材木片含む
11 7.5 G Y 3 / 1 暗緑灰色 粘土質 粘土塊、材木片含む



第9図 井戸①



第10図 井戸②

19SE5 (第11図、写真図版5)

[位置・検出面] Ⅲ H 6 a · 6 b に位置する。検出面は N 層である。 〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径196×197cm、底部径74×92cm、深さ348cm。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦で、断面形は漏斗状を呈する。

〔埋土〕15層に分層した。人為堆積と思われる。

[出土遺物] 焼成粘土塊が4点出土した。

[年代] 不明である。

19SE6 (第11図、写真図版5)

[位置・検出面] □H5bに位置する。検出面はIV層である。 [重複] なし。

〔規模〕開口部径208×214cm、底部径60×70cm、深さ342cm。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦で、断面形は漏斗状を呈する。

[埋土] 人為堆積と思われるが、中位以下は土層観察していない。

[出土遺物] かわらけ・土師器、近世陶器十数点のほか、瓦が1点出土した。

[年代] 出土遺物から、近世に属する井戸と思われる。

19SE7 (第12図、写真図版5)

[位置・検出面] ■H6bに位置する。検出面はIV層である。

[重複] 19P329・19S K16と重複するが、前者は本遺構より新しいが後者との関係は不明である。

〔規模〕開口部径146×180cm、底部径68×75cm、深さ354cm。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦で、壁面は直立気味に立ち上がる。上位に壁の崩落がある。

〔埋土〕人為堆積と思われる。6層に分けた。

[出土遺物] かわらけ1点と井戸底が出土している。

[年代] 出土遺物から、近・現代に属する。

19SE8 (第12図、写真図版5)

〔位置・検出面〕 ■H5eに位置する。検出面はIV層である。 〔重複〕南側に撹乱を受ける。

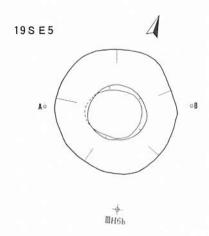
〔規模〕開口部径212×?cm、底部径54×60cm、深さ284cm。

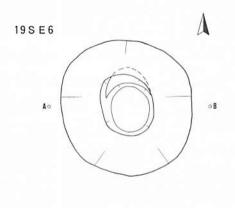
[底面・壁] 底面は平坦で、断面形は漏斗状を呈している。

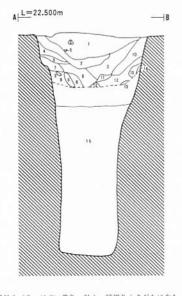
〔埋土〕人為堆積と思われる。6層に分けたがそれ以下は不明である。中位までは礫を含んでいる。

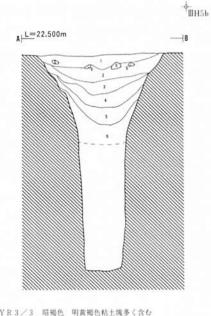
[出土遺物] 近世陶磁器が2点、下駄台1点、下駄差歯1点が出土した。

〔年代〕出土遺物から、近・現代に属すると思われる。



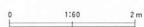






- 1 2.5 Y 6 / 3 にぶい黄色 粘土 暗褐色土まだらに合む
 2 10 Y R 4 / 2 灰黄褐色 やヤグライ化 1 帰の粘土塊少量合む
 3 2.5 Y 6 / 3 にぶい黄色 粘土 暗褐色土塊多く含む
 4 10 Y R 3 / 4 暗褐色
 5 10 Y R 3 / 2 黒色色 結土質 黄褐色粘土塊まだらに含む
 6 2.5 Y 4 / 2 暗灰黄色 粘土質 黄褐色粘土塊まだらに含む
 7 10 Y R 3 / 4 暗褐色 P 陽に飲る
 8 2.5 Y 4 / 2 暗灰黄色 粘土質 水分多い
 9 2.5 Y 4 / 1 黄灰色 後葉橙色土との混土
 10 2.5 Y 4 / 2 暗灰黄色 砂質
 11 2.5 Y 4 / 2 暗灰黄色 砂質
 12 2.5 Y 4 / 2 暗灰黄色
 13 2.5 Y 7 / 4 浅黄色 暗灰黄色 砂混合
 14 10 Y R 3 / 3 暗褐色
 15 2.5 G Y 4 / 1 暗オリーブ灰色 粘土質 黄褐色粘土塊含む
- 1 10YR3/3 暗褐色 明黄褐色粘土塊多く含む 2 10YR3/3 暗褐色 概および12世紀〜近世の陶磁器片含む 3 10YR3/2 黒褐色 粘土質 炭化物含む 4 2.5Y3/2 黒褐色 明黄褐色粘土含む 5 2.5Y3/2 黒褐色 ヤヤゲライ化し酸化鉄混入 6 5Y4/2 灰オリーブ色 粘土 明黄褐色粘土塊含むグライ化した層

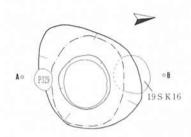


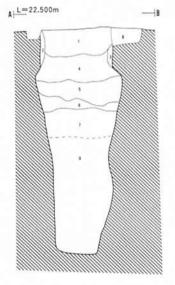


第11図 井戸③

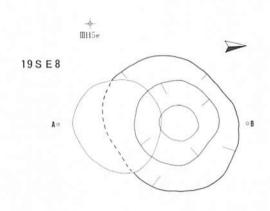


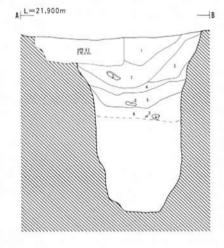
19 S E 7





10YR3/2 黒褐色 浅黄色粘土塊まだらに含む
10YR3/4 暗褐色 N層 (壁面) の崩落
10YR3/4 暗褐色 N層 (壁面) の崩落
10YR3/2 黒褐色 浅黄色粘土塊含む
10YR3/2 黒褐色 浅黄色粘土塊含む
10YR2/1 黒色 オリーブ灰色粘土塊含む
10YR2/1 黒色 オリーブ灰色粘土塊含む
10YR3/3 暗褐色 19SK16の地土
10GY4/1 暗緑灰色 枯土 粗砂含む 1 2 3 4 5 6 7 8 9

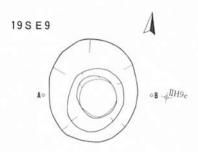


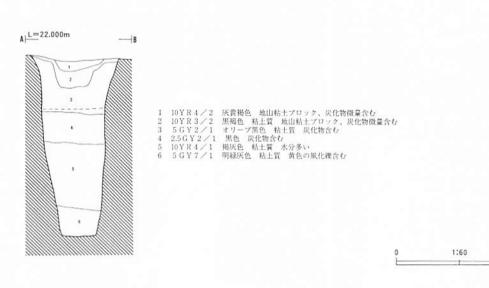


- 10 Y R 3 / 4 10 Y R 4 / 2 10 Y R 4 / 4 10 Y R 4 / 2 10 Y R 3 / 3 10 Y R 5 / 3 暗褐色 粘土質 炭化物、地山粘土塊酸量含む 灰黄褐色 粘土 租砂、地山ブロック多量に含む 褐色 灰黄褐色 粘土質 暗褐色 こぶし大の円礫、腐食植物混入、下部はグライ化 にぶい黄褐色 粘土 酸化鉄、地山ブロック含む



第12図 井戸④





第13図 井戸⑤

2 m

19SE9 (第13図、写真図版6)

[位置・検出面] Ⅱ H8b・9bに位置する。検出面はⅣ層である。 〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径140×162cm、底部径59×60cm、深さ278cm。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦で、壁面は直立気味に立ち上がる。

[埋土] 人為堆積と思われる。6層に分層した。

[出土遺物]縄文時代の土器片、土偶1点、鉄製品のほか、近世陶器が2点出土している。

[年代] 出土遺物から、近・現代に属する井戸と思われる。

3 土坑

19次調査で20基、21次調査で15基の土坑が確認された。このうち12世紀に属する可能性があるものは9基のみで、その他は時期・性格とも不明のものが多い。

19SK1 (第14図、写真図版6)

[位置・検出面] ⅢH4cに位置する。検出面はIV層である。

[重複] 19SD3と重複する。それよりも新しい。

「規模〕開口部径67×76cm、底部径57×65cm、深さ24cm。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦で、壁は直立して立ち上がる。 〔埋土〕自然堆積で、2層に分かれる。

[出土遺物] 手づくねかわらけ、縄文土器片、石器剥片、焼成粘土塊、ビニール片が出土した。

〔遺構の性格) 不明である。

[年代] 出土遺物から近・現代に属する。

19SK2 (第14図、写真図版6)

〔位置・検出面〕ⅢG6jに位置する。検出面はN層である。

[重複] あり。19SD6に切られる。

〔規模〕開口部径64×72cm、底部径49×54cm、深さ27cm。

[底面・壁] 底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

〔埋土〕木桶が埋め込まれている。3層に分層される。

〔出土遺物〕上記の桶とレンガ片が出土している。

〔遺構の性格〕不明である。

[年代] 出土遺物から近・現代に属する。

19SK3 (第14図、写真図版6)

【位置・検出面】ⅡH9bに位置する。検出面はⅣ層である。

[重複]あり。P689に切られる。

〔規模〕開口部径85×90cm、底部径68×75cm、深さ105cm。

〔底面・壁〕底面は平坦で、壁は直立している。

〔埋土〕2層に分層され、いずれも炭化物を含む。

〔出土遺物〕手づくねかわらけ、縄文時代の石鏃等が出土している。

〔遺構の性格〕不明である。

[年代] 12世紀代を含むそれ遺構の時期としておく。

19SK4 (第14図、写真図版7)

[位置・検出面] ⅡH0aに位置する。検出面はN層である。 (重複)なし。

〔規模〕開口部径70×74cm、底部径58×65cm、深さ74cm。

〔底面・壁〕底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

〔埋土〕自然堆積と思われる。5層に分かれるが、下位層に多く遺物が含まれかつ有機質分が多い。

〔出土遺物〕ロクロかわらけ、縄文土器片、ちゅう木、植物種子(モモ・ウメ・ウリ)、中国産白磁械 1 点、近世陶磁器 1 点が出土している。

〔遺構の性格〕形状・出土遺物からいわゆるトイレ状遺構と思われる。

〔年代〕当初12世紀代と予想していたが、近世陶磁器が出土しており、近世に所属する可能性が高い。

19SK5 (第14図、写真図版7)

〔位置・検出面〕 Ⅱ H 9 d に位置する。検出面は IV層である。 〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径62×84cm、底部径(59×80cm)、深さは不明。 [底面・壁] 不明である。

[埋土] 木桶の底?あり。埋土の状況不明。

〔出土遺物〕近世陶磁器10点あまりが出土している。

〔遺構の性格〕不明。

[年代] 出土遺物から、近世以降に所属する。

19SK6 (第14図、写真図版7)

[位置・検出面] Ⅱ H 9 a に位置する。検出面はIV層である。 〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径69×80cm、底部径58×64cm、深さ20cm。

[底面・壁] 底面は若干高まりを持つ以外は平坦。壁は直立気味に立ち上がる。

[埋土] 大量の碟が入れられている。単層である。

〔出土遺物〕縄文土器片、かわらけ、近世磁器が出土している。

[遺構の性格] 不明である。

[年代] 出土遺物から、近世以降に所属する。

(19SK7はP452に変更)

19SK8 (第14図、写真図版7)

[位置・検出面] Ⅱ G 8 j に位置する。検出面はⅣ層上部である。

[重複] 位置的には19P160・19P454等と重複するが、検出面のレベル差があり遺構同士の重複はなし。

[規模] 開口部径95~122×164cm、底部径75~104×155cm、深さ7~22cm。

[底面・壁] 底面は凹凸あり。壁は直立気味に立ち上がる。

[埋土] 3層に分層される。自然堆積と思われる。

[出土遺物] 縄文土器片(後・晩期)、剥片石器類、焼成粘土塊、植物種子等が出土している。

[遺構の性格] 不明である。

[年代] 植物種子や焼成粘土塊が出土しているが、詳細な時期は不明である。

19 S K 9 (第14図、写真図版 8)

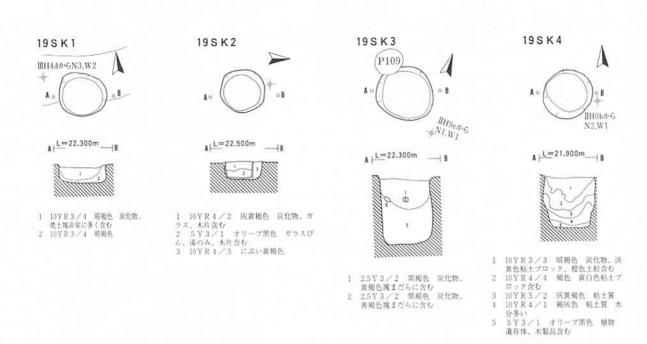
[位置・検出面] Ⅱ H 9 a に位置する。検出面は N 層上部である。 〔重複〕なし。

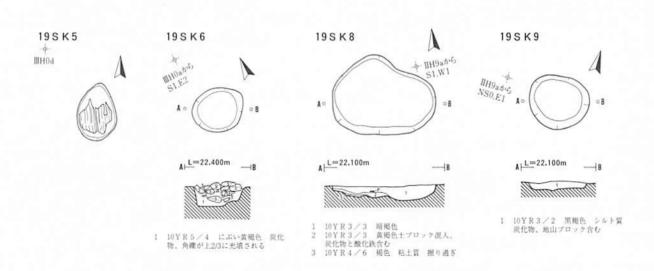
[規模] 開口部径83×96cm、底部径58~75cm、深さ21cm。

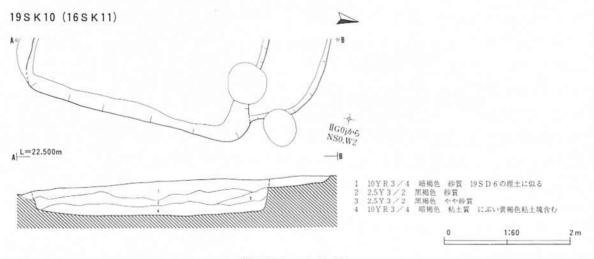
[底面・壁] 底面は凹凸あり。壁はわずかに外傾して立ち上がる。

[埋土] 黒褐色土の単層で、自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕なし。







第14図 土坑①

[遺構の性格] 不明である。

〔年代〕縄文時代の可能性がある土坑である。

19SK10 <16SK11と同一> (第14図、写真図版8)

〔位置・検出面〕 I G 8 i · 9 i に位置する。検出面はⅣ層である。

[重複] 19P122・19P123と重複するが、いずれの柱穴よりも旧い。

〔規模〕開口部径378×?cm、底部径342×?cm、深さ31~56cm。

〔底面・壁〕底面はほぼ平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

〔埋土〕4層に分層される。自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕縄文土器片、石器剥片、かわらけ細片、フイゴの羽口1点、植物種子、焼成粘土塊、近世陶磁器等が出土した。

〔遺構の性格〕不明。

[年代] 出土遺物・重複関係から、近世に属するものと思われる。

19 S K 11 (第15図、写真図版 8)

[位置・検出面] ⅢG6 i に位置する。検出面はN層である。 〔重複〕なし。

〔規模〕 開口部径77×91cm、底部径54×88cm、深さ20cm。

[底面・壁] 底面は平坦で、南壁は僅かに内湾して、北壁は垂直に立ち上がる。

[埋土] 自然堆積の単層である。 [出土遺物] 埋土から植物種子が出土した。

[遺構の性格] 不明である。

〔年代〕不明である。

19SK12 (第15図、写真図版8)

[位置・検出面] ⅢHlgに位置する。検出面はIV層である。 〔重複〕なし。

[規模] 開口部径84×96cm、底部径76×84cm、深さ20cm。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦。壁もほぼ垂直に立ち上がる。

[埋土] 自然堆積で2層に分けられる。

[出土遺物] かわらけ、中国産白磁椀がともに2点ずつ出土した。

[遺構の性格] 不明である。

[年代] 出土遺物から、12世紀に属するものと思われる。

(19 S K 13は欠番)

19SK14 (第15図、写真図版9)

[位置・検出面] ⅢH5a·5bに位置する。検出面はIV層である。 〔重複〕なし。

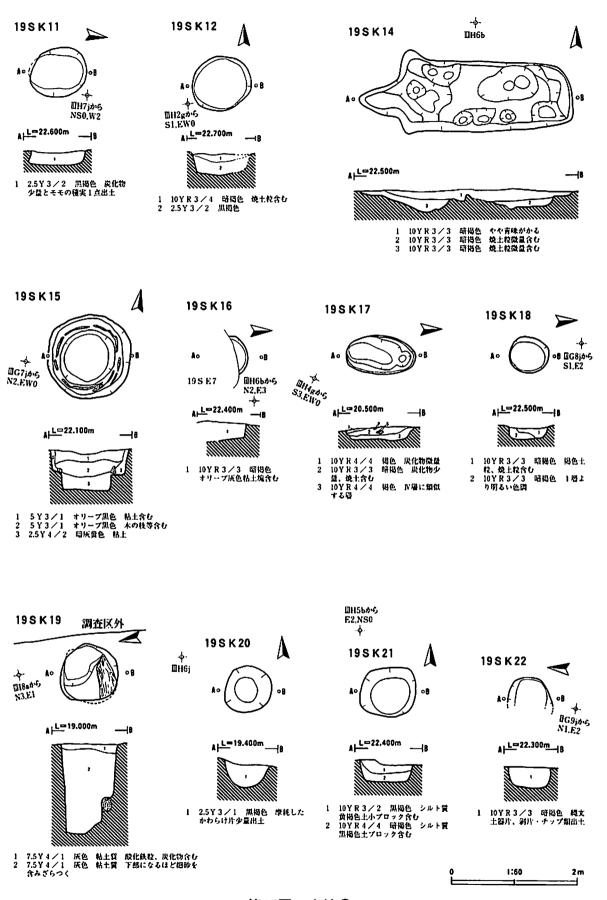
[規模] 開口部径110×337cm、底部径90×324cmを測る不整長方形、深さ6~32cm。

[底面・壁] 底面は大きい凹凸を持つ。壁は不明瞭に綴く立ち上がる。

[埋土] 3層に分けられる。自然堆積か?。

[出土遺物] かわらけ、近世陶磁器が出上した。後者が主体である。

[遺構の性格] 不明である。



第15図 土坑②

[年代] 出土遺物から、近世以降に属するものと思われる。

19SK15(第15図、写真図版9)

〔位置・検出面〕ⅢH7jに位置する。検出面はⅣ層である。 〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径130×132cm、底部径70×74cm、深さ63cm。

〔底面・壁〕底面は平坦、壁は中段を持ち、直立気味に外傾して立ち上がる。

〔埋土〕 3層に分けられる。人為的な堆積の様相である。

〔出土遺物〕縄文土器片、近世陶器、薬瓶が出土した。

[遺構の性格] 不明である。

[年代] 出土遺物から、近・現代に属するものと思われる。

19 S K 16 (第15図、写真図版 9)

【位置・検出面】ⅢH6bに位置する。検出面はIV層である。

[重複] 19SE7 (近·現代) と重複している。本遺構の方が旧い。

〔規模〕開口部径60cm以上、底部径50cm以上、深さ24cm。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦、壁は外傾して立ち上がる。

[埋土] 自然堆積の単層である。

〔出土遺物〕縄文土器片、かわらけ、土師器、植物種子が出土した。

〔遺構の性格〕 不明である。

[年代] 重複関係と出土遺物から、近世以前に所属するものである。

19SK17(第15図、写真図版9)

[位置・検出面] ⅢH3fに位置する。検出面はIV層である。 〔重複〕なし。

[規模] 開口部径60×110cm、底部径54×88cm、深さ16~20cm。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

[埋土] 自然堆積で3層に分層される。

[出土遺物] かわらけ、土師器、縄文土器片、焼成粘土塊が出土した。

〔遺構の性格〕不明である。

[年代] 出土遺物から、12世紀に属する可能性がある。

19 S K 18 (第15図、写真図版10)

[位置・検出面] ⅢG7jに位置する。検出面はⅥ層である。 〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径55×63cm、底部径46×55cm、深さ17cm。

[底面・壁] 底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

[埋土] 自然堆積で、2層に分層される。

[出土遺物] 炭化材 1 点のみである。

[遺構の性格] 不明である。

〔年代〕不明である。

19 S K 19 (第15図、写真図版10)

[位置・検出而] 旧河道部ⅢⅠ7aに位置する。検出面は旧河道第31層である。 〔重複〕なし。

[規模] 開口部径88×92cm、底部径42×63cm、深さ80~140cm。

[底面・壁] 南側底面は傾斜し、壁は直立気味に立ち上がる。

[埋土] 自然堆積で2層に分層される。深さ80cm付近に流木が横たわっている。

[出土遺物]鉄滓1点、炭化材1点、植物種子が16点出土している。

[遺構の性格] 不明である。

[年代] 検出面から12世紀に所属するものと思われる。

19 S K 20 (第15図、写真図版10)

[位置・検出面] 旧河道部 II H 5 j に位置する。検出面は旧河道大別層第4層である。

[重複] なし。 [規模] 開口部径71×74cm、底部径17×18cm、深さ34cm。

[底面・壁] 底面は皿状に丸みを持ち、壁は外傾して立ち上がる。 [埋土] 自然堆積の単層である。

[出土遺物] なし。 [遺構の性格] 不明である。

[年代] 不明である。

19 S K 21 (第15図、写真図版10)

[位置・検出面] 旧河道部ⅢH4bに位置する。検出面は旧河道大別層第4層である。

〔重複〕なし。〔規模〕開口部径76×88cm、底部径56×62cm、深さ33cm。

[底面・壁] 底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

[埋土] 自然堆積で2層に分層される。

〔出土遺物〕かわらけ20点あまりのほか、土師器坏が出土した。

[遺構の性格] 不明である。

[年代] 出土遺物から、12世紀に属する可能性が高い。

19 S K 22 (第15図、写真図版10)

[位置・検出面] II G 9 j に位置する。検出面は第Ⅳ層である。

〔重複〕不手際から遺構の半分ほどを失った。本来は19SD6(近・現代)に切られていたものと思われる。

〔規模〕開口部径70×?cm、底部径49×?cm、深さ32cm。

〔底面・壁〕底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

〔埋土〕自然堆積の単層である。 〔出土遺物〕縄文土器片、珪化木 1 点が出土している。

[遺構の性格] 不明である。

[年代] 不明である。

21 S K 1 (第16図、写真図版10)

【位置・検出面】 ■H6fに位置する。検出面はVI層である。

〔重複〕第19次調査の段階で撹乱としたものと一部重複するが、検出面がⅥ層であることから重複はない。

〔規模〕開口部径121×164cm、底部径108×152cm、深さ8cm。

〔底面・壁〕底面はほぼ平坦で、壁は緩く立ち上がる。 〔埋土〕自然堆積の単層である。

[出土遺物]なし。 〔遺構の性格〕不明である。

[年代] 検出面から縄文時代に属するものと思われる。

21SK2 (第16図、写真図版11)

〔位置・検出面〕ⅢH4eに位置する。検出面はVI層である。

〔重複〕中央部に雨裂痕あり。

〔規模〕 開口部径84×114cm、底部径50×90cm、深さ13cm。

[底面・壁] 底面は皿状で、壁は綴く立ち上がる。 〔埋土〕自然堆積の単層である。

[出土遺物] なし。 [遺構の性格] 不明である。

[年代] 検出面から縄文時代に属するものと思われる。

21SK3 (第16図、写真図版11)

[位置・検出面] ⅢH9dに位置する。検出面はVI層である。 〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径84×110cm、底部径43×56cm、深さ31cm。

[底面・壁] 底面は僅かに凹凸を持ち、壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。

[埋土] 自然堆積で4層に分けられる。4層めは掘り過ぎか。

[出土遺物] かわらけの細片と縄文土器が数点出土している。 〔遺構の性格〕不明である。

[年代] 出土遺物から、12世紀以降とする。

21SK4 (第16図、写真図版11)

[位置・検出面] ⅢHOdに位置する。検出面はVI層である。 〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径44×65cm、底部径18×51cm、深さ13cm。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦、壁は緩やかに立ち上がる。

「埋土」自然堆積で2層に分けられ、黄褐色のブロックが混入する。 〔出土遺物〕なし。

[遺構の性格] 不明である。

[年代] 不明である。

21SK5 (第16図、写真図版11)

[位置・検出面] ⅢH7a·8aに位置する。検出面はIV層である。 〔重複〕なし。

[規模] 開口部径70×106cm、底部径48×82cm、深さ34cm。

[底面・壁] 底面は皿状に丸みを持ち、壁は緩やかに立ち上がる。

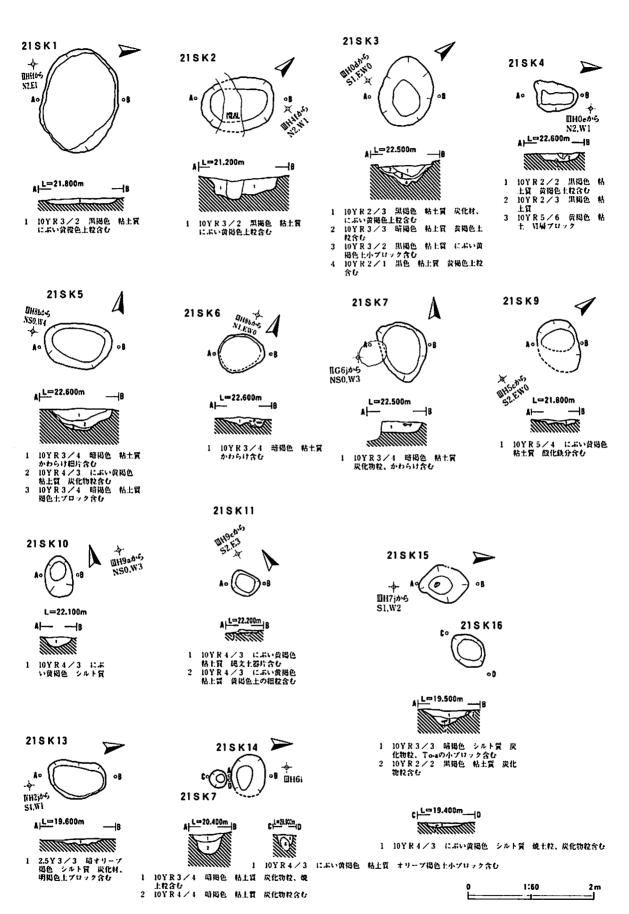
〔埋土〕自然堆積で3層に分けられる。

[出土遺物] かわらけ数十点が出土している。 〔遺構の性格〕不明である。

[年代] 検出面・出土遺物から、12世紀後半に所属する可能性がある。

21SK6 (第16図、写真図版12)

[位置・検出面] ⅢH8aに位置する。検出面はIV層である。 〔重複〕なし。



第16図 土坑③

〔規模〕開口部径57×72cm、底部径?×64cm、深さ7~14cm。

〔底面・壁〕底面は大きな凹凸を持ち、西側の壁はごく緩やかに立ち上がる。

〔埋土〕自然堆積の単層である。

〔出土遺物〕かわらけ数十点が出土している。 〔遺構の性格〕不明である。

[年代] 検出面・出土遺物から、12世紀後半に所属する可能性がある。

21SK7 (第16図、写真図版12)

〔位置・検出面〕ⅢG5i・6iに位置する。検出面はⅣ層である。

〔重複〕19P182・486と重複するがいずれの柱穴よりも旧い。19P185とも重複するが新旧関係は不明。

〔規模〕開口部径73×96cm、底部径55×78cm、深さ17cm。

[底面・壁] 底面は平坦、東側の壁は外傾して立ち上がる。 [埋土] 自然堆積の単層である。

[出土遺物] かわらけの細片数十点が出土している。 [遺構の性格)] 不明である。

〔年代〕検出面・出土遺物から、12世紀後半に所属する可能性がある。

(21 S K 8 は欠番)

21SK9 (第16図、写真図版12)

[位置・検出面] Ⅲ H 4 b · 4 c に位置する。検出面は V 層である。

[重複] 19SD3と重複するが、新旧関係は不明である。

[規模] 開口部径73×?cm、底部径66×?cm、深さ4~7cm。

[底面・壁] 底面には凹凸があり、壁は明瞭な立ち上がりを持たない。

〔埋土〕自然堆積と思われる単層である。 〔出土遺物〕なし。 〔遺構の性格〕不明である。

[年代] 19SD3との新旧関係が不明なため、時期が定かでない。

21 S K 10 (第16図、写真図版13)

[位置・検出面] □G6 i・7 i に位置する。検出面はVI層である。

[重複] 19SK2と重複するが、検出面から本遺構が旧い。

[規模] 開口部径44×65cm、底部径24×30cm、深さ15cm。

[底面・壁] 底面は皿状で、壁は緩く立ち上がる。 [埋土] 自然堆積と思われる単層である。

[出土遺物]なし。 〔遺構の性格〕不明である。

[年代] 検出面から、縄文時代の土坑の可能性がある。

21 S K 11 (第16図、写真図版13)

[位置・検出面] II H 8 c に位置する。検出面は V 層である。 〔重複〕なし。

「規模」開口部径36×44cm、底部径24×31cm、深さ4~7cm。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦で、壁は緩く立ち上がる。

[埋土] 自然堆積で2層に分けられる。

[出土遺物] 縄文時代後期あるいは晩期の土器が2個体出土している。 〔遺構の性格〕不明である。

[年代] 出土遺物から、縄文時代に属するものと思われる。

(21 S K 12は欠番)

21 S K 13 (第16図、写真図版13)

[位置・検出面] 旧河道部、H 1 i に位置する。検出面はVI層(27層下)である。 〔重複〕なし。

[規模] 開口部径56×92cm、底部径44×80cm、深さ4~10cm。

[底面・壁] 底面は全体に波打ち、壁との境が不明瞭である。

[埋土] 自然堆積の単層である。 〔出土遺物〕なし。 〔遺構の性格〕不明である。

[年代] 不明である。

21 S K 14 (第16図、写真図版13)

[位置・検出面] 旧河道部ⅢH5h・5iに位置する。検出面はⅥ層である。 〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径53×?cm、底部径14×38cm、深さ31cm。

[底面・壁] 底面は皿状で、壁は外反気味に立ち上がる。

〔埋土〕自然堆積で2層に分けられる。

[出土遺物]かわらけの細片がおよそ20点出土した。 [遺構の性格]不明である。

[年代] 出土遺物から、12世紀後半以降に所属する。

21 S K 15 (第16図、写真図版14)

【位置・検出面】旧河道部ⅢH6i・7iに位置する。検出面はⅥ層である。 〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径57×63cm、底部径29×31cm、深さ13cm。

[底面・壁] 底面は皿状で、壁は外反気味に立ち上がる。

〔埋土〕自然堆積で3層に分けられる。

〔出土遺物〕土師器の破片のみ出土している。 〔遺構の性格〕不明である。

〔年代〕出土遺物から、平安時代(9~10世紀)に属するものと思われる。

21 S K 16 (第16図、写真図版14)

[位置・検出面] 旧河道部ⅢH6i・7iに位置する。検出面はVI層である。 〔重複〕なし。

〔規模〕開口部径46×62cm、底部径32×39cm、深さ6~8 cm。

〔底面・壁〕底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

〔埋土〕自然堆積の単層である。

[出土遺物] 土師器の破片のみ出土している。 [遺構の性格] 不明である。

〔年代〕出土遺物から、平安時代(9~10世紀)に属するものと思われる。

21SK17 (第16図、写真図版14)

〔位置・検出面〕旧河道部ⅢH5i、21SK14に隣接する。検出面はⅥ屈である。 〔重複〕なし。

〔規模〕 開口部径直径28cm、底部径直径13cm、深さ26cm前後。

[底面・壁] 底面の状況は不明、壁は直立気味に立ち上がる。

〔埋土〕単層で楕円形の石が埋め込まれている。

〔出土遺物〕石以外になし。 〔遺構の性格〕不明である。

[年代] 不明である。

4 潜

溝は19次調査においてのみ12条検出された。その性格及び時期は明らかでないものが多いが、旧河道内に 検出された道路側溝と思われる19S D12など、12世紀後半に所属するものもある。

19SD1 (第17図、写真図版15)

〔位置〕□H1e~3e、ⅢH3d~8d、ⅡH0eに位置する。ほぼ南北方向に走る滞である。

〔重複〕調査区北側で19SD7と重複するが本遺構が切られている。また21SB6−2・21SB7−2とプランが重複するが、新旧関係は不明である。

〔規模〕上幅は1.0~6.6cm、確認された長さは41mほどで、北側で幅を広げる。深さは10~40cmである。

〔埋土〕北側では4層に分けられる。暗褐色を主体とし、これには炭化物を含んでいる。

〔出土遺物〕肥前産の染付(6001)や瀬戸・美濃産の陶器(6044・6045)、この他に縄文土器・土師器・かわらけなどが出土した。

[性格] 排水のための溝か。

[時期] 埋土の状況等から、近世以降の構築と思われる。

19SD2 (第18図、写真図版15)

[位置] □G3 i · 3 j、□H3 b ~ 3 f、□H2 gに位置する。16S D13と同一の遺構である。

〔重複〕調査区西側では19SD6に切られている。また、ⅢH3f付近で19SD10と重複しているが、本遺構のほうが旧い。

〔規模〕上幅は30~40cmを測る。数カ所で途切れているが、精査した総長は28mほどである。深さは10cm前後の浅い識である。

[埋土] 暗褐色土の単層で、炭化物を含んでいる。

[出土遺物] 須惠器 (1102)、縄文土器片・かわらけ片が出土している。

[性格] 不明であるが、第16次調査の報告では区画游の可能性があるとしている。

[時期] 重複関係等から、第16次調査では13~14世紀の可能性を指摘している。

19SD3 (第18図、写真図版15)

[位置] 調査区西端北側から中央部にかけて、Ⅱ H 4 i · 4 j、Ⅲ H 4 a ~ 4 dに位置する。第16次調査区から東に真っ直ぐに延び、Ⅲ H 4 d で収束している。

【重複】15個あまりの単独の柱穴および19SD6と重複するが、いずれも本遺構を切っている。

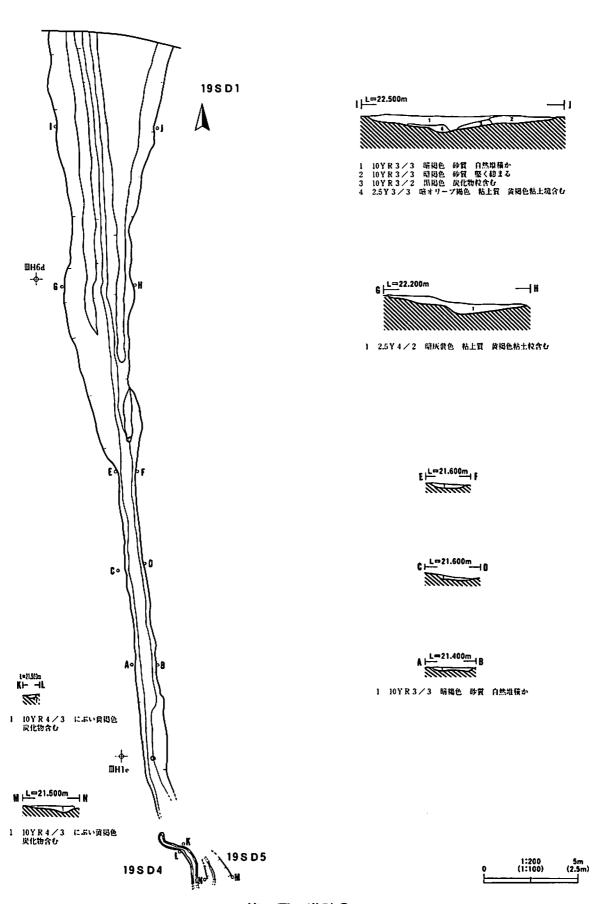
[規模] 上幅は0.7~1.2m、下幅は0.2~0.8mで、深さは25m前後である。全長は約25mを測る。

〔埋土〕 4 層に分けられ暗褐色土を基調とする。これは、炭化物が混入する褐色土のブロックを含む。自然 堆積か否かは不明である。

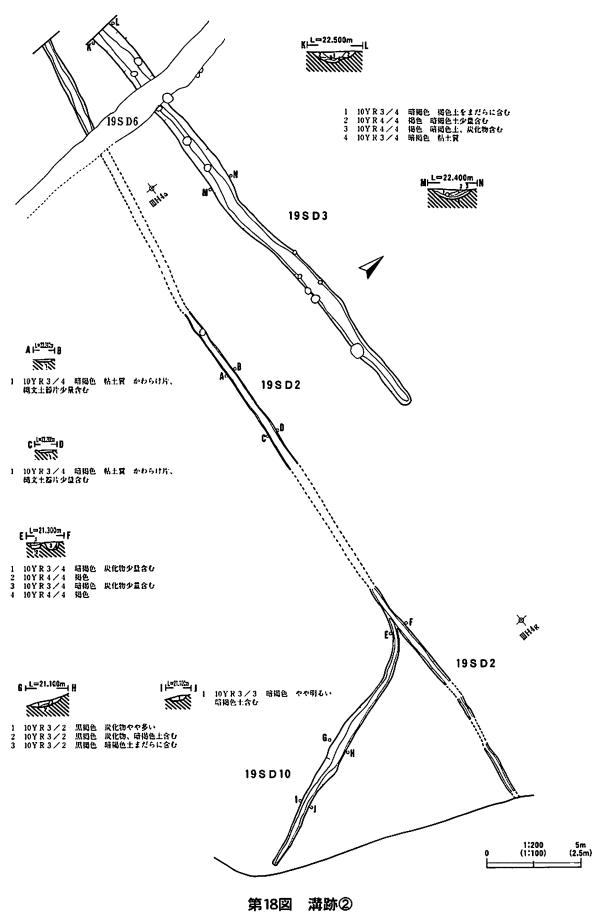
[出土遺物] 埋土中から、須恵器 (1103·1104)、手づくねかわらけ (2013)、ロクロかわらけ (2014·2015)、手あぶり形?のかわらけ (2016)、縄文土器などが出土した。

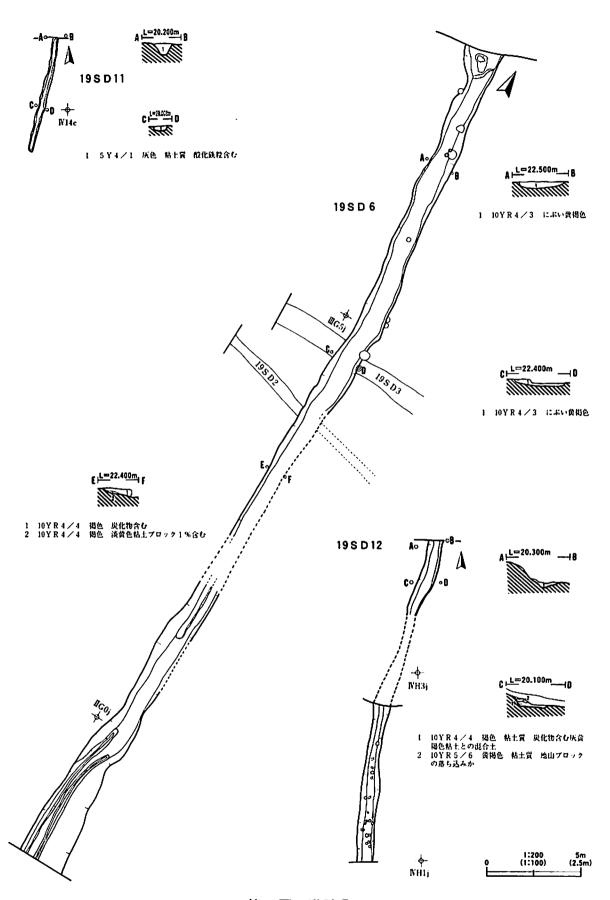
[性格] 規模や出土遺物から、12世紀の区画溝と考えられる。

[年代] 12世紀後半に属する溝と思われる。



第17図 溝跡①





第19図 溝跡③

19SD4 (第17図、写真図版15)

- [位置] ⅡH9e・0eに位置する。 [重複] 重複する遺構はない。
- 〔規模〕上幅30~40cm、長さ3.5mほどで蛇行している。深さは10cm程度である。
- [埋土] にぶい黄褐色土の単層である。 [出土遺物] 出土していない。
- [性格] 不明である。
- [年代] 不明である。

19SD5 (第17図、写真図版15)

- 〔位置〕 Ⅱ H 9 e 、19 S D 4 の東に隣接する。〔重複〕なし。
- 【規模】精査できた長さは 1 mあまりで、深さは最大で20cm程度である。南側に伸びるものと思われる。北側は自然に収束している。
- 〔埋土〕にぶい黄褐色土の単層である。〔出土遺物〕出土していない。
- 〔性格〕不明である。
- [年代] 不明である。

19SD6 (第18図、写真図版16)

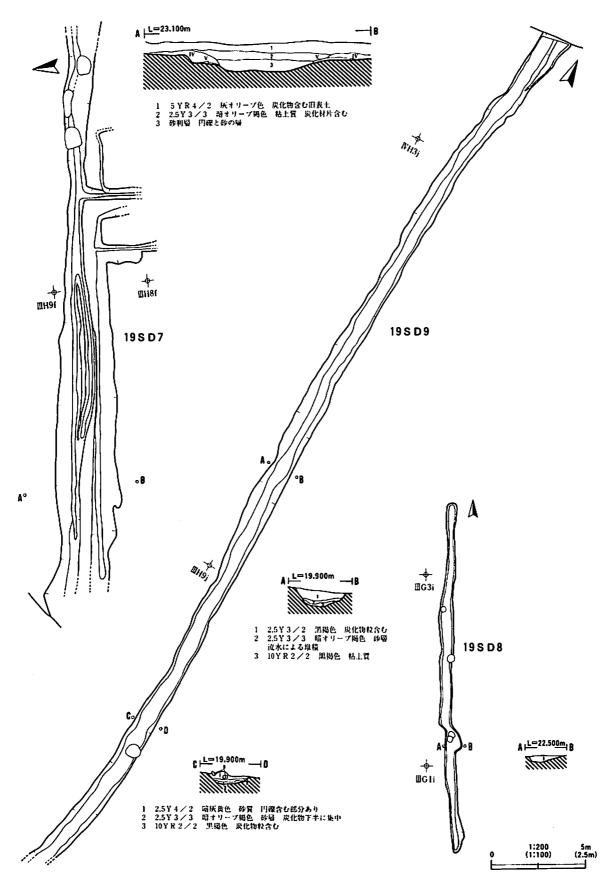
- 【位置】調査区西端部をほぼ南北方向に走る。ⅡG8j~0j、ⅢG1j~8j・7i・8iに位置する。
- [重複] 19SD2・19SD3・19SE3・19SE4と重複するが、いずれもよりも本遺構が新しい。
- [規模] 上幅0.9~2.5m、下幅0.7~1.0m、深さ20cm前後で、全長は約49mである。
- [埋土] にぶい黄褐色土の単層で、自然堆積か否かは不明である。
- [出土遺物] 埋土中から、手づくねかわらけ(2017)、国産陶器(3016·3017以上渥美産、3331~3333以上常 滑産)、肥前産陶器(6002~6004)、瀬戸・美濃産陶器(6046)、火打ち金具(7248)などが出土した。
- [性格] 水が流れた形跡がなく、区画溝と考えられる。
- [年代] 近世以降に属する溝と思われる。

19SD7 (第20図、写真図版16)

- 〔位置〕調査区北端ⅢH8c~8h、ⅢH9c~9eに位置する。ⅢH8 f 付近に直行する溝があるが、これとの関連は不明である。
- [重複] 柱穴数個および19SD1と重複する。いずれの柱穴よりも旧く、満よりは新しい。
- [規模] 全長約31.0m、上幅0.8~3.5mほどで、西側は調査区外に延びる。
- [埋土] 炭化材を含む暗オリーブ褐色と砂利層からなる。溝は東側に傾斜している。
- [出土遺物] 19世紀代の陶器 (6047~6050)、肥前産磁器 (6005・6006) などが出土した。
- [性格] 排水用の溝か。
- [年代] 出土遺物から、近世以降に所属すると思われる。

19SD8 (第20図、写真図版16)

- [位置]調査区西端 I G O i 、 II G 1 i ~ 3 i に位置する。 〔重複〕柱穴数個と重複するが新旧は不明。
- [規模] 全長約18.5m、上幅30~85cmほどで、ほぼ南北方向に真っ直ぐに延びる。



第20図 溝跡④

〔埋土〕単層である。 〔出土遺物〕埋土から、手づくねかわらけ(2018·2019)、近世陶器(6007·6008)、 火打ち金具(7249)などが出土した。

[性格] 不明である。

〔年代〕出土遺物から、近世以降に所属すると思われる。

19SD9 (第20図、写真図版16)

- 〔位置〕調査区東側の旧河道部、ⅢH5i・5j・6i~0i、NH1i~5iにかけて位置する。
- [重複] 柱穴1個と重複するが、本遺構が柱穴に切られている。
- [規模] 全長約51.5m、上幅は90~140cmほどで、ほぼ南北方向に真っ直ぐに延び北側は調査区外に続く。
- 〔埋土〕 3 層に分層される。炭化物を含む黒褐色土を基調とする。 2 · 3 層は流水による堆積土である。

〔出土遺物〕埋土から、国産陶器(3018~3023以上渥美産、3207·3208·3336·3337以上常滑産、3379·3380以上宮城県北産か?)、中国産陶器(4001)、中国産磁器(5110)、角釘(7201)などが出土した。

[性格] 不明である。

[年代] 出土遺物から、12世紀を含むそれ以降に属する溝と思われる。

19SD10(第18図、写真図版17)

- [位置] ⅡH0g、ⅢH1f·2fに位置する。
- [重複] ⅢH3fグリット付近で19SD2と重複しているが、本遺構のほうが新しい。
- [規模] 上幅は30~80cm、深さ15cm前後、総長は28mほどである。
- [埋土] 黒褐色土・暗褐色土を主体とし、炭化物を含んでいる。 [出土遺物] なし。
- [性格] 不明である。19SD2との関連はないと思われる。
- [時期] 19SD2の時期(13~14世紀)より新しいが、詳細な時期は不明である。

19SD11(第19図、写真図版19)

- [位置] 調査区東側の旧河道部、NI3b・4bに位置する。北側は調査区外に延びる。
- [重複] なし。 [規模] 上幅は30cm、深さ10~25cm前後、長さは6 mほどである。
- [埋土] 灰色土の単層である。 【出土遺物】なし。
- 〔性格〕不明である。
- 〔時期〕時期は不明である。

19SD12 (第19図、写真図版19)

- [位置] 旧河道部、ⅣH1i~3i、ⅣH4jに位置する。崩落のため、ⅣH3j付近は精査できなかった。
- [重複] 重複は認められない。
- [規模] 全長約17.5m (未精査部分含む)、上幅1m、下幅20~40cmほどで、深さは20cmを測る。
- [埋土・検出] 褐色土の単層からなり、かわらけを多く含む。12世紀の遺物包含層(5層)直下で確認した。
- [出土遺物] 埋土から、手づくねかわらけ(2020~2037)、ロクロかわらけ(2038・2039)などが出土した。
- [性格] 12世紀の整地層との関連から、道路側溝の可能性がある溝である。
- [年代] 出土遺物から、12世紀後半に属するものと思われる。

5 古代の竪穴住居

平安時代、9~10世紀代に属すると思われる竪穴住居が3棟確認された。いずれも住居廃絶後に行われた (その時期は不明) 造成等によるものなのか、床面まで削られており、住居全体を精査できたものはない。

198 | 1 (第21図、写真図版18)

[位置] 調査区北西隅の田G7j・田G8jに位置する。遺構北側ほぼ半分は調査区域外にある。

〔検出面〕IV層である。

[重複] P236 (21SB17) · P482 · P483に切られる。

〔規模〕一辺3.5~4.0m前後の方形を呈するものと思われる。東側の壁はやや張り出す。形状から、古代の住居跡と判断した。

[床面・壁] 掘り方まで削られた状況で、使用時の床面は存在しない。壁もほとんど失われている。

[出土遺物] 須恵器 (1109・1110) が東側から出土した。

[年代] 出土遺物・住居形態から、平安時代(9~10世紀代)に所属するものと思われる。

218 | 1 (第21図、写真図版18)

[位置]調査区西側のⅢG4iに位置する。カマド右袖の一部、燃焼部焼土、煙出と想定した柱穴状のピットのみ残存する。 〔検出面〕Ⅵ層である。

[重複] 煙道部付近が19SD3に切られる。煙出はその底面に確認された。

[規模] 南壁に設置されたカマドである。残存する施設だけからは全体規模が推定できないが、カマドの大きさなどから標準的な住居跡と思われる。

[カマド] 残存する燃焼部焼土の規模は直径50cm、厚さ8cmで焼けは良好である。袖部は砂質土で構築され、 上器片も入れられている。燃焼部と煙出部間の距離は1.1mほどである。

[床面・壁] 住居の範囲がわからないので不明である。壁は失われている。

【出土遺物】土師器坏(1016~1019)、土師器甕(1020~1026)、須恵器(1111)などが出土している。

[年代] 出土遺物から、平安時代 (9~10世紀代) に所属するものと思われる。

218 | 2 (第21図、写真図版18)

〔位置〕調査区北側中央部のⅢH7cに位置する。カマド燃焼部の焼土と煙出の小ピット、貯蔵穴と思われる土坑があることから住居跡と判断した。〔検出面〕Ⅵ層である。

〔重複〕21SB1・21SB8など、12世紀・近世の堀立柱建物に切られる。

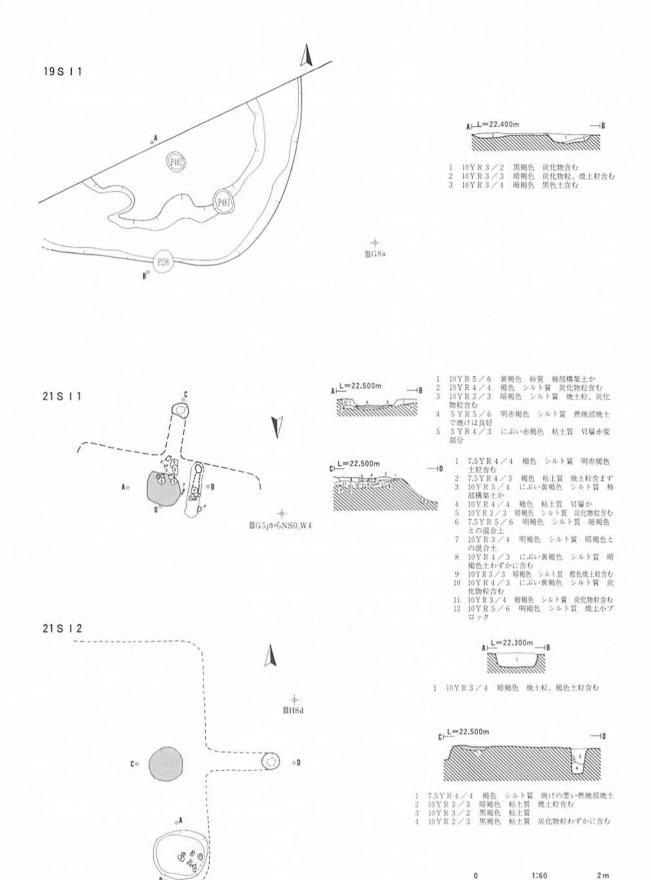
〔規模〕21 S I 1 同様、全体規模を推定することは難しいが、カマド燃焼部と貯蔵穴間の距離から、一辺は3.7~4 m弱と思われる。

[床面・壁] 燃焼部と同一のレベルは平坦であるが、それが住居使用時の床面であるかは不明。壁はない。 [カマド] 東カマドと思われる。燃焼部焼土の規模は、直径50cmの円形で厚さは5cmである。

〔貯蔵穴〕75×90cmの略円形で、深さは23cmである。土師器の坏が数枚重なって出土した。

【出土遺物】貯蔵穴から土師器坏(1006~1013)、上師器鉢(1014)などが出土している。坏は体部下端および底部にヘラによる再調整が施されている。

[年代] 平安時代(9~10世紀代)に属するが、坏に古手のものがあり、9世紀代で収まるものか。



第21図 古代の竪穴住居

6 焼土(19次調査分)

ここでは、19次調査で検出された焼土 8 基について記述する。出土遺物から、12世紀後半に属するものもあるが、それ以外については時期が明らかでない。

19 S X 1 (第22図、写真図版19)

[位置・検出面] ⅢH5bに位置する。検出面はIV層である。 〔重複〕なし。

〔規模など〕55×65cmの不整形で、燃焼部の厚さは5cmである。赤褐色を呈する燃焼部は、土坑状の凹地部分の底面に作られている。

[出土遺物] 土坑状の凹地部分から、図示したかわらけ(2070~2072)、渥美産陶器(3044)の他、かわらけの細片が出土した。 [遺構の性格] 不明である。

[年代] 検出面および出土遺物から、12世紀を含むそれ以降に属するものと思われる。

19 S X 2 (第22図、写真図版19)

[位置・検出面] ⅢG1 j に位置する。検出面はIV層である。 〔重複〕なし。

[規模など] 85×90cmの楕円形状で、厚さは最大で15cmである。焼け具合(色調)から3層に分けた。

[出土遺物] 出土しなかった。 〔遺構の性格〕不明である。

[年代] 不明である。

19SX3 (第22図、写真図版19)

[位置・検出面] ⅢH3iに位置する。 〔重複〕なし。

[規模など] 65×75cmの不整形を呈する。焼けの悪い部分を含む全体の厚さは15cmで、赤褐色の燃焼部は、

数cmである。色調から3つに分層した。これらも195 X 1 同様、浅い土坑状の凹地に形成されている。

[出土遺物] 出土遺物はない。 〔遺構の性格〕不明である。

[年代] 不明である。

19 S X 4 (第22図、写真図版19)

「位置・検出面」 II H 2 f 付近に位置する。検出面はN層である。 〔重複〕なし。

[規模など] 80×104cmの楕円形状で、厚さは最大で 8 cmである。土坑状の掘り込み部分の埋土に、赤褐色の焼土と炭化物を含んでいる。土坑として扱うべきものかもしれない。

〔出土遺物〕出土しなかった。 〔遺構の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

19SX5 (第22図、写真図版20)

[位置・検出面] 旧河道内の斜面、IVH2 i に位置する。旧河道5 d 層で検出した。 〔重複〕なし。

「規模など」平面形は25×80cmの不整形である。焼けは悪い。厚さは5cm程度である。

[出上遺物] 出土遺物はない。

[遺構の性格]投げ込まれた焼土で、19SX6・19SX7と一連のものである。

[年代] 19SX6・19SX7の出土遺物および検出状況から、12世紀後半に属すると思われる。

19 S X 6 (第22図、写真図版20)

[位置・検出面] 19S X 5 と同様である。 〔重複〕なし。

[規模など] 平面形は最大140×280cmの広がりを有する不整形である。色調等から、4層に分けられた。厚さは全体で10∼15cm程度である。

[出土遺物] 手づくねかわらけ(2075~2084)、ロクロかわらけ(2085・2086)が出土した。

[遺構の性格] 焼土の状態や出土遺物から、何らかの儀式の後にかわらけとともに廃棄された焼土の可能性が考えられるが、詳細は不明である。

19SX7 (第22図、写真図版20)

【位置・検出面】19SX6の南西80cmに位置する。検出面は同じである。 〔重複〕なし。

〔規模など〕平面形は最大幅80×長さ195cmの細長い菱形である。焼土自体は、色調から3層に分けられた。 厚さはそれぞれ数cmである。

【出土遺物】手づくねかわらけ(2087~2090)などが出土した。

〔遺構の性格〕19SX6に同じ。

〔年代〕出土遺物から、12世紀後半に属すると思われる。

19SX8 (第22図、写真図版20)

[位置・検出面] 旧河道内、IVH3 i に位置する。 〔重複〕なし。

〔規模など〕平面形は470×65cmの長力形状である。色調から3層に分けた。全体の厚さは10cmである。

[出土遺物] 出土していない。

[遺構の性格] 不明である。

[年代] 不明である。

(195 X 9 は欠番)

7 土器埋設遺構

土器埋設遺構は、19次調査で1基確認された。時期は縄文時代晩期初頭(本報告分類 - Ⅲ群 1 類)である。

19 S X 10 (第22図、写真図版21)

〔位置・検出面〕調査区中央部西寄りのⅢH2cに位置する。検出面はⅣ層上面である。

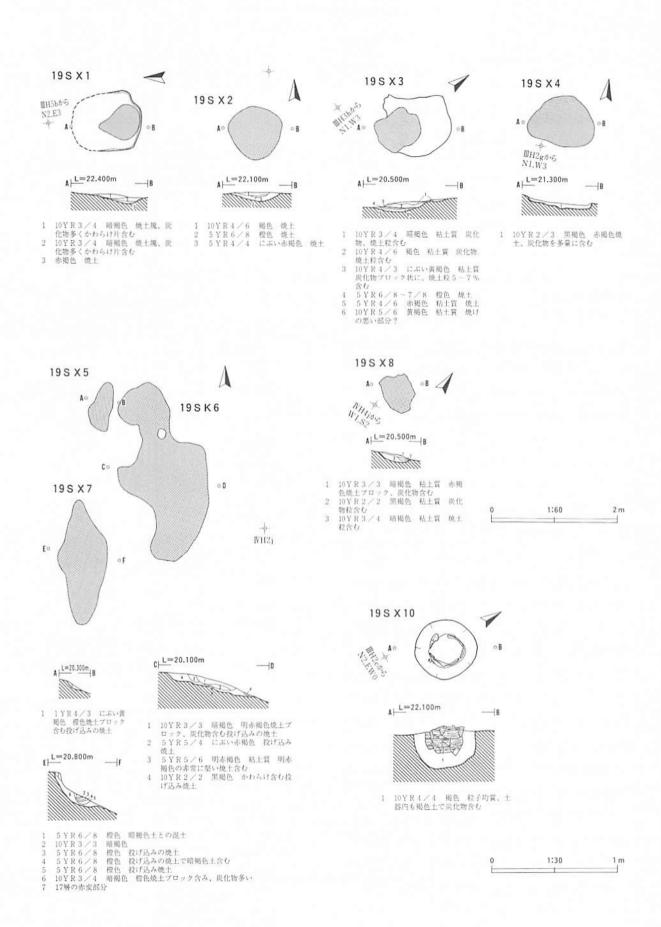
[重複] 重複する遺構はない。

〔規模など〕土器は正位に埋設され、直径50cmほどの円形の掘り方を有する。その深さは30cmあまりで、土器の周囲に10cm程度の土が入れられている。土器の底部を欠いているが、欠損した状態で埋設されたものと思われる。

〔遺物〕土器は、縄文晩期初頭の深鉢(346)である。口唇部には山形突起を有し、胴部との境には連続する 横位の長短沈線が巡る。口縁部と胴部には入組文・三叉文が施されているが、入組部には刺突が入れられて いる。地文はLRである。

〔遺構の性格〕墓の可能性が考えられるが、土壌分析も行っておらず不明である。

〔年代〕縄文時代晩期初頭に所属する。



第22図 焼土·土器埋設遺構(19次調査分)

8 カマド状遺構・焼土(21次調査分)

カマド状遺構は、近世以降、麻などを煮るために使われた施設と思われるもので、火床部以外の構造がわかるものは5 基確認された。焼土は1 基確認されたが、検出状況から古代の住居に伴うものとした。

21S X 1 (第23図、写真図版21)

[位置・検出面] IIH5gに位置する。検出面はVI層である。 〔重複〕なし。

(構造) 前庭部、掛け口、煙道部からなり明瞭に構造がわかる。火床部は、前庭部と掛け口の境に僅かに観察された。また、掛け口から前庭部側に下がる浅い溝が見られる。

[規模] 前庭部上面の直径68cm、掛け口上面の径32×78cm、煙道部幅18cm・長さ130cm以上、深さ5~16cm。

[出土遺物] なし。 [遺構の性格] 何らかの煮炊きに使われたカマドである。

[年代] 確証はないが、近世以降の所属と思われる。

21S X 2 (第23図、写真図版21)

[位置・検出面] Ⅲ H 6 e に位置する。検出面は IV 層である。 〔重複〕なし。

[構造]後世に壊され、かろうじて残存したカマド状遺構の火床部と思われる。

〔規模〕径40×62cm。火床部の厚さ7cm。 〔出土遺物〕なし。

〔遺構の性格〕カマド状遺構火床部である。

[年代] 近世以降の所属と思われる。

21SX3 (第23図、写真図版22)

[位置・検出面] ⅢH5fに位置する。検出面はIV層である。

[重複] 21 S X 5 · 6 と重複するが、調査の不手際から新旧関係は不明である。特に後者との重複は複雑で、お互いの掛け口と煙道部同士が切り合う状況である。

〔構造〕前庭部、掛け口、煙道部、煙出しからなるが、埋土の状況から西側が掛け口となる。よって前庭部から煙道が延びていることになり、通常の構造とは異なる。他のカマド状遺構との重複もあって、この構造の解釈自体が正しいものか不明である。煙道は刳り貫き式である。

[規模] 前庭部上面の直径138cm、掛け口上面の直径90cm、煙道部幅20cm・長さ90cm、深さ25cmを測る。

〔埋土〕崩落した掛け口の粘土質土と後の堆積土からなり、6層に分層された。

[出土遺物]なし。 [遺構の性格] 何らかの煮炊きに使われたカマドである。

[年代] 近世以降の所属と思われる。

21 S X 4 (第23図、写真図版22)

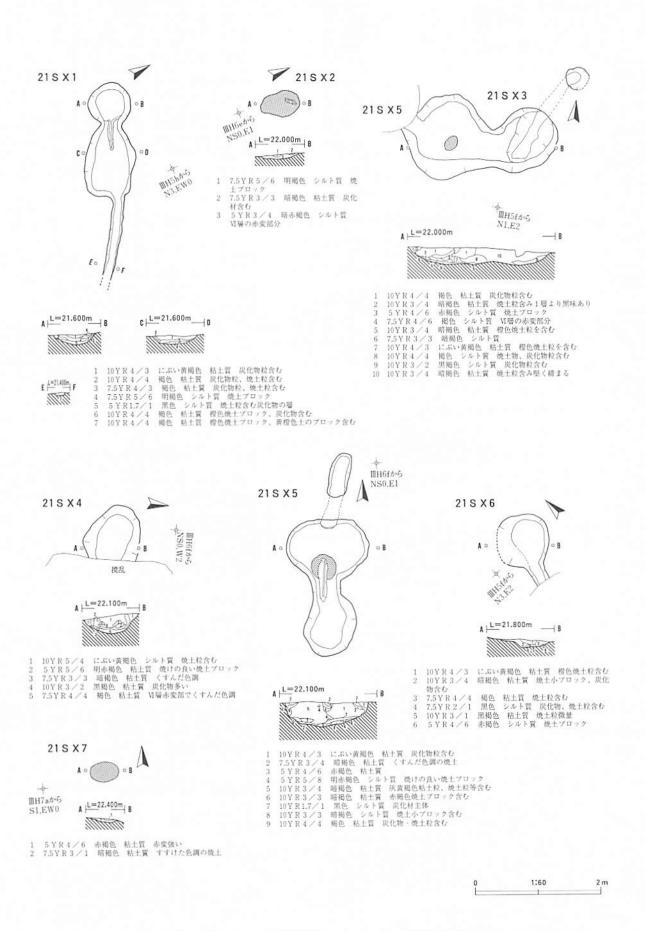
〔位置・検出面〕 IIH5eに位置する。検出面はIV層である。

[重複] 遺構の東側は撹乱を受けている。

[構造] 埋土の状況から、残存しているのは掛け口部分のみと思われる。

〔規模〕掛け口上面幅86cm前後・深さ27cm前後。

〔埋土〕 崩落した掛け口の粘土質土と後の堆積土からなり、 5 層に分層された。



第23図 カマド状遺構・焼土(21次調査分)

[出土遺物] なし。 [遺構の性格] 何らかの煮炊きに使われたカマドである。

[年代] 近世以降の所属と思われる。

21S X 5 (第23図、写真図版22)

〔位置・検出面〕ⅢH5e・5fに位置する。検出面はⅣ層である。 〔重複〕なし。

〔構造〕前庭部、2個口の掛け口、煙道部からなり全体構造は明瞭にわかる。火床部は掛け口の前庭部寄り

にあり、前庭部と掛け口をつなぐ部分に浅い溝が観察された。煙道は刳り貫き式である。

〔規模〕前庭部上面の径81×124cm、掛け口上面の径90×132cm、煙道部幅20cm・長さ120cm、深さ36cm。

[埋土] 掛け口部分の埋土は、粘土質の崩落土と後の堆積土からなり、9 層に分層された。

〔出土遺物〕なし。 〔遺構の性格〕何らかの煮炊きに使われたカマドである。

[年代] 近世以降の所属と思われる。

21SX6 (第23図、写真図版22)

【位置・検出面】ⅢH5fに位置する。検出面はIV層である。

(重複) 21SX3と重複するが、新旧は不明である。

〔構造〕残存しているのは前庭部か掛け口部のいずれかであるが、不明である。煙道は21 S X 3 側に延びている可能性もある。

[規模] 直径80cm前後、煙道部幅24cm、深さ8~14cm。 〔埋土〕6層に分けられる。

[出土遺物]なし。 [遺構の性格]カマド状遺構と思われる。

[年代] 近世以降の所属と思われる。

21S X 7 (第23図、写真図版23)

【位置・検出面】ⅢH6aに位置する。検出面はⅣ層である。 〔重複〕なし。

[構造] かろうじて残存した住居跡に伴うカマド燃焼部である。

[規模] 径31×44cm。燃焼部の厚さ4cm。 [出土遺物] なし。

〔遺構の性格〕平安時代の住居跡カマド燃焼部と思われる。

〔年代〕平安時代(9~10世紀)に属するものと思われる。

9 旧河道跡・木柱列

(1) 旧河道跡(第24~28図、写真図版25~27)

ここでは、泉屋遺跡19次・21次調査の主体となった旧河道跡について記述する。2ヵ年にわたって調査した旧河道跡は、調査区の東端でほぼ南北方向に検出された。調査した地点の流路方向は、南北軸からわずかに東側に振れているようである。19次調査では、トレンチ調査による土層堆積状況の把握、および12世紀の遺物包含層上層(大別層4層:次頁の層序参照)までの掘削・精査、21次調査では、それ以下の層の掘削・精査と全体図の作成、層位の確認を主な調査内容とした。

ここからは、12世紀後半に属するかわらけ・国産陶器・中国産陶磁器・木製品・鉄製品・ガラス製品、平安時代の土師器・須恵器・土製品・鉄製品、縄文土器などのほか、植物遺体(モモ・ウメの種子)や獣骨・獣歯(ウマ・シカ)など、多くの遺物が出土した。これらで今回出土した遺物総数の8 物ほどを占めていると思われる。遺構では、12世紀後半ごろの整地層とそれと同時期の道路側溝になる可能性がある溝のほか、土坑が数基検出された。また、詳しくは次で述べるが、2列1組で橋状施設を構成する木柱列が検出されている。この他、二次堆積したと思われる灰白色火山灰が最大で厚さ40cmあまり、河道中央部全域に確認された。この火山灰は、10世紀前半に降下したとされる十和田 a 降下火山灰との分析結果を得ている。

[位置]調査区最東端部のⅢH4i~0i、ⅣH1i~4i、ⅢH4j~0j、ⅣH1j~4j、ⅣI1aなどに位置する。旧河道は南北いずれの方向にも延びている。

【規模】確認できた河幅は15.5~23.0mで、それは南側に向かって徐々に狭くなる。第24図に示した全長はおよそ35.0mであるが、21次調査の際の大雨による地盤崩落のため、北側6mあまりを作図できなかった。よって、実際は長さ40mあまりにわたって精査している。

[流路・深さ] 各時代における深さは、河幅とは逆に南側のレベルが下がっていた。よって、流路は北側から南にある現太田川方向であったと考えられる。しかし、平安時代以前(十和田 a 火山灰堆積以前)は、あまり水の流れがない湿地・沼地であった様相である。現地表面から12世紀の整地層までの深さは最大で2.7 m、十和田 a 火山灰の堆積面までのそれは3.5mである。最終的に、一部を現地表面下4.7mで掘り下げたところで掘削を断念した。

[各時代における状況] これらの状況から、この旧河道は①縄文期以降には流れのある沢、②平安期前後には湿地・沼地、③12世紀後半には凹地を利用し、整地を施した道路、④12世紀後半以降は徐々に埋り(人為的に埋められた可能性もある)、⑤現代には水田となったと考えられる。時代によって、人の手が加えられながら利用されてきた痕跡を残している。

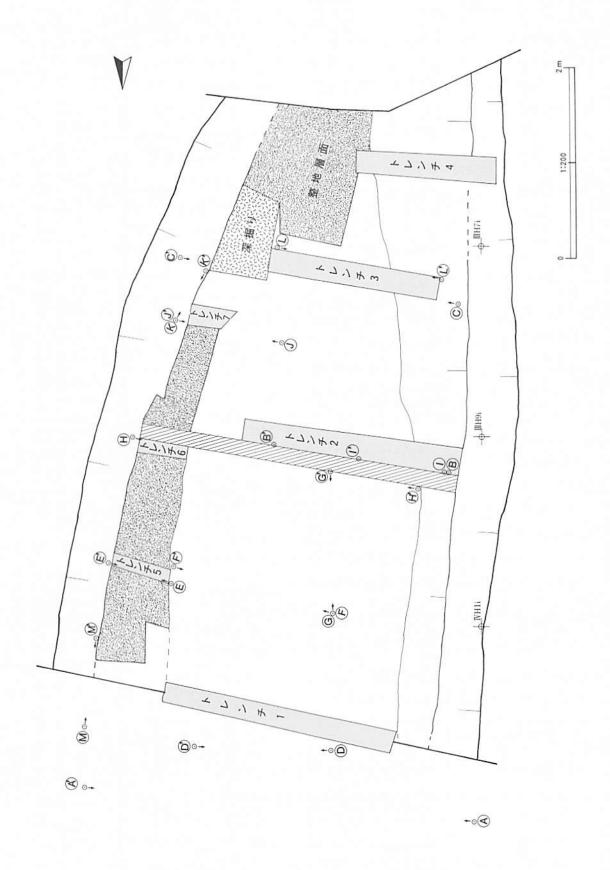
[堆積状況] この旧河道跡を精査した結果、整地層・灰白色火山灰層などの鍵層が数枚存在することがわかった。旧河道内における層序を次頁に示したが、大別層 2 層・4 層(近世)・6 層(整地層)・8 層(十和田 a 火山灰層 - 10世紀前半)・10層(縄文?)がそれである。第25~28図には調査で得た土層断面すべてを掲載したが、表は各断面の鍵層のあり方から旧河道における堆積状況を総合的に判断して作成したものである(層名の後ろに付く括弧内の数字は調査時に付けた旧層名)。表中の6 層(整地層)と8 層(十和田 a 火山灰層)以外については、概ねそれくらいの時期といった大まかなもので、明確な時期を示していない。以下に各大別層の詳細について記述する。

大別層1層-確実に近・現代に堆積した層で、最近はすっかり埋まりきって水田として利用されていた。

2層 一暗褐色のシルト質上で構成される層。近・現代に堆積。

3層-2層と4層との間に存在する。陶磁器等含む。

本土層	拟		A-A'	B-B'	C-C'	D-D.	E-E'	F-F'	G-G'	H-H,	1-1'	G-G'	K-K'	T-F,	M-M'	野
-11-11>	1		A1a(木田畦畔)		C1a(1)		E0a(1)			H 0 b (2)		Webstern Distriction	K0a(1)			1.1
			Alb(木田耕作土)		C1b(2)		E0b(3)			H0c(3)		J0b(2)				
			A1c(1)		C1c(3)		E 0 c (2)			H 0 d (16)			K0c(3)			
			A1d(2)		C1d(4)					H 0 e (22)			K0d(4)			
			A1e(3)		Cle(5)					H 0 f (15)			K0 e(5)			
			A1f(4)		C1f(6)					H 0 g (11)		J0f(6)	K0f(6)			
					C1g(7)					H0i(4)			K0g(7)			
					C1h(8)								K 0 h (18)			
					Cli(9)											
					C1 j (10)											
					C1 k(11)											
					C 1 1 (12)											
-					C 1 m(13)											
					Cin(M											
					C10(15)											
					C1 p (16)											
					C1 q (17)											
					C1 r (18)											
	2	驻揭色土	A2(5)	SKELIG	C 2 (19)		in an	-05,075		to the second						
	3		A3a(6)		C3 a (20)											
			A3b(7)		C 3 b (21)											
			A3c(8)		C 3 c (22)											
			A 3 d (10)		C 3 d (23)											
					C 3 e (24)											
					C3 f (25)										1	
					C 3 g [26]											
	4		A4(9)													近常
	5		A 5 a (17)	B5a(1)	C 5 a (28)											
			A 5 b (11)	B5b(2)	C 5 b (27)											
			A 5 c (18)	B5c(3)	C 5 c (29)											
			A 5 d (12)	B5d(4)	C 5 d (49)					H 5 j (28)						
			A 5 e (13)	B5e(5)	C 5 e (30)			4		H 5 k (29)						
	6	数網	A 6 (14)	B6(6)	C 6 (31)	D 6 (31)	E6(4)			H 6 (5,31)			K6(8)			12世
	7		A 7 a (22)	B7a(7)	C7a(32-單)	D7a(未名)	E7a(5)			H7 a (32)	171(1)	J7a(8)	X7a(9)	17a(6)	M7a(1)	
_			A7 b (23)	575(8)	C7 b (50)	D7 b (32)	E76(6)			H76(10)	175(2)	J75(9)	K7 b (10)	1760	M7b(2)	
			A7 c 1 (15)		C7 c 1 (32)	D7 c (34)	E7c(7)			H7 c (6,32)	17c(9)		K7 c (11)	17c(8)	M7 c (3,34)	
			A7c2(実体なし)		C7 c 2 (33)	D 7 d (35)	E7d(8)	_		H7d(7)			K 7 d (12)	L7d(3)	M7d(4)	
_			A 7 d (16)		C7 c 3 (34)	D7 e (36)	-			H7 e(8)			K7 e (13)	17e10		
_			A 7 e (19)	7.0	C7 c 4 (35)					H7f(9,37a)		J 7 f (12)				
_					C7 c 5 (36)					H7g(10,37,37b)						
_				_	C 7 d (37)					H 7 h (17, 23)						
-					C 7 e (39)					E7 i (18,24)						
		-	V 4 (m)		0.000	District.	2000		0.0103	H 7 j (19) H 8 (12,38)	144	1.0.000		* a / Libert	110000	447
	8	To-2	A 8 (20)		C 8 (38)	D 8 (38)	E8(9)	F8(1)	G8(1)	H 8 (17, 58)	18(To-a)	J 8 (22)	77 A 1845	1.8(火加天)	M8(6)	9154
-	9		A 9 (21)						CA 141		* B . (144)					
	8				C 9 a (40)	D9 a (40)	E 9 a (10)		G9 a (2)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56)	I 9 z (11)	J 9 a (23)		L9 a (1)	M9a(7)	
					C 9 5 (41)	D95(未名)		F95(3)	G9b(3)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26)	196(10)	J92(23) J9b(13)	К9 в (15)	L9a(0) L9b(0)	M9a(7) M9b(8)	
					C 9 6 (41) C 9 c (42)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F96(3) F9c(4)	G9b(3) G9c(4,11)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57)	1 9 b (10) 1 9 c (13)] 9 a (23)] 9 b (13)] 9 c (14)	K9 b (15) K9 c (16)	L9a(1) L9b(2) L9c(8)	M9a(7) M9b(8) M9c(9)	
					C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43)	D95(未名)	E 9 a (10)	F9b(3) F9c(4) F9d(5)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52)	1 9 6 (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 d (15)	К9 в (15)	L9a(1) L9b(2) L9c(8) L9d(8)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12)	
					C 9 b (41) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F96(3) F9c(4) F9d(5) F9e(6)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (43, 58)	1 9 b (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12) 1 9 e (14)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 d (15) J 9 e (16)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (1) L9 b (2) L9 c (3) L9 d (3) L9 e (3)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13)	
					C 9 b (41) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F96(3) F9c(4) F9d(5) F9d(6) F9f(7)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (43, 58) H 9 f (44, 70)	1 9 6 (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12)	J9 a (23) J9 b (13) J9 c (14) J9 d (15) J9 e (16) J9 f (17)	K9 b (15) K9 c (16)	L9a(1) L9b(2) L9c(8) L9d(8)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14)	
					C 9 6 (41) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F96(3) F9c(4) F9d(5) F9e(6) F9f(7) F9g(8)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (43, 58) H 9 f (44, 70) H 9 g (45, 59)	1 9 b (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12) 1 9 e (14)	J9a(23) J9b(13) J9c(14) J9c(15) J9c(16) J9c(16) J9c(18)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (1) L9 b (2) L9 c (3) L9 d (3) L9 e (3)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10)	
					C 9 b (41) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 b (47)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F9b(3) F9c(4) F9d(5) F9c(6) F9f(7) F9g(8) F9b(9)	G9b(3) G9c(4,11) G9c(5,12,10) G9e(6,13) G9f(7,14) G9g(8,15) G9h(未名)	H9 a (3, 20, 25, 40, 56) H9 b (14, 21, 26) H9 c (41, 57) H9 d (42, 52) H9 e (43, 58) H9 f (44, 70) H9 g (45, 59) H9 h (46, 60)	1 9 b (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12) 1 9 e (14)	J9a(23) J9b(13) J9c(14) J9d(15) J9e(16) J9f(17) J9g(18) J9b(24)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (1) L9 b (2) L9 c (3) L9 d (3) L9 e (3)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
					C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F96(3) F9c(4) F9d(5) F9e(6) F9f(7) F9g(8) F9h(9) F9i(10)	G 9 b (3.) G 9 c (4.11) G 9 d (5.12.10) G 9 e (6.13) G 9 f (7.14) G 9 g (8.15) G 9 b (未名) G 9 i (16)	H9 a (3, 20, 25, 40, 56) H9 b (14, 21, 26) H9 c (41, 57) H9 d (42, 52) H9 e (43, 58) H9 f (44, 70) H9 g (45, 59) H9 h (46, 60) H9 i (47, 61)	1 9 b (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12) 1 9 e (14)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (1) L9 b (2) L9 c (3) L9 d (3) L9 e (3)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10)	
					C 9 b (41) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 b (47)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F9b(3) F9c(4) F9d(5) F9e(6) F9f(7) F9g(8) F9h(9) F9i(10) F9j(11)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 b (±2) G 9 i (16) G 9 j (9)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (43, 58) H 9 f (44, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (45, 60) H 9 i (47, 61) H 9 j (48, 55, 62)	1 9 b (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12) 1 9 e (14)	J9a(23) J9b(13) J9c(14) J9d(15) J9e(16) J9f(17) J9g(18) J9b(24)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (1) L9 b (2) L9 c (3) L9 d (3) L9 e (3)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
					C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F96(3) F9c(4) F9d(5) F9e(6) F9f(7) F9g(8) F9h(9) F9i(10) F9j(11) F9k(12)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 b (±2) G 9 i (16) G 9 j (9) G 9 k (17)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (43, 58) H 9 f (44, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (46, 50) H 9 i (46, 50) H 9 i (46, 50) H 9 i (45, 50) H 9 k (53, 63)	1 9 b (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12) 1 9 e (14)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (1) L9 b (2) L9 c (3) L9 d (3) L9 e (3)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
					C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F96(3) F9c(4) F9c(5) F9c(6) F9f(7) F9g(8) F9h(9) F9i(10) F9j(11) F9k(12) F91(13)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 h (未を) G 9 i (16) G 9 j (9) G 9 k (17) G 9 l (18)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (43, 58) H 9 f (44, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (46, 60) H 9 i (47, 61) H 9 j (45, 63) H 9 l (49)	1 9 b (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12) 1 9 e (14)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (1) L9 b (2) L9 c (3) L9 d (3) L9 e (3)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
					C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F9 b (3) F9 c (4) F9 c (5) F9 c (6) F9 c (6) F9 f (7) F9 g (8) F9 h (9) F9 j (11) F9 k (12) F9 1 (13) F9 m 14)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 b (±2) G 9 i (16) G 9 j (9) G 9 k (17)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 c (41, 52) H 9 e (43, 58) H 9 f (64, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (46, 60) H 9 i (47, 61) H 9 j (45, 55, 62) H 9 h (55, 63) H 9 l (49) H 9 m (50)	1 9 b (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12) 1 9 e (14)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (1) L9 b (2) L9 c (3) L9 d (3) L9 e (3)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
					C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F9 b (3) F9 c (4) F9 c (6) F9 c (6) F9 f (7) F9 g (8) F9 h (9) F9 i (10) F9 j (11) F9 k (12) F9 1 (13) F9 m (14) F9 m (15)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 h (未を) G 9 i (16) G 9 j (9) G 9 k (17) G 9 l (18)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (45, 58) H 9 f (46, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (46, 60) H 9 i (47, 51) H 9 j (48, 55, 62) H 9 m (50, 63) H 9 m (50) H 9 m (51)	1 9 b (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12) 1 9 e (14)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (1) L9 b (2) L9 c (3) L9 d (3) L9 e (3)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
					C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F9 b (3) F9 c (4) F9 d (5) F9 e (6) F9 f (7) F9 g (8) F9 h (9) F9 i (10) F9 j (11) F9 k (12) F9 n (15) F9 n (15) F9 n (16)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 h (未を) G 9 i (16) G 9 j (9) G 9 k (17) G 9 l (18)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 c (41, 52) H 9 e (43, 58) H 9 f (64, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (46, 60) H 9 i (47, 61) H 9 j (45, 55, 62) H 9 h (55, 63) H 9 l (49) H 9 m (50)	1 9 b (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12) 1 9 e (14)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (1) L9 b (2) L9 c (3) L9 d (3) L9 e (3)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
					C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F9 b (3) F9 c (4) F9 c (5) F9 c (6) F9 c (7) F9 g (8) F9 h (9) F9 i (10) F9 j (11) F9 k (12) F9 n (15) F9 n (15) F9 p (17)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 h (未を) G 9 i (16) G 9 j (9) G 9 k (17) G 9 l (18)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (45, 58) H 9 f (46, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (46, 60) H 9 i (47, 51) H 9 j (48, 55, 62) H 9 m (50, 63) H 9 m (50) H 9 m (51)	1 9 b (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12) 1 9 e (14)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (1) L9 b (2) L9 c (3) L9 d (3) L9 e (3)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
					C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F9 b (3) F9 c (4) F9 c (5) F9 c (6) F9 c (7) F9 g (8) F9 h (9) F9 i (10) F9 j (11) F9 k (12) F9 n (15) F9 n (15) F9 p (18)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 h (未を) G 9 i (16) G 9 j (9) G 9 k (17) G 9 l (18)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (45, 58) H 9 f (46, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (46, 60) H 9 i (47, 51) H 9 j (48, 55, 62) H 9 m (50, 63) H 9 m (50) H 9 m (51)	1 9 b (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12) 1 9 e (14)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (1) L9 b (2) L9 c (3) L9 d (3) L9 e (3)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
					C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F9 b (3) F9 c (4) F9 d (5) F9 e (6) F9 f (7) F9 g (8) F9 h (9) F9 h (10) F9 h (12) F9 h (12) F9 n (15) F9 n (15) F9 n (15) F9 n (15) F9 p (18) F9 r (19)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 h (未を) G 9 i (16) G 9 j (9) G 9 k (17) G 9 l (18)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (45, 58) H 9 f (46, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (46, 60) H 9 i (47, 51) H 9 j (48, 55, 62) H 9 m (50, 63) H 9 m (50) H 9 m (51)	1 9 b (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12) 1 9 e (14)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (1) L9 b (2) L9 c (3) L9 d (3) L9 e (3)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
					C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F96(3) F9c(4) F9d(5) F9e(6) F9f(7) F9g(8) F9h(9) F9i(10) F9j(11) F9k(12) F9n(16) F9n(16) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 h (未を) G 9 i (16) G 9 j (9) G 9 k (17) G 9 l (18)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (45, 58) H 9 f (46, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (46, 60) H 9 i (47, 51) H 9 j (48, 55, 62) H 9 m (50, 63) H 9 m (50) H 9 m (51)	1 9 b (10) 1 9 c (13) 1 9 d (12) 1 9 e (14)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (1) L9 b (2) L9 c (3) L9 d (3) L9 e (3)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
	10	原始在工			C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F9 b (3) F9 c (4) F9 d (5) F9 e (6) F9 f (7) F9 g (8) F9 h (9) F9 h (10) F9 h (12) F9 h (12) F9 n (15) F9 n (15) F9 n (15) F9 n (15) F9 p (18) F9 r (19)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 h (未を) G 9 i (16) G 9 j (9) G 9 k (17) G 9 l (18)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (43, 58) H 9 f (44, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (46, 50) H 9 h (46, 50) H 9 h (46, 50) H 9 h (53, 63) H 9 l (49) H 9 m (50) H 9 m (50) H 9 m (51)	1 9 6 (M) 1 9 c (L3) 1 9 c (L4) 1 9 c (L4) 1 9 f (L5)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (0) L9 b (8) L9 c (8) L9 c (8) L9 c (8)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
	10	星城色土			C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F96(3) F9c(4) F9d(5) F9e(6) F9f(7) F9g(8) F9h(9) F9i(10) F9j(11) F9k(12) F9n(16) F9n(16) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 h (未を) G 9 i (16) G 9 j (9) G 9 k (17) G 9 l (18)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (43, 58) H 9 f (44, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (46, 60) H 9 i (47, 61) H 9 j (48, 55, 62) H 9 h (53, 63) H 9 h (54, 64) H 9 m (50) H 9 m (50)	196(M) 19c(13) 19c(14) 19c(14) 19f(15)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L94(0) L9b(3) L9c(3) L9d(4) L9d(4) L9d(5)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
	10 11	建装色士			C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F96(3) F9c(4) F9d(5) F9e(6) F9f(7) F9g(8) F9h(9) F9i(10) F9j(11) F9k(12) F9n(16) F9n(16) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 h (未を) G 9 i (16) G 9 j (9) G 9 k (17) G 9 l (18)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (43, 58) H 9 f (46, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (46, 60) H 9 i (47, 61) H 9 j (48, 55, 62) H 9 h (46, 60) H 9 i (47, 61) H 9 j (48, 55, 62) H 9 h (51, 63) H 9 n (51) H 9 n (51) H 9 n (51) H 9 n (56) H 11 a (66)	196(30) 19c(13) 19d(12) 19e(14) 19f(15) 110(3) 111a(4)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L9 a (0) L9 b (8) L9 c (8) L9 c (8) L9 c (8)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
		是被在土			C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F96(3) F9c(4) F9d(5) F9e(6) F9f(7) F9g(8) F9h(9) F9i(10) F9j(11) F9k(12) F9n(16) F9n(16) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 h (未を) G 9 i (16) G 9 j (9) G 9 k (17) G 9 l (18)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (43, 58) H 9 f (44, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (46, 50) H 9 i (47, 61) H 9 j (48, 55, 62) H 9 k (53, 63) H 9 l (49) H 9 m (50) H 9 m (54) H 9 m (54) H 9 m (54) H 10 (65) H 11 a (66) H 11 b (67)	196(3) 196(3) 196(2) 196(3) 196(3) 196(3) 1116(4) 1116(5)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L94(0) L9b(3) L9c(3) L9d(4) L9d(4) L9d(5)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
		星葵色土			C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F96(3) F9c(4) F9d(5) F9e(6) F9f(7) F9g(8) F9h(9) F9i(10) F9j(11) F9k(12) F9n(16) F9n(16) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 h (未を) G 9 i (16) G 9 j (9) G 9 k (17) G 9 l (18)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (43, 58) H 9 f (46, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (46, 60) H 9 i (47, 61) H 9 j (48, 55, 62) H 9 h (46, 60) H 9 i (47, 61) H 9 j (48, 55, 62) H 9 h (51, 63) H 9 n (51) H 9 n (51) H 9 n (51) H 9 n (56) H 11 a (66)	196(3) 196(13) 196(14) 196(14) 19f(15) 110(3) 111a(4) 111b(5) 111c(6)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L94(0) L9b(3) L9c(3) L9d(4) L9d(4) L9d(5)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	
(M·		星製色士			C 9 6 (42) C 9 c (42) C 9 d (43) C 9 e (44) C 9 f (45) C 9 g (46) C 9 g (46) C 9 i (45)	D9 b (未名) D9 c (41)	E 9 a (10)	F96(3) F9c(4) F9d(5) F9e(6) F9f(7) F9g(8) F9h(9) F9i(10) F9j(11) F9k(12) F9n(16) F9n(16) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18) F9p(18)	G 9 b (3) G 9 c (4,11) G 9 d (5,12,10) G 9 e (6,13) G 9 f (7,14) G 9 g (8,15) G 9 h (未を) G 9 i (16) G 9 j (9) G 9 k (17) G 9 l (18)	H 9 a (3, 20, 25, 40, 56) H 9 b (14, 21, 26) H 9 c (41, 57) H 9 d (42, 52) H 9 e (43, 58) H 9 f (44, 70) H 9 g (45, 59) H 9 h (46, 50) H 9 i (47, 61) H 9 j (48, 55, 62) H 9 k (53, 63) H 9 l (49) H 9 m (50) H 9 m (54) H 9 m (54) H 9 m (54) H 10 (65) H 11 a (66) H 11 b (67)	196(3) 196(3) 196(2) 196(3) 196(3) 196(3) 1116(4) 1116(5)	J 9 a (23) J 9 b (13) J 9 c (14) J 9 c (16) J 9 c (16) J 9 f (17) J 9 g (18) J 9 b (24) J 9 i (19)	K9 b (15) K9 c (16)	L94(0) L9b(3) L9c(3) L9d(4) L9d(4) L9d(5)	M9 a (7) M9 b (8) M9 c (9) M9 d (12) M9 e (13) M9 f (14) M9 g (10) M9 b (11)	



第24図 旧河道全体図

- 4 間 近世の陶磁器等含む層。
- 5層一整地層の直上に形成された12世紀の遺物包含層で、大量の遺物を含む。層厚は30~70cmを測る。 これを掘りきったところで、12世紀後半の溝跡(19 S D 12)が確認された。
- 6層-12世紀後半頃の整地層である。厚さは10~40cmで、黄褐色土のブロックと黒色土の混土からなる。遺物も含まれる層であるが、かわらけ・土師器の細片である。都市平泉の東端を区切る道路状の遺構の可能性を考えている。
- 7層-概ね10世紀前半から12世紀の間にに堆積した層で、土師器・須恵器を含む。有機質の多い土壌である。
- 8層-十和田 a (To-a) 降下火山灰層である。片栗粉が固まったような状態で、掘削にはとても 人力では歯が立たず、爪機によって除去した。
- 9 個 9 ~ 10世紀の土師器・須恵器・木製品(鍬・曲げ物など)・土製品(土鈴ほか)を含む層で、有機質の土壌で水の流れがあまり認められない。この段階では、湿地あるいは沼地となっていたものと思われる。
- 10層-黒い帯状の土で、河道の中心部側に厚くなる。縄文時代の比較的新しい時期かと思われる。
- 11層-10層と基盤層の間にある層で、この頃には深い沢となっていたものと思われる。

〔出土遺物〕既述した多種多様な遺物が出土している。特にもかわらけは、夥しい量の出土をみたが、手づくねかわらけとロクロかわらけの出土割合は、8:2ぐらいである。出土遺物については、ここでは記述しきれないので、詳細はそれぞれの遺物観察表を参照していただきたい。

〔検出遺構〕検出した遺構も既述のとおりである。

[その他] 筆者はこの河道について、現太田川の旧河道であると思い込んでいたが、様々な資料から、かつての太田川の流路はさらに東側の調査区外にあることが判明した。厳密に言えば、今回調査した旧河道がある程度の流量を有する川であったのは、縄文時代以前から古代以前にかけてのわずかな期間であり、これを「旧河道」としたのは適切でなかったような気がしている

(2) 木柱列

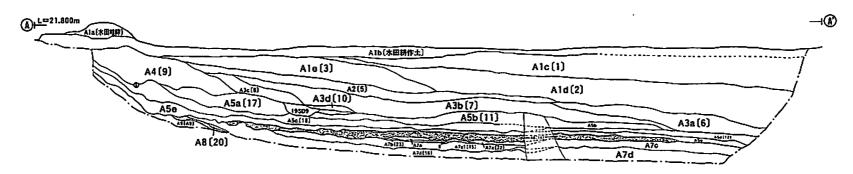
旧河道内、12世紀代に普請された整地層(大別層第6層)面に木柱列が二箇所確認された。一つは、総数50本余りの木柱2列からなり、岸から向こう岸への橋状施設を構成していたと考えられるものである。もう一つは、1列に3本の木柱が並ぶだけのもので性格は不明である。前者を木柱列1、後者を木柱列2として記述する。

木柱列 1 (第29·30図)

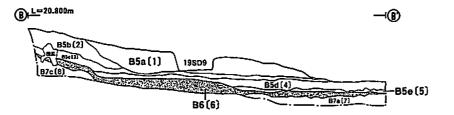
[位置]旧河道中央からわずかに南側のⅢH8j・9j、ⅢⅠ8a~8bに位置する。

〔重複〕重複は認められない。

【規模など】木柱2~37までの全長は11.8m、幅(南北方向)は1.5~1.8mを測る。橋状の施設であるとして、進行方向(東西方向)の木柱の間隔は概ね50cm、最大で70cmである。橋を構成する杭はすべて打ち込み杭であるが、ほとんどが十和田a降下火山灰層途中で止まっており、それを打ち抜くものは火山灰の堆積が薄い地点のもの数個だけである。

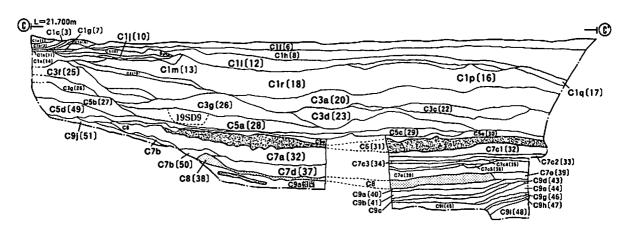


```
表土・水田耕作土。
                                                                                                                  18 A5c 10YR3/4 略褐色 炭化物・かわらけ片を含むが、17号よりさらに少ない。
                                                                                                                 18 A5c 101 K3/3 新物色 炭化物・カンロバ たいない 17 エッテン・・・・ 2 A5d 13 A5c 107 K3/3 新物色 炭化物・かわらけ・土めびを少量含む。続片は上層よりも大きくなる。 14 A6 107 K3/2 黒褐色 土め器・気患器片が含まれる12 C技学に形成された変地層。 22 A7a 107 K3/3 時期色 水による影響から14帯下部に形成された際。 23 A7b 107 K3/3 時期色 22帯に同じ。
2 Ald 10YR5/6 貨場色 解和40年代に実施された河川改修時の竣土と思われる。東側で厚い。
3 Ale 10YR4/1 オリーブ肌色 砂質で結性弱い。適物はほとんど含まない。
4 Alf 10YR4/3 によい長男色 遺物の銀片・炭化物の小片含む。
5 A2 10YR 3/3 解料色 粘土質でかりらけの振片合む。二次堆積か?
6 A3a 10YR 4/1 オリーブ肌色 3層に以るが粘性が強い。
7 A3b 7.5YR 4/1 妖色 赤珠帯びる。酸化锌。
                                                                                                                  15 A7c1 水线堆積留
16 A7d 水线堆積钢
8 A3c 10YR4/3 におい異似色 砂の混入を感じる。かわらけ片を含むが、5研より大きめの破片。
                                                                                                                   19 A7e 2.5YR3/2 黒褐色 水成の自然堆積筍。
9 A4 10YR3/2 周接色 かわらけ・陶磁器片 (12C) を含む。12Cまたは近接した時間の地積層?
17 A5a 10YR3/4 暗視色 炭化物・かわらけを多く含む。同産陶器も少量含まれる。
11 A5b
                                                                                                                  20 A8 2.5 Y 7 / 1 灰白 十和田 a 爲 下火山灰锅。
                                                                                                                  21 A9 5 Y 3 / 2 オリーブ黒色 無道物質。
```

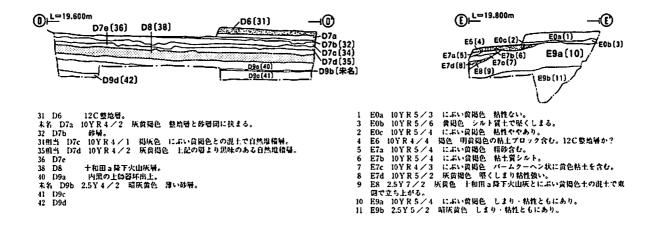


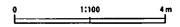
1 B5a 2.5Y 4/2 結果資色 19S D 9が担り込むせ。 2 B5b 2.5Y 4/2 結果資色 変化物・かわらけ細片を多く合む。 3 B5c 2.5Y 3/2 周均色 変化物・遺物少量合む。 4 B5d 2.5Y 4/2 結果資色 B5e 2.5 Y 4 / 2 騎灰黄色 粘土質。 6 B6 2.5 Y 3 / 1 黑眼色 12 C 整地層。 7 B7a 2.5 Y 3 / 2 黑眼色 8 B7b 2.5 Y 3/3 暗オリーブ褐色



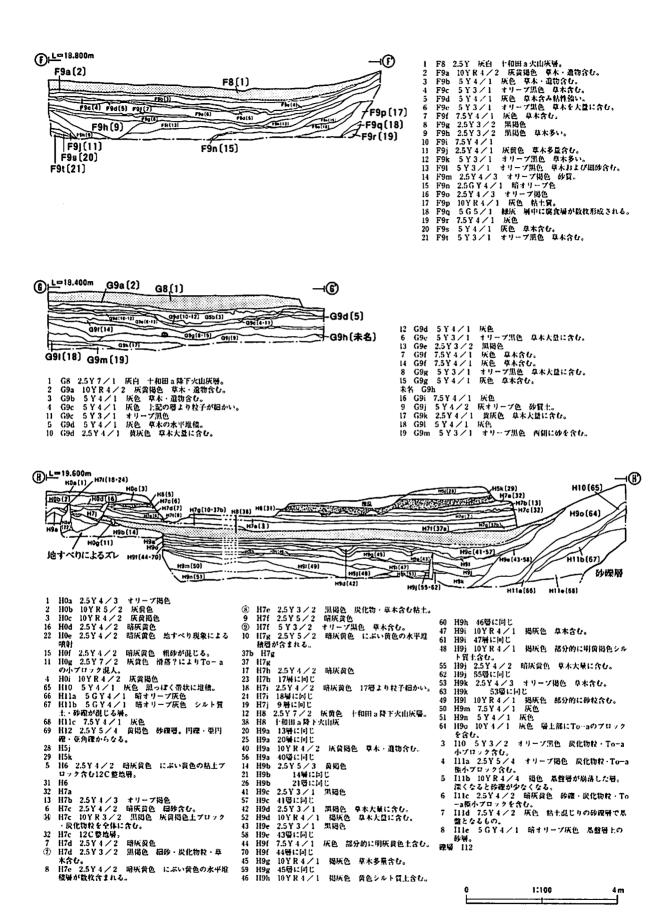


```
1 Cla 10 Y R 4 / 2 灰食褐色 角硬・炭化物・草木多量に進入。 27 C5b 10 Y R 3 / 2 黒褐色 皮化物が重くなった。 27 C5b 10 Y R 3 / 2 黒褐色 皮化物が重くなった。 27 C5b 10 Y R 3 / 2 炭食褐色 皮化物数で含化に皮がる。 28 C5c 10 Y R 4 / 2 炭食褐色 角硬・炭化物・皮化皮がよる。 37 C6c 10 Y R 4 / 3 によい食褐色 かりく化した土壌が入る。 38 C6c 10 Y R 4 / 3 によい食褐色 もみ数が多量に含まれる。 38 C6c 10 Y R 4 / 3 によい食褐色 もみ数が多量に含まれる。 39 C7 C1g 10 Y R 4 / 2 炭食褐色 皮化物・液化液・木くず少星含む。 8 C1h 10 Y R 4 / 3 財力・ブレーング・ガンスをした。 10 C1j ひきくず・木くず・皮は物か・水では、ケスイでなど洗入する。 10 C1j ひきくず・木くず・皮は物か・水では、ケスイでなど洗入する。 10 C1j ひきくず・木くず・皮は物などを含む。 11 C1k 10 Y R 4 / 2 炭食褐色 皮化物が水でなった。 12 C1 10 Y R 4 / 2 炭食褐色 皮化物・木ぐずなど洗入する。 13 C1m 2.5 Y G 4 / 1 扇オリ・ブ灰色 グライ化と 5 C7 10 Y R 4 / 3 によい食肉色 軟化物・木ぐすな。 37 C7 10 Y 3 / 1 オリーブ灰色 効力・水を水泥しる。 16 C1p 10 Y R 4 / 3 によい食肉色 験はサーブル色上が混じる。 37 C7 10 Y 3 / 1 オリーブ灰色 木が健量化しる。 17 C1g 10 Y R 4 / 3 によい食肉色 解オリーブ灰色上が混じる。 17 C1g 10 Y R 4 / 3 によい食肉色 解オリーブ灰色上が混じる。 18 C1r 10 Y R 4 / 3 によい食肉色 解オリーブ灰色上が混じる。 19 C2 10 Y G 5 / 4 によい食肉色 解オリーブ灰色上が混じる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物放性 5 でのより 12 C2 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 25 C3 10 Y R 4 / 2 炭肉粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 14 によい食粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 14 によい食粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 14 によい食粉色 皮化物はしる 14 C9e 14 によい食粉色 皮化物が混しる。 14 C9e 14 によい食粉を 14 C9e 14 によい食粉を 14 C9e 14 によい食粉を 14 C9e 1
```

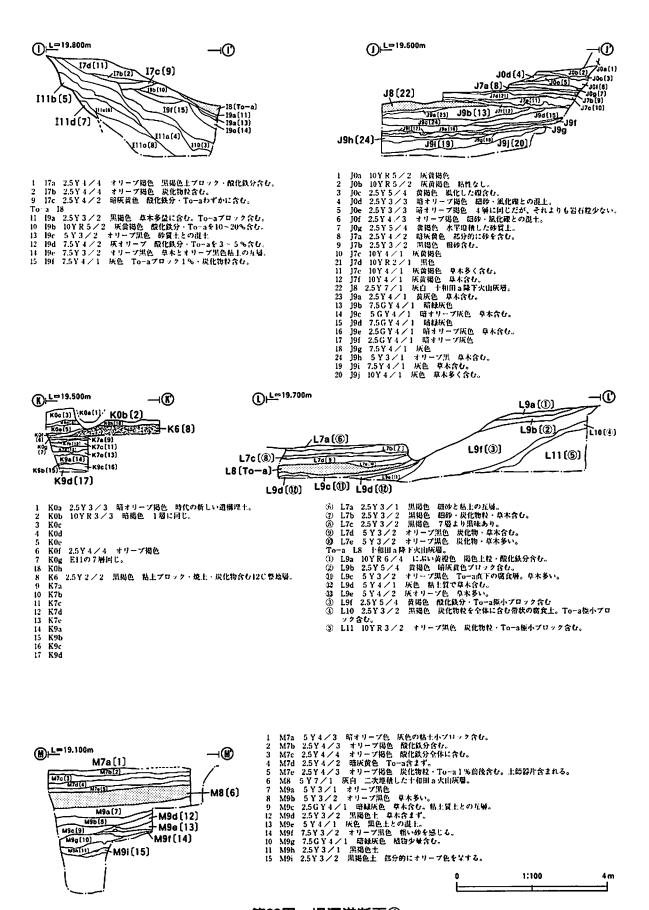




第26図 旧河道断面②



第27図 旧河道断面③



第28図 旧河道断面④

[検出] 旧河道大別層第6層において、腐って黒く変色した木柱の先端が数cm、それぞれ確認された。杭の地表面に近い部分は、それ自体が腐って短くなっているものと思われる。本来どの深さにおいて打ち込まれたものか、使用時の杭の長さはどれほどか、といった問題は不明である。

【材の状態】打ち込まれた杭の先端は、いずれもナタ状の工具で鋭く加工されているが、先端部以外には加工痕は認められない。これらの材はいずれも丸材が用いられている。材の直径は10cm前後で、残存する長さは30~50cmくらいのものが多く、最大で75cmである。また木柱16・21・22のように、木柱間に横たわるように検出されたものがあるが、これらには明瞭な加工痕が見当たらない。この中には板状の材も見られる。

[その他] 周辺に数本横たわる木材との関係は不明であるが、それに加工された痕跡が認められないことから、ともに使われた部材である可能性は低い。

【性格】2列1組で橋状施設を構成する木柱列と思われる。材の太さなどからは木橋の橋脚とまで言っていいものか、判断に迷う。これまで桟橋状と述べてきたこともあったが、「向う岸」を意識して作られたものと考えたい。水を塞き止めるような施設の杭列との見方もあるが、何らかの上部構造があった橋状の遺構と考えたい。

[年代] 検出された層位等を検討した結果、12世紀後半代を含むそれ以降に属するもの、としか言えないとの結論に至った。地元野外作業員の一人に「子供の時にこの辺に橋が架かっていた」という話をする人がいたが、真偽のほどは定かでない。

木柱列 2 (第29·30図)

[位置] 旧河道中央北側のNIla・1bに位置する。

[重複] 重複する遺構はない。

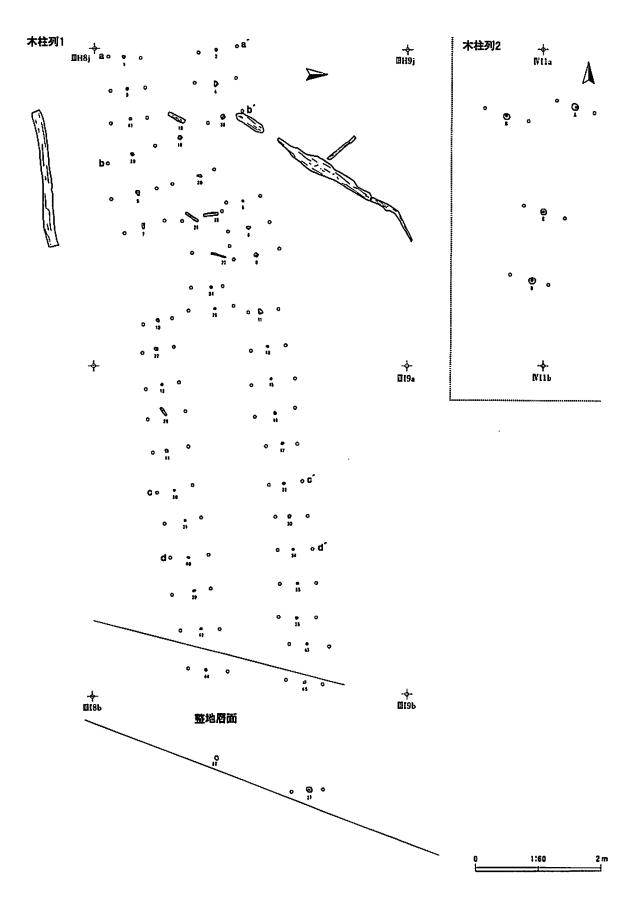
[規模など] 全長2.8m、幅1m前後で木柱の間隔は区々である。

[検出] 旧河道跡内に堆積した十和田 a 降下火山灰層上面において、木柱の先端が確認された。

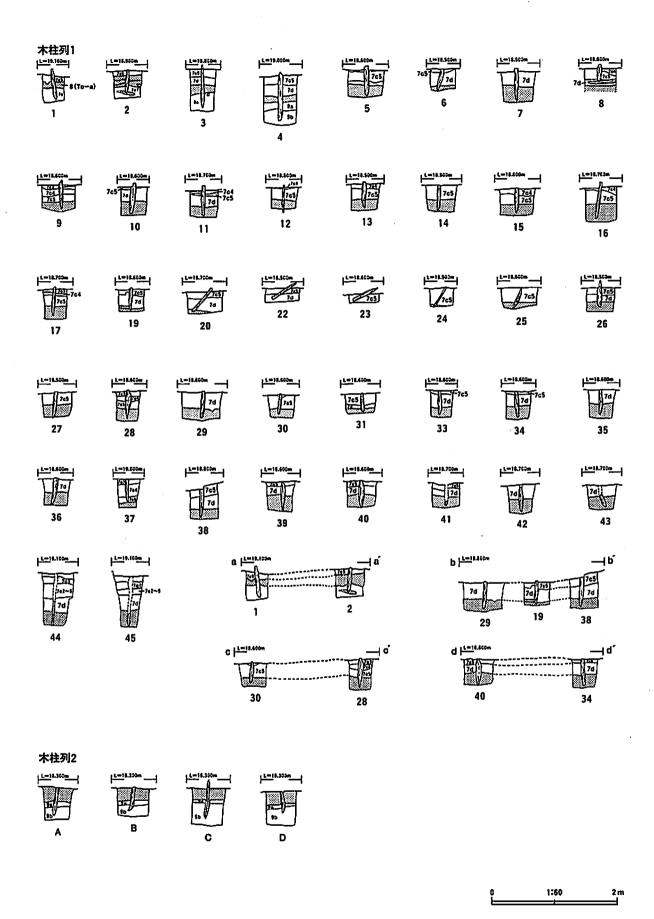
[材の状態]いずれも丸材で、先端に加工跡を有する。直径は10cm前後、長さは30∼60cmである。杭はすべて打ち込まれたものであるが、打ち込まれた面は不明である。

〔性格〕不明である。

[年代] 火山灰降下後の10世紀前半を含む、それ以降に属するものとしておく。



第29図 木柱列(平面)



第30図 木柱(断面)

表 1 柱穴計測一覧表

柱穴番号	深さ	底面の標高	建物番号
	(ca)	(m)	
P 1	29.6	21.93	21 S B 10
P 2	25.9	21.91	21 S B 10
P 3	24.1	21.86	21 S B 10
P 4	22.5	21.88	21 S B 10
P 5	16.5	21.96	21 S B 10
P 6	20.3	21.85	21 S B 10
P 7	8.2	21.99	21 S B 10
P 8	11.0	21.96	21 S B 10
P 9	33.8	21.58	21 S B 11
P 10	15.9	21.83	21 S B 11
P11	33.2	21.65	21 S B 11
P 12	23.2	21.74	21 S B 11
P 13	36.3	21.91	21 S B 11
P 14	29.0	21.61	21 S B 11
P 15	35.1	21.55	21 S B 11
P 16	29.5	21.60	21 S B 11
P17	16.2	21.81	21 S B 17
P 18	15. 1	21.83	21 S B 17
P 19	12.0	21.88	21 S B 17
P 20	11.8	21.87	21 S B 17
P21	22.2	21.68	21 S B 17
P 22	14.5	23,03	21 S B 17
P 23	36.8	21.56	21 S B 17
P 24	13.4	21.76	21 S B 17
P 25			
P 26	24.8	21.88	
P 27	19.4	21.96	
P 28	6.7	22.09	
P 29	30.3	21.84	
P 30	39.5	21.76	
P31	31.9	21.79	
P 32	17.6	21.76	
P 33	11.7	21.88	
P34	14.3	21.82	
P35	10.3	21.90	Abrilo
P36	41.4	21.41	柱列2
P37	33.3	21.55	柱列3
P38	36.9	21.46	柱列2
P 39	16.9	21.65	柱列3
P40	28.3	21.50	柱列2
P41	11.5	21.61	柱列3
P42	49.8	21.36	
P 43	19.3	21.65	
P44	9.9	21.77	
P45	10.1	21.80	
P46	7.7	21.72	
P47	27.9	21.60	
P 48	21.5	21.66	
P 49	19.4	21.95	
P 50	16.2	21.79	
P51	23.9	21.74	
P 52	12.5	21.82	
P 53	6.8	21.94	-
P54	43.8	21.50	<u> </u>
P 55	18.4	22.00	21 S B 12
P 56	22.1	21.70	210 012
1 50	22. I	21.10	L

柱穴番号	深さ	底面の標高	140.44m v5. L1
化八价分	(cm)	(m)	建物番号
P 57	13.2	21.92	21 S B 12
P58	10.6	21,90	21 S B 12
P 59	22.0	21.75	21 S B 12
P60	11.0	21.84	
P61	41.3	21.53	21 S B 13
P62	29.6	21.63	21 S B 13
P63	39.2	21.37	1) =1 0
P64	15.0	21.57	柱列3
P 65	14.8 22.4	21.76 21.53	21 C D 15
P 67	13.6	21.79	21 S B 15 21 S B 15
P 68	11.2	21.54	210010
P 69	37.0	21.28	
P 70	10.4	21.56	
P71	10.0	21.49	
P 72	14.0	21.49	
P 73	20.0	21.32	
P 74	15.4	21.67	21 S B 15
P 75	13.0	21.50	
P 76	20.0	21.75	
P 77	67.8	21.31	21 S B 13
P 78	18.8	21.58	
P 79	23.8	21.63	21 S B 16
P80	11.2	21.77	01 C D 1C
P81	25.8	21.61	21 S B 16
P 82 P 83	13.2	21.75 21.66	
P84	19.0	21.62	
P85	23.8	21.60	21 S B 15
P86	9.6	21.72	210 210
P87	20.2	21.63	
P88	12.6	21.71	
P89	15.6	21.69	
P90	16.2	21.86	21 S B 16
P91	15.6	21.88	
P92	30.2	21.51	21 S B 15
P93	30.8	21.53	21 S B 16
P91	12.0	21.72	
P95	39.2	21.88	21 S B 16
P96	10.8	21.91	21 S B 16
P97	21.6	21.85	21 S B 16
P 98 P 99	12.8 27.6	21.95 21.86	21 S B 14 21 S B 16
P 100	16.7	22.16	213 10 10
P 101	20.2	21.95	21 S B 14
P 102	19.0	22.01	
P 103	欠番	·	
P 104	26.6	21.92	
P 105	43.8	21.75	
P 106	43.6	21.70	21 S B 16
P 107	15.2	21.96	
P 108	15.0	21.92	
P 109	41.0	21.66	21 S B 15
P110	19.0	21.83	
P111	17.6	21.71	\$\$+70L0
P 112	24.4	21.47	柱列2

		1	
柱穴番号	深さ	底面の標高	建物番号
	(cm)	(m)	~~~~~
P 113	14.0	21.61	
P 114	9.3	21.93	
P115	14.4	21.59	
P 116	4.8	19.75	
P117	3.1	19.72	
P118	41.0	21.28	21 S B 14
P119	48.4	21.08	21 S B 13
P 120	11.6	21.81	
P 121	16.6	21.79	
P 122	20.3	21.95	
P 123	15.1	22.00	
P 124	46.4	21.82	
P 125	45.5	21.69	
P 126	27.1	21.85	
P 127	33.3	21.88	
P 128			
P 129	14.9	21.96	
P 130			
P 131	31.0	21.94	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
P 132	11.4	22.15	
P 133	14.4	22, 13	21 S B 12
P 134	19.1	22.01	
P 135	22.4	22.29	
P 136	49.5	21.80	
P 137	23.0	22.03	21 S B 12
P 138	9.0	22.11	
P 139	19.0	22.01	
P 140	33.9	21.92	
P 141	23.3	22.06	
P 142	14.0	22.16	
P 143	15.2	21.64	_
P 144	12.7	21.74	
P 145	19.2	21.62	
P 146	22.5	21.71	
P 147	26.8	21.59	
P 148	47.9	21.65	
P 149	30.8	21.94	
P 150	37.3	22.30	
P 151	19.0	22.05	
P 152	41.5	21.83	
P 153		22.12	
P 154	15.5 13.4	22.12	
P 155	10.4	21.85	
P 156	20 5		
	28.5	21.88	
P 157	13.0	22.09	
P 158	24.6	22.25	
P 159	5.0	21.99	
P 160	22.6	21.99	
P 161	29.6	21.91	
P 162	35.4	21.75	
P 163	39.9	21.85	<u> </u>
P 164	,	00.10	
P 165	15.4	22. 19	
P 166	14.6	22. 18	
P 167	27.1	22.02	
P 168	24.6	22.05	

柱穴番号	深さ	底面の標高	建物番号
12.7 (3	(ca)	(m)	~ ,
P 169	28.0	22.09	
P 170	37.9	22.00	
P 171	15. 1	22. 16	
P 172	4.0	22.33	
P 173	4.1	22.40	
P 174	5.1	22.32	
P 175	24.7	22. 13	
P 176	20.9	22.17	
P 177	37.9	22.00	
P 178	52.0	21.87	
P 179	36.7	22,03	
P 180	40.0	21.95	
P 181	33.1	21.93	
P 182	27.3	22.13	
P 183	12.4	22.25	
P 184	15.5	22.23	
P 185	14.6	22.22	
P 186	39.3	22.02	
P 187			
P 188			
P 189	6.9	22.30	
P 190	53.8	21.91	
P 191	18.4	22.18	
P 192	20.6	22.18	
P 193	18.9	22, 21	
P 194	23.0	22.07	
P 195	11.5	22, 18	21 S B 2
P 196	13.3	22, 17	
P 197	14.9	22, 17	
P 198	12.4	22.28	
P 199			
P200			
P 201			
P 202	5.6	21.96	
P 203	16.3	21.96	
P 204	10.5	22.11	
P 205			
P 206	18.4	22, 26	
P 207	24.6	22,00	
P 208	20.9	22.04	21 S B 4
P 209	28.1	22.24	-
P210	26.3	21.98	
P211	14.4	22.11	21 S B 4
P212	13.5	22.25	
P213	16.8	22.25	
P214	15.6	22.10	21 S B 2
P215	15.2	22. 14	21 S B 2
P216	12.2	22. 16	21 S B 1
P217	11.5	22. 16	21 S B 4
P218	15.6	22, 10	21 S B 4
P219	17.0	22.00	21 S B 2
P 220	20.6	22,00	21 S B 4
P221			
P 222	16.2	22. 12	
P 223	5.5	22.17	
P 224	26.9	21.95	21 S B 4

	深さ	底面の標高	
柱穴番号	(cm)	(m)	建物番号
P 225	22.6	22.23	
P 226	18.9	22.08	
P 227	24.0	22.03	21 S B 7 - 1
P 228		22.09	212011
P 229	11.7 25.9	22.09	21 S B 7 - I
P 230	13.9	22. 12	21307-1
P231	18.7	22. 10	21 S B 7 - I
P 232	25.6	22.29	21 S B 2
P 233	26.2	22. 29	21 S B 7 - 1
P 23-1	22.5	22.03	21 S B 4
P 235	44.6	21.47	mcna i
P 236	15.2	22.20	21SB7-1
P 237	16.6	22. 16	21 S B 2
P 238	24.2	22, 17	21SB7-1
P 239	19.2	22, 25	21 S B 7 - 1
P240	9.6	22.31	0.000
P241	4.1	22.32	21 S B 7 - 1
P 242	33.8	22, 10	21SB7-1
P243	15.4	22.26	21 S B 1
P244	22.4	22,21	21\$B7-1
P 245	14.3	22. 18	21 S B 7 - 1
P 246	29.7	22,02	21 S B 7 - 1
P247	13.2	22.27	
P 248	19.8	22.36	
P249	14.4	22. 16	
P 250	19.6	22, 11	21 S B 1
P251	31.2	22.27	21 S B 7 - 1
P 252	10.6	22.26	
P 253	12.0	22.24	
P 254	11.4	22.23	
P 255	9.8	22.23	21 S B 7 - 1
P 256	21.8	22.34	21 S B 2
P 257	17.4	22, 14	21 S B 1
P 258	16.8	22.35	21 S B 4
P 259	11.2	22.21	
P 260	16.0	22. 15	21 S B 2
P 261	15.6	22.33	21 S B 4
P 262	12.0	22.18	21 S B 4
P 263	15. 1	22, 20	21 S B 7 - 1
P 264	11.4	22. 15	21 S B 1
P 265	34.0	22, 32	21 S B 4
P 266	9.4	22.21	
P 267	12.4	22.10	
P 268	12.6	22.08	
P 269	13.5	22.24	
P270	12.0	22.10	
P 271	12.5	22.25	
P 272	24.1	21.96	
P 273	13.4	22.08	
P274	22.5	21.98	
P 275	17.1	22.02	
P 276	12.3	22.04	
P 277	12.8	22.07	
P 278	12.2	22.16	
P 279	11.5	22.16	
P 280	10.6	22.18	

柱穴番号	深さ	底面の標高	建物番号
127 (11)	(cm)	(m)	
P 281	12.7	22.10	21 S B 3
P 282	20.2	22.00	21 S B 5
P 283	18.6	22.01	
P 284	44.6	21.76	
P 285	32.3	21.91	
P 286	14.3	22.09	
P 287	21.9	22.00	
P 288	11.6	22.10	
P 289	22.0	22.00	
P 290	9.7	22. 15	
P 291	10.4	22.11	
P 292			
P 293	4.8	22.22	21 S B 4
P 291	22.6	22.06	
P 295	40.2	22.26	21 S B 1
P 296	15.0	22.11	
P 297	17.4	21.11	21 S B 6 - 1
P 298	14.0	22.08	21 S B 4
P 299	11.3	22.13	21 S B 1
P 300	10.4	22, 13	21 S B 6 - 1
P301	42.6	21.80	21 S B 1
P 302	13.2	22.12	
P 303	14.4	22.10	
P304	22.8	22.26	
P305	15.7	22.07	
P306	34.8	21.91	21 S B 6 - 1
P 307	38.7	22.27	21 S B 6 - 1
P 308	23.2	22.05	21 S B 1
P 309	24.7	22.03	21 S B 6 - 1
P310	39.3	21.84	
P311	13.6	22.11	
P 312	14.8	22.10	21 S B 1
P313	46.8	21.82	21 S B 7 - 1
P 314	17,7	22.28	
P315	17.1	22.11	21 S B 6 - 1
P316	22.1	22.04	
P317	44.3	21.82	21 S B 7 - 1
P318	15.9	22. 13	
P319	38.2	22.00	
P 320	40.7	21.90	21 S B 1
P 321	18.1	22.10	
P 322	14.5	22.27	21 S B 7 - 1
P 323	24.8	22.01	21 S B 7 - 1
P 324	15.2	22.17	
P 325	9.3	22,22	
P 326	11.2	22.33	21 S B 1
P 327	8.6	22.27	
P 328	33.3	21.94	21 S B 4
P 329	11.7	22.14	
P 330	37.6	22.26	21 S B 4
P 331	36.3	22.27	21 S B 4
P 332	42.5	21.83	21 S B 8
P 333	17.8	22. 13	01055
P 334	35.7	21.93	21 S B 8
P 335	27.6	21.99	21 S B 4
P 336	13.6	22. 16	21 S B 4

柱穴番号	深さ ()	底面の標高	建物番号
D 227	(ca)	(m)	
P 337	41.1	21.88	
P 338	21.2	22.09	
P 339	14.2	22, 18	016 0 6 1
P 340	28.5	22.00	21 S B 7 - 1
P341	14.1	22.25	
P 342	22.9	22.04	
P 343	13.7	22,30	
P 344	16.0	22. 16	
P 345	21.1	22.10	21 S B 1
P 346	36.5	21.97	21 S B 6 - 1
P 347	12.5	22. 13	
P 348	9.3	22, 21	
P 349	14.6	22.00	
P 350	17.5	22, 18	
P351	14.5	22.00	
P 352	20.0	22. 13	21 S B 8
P 353	33.6	22.01	21 S B 1
P 354	33.6	22.01	
P 355	35.5	22.00	
P 356	17.1	22, 19	
P 357	9.2	22.27	
P 358	19.7	22.15	21 S B 1
			413111
P 359	20.9	22. 15	21 6 0 6 - 7
P 360	26.0	22.08	21 S B 6 - 1
P361	32.8	22.00	01000
P 362	23.6	22, 13	21 S B 8
P 363	46.1	21.88	21 S B 7 - 1
P 364	31.3	22.01	21 S B 1
P 365	31.3	22.05	ļ
P 366	30.8	22.06	ļ
P 367	18.0	22.18	
P368	22.0	22.14	
P 369	24.4	22.08	21 S B 8
P370	49.0	21.83	21 S B 6 - 1
P371	16.0	22.15	21 S B 1
P372	30.9	21.98	ļ <u> </u>
P373	33.5	21.81	21 S B 6 - 1
P374	35.4	21.82	
P 375	30.1	21.91	21 S B 7 - 2
P376	40.4	22.28	
P377	18.0	22.10	21 S B 1
P 378	13.9	22.05	
P 379	21.1	21.99	
P 380	35.7	21.80	21 S B 7 - 2
P 381	29.1	21.88	
P 382	17.7	22,00	21 S B 7 - 1
P 383	27.3	21.92	†
P 384	23.5	21.98	21 S B 5
P 385	15.7	22.01	21 S B 1
P 386	16.7	22.02	21 S B 6 - 1
P 387		22.23	21 S B 3
	28.1		
P 388	28.9	21.82	21 S B 7 - 2
P 389	31.5	21.82	21 S B 6 - 1
P 390	32.7	21.80	21 6 2 1
P 391	18.9	21.93	21 S B 1
P 392	26.2	21.84	21 S B 6 - 2

			,
住穴番号	深さ	底面の標高	建物番号
11.77 14 7	(cm)	(m)	AC17 H 7
P 393	24.1	21.76	
P 394	22.6	21.85	21 S B 6 - 1
P 395	18.8	21.91	21 S B 3
P 396	22.8	21.72	
P397	33.0	21.66	柱列1
P 398	29.3	21.75	21 S B 6 - 2
P 399	31.0	21.83	21 S B 5
P400	33.1	21.81	21 S B 3
P401	35.5	21.82	
P 402	29.2	21.92	21 S B 5
1'403	22.4	21.95	21 S B 3
P 404	20.2	22.00	
P 405	23.5	21.96	
P 406	44.3	21.76	
P 407	26.9	21.91	
P 408	39.1	21.78	
P 409	37.9	21.78	
P410	41.9	21.80	
P411	16.1	22.01	21 S B 3
P412	30.6	21.89	
P413	55.6	21.67	
P414	21.1	22.00	
P415	46.9	22.14	
P416	29.3	21.87	
P417	40.9	22.18	
P418	33.6	21.75	
P419	7.5	21.89	柱列 1
P 420	7.5	21.88	
P421	13.5	21.84	柱列1
P 422	29.7	21.75	
P 423	40.6	21.70	21 S B 3
P 424	22.2	21.88	
P 425	22.1	21.91	
P 426	20.5	21.88	
P 427	21.4	21.81	·
P 428	8.0	22.00	
P 429	16.5	21.98	
P 430	16.9	21.87	柱列 1
P 431	25.3	21.77	1
P 432	27.3	21.75	
P 433	27.0	21.75	
P 434	18.5	21.91	<u> </u>
P435	2.5	22.19	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
P 436	2.9	22.31	
P437	10.0	22, 23	<u> </u>
P438	7.5	22.26	
P 439	19.0	22.14	
P440	23.1	21.93	
P441	5,2	22.22	İ
P 442	8.7	22.21	
P 443	5.4	22.26	21 S B 7 - 2
P 444	11.7	22.23	
P 445	4.8	22.24	İ
P 446	5.5	22.27	<u> </u>
P 447	8.6	22.22	
P448	4.4	22.27	
		·	·

柱穴番号	深さ	底面の標高	建物番号
11/(4/9	(cn)	(m)	A210 III '7
P 449	6.5	22.25	
P 450			
P 451	22.3	21.76	
P 452	24.0	21.38	21 S B 14
P 453	13.0	21.99	
P 454	28.2	22.91	
P 455	15.4	22.03	
P 456	22.0	21.99	
P 457	16.3	21.06	
P 458	16.3	21.10	
P 459	16.1	21.10	
P 460	9.8	21.17	
P 461	37.4	20.86	
P 462	14.9	21.08	
P 463	15.0	21.04	
P 464	22.2	21,00	
P 465	26.7	21.01	
P 466	13.4	21.05	
P 467	9.8	21.11	
P468	20.0	21.02	
P 469	9.7	20, 95	
P 470	10.7	20, 88	
P 471	37.4	20.84	
P472	61.4	20.21	
P473	46.9	20, 89	
P 474	16.3	21.70	
P 475	17.0	21.70	
P476			
P477	34.7	21.82	
P478	23.5	21.94	
P479	35.0	21.80	<u> </u>
P480	34.6	21.81	i
P481	15.0	22.52	
P 482			
P 483	20.9	22.17	
P 481	13. 1	22.26	21 S B 7 - 1
P 485	21.0	22.07	-
P 486	6.5	22.30	i
P 487	23.4	21.96	21 S B 4
P 488	39.0	21.81	
P 489	16.6	22.05	
P 490	19.8	22.02	<u> </u>
P 491	22.0	21.98	
P 492	10.8	21.94	
P 493	29.4	21.85	
P 494	4.5	22.09	
P 495	6.2	22.08	
P 496	10.4	22.05	
P 497	19.2	21.91	
P 498	28.5	21.91	21 S B 9
P 498 P 499		22, 15	61309
	24.7	22, 15	
P 500	 	 	
P 501	A. 33.	-	ļ
P 502	欠番 ケポ	 	
P 503	欠番	 	
P 504	欠畓	L	<u>I</u>

	Sen. de	223AE#	
柱穴番号	深さ	底面の標高	建物带号
D.505	(cm)	(m)	01 C B 0
P 505	22,4	21.97	21 S B 9
P506	18.7	21.93	
P507			
P 508			
P 509			
P 510			
P511			
P512			
P513	17.1	21.96	
P514	欠番		
P 515	欠番		
P516	欠番		
P517	69.8	21,20	
P518	20.1	21.69	
P519	欠番		
P 520	66,2	21.37	
P 521	60.0	21.42	
P 522	27.2	21.81	
P 523	45.2	21.54	
P 524	46.4	21.55	
P 525	62.0	21.37	
P 526	21.0	21.72	<u> </u>
P 527	31.8	21.57	
P 528	15.5	22.02	
P 529	10.0	21.86	
P 530	2.4	21.91	
			
P531	1.3	22.00	<u> </u>
P 532	6.1	22.06	
P 533	5.9	22.06	
P 534	1.8	21.92	
P 535	23.0	21.69	
P 536	21.3	21.70	
P537	7.4	21.80	
P 538	16.5	21.66	
P 539	7.5	21.79	21 S B 9
P540	10.7	21.77	<u> </u>
P5/11	20.7	21.90	21 S B 5
P542	35,0	21.42	
P543	13.3	21,58	
P544	9.0	21.57	
P545	17.6	21.75	
P546	42.6	21.30	
P547	7.8	21.78	
P548	7.3	21.79	
P 549	10.9	21.85	
P 550	15.5	21.82	
P551	15.8	21.83	l
P 552	11.3	21.87	i
P 553	33.7	21,65	
P554	7.5	21.89	
P 555	17.4	21.66	
P 556	20.4	21.65	
P 557	16.5	21.68	
P 558	7.4	21,78	
P 559	欠街		1
P 560	17.8	21.57	
L. 300	17.0	21.07	l

	深さ	底面の標高	
柱穴番号	(cm)	(m)	业物番号
P 561	28.8	21.47	
P 562	10.9	21.66	
P 563	22.4	21.56	
P 564	33.0	21.40	
P 565	9.1	21.67	
P 566	7.0	21.62	
P 567	47.6	21.27	
P 568	21.7	21.49	
P 569	27.1	21.40	
P 570	25.5	21.38	
P 571	10.8	21,88	
P 572	31.0	21.53	
P 573	14.3	21.69	
P 574			
P 575			
P 576	11.4	21.64	
P 577	7.2	21.63	
P 578	18.0	21.42	
P 579	16.5	21.38	
P 580	37.5	21.25	Ì
P 581	5.4	21.48	
P 582	12.1	21.51	
P 583	9.0	21.58	
P 584	3.8	21.59	
P 585	34.5	21,26	
P 586	25.8	21.31	
P 587	11.5	21.46	
P 588	17.0	21.42	
P 589	18.5	21.38	
P 590	28.8	21.25	<u> </u>
P 591	29.2	21.29	
P 592	7.0	21.51	
P 593	6.1	21.44	
P 594	14.6	21.36	ļ
P 595	15, 1	21.36	
P 596	4.7	21.44	
P 597	24.2	21.58	
P 598	36.0	21,44	<u></u>
P 599	59.7	21, 23	
P 600	35.9	21.66	<u> </u>
P 601	16.8	21.95	
P 602	12.5	21.78	
P 603	欠番	 	
P 604	欠番 23.6	21.96	
P 606	20.9	21.96	21 S B 12
P 607	28.0	21.41	213 112
P 608	26.1	21.79	21 S B 16
P 609	36.2	21.73	2.0010
P610	17.8	21.56	
P611	21.1	20.76	
P612	欠辭		
P613	16.8	21.54	†
P614	12.2	21.32	<u> </u>
P 615	9.6	21.37	
P 616	11.3	21.36	<u> </u>
	-		•

柱穴番号	深さ	底面の標高	建物番号
147(11.9	(ca)	(m)	22.10 10 0
P617	10.2	21.38	
P618	26.3	21.34	
21 P 1	17.2	22.00	
21 P 2	10.2	22.09	
21 P 3			
21 P 4	8.8	21.93	
21 P 5	欠番		
21 P 6	15.8	21.65	
21 P 7	9.0	21.80	i
21 P 8	16.2	21.61	21 S B 9
			21 S B 9
21 P 9	23.8	21.73	
21 P 10	18.8	21.78	21 S B 6 - 2
21 P 11	火幣		
21 P 12	39.3	21.89	
21 P 13	7.8	21,88	
21 P 14	欠番	<u></u>	ļ
21 P 15	欠群		ļ
21 P 16	19.6	21.98	
21 P 17	34.5	21.82	21 S B 2
21 P 18	20.2	21.96	21 S B 2
21 P 19	16.5	22.01	
21 P 20	9.5	22.06	
21 P21	18.3	21.87	
21 P 22	20.5	22.13	
21 P 23	21.2	22.15	i
21 P24	8.3	22.44	
21 P 25	6.5	22.44	
21 P 26	11.5	22,37	
21 P 27	6.8	22.32	
21 P 28	15.5	22.26	
21 P 29	8,6	22.26	-
21 P 30	9.7	22.23	ļ
21 P 31	17.5	22,20	.
21 P 32	9.9	22.29	
21 P 33	9.4	22.08	
21 P 34	13.0	22.05	
21 P 35	欠番		
21 P 36	5, 8	21,82	
21 P 37	9,5	21,99	
21 P 38	7.5	21.99	
21 P 39	12.9	22.04	
21 P 40	11.7	22. 12	
21 P 41	13.5	22.36	1
21 P 42	8.5	22. 19	
21 P 43	9.5	22. 18	21 S B 7 - 1
21 P 44	19.3	21.88	<u> </u>
21 P 45	欠街		
21 P 46	28.6	21.68	<u> </u>
21 P 47	8.0	22,41	
21 P 48	18.0	22, 21	
	-	 	
21 P 49	17.6	22.07	
	 	 	
	<u> </u>		
	 		
	 	ļ	-
L	L	L	L

第2節 出土遺物

1 縄文時代の遺物包含層について

19次及び21次調査区における基本土層のIV層とIV層が、縄文時代に形成された遺物包含層である。調査区 東側の旧河道部を除き、ほぼ全域に認められた。IV層の層厚は平均15cm程で、まばらに遺物が含まれてい る。これは、IV層遺物にもいえることだが、土器の磨耗が著しく、したがって原位置からの移動も含めた時 間差も否定できないものの、出土遺物の特徴から、縄文時代早期末葉期から前期初頭期に形成されたものと 思われる。

IV層の層域は20~70cmを測り、この層の上~中位に遺物を含有する。大局的に見て時間的所属のことなる 遺物集中区が二区域に認められた。A区は縄文時代後期前葉期から中葉期の土器を主体とし、B区では縄文 時代後期後葉期から晩期初頭期のものを主体とする。A区の現況は比較的小規模な凹地状を呈する所に堆積 していた。他方B区は自然堤防状の周囲より一段高まった所に形成されていた。特にB区は炭化物を多量に 含有し、遺物の種類も少なくなく、周囲と様相を異にしていた。少数の混入的性格の遺物を除外して言及することが可能であるならば、両区とも比較的時間の限定された遺物の集中的な「廃棄」行為によって形成されたものと考えられるが、諸般の事情により、細かな廃棄の単位を追及するには至らなかった。また、両区の面的関係は遺物の示す時間関係より示唆されたが、両者を当時の空間軸に還元してその差異を追跡できる程、良好な状態に保たれてはいなかった。

2 郷文時代の出土遺物 (石器・石製品 1~240、上器・土製品 301~820)

19次及び21次調査で出土した縄文時代の遺物を、ここで一括して扱うこととする。なお、遺物の分類にあたっては、遺構内出土分、遺構外出土分を合わせておこなった。

2年間の調査で出土した遺物の総量は、当センターの大コンテナに換算して土器21箱、土製品7点、石器・石製品1595点である。本稿に掲載した遺物は、遺構内外を問わず通し番号となっており、遺構内、グリッド順に配列した。土製品及び石製品は、それぞれ土器、石器の後に掲載した。なお、選別時の不手際から配置に変更を加えるべき所もあったが、観察表の備考欄に記すに留めた。また、出土点数の多い遺物に関しては、他遺跡の事例を参考にし、若干の分類を試みたが、報告者の力量不足から大枠を提示するに過ぎない。個別の所属に関しては観察表の分類欄に記してある。

(1) 石器・石製品(第31~58図、写真図版28~38)

本遺跡から出土した縄文時代(一部弥生時代を含む)の石器・石製品の種類は、石鏃194点、尖頭器52点、石匙73点、石錐43点、石篦97点、異形石器 1 点、磨石・凹石・敲石類88点、磨製石斧 2 点、打製石斧 9 点、石鍬 7 点、礫器 6 点、石皿・砥石・台石類28点、有孔石製品11点、石棒・石剣・石刀類18点、不定形石器類654点、原石類141点である。この他、石器製作時の剥片・砕片類は、19次調査分だけで約16.5kgを量る。

·石鏃(1~87)

194点出土しており、87点掲載した。有茎鏃の割合が高い。なお、掲載していないがこのうちの1点はアメリカ式石鏃で、弥生時代のものと思われる。

· 尖頭器 (88~113)

52点出土し、26点掲載した。図化出来なかったが、薄手の所謂石槍状の破片も存在する。

· 石匙 (136~162)

73点出土し、22点掲載した。全体的に縦形のものが多い。縦・横中間の形態も認められる。つまみが2つあるものもある。

· 石錐(136~162)

43点出土し、17点掲載した。

· 石箆 (169~184·191)

97点出土し、17点掲載した。172などのように、刃部に抉入を持つものも認められる。

- · 異形石器(185)
 - 1点確認された。
- · 磨石·凹石·破石類(203~210)

88点出土し、8点掲載した。比較的小さいの自然石の一部に、磨痕、擦痕、凹痕、打痕等の各種使用痕が 認められる一群である。複数の使用痕が観察されるものもあり、磨石・凹石・敲石類として一括した。204 ~206、208~210は、所謂特殊磨石に類似する。

· 磨製石斧 (211·212)

2点出土した。ともに刃部を欠損する。

· 打製石斧 (214~219)

9点出土し、7点掲載した。

· 石鍬 (220~222)

7点出土し、3点掲載した。

・ 礫器 (223・224)

6点出土し、2点掲載した。扁平な自然礫の側縁部に強い加撃による刃部が作り出されているものである。

· 石皿・砥石・台石類 (225)

28点出土し、1点掲載した。破損品が多く種類(用途)が特定出来ないため、いずれかに属すると思われるものを一括した。

· 有孔石製品 (226~234)

11点出土し、9点掲載した。II H 8 a 区からの出土が多い。なお、図示していないが、232の端部には十字 状の刻みが認められ、同様の表現手法が観察される土器群との関連を考える上で、興味深い資料である。

・ 石棒・石剣・石刀類 (235~239)

18点出土し、5点掲載した。破損品が多いため、このいずれかに分類されると思われるものを一括した。 236・237は石剣であろう。

· 不定形石器(186~190、192~200)

645点出土し、14点を掲載した。スクレイパー各種、楔形石器、残核、および製品の破損片で分類が困難なものを一括した。

· 原石類(240)

141点出土し、1点のみ掲載した。明瞭な加工痕を認めることが出来ないものの、石器の素材用などとして、遺跡に持ち込まれた可能性のあるものを一括した。ただし、これらは特別集中して確認されたものではない。

(2) 土器·土製品(第59~94図、写真図版39~63)

縄文時代早・前期、後期、晩期の土器が出土している。主体は縄文時代後期末葉期から晩期初頭期である。

第1群土器

縄文時代早期末葉期から前期前葉期に位置付けられる土器群である。出土量は多くない。出土層はV層で、 胎土に繊維を含有する。器種は金て深鉢と思われる。

第川群土器

縄文時代後期の土器群である。

< Ⅱ群1類>

後期前棄期から中業期に属するものを一括した。本類土器はIIH8c区周辺の、層上~下位で主体的に出土したもので、前節のA区出土の土器群を中心とする。器種には深鉢、鉢、浅鉢、壺がある。本類土器は外傾する口縁部、多重沈線文、刺突の多用等に特徴を持つものが認められる。これらは、金子氏の新山権現社II群a類及びII群1類(金子:1993、1994)、鈴木氏の仮称萪内A式(鈴木:2001)などの一部に相当するものと思われる。これらの土器に対する両氏の見解は、かなりの程度において背反するもので、ここで委細を尽くして検討を加える余裕はない。後期前棄期から中棄期に属するものと記すに留める。

< Ⅱ群2類>

後期後葉期の土器群で、高柳(小林)氏編年縮付土器第Ⅰ・Ⅱ段階(高柳:1988a、b、1999)及び田柄 貝塚Ⅳ・Ⅴ群(手塚他 1986)に類似するものを一括した。Ⅱ H 8 c 、 9 c 区等のⅣ層上位から出土してい る。器種には深鉢、鉢、壺が確認された。

< Ⅱ群3類>

後期後葉期から末葉期の土器群で、高柳氏編年縮付土器第Ⅲ・Ⅳ段階(高柳:1988 a 、 b 1999)及び田柄 貝塚Ⅵ・Ⅵ (手塚他:1986) に類似するものを一括した。Ⅳ層上位の出土で、Ⅱ H 8 a 区に多い。器種には 深鉢、鉢が確認された。

第川群土器

縄文時代晩期の土器群である。

<Ⅲ群1類>

<Ⅲ群2類>

晩期初頭期の大洞B2式に類似するものを一括した。□層及び、層上位の出土で、ⅡH0a、ⅡH8a、 ⅢH9b、ⅢG9i区等で確認されている。器種には深鉢、鉢、壷がある。

<Ⅲ群3類>

晩期中業期の大洞C2式に類似するものである。637の童が該当する。ⅢG8j区の、層上位から出土した。 <Ⅲ群4類>

 た。調査区東側の旧河道付近の未完掘区に、該期の文化層が存在する可能性も残される。

第Ⅳ群土器

縄文時代後期ないし晩期の土器群で、今回上記の分類にスムーズに対応できなかったものを一括した。このうち、その所属時期が推定されるものを、次のように類別した。

< IV群1類>…後期前半期に位置付けられる可能性のあるもの。

< IV群2類>…後期後葉期から末葉期に位置付けられる可能性のあるもの。

< Ⅳ群3類>…後期末葉期から晩期初頭期に位置付けられる可能性のあるもの。

<Ⅳ群4類>…晩期初頭期から前葉期に位置付けられる可能性のあるもの。

< IV群 5 類>…晩期後半期に位置付けられる可能性のあるもの。

土製品には、土偶、土製円盤、耳飾、腕輪形土製品? スタンプ形土製品、装飾品、ミニチュア土器がある。 ・土偶 (786~788、790)

包含層から3点、19SK8から1点出土している。作りはいずれも中実である。787と788は同一個体で、 IIH0b区で別々に出土している。文様及び形態の特徴から、縄文時代後期最終末期から晩期初頭期の所産 と思われる。786、790は後期後棄期から晩期初頭期のものであろうか。

· 土製円盤 (791~795)

5点出土している。いずれも土器片の周囲を打ち欠いている。縄文時代後期後葉期から晩期前半期のもの と思われる。

·耳飾 (796、798~802)

6 点確認された。臼形及び環状形(金子:1993)のものがある。文様から、800は縄文時代晩期初頭期、801は晩期後葉期から末葉期のものと考えられる。また、800には赤色顔料の付着が認められる。

· 腕輪形土製品(804)

804は腕輪形土製品に分類したが、別種の可能性も否定できない。

・スタンプ形土製品 (797)

1点出土した。赤色顔料が付着している。

・装飾品(803)

803が該当する。相応しい呼称を探し得なかったので装飾品として報告した。赤色顔料の付着が認められる。

・ミニチュア土器 (806~820)

15点掲載した。このうち、811、814、817~820等は、ミニチュア土器として報告することは不適当かもしれない。なお、812、817、818は文様から、縄文時代晩期初頭期とみて差し支えないものと思われる。

(吉川)

3 土師器 <1001~1096> (第95図~103図、写真図版64~69)

9~10世紀代に属すると思われる土師器は、主に旧河道と後世に破壊された竪穴住居の一部からある程度まとまって出土した。具体的には、前者では12世紀の整地層や十和田 a 降下火山灰を挟んでその上層および下層から、後者では残存する貯蔵穴やカマドの周辺である。土師器は96点掲載したが、この他に不掲載分がおよそ65kgほどある。本遺跡から出土した土師器の器種は坏・翌・鉢などで、翌にはロクロが使用されたものとされないものがある。

実測図において、例えば1012・1013など断面が網かけされているものがあるが、これは胎土等から判断して須恵器の出来損ないと思われる土器で、還元不足を示したものである。これらを土師器として扱うか須恵器で扱うかは迷うところではあるが、ここで取り上げることとした。また、坏の内面が黒色処理されたものについてはドットのスクリーントーンを入れているが、それがドットでなく薄いものは、当初の黒色処理が再被熱により失われたことを示す。

坏には概ね次の三種が認められる。いずれも成形にはロクロが使用されている。

①酸化炎焼成で、内面がヘラミガキ調整後に黒色処理され、外面底部および体部下端に再調整が施される もの。

(1010・1011・1015・1027・1035・1042・1050・1066・1075・1076・1077・1080・1083・1091・1092など)

②酸化炎焼成で、内面は①と同様ながら外面に再調整の痕跡が認められないもの。

(1001 · 1006 · 1009 · 1016 · 1029 · 1036 · 1046 · 1061 · 1089など)

(3)須恵器を目指したが(還元炎焼成)、結果として還元不足となった酸化炎焼成のもの。

(1012 · 1013 · 1019 · 1035 · 1042 · 1043 · 1064 · 1066 · 1075~1080 · 1091 · 1093 · 1096など)

この他に、②に高台が付くもの(1040・1041・1054など)や、内外面がヘラミガキ黒色処理されるもの(1028・1074など)などがある。また、墨書土器は4点(1051・1053・1064・1096)出土しているが、このうち「忠」と読むことができるものは、1064・1096の2点である。他の2点は欠損部が多く判説できない。

翌・鉢類では、既述のようにロクロ成形と非ロクロ成形のものがある。いずれも酸化炎焼成で、それぞれ 器面調整からいくつかの種類に分けられるが、主に次の四種が挙げられる。

①非ロクロ成形で、口縁部はヨコナデ調整、体部外面の調整がヘラケズリ、内面はヘラナデが主体のもの。 (1020・1021・1032・1038・1082・1087)

②非ロクロ成形で、①の体部内面がハケメ調整主体のもの。

 $(1002 \cdot 1023 \cdot 1024 \sim 1026 \cdot 1033 \cdot 1034 \cdot 1039 \cdot 1057 \cdot 1072 \cdot 1086 \cdot 1088 \cdot 1095)$

③ロクロ成形で、内外面ともロクロ調整のみ観察されるもの。

 $(1031 \cdot 1049 \cdot 1055 \cdot 1062 \cdot 1067)$

④ロクロ成形で、内面がヘラミガキ後に黒色処理されているもの (鉢としている一群)。

 $(1069 \cdot 1073 \cdot 1084 \cdot 1085)$

この他には、ロクロ成形後、体部外面にヘラケズリ調整が認められるもの(1068)や、須恵器になり得なかった環元不足と判断されるもの(1068・1082)も出土している。

4 須恵器 <1101~1170> (第104~111図、写真図版69~74)

今回出土した土師器とほぼ時期を同じとする(9~10世紀代)須恵器は、旧河道部を中心として溝や竪穴住居の周辺から出土した。坏は4点(1113・1114・1153・1165)出土したのみで、ほとんどが壷・大翌類の破片である。70点掲載したが、この他に不掲載分のものが16.5kgほどある。これには、タタキメを有するいわゆる生焼けの翌の破片も含んでいる。なお、翌類で内面に当て具痕が見られないものについては、その拓本は掲載していない。器種ごとに若干記述する。

坏では、1153は底部を欠くが、器高が計測できる唯一の個体である。1165は底部にヘラによる再調整が明瞭である。並は、長頸並(1142・1147・1150・1168)、広口並(1160・1162 ?)などの器種が見られる。塑は、多くが外面に平行するタタキメを有する。内面の当て具痕も同心円状のものは少ない。1144・1145・

1148などは壷に近い器形で、体部中央から下端部にかけてヘラケズリ調整が施されている。

掲載した70点のうち、旧河道部に堆積した十和田 a 降下火山灰層より下から出土したものは1119と1141である。前者は口縁部にかすかな器面調整痕を残し、最大径を体部のほぼ中央に有している。肩部が張らない、いわゆるなで肩の器形である。

5 かわらけ〈2001~2534〉(第112~143図、写真図版75~103)

かわらけは、手づくねかわらけとロクロかわらけが出土した。これらの中には、前者に内折れかわらけと 手あぶり形のかわらけ、後者に柱状高台かわらけを含んでいる。時期は12世紀後半のものがほとんどで、それ以前の土師器の可能性があるもの(2152)は1点のみである。それ以後13~14世紀のかわらけについては 判断出来なかった。図示したかわらけは534点で、うち手づくねかわらけは436点(内折れかわらけ13点、手 あぶり形かわらけ1点含む)、ロクロかわらけ(柱状高台かわらけ8点含む)は98点である。報告書に掲載し なかった手づくねかわらけの総重量は352kg、ロクロかわらけは23kgで、報告書掲載分をあわせた出土かわら けの総重量は、400kgを優に超えるものと思われる。

かわらけの分類にあたっては、柳之御所跡における松本建速の編年(1994)に準拠した。その分類基準は、 以下に示したとおりである。

・手づくねかわらけ

C3類:二段なで技法、上段と下段のなで面がほぼ同じ幅で、口唇部断面形が丸いもの。

C.類:二段なで技法、上段を強くつまみ、上段は下段のなで面より幅が狭い。口唇部断面形が丸いもの。

C₅類:二段なで技法、口唇部が面取りされ、口唇部断面形が三角形のもの。

D₂類:一段なで技法、口縁部は直線的に立ち上がり、口軽部断面形が丸いもの。

D₃類:一段なで技法、口縁部は弱く内湾ぎみで、口唇部断面形が丸いもの。

D₄類:一段なで技法、口唇部が面取りされ、口唇部断面形が三角形のもの。

・ロクロかわらけ

<Rd (大川)·rd (小川)·Rb (碗形)>

RdO型・RbO型:口縁部が底部から丸く立ち上がるもの。

Rdl型:口縁部が底部からほぼ真っ直ぐに立ち上がるもの。

Rd2型:口縁部が内湾し、均等の割合で口縁部・底部が二分されるもの。

R d 00類: R d 0型で明確な段を持つなで痕がなく、表面が滑らかなもの。

R d01類: R d 0型で明確な段を持つなで痕がなく、表面に粗い調整痕が付くもの。

R d 02類: R d 0 型で段が2 段あるもの。

Rd10類:Rd1型で明確な段を持つなで痕がなく、表面が滑らかなもの。

R d 12類: R d 1 型で段が 2 段あるもの。

R d22類: R d 2型で口縁部に上半1段、下段1段、計2段のなで痕があるもの。

R d23類: R d 2型で口縁部に上半1段、下段2段、計3段のなで痕があるもの。

R b 01類:R b 0型で明確な段を持つなで痕がなく、表面に粗い調整痕が付くもの。

この基準により分類した結果は、「まとめ」に示すこととする。

6 国産陶器〈3001~3381〉(第144~186図、写真図版104~134)

国産陶器は、井戸・土坑・溝などの遺構や旧河道跡の12世紀遺物包含層(大別層 5 層)を主体として出土 した。総出土量は、当センター収納用中コンテナ(容量28%)で 7 箱、総重量はおよそ80kgである。種類に は、猿投産・渥美産・常滑産・須恵器系・水沼産・瓷器系陶器があり、

大半は渥美・常滑産で占められる。渥美産と常滑産の出土重量における割合はほぼ1:2 (21kg:45kg) で、それ以外の出土重量はいずれも数kg程度である。接合作業の結果、実測可能な程度まで復原された個体は、全体で60個体あまりである。これらについては実則図を作成し掲載したが、その他の接合しなかったものは 拓本を採った。その中には、同一個体の破片も多く含まれていると思われるが、観察表にはそれについては 触れていない。以下に、上に示した順に記述する。

(1) 猿投産陶器 (3001~3013)

猿投産陶器は13点図示したが、他に不掲載のものが10点ほどある。器種は壷・甕類で、いずれも12世紀後半ごろの製作と思われる。3004・3007は短い口縁端部が直立気味に立ち上がるもので、短頚強とした。3011は底部内面から体部にかけてヘラ状工具による掻きあげ痕が明瞭に残り、外面の体部下端には水平方向にヘラケズリが見られる。3012・3013は外面に釉がかかっている。

(2) 渥美産陶器(3014~3115)

湿美産陶器は102点図示した。この他に不掲載としたものが15kgほどある。器種には山茶碗・皿・鉢(片口)・壷・甕があり、壷では刻画文・袈裟襷文が描かれる破片も見られる。時期は概ね12世紀後半と思われるが、3020の皿、3069の鉢、3076の片口鉢などは12世紀中葉に、3028の刻画文壷は12世紀第3四半期の年代が与えられる。復原された個体は多くないが、3051は暗緑色の釉がかかる壷で、肩部に耳が付くもの。3091は注ぎ口の両端に押さえつけた指頭の痕跡が残る片口鉢である。

(3) 常滑産陶器 (3116~3353)

常滑産の陶器は238点掲載した。不掲載遺物の総重量は37kgで、収納用コンテナ(容量28%) 3 箱分ほどになる。時期は、ほぼ12世紀の年代が与えられる常滑編年2型式・3型式、およびそのいずれかに属するもののほか、7型式と18世紀代のものある。器種は選・壷・鉢(片口)で、壷には三筋壷(3352など)や耳の付く三筋壷(3346)、仏器と思われる長頚壷(3335)、頚部に突帯の付くもの(3128・3162)などがありバリエーションに富む。選で特徴のあるものとしては、横耳の付くもの(3338a)がある。3338bはその底部であるが接合しなかった。また、選で最大のものは3337で、器高は約70cm、肩部付近にある最大径は73cmを計る。接合した破片の総数は130片あまりで、主に旧河道跡と井戸内から出土したものが接合した。鉢では、高台のつくりや形状に微妙な違いが見られる。また、擂り鉢としての使用による内面の摩耗が観察される個体3264・3265など)もある。

なお、3334~3353の20点については、復原された大型の個体として、本項の図版では最後にまとめて掲載した。これらは筆者の不手際により、平泉町教育委員会八重樫氏の鑑定外となってしまったものであるが、編年上は、常滑2型式あるいは3型式に相当する一群と思われる。

(4) 須恵器系陶器 (3354~3366)

13点掲載したが、この他に数片不掲載のものがある。器種には、甕類・鉢(片口)があり、3355・3362・3363~3365などの甕の破片には平行するタタキメが明瞭である。3356・3358~3361・3366は鉢で、3356・3359ほぼ復原された個体である。いずれの体部も内湾ぎみに立ち上がるが、3359のほうが日縁部付近の丸味が強

い。3356は注ぎ口を欠くが、片口が付くであろう。この2点のほか、3360・3361など底部が残るものにはいずれもロクロ回転糸切り痕が観察される。

(5) 水沼産陶器・瓷器系陶器 (3367~3381)

水沼産陶器は12世紀中頃から、在地産瓷器系陶器は13世紀後半~14世紀前半ごろの時期が推測される。前者は15点、後者は3点掲載した。器種は、3380が鉢であるほかはすべて甕である。3367·3369~3373·3374·3377·3378は細かい方形からなる押印が見られ、同一個体の可能性が高い。3368がその底部、3375·3376がその口縁部となるかは不明であるが、砂粒を含む胎土はよく似ている。3379~3381は、具体的には宮城県北(伊豆沼周辺か)産と推定される。3379は外面にヘラ状工具の跡が残る。3381は内外面に平行する横方向のケズリが明瞭である。3380は片口か。

7 中国産陶器 <4001~4015>・朝鮮産陶器 <4016~4018> (第187・188、写真図版134・135)

中国産陶器は、12世紀後半の井戸(19SE3)、12世紀以降の游(19SD9)、旧河道内の12世紀遺物包含層などから、朝鮮産陶器は近世の井戸(19SE6)から出土した。前者の出土総重量は、2.4kgである。

4001~4015が中国産とされる陶器の壷・塑類である。同一個体と思われるものは、①4001、4006~4008、4012~4015、②4002・4009、③4003・4004の3個体である。①の甕の特徴としては、肩部から内側に大きく内湾し無類であることが挙げられる。外面には暗緑色の釉が部分的にかかり、ひねりの入った耳が上部に付く。②は壷と思われるが、これにも耳が付きその上方には凸線が全周する。③も壷と思われる。4005の器表は褐色を呈するが、この色調は他には見られない。これらはいずれも12世紀代に属するものである。朝鮮産陶器は、4016~4018で壷類と思われる。4017には16世紀の年代が与えられる。

8 中国産磁器〈5001~5112〉(第189~196凶、写真図版136~139)

出土した中国産磁器には、背白磁碗(掲載点数:5点)・皿(7点)・小壺(1点)・水注(1点)、青磁碗(19点)・皿(3点)、白磁碗(39点)・皿(7点)・壺(30点)がある。ほとんどが12世紀代に属するものであるが、13世紀後半の青磁碗が2点、15世紀の青磁碗が1点出土している。出土した地点は旧河道内の12世紀遺物包含層(大別層5層)を主体とし、他に大別層1層~4層から出土したものもある。ここに掲載した中国産磁器は、総出土破片数(212点)のほぼ半数(112点)で、掲載しなかったものは、白磁四耳壺(5086)の接合しなかった同一個体の破片と図化に耐えなかった小破片である。

なお、16世紀~17世紀ごろの中国産磁器の染付皿(6017)が1点出土しているが、これは次の「中・近世 陶磁器」で扱うことにした。以下に、背白磁・脊磁・白磁の順に記述する。

5001~5014が背白磁で、いずれも12世紀後半の年代が与えられるものである。5001~5003は薄手のつくりの碗で、櫛描きの文様が施される。5004は明緑灰色を呈する碗である。5005は見込み釉の掻き取りがない。5006・5007は輪花皿で白堆線を有する。前者は12世紀の井戸(19SE3)から出土した。5008は内面に段を、5009は白堆線が付く。5013は菊花文が施される小童の蓋で、胎土は白色で緻密である。5014は水注の注ぎ口の破片である。

5015~5036は青磁で、産地は5015~5018が同安窯、5019~5036は龍泉窯である。同安窯青磁の4点は、外面に縦方向の横描き文様が明瞭である。5019は12世紀前半(1150~)龍泉窯青磁碗0類とされるもので、推定口径は16.0cmである。外面には深く幅の広い横描きがあり、内面の上位に片彫りの線が入る。5020~5022は太宰府編年皿 I 類、5023~5025は碗 I 類、5026~5027は碗 I 2 類に分類される。5028~5033は櫛状の施文

具による文様が施されるもので、碗 I 2 類あるいは 3 類に分類される。5028~5030の内面には片彫りの線がみられる。5034は13世紀後半の鎬連弁文の碗、5035も13世紀後半の碗である。5036は厚く釉がかかる15世紀の碗である。

5037~5112は白磁で、5037~5043(皿)・5044~5049(碗)には、12世紀前半の年代が与えられる。化粧土が施される個体が多く、玉緑口縁を有するものや底部破片では露胎のものが見られる。これらは、太宰府稲年Ⅱ類あるいはⅣ類、Ⅴ類に分類される。5050~5082はそれ以後の碗で、Ⅴ類・垭類、あるいはそれのいずれかに分類されるものである。口縁の端部が屈曲するものや内面に櫛描きが施される個体、底部では見込みの釉薬が掻き取られた個体や露胎のものなどがある。5083~5112は壷で、5083~5085はⅡ系に分類される。5084は四耳壷と思われる。5086~5112はⅢ系に分類される。5086は唯一復原された白磁四耳壷で、接合した破片は50点以上と思われる。器高25.0cm、口径10.5cm、底径7.0cmを計り、最大径は体部中央からわずかに上位にある。肩部はわずかに張らずに口縁部に至り、口縁端部はほぼ真下に屈曲している。この器形から、柳之御所遺跡出土の四耳壷よりもやや新しい時期の製作年代が考えられる。5087~5090は口縁端部の資料であるが、それぞれ特徴のある形状を呈している。5091・5096も耳を欠く四耳壷の肩部破片である。5090・5101には漆継ぎの跡が残っている。

9 中・近世陶磁器 〈6001~6085〉 (第197~208図)

中・近世に属する陶磁器は、主に井戸・溝・土坑といった遺構内、および基本層序第Ⅲ層や撹乱層から出土した。ここで掲載した85点の他に当該期に属するものが、収納用の中コンテナ(容量28㎏)で3箱ほど出土している。うち1箱は近・現代の擂り鉢片である。

年代は、16世紀前半・後半、16世紀~17世紀初頭、17世紀、18世紀、18世紀末~19世紀初頭、19世紀、20世紀前半である。製作地は、磁器では肥前産、瀬戸産、東北地方在地産などが、陶器では肥前産、瀬戸・美濃産、瀬戸産、大堀・相馬産などが挙げられる。器種は、磁器は碗・皿・香炉・火入れ・徳利、陶器では碗・皿・壺・鉢・塾・擂り鉢・火入れ・急須・汽車茶瓶などがある。

これら中・近世陶磁器の実測図版は、文様を省いた外形のみの実測図と実測図下にその遺物写真を付したものとした。それぞれ、文様などは写真で見てもらうスタイルであるが、引用しにくいものとなってしまった。通常の遺物図版は実測図下に観察表を入れているが、中・近世陶磁器については、P251・252に遺物観察表をまとめて掲載した。また、ここでは磁器→陶器の順に掲載したつもりであったが、陶器のほうに磁器が1点混じっている (6075)。先に述べた中国産の磁器皿は6017である。

観察表には「年代」が示してあるが、肥前系磁器については、大橋康二:考古学ライブラリー「肥前陶磁」の編年を参考にした。「備考」には、文様や高台、見込みの特徴、釉薬の状態などを記載しているので、参照していただきたい。

10 土製品〈7001~7078〉(第209~213図、写真図版140~142)

縄文時代に属する土製品以外のものについてここで記述する。平安時代前期の土製品(土鈴)と後期のもの(瓦)が主体である。

7001~7059は土錘である。遺構内(19P272)から出土したものは7001の1点のみで、他は12世紀の遺物包含層あるいは十和田 a 火山灰層下から出土したものである。形状から大きく二種に分けられるが、一つは縦に細長いタイプ(7001・7004など)、もう一つはずんぐりした幅の広いタイプ(7005・7006など)である。

この中間のもの(7012・7016など)もある。投網の錘とされているが、形状や重量からは用途に違いは見出せない。7060・7061はフイゴの羽口の欠損品で、推定される直径は8~9cm前後である。7062・7063は土鈴である。7062は十和田a火山灰層下から出土した完形品である。上部には5mm程度の細長い穿孔があり、袋状の空洞部分には土玉が入る。振るとかすかににぶい音を出す。7063は下部を欠くが土鈴とした。上部にある孔は貫通していない。7064は双耳坏の耳か?7065は手づくね土器と思われるもの。7066は不明の土製品、7067~7069は、出土した層位から古代のものと思われる円盤状のものである。用途は不明である。7070は何らかの容器に付く脚か?7071は円く穿孔された孔を有する。胎土は新しい感じがするが、種類はわからなかった。7072~7078は12世紀の平瓦である。主に12世紀の遺物包含層から出土している。7072~7707は布目が明瞭であるが、7078の内側はヘラによるケズリのような調整痕を有している。

11 石製品 (7101~7118) (第214~217図、写真図版143~145)

ここでは、縄文時代に属する石製品以外のものを一括して取り扱う。

7101~7107は砥石と思われる。7101は19SE3の埋土から出土した仕上げ砥石である。7102・7103・7105 は二面が使われる仕上げ砥石で、使用された面は滑らかに凹状になっている。7107は一面のみに使用痕が観察されるものである。7106を砥石としたが、道具ではない別の石製品の可能性がある。7108は7101と同様、19SE3から出土した滑石製石鍋の体部破片で、外面にはかすかな稜線が見られる。7109・7110は頁岩製の碁石と思われるもの。7111・7112は大別層5層から出土した焼成を受けている礫である。19SX5・6・7の一連の焼土に関係している可能性がある(実測図のスクリーントーンは焼け焦げた範囲を示す)。7113・7114も5層出土のもので、用途等は不明なものである。7115は凹面を有する台石かと思われるもので19SD6から出土した。7116・7117は近世民家の柱穴から出土した石臼である。礎盤として埋められたものである。7117は井戸(19SE6)に投げ込まれていた頁岩製の板碑である。種子が彫られるが上部が欠損している。刻まれた銘は第217図にあるとおりである。

12 金属製品〈7201~7258〉(第218~244図、写真図版146~149)

金属製品は、いわゆる鉄製品のほか、キセル2点と銭貨7点が出土した。これらは種類ごとに遺構内から 順に掲載している。

7201~7232は角釘とした鉄製品である。7201~7203で、7202と7203は12世紀後半の年代が与えられる井戸(19SD3)の埋土から出土している。12世紀の遺物包含層から出土したものも多い。長さも4cm前後から16cmのものまで様々である。7229~7232はあおり止めと思われるもので、何らかのものを固定するための金具であろう。7233はミシン針状の製品と考えた。あおり止めの可能性もある。7234~7236は鉄鏃で、いずれも形状が異なる。7236はいわゆる雁又鏃で先端部を欠く。7237は環状の鉄製品で種類・用途は不明である。7238は大振りな刀子である。7239~7245は種類・用途不明の製品である。7243は耳掻き状の形状である。7244は最先端部がフックのように曲がり、中央部が穿孔される。7245は全体が釣針状に屈曲している。7246・7247は近世の刀である。7246は19P1から出土したもので、先端と中子部を欠く。7247は最先端部を僅かに欠くだけで、切羽も付く。刀身の長さは21cmほどである。7248・7249は火打ち金具、7250・7251キセルの雁首である。7252~7258は銭貨で、7252が初鋳1086年の「元祐通寶」、7253が初鋳1017年の「天喜通寶」で、前者は12世紀の遺物包含層から出土している。これら以外は「寛永通寳」であるが、いずれも新寛永である。7254は11波の四文銭である。

13 木製品〈7301~7315〉(第225~227図、写真図版150)

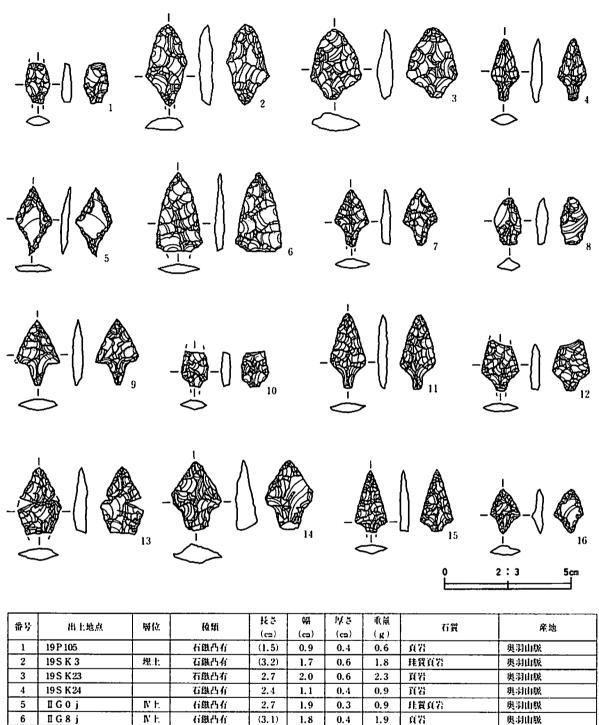
木製品は、主に井戸の埋土や旧河道大別層7層・9層から出土したほか、木柱列の杭がある。ここには掲載しなかったが、近世井戸19SE4から50本以上のちゅう木が出土している。これについては10本あまり樹種同定しているが、スギ、サワフタギ、アスナロなどの材の使用が確認されている。

7301・7302は漆塗りの椀である。7301は旧河道大別層 7 層から出土した古代に所属する椀である。7302は19 S E 2 の埋土中位から出土したもので、高台内に「叶」の文字が書かれている。他の出土遺物から、近・現代の遺物と思われる。7303~7305は曲物の一部で、いずれも十和田 a 火山灰層の下層(大別層 9 層)から出土した。層位からいずれも平安時代ごろの遺物と思われる。7303は底板の欠損品で、周囲は一段低く加工され、その部分と体部との留めにサクラの樹皮が使われている。7304は周囲の面取りが明瞭な底板の未製品?である。7305は木釘が残る桶底とその周りに付いていたタガである。夕ガは合わせ目を樹皮で接合している。7306・7307は19 S E 8 の埋土から出土した下駄台と差歯で、前者はケヤキ、後者はクリが用いられている。7308は鍬の基部である。大別層 9 層から出土しており、十和田 a 火山灰降下以前の農具である。本製品は一体の材から削り出しているが、加工が少なくてような角度をもつ材を選んでいるように思われる。先端部に鍬先が付いた痕跡は認められない。7309~7315は木柱列の杭である。7313以外は、いずれも先端部が加工されている。7313は木柱間にあった板状の材で、これを除く他の杭はすべて打ち込み杭である。使われる材は、クリやコナラ属が多い。

14 その他の遺物〈7401~7404〉(第228図)

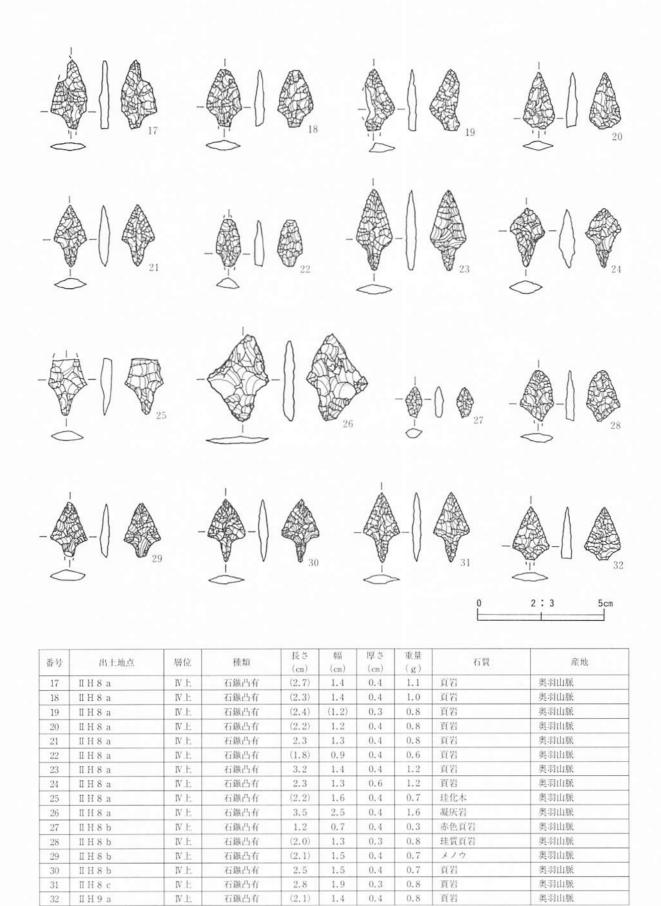
ここに掲載したものは、いずれも旧河道内の大別層 5 層(12世紀遺物包含層)から出土したものである。 7401は直径1.3cmを計るガラス玉である。色調は淡緑色で、中心からほぼ半分が欠損している。成分分析結果は第 4 節に掲載しているが、地下水との反応による風化物の付着のため淡い色調となったらしい。7402もガラス製品であるが、蓋と思われる破片である。推定される口径は4.2cmで、製品自体には色がつかず透明であるが、わずかに黄色味を帯びている。ガラス内には小さな気泡が観察され、器表にある縦長の小さな瘤は全周しているものと思われる。室内作業における不手際から、成分分析を行わないでしまった。7403は琥珀でこの 1 点のみ出土した。明瞭な加工痕は認められない。7404は坩堝と思われる口縁部付近の破片である。

この他に、旧河道内の12世紀遺物包含層を主体とする層および19 S D 12の埋土から、獣歯・獣骨等の動物 遺存体が出土した。第 4 節に鑑定結果の一覧を掲載したが、シカ・ウマのいずれかに同定されているものが 多い。同定不可能な小片もそのいずれかの可能性は高い。同定番号44・45・60は鹿角で、44には金属器による傷のような痕跡があるとの分析結果であった。60は十和田 a 火山灰が降下する以前に生存したシカの角である。12世紀の遺物包含層(大別層 5 層)や整地層(大別層 6 層)、道路側溝となる可能性がある溝の埋土に、動物遺存体が含まれていることは何を意味するのであろうか。さらに、この層においては植物遺体も多数出土した。ウメ・モモの種子などで、焼けて炭化しているものもある。吉凶を占う儀式に使われた証である可能性が指摘されたが、詳細は不明である。

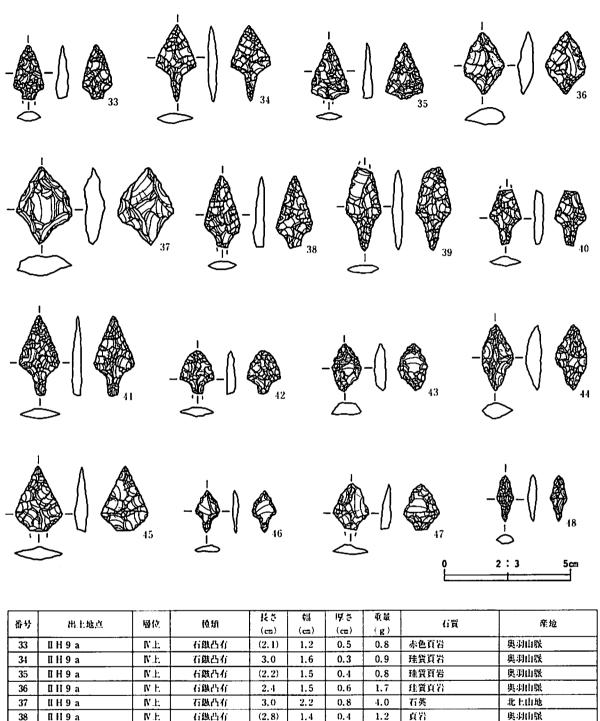


番号	出土地点	層位	极期	15.5	QH	以を	重量	石質	産地
		\perp		(c=)	(ca)	(ca)	(g)		
1	19 P 105		石鉄凸有	(1.5)	0.9	0.4	0.6	A(2)	奥羽山縣
2	19S K 3	埋土:	石鏃凸有	(3.2)	1.7	0.6	1.8	珪質質 符	奥羽山脈
3	19 S K 23		石鉄凸有	2.7	2.0	0.6	2.3	耳岩	奥羽山脈
4	19 S K 24		石纵凸有	2.4	1.1	0.4	0.9	I(2)	奥羽山脈
5	II G O j	N E	石鐵凸有	2.7	1.9	0.3	0.9	非質页 符	奥羽山縣
6	II G 8 j	N E	有鐵凸有	(3.1)	1.8	0.4	1.9	gra gra	奥羽山脈
7	II G 9 j	N.E.	石鉄凸有	(2.2)	1.3	0.3	0.8	##	奥羽山脈
8	ПС9 ј	NE	石鉄凸有	1.9	1.1	0,5	0.8	页岩	奥羽山脈
9	II G 9 j	N±	石级凸有	2.6	(1,7)	0.4	1.3	页岩	奥羽山脈
10	II G 9 j	N.E.	石鉄凸有	(1.4)	1.1	0.4	0.4	珪質真 岩	奥羽山縣
11	11 G 9 j	N.E	石级凸有	2.9	1.4	0.4	1.1	30%	奥羽山脈
12	II H 2 a	N±	石鉄凸有	(2.0)	1.5	0.3	0.9	яв	奥羽山縣
13	II H 8 a	NE	石鏃凸有	(2.6)	1.7	0.5	2.0	赤色真岩	奥羽山縣
14	ПН8а	NE	石鉄凸有	2.7	1.9	1.8	2.8	赤色頁岩	奥羽山脈
15	II H 8 a	NE	石鉄凸布	(2, 4)	1.3	0.3	0.7	I(B	北上山地
16	ПН8а	N.E.	石铁凸有	1.7	1.2	0.4	0.5	A H	奥羽山縣

第31図 縄文時代の石器①

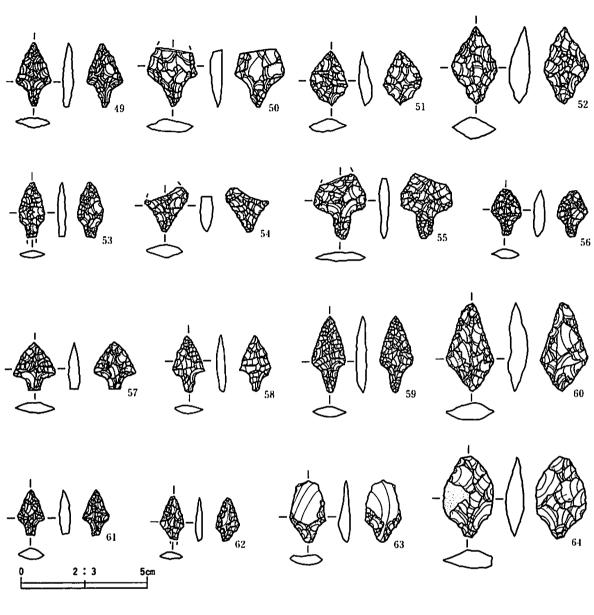


第32図 縄文時代の石器②



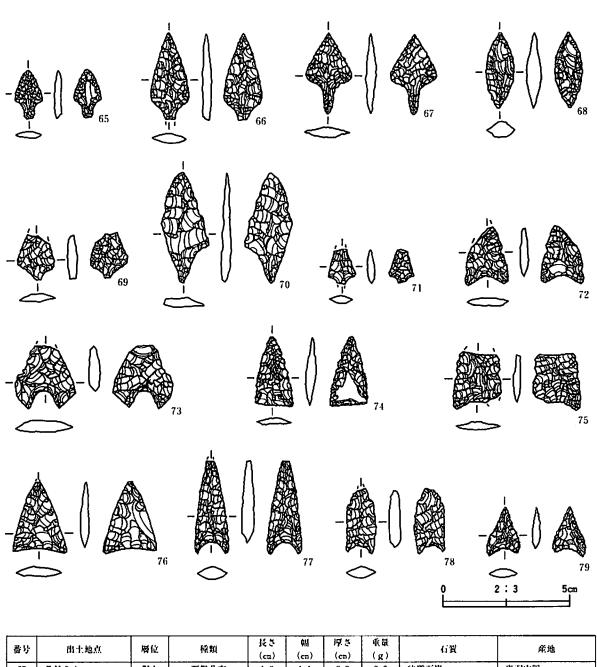
番号	出土地点	層位	ig tu	!そさ (cp)	¢# (cz)	呼き (cm)	乗量 (g)	信質	產地
33	II H 9 a	N.E.	石鉄凸有	(2.1)	1.2	0.5	0.8	赤色頁岩	奥羽山縣
34	ПН9а	N.E.	石鉄凸有	3.0	1.6	0.3	0.9	珪質質岩	奥羽山縣
35	II H 9 a	N.E	石鉄凸石	(2.2)	1.5	0.4	0.8	珪質頁岩	奥羽山縣
36	II II 9 a	N F.	石鎮凸石	2.4	1.5	0.6	1.7	珪質頁岩	奥羽山縣
37	II H 9 a	N.E.	石级凸石	3.0	2.2	0.8	4.0	石英	北上山地
38	II II 9 a	N.F.	石鐵凸有	(2.8)	1.4	0.4	1.2	\$(?)	奥羽山脈
39	ПН9а	IV E	石鉄凸石	(3.2)	1.4	0.4	1.4	頁岩	奥羽山脈
40	II H 9 a	N E	石鉄凸有	(2.1)	1.2	0.3	0.7	頁岩	奥羽山脈
41	II H 9 a	IV E	石鉄凸有	3.1	1.6	0.4	1.3	翼智	奥羽山脈
42	II II 9 a	IV I:	石鉄凸有	(1.7)	1.3	0.3	0.8	# (7)	奥羽山脈
43	II H 9 a	N.E.	石鉄凸有	1.4	1.2	0,5	1.0	g(?)	奥羽山脈
44	ПН9а	IV I:	石鉄凸有	2.6	1.2	0.6	1.4	頁岩	奥羽山脈
45	11 H 9 a	IV.E.	石紙凸有	(2.5)	1.8	0.5	1.5	页岩	奥羽山脈
46	II H 9 a	IV.I:	石鏃凸有	1.6	0.9	0.2	0.2	页岩	奥羽山脈
47	ПН9 а	IV.I:	有鉄凸有	(1.8)	1.4	0.3	0.8	頁岩	奥羽山縣
48	ПН9 а	IV.I:	石鉄凸有	1.8	0.7	0.4	0.3	真智	奥羽山脈

第33図 縄文時代の石器③



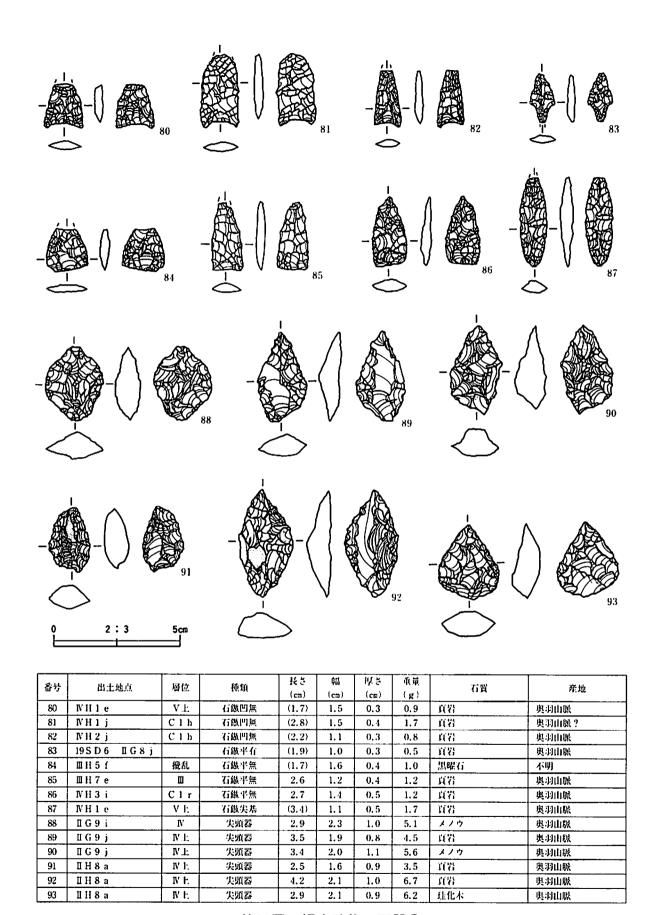
番号	出土地流	層位	MH	長さ (cm)	¢Ω (cm)	厚さ (cm)	重量	石質	產地
49	II H 9 a	N.Ł	石鏃凸有	3,0	1.4	0.4	1.0	页岩	奥羽山脈
50	II H 9 a	N.F.	石鏃凸有	(2,3)	2.0	0.5	1.8	頁岩	奥羽山脈
51	ПН9 b	N±	石鏃凸有	2.1	1.5	0.5	1.1	頁岩	奥羽山縣
52	II H 9 b	N.E.	石鏃凸有	3,0	1.8	0.8	3.1	建質質智	奥羽山脈
53	II H 9 b	N E	石級凸有	(2.2)	1.0	0.3	0.5	建質頁智	奥羽山脈
51	П Н 9 Ь	N.E.	石鏃凸有	(1.7)	1.7	0.5	0.8	貨幣	奥羽山脈
55	П Н 9 Ь	N F.	石鉄凸有	(2.5)	2.0	0.4	1.2	東沿	奥羽山脈
56	ПН9 b	N±	石级凸有	1.8	1.2	0.3	0.6	頁岩	奥羽山脈
57	ПН9 b	NE	石鏃凸有	1.8	1.7	0.5	0.9	珪化木	奥羽山脈
58	ПН9 b	N E	石戲凸在	2.2	1.3	0.3	0.5	ΩT	奥羽山縣
59	ПН9 с	N.E.	有數凸有	2.0	1.4	0.4	1.2)TE	奥羽山脈
60	ПН9 с	N.L	石鏃凸有	3.4	1.9	0.7	3.1	頁岩	奥羽山脈
61	ПН9 с	N±	石鏃凸有	1.8	1.1	0.4	0.6	頁岩	奥羽山縣
62	ПН9 с	攪乱	石鉄凸有	(1, 7)	0,9	0.3	0.3	頁岩	奥羽山縣
63	II H 9 d	IV F.	石鉄凸有	2.4	1.4	0.4	1.0	赤色真岩	奥羽山脈
64	II H 9 d	N.L.	石鉄凸布	3.1	2.0	0.7	3.9	建質買着	奥羽山脈

第34図 縄文時代の石器④

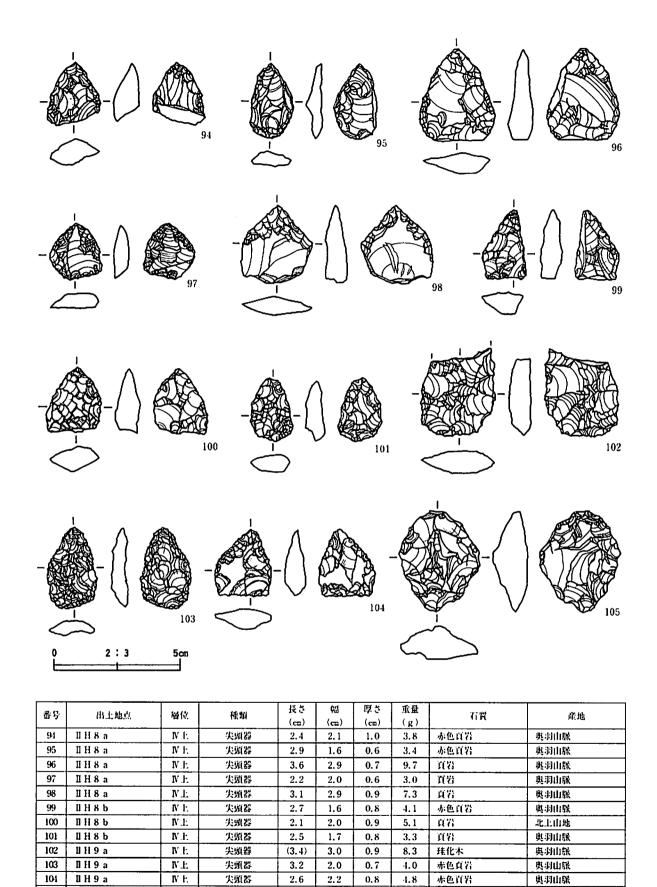


番号	出土地点	層位	極期	ほさ (cm)	¢li (cm)	17. Z (cn)	€ (g)	石質	産地
65	ПН9 і	N.E.	石鉄凸有	1.9	1.1	0.3	0.6	珪質質岩	奥羽山縣
66	ппнэј	IV E.	石鉄凸有	(3, 3)	1.5	0.3	1.8	頁岩	奥羽山脈
67	шG2 j	IV I:	石鉄凸有	3.1	1.7	0.4	1.4	頁岩	奥羽山脈
68	MHOd	N ?	石鉄凸在	2.9	1.5	0.6	1.4	再名	奥羽山脈
69	шніь	NJ:	石鉄凸在	(1.8)	1.5	0.4	0.8	开岩	奥羽山脈
70	ШНЗс	N.E.	石鏃凸有	4.3	1.9	0.3	2.3	異智	奥羽山脈
71	NH3 i	Cli	石鉄凸有	(1.3)	1.1	0.3	0.4	頁岩	奥羽山脈
72	19 P 353		石鐵凹無	(2.3)	1.7	0.3	1.1	KE EN	與羽山縣?
73	II H 9 a	N.L.	石級凹無	(2.4)	2.4	0.4	2.0	顶岩	奥羽山脈
74	III 11 0 d	NE	石鉄凹無	2.7	1.5	0.4	1.3	rra 30	奥羽山脈
75	шноі	Cld	石鐵凹無	(2.2)	1.9	0.3	1.1	黒曜石	不明
76	II H 4 d	NF	石鉄凹無	(2.8)	2.1	0.3	1.6	頁智	與羽山脈
77	шн5 ь	٧Ŧ	石鐵門無	(3.6)	1.4	0.5	1.9	ជឌ	奥羽山脈
78	III II 6 g	D)	石鐵凹無	(2.6)	1.2	0.4	1.2	ជឌ	典羽山脈
79	111 H 8 d	v	石猷四鳥	1.9	1.3	0.3	0.5	g7i	奥羽山脈

第35図 縄文時代の石器⑤



第36図 縄文時代の石器⑥



第37図 縄文時代の石器⑦

3.9

3.2

1.3

14.6

赤色頁岩

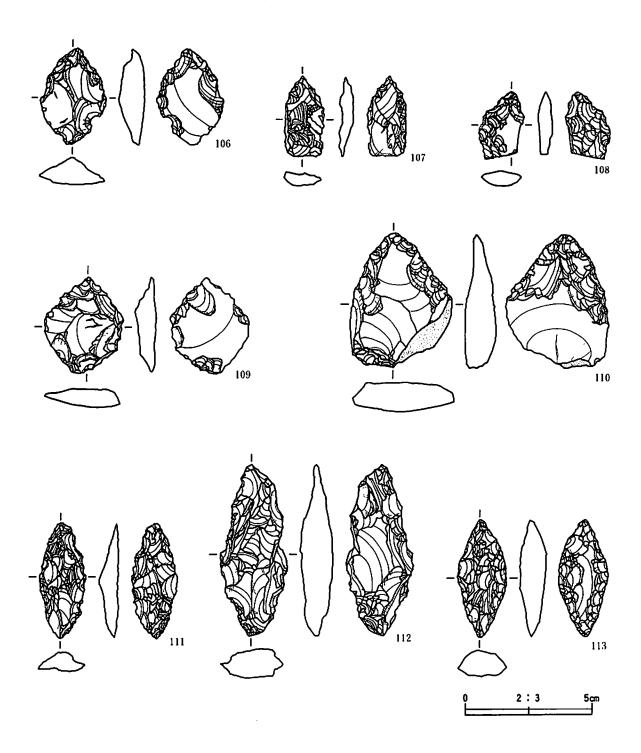
奥利山縣

105

II II 9 a

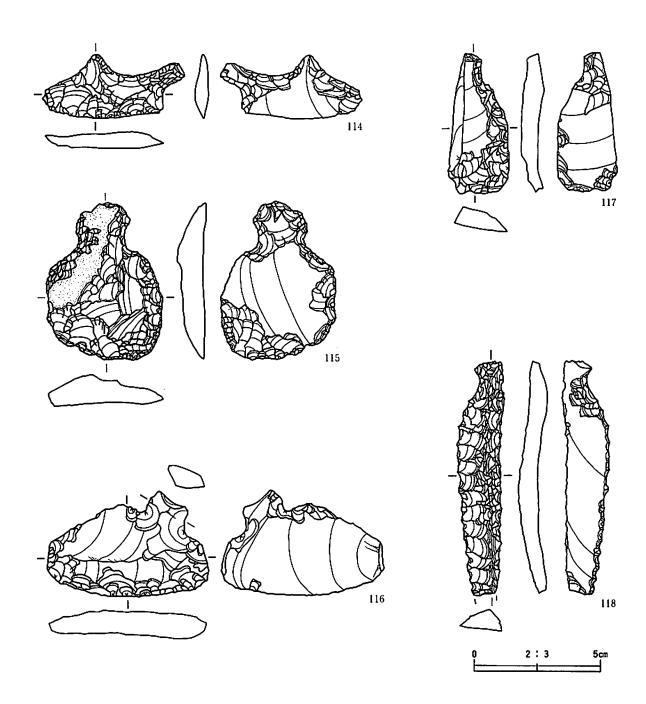
N E

尖頭器



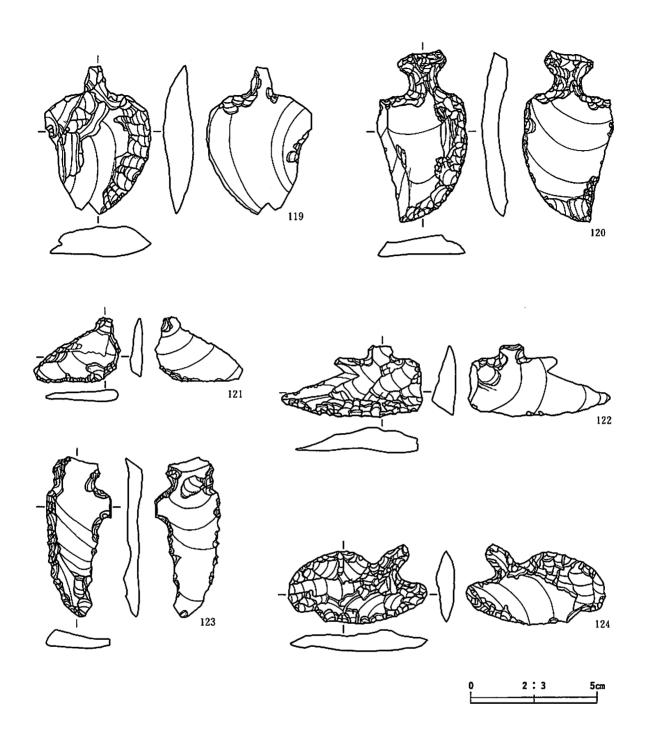
番号	出土地点	層位	極類	長さ (cm)	(ca)	厚さ (cm)	重 (g)	石質	蘇地
106	ПН9а	IV E	尖頭器	3.8	2.6	1.0	7.9	頁岩	奥羽山脈
107	пнэь	IV I:	失頭器	3.1	1.5	0,5	2.9	珪化木	奥羽山脈
108	ПН9Ь	IV.I:	失頭器	2.5	1.6	0.4	2.8	T(B)	奥羽山縣
109	ПН9 с	N.T.	失照器	3.7	3.1	0.8	9.0	兵 岩	奥羽山縣
110	ШН7е	NT	尖頭器	5.3	4.0	1.2	24.3	ជឌ	奥羽山脈
111	ШН7е	v	尖頭器	4.6	1.8	0.8	5.7	質智	奥羽山脈
112	MH7 f	٧٢	尖頭器	6.7	2.7	1.3	18.6	ホルンフェルス	北上山地
113	不明	VI ?	尖頭器	4.6	2.0	1.0	8.2	g(7)	奥羽山豚

第38図 縄文時代の石器⑧



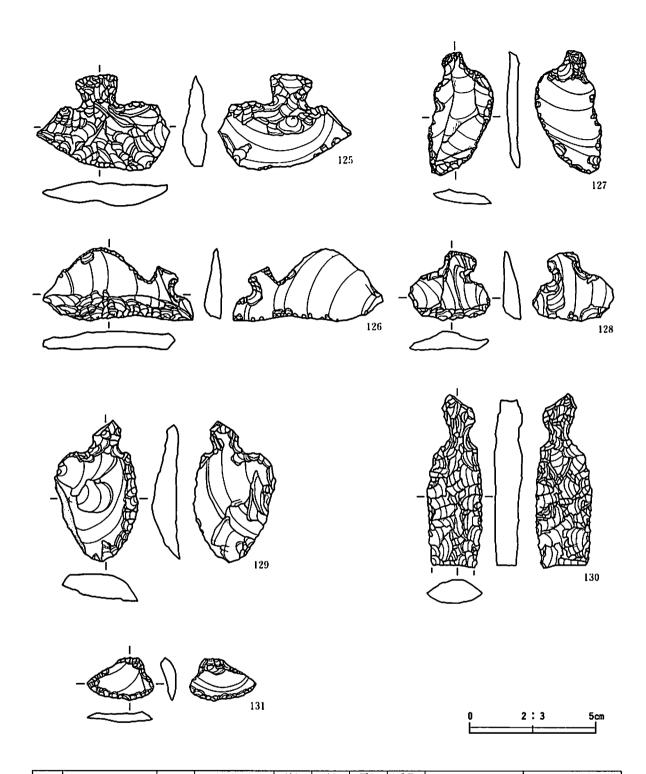
番号	出土地点	層位	植類	戻さ (cm)	(cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
114	II G O j	投乱	石匙(横)	2.5	5.6	0.6	6.6	建質頁岩	奥羽山縣
115	II H 8 b	NT	石匙 (縦)	6.2	4.6	1.2	30.8	赤色頁岩	奥羽山縣
116	19 S K 8	1	石匙(横)	4.1	6.5	1.1	27.6	頁岩	奥羽山縣
117	IIG9j	N.E.	石匙 (縦)	5.6	2.3	0.9	11.3	異智	奥羽山脈
118	II H O a	IV.E	石匙(縦)	(9.2)	1.9	0.8	12.3	度智	奥羽山縣

第39図 縄文時代の石器⑨



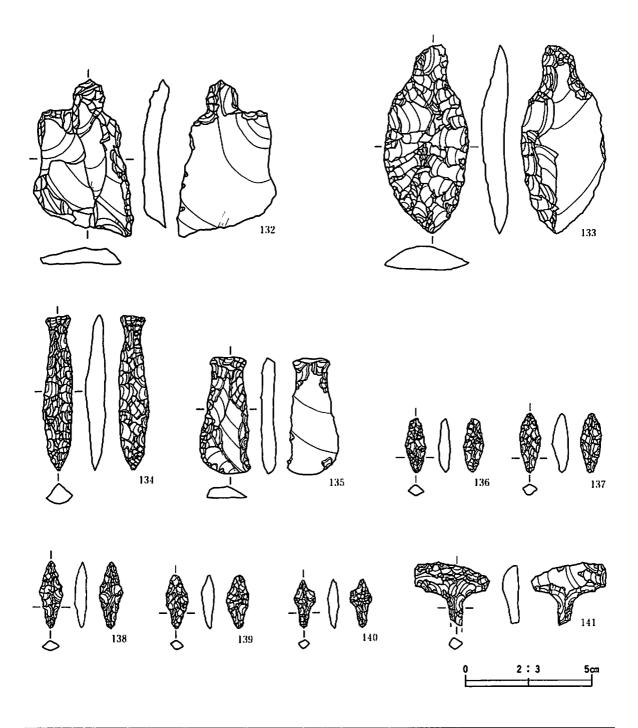
番号	出土地点	層位	植類	長さ (cm)	(cm)	(cm) (kg)	重量 (g)	石質	産地
119	пноь	IV.E.	石匙(縦)	5.8	4.2	1.2	24.8	質智	奥羽山脈
120	ПН8а	NE	石匙 (縦)	6.7	3.5	1.0	19.4	頁岩	奥羽山脈
121	II H 8 b	NŁ	石匙(横)	3.0	3.5	0.5	3.0	頁岩	奥羽山脈
122	II H 8 b	NE	石匙(横)	2.8	5.6	0.8	10.6	頁岩	奥羽山脈
123	11 Н 8 с	IV上.	石匙(縦)	6.3	2.5	0.6	9.7	異智	奥羽山脈
124	II H 9 a	NT	石匙(横)	3.2	5.5	0.8	12.8	赤色頁岩	奥羽由脈

第40図 縄文時代の石器⑩



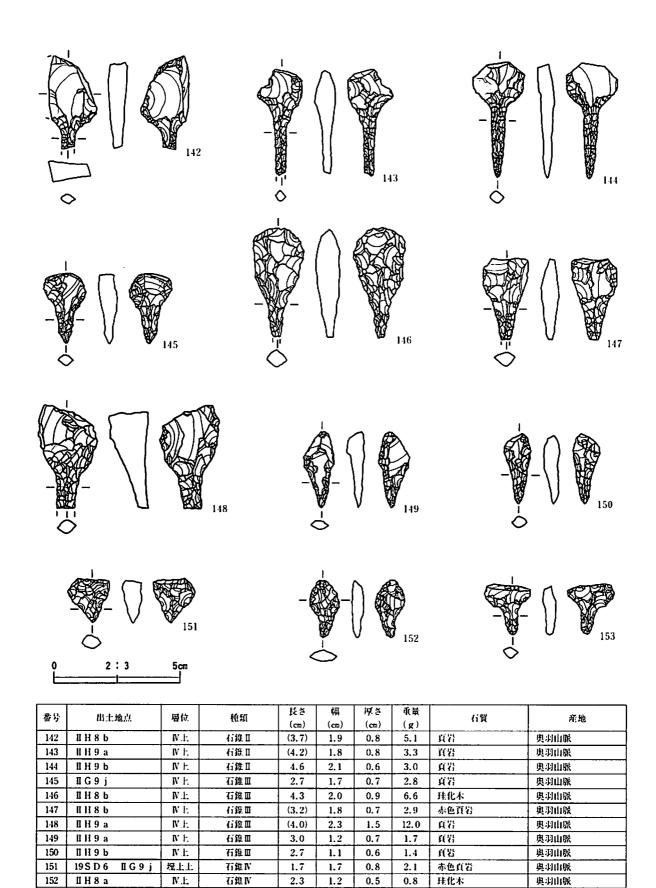
番号	出土地点	層位	MM	長さ (cn)	韓国 (cm)	(cm)	重量 (g)	石質	産地
125	ПН9а	N.E.	石匙(桷)	3.6	4.9	0.7	14.7	r(7)	奥羽由脈
126	DH9a	N.I.	石匙(槓)	2.9	5, 2	0.6	9.3	页岩	奥羽山脈
127	II H 9 a	NT	石匙(椒)	4.8	2.6	0.5	5.2	g(7)	奥羽山脈
128	ПН9Ь	N.E.	石匙(横)	2.7	3.1	0.7	4.8	珪質页岩	奥羽山脈
129	ПН9ь	N.E	石匙(縦)	5.5	3.3	1.0	15.3	頁岩	奥羽山脈
130	ПН9 с	N.E.	石匙(椒)	(6.8)	2.2	1.1	16.7	顶岩	奥羽山脈
131	II H 9 d	N.E.	石匙(横)	1.7	2.6	0.6	1.9	TCB BY	奥羽山脈

第41図 縄文時代の石器①



番号	出土地点	婚位	fil ti	長さ (cm)	朝 (ca)	伊さ (cn)	- 承量 (g)	有質	産地
132	II H 9 d	N E.	石匙 (稅)	6.1	4.0	0.7	17.1	頁岩	奥羽山脈
133	шн6е	v	石匙 (稅)	7.4	3.4	1.0	20.6	メノウ	奥羽山脈
134	шн7е	V	石匙(梃)	6.0	1.1	0.8	4.4	頁岩	奥羽山脈?
135	MH7f	0	石也(級)	4.6	1.9	0.6	5.4	яä	奥羽山縣
136	II G 8 a	N.E.	संबंध ।	2.1	0.8	0.4	0.7	ICB	奥羽山脈
137	II H 8 a	NE	石维I	2.3	0.8	0.6	1.0	яä	奥羽山脈
138	II H 8 a	NE	石錐 I	2.6	0.9	0.4	0,9	頁岩	奥羽山縣
139	ПН9а	NE	石錐 I	2.1	0.9	0.5	0.7	頁智	奥羽山脈
140	N H 9 d	N h	tim 1	1.9	0.9	0.4	0.4	買岩	奥羽山脈
141	0 H 8 a	N.E.	TI SE II	(2.5)	3.0	0.6	3.3	яв	奥羽山縣

第42図 縄文時代の石器⑫



第43図 縄文時代の石器⑬

1.8

0.5

0.9

TCS

奥羽山縣

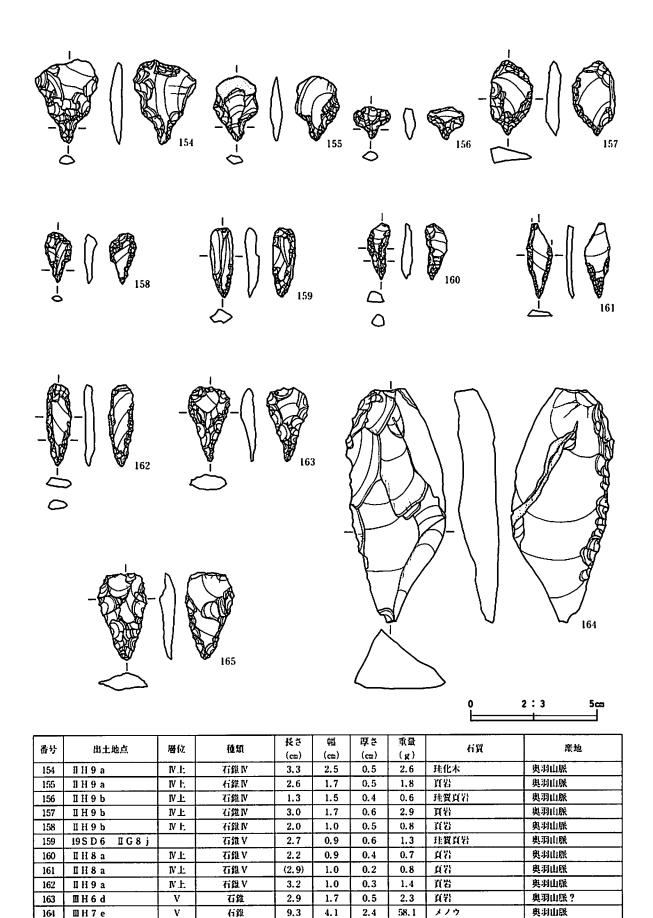
2.0

153

II II 8 b

N I:

tim n



第44図 縄文時代の石器⑭

1.9

0.6

3.4

v

石錐

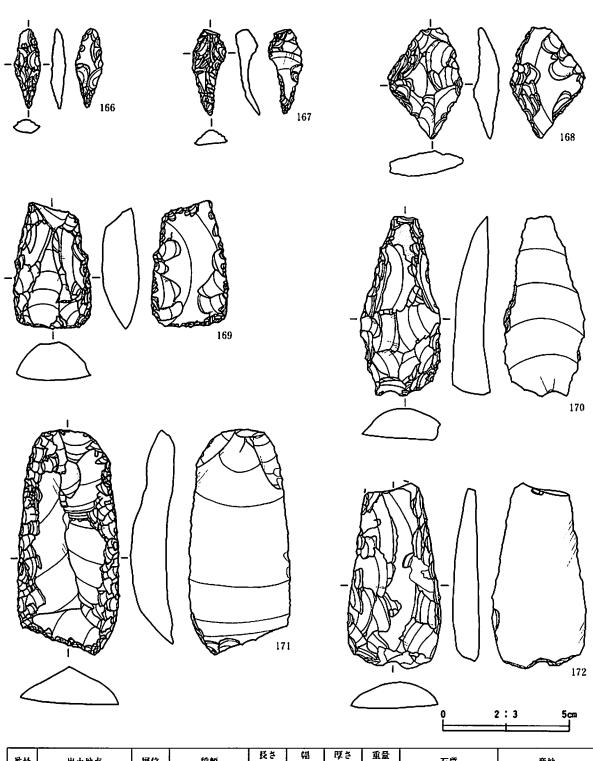
165

0117 f

K(V)

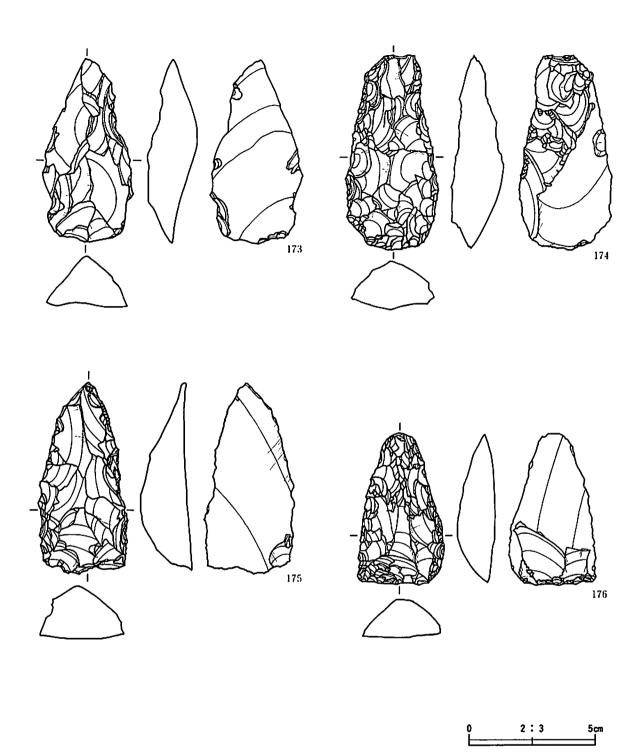
3.7

奥羽山縣?



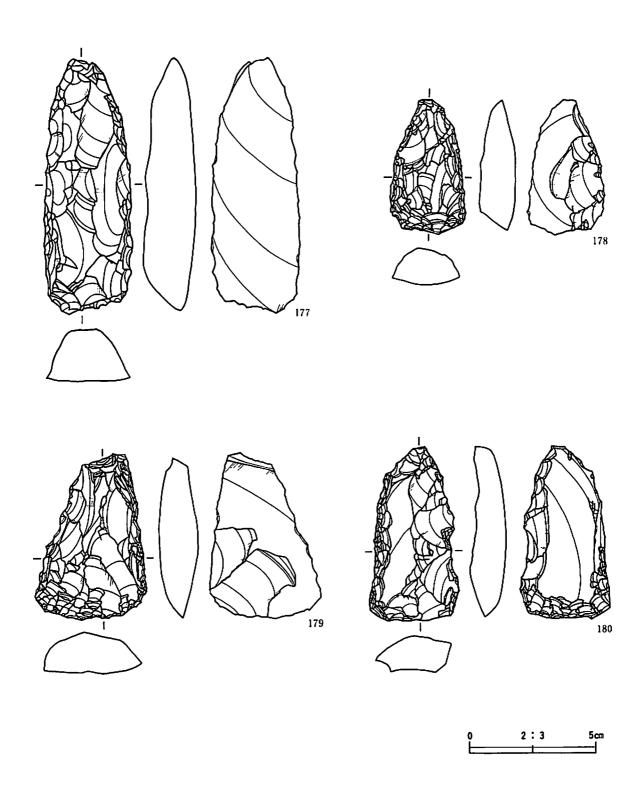
番号	出土地点	層位	極類	氏さ (ca)	(ca)	厚さ (ca)	重量 (g)	石質	産地
166	ШН8с	V	石錐	3.1	1.1	5. 1	1.1	页岩	奥羽山駅
167	ШН8е	NT	石雞	3.3	1.3	0.8	1.7	買置	奥- 山脈 ?
168	ШН8е	V	石錐	4.3	2.9	1.0	10.1	メノウ	規則山脈
169	19SD1 11H6d		石篦	5.0	3.0	1.5	24.8	頁岩	奥羽山脈
170	II G O j	N.E	石箆	7.0	3.2	1.5	31.9	頁岩	奥羽山脈
171	II G 8 j	NE	石箆	8.8	4.1	1.8	59.0	頁岩	奥利山脈
172	MHO d	表土.	石箆	(7.2)	3.7	1.0	35.3	ホルンフェルス	北上山地

第45図 縄文時代の石器⑮



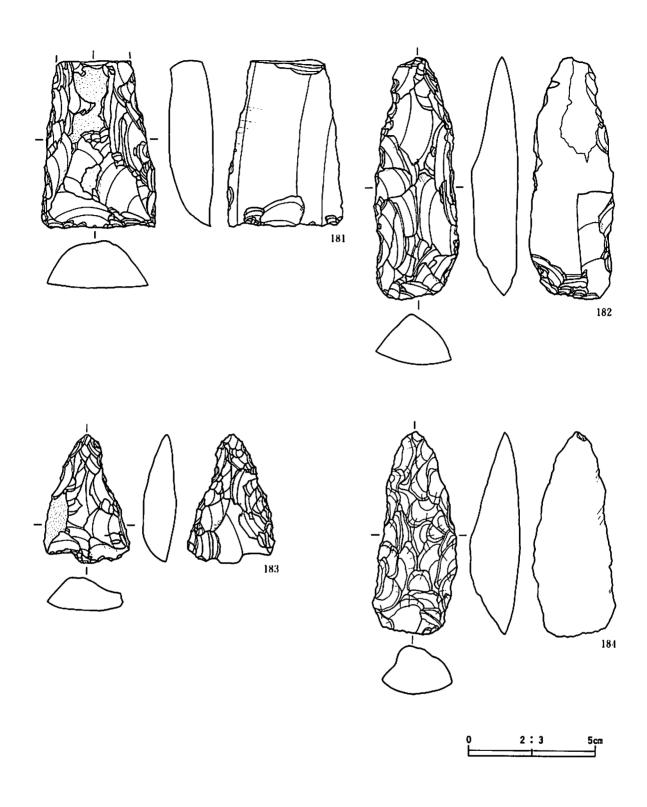
番号	出土地点	層位	in th	ださ (m)	(G)	以 (ca)	重 (g)	石質	產地
173	шн2 д	5	有篦	7.2	3.6	2.0	41.8	ホルンフェルス	奥羽山脈
174	D H 3 h	5	石 D	7.6	3.7	2.1	50.7	gra 3)k	奥羽山脈
175	□ H 5 g	NT	श्राप	7.5	3.6	2.1	47.4	# 8	奥羽山縣?
176	ШН6 g	10	荷篦	5.9	3,4	1.5	28.9	MA	奥羽山脈

第46図 縄文時代の石器⑯



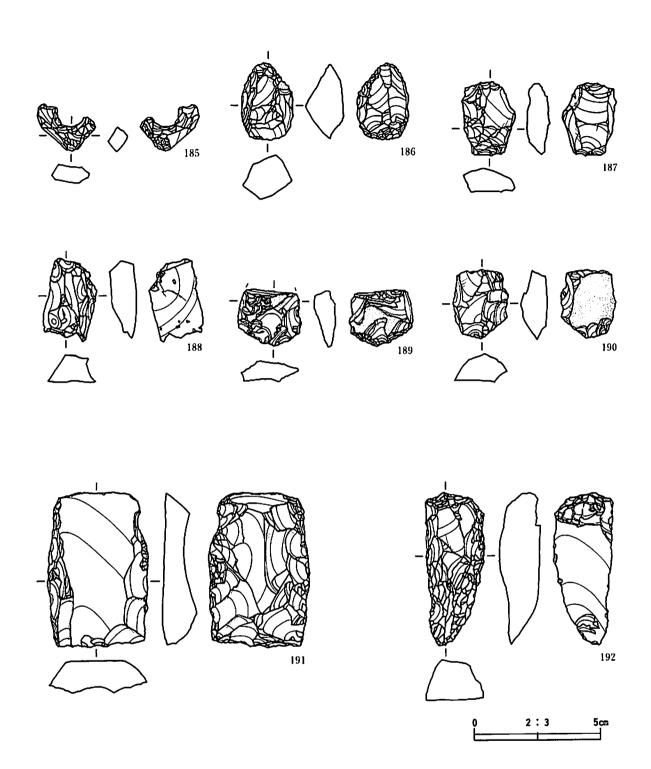
番号	出土地点	塔依	極期	提さ	ÇX	収さ	亚量	石質	産地
מיזון	11.128点	ו אם וע.	131.794	(cm)	(cm)	(cm)	(g)		
177	IIH7f	IV下	石炮	9.9	3.6	1.9	94.3	ホルンフェルス	北上山地
178	Ⅲ H 7 f	V	石館	5.2	3.0	1.4	20.3	rra err	奥羽山脉
179	ШН7 g	探乱	618	6.4	4.4	1.6	45.6	買習	奥羽山縣
180	MH7 i	С 5 в	石笼	6.7	3.6	1.4	37.2	ug.	奥羽山脈

第47図 縄文時代の石器①



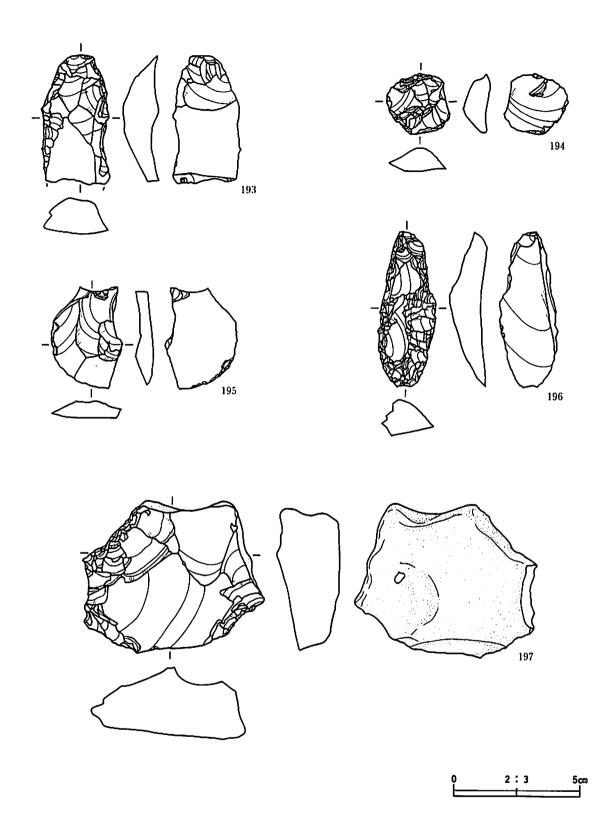
番号	出土地点	樹依	種類	長さ (cm)	(ca)	以 (ca)	重量 (g)	石質	產地
181	0 H 9 a	N.E.	石箆	(6.4)	4.5	1.8	66.3	頁岩	奥羽山縣
182	шн9 g	攪乱	石笕	9.3	3.4	1.9	60.5	ホルンフェルス	北上山地
183	NH4 i	Cli	石窟	4.9	3.4	1.3	19.6	页岩	北上山地
184	NH4 j	Clq	石篦	7.8	3.4	2.0	46.2	ホルンフェルス	北上山地

第48図 縄文時代の石器®



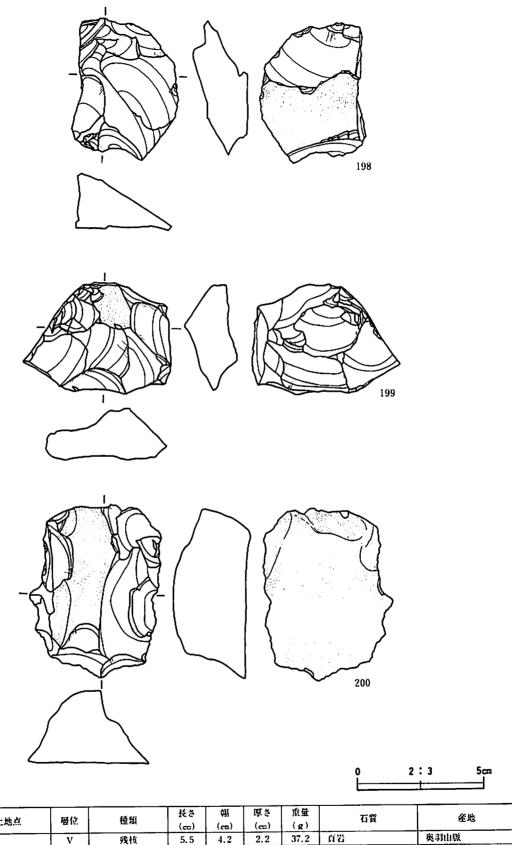
香砂	出土地点	層位		長さ	¢⊞	原さ	重量	石質	產地
ルプ	111,1,145,5%	79 IV.	13E#R	(ca)	(cn)	(cm)	(g)	13,0	
185	ПН9а	NJ:	異形石器	1.8	2.3	0.6	1.7		
186	II II 8 a	N.E.	楔形石器	3.0	2.0	1.5	9.1	珪化木	奥羽山脈
187	II II 8 a	N.E.	楔形石器	2.8	2.0	0.8	6.1	T(智	奥羽山脈
188	II H 7 e	v	楔形石器	3.2	2.1	1.1	6.8	頂岩	奥羽山縣?
189	шн8е	v	楔形石器	(2.2)	2.5	0.8	4.7	ជឌ	奥羽山脈
190	ШН9е	IV.E.	楔形石器	2.7	2.2	1.1	5.9	rcz cz	奥羽山縣?
191	MH8f	NF	不定形	5.9	3,95	1.4	37.5	頂智	奥羽山縣
192	III II 5 f	V	接器	5.9	2.3	1.5	23.7	r(%	奥羽山脈

第49図 縄文時代の石器⑩



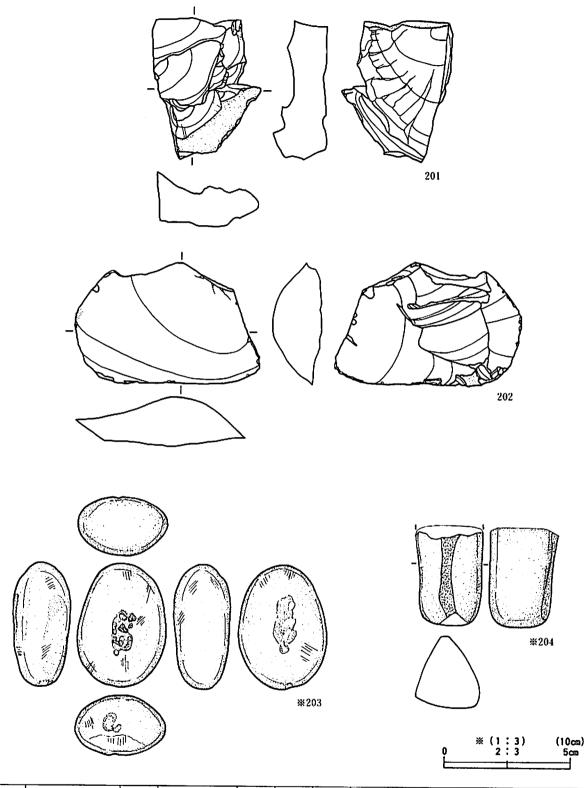
番号	出土地点	層位	MM	長さ (ca)	(ca)	(cn)	重 (g)	石質	產地
193	MH6d	V	掻器	(5.0)	2.7	1.3	18.3	頁岩	奥羽山脈
194	ШН6е	V	接器	2.4	2.5	0.9	4.8	頁岩	奥羽山脈
195	Ⅲ H 7 d	IV	掻器	3.9	2.9	0.7	8.0	页岩	奥羽山脈
196	Ⅲ H 7 f	v	接器	6.0	2.2	1.5	15.5	页岩	奥羽山脈
197	шн4 ь	v	残核	5.4	7.2	2.8	123.0	1075	奥羽山鼠

第50図 縄文時代の石器②



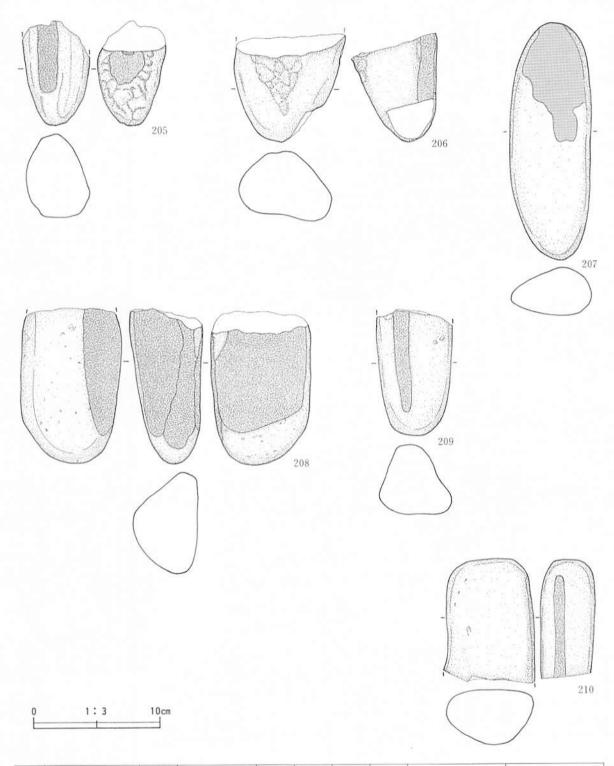
番号 出土地点 v 残核 5.5 4.2 ជដ ШН5с 198 奥羽山縣 **II** H 9 d v 残核 4.0 5, 5 1.9 34.8 買器 199 奥羽山縣 貨器 200 ШН9е NJ: 残核 6.3 4.8 2.8 76.0

第51図 縄文時代の石器②



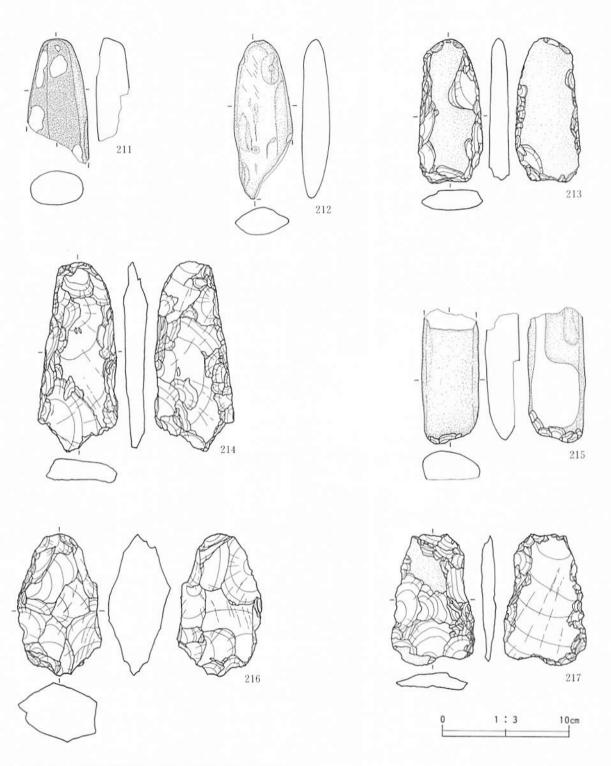
番号	出土地点	層位	例類	(ca)	幅 (ca)	児さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
201	ШН4а	NE	剥片	5.5	4.3	2.0	47.1	页岩	奥羽山縣?
202	ШН7е	v	刺片	4.7	7.3	1.9	61.0	メノウ	奥羽山脈
203	19 S K 24		婚石類	9.7	7.1	4.5	422.1	安山岩	奥羽山縣?
204	mG7j	V	特殊燈石	(7.7)	5.4	5.7	330.1	安山岩	奥羽山縣?

第52図 縄文時代の石器②



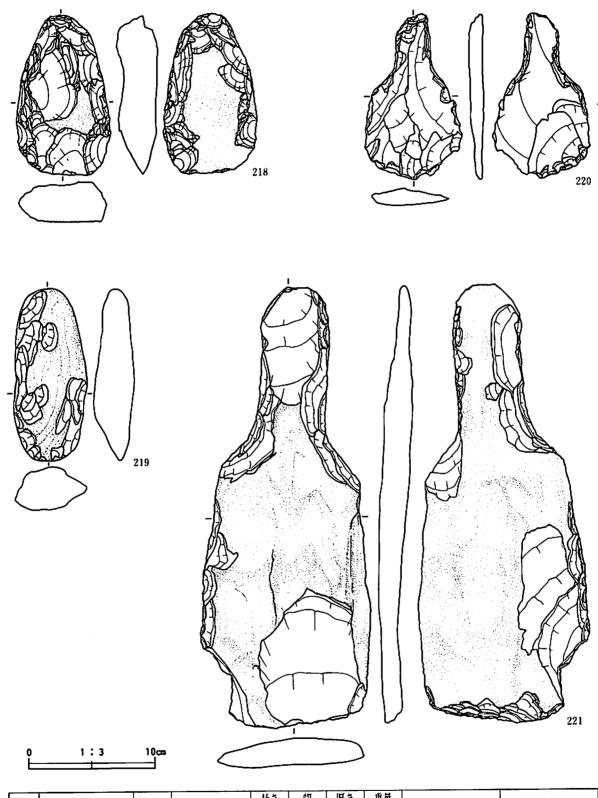
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	фШ (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
205	Ⅲ H 3 b	VF	特殊磨石	(8.1)	4.8	6.5	312.8	安山岩	奥羽山脈
206	ШНЗ с	V	特殊磨石	(8.5)	8.9	5.5	473.0	安山岩	奥羽山脈
207	Ⅲ H 5 f	VF	特殊磨石	18.5	6.4	3.7	678.1	安山岩	奥羽山脈
208	Ⅲ H 5 g	VF	特殊磨石	(12.0)	7.8	5.8	768.1	安山岩	奥羽山脈
209	ШН8 с	VF	特殊磨石	(9.8)	6.0	5.5	418.6	安山岩	奥羽山脈
210	ШН9 е	II	特殊磨石	(9.5)	6.9	4.2	514.1	安山岩	奥羽山脈

第53図 縄文時代の石器②



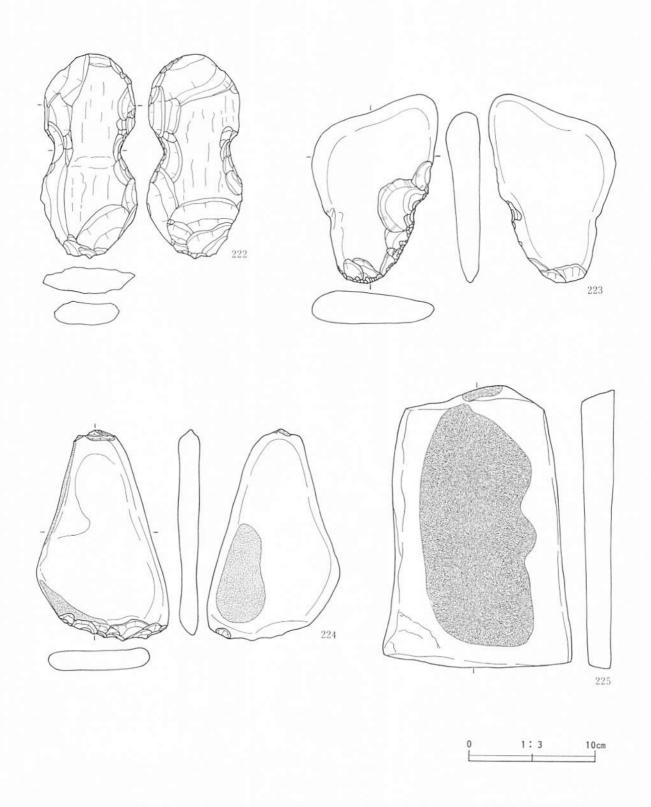
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	朝 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
211	ШН0 с	IV.E	磨製石斧	(9,7)	4.9	2.6	143.8	网級岩	北上山地
212	ШН7е	IV F	磨製石斧	(12.3)	4.6	2.0	121.8	ホルンフェルス	北上山地
213	19 S E 6 南半		打製石斧	11.3	5.2	1.6	127.5	页岩	北上山地
214	II G 9 j	N.E.	打製石斧	14.8	6.3	1.9	203.1	页岩	北上山地
215	Ⅱ H 4 i	C 5 b	打製石斧	(10.5)	4.5	2.7	184.1	ホルンフェルス	北上山地
216	II H 9 a	NE	打製石斧	11.1	6.8	4.9	349.3	ホルンフェルス	北上山地
217	II H 9 a	N.E.	打製石斧	10.2	6.6	1.2	95.8	ホルンフェルス	北上山地

第54図 縄文時代の石器24



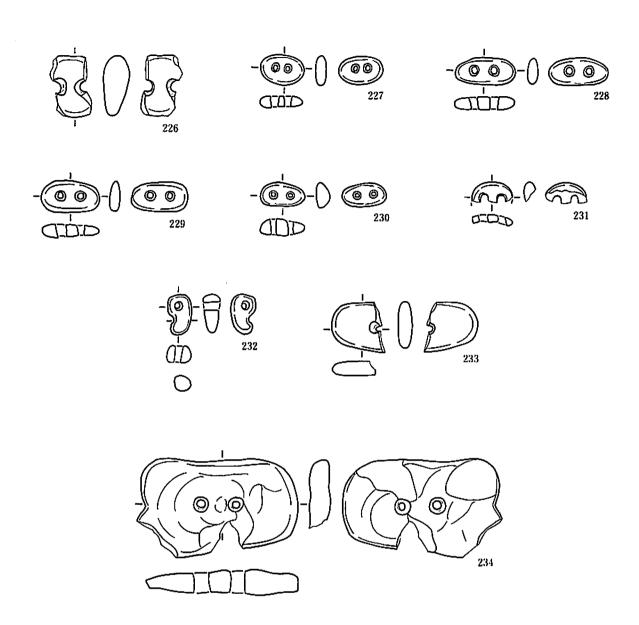
番号	出土地点	層位	MM	(ca)	(ca)	原さ (cm)	単最 (g)	石質	産地
218	ΠG1j	N.E	打製石斧	12.6	7.5	3.2	399.0	凝灰岩	奥羽山脉
219	ШНОd	NT	打製石斧	13.3	5.9	3.2	337.5	ホルンフェルス	北上山地
220	ПН9 с	N.E.	石鉄	12.9	7.8	1.1	169.0	粘板岩	北上山地
221	UH 2 d	W上	石鉄	34.5	13.6	2.3	1136.6	粘板岩	北上山地

第55図 縄文時代の石器②



番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	ф(i) (св)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	遊地
222	Ⅲ H 4 a	N.E.	石鍬	16.0	7.7	2.1	312.7	ホルンフェルス	北上山地
223	II H 8 b	IV	雅智	14.7	10.1	2.7	451.5	頁岩	北上山地
224	II H 8 b	IV	碟器	16.5	10.5	1.8	411.9	石英安山岩	奥羽山脈
225	Ⅲ G 3 i	IV ±	石皿	22.0	14.9	2.6	1544.0	安山岩	奥羽山脈

第56図 縄文時代の石器%

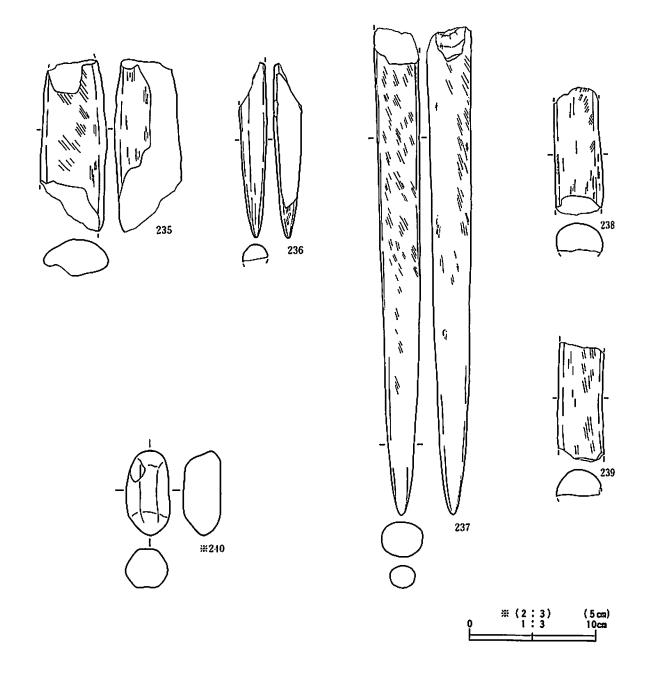


否分	出土地点	層位	極知	[본경 (ca)	(c=)	(c=) 直至	承量 (g)	行貨	承地
226	11 G 9 j	NE	有孔石製品	(3, 2)	(2.2)	1.4	8.6	石英安山岩	奥羽山脈
227	II H 8 a	N.E.	有孔石製品	1,6	2,3	0.5	2.6	石英安山岩	奥羽山脈
228	II H 8 a	N.E.	有孔石製品	1.4	3.1	0,6	3.6	石英安山岩	奥羽山脈
229	II II 8 a	NT	有孔石製品	1.6	3.1	0,5	3.9	石英安山岩	奥羽山脈
230	ПН8а	W.E.	有孔石製品	1,2	2.3	0.7	2.4	凝灰岩	奥羽山縣
231	пнва	N.E.	有孔石製品	(1.0)	2.1	0.5	1.1	凝灰岩	奥羽山脈
232	II H 9 a	W.E.	有孔石製品	2.0	1.3	0,9	3.1	緑色凝灰岩	奥羽山脈
233	ПН9 с	N.E.	有孔石製品	2.8	(2.6)	0.7	7,5	石英安山岩	奥羽山脈
234	пноь	N.E.	有孔石製品	5.2	8.5	1.1	43.8	凝灰岩	奥羽山縣

1:2

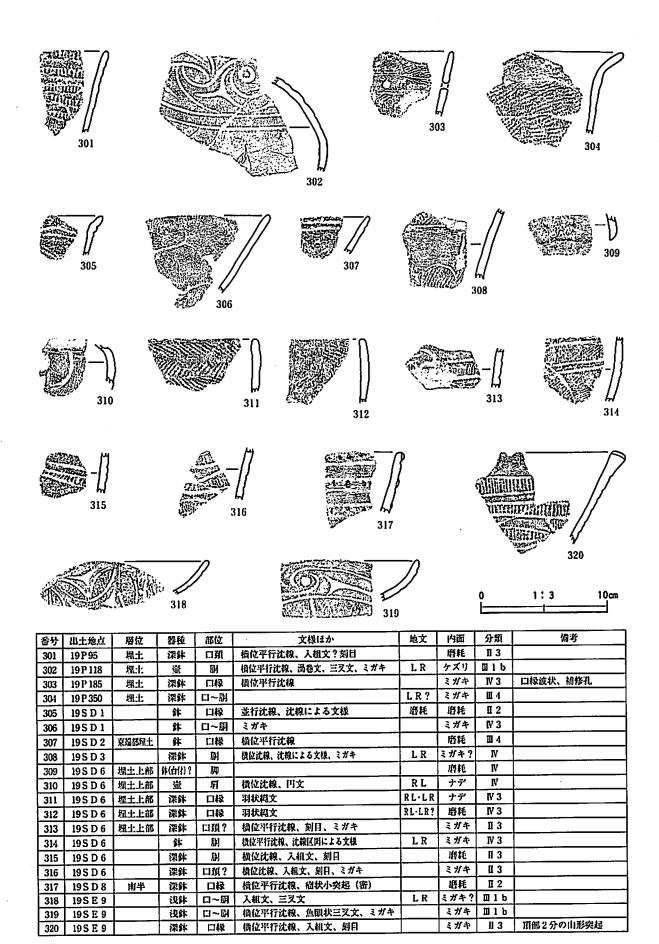
5ça

縄文時代の石製品① 第57図

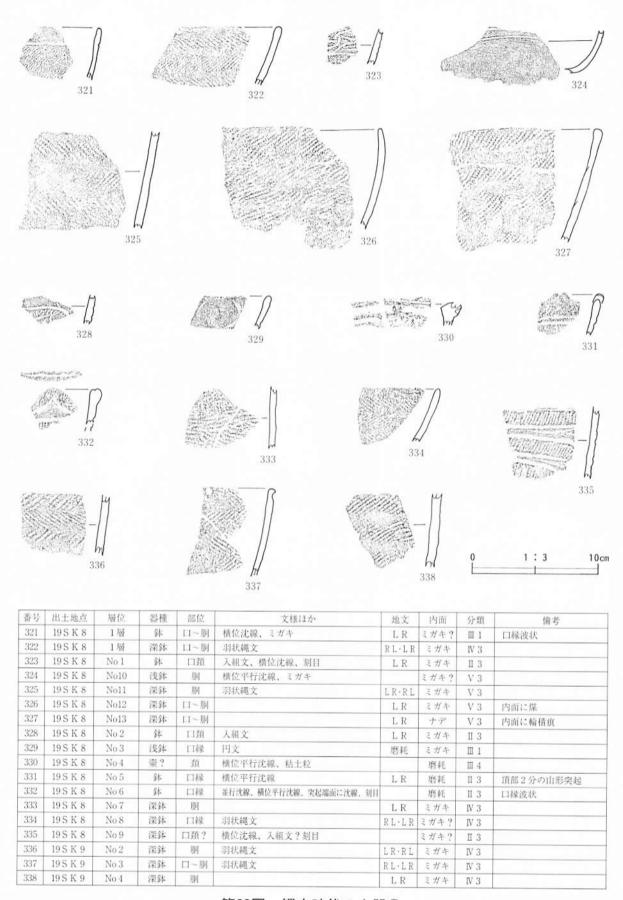


番号	出土地点	層位	技 期	(cn) 15 5	(Cn)	以さ (m)	重量 (g)	បដ្	森地
235	ПН8Ь	N.	ロカ	(13.5)	5.2	2.9	229.3	ホルンフェルス	北上山地
236	II G 9 j	W.E.	石剣	(13.8)	2.2	(1.2)	41.6	粘板岩	北上山地
237	IIG9 i	IV中	石剣	38.5	3.6	2.7	512.7	粘板岩	北上山地
238	II H 8 a	NE	石剣か石棒	(10.0)	3.8	(2.1)	89.9	X(V)	北上山地
239	ин 9 ь	NE	石剣か石棒	(9.1)	3.8	(2.1)	115.9	粘板岩	北上山地
240	шн9 (v	原石	3.3	1.7	1.5	12.0	紫水品	奥羽山縣?

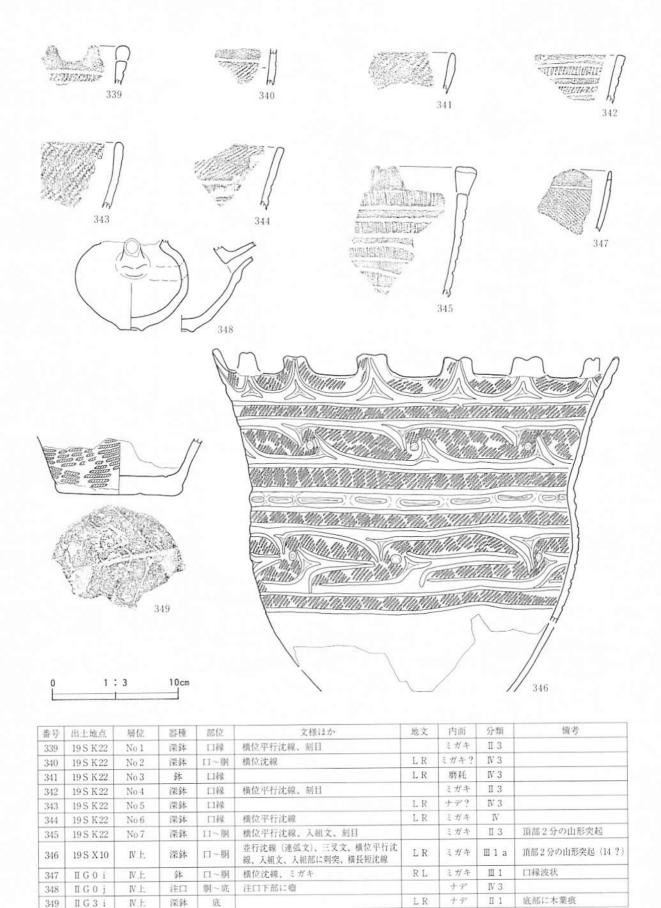
第58図 縄文時代の石製品②



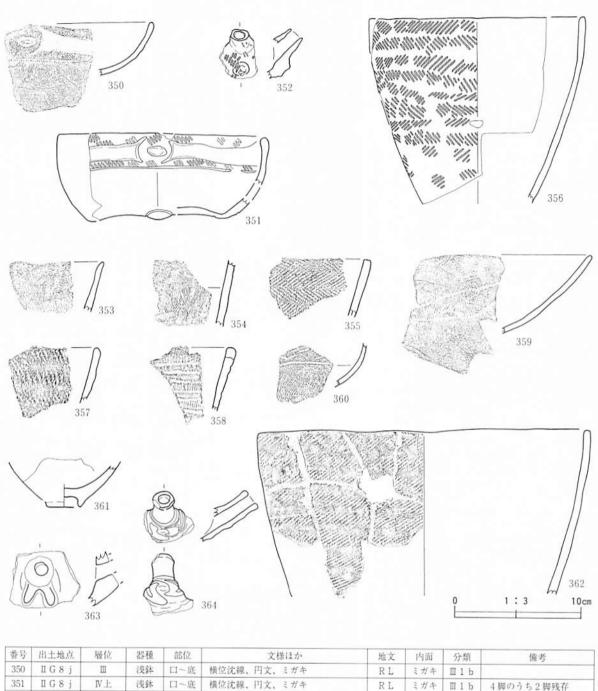
第59図 縄文時代の土器①



第60図 縄文時代の土器②

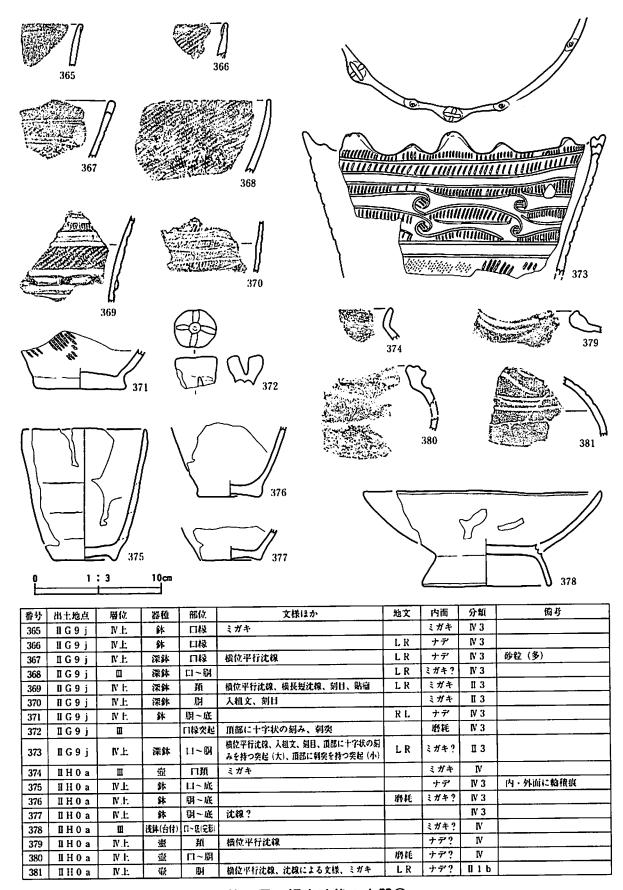


第61図 縄文時代の土器③

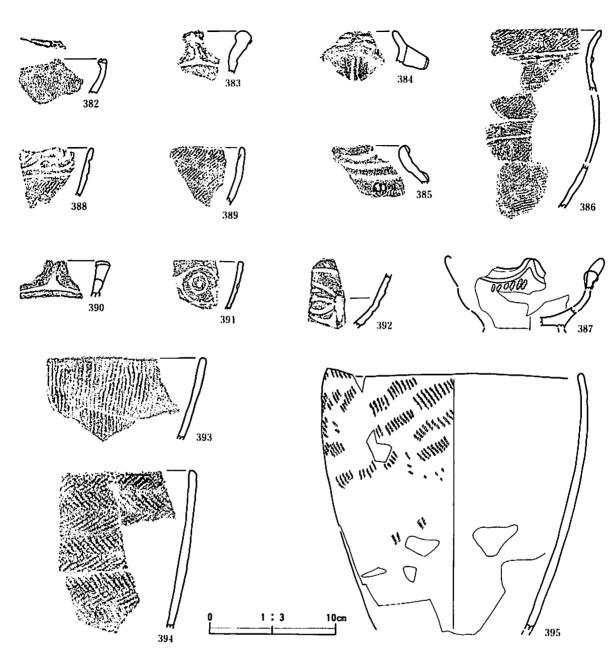


番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
350	II G 8 j	Ш	浅鉢	口~底	横位沈線、円文、ミガキ	RL	ミガキ	Ⅲ 1 b	
351	IIG8j	N±.	浅鉢	口~底	横位沈線、円文、ミガキ	RL	ミガキ	Ш1 b	4脚のうち2脚残存
352	IIG8j	III	注口	注口	注口下部に十字状の刻みを持つ瘤	LR	ナデ	IV 3	
353	IIG8j	N.L	壺?	口綠	ミガキ		ナデ	IV 3	
354	IIG8j	IV.E.	深鉢	胴	櫛歯状沈線文 (流水形)		ナデ	IV 2	砂粒(多)
355	IIG8j	Ш	深鉢	口線	羽状縄文	RL·LR	ミガキ	IV 3	
356	IIG8i	Ш	深鉢	口~胴	羽状縄文	LR·RL	ミガキ	IV 3	
357	IIG9i	IV	深鉢	口禄		L (無節)	磨耗	IV 3	外面に煤
358	II G 9 j	Ш	深鉢	口絲	横位平行沈線,入組文?刻目		ミガキ	П 3	低い角形の突起
359	II G 9 j	IV.±	浅鉢	口一胴	ミガキ		ミガキ	IV 3	
360	II G 9 j	Ш	鉢	朋问	横位沈線、菱形文	LR	ミガキ	III 2	
361	II G 9 j	NE	鉢(台付)	胴一底			ナデ	IV 1	
362	II G 9 j	IV.E	深鉢	口~胴		LR	ミガキ?	IV 3	
363	II G 9 j	IV_L	注口	胴	注口下部に2つの瘤		ナデ?	IV 3	
364	II G 9 j	Ш	注口	注口	横位沈線、注口下部に入組三叉文、ミガキ		ナデ	IV 4	

第62図 縄文時代の土器④

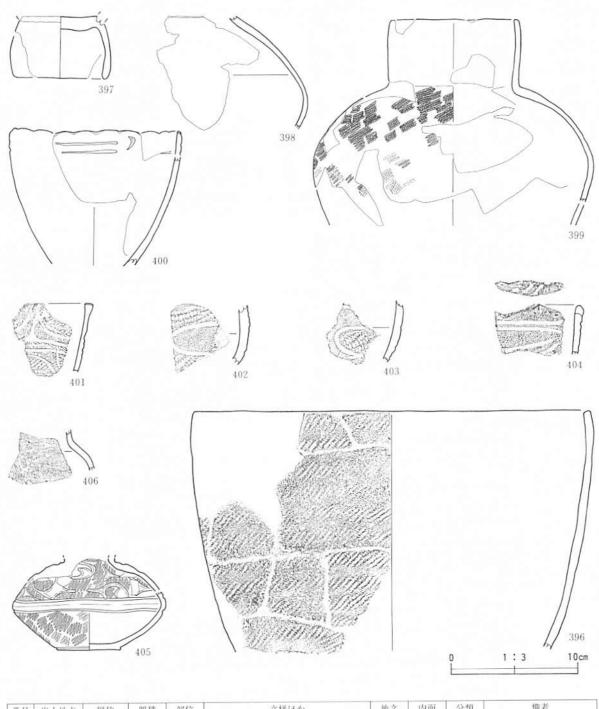


第63図 縄文時代の土器⑤



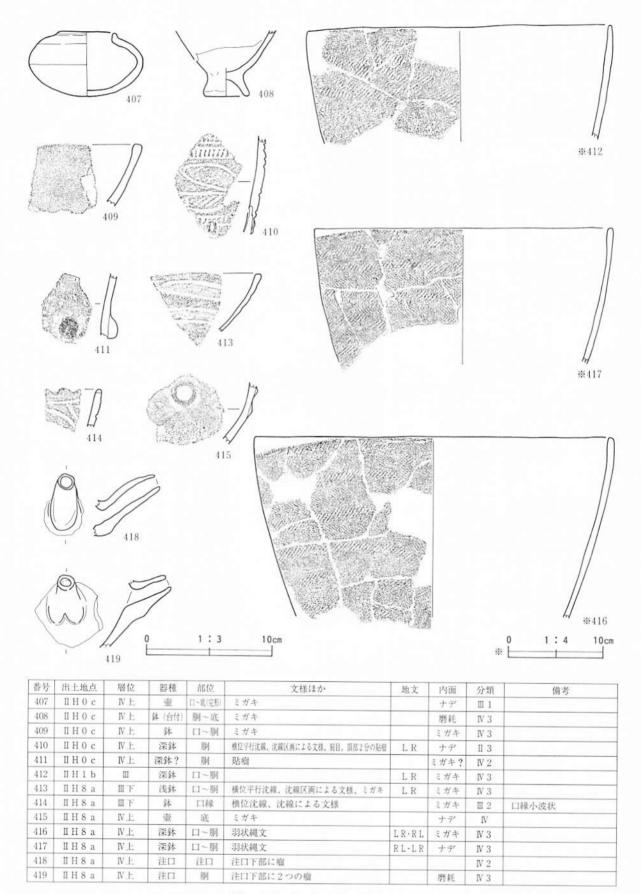
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	偏考
382	II II O a	N.E.	鉢	口~酮	口唇部に沈線、突起頂部に刺突		ナデ	Ш 4	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
383	II II O a	N.E.	#	口禄突起	横位沈線、三叉文、ミガキ	LR	ミガキ	Шla	頂部丸い山形突起
384	II H O a	N.E.	#?	日稼	頂部3分の縮		磨耗	II 2	
385	ПНОа	N.I:	₩?	山~加	並行沈線、模位平行沈線、頂部3分の貼着		磨耗	N	
386	II H O a	N.E.	鉢	口~腑	模位平行沈線、瘤状小突起	LR	ナデ	П 2	
387	ПНОа	W.E.	鉢	口~底	並行沈線	LR?	磨耗	III la	口禄波状
388	II H O a	N E	深鉢	口~胴	桢位沈線、入組三义文?	LR	ミガキ	Ш2	口縁波状
389	ПНОа	N.E	深鉢	山稼		LR	ナデ	IV 3	
390	ПНОа	N.E.	深鉢	口棘突起	极位沈稳、三叉状形去		ミガキ	🛮 la	頂部2分の山形突起
391	ПНОа	N.I:	深鉢	口核	模位沈線、円文、刺突	LR	ミガキ	штр	
392	пноа	N.i.	深鉢	口椒?	機位沈線、沈線による各種文様、ミガキ	LR	ナデ	шіь	
393	II H O a	N.F.	深鉢	口~腳		RL	ミガキ?	IV 1	
394	II II 0 a	IV.I:	深鉢	口~胴	羽状縄文	LR·RL	ミガキ	IV 3	内・外面に煤
395	II H O a	N.E.	深鉢	口~腳		R (無節)	ミガキ・ナデ	IV 3	

第64図 縄文時代の土器⑥

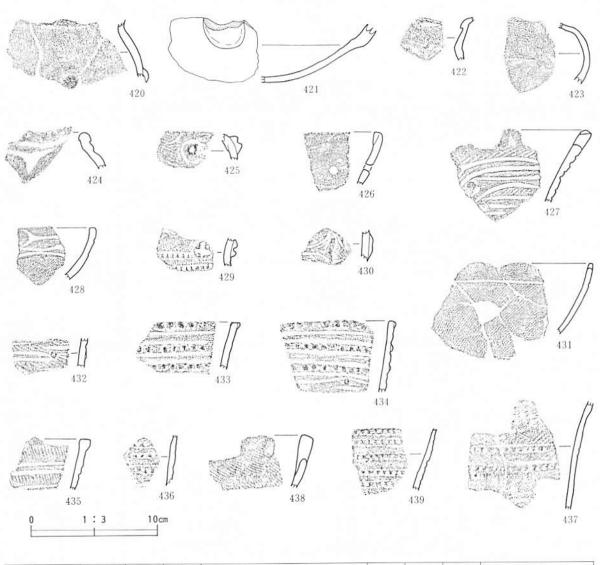


番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
396	ПНОЬ	NE	深鉢	口一脚		L R	ミガキ?	IV 3	
397	II H O b	NE	鉢(台付)?	脚			ミガキ?	IV 3	
398	ПНОЬ	N.L	壷	胴	横位沈線、ミガキ		ミガキ	III 1	
399	II H O b	NE	壷	口~胴	ミガキ	LR	ミガキ・ナデ	III 1	
400	II H O b	IV ±	鉢	口一底	横位平行沈線、入組三叉文?		ミガキ	Ⅲ 2	口縁波状
401	II H O b	IV.L.	鉢?	口禄	並行沈線、三叉文、横位沈線、入組文	L R	ミガキ	Ш 1 а	頂部2分の山形突起
402	II H O b	N.E.	深鉢	胴	沈線区画による曲線文様	LR	ミガキ	IV	
403	пноь	N.L	深鉢	朋	沈線区画による曲線文様、ミガキ	LR	ミガキ	IV	
404	пноь	IV.L.	深鉢	口縁	横位平行沈線、入組文?突起頂部に斜行沈線	RLR(模面)?	ミガキ?	IV 3	口縁波状
405	ИНОс	IV.1:	並	胴一底	横位平行沈線、三叉文、菱形入組文?底部に横位沈線	L R	ナデ	Ⅲ 2	赤色塗彩
406	ИНОс	IV.L:	徹	類一脚			ナデ	IV	

第65図 縄文時代の土器⑦

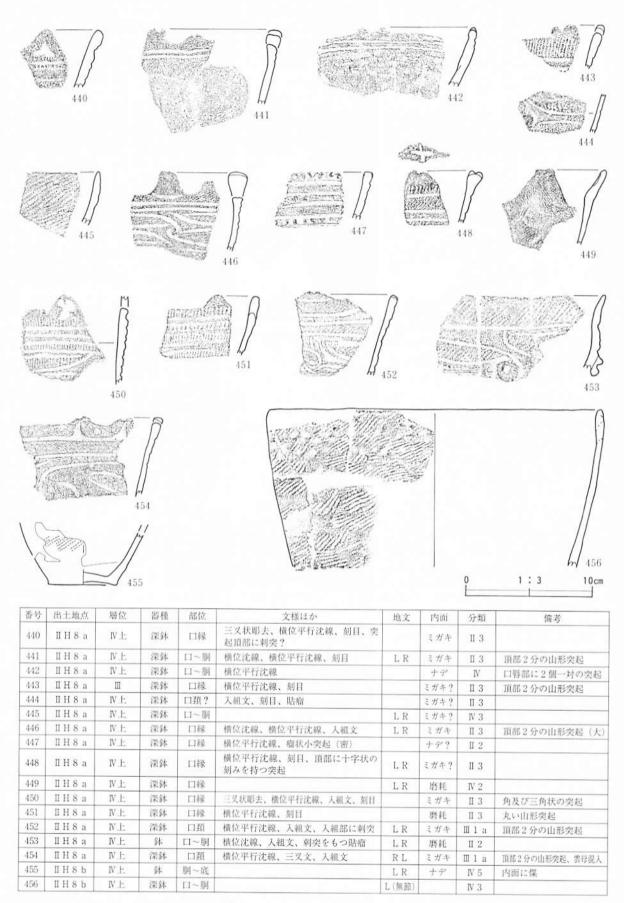


第66図 縄文時代の土器®

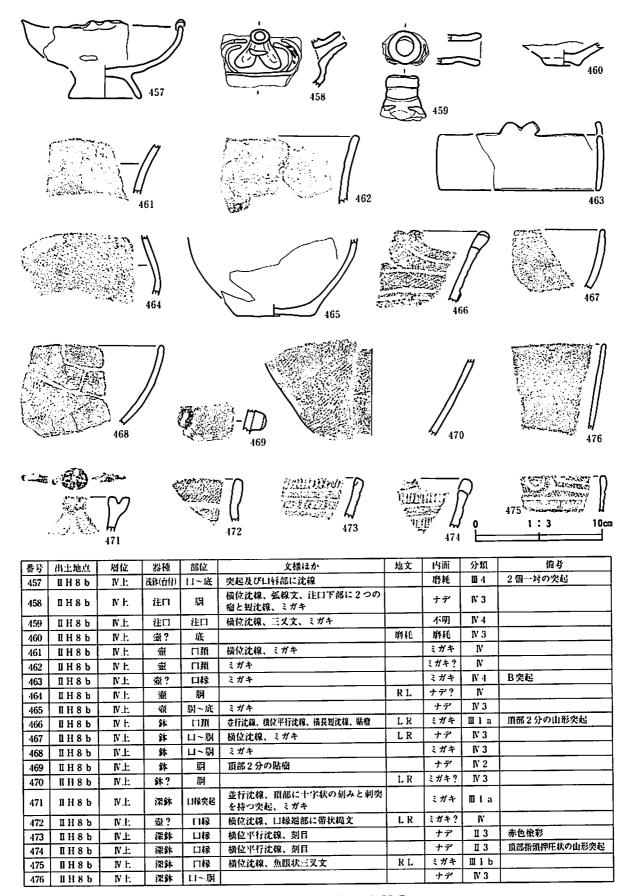


番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
420	II H 8 a	IV.E.	壷	胂	横位沈線、貼瘤		磨耗	IV 2	
421	II H 8 a	N.E.	注口	194	褶		悶耗	IV 3	
422	II H 8 a	N.L	壶?	39(ミガキ		ナデ	IV	
423	II H 8 a	IV.L	壺	胴	ミガキ?		ナデ	IV	
424	II H 8 a	IV.L.	壷?	口類	横位沈線、三叉状彫去		ナデ	Ⅲ 1 a	円窓?
425	II H 8 a	IV.E.	童?	胴	刺突をもつ貼瘤、S字状沈線(入組文?)	LR	ナデ	II 2 ?	
426	II H 8 a	N.L	鉢	口線	ミガキ		ナデ	IV 3	補修孔
427	II H 8 a	IV.E	鉢	口縁	横位沈線、入組文、貼瘤、横長短沈線	LR	ミガキ	11 3	内面に向かう頂部2分の白形突起(大・小)
428	II H 8 a	IV_E	鉢	口一胴	横位沈線、三叉文、ミガキ	LR	ミガキ	Ⅲ 2	口縁波状
429	II H 8 a	IV_E.	鉢	Bi	横位平行沈線、刻目、十字状の刻みを持つ貼稿		磨耗	II 3	
430	II H 8 a	IV_E.	鉢?	不明	並行沈線、縦長の貼瘤	磨耗	ミガキ?	IV 2	
431	II H 8 a	IV.L	鉢	口~胴	横位沈線、ミガキ	LR	ミガキ	Ⅲ 1 b	口縁波状
432	II H 8 a	IV.E.	深鉢	?	横位平行沈線、頂部2分の貼塩	RL	ミガキ?	Ⅱ 2	
433	II H 8 a	IV_1:	深鉢	口線	横位平行沈線、瘤状小突起(密)		ミガキ?	II 2	
434	II H 8 a	IV.E	深鉢	口様	横位平行沈線、瘤状小突起(密)		ナデ	II 2	433と同一個体?
435	II H 8 a	IV.L.	深鉢	口線	横位平行沈線、刻目(押引的)		ミガキ	II 3	丸い山形突起
436	II H 8 a	IV.L	深鉢	類?	横位平行沈線、刺突?		磨耗	II 3	
437	ПН8а	N.E.	深鉢	300	横位平行沈線、刺突?	LR	磨耗	П 3	
438	II H 8 a	Ш	深鉢	口禄		RLR(報節)	ナデ	IV 2	
439	II H 8 a	IV L	深鉢	口禄	横位平行沈線、刺突?		磨耗	II 3	

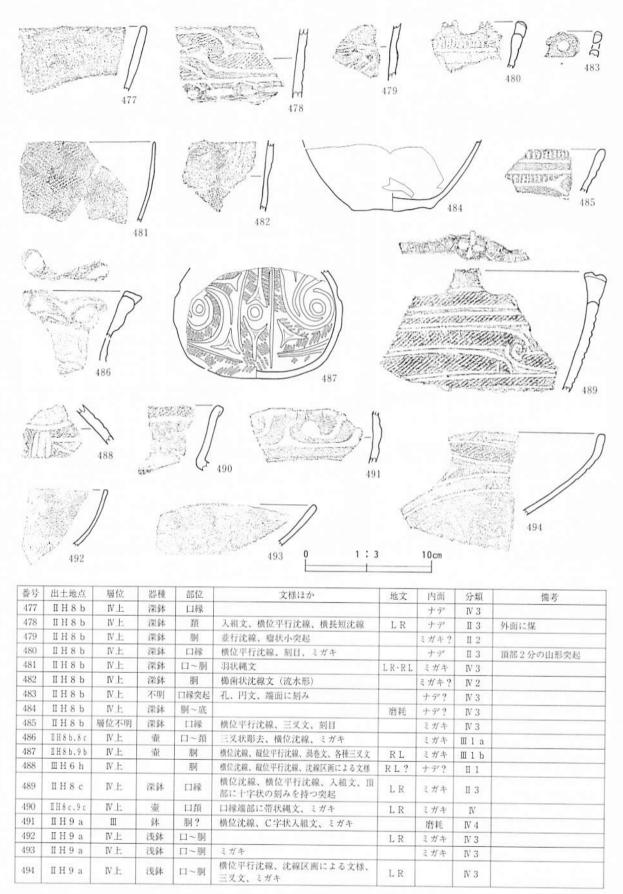
第67図 縄文時代の土器⑨



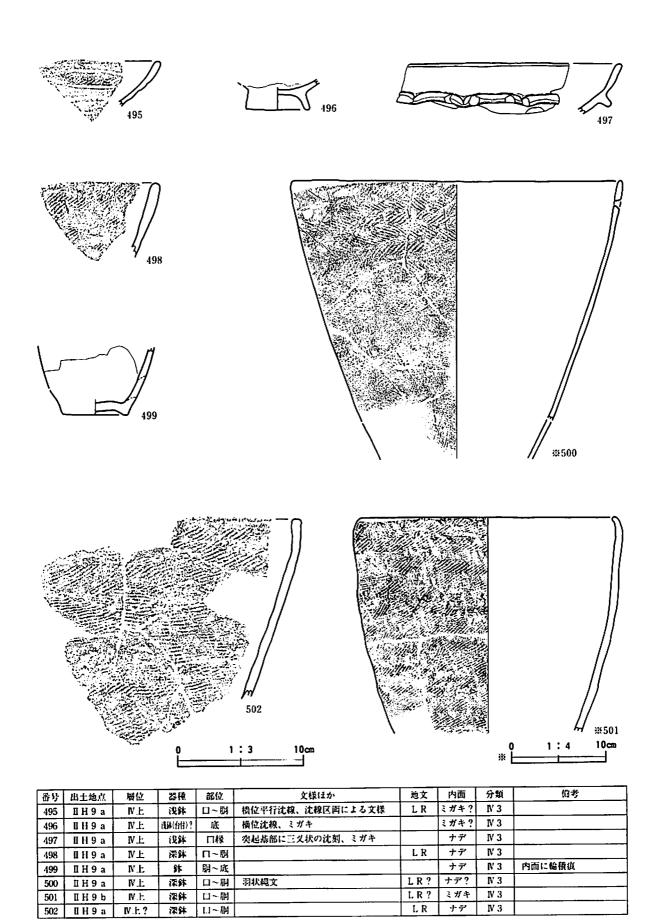
第68図 縄文時代の土器⑩



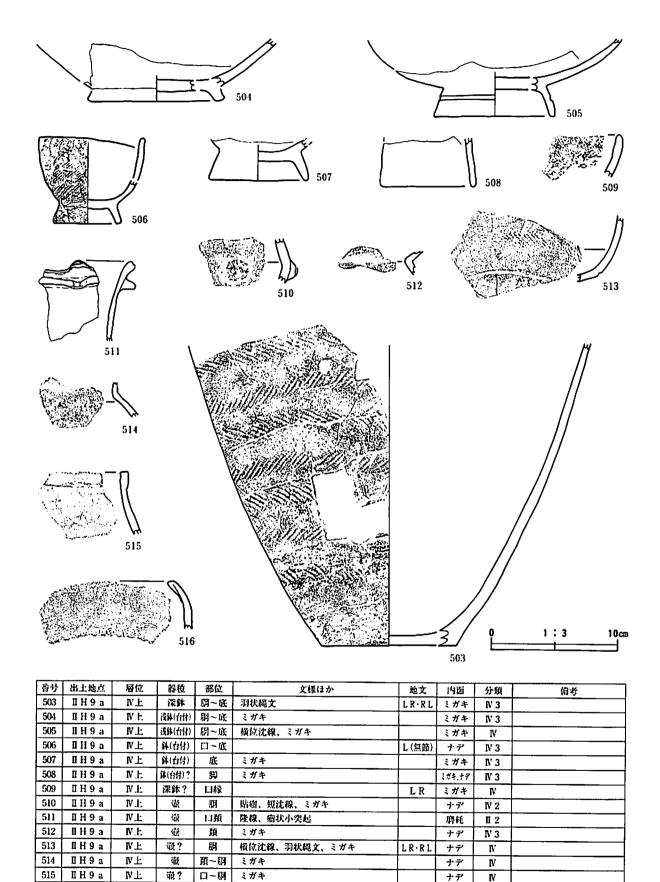
第69図 縄文時代の土器①



第70図 縄文時代の土器(2)



第71図 縄文時代の土器⑬



第72図 縄文時代の土器個

ナデ

N

内面に輪積痕

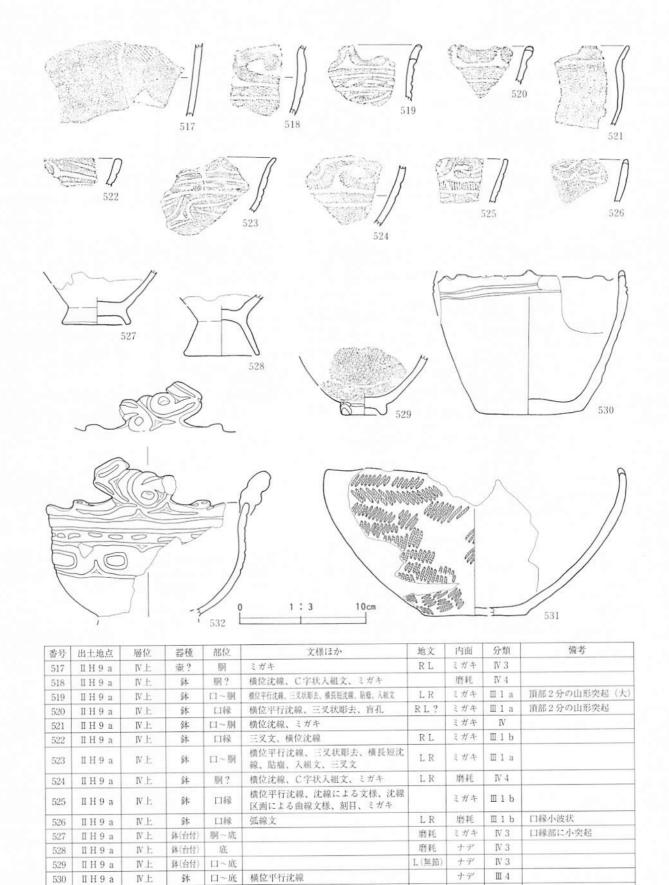
516

ПН9а

N.E

童?

□∼脳



第73図 縄文時代の土器 15

模位平行沈線、横長短沈線、沈線区画による曲線文様、三丈文、内外

前に三支文英調の大交起、製部に四みを持つ影響、口唇部に沈線

LR·RL

ミガキ?

ミガキ

 ${\rm I\!V}$

Ш1Ь

砂粒(多)

羽状縄文

N.E.

IV E

531

Ⅱ H 9 a

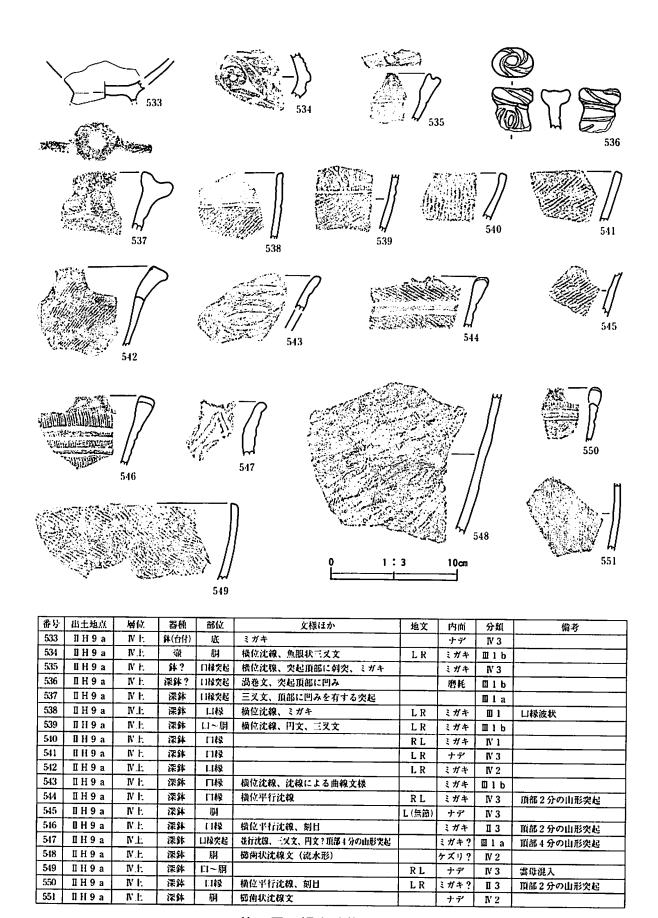
II H 9 a

鉢

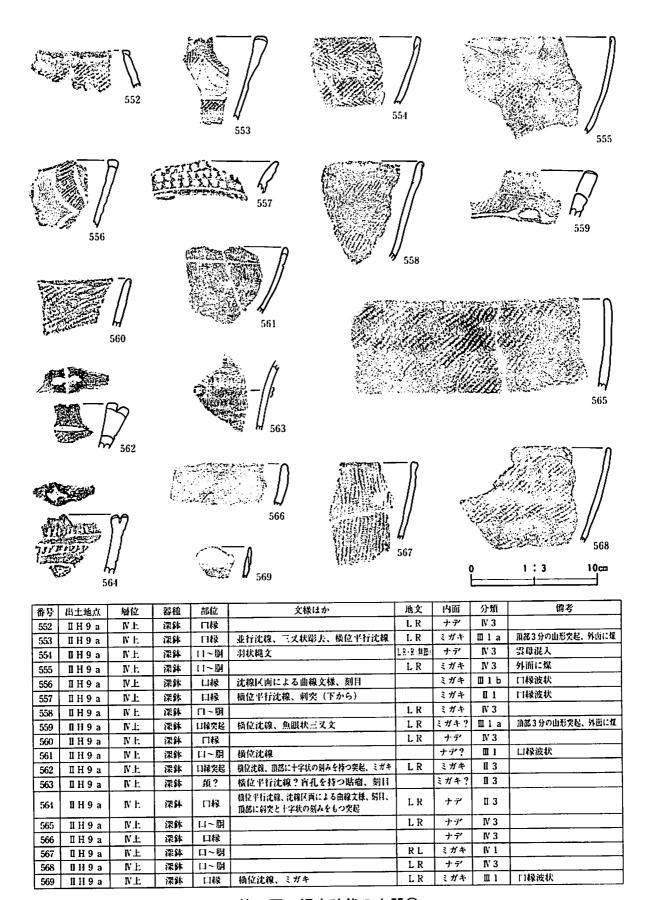
鉢

口~底

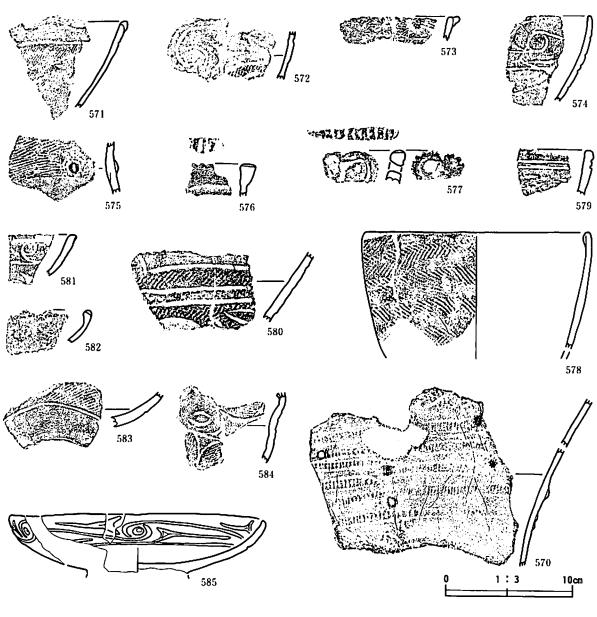
口一胴



第74図 縄文時代の土器⑯

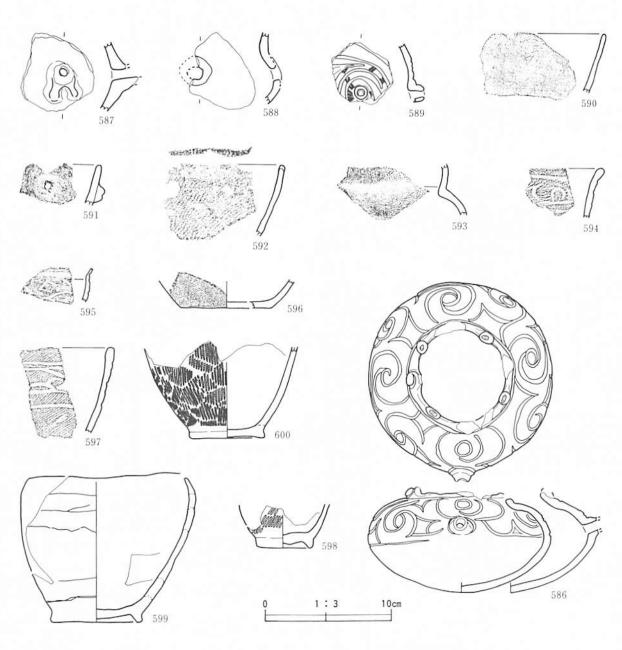


第75図 縄文時代の土器⑰



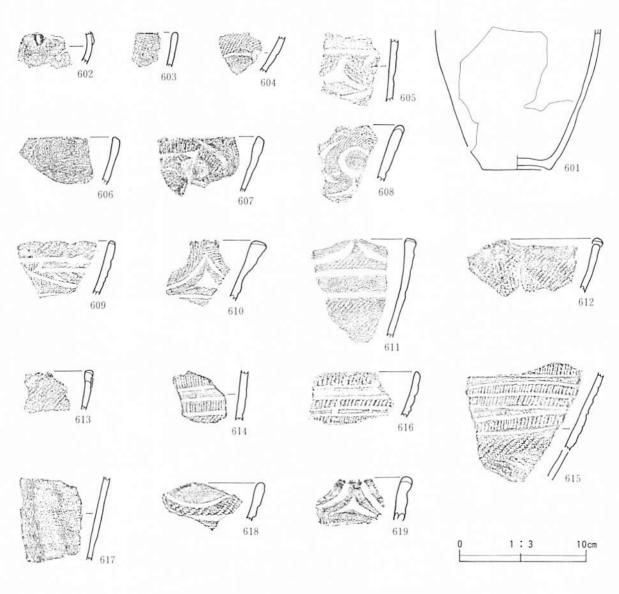
番号	出土地点	層位	83 EA	部位	文様ほか	地文	内面	分知	仰考
570	II H 9 a	N.E.	深鉢	拼	並行沈線、頻位平行沈線、入包文、育孔を持つ貼線、剪目	RL	ミガキ?	П 3	補修孔、内面に煤?
571	II Н 9 а	N E	深鉢	口~朋	模位沈線	LR	ナデ	IV 3	低い山形突起
572	ПН9а	N上	深鉢	山椒?	沈線による曲線文様、三叉文	LR	ナデ?	Піь	石英粒
573	ПН9а	N E	深鉢	口榜	宿状小突起	L R	ナデ	II 2	
574	II H 9 a	N t.	深鉢	口~朋	横位沈線、沈線による曲線文様		ナデ?	Шlb	<u> </u>
575	II H 9 a	N.It.	深鉢	934	頂部 2 分の貼舶	L R	ナデ	N 2	
576	II H 9 a	NĿ	深鉢	口禄突起	横位沈線		磨耗	П 3	頂部3分の山形突起
577	ПН9а	N E	不明	口禄突起	孔、内・外面に円文、端面に刻み		ミガキ	N' 3	
578	I H8a	N.Ł	深鉢	口~期	羽状褐文	RL·LR	ナデ	IV 3	折り返し口縁
579	II H 9 a	N F.	深鉢	口線	横位平行沈腺		ナデ	IV 3	
580	ПН9а	IV.1:	深鉢	NH NH	人組文、横位沈線、沈線区両による曲線文様	L R	ナデ	IV 3	銀母及び砂粒混入
581	ПН9ь	Ш	貅	口線	横位沈線、沈線による曲線文様	LR?	ミガキ	11 b	
582	11 Н 9 с	N E	浅鲜	口~阴	口唇部に沈線		磨耗	Ⅲ 4	
583	I H9b	N.E.	浅鉢?	胼	横位沈線、ミガキ	LR	ナデ	IV	
581	ПНЭЬ	N.L.	深鉢	山棕	沈線区画による各種文様	LR	ナデ?	шіь	
585	ПН9 в	IV I:	设鉢(台付)	口一底	横位沈線、各種三叉文、ミガキ		ミガキ	III b	

第76図 縄文時代の土器®



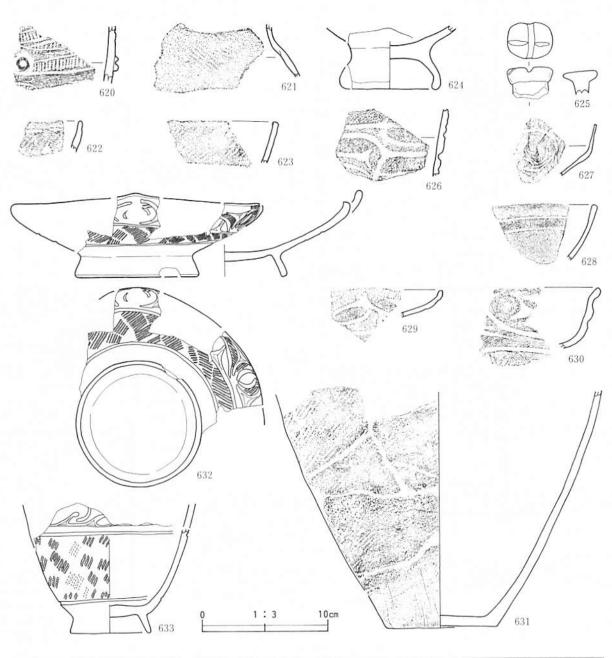
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
586	ПН9 b	NE	注口	口~高(完形)	横位沈線、菱形入組文、ミガキ		ナデ	Ⅲ 1	
587	ПН9 b	N.E.	注口	胴	注口下部に2つの瘤、ミガキ		ミガキ?	Ⅲ 1	
588	II H 9 b	N.E.	注口	胴	ミガキ		ナデ	IV 3	
589	II H 9 b	IV.L.	注口	胴	渦巻文、ミガキ	LR?	ナデ	Ш1 b	
590	II H 9 b	IV.E.	強	孤	ミガキ		ミガキ	IV 3	
591	II H 9 b	N.E.	童?	口禄突起	盲孔をもつ貼瘤		磨耗	II 2	
592	II H 9 b	N.E.	童?	口線		LR	ナデ	IV 3	頂部3分の山形突起
593	II H 9 b	NE	並	到一胴	ミガキ		ナデ?	IV	
594	II H 9 b	IV.E.	餘	口線	横位沈線、沈線区画による曲線文様	LR	ミガキ	Ш 1 b	口縁波状
595	II H 9 b	IV.L.	鉢	口颈	横位沈線、菱形文、三叉文、ミガキ		ミガキ	Ⅲ 2	内・外面に煤?
596	ПН9 b	N.E.	6本	底		LR	ミガキ	IV 3	
597	II H 9 b	IV_E.	鉢	口~朋	横位平行沈腺、三叉文	LR	ミガキ	Ⅲ 2	口縁波状
598	II H 9 b	N.E.	鉢(台付)	胴一底	横位沈線	LR	ミガキ?	IV 3	
599	II H 9 b	IV 上	鉢(台付)	口~底			ナデ	IV 3	外面に輪積痕
600	II H 9 b	N.E.	6本	胴一底		RL	ミガキ	IV 5	

第77図 縄文時代の土器⑩



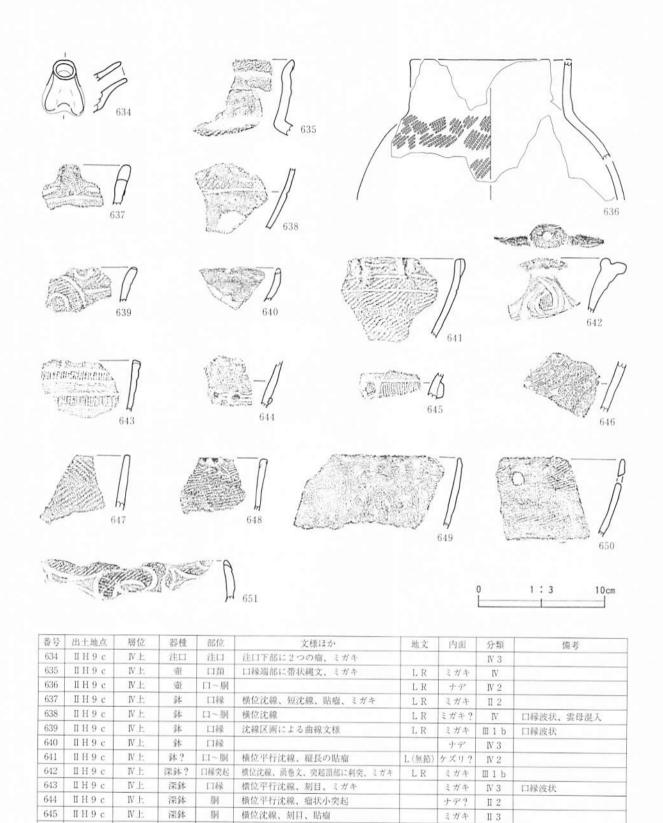
番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
601	ПН9ь	IV.E.	路	胸一底	ミガキ		ナデ	IV 3	
602	II H 9 b	IV.E.	並	朋	頂部2分の貼瘤		ナデ?	IV 2	
603	II H 9 b	IV E	鉢?			LR	ミガキ	IV 3	
604	II H 9 b	IV_E	鉢?	胴	横位沈線、ミガキ	LR	ナデ	IV	
605	II H 9 b	IV 1:	深鉢	預?	横位沈線、入組文、三叉文	LR	ミガキ?	III 1 a	
606	II H 9 b	IV.L	深鉢	口緑			ケズリ?	IV 3	
607	II H 9 b	NE	深鉢	口禄	沈線区画による曲線文様、刻目		磨耗	Ш1 b	
608	II H 9 b	IV.L.	深鉢	口禄	沈線区画による曲線文様	LR	樹耗	Ш1 b	口禄波状
609	ПН9 ь	IV_E.	深鉢	口縁	横位沈線、入組文、刻目	LR	ミガキ	IV 3	口縁波状
610	II H 9 b	IV_E	深鉢	口禄突起	並行沈線、三叉文、横位沈線	LR	ミガキ	Ш1а	頂部3分の山形突起
611	II H 9 b	IV L	深鉢	口~朋	並行沈線、横位平行沈線	LR	ミガキ	Ш1а	頂部指鎖押圧状の低い山形突起、砂粒(多
612	II H 9 b	NE	深鉢	口絲		LR	ナデ	IV 2	頂部3分の山形突起
613	II H 9 b	IV_E	深鉢	口禄		LR	ナデ	IV 2	頂部3分の山形突起
614	II H 9 b	IV.L.	深鉢	30(横位平行沈線、刻目	LR	ナデ	П 3	
615	II H 9 b	IV_E	深鉢	類~胴	横位沈線、横位平行沈線 (入組文?)、刻目、羽状縄文	LR·RL	ミガキ?	II 3	
616	II H 9 b	IV ±	深鉢	口綠	横位平行沈線、刻目		ミガキ?	ПЗ?	
617	II H 9 b	NE	深鉢	胴	櫛密状沈線文		ナデ	IV 2	砂粒 (多)
618	II H 9 b	IV上	深鉢	口緑	弧線文、横位沈線、ミガキ	LR	ミガキ	IV	口縁波状
619	II H 9 b	IV ±	深鉢	口縁突起	並行沈線、三叉文、横位沈線、ミガキ		ミガキ	Ш 1 а	頂部3分の山形突起

第78図 縄文時代の土器②



番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
620	II H 9 b	NL	深鉢	胴	機位平行沈線、入組文、刻目、盲孔をもつ貼縮		ミガキ	II 3	
621	ПН9 b	IV.E.	深鉢	颈一胴		RL	磨耗	IV 3 ?	
622	ПН9 b	IV.E.	深鉢	口一胴	横位沈線	LR	ナデ?	IV 3	
623	ПН9Ь	N.E.	深鉢	口縁		LR	ミガキ?	IV 3	
624	II H 9 b	NE	鉢(台付)?	底			ミガキ?	IV 3	
625	ПН9Ь	N.L		口緣突起	頂部に十字状の刻み		ミガキ	IV 3	
626	II H 9 b	N上	深鉢	胴	横位沈線、入組文	LR	ミガキ?	Ш 1 а	
627	ПН9с	NE	浅鉢?	脚	円文		ミガキ	Ш1 b	351と同一個体?
628	ПН9с	N.E.	浅鉢	口一胴	横位平行沈線、ミガキ	LR	ミガキ	IV 3	
629	ПН9с	IV ±	浅鉢	口~胴	沈線による曲線文様、ミガキ	LR?	ミガキ	Ⅲ 1 b	
630	ПН9с	IV上	浅鉢	口~胴	横位沈線、魚眼状三叉文	LR	ナデ	Ⅱ 1 b	
631	ПН9с	W上	深鉢	胴~底		LR	ミガキ?	IV 3	
632	ПН9с	IV.L	浅鉢(台付)	口~底	横位平行沈線、魚駅状三叉文、三叉文、ミガキ	LR?	ミガキ	Ⅲ 1 b	
633	ПН9с	IV.E.	鉢(台付)	口一底	横位平行沈線、三叉文、横位沈線	LR		Ⅲ 1 b	内面に煤、砂粒(多)

第79図 縄文時代の土器②



第80図 縄文時代の土器②

ナデ

ナデ

ナデ

ナデ

ナデ

ミガキ

RL·LR

LR

LR

N 2

IV 3

II 2

IV 3

IV 3

Ш1 b

補修孔、外面に煤?

口縁波状

植歯状沈線文(流水形)

羽状縄文

瘤状小突起

渦卷文、弧線文

ПН9 с

ПН9 с

ПН9с

ПН9 с

II H 9 c

ПН9 с

N.E

NE

IV.E.

N上

IV.E.

NE

深鉢

深鉢

深鉢

深鉢

深鉢

深鉢

胴

口禄

口線

口一胴

口一胴

口禄

646

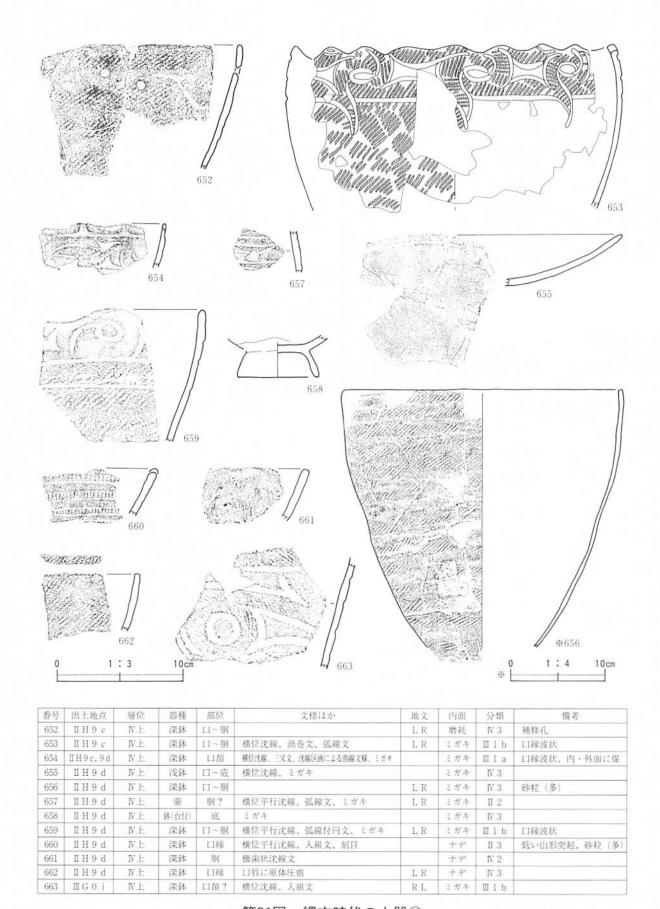
647

648

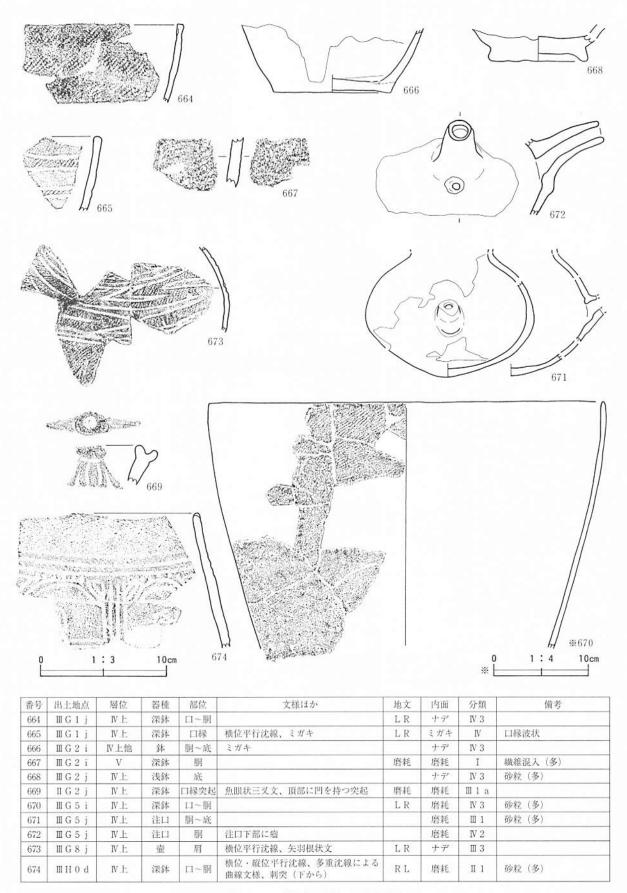
649

650

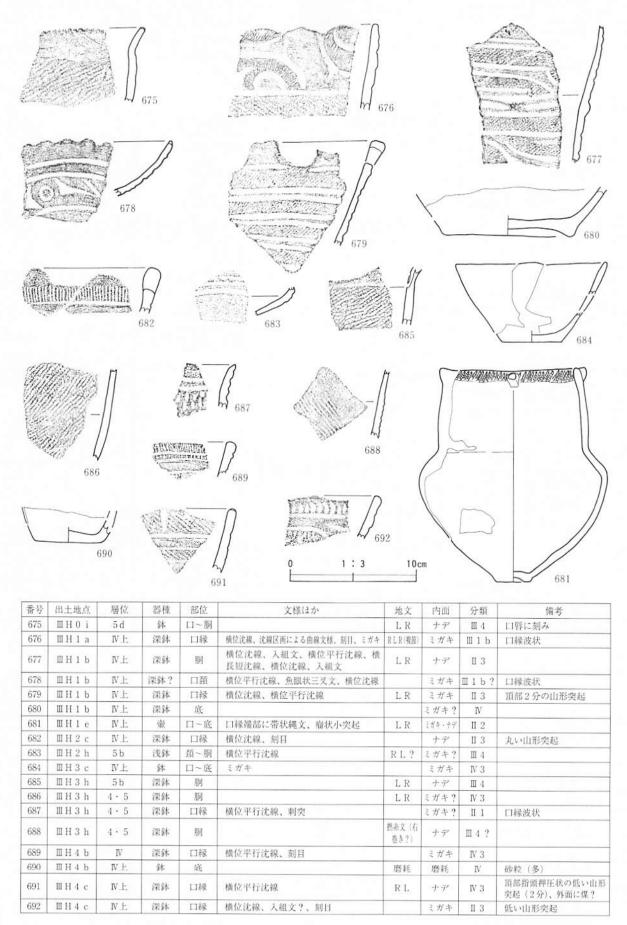
651



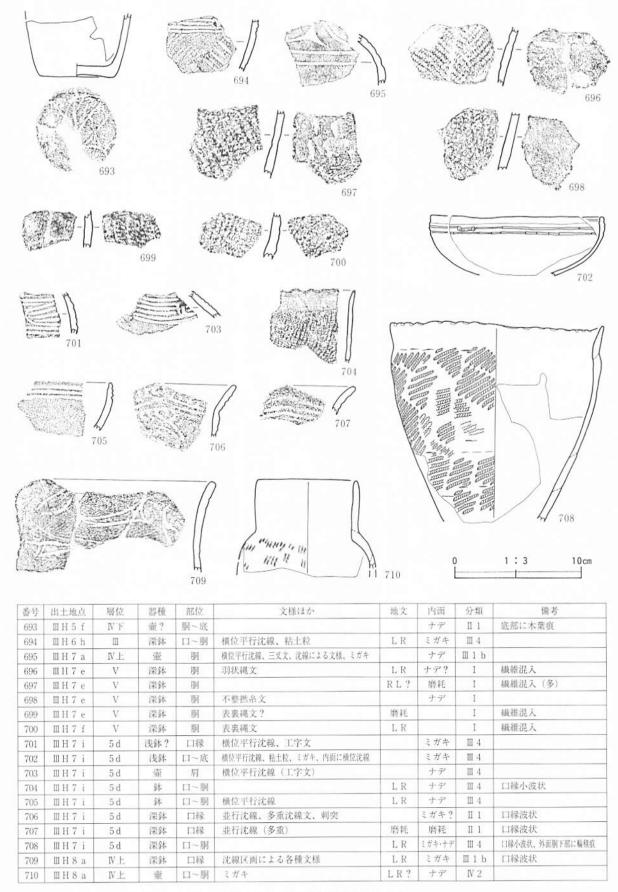
第81図 縄文時代の土器②



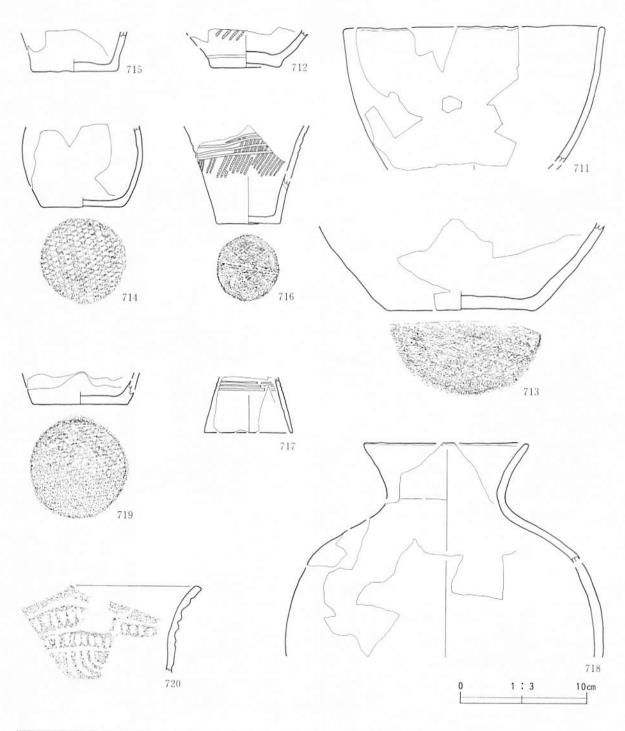
第82図 縄文時代の土器24



第83図 縄文時代の土器25

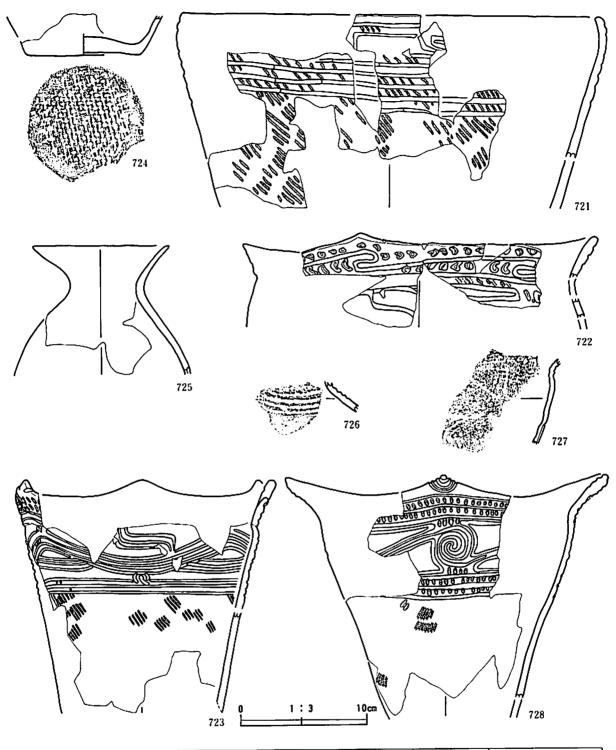


第84図 縄文時代の土器図



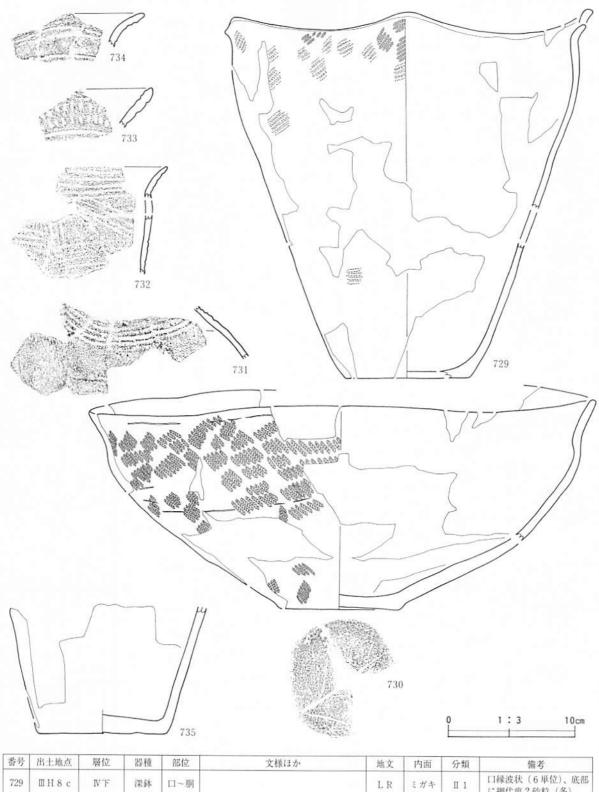
番号	出土地点	層位	器植	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
711	II H 8 b	IV	鉢	口~朋	ミガキ		ミガキ	IV 3	
712	ШН8ь	NE	鉩	胴~底	横位沈線	LR	ナデ	IV 3	
713	Ⅲ H 8 c	IV	3本	胴一底	ミガキ		ミガキ、ナデ	II 1	底部に網代痕、砂粒 (多)
714	Ⅲ H 8 c	IV.L.	董?	刷~底	ミガキ		ナデ	II 2	底部に網代痕
715	ШН8 с	NE	藏?	胴一底			ナデ?	IV 3	
716	Ⅱ H 8 c	N.E.	鉢	胴一底	横位平行沈線 (多重)、ミガキ	LR	ミガキ	II 1	底部に木葉痕
717	ШН8 с	IV	壶?	口頭	横位平行沈線		ミガキ	II 1	
718	Ⅲ H 8 c	IV.E	號	口~朋			ナデ	II 1	砂粒 (多)
719	ШН8 с	IV.E.	鉢?	底			磨耗	II 1	底部に網代痕
720	ШН8 с	IV.L	深鉢	口線	並行沈線、多重沈線文、刺突		ミガキ?	II 1	口縁波状

第85図 縄文時代の土器②



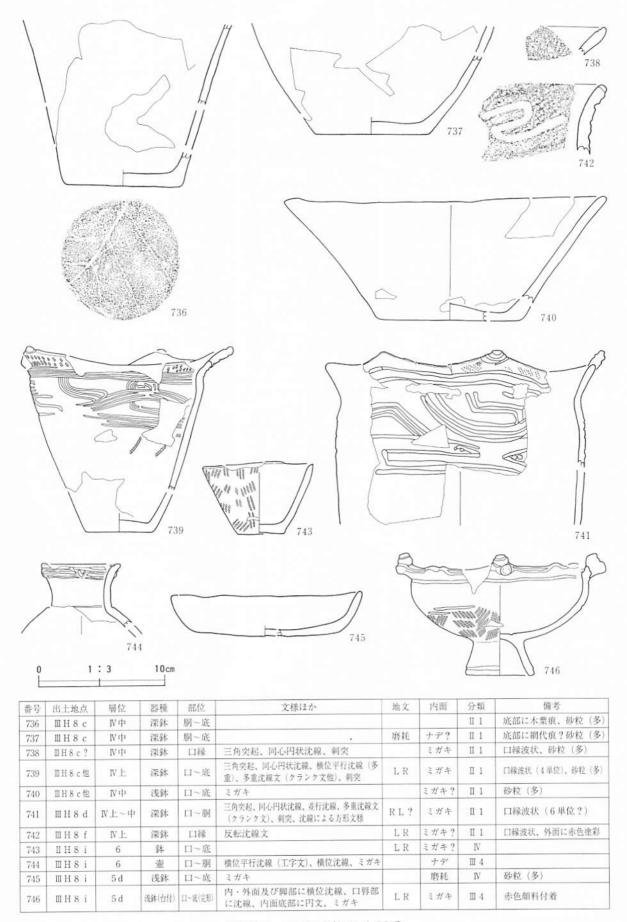
看号	出土地点	層位	器粒	部位	文様ほか	地文	内面	分類	伯考
721	шн8с	IV.I:	深鉢	1.1~開	模位平行沈線 (多重)、沈線区画による方形文様	RL	ミガキ	D 1	
722	III H 8 c	N.E.	深鉢	口~朋	機能沈線、反転沈線、弧状沈線、沈線による方形区前	RL	ミガキ	0.1	口秘波状(6 単位?)
723	III H 8 c	N.E.	深鉢	口~腳	植位平行沈線(多重)、多重沈線文(クランク文)、科欠	RL	ミガキ	11 1	口段波状
721	ШН8с	NE	深鉢	底			磨耗	П 1	底部に捌代痕
725	ШH8 с	NJ:	薆	口~阴			ナデ	п 1	砂粒 (多)
726	ПН8с	IV.I:	र्थार	相	构位平行沈禄 (多爪)	RL	ミガキ	II 1	
727	Ш118 с	N上~中	深鉢	EM	横位平行沈線、多重沈線文	mie	磨耗	II 1	砂粒 (多)
728	Ш118 с	N上~中	深鉢	口~腳	三角突起、同心円状沈珠、並行沈線、森をき文、科突(下から)	RL	ミガキ?	Ш 1	口禄波状(4 单位)、砂粒(多)

第86図 縄文時代の土器図

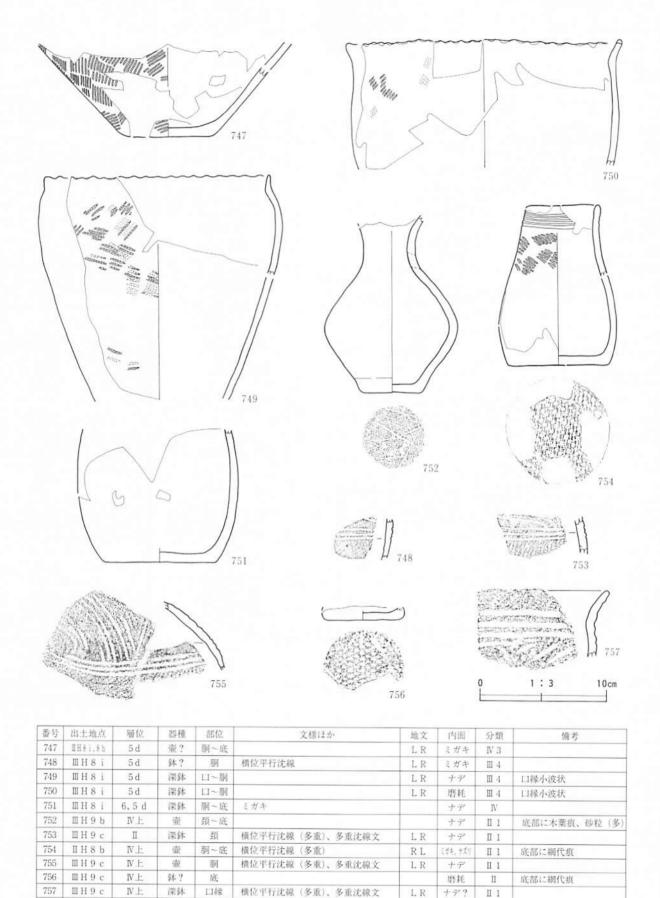


番号	出土地点	層位	器種	部位	文様ほか	地文	内面	分類	備考
729	ШН8 с	IV下	深鉢	口一胴		L R	ミガキ	П 1	口縁波状 (6単位)、底部 に網代痕?砂粒(多)
730	Ⅲ H 8 c	IV 🔱	浅鉢	口~底		RL	ミガキ?	П 1	底部に木葉痕、砂粒 (多)
731	Ⅲ H 8 c	ΙV 💠	遊	肩	横位平行沈線(多重)		ナデ	П 1	砂粒 (多)
732	ШН8 с	IV中	深鉢	口~胴	横位平行沈線 (多重)、多重沈線文 (クランク文)		ミガキ?	II 1	内・外面に赤色塗彩?砂粒(多)
733	ШН8 с	IV t‡1	深鉢	口線	三角突起、同心円状沈線、横位沈線、刺突(下から)		ミガキ?	II 1	口縁波状
734	ШН8 с	Ⅳ中~下	深鉢	口級	並行沈線、横位沈線	磨耗	ナデ?	II 1	口縁波状
735	ШН8 с	IV r‡3	深鉢		to AMI recover of the Parising		磨耗	II 1	底部に木葉痕?砂粒(多)

第87図 縄文時代の土器図



第88図 縄文時代の土器30



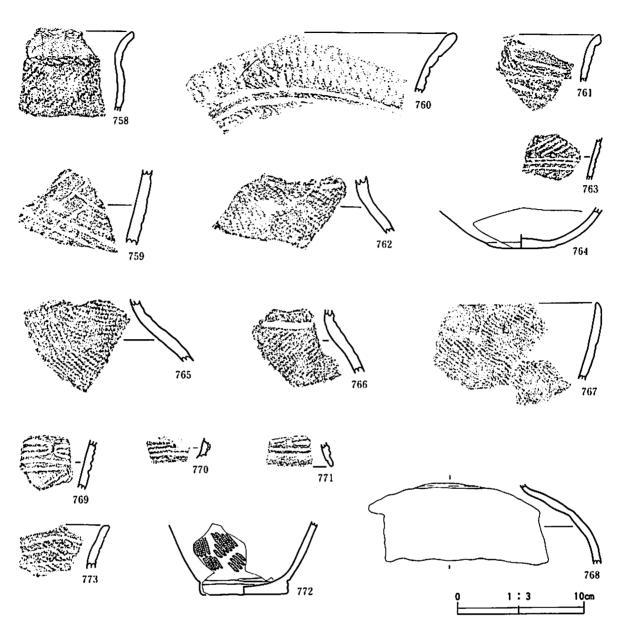
第89図 縄文時代の土器③

LR

ナデ?

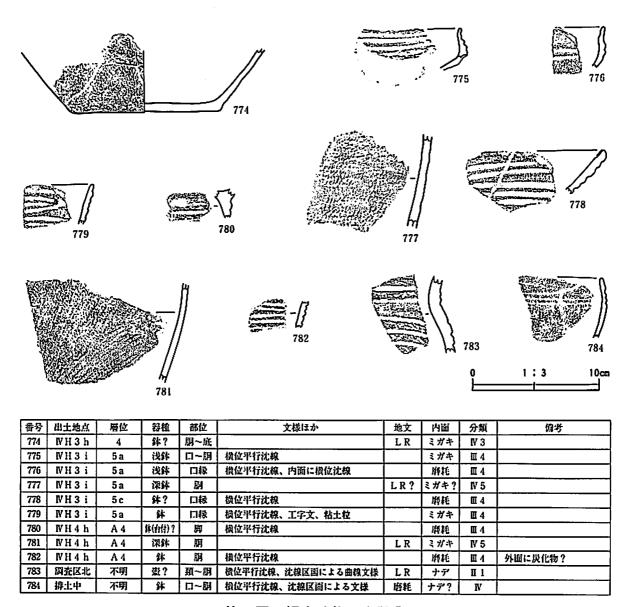
II 1

横位平行沈線(多重)、多重沈線文

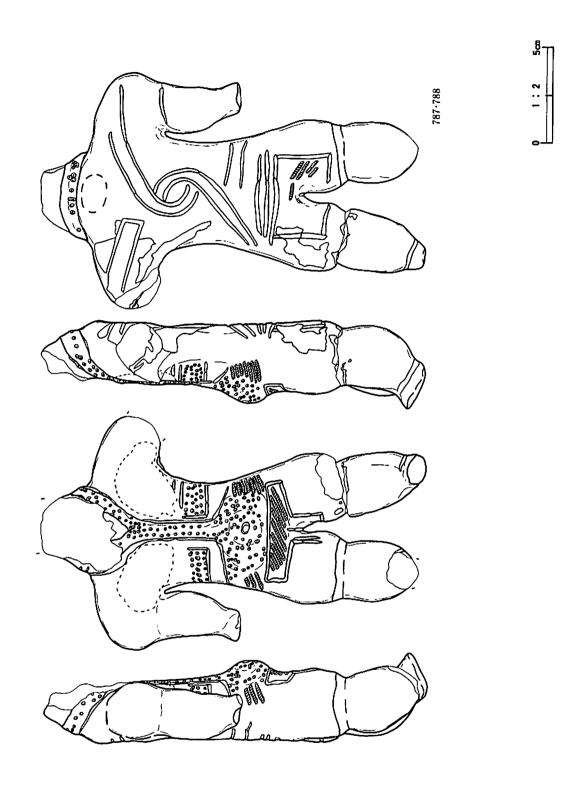


番号	出土地点	層位	器植	部位	文様ほか	地文	内面	分類	偏考
758	ШН9с	IV	深鉢	口一朋	頚部に原体圧痕、ミガキ	LR	ナデ?	III 4	
759	II H 9 d	NĿ	深鉢	朋	条線	磨耗	ナデ	II 1	
760	Ⅲ H 9 d	NF	深鉢	口綠	横位平行沈線 (多重)、刺突 (下から)	RL?	府托	N 1	山緑波状、砂粒(多)
761	II H 9 d	N.E.	深鉢	口核	沈線区画による文様	RL	ナデ?	11 1	
762	ШН9е	L/ th	श्री	頚	假位短沈線	RL	ナデ	Ⅲ 4	
763	ШН9е	N?	強?	屑	價位平行沈線 (多爪)、多爪沈線文、刺突		ナデ?	П	
764	II H 9 i	5 d	浅鉢?	胴~底	ミガキ		ナデ?	N3?	
765	шн9 ј	IV中	碰	屑		RL	ナデ	1114	砂粒 (多)
766	NH1 i	5 d	ŠÍŘ	屑	构位沈線	LR	磨耗	0 4	
767	NHli	5 d	深纬	口~脳		R L	ナデ?	IV 3	砂粒 (多)
768	NH1 i	5 d.L.	और	EM	横位沈線、ミガキ		ナデ	IV	
769	NHlj	5 d	浅鉢?	口綠	横位沈線、工字文、斜行沈線		ミガキ?	П 4	
770	NHlj	5 d	鉢?	口禄?	模位平行沈線、粘土粒		ナデ	Ⅲ4	
771	NH2i	5 a	深鉢?	口祿	模位平行沈線、内面に模位沈線		ミガキ	0 4	
772	NH2j	7 a	鉢	剧~底	模位沈線	RL	ナデ?	IV 5	砂粒(多)
773	NH2j	3 c	深鉢	口椒	並行沈線	RL	磨耗	П 1	口禄波状

第90図 縄文時代の土器②

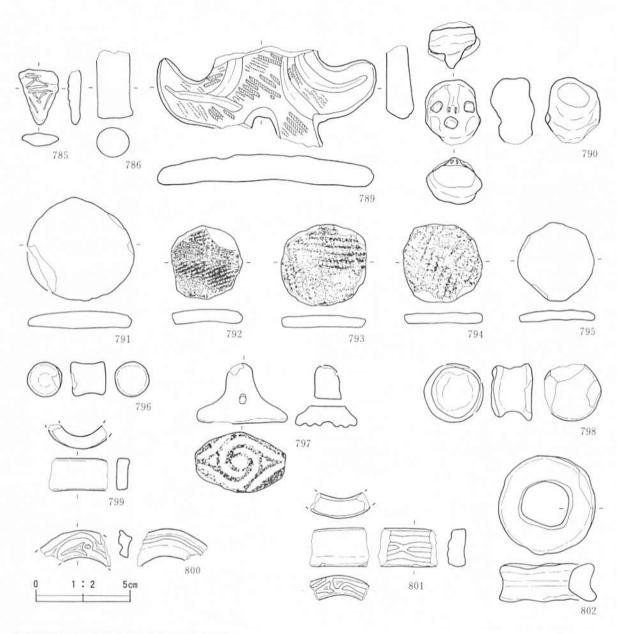


第91図 縄文時代の土器③



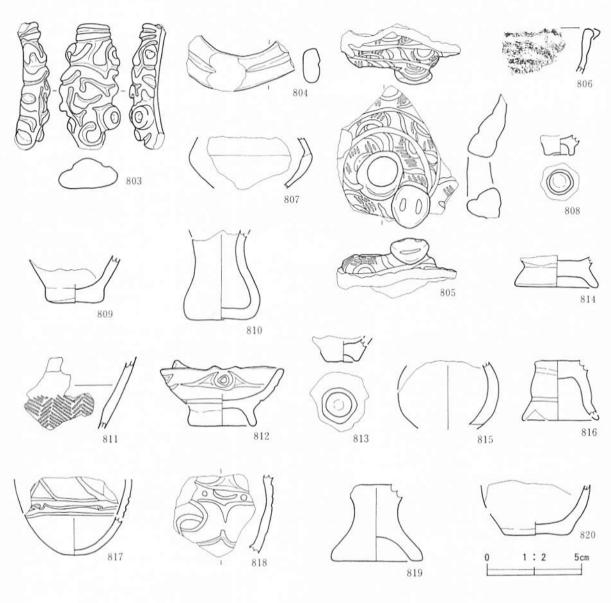
番号	出土地点	層位	器種	文様ほか	備考
787	шноь	N F.	土偶	部位:胴 - 右脚、作り:中実、中帕線は降帯、下腹部強調、背中上端に高まり、背面に入組文他、刺突、LR、風部・左腕・孔房及び右脚先端欠	左舞割れ口にアスファルト旗、 788と接合
788	шноь	N.E.	1:04	部位:左脚、作り:中実	割れ口にアスファルト収、787と混合

第92図 縄文時代の土製品①



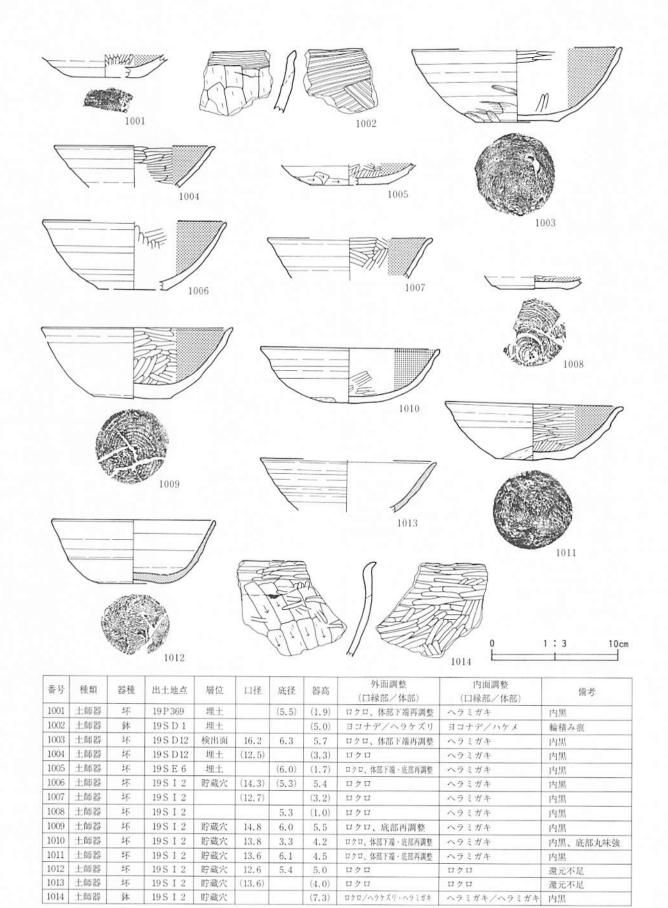
番号	出土地点	層位	器種	文様ほか	備考
785	II H 8 b	N上	口縁突起	並行沈線、横位平行沈線、沈線による文様、刺突	土器分類Ⅱ群1類
786	II H 9 b	N上:	土偶	部位:脚?作り:忠実	
789	II H 9 b	IV.L.	口縁突起?	三叉文、沈線による文様、円窓、RL、内面ミガキ	上器分類Ⅲ群4類
790	19 S K 8		土偶	部位:頭、作り:中実	
791	ПН0а	N.E.	土製円盤	重量:22.0g、周辺加工:打ち欠き	底部使用?
792	II H 8 a	N.L.	土製円盤	重量:11.3g、周辺加工:打ち欠き、LR	
793	II H 9 a	N.L.	土製円盤	重量:10.7g、周辺加工:打ち欠き、羽状縄文(LR・RL)	
794	II H 9 b	N.L.	土製円盤	重量:10.1g、周辺加工:打ち欠き、羽状縄文(LR・RL)	
795	II H 9 d	N.E.	土製円盤	重量:8.8g、周辺加工:打ち欠き?	游耗
796	II G 9 i	IV.E.	耳飾	重量:5.9g、ほぼ完形	
797	ПН9а	NE	スタンプ	重量:22.2g、ほぼ完形、円文、渦巻状文、三叉状彫去、貫通孔	
798	II H O a	IV.E.	耳飾	重量:16.2g、一部欠損	
799	II H 8 a	N.E.	耳飾	重量:5.2g、破損品 約1/4残存、環状、端面ミガキ	
800	II H 8 a	IV.I:	耳飾?	重量:3.0g、破損品 約1/5残存、環状、玉抱き三叉文	赤色顔料付着
801	II H 9 a	NE	耳飾	重量:7.2g、破損品 約1/6残存、環状、工字文?	
802	II H 9 b	IV_E	耳飾	重量:35.5g、ほぼ完形、環状	

第93図 縄文時代の土製品②

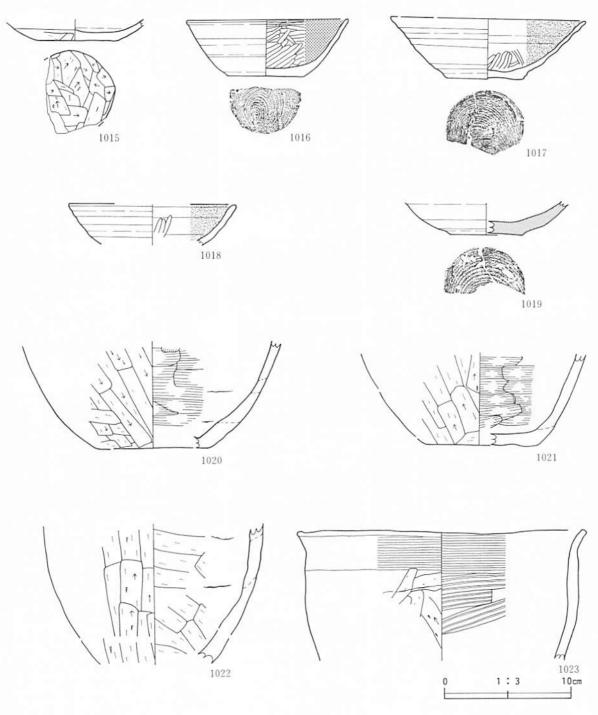


番号	出土地点	層位	器種	文様ほか	備考
803	II H 9 a	IV.E.	装飾品	重量:26.9g、ほぼ完形、三叉文他	赤色顔料付着
804	II H 9 a	N.E.	腕輪形土製品?	重量:13.9g、破損品 約1/5残存、横位沈線、LR	赤色颜料付着?
805	II H 9 b	N.L.	壺?	横位平行沈線、各種短沈線と磨消手法による文様、LR	土器分類N群4類、砂粒(多)、ヘどのモチーフ
806	19 S K 9	No 1	ミニチュア(壺?)	部位:口頚、小突起	手づくね?
807	II H O a	NE	ミニチュア(変?)	部位:胴、LR	
808	II H 9 a	N.E.	ミニチュア	部位:底?	
809	Ⅲ G 3 i	IV.L	ミニチュア	部位:底	手づくね
810	Ⅲ H 4 f	IV.E.	ミニチュア(壷)	部位:頚~底	内外面にタール状の付着物
811	Ⅲ H 5 h	N.E.?	ミニチュア?	部位:胴、羽状縄文(LR・RL)、ミガキ、内面ナデ?	
812	ПН8а	NE	ミニチュア(台付浅算)	部位:ロ〜底、横位沈線、魚眼状三叉文、内面一部ミガキ	
813	II H 8 a	IV.L.	ミニチュア?	部位:底	
814	ПН9а	IV.E.	ミニチュア?	部位:底、内外面ミガキ	
815	ПН9а	IV.L.	ミニチュア(壺?)?	部位:胴〜底、内面一部ミガキ	
816	ПН9Ь	IV_E	ミニチュア?	部位:脚、横位平行沈線、ミガキ	
817	ПН9ь	NE	ミニチュア?	部位:胴〜底、横位平行沈線、沈線による文様、玉抱き三叉文	
818	ПН9с	NE	ミニチュア?	部位:胴、沈線による文様各種、刺突	
819	Ⅲ H 4 f	N.E.	ミニチュア?	部位:脚?	砂粒 (多)
820	Ⅲ H 9 i	C 6	ミニチュア?	部位:底	

第94図 縄文時代の土製品③

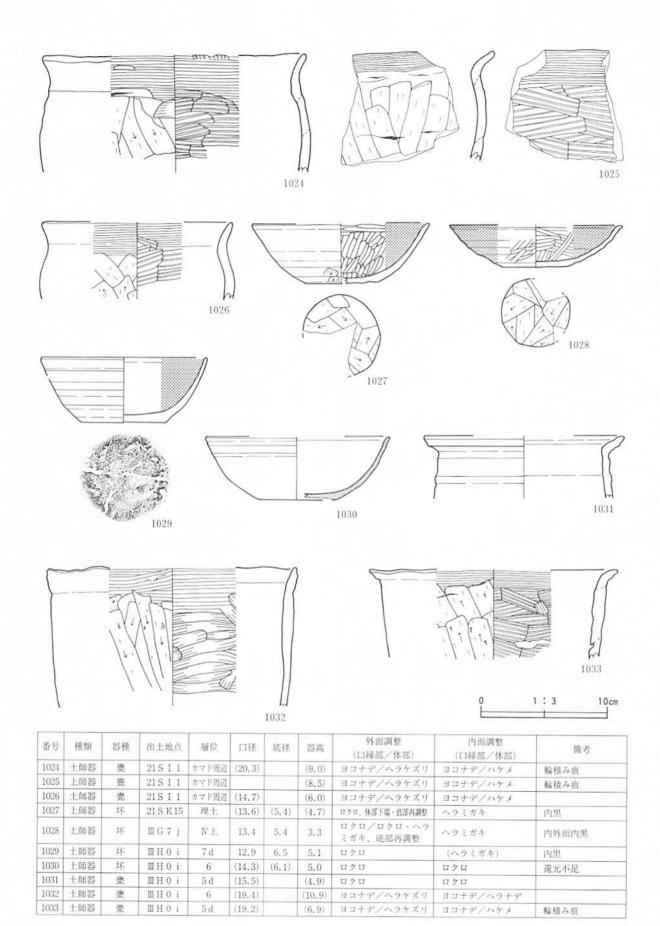


第95図 土師器①

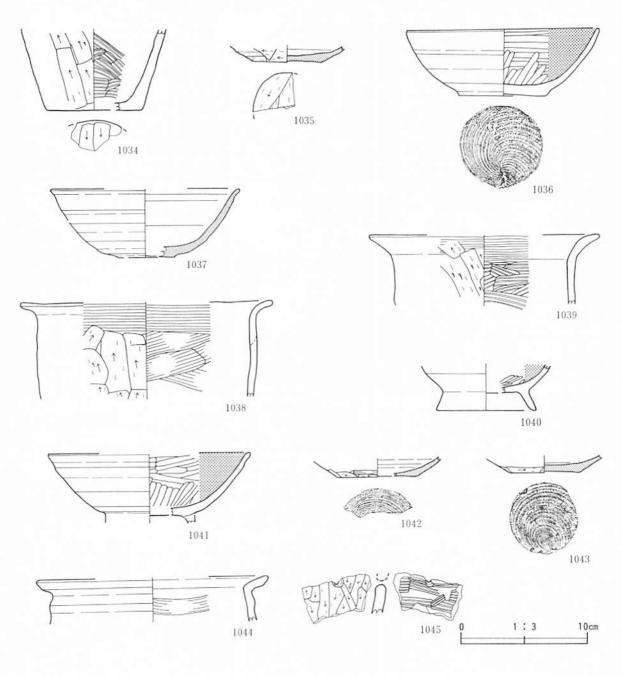


番号	種類	器種	出土地点	層位	口径	底径	器高	外面調整 (口縁部/体部)	内面調整 (口縁部/体部)	備考
1015	土師器	坏	19 S X 7	埋土		6.2	(1.8)	ロクロ、体部下端・底部再調整	ロクロ	還元不足?
1016	土師器	坏	21 S I 1		12.5	5.9	4.5	ロクロ	ヘラミガキ	内思
1017	土的認	坏	21 S I 1	カマド	15.1	6.0	4.8	ロクロ	ヘラミガキ	再被熱
1018	土師器	坏	21 S I 1	カマド周辺	(13.0)		(3.3)	ロクロ	ヘラミガキ	再被熱
1019	土師器	坏	21 S I 1	カマド袖		(5.7)	(2.7)	ロクロ	ロクロ	還元不足
1020	土師器	売	21 S I 1	カマド		(8.9)	(8.1)	/ ヘラケズリ	/ヘラナデ	輪積み痕
1021	土師器	姚	21 S I 1	カマド周辺		(8.5)	(7.2)	/ ヘラケズリ	/ヘラナデ	輪積み痕
1022	土師器	英	21 S I 1	カマド袖			(10.8)	/ヘラケズリ	/ヘラケズリ	内面黒い、輪積み痕
1023	土師器	35	21 S I 1	カマド	(22.0)		(10.2)	ヨコナデノヘラケズリ	ヨコナデ/ハケメ	

第96図 土師器②

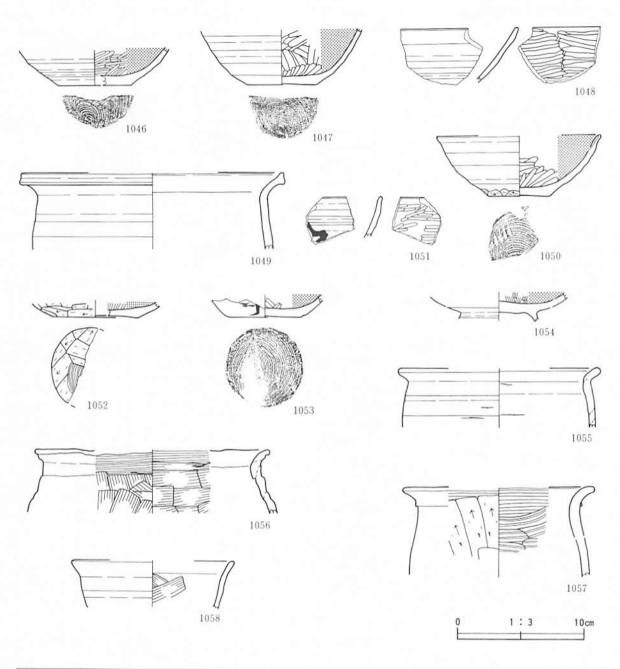


第97図 土師器③



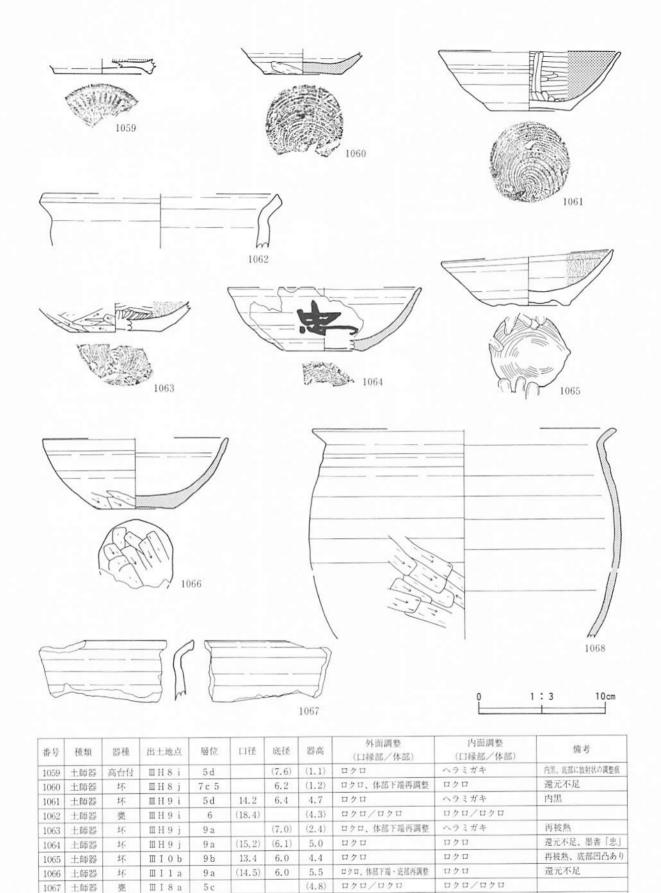
番号	種類	器種	出土地点	層位	口径	底径	器高	外面調整 (口縁部/体部)	内面調整 (口縁部/体部)	備考
1034	土師器	355	шноі	5 d		(7.5)	(6.3)	/ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	/ハケメ	
1035	土師器	坏	MH1g	5 b		5.4	(1.3)	ロクロ、体部下端・底部再調整	ロクロ	還元不足
1036	土師器	坏	Ⅲ H 3 h	5 d	15.0	6.7	5.4	ロクロ	ロクロ	内思
1037	土師器	坏	Ⅲ H 3 h	5 b	(14.8)	(4.3)	5.3	ロクロ	ロクロ	還元不足
1038	土師器	莞	шнзі	5 b	(19.6)		(7.5)	ヨコナデ/ヘラケズリ	ヨコナデ/ヘラナデ	輪積み痕
1039	土師器	385	шнз і	5 b	(17.8)		(5.5)	ヨコナデ/ヘラケズリ	ヨコナデ/ハケメ	
1040	土師器	高台付	Ⅲ H 4 i	5 b		(7.8)	(3.7)	ロクロ	ヘラミガキ	内黑
1041	土師器	高台付	ШН5 і	6	(15.8)		(5.5)	ロクロ	ヘラミガキ	内思
1042	土師器	坏	■ H 6 i	5 d		(6.0)	(1.6)	ロクロ、体部下端再調整	ロクロ	還元不足
1043	土師器	坏	шн6 і	9 a		5.4	(1.4)	ロクロ、体部下端再調整	ロクロ	還元不足
1044	土師器	甕	шн6 і	6	(18.0)		(3.5)	ロクロ/ロクロ	ロクロ/ロクロ・ヘラナデ	
1045	土飾器	売	III H 6 i	5 d			(3.0)	/ ヘラケズリ	/ハケメ	

第98図 土師器④



番号	種類	器種	出土地点	層位	口径	底径	50 Ind	外面調整 (口縁部/体部)	内面調整 (口縁部/体部)	備考
1046	土師器	坏	Ⅲ H 7 i	7 c 5		(5.7)	(2.9)	ロクロ	ヘラミガキ	内無
1047	土師器	坏	Ⅲ H 7 i	6	12.9	5.4	(4.3)	ロクロ	ヘラミガキ	内黒
1048	土師器	坏	шн7 і	9 b			(4.3)	ロクロ	ヘラミガキ	内黒
1049	土師器	瓷	шн7і	6	(20.5)		(6.0)	ロクロ/ロクロ	ロクロ/ロクロ	
1050	土師器	坏	ШН7ј	9 a	(12.8)	4.8	4.7	ロクロ、体部下端再調整	ヘラミガキ	内黒、内面剥落
1051	土師器	坏	ШН7ј	9 b			(3.7)	ロクロ	ヘラミガキ	内黒、墨書「忠?」
1052	土師器	坏	ШН7ј	9 b		(6.7)	(1.3)	ロクロ、体部下端・底部再調整	ヘラミガキ	内無
1053	土師器	坏	ШН7ј	7 d		5.8	(1.8)	ロクロ	ヘラミガキ	内黒、墨書「?」
1054	土師器	高台付	ШН7ј	9 i			(2.2)	ロクロ	ヘラミガキ	内黒
1055	土師器	差	ШН7ј	9 a	(15.5)		(4.6)	ロクロ/ロクロ	ロクロ/ロクロ	輪積み痕
1056	土師器	売	шн7ј	9 a	(18.2)		(5.0)	ヨコナデ/ヘラナデ	ヨコナデ/ヘラナデ	輪積み痕
1057	土師器	売	ШН7ј	9 a	(14.8)		(7.0)	ヨコナデ/ヘラケズリ	ヨコナデ/ハケメ	
1058	土師器	鉢	ШН7ј	9 a	(12.6)		(3.7)	ロクロ	ロクロ/ロクロ・ヘラナデ	

第99図 土師器⑤



第100図 土師器⑥

ロクロ/ロクロ・ヘラケズリ

ロクロ/ロクロ

還元不足か

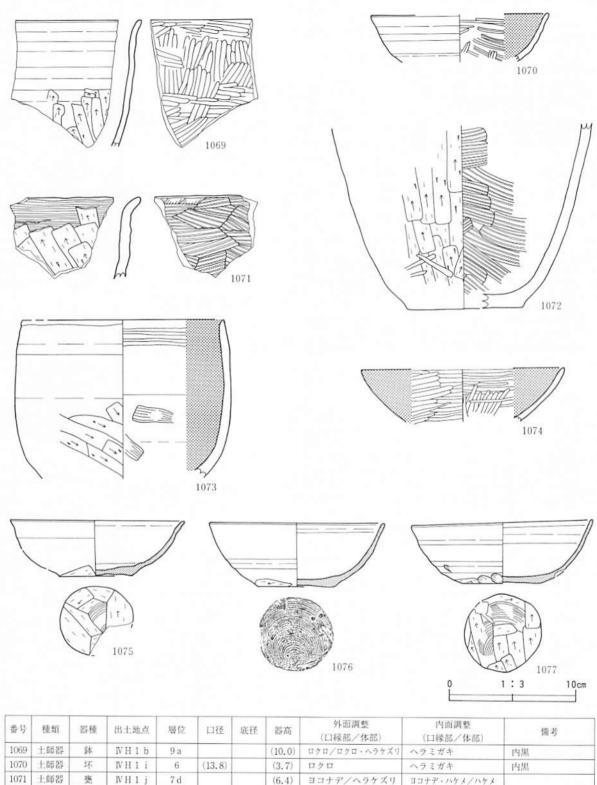
(16.5)

(23.7)

96

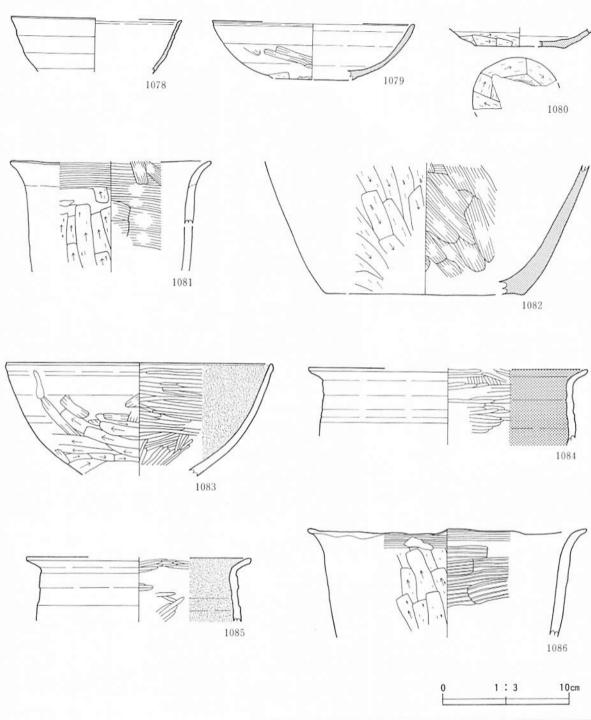
土铈器

NH 1 a



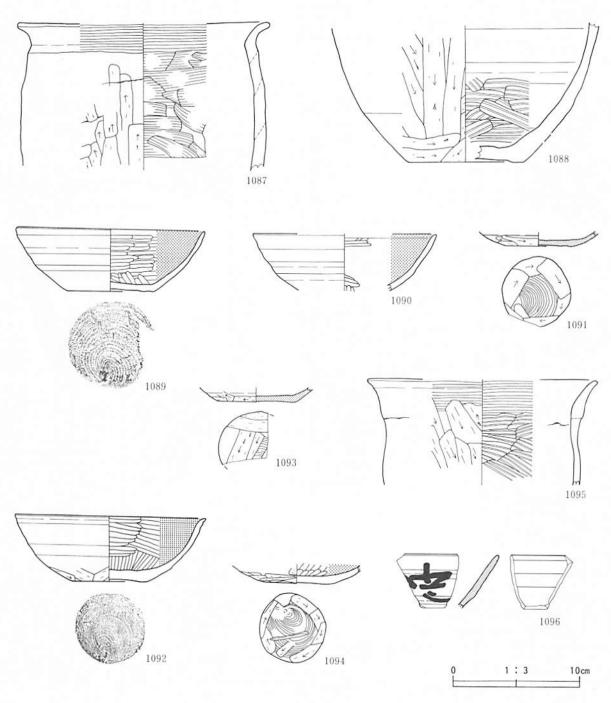
恶 IVH1j $7\,\mathrm{d}$ ヨコナデ/ヘラケズリ ヨコナデ・ハケメ/ハケメ (6.4)1072 土師器 売 NH2 i /ヘラケズリ・ヘラミガキ? (9.0) 1 r (14.3)1073 土師器 鉢 NH2 i (15.8) ロクロ/ロクロ・ヘラケズリ ヨコナデ?/ヘラナデ・ミガキ 1 r (12.4)内黑 1074 土師器 坏 NH2j 7 d (15.8) ヘラミガキ ヘラミガキ (4.1)内外面内黑 1075 土師器 坏 IV H 3 i 9 g 13.6 5.7 4.5 ロクロ、体部下端・底部再調整 ロクロ 還元不足 1076 土師器 坏 IV H 3 i $9\,\mathrm{g}$ 13.75.95.0 ロクロ、体部下端再調整 ロクロ 還元不足 1077 土師器 坏 NH3 i $9\,\mathrm{g}$ 14.0 6.0 4.9 ロクロ、体部下端・底部再調整 ロクロ 還元不足

第101図 土師器⑦



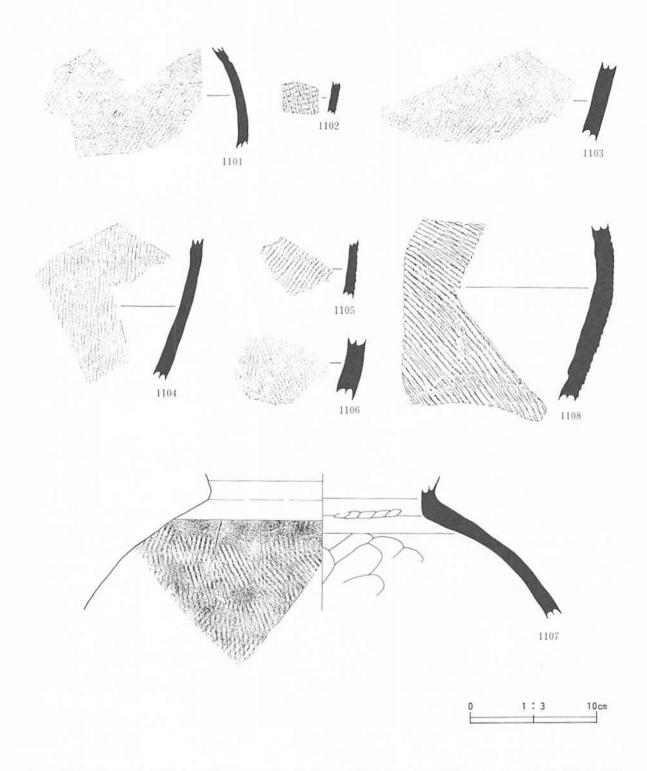
備考	内面調整 (口縁部/体部)	外面調整 (口縁部/体部)	器高	底径	口径	層位	出土地点	器種	種類	番号
還元不足	ロクロ	ロクロ	(4.1)		(13.4)	不明	IVH3 i	坏	土師器	1078
還元不足	ロクロ	ロクロ、体部下端再調整	(4.4)	(6.1)	(15.8)	9 g	NH3 i	坏	土師器	1079
還元不足	ロクロ	ロクロ、体部下端・底部再調整	(1.5)	(7.0)		9 f	IVH3 i	坏	土飾器	1080
輪積み痕	ヨコナデ・ヘラナデ/ヘラナデ	ヨコナデ/ヘラケズリ	(8.5)		(15.8)	9 g	NH3 i	班	土師器	1081
還元不足	/ヘラナデ	/ヘラケズリ	(10.3)	(15.5)		9 g	IVH3 i	芜	土師器	1082
再被熱	ヘラミガキ	ロクロ、体部再調整	(8.8)		(21.0)	9 g	IVH3 i	坏	土師器	1083
内黒	ヘラミガキ/ヘラミガキ	ロクロ/ロクロ	(6.0)		(21.8)	9 g	NH3 i	经本	土師器	1084
再被熱	ヘラミガキ/ヘラミガキ	ロクロ/ロクロ	(5.0)		(17.5)	9 g	NH3 i	鉢	土師器	1085
	ヨコナデ/ハケメ	ヨコナデ/ヘラケズリ	(8.5)		(21.8)	9 с	NH3j	売	土 60 25	1086

第102図 土師器®



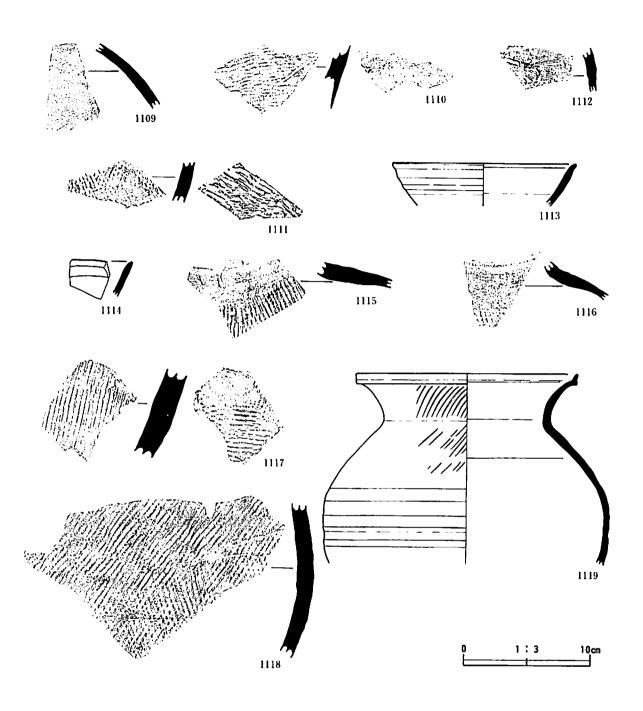
番号	種類	器種	出土地点	層位	口径	底径	容高	外面調整 (口縁部/体部)	内面調整 (口縁部/体部)	備考
1087	土師器	36	IVH3j	9 f	(19.6)		(11.5)	ヨコナデ/ヘラケズリ	ヨコナデ/ヘラナデ	輪積み痕
1088	土師器	355	IVH3j	9 f		(9.0)	(10.8)	/ロクロ・ヘラケズリ	/ロクロ・ハケメ	
1089	土師器	坏	IVH7i	5 b	14.7	6.9	5.0	ロクロ	ヘラミガキ	内黒
1090	土師器	坏	IVH7i	5 d	(14.4)		(4.5)	ロクロ	ヘラミガキ	内黑
1091	上師器	坏	IV I 1 a	9 b		5.2	(1.2)	ロクロ、体部下端・底部再調整	ロクロ	還元不足
1092	土師器	坏	WI1b	9 a	14.8	5.6	5.3	ロクロ、体部下端再調整	ヘラミガキ	内黒
1093	上師器	坏	IVI2a	9 c		6.0	(1.0)	ロクロ、体部下端・底部再調整	ロクロ	還元不足
1094	上師器	坏	トレンチ2	9 b		5.2	(1.5)	ロクロ、体部下端・底部再調整	ヘラミガキ	内黒
1095	土師器	遊	トレンチ3	9 a	(17.8)		(8.3)	ヨコナデ/ヘラケズリ	ヨコナデ/ハケメ	輪積み痕
1096	土師器	坏	不明	不明			(4.2)	ロクロ	ロクロ	還元不足、墨書「忠」

第103図 土師器⑨



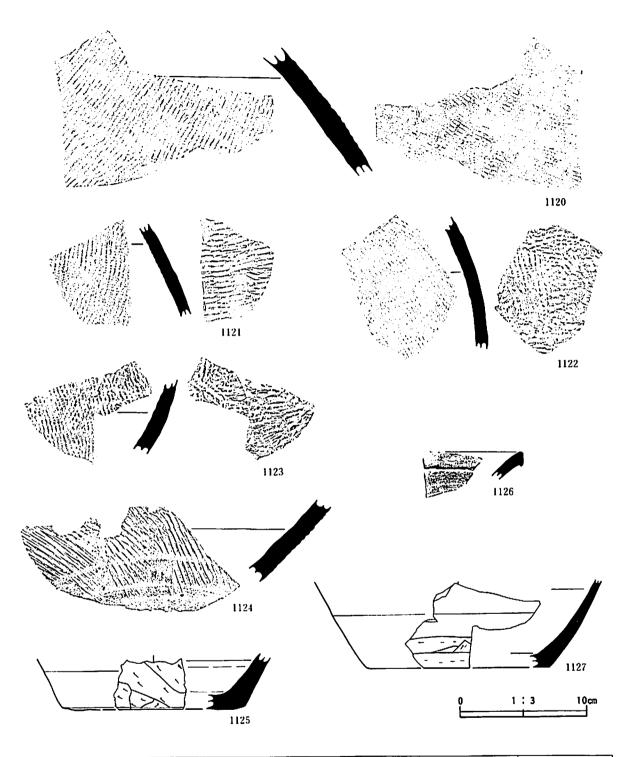
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	器而調整・年代	法量
1101	須恵器	19 P 236		꽰	体部	タタキメ、9~10C	
1102	須惠器	19 S D 2	埋土	3%	体部	タタキメ	
1103	須恵器	19 S D 3 Ⅲ H 4 a		亮	体部	タタキメ、9~10C	
1104	須恵器	19 S D 3 Ⅲ H 4 a		悪	体部	タタキメ、9~10C	
1105	須恵器	19SD9 IIH4j		莞	体部	タタキメ、9~10C	
1106	須恵器	19 S D 9 Ⅲ H 5 j		瓷	体部	タタキメ、9~10C	
1107	須恵器	19SD9 III9a	検出面	売	肩部	タタキメ、内面当て具のへこみ?	
1108	須恵器	19 S E 03南半	埋土上部	莞	体部	9 ~ 12 C	

第104図 須恵器①



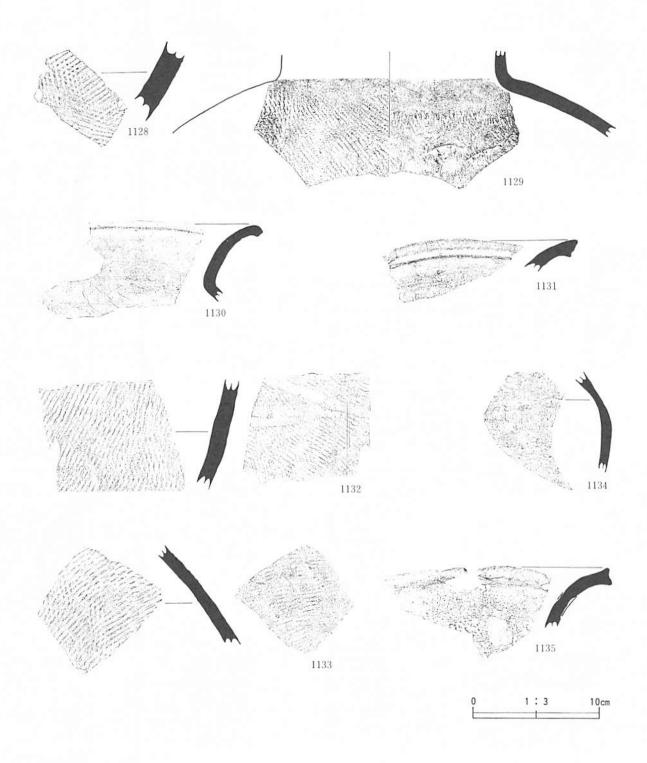
带号	極名	出土地点	層位	25 10	部位	器面調整・年代	法量
1109	須恵器	198 1 1 東半		燢	用部	9 ~10C	
1110	須惠器	19S I 1東半			体部	タタキメ、9~10C	
1111	須恵器	21 S I 1	カマド	築	体部	タタキメ、内面当で共復、9~12C	
1112	須恵器	ПНОЬ	NE	甕	体部	外面に自然釉、9~10C	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
1113	須惠器	шноі	5 d	坏	口~体部		□{£14.6
1114	須思器	MIIO i	5 d	坏	口線部	9 C か	
1115	須惠器	шноі	7 d	类	肩部	タタキメ、9~10C	
1116	須恵器	DHO i	5d	是	肩部	タタキメ、9~10C	
1117	須忠器	шно i	5 d	交	体部	タタキメ、当て其痕、9~10C	
1118	須惠器	шноі	7 d	空	体部	還元不足、タタキメ、9~10C	
1119	级边段	MHO j	9 b	瓷	体部	40層に同一側体あり、9~10C	口径17.7

第105図 須恵器②



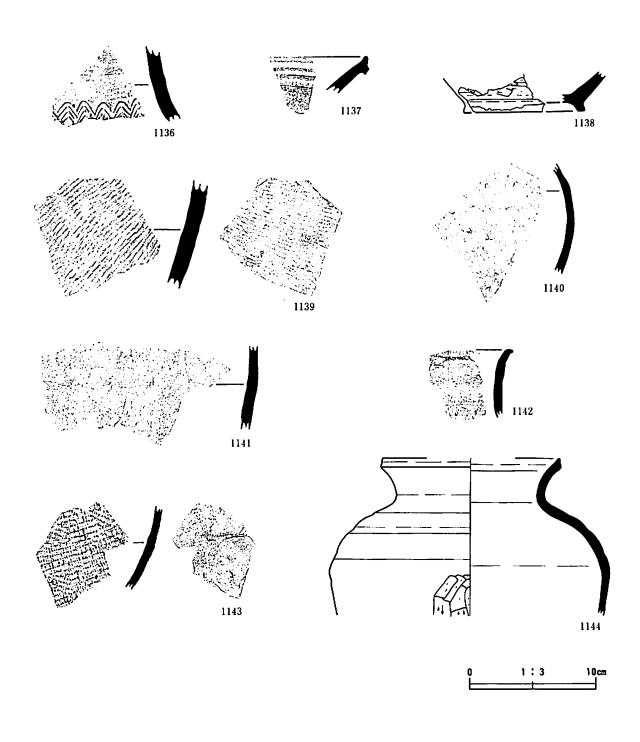
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	器面調整・年代	法量
1120	須恵器	шно ј	7 d	受	体部	タタキメ、当て具痕、9~10C	
1121	須忠器	MH2g	5 b	瓷	体部	タタキメ、内面に当具狼、9~10C	
1122	須忠器	D H 2 g	5 d	発	体部	タタキメ、内面に当具痕	
1123	須忠器	II H 2 g	5 b	発	体部	タタキメ、内面に当具痕、9~10C	
1124	須恵器	□ H 2 h	5 b	瓷	体部	タタキメ、9~12C	
1125	須恵器	Ш Н З g	5	瓷	底部	9~12C	底径(14.7)
1126	須忠器	ШНЗд	5	蹙	口经部	9~10C	<u> </u>
1127	須恵器	II H 3 g · 19 S K 24		党	体部	9 ~ 10C	底径 (14.4)

第106図 須恵器③



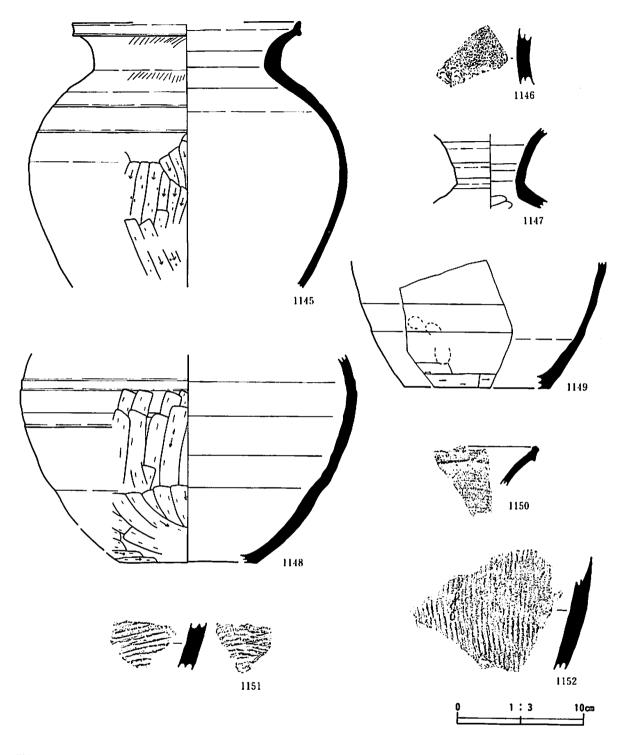
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	器面調整・年代	法量
1128	須恵器	Ⅲ H 3 h	5 b	38	体部	タタキメ、9~12C	
1129	須恵器	Ⅲ H 3 h	5 d	瓷	肩部	タタキメ、9~10C	
1130	須恵器	Ⅲ H 3 h	5 b	班	口縁部		
1131	須恵器	Ⅲ H 3 h	5 b	类	口縁部	9~10C	
1132	須恵器	Ⅲ H 3 h	5 b	売	体部	タタキメ、当て具痕、9~10C	
1133	須恵器	Ⅲ H 3 h	5	亮	体部	タタキメ、当て具痕、9~10C	
1134	須恵器	Ⅲ H 4 g	5 b	売	体部		
1135	須恵器	Ⅲ H 4 i	5 b	売	口綠部	9~10C	

第107図 須恵器④



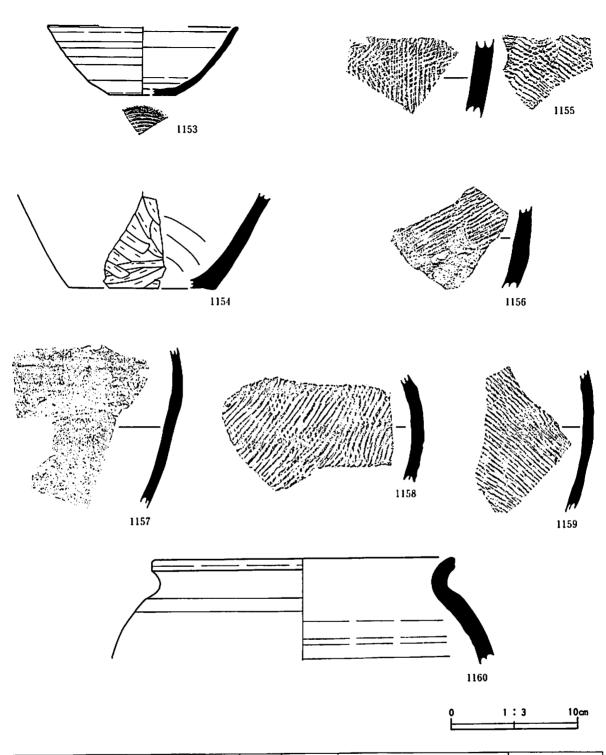
番号	種名	出土地点	層位	器位	部位	器面調整・年代	法量
1136	須恵器	ШН6 і		選	頭部	櫛描波状文、9~10℃	
1137	須恵器	0 H 7 i	5 c	瓷	口椽部	9~10C	
1138	須惠器	0 H 7 i	5 d	₩.	底部	高行、9~10C	成径 (9.6)
1139	須惠器	トレンチ3	5 b	类	体部	タタキメ、当て具痕、9~10C	
1140	須惠器	шн7 ј	7 d	*##	体部	9~10C	
1141	須恵器	шн7ј	9 a	甕	体部	十和田 a 火山灰直下、9~10C	
1142	須恵器	ШН7 ј	7 d	広口並	口綠部	9 ~ 10C	
1143	須忠器	шн7 ј	7 c 1		体部	9~10C	
1144	須惠器	mH8i	5 d	斑	体部		口径(14.1)

第108図 須恵器⑤



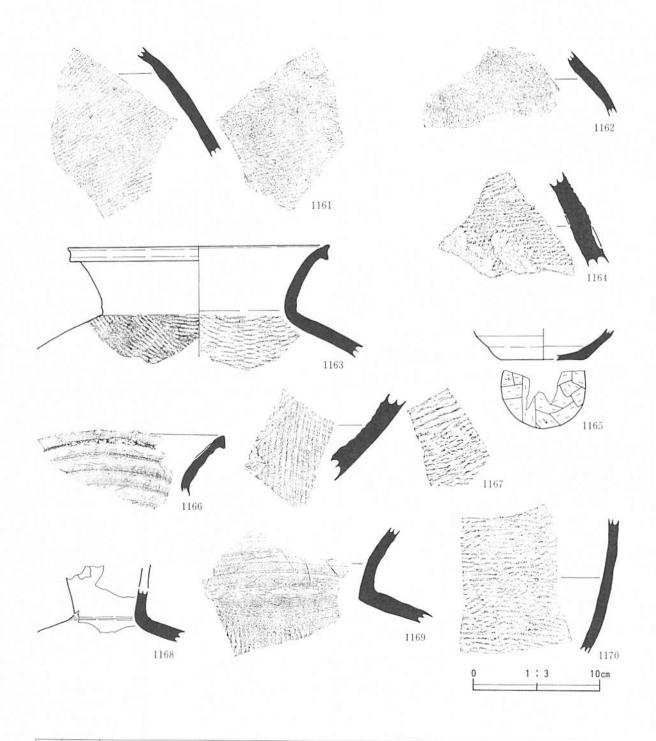
番号	00名	出土地点	層位	器種	部位	器面調整・年代	法量
1145	須惠器	III 8 i	5 d	类	底部欠		口径 (18.2)
1146	須忠器	11 H 8 i	5 d	翌	体部	9~10C	
1148	須恵器	ШН8 ј	9 a	- 空	体部	9~10C	底径 (10.8)
1149	須恵器	ШН8 ј	9 a	瓷	体~底部	9~10C	底径 (11.4)
1150	須恵器	ШН9 d	NT?	壺	口級部	9~10C	1202 (150.0)
1151	須恵器	M H 9 h	推私	堊	体部	9~10C	
1152	須恵器	MII 9 i	5 d	遻	(4:AE	9~10C	

第109図 須恵器⑥



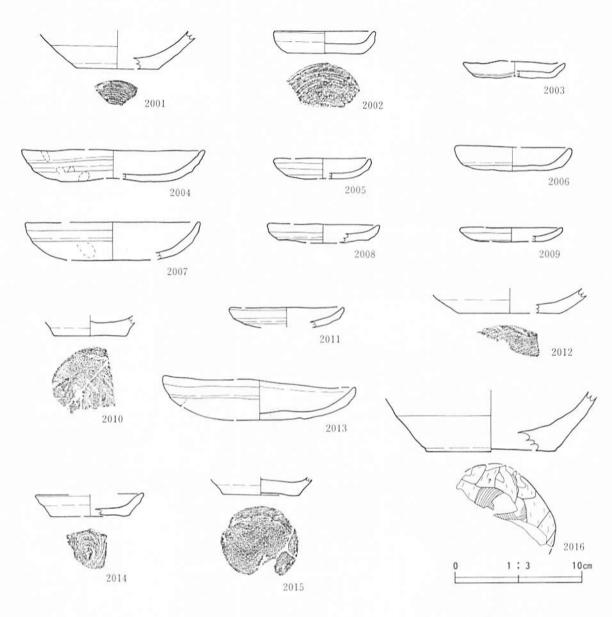
番号	租名	出土地点	層位	器種	部位	器面関盤・年代	法量
1153	須恵器	トレンチ2	5 d	坏	口縁部		口径(15.0)/改径(5.1)/器高5.4
1154	須忠器	шн9 ј	9 a	瓷	体~底部	9~12C	底径 (11.6)
1155	須恵器	шн9 ј	6	安	体部	タタキメ、当て具痕	
1156	須忠器	トレンチ2	5 c	奥	体部	タタキメ、9~12C	
1157	須恵器	11 7 a	推乱層一括	瓷	体部	9~10C	
1158	須恵器	NH1 i	5 d	斑	体部	タタキメ、9~10C	
1159	須恵器	IV II 1 i	5 d	类	体部	タタキメ、9~10C	
1160	須恵器	IVH 1 i	1 d	찞	口~月部	9~12C	口径 (24.0)

第110図 須恵器⑦



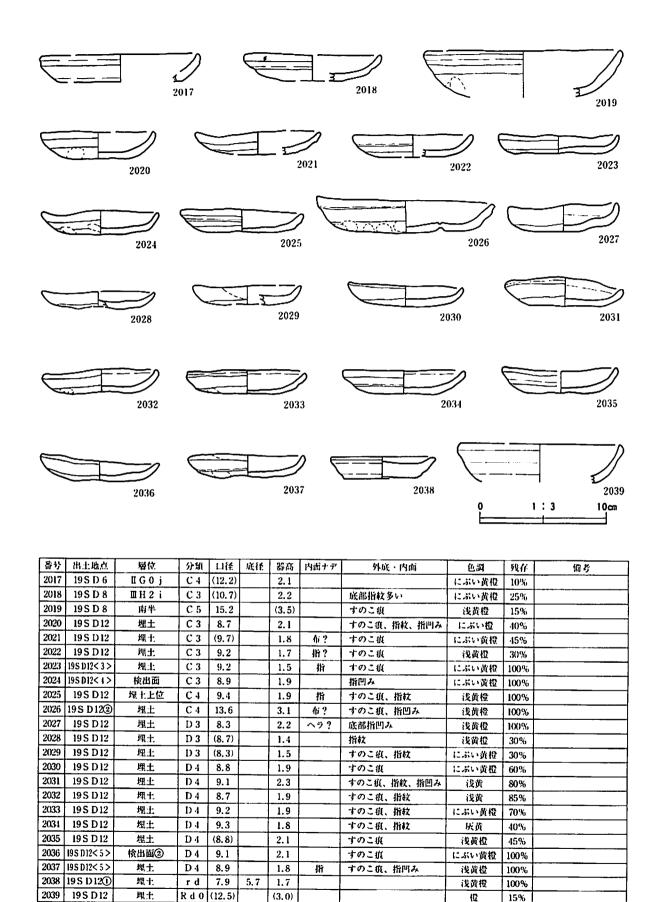
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	器面調整・年代	法量
1161	須恵器	IV H 1 i	1 r	器	体部	タタキメ、当て具痕、9~10C	
1162	須恵器	NH1j	7 c 5	壷?	肩部	9~10C	
1163	須恵器	NH2 j	7 d	売	口~用部	タタキメ、当て具痕、9-10C	口径21.0
1164	須恵器	IVH3h	l i	売	体部	9~12C (中世の可能性有り)	
1165	須惠器	IV H 3 i	1 q	坏	底部	9~10C	
1166	須恵器	IV H 3 i	1 q	类	口縁部	9 ~10C	底径 (6.6)
1167	須恵器	NH3 i	1 r	売	体部	タタキメ、当て具痕、9~10C	
1168	須恵器	№НЗј	1 r	長頚壺	到部	9~10C	10
1169	須恵器	IV H 3 j	1 r	3%	類部	9~10C	
1170	須恵器	トレンチ1	7 e ?	光	体部	タタキメ、9~10C	

第111図 須恵器®



番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2001	19 P 26	南半1層	Rd		(6.2)	(3.0)			にぶい機	15%	胎土に海面骨針
2002	19 P 124	坦土	r d	7.7	6.0	1.7			极	40%	13C以降のかわらけか?
2003	19 P 185	埋土	D 2	(7.8)		1.4			灰黄褐	25%	
2004	19 P 257	坦土	C 3	14.1		2.5	布?	すのこ痕、指紋、指凹み	灰白	35%	
2005	19 P 262	埋土	C 5	(7.4)		1.6			にぶい黄橙	20%	
2006	19 P 320	坦土:	D 3	8.8		1.9		すのこ痕	にぶい黄橙	70%	
2007	19 P 385	埋土	C 4	(13.6)		2.9		指紋	灰白	20%	
2008	19 P 476	埋土	C 3	(8.6)		1.4		指紋	浅黄橙	20%	
2009	19 P 483	埋土	D 4	(7.8)		1.1		指紋	厌黄	15%	
2010	19 S D 1	Ⅲ H 7 d ~ 9 e	r d		5.6	(1.3)		すのこ痕	橙	30%	
2011	19 S D 2	Ⅲ H 3 g ~ 3 h	C 5	(8.8)		(1.6)		指紋	浅黄橙	10%	
2012	19 S D 2	Ⅲ H 2 f	Rd		(7.8)	(2.0)		/s	にぶい黄橙	15%	
2013	19 S D 3		D 4	(15.0)		3.5		指紋	橙	55%	海綿骨針
2014	19 S D 3	Ⅲ G 4 j	r d	(8.3)	(6.0)	1.7			にぶい黄橙	20%	
2015	19 S D 3		Rd?		5.9	(1.4)			にぶい黄橙	35%	
2016	19 S D 3	Ⅲ G 4 i	手あぶ り?		(10.0)	(4.7)		糸切り後ヘラで調整	にぶい黄橙	35%	内面黒く変色

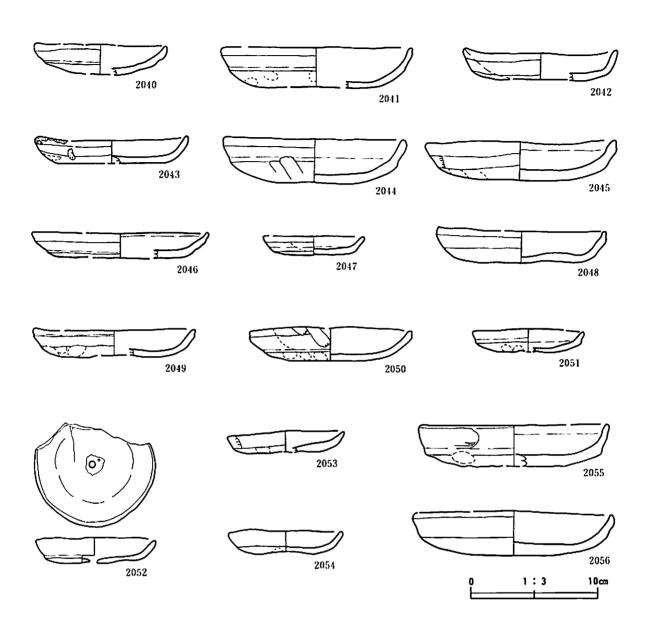
第112図 かわらけ①



第113図 かわらけ2

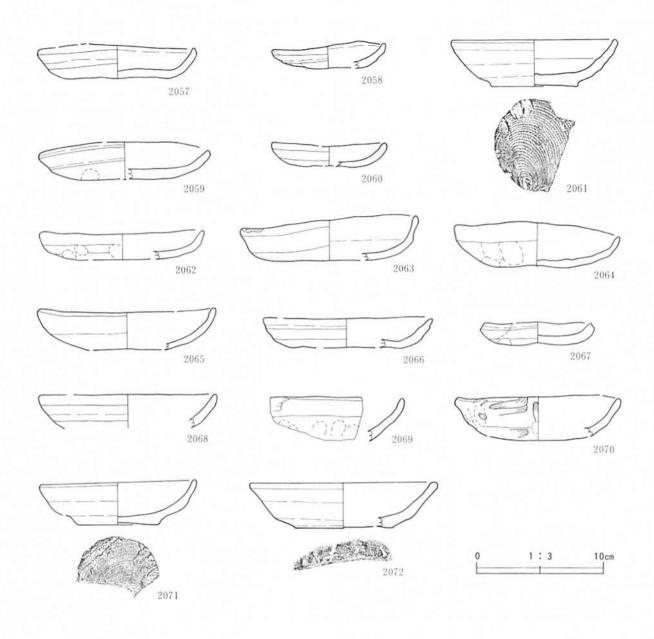
ŧQ

15%



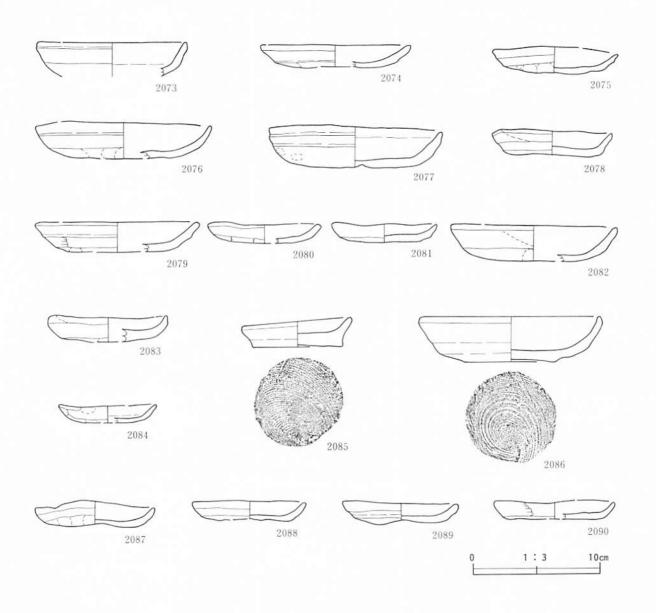
群号	出上地点	树化	分類	出從	成往	器商	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	領考
2040	19 S E 2	2档	D 4	(10, 2)		2.3	Ai?		设数	35%	
2041	19 S E 3	北半13層	C 3	(14.7)		3.1	拊	指紋、指凹み	にぶい黄橙	30%	
2042	19 S E 3	北半13層	C 3	11.8		2.5	有;?	すのこ狼、指門み	淡黄	30%	
2013	19 S E 3	南半埋土	C 3	(11.6)		2.1	折	指紋	にぶい黄橙	25%	内直 (外面の一起) タール付着
2044	19 S E 3	南半坝土上位	C 3	14.0		3.5	Ħ	すのこ④、指紋	にぶい黄橙	35%	
2015	19 S E 3	南半坝土上位	C 3	14.6		3.3	lli.	すのこ痕、指門み	浅黄橙	70%	
2016	19 S E 3	北半13層	C 4	(13,6)		2.1		指紋、指門み	浅黄橙	20%	
2047	19SE 3	北半13層	C 4	(7.8)		1.5	指?	指紋	灰黄	20%	
2048	19 S E 3	北半13層ほか	C 4	(12.9)		2.7	指	指紋、指凹み	灰黄	45%	
2019	19 S E 3	北半25層	C 4	(12.5)	i	2,2		すのこ痕、指紋多い	浅黄	20%	
2050	19 S E 3	南半塭土上位	C 4	(12.5)		2.6	4i	指凹み	灰黄	25%	
2051	19 S E 3	北半13頃	D 2	(8.5)		(1.8)		指凹み	にぶい黄橙	45%	
2052	19 S E 3	北半13層	D 3	9.2		1.9	指?	すのこ狼、指紋多い	灰黄	80%	底部中央に穿孔(境成後)
2053	19 S E 3	北半2・3層	D 3	9.0		1.6	指?	指凹み、指紋	灰黄褐	60%	
2054	19 S E 3	南半埋土上位	D 3	8.8		1.9	拊	指凹み、指紋	灰黄褐	65%	
2055	19 S E 3	北中	D 4	(14.5)		3.2	拊	指紋	にぶい位	45%	
2056	19 S E 3	北半13層	D 4	(15.3)		3.4	折		にぶい位	70%	

第114図 かわらけ③



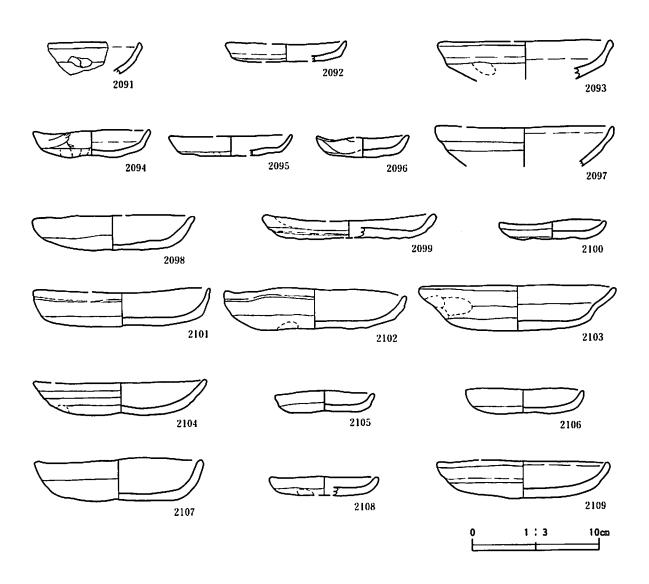
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器病	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2057	19 S E 3	北半13層	D 4	(12.1)		2.7		すのこ痕	にぶい黄橙	35%	
2058	19 S E 3	北半13層ほか	D 4	8.7		2.1	ヘラ	指凹み	にぶい黄橙	55%	
2059	19 S E 3	南半埋土上位	D 4	(13.0)		2.9	指	ヘラによる調整?	にぶい黄橙	45%	
2060	19 S E 3	南半埋土上位	D 4	(8.7)		1.9		指紋	浅黄橙	30%	
2061	19 S E 3	北半1層	R d 22	12.6	6.9	3.6			浅黄橙	55%	内面に植物の膜(漆?)
2062	19 S K 1	1層	C 3	12.6		2.3		すのこ痕、指紋	にぶい黄橙	35%	
2063	19 S K 1	北半1層	C 3	13.7		3.5	布	すのこ痕	にぶい黄橙	60%	口縁部にタール状物質付着
2064	19 S K 1	1層	D 2	12.6		3.5	ヘラ	指凹み	浅黄橙	95%	
2065	19 S K 1	1階	D 4	(13.5)		3.2			にぶい黄橙	20%	
2066	19 S K 3		C 3	(13.0)		2.4		指凹み、指紋	灰白	15%	
2067	19 S K 3	埋土	C 4	(8.2)		1.7	指	すのこ痕	にぶい黄橙	15%	
2068	19 S K 17	2層	C 3	(12,0)		(2.6)			にぶい黄橙	10%	
2069	19 S K 17	2層	D 4			(3.3)	指?	指凹み、指紋	浅黄橙	10%	
2070	19 S X 1	ⅢH5bほか	D.4	(12.5)		3.5	指	ヘラの粗い調整	浅黄橙	30%	
2071	19 S X 1	Ⅲ H 5 b	R d 10	12.0	6.2	3.5		指紋	にぶい黄橙	55%	
2072	19 S X 1	Ⅲ H 5 b	R d 10	14.3	(7.6)	3.5			にぶい黄橙	40%	

第115図 かわらけ④



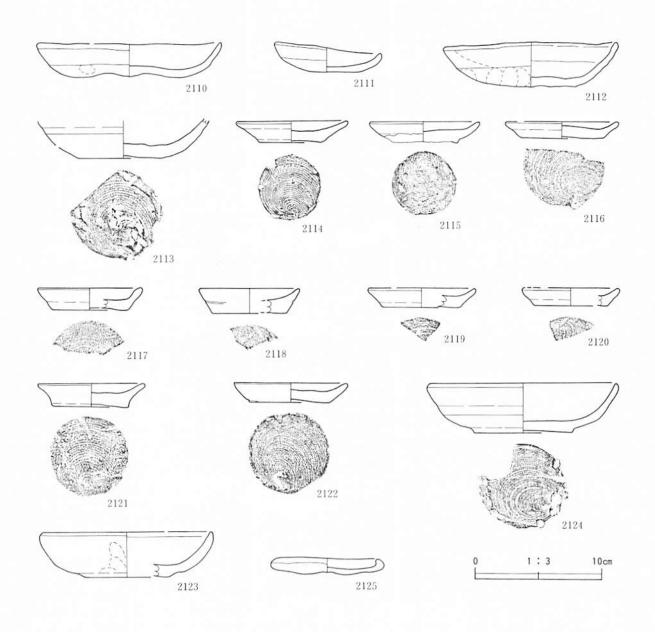
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	部前	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2073	19 S X 5		C 4	(14, 3)		(2.6)		指門み	にぶい黄橙	15%	
2074	19 S X 5		D 4	(11.7)		1.8	排	すのこ痕、指凹み	にぶい橙	15%	
2075	19 S X 6		C 3	(9.6)		2.1	布?	すのこ痕、指凹み、指紋	にぶい黄橙	40%	
2076	19 S X 6		C 3	(13.5)		2.8	布?	すのこ痕、指凹み	にぶい黄橙	25%	内面にタール状物質付着
2077	19 S X 6		C 4	13.3		3.3	指?	すのこ痕、指紋	にぶい黄橙	100%	
2078	19 S X 6		C 5	9.2		2.0	ヘラ・指	すのこ痕	揭灰	100%	
2079	19 S X 6		C 5	(12.7)		2.3			褐灰	20%	
2080	19 S X 6		D 3	(8.6)		1.6	ヘラ?	ヘラ?、指紋	にぶい黄橙	35%	
2081	19 S X 6		D 3	8.1		1.5			にぶい黄橙	40%	
2082	19 S X 6		D 4	(12.8)		2.8	ヘラ	すのこ痕、指凹み	にぶい黄橙	20%	
2083	19 S X 6		D 4	(9.1)		(2.1)	布?	すのこ痕、指紋	浅黄橙	35%	
2084	19 S X 6		D4	(7.4)		1.5		底部指紋多い	灰黄褐	40%	
2085	19 S X 6		r d	8.4	7.0	2.2		糸切り明瞭	浅黄橙	100%	
2086	19 S X 6		R d 10	13.8	6.7	3.5		糸切り雑	にぶい黄橙	100%	
2087	19 S X 7		C 3	9.1		2.0		すのこ痕、指凹み、指紋	浅黄橙	100%	
2088	19 S X 7		C 3	8.7		1.6		すのこ痕、指紋	にぶい黄橙	75%	
2089	19 S X 7		C 3	8.8		1.9		すのこ痕、指紋	にぶい黄橙	100%	
2090	19 S X 7		D 3	(9.3)		1.5		すのこ痕、指凹み	灰黄	45%	

第116図 かわらけ⑤



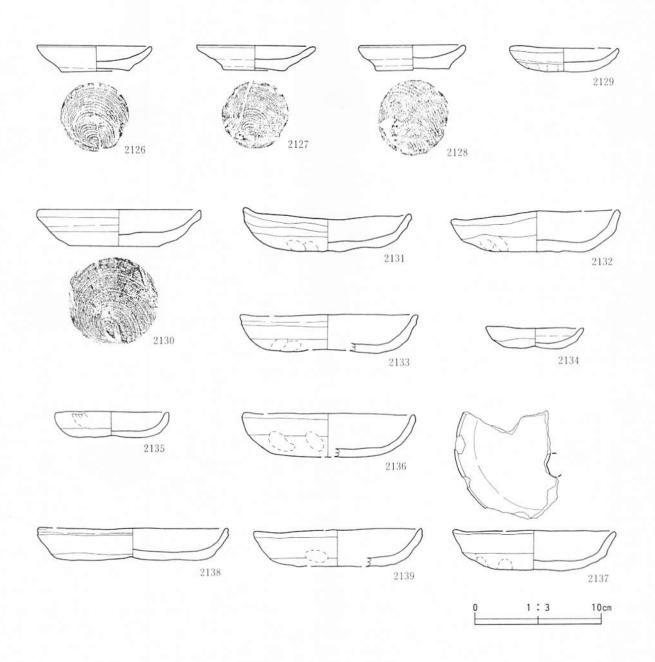
番号	出土地点	層位.	分組	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	領考
2091	21 P 42	埋土	D 4			(2.5)			にぶい黄橙	15%	内外面タール状物質付着
2092	21 S K 5	2暦	D 2	(9,3)		1.6		すのこ痕	にぶい黄橙	25%	
2093	21 S K 6	埋土	D 4	(13.3)		(3.0)	47 ?	指凹み、指紋	にぶい黄橙	20%	
2094	21 S K 7	埋土.	D 2	9.0		2, 1	布?	指凹み、指紋多い	黄灰	50%	
2095	21 S K 7	坦土	D 2	(9.5)		1.6	指?	指紋	黄灰	25%	
2096	21 S K 7	1層	D 4	(7.0)		1.8		指紋、継ぎ目	にぶい黄橙	30%	内面タール状物質少
2097	21 S K 14	埋土	C 3	(13, 6)		(3.1)	拚?	指門み	浅黄橙	15%	
2098	II II 0 g	5	D 3	(12, 5)		2.8			にぶい黄松	40%	
2099	шноі	5 d	C 3	(13.3)		1.9	Иí	すのこ旗、指紋	にぶい黄橙	30%	
2100	шноі	5 d	C 3	8.1		1.6	布?	すのこ仇	にぶい黄橙	55%	
2101	шно i	5 d	C 4	(13.7)		2.9		すのこ痕	浅黄橙	40%	
2102	M HO i	5 d	C 4	14.9		3.2		すのこ痕、指凹み	にぶい黄橙	100%	
2103	шноі	5 b	C 5	14.4		3.5	^9?	すのこ痕?、指凹み	浅黄橙	55%	
2104	шно і	5 d	C 5	(13.4)		2.7	4 ?	底部指門み多い	设货权	45%	
2105	шноі	5 d	D 2	7.7		1.8		すのこ仏	灰黄褐	50%	
2106	шноі	5 d	D 3	9.2		2.0	4i?	すのこ痕	灰白	60%	内外面タール状物質付着
2107	шноі	5 d	D 3	13.0		3.2	布?	指紋	浅黄橙	100%	
2108	ШНОi	5 d	D 3	(8.3)		1.5		指門み	にぶい黄橙	45%	
2109	Ш НО і	5 d	D4	(13.2)		3.1			にぶい黄橙	75%	

第117図 かわらけ⑥



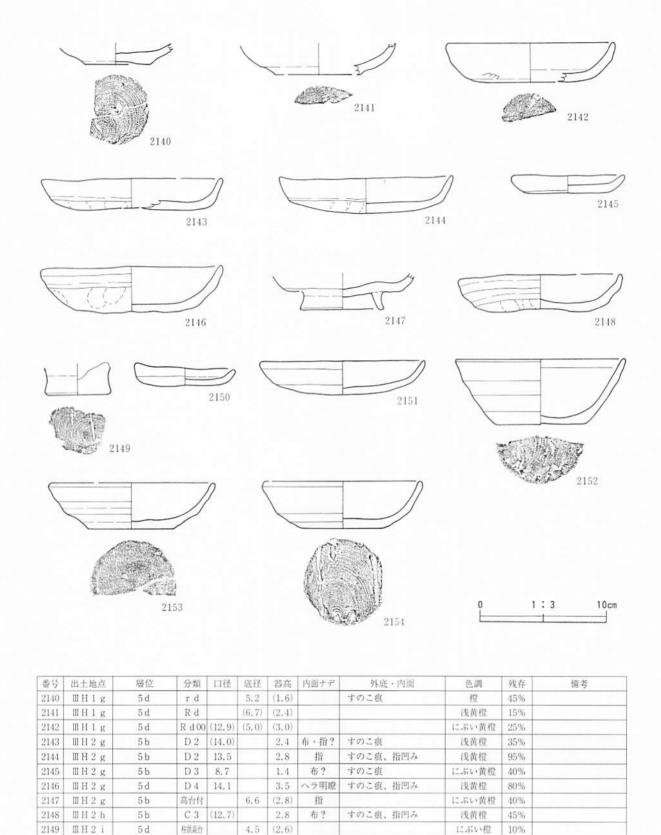
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2110	Ⅲ H 0 i	5 d	D 4	(14.3)		2.7	ヘラ	すのこ痕、指凹み	にぶい黄橙	30%	
2111	⊞H0i	5 d	D 4	8.3		2.3		すのこ痕	にぶい黄橙	90%	
2112	Ⅲ H 0 i	5 d	D 4	13.4		3.6	指	指凹み	浅黄橙	80%	
2113	Ⅲ H O i	6	Rd		6.6	(2.9)		すのこ痕	浅黄橙	45%	
2114	II H O i	6	r d	8.7	4.8	1.7			にぶい橙	100%	
2115	⊞H0i	7 a	r d	8.5	5.1	1.6			浅黄橙	95%	底部摩滅
2116	Ⅲ H 0 i	5 d	r d	(8.8)	6.2	1.3			にぶい橙	40%	
2117	Ⅲ H 0 i	5 d	r d	8.0	5.9	1.8			にぶい黄橙	40%	
2118	Ⅲ H O i	5 d	r d	7.8	(5.8)	2.0			にぶい橙	15%	
2119	⊞H0i	5 d	r d	(8.3)	(6.1)	1.5			橙	20%	
2120	II H O i	5 d	r d	(7.4)	(5.7)	1.4			にぶい黄橙	20%	
2121	II H O i	5 d	r d	8.3	6.0	1.9			にぶい黄橙	90%	海綿骨針含む
2122	Ⅲ H 0 i	5 d	r d	8.8	6.3	1.5			にぶい黄橙	100%	
2123	Ⅲ H 0 i	5 d	R d 01	(13.3)	(6.6)	3.6			浅黄橙	35%	
2124	m H O i	5 d	R d 22	14.7	7.7	3.9			浅黄橙	60%	
2125	m H O i	5 d	内折れ	8.0		1.3		すのこ痕	にぶい黄橙	50%	

第118図 かわらけ⑦



番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2126	ШНОј	6	r d	8.9	5.3	2.1			浅黄橙	100%	
2127	ШНОј	6	r d	9.2	4.9	2.0			にぶい黄橙	80%	
2128	ШНОј	6	r d	8.2	5.7	2.0			にぶい黄橙	100%	
2129	■ H 1 f	5	D 4	(8.4)		2.1		すのこ痕、指紋	掲灰	65%	
2130	ⅢH1f	5	R d 23	12.6	6.8	2.9	布?	すのこ痕	橙	90%	
2131	Ⅲ H 1 g	5 b	C 4	13.0		3.3	ヘラ明瞭	指凹み、指紋多い	浅黄橙	85%	
2132	Ⅲ H 1 g	5 d	C 4	13,0		3.2	ヘラ・指	すのこ痕、指凹み	浅黄橙	90%	
2133	Ⅲ H 1 g	5 d	C 4	(13.7)		3.0	指	すのこ痕、指凹み	浅黄橙	20%	
2134	Ⅲ H 1 g	5 d	D 3	7.5		1.6			浅黄橙	35%	内外面タール状物質付着
2135	Ⅲ H 1 g	5 d	D 3	8.8		2.0	指	すのこ痕、指紋	にぶい橙	50%	
2136	Ⅲ H 1 g	5 d	D 4	(13.3)		3.4	ヘラ	すのこ痕、指凹み	浅黄橙	30%	
2137	Ⅲ H 1 g	5 d	D 4	(12.4)		3.1		すのこ痕、指凹み	にぶい黄橙	35%	内外面タール状物質付着、底部穿孔
2138	∐H1g	5 d	D 4	(14.7)		2.5		すのこ痕、指紋	灰白	40%	
2139	Ⅲ H 1 g	5 d	D 4	(13.0)		2.9		すのこ痕、指凹み	松	30%	

第119図 かわらけ®



第120図 かわらけ9

ヘラ・布

継ぎ目

すのこ痕

すのこ痕、指紋

浅黄

浅黄橙

にぶい黄橙

にぶい黄橙

橙

100%

45%

40%

45%

50%

土師器坏?

胎土なめらか

5

5

5

5

5

2150

2151

2152

2153

2154

Ⅲ H 3 g

Ⅲ H 3 g

ШН3 g

ШНЗg

ШНЗg

D 3

D 4

R b 01

R d 02 12.8

R d 23 (12.2)

7.6

12.8

13.1

7.0

6.7

6.4

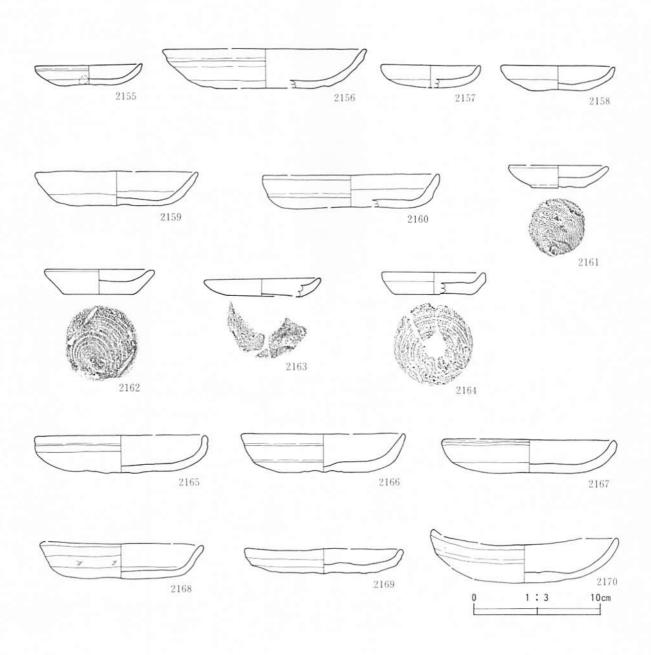
1.9

2.6

5.0

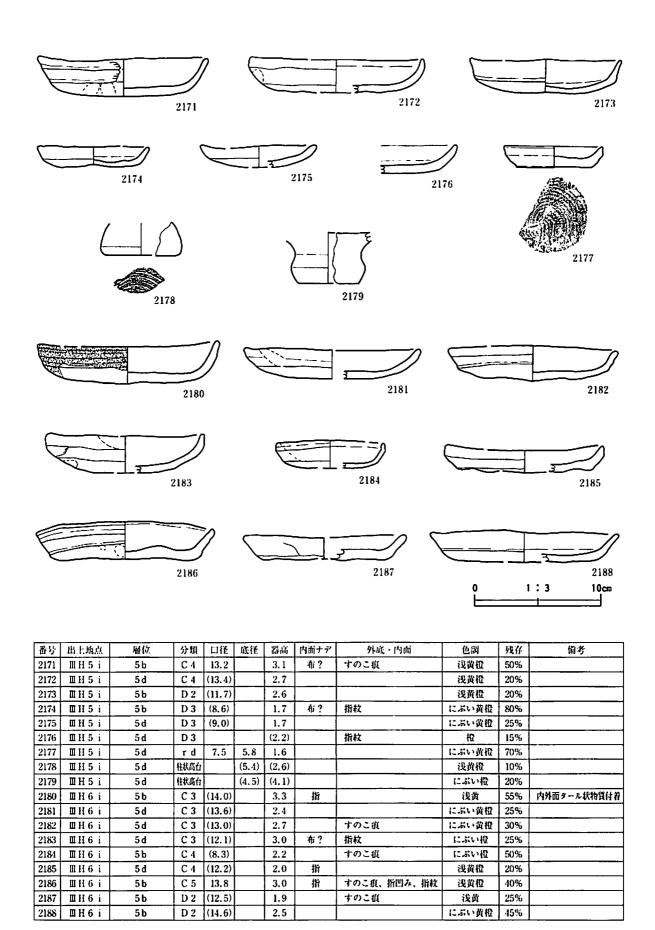
3.5

3,6

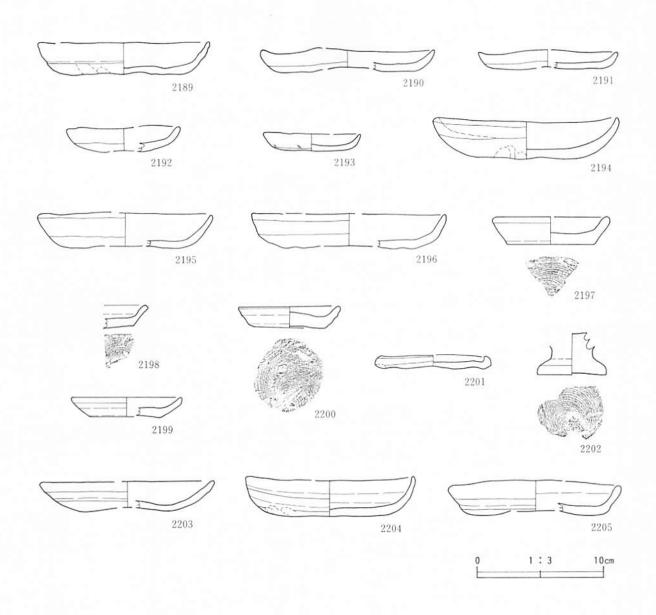


番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2155	Ⅲ H 3 h	5 b	C 4	8.3		1.6		The state of the s	浅黄橙	50%	
2156	Ⅲ H 3 h	5 b	C 4	(15.8)		3.0			にぶい黄橙	30%	内外面タール状物質付着
2157	Ⅲ H 3 h	5 b	D 3	7.6		1.8		すのこ痕	浅黄橙	45%	
2158	Ⅲ H 3 h	5 b	D 3	8.8		1.9	ヘラ?		浅黄橙	50%	
2159	Ⅲ H 3 h	5 d	D 3	(12.7)		1.7		すのこ痕	にぶい黄橙	40%	
2160	Ⅲ H 3 h	5 b	D4	(13.7)		2.6		すのこ痕	浅黄橙	40%	
2161	Ⅲ H 3 h	5 b	r d	(7,7)	4.2	1.7		すのこ痕	浅黄橙	50%	
2162	Ⅲ H 3 h	5 b	r d	8.3	5.5	1.9		すのこ痕	にぶい黄橙	75%	
2163	Ⅲ H 3 h	5 b	r d	(9.1)	(5.8)	1.5			松	40%	
2164	Ⅲ H 3 h	5	r d	(7.9)	(6.1)	1.8			浅黄松	80%	
2165	Ⅲ H 4 i	5 b	C 3	13.2		3.0	布?	指紋	灰黄	45%	
2166	Ⅲ H 4 i	5 b	C 4	(12.7)		3.0		すのこ痕	浅黄橙	40%	
2167	Ⅲ H 4 i	5 b	C 5	(13.4)		2.7	布?	すのこ痕	にぶい黄橙	60%	
2168	Ⅲ H 5 i	5 d	C 3	(12.5)		2.9		すのこ痕	浅黄橙	55%	
2169	Ⅲ H 5 i	5 d	C 3	(12.1)		2.0			にぶい黄橙	30%	
2170	шн5 і	5 d	C 3	(14.3)		4.2		剥落あり	灰黄	70%	

第121図 かわらけ⑩

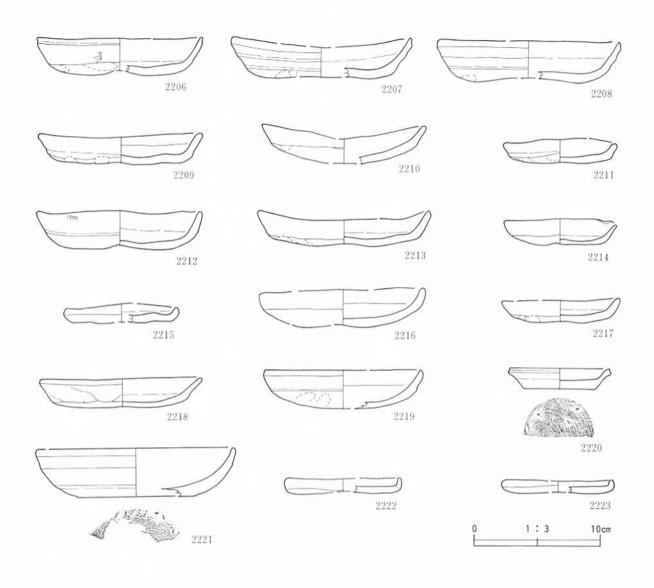


第122図 かわらけ⑪



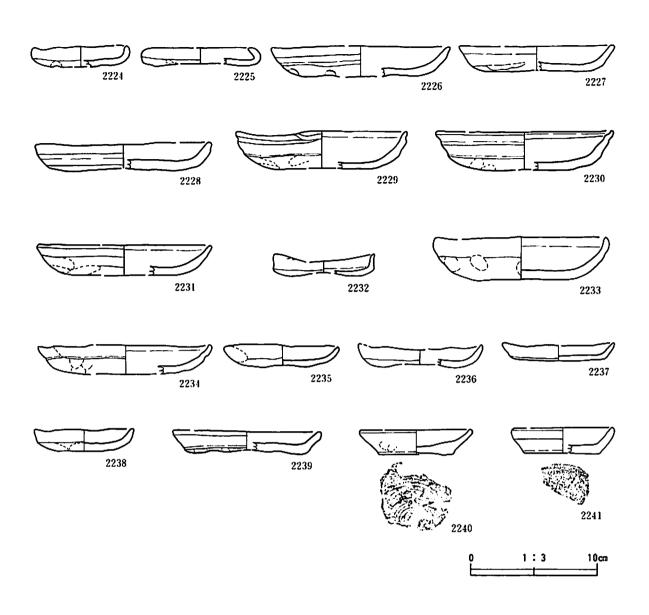
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2189	Ⅲ H 6 i	5 d	D 3	(13.3)		2.5	布	すのこ痕、指紋	浅黄橙	20%	
2190	Ⅲ H 6 i	5 d	D 3	(13.4)		1.9			浅黄橙	20%	
2191	■ H 6 i	5 d	D 3	(10.8)		1.5			浅黄橙	35%	
2192	Ⅲ H 6 i	5 d	D 3	(8.7)		(2.0)			浅黄橙	25%	内外面タール状物質付着
2193	III H 6 i	5 d	D 3	(7.5)		1.5			にぶい黄橙	35%	
2194	Ⅲ H 6 i	5 d	D 4	14.3		3.3		指凹み	にぶい黄橙	100%	内外面タール状物質付着
2195	Ⅲ H 6 i	5 d	D 4	(13.5)		2.8			にぶい黄橙	30%	
2196	Ⅲ H 6 i	5 d	D 4	(15.1)		2.7		すのこ痕	にぶい黄橙	25%	
2197	■ H 6 i	5 d	r d	8.8	6.9	2.1			にぶい黄橙	25%	
2198	Ⅲ H 6 i	5 d	r d			(1.7)			淡黄	20%	
2199	■ H 6 i	5 d	r d	8.5	(5.4)	1.6			にぶい黄橙	30%	
2200	Ⅲ H 6 i	5 d	r d	7.8	5.5	1.7			浅黄橙	90%	
2201	Ⅲ H 6 i	5 d	内折れ	8.2		1.1			浅黄橙	30%	
2202	Ⅲ H 6 i	5 d	柱状高台		5.3	(3.3)			にぶい黄橙	35%	
2203	шн7 і	5 b	C 3	(13, 5)		2.3		すのこ痕	にぶい黄橙	40%	内面タール状物質付着
2204	Ⅲ H 7 i	5 b	C 3	(13.0)		3.1		すのこ痕	におい黄橙	40%	
2205	шн7і	5 d	C 3	(13.2)		(2.7)		すのこ痕	浅黄	35%	

第123図 かわらけ⑫



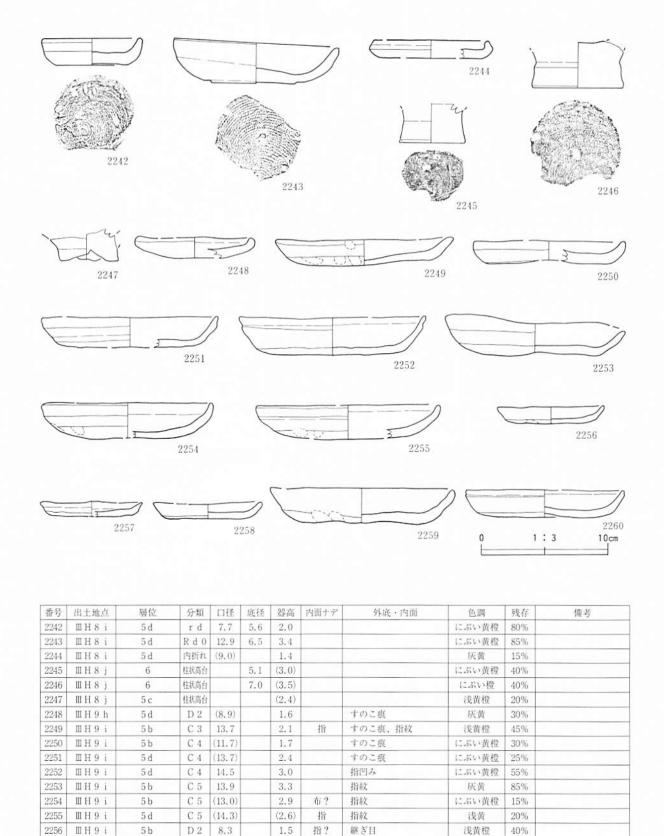
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器所	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2206	Ⅲ H 7 i	5 c	C 4	(12.9)		(3.0)	布?	指凹み	浅黄橙	30%	
2207	ШН7 і	5 b	C 5	(14.0)		3.2			没黄橙	35%	
2208	Ⅲ H 7 i	5 d	C 5	(14.2)		3.2			浅黄橙	45%	
2209	ШН7 і	5 b	D 2	12.7		2.5		すのこ痕、指凹み	浅黄橙	60%	
2210	Ⅲ H 7 i	5 b	D 2	(12.7)		(3.0)		すのこ痕	にぶい黄橙	35%	
2211	Ⅲ H 7 i	5 b	D 2	(8.6)		2.0		指紋	灰黄	50%	
2212	Ⅲ H 7 i	5 d	D 2	12.8		3.0		すのこ痕	にぶい黄橙	95%	
2213	Ⅲ H 7 i	5 d	D 2	(13.3)		2.8	布?	継ぎ目	にぶい黄橙	55%	内面タール状物質付着
2214	Ⅲ H 7 i	5 b	D 3	8.7		2.0			灰白	95%	
2215	Ⅲ H 7 i	5 d	D 3	(8.7)		1.6			灰黄	30%	
2216	Ⅲ H 7 i	5 d	D 3	(12.7)		3.0	布?	すのこ痕、指紋	灰黄	60%	
2217	Ⅲ H 7 i	5 d	D 3	(9.1)		2.0		すのこ痕、継ぎ目	灰黄	80%	
2218	Ⅲ H 7 i	5 d	D 4	12.6		2.4	指	すのこ痕、継ぎ目	浅黄橙	100%	
2219	Ⅲ H 7 i	5 b	D 4	(12.2)		3.0		継ぎ目、指凹み	浅黄橙	40%	
2220	Ⅲ H 7 i	5 d	r d	7.8	5.7	1.6			浅黄橙	50%	
2221	Ⅲ H 7 i	5 d	R d 02	(15.5)	(6.0)	3.7		すのこ痕?	におい橙	40%	
2222	□ H 7 i	5 b	内折れ	(9.4)		1.3			灰黄	30%	
2223	■ H 7 i	5 b	内折れ	(8.4)		1.1			灰黄	25%	

第124図 かわらけ⑬



番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色岡	现任	備考
2224	UH7 i	5 d	内折れ	(7.4)		1.6		指紋	にぶい黄橙	25%	
2225	0H7i	5 d	内折れ	(8.5)		1.4			褐灰	20%	
2226	DH8 i	5 d	C 3	(13.8)		2.4		爪のような跡	灰黄	40%	
2227	UH8 i	5 d	C 3	(12.0)		2.1		練乳目	灰黄	30%	
2228	MH8 i	5 d	C 3	(13.6)		2.2		日き郷	灰黄	45%	
2229	M H 8 i	6	C 4	(13, 2)		3.0	ヘラ?	指紋	にぶい黄橙	40%	
2230	D H 8 i	5 d	C 5	(13.7)		3.1	1i?	すのこ似	灰黄	30%	
2231	D H 8 i	5 d	C 5	(13.4)		2.5		すのこ痕、指門み	灰黄	20%	
2232	U H8 i	5 đ	D 2	(7.8)		(1.8)			灰黄	20%	
2233	U H8 i	5 d	D 3	(13.4)		3.4		指紋	浅黄橙	20%	
2234	MH8 i	5 d	D 3	(13, 5)		2.3		継ぎ目、指紋	灰白	15%	
2235	1118 i	5 d	D 3	8.9		1.9		すのこ低	にぶい黄橙	95%	
2236	DH8 i	5 d	D 3	(9.6)		(1.8)			灰黄	25%	
2237	шн8 і	5 d	D 3	(8, 6)		1.5			灰黄	35%	
2238	шн8і	5 d	D 3	7.6		1.7		指紋	灰黄	90%	
2239	D H 8 i	5 b	D4	(11,5)		1.7	ヘラ	指紋	浅黄橙	20%	
2240	MH8 i	5 d	r d	(8,7)	5.8	2.0			にぶい黄橙	55%	
2241	MH8 i	5 d	r d	(7.8)	(5.8)	2.0			にぶい黄橙	20%	

第125図 かわらけ⑭



第126図 かわらけ⑮

抬

ヘラ

継ぎ目

すのこ痕、指紋

すのこ痕、指紋

灰黄

浅黄橙

浅黄橙

にぶい黄橙

35%

80%

75%

40%

内面にケール状物質の黒斑あり

Ⅲ H 9 i

Ⅲ H 9 i

ШН9 і

Ⅲ H 9 i

2257

2259

2260

5 d

 $5 \, \mathrm{d}$

5 d

5 b

(7.8)

(8.3)

(14.4)

12.2

D 2

D 3

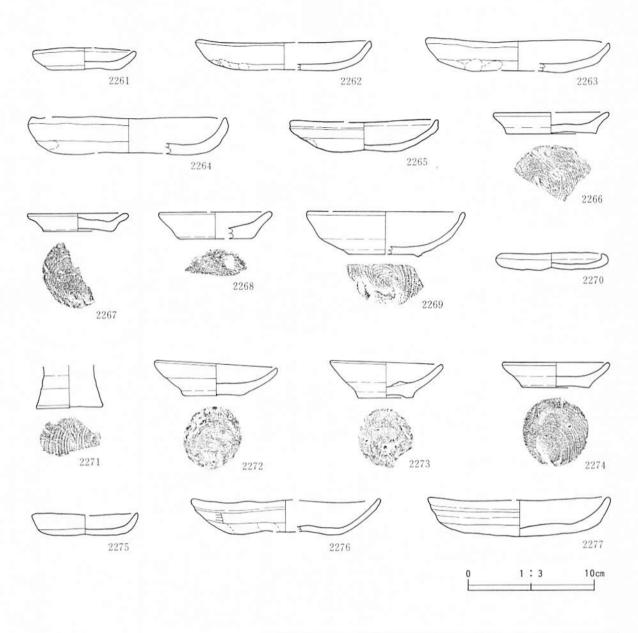
D 4

1.3

1.3

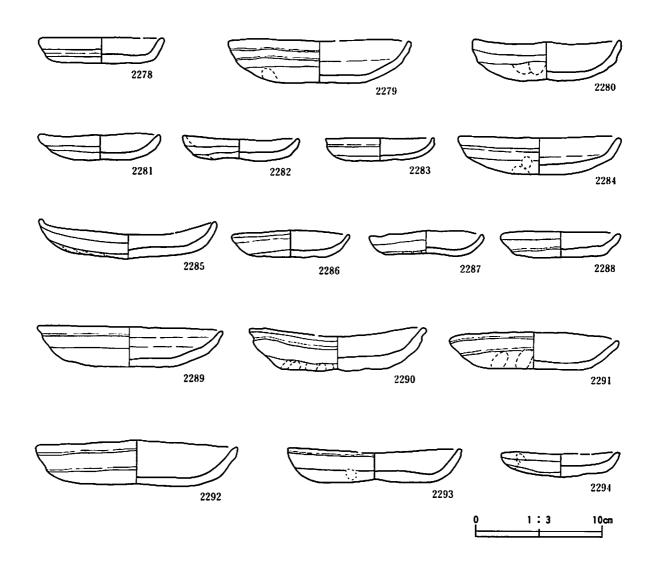
2.8

2.1



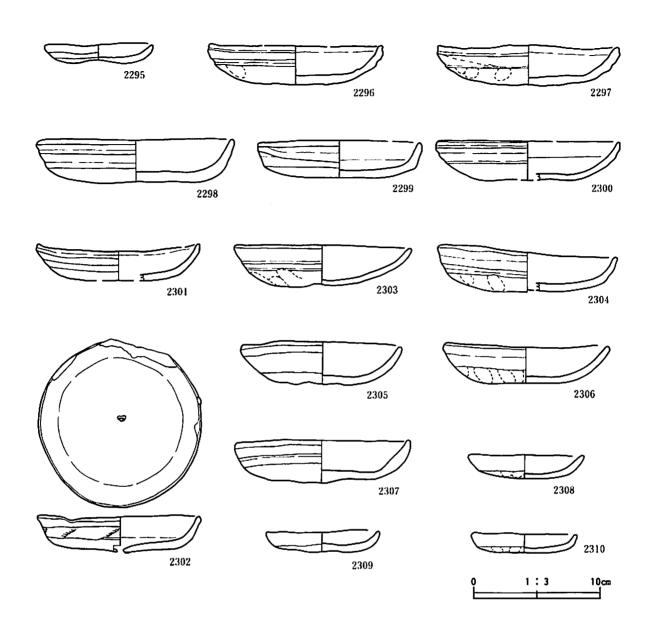
番号	出土地点	层位	分類	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2261	Ⅲ H 9 i	5 b	D 4	7.9	5.5	1.8		すのこ痕	灰黄	45%	
2262	Ⅲ H 9 i	5 d	D 4	13.5		2.4	布?	指紋	灰白	45%	
2263	Ⅲ H 9 i	5 d	D 4	14.3		2.6		すのこ痕	にぶい橙	35%	
2264	Ⅲ H 9 i	5 d	D 4	(15.3)		(2.9)			にぶい黄橙	20%	外面にタール状物質付着
2265	Ⅲ H 9 i	5 d	D 4	(11.5)		2.5			にぶい黄橙	30%	
2266	Ⅲ H 9 i	5 d	r d	8.8	7.0	1.7			检	35%	
2267	Ⅲ H 9 i	5 d	r d	7.7	5.5	1.4			松	35%	
2268	Ⅲ H 9 i	5 d	r d	(8.6)	(5.5)	2.1			极	30%	
2269	Ⅲ H 9 i	5 d	R d 23	(12.2)	5.7	3.5			にぶい黄橙	35%	
2270	Ⅲ H 9 i	5 d	内折れ	7.9		1.4			没黄橙	40%	
2271	Ⅲ H 9 i	5 b	柱状高台		5.1	(3, 3)			にぶい橙	20%	
2272	шн9ј	7 a	r b	9.5	4.5	2.8			にぶい橙	75%	海綿骨針
2273	шн9ј	7 a	rb	8.8	4.3	3.0			极	75%	海綿骨針
2274	11 1 9 b	3 d ?	r d	8.2	5.2	2.0			にぶい黄橙	60%	海綿骨針
2275	NH1g	5 d	D 2	(8.1)		1.8		すのこ痕	灰黄褐	30%	
2276	IV H 1 i	1 q	C 3	(14, 6)		(1.8)	布?	指紋	灰白	35%	
2277	IV H 1 i	1 r	C 3	(14.1)		3.2	ヘラ明瞭	すのこ痕、指紋多い	浅黄橙	50%	

第127図 かわらけ16



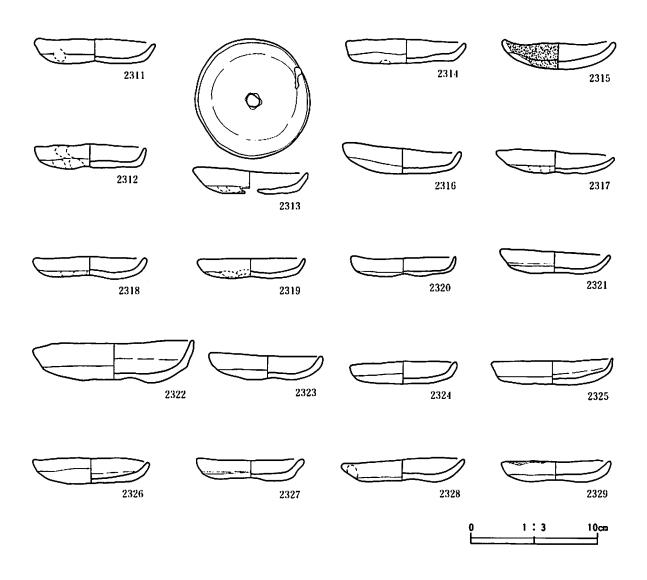
番号	出土地点	層位	分別	口径	庭径	粉結	内面ナデ	外底・内面	色脚	残存	備考
2278	_NH1 i	1 r	C 3	9,4		2.0	ヘラ?	すのこ棋	浅黄橙	65%	
2279	NH1 i	l r	C 3	14.1		3.4	ヘラ明瞭	すのこ痕、指門み	にぶい黄松	55%	
2280	NH1 i	5 d	C 3	11.4		3.2		すのこ痕、指門み	にぶい黄橙	50%	
2281	WHIi	5 d	C 3	9.3		2.1		すのこ復	にぶい黄橙	95%	
2282	NH1 i	5 d	C 3	9.0		1.8		指紋	にぶい黄橙	100%	
2283	NHIi	5d 傑集中部	C 3	8.4		1.7		折紋	にぶい黄橙	55%	
2284	NHli	5 d	C 3	12.5		2.9		すのこ痕、指門み	浅黄橙	55%	
2285	NH1 i	5 d	C 3	13.6		3.0		すのこ復、指凹み	にぶい黄橙	50%	
2286	NHli	5d 碳集中部	C 3	9.1		2.1		すのこ狼、指紋	にぶい黄橙	60%	
2287	NH1 i	1 i	C 3	8.8		2.0	指?	すのこ狼、指紋	构灰	95%	
2288	NH1 i	1 q	C 4	9.0		2.0	布?	すのこ痕	にぶい黄橙	80%	
2289	NH1 i	l r	C 4	14.4		3.2		すのこ痕	にぶい黄橙	100%	
2290	WH1i	1 r	C 4	(13.7)	_	3.3	折	すのこ痕、指凹み	にぶい黄橙	60%	
2291	WH1 i	1 r	C 4	13.1		2.9		すのこ痕、指紋	にぶい黄橙	65%	
2292	WH1 i	1 r	C 4	15.7		3, 5	有?	すのこ痕	にぶい黄橙	55%	
2293	NH1 i	5 d	C 4	(13.5)		2.7		すのこ旗、指紋	浅黄橙	40%	
2291	NH1 i	5 d	C 4	9.1		1.9	Ąi	すのこ旗、指紋	没黄粒	55%	

第128図 かわらけ⑰



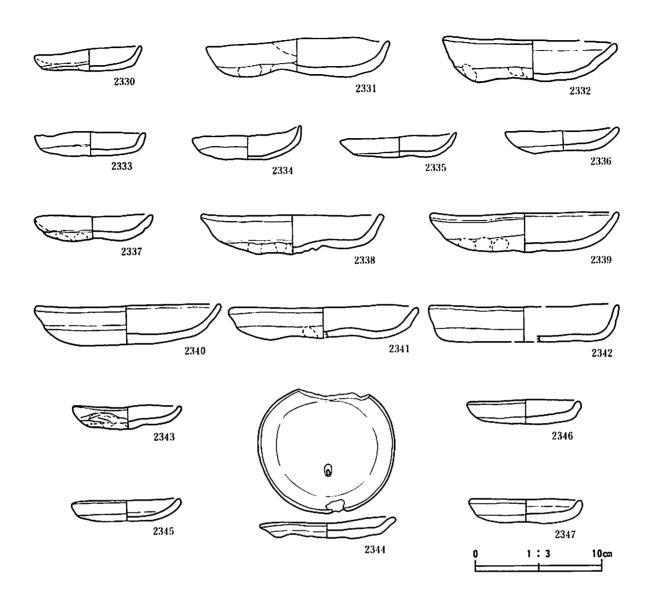
番号	出土地点	層位	分類	口径	底锉	器高	内面ナデ	外底・内面	色鋼	残存	個考
2295	NHli	5 d	C 4	8.4		1.6		指紋	浅黄橙	65%	
2296	NH1 i	5 d	C 4	(13.5)		3.1	ヘラ明瞭	すのこ狼	灰黄褐	60%	
2297	NH1 i	5d土器集中	C 4	14.0		3.2	指	すのこ痕、指紋、指凹み	浅黄橙	50%	
2298	NH1 i	1 r	C 5	15.3		3.6	指?	すのこ痕	浅黄	80%	
2299	NHli	1 r	C 5	12.7		3.0	ヘラ	すのこ棋	沒黄松	45%	
2300	WHII.	l r	C 5	14.3		3, 1	ヘラ	すのこ痕、指紋	设置	40%	
2301	NHli	5d?	C 5	12.6		3.9	指	すのこ旗、指紋	にぶい黄橙	40%	内面にタール状物質付着
2302	NH1 i	5d 碟集中部	C 5	12.5		2.9	ヘラ	すのこ旗、指紋	浅黄橙	100%	焼成前の孔、口縁部打ち欠き?
2303	NHli	5 d	C 5	13.6		3.4		すのこ痕、指紋、指凹み	にぶい黄橙	75%	
2301	NH1 i	5 d	C 5	13.9		3,8	折?	指紋多い	にぶい黄松	75%	
2305	NH1 i	5d 磔集中部	C 5	12.4		3.3	ヘラ	指門み	にぶい黄橙	75%	
2306	WH1 i	1 i	C 5	12.8		3,2		指紋、指門み	灰黄	50%	
2307	NH1 i	19S D12検出面	C 5	13.5		3.3	指?	すのこ裏、指門み	にぶい黄橙	100%	内面全面外面の一部にタール状物質
2308	NH1 i	1 q	D 2	8.8		1.9	指?	すのこ痕、指門み	にぶい黄橙	100%	
2309	NH1 i	1 q	D 2	8.8		1.8		すのこ復	にぶい黄橙	100%	
2310	NH1 i	1 q	D 2	8.0		1.5		指門み	设货税	80%	

第129図 かわらけ®



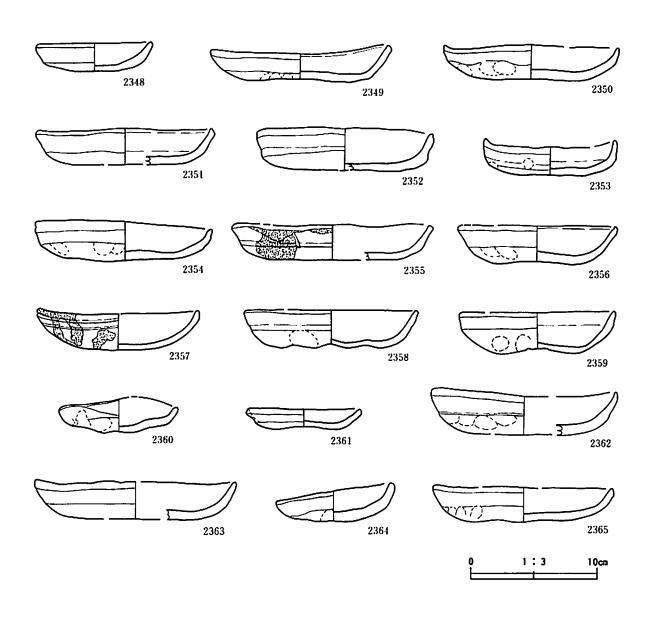
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	個考
				_	#3,1E	2.0	布?	7745 1744	におい資程		1817
2311	NH1 i	l r	D 2	9.4			172 :			100%	
2312	NH1 i	5d 碳集中部	D 2	8.6		1.9		指枚	にぶい資橙	100%	
2313	NHli	5 d	D 2	9.0		2.0		指紋多い	にぶい黄橙	100%	焼成後穿孔
2314	NH1i	5 d	D 2	9.2		1.8		すのこ痕、指紋	浅黄橙	90%	
2315	NHIi	l q	D 3	8.7		2.3	指?	すのこ狼、指紋	にぶい黄橙	100%	内外面の半分にタール状物質付着
2316	NH1 i	l q	D 3	9.2		2.4	指	すのこ痕	灰黄褐	100%	内面にタール状物質付着
2317	NH1 i	1 q	D 3	9.1		1.8	折	指門み、指紋	にぶい黄橙	100%	
2318	NH1 i	l q	D 3	8.7		1.8	^9	すのこ痕、指紋	にぶい黄橙	100%	
2319	NH1 i	l q	D 3	8.4		1.7	指	折紋	设旗	100%	
2320	NH1 i	l q	D 3	8.1		1.6	指	指紋	にぶい黄橙	85%	
2321	IVH 1 i	l q	D 3	8.4		1.9	指?	すのこ狼、指紋	浅黄橙	75%	
2322	NH1 i	l r	D 3	12.6		3.3			没黄位	95%	
2323	NH1 i	l r	D 3	8.8		2.1		すのこ痕、継ぎ目	にぶい黄橙	90%	
2324	NH1 i	l r	D 3	8.3		1.8	折?	指紋	にぶい黄根	95%	口縁打ち欠きか?
2325	NH1 i	l r	D 3	9.4		2.1	指?	# S.H	设货位	100%	
2326	NHli	l r	D 3	9.0		2.0			浅黄橙	80%	
2327	NH1 i	5 d	D 3	8.3		1.7		指門み	にぶい黄橙	85%	
2328	NH1 i	5 d	D 3	9.5		1.9	指	すのこ痕、指紋	设货股	70%	
2329	NH1 i	5 d	D 3	8.4		1.6			にぶい黄橙	95%	11特内外面にタール状物質付着

第130図 かわらけ⑲



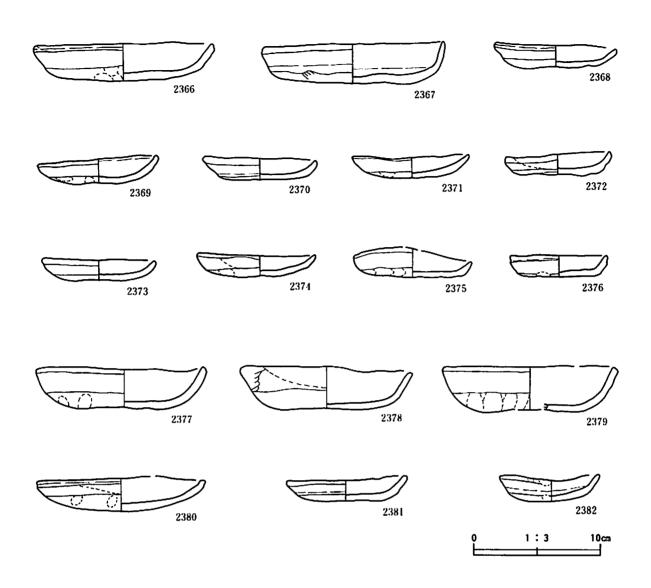
番号	出土地点	層位	分類	口往	放往	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	价考
2330	NH1 i	5 d	D 3	9.2		2.0			にぶい黄松	100%	
2331	NH1 i	5d 瞬集中部	D 3	14.3		3.1	指	すのこ痕、指凹み	没黄橙	85%	
2332	NH1 i	5d 碟集中部	D 3	13.4		3.6		すのこ狼、指紋	にぶい黄橙	90%	
2333	NHli	5 d	D 3	8.5		1.9	布?		浅黄橙	100%	
2334	NHli	5 d	D 3	8.4		1.7	指	指紋	褐灰	90%	
2335	NH1 i	5 d	D 3	9.0		1.9	指	すのこ痕、指紋	にぶい黄橙	95%	
2336	NH1 i	5 d	D 3	8.7		1.8	折	指紋	におい資格	100%	
2337	NH1 i	1 i	D 3	8.3		1.9		すのこ痕、指紋	灰黄褐	95%	口縁打ち欠きか?
2338	NH1 i	l q	D 4	14.0		3.3	指?	すのこ痕、指紋	灰黄褐	65%	内面外面の一部にター14枚物質性を
2339	NHli	lq	D 4	14.6		3.0	指?	すのこ痕、指凹み	浅黄橙	50%	
2340	NHli	lq	D 4	14.4		3.2	指	すのこ痕	にぶい黄橙	75%	内外面にタール状物質付着
2341	NHli	lq	D 4	14.6		2,5	布?	すのこ狼、指紋	にぶい黄松	50%	
2312	NH1 i	l q	D 4	14.7		2.9		すのこ痕、指門み	灰黄	40%	
2343	NHli	lq	D 4	8.3		2.0	指?	すのこ痕、指凹み、指紋	にぶい黄橙	85%	
2344	NH1 i	l r	D 4	10.6		1.7	布?	すのこ痕	にぶい黄橙	90%	是成前に穿孔、口林思打ら大き?
2345	NHli	l r	D 4	8.4		1.8		すのこ痕	厌黄	95%	
2346	NH1 i	1 r	D 4	8.7		2.0		すのこ痕	にぶい黄橙	90%	
2347	IVH1 i	1 r	D 4	8.6	<u></u>	1.9	ヘラ	すのこ紙、指門み	にぶい黄橙	70%	

第131図 かわらけ@



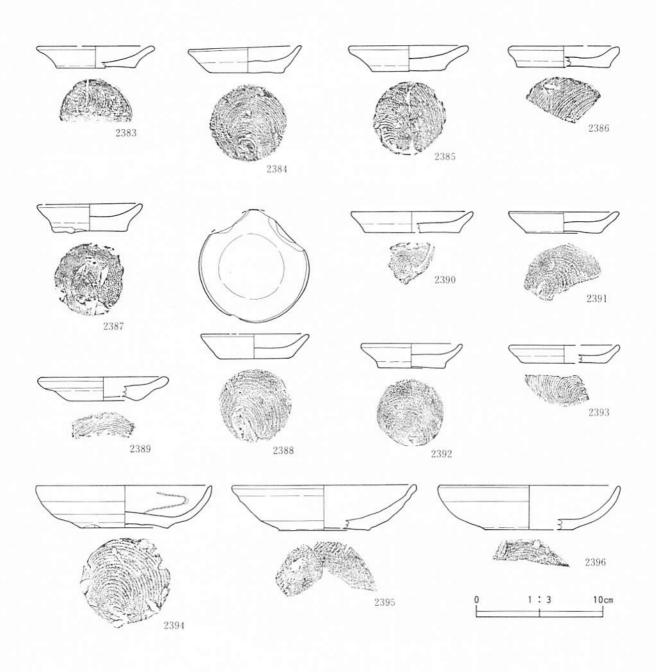
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	粉点	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	仰孝
2348	NHli	1 r	D4	9.0		2.2			にぶい黄橙	90%	
2349	NHli	1 r	D 4	14.0		2.9		指門み	灰白	85%	
2350	NHli	l r	D4	13.6		2.7		すのこ痕、指凹み	灰白	75%	
2351	NH1 i	l r	D 4	13,7		2.8	指	指紋	浅黄橙	40%	
2352	NH1 i	1 r	D4	13.6		3.3	指	すのこ棋	にぶい黄橙	40%	内面、口軽外面にタール状物質付着
2353	NH1 i	1 r	D4	10, 2		2.8	指	すのこ旗、指紋	にぶい黄橙	50%	
2354	NH1 i	5 d	D 4	13.8		3.3		すのこ狼、指門み	灰黄褐	85%	
2355	NHli	5 d	D 4	(15.3)		2.8		すのこ似	にぶい黄橙	40%	市外面にターも成れ関付着(内面早iv)
2356	NHli	5 d	D 4	(12.2)		3.0	指?	すのこ似	厌黄褐	30%	
2357	NHli	5 d	D 4	12.5		3.3	指	すのこ痕	にぶい黄橙	45%	内外面にタール状物質付着
2358	NHIi	5 d	D4	(13.4)		3.0		指紋	にぶい黄橙	35%	
2359	NHli	5 d	D 4	(12.0)		3.3	ヘラ明瞭	すのこ痕、指門み	にぶい黄松	20%	
2360	NHli	5 d	D 4	9.2		2.75		すのこ狼、指門み	にぶい黄橙	100%	
2361	NHli	5 d	D 4	8.8		1.6	指	すのこ痕、指紋	灰黄	65%	
2362	NH1 i	5d	D 4	14.4		(3.5)		すのこ狼、指紋	にぶい黄優	30%	
2363	NH1 i	5d?	D 4	15.7		3.0	指	すのこ仏	にぶい資橙	30%	
2364	VIII i	5d 碟集中部	D 4	9.1		3.0	指?	すのこ仏、指紋	にぶい資橙	100%	
2365	WHli	5 d	D 4	(13, 9)		2.8	有?	指凹み	にぶい黄松	55%	

第132図 かわらけ②



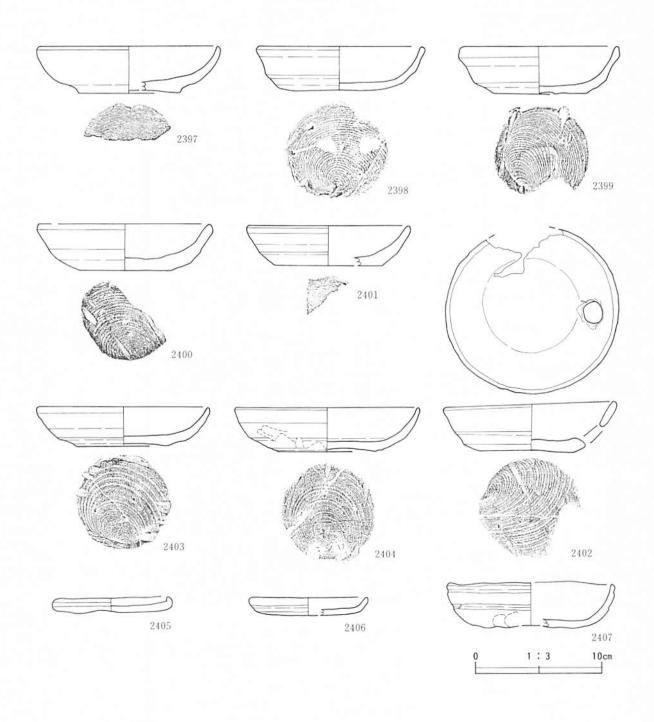
番号	出土地点	層位	分類	口径	族往	器商	内向ナデ	外底・内面	色調	级存	伯号
2366	NH1 i	5 d	D 4	13.9		3.0	ヘラ	すのこ痕、指凹み	浅黄松	95%	内面にタール状物質付着
2367	NH1 i	5 d	D 4	14.0		3.3	ヘラ	すのこ痕、指門み	にぶい黄橙	60%	
2368	NH1 i	5 d	D 4	9.4		2.1		すのこ狼、指紋	浅黄	85%	
2369	NH1 i	5 d	D 4	9.3		2.2	指	すのこ痕、指紋	浅黄橙	100%	
2370	WHII	5 d	D 4	8.7		1.9		すのこ痕、指紋	にぶい黄橙	100%	
2371	NH1 i	5 d	D 4	9.1		1.8		すのこ扱、指紋	浅黄	85%	
2372	NH1 i	5 d	D 4	8.2		1.8		すのこ狼、指紋	にぶい質役	100%	内外面にタール状物質付着
2373	NH1 i	5 d	D 4	8.8		1.8		すのこ痕	にぶい黄橙	90%	
2374	NHli	5 d	D 4	9.2		1.9		すのこ狼、指紋	浅黄橙	85%	
2375	NH1 i	5d 磔集中部	D 4	9.1		2.4		すのこ狼、指紋	にぶい黄橙	55%	
2376	WHII	5d 環集中部	D 4	7.5		1.7	ヘラ	指紋	にぶい黄橙	50%	
2377	NH1 i	1 i	D 4	13.0		3.3	1i?	すのこ旗、指門み	浅黄橙	100%	
2378	NH1 i	1 i	D 2	13.3		3.4		すのこ扱	灰白	85%	
2379	NHli	1 i	D 4	13.3		3.5	布?	すのこ痕	浅黄橙	85%	-
2380	NH1 i	1 i	D 4	13.0		2.7	指	すのこ狼、指凹み	にぶい黄橙	45%	
2381	NH1 i	l i	D4	9.2		1.9		すのこ痕、指凹み、指紋	没黄	90%	
2382	IVH1 i	1 i	D 4	7.6		2.1	指?	折紋	灰黄	60%	

第133図 かわらけ②



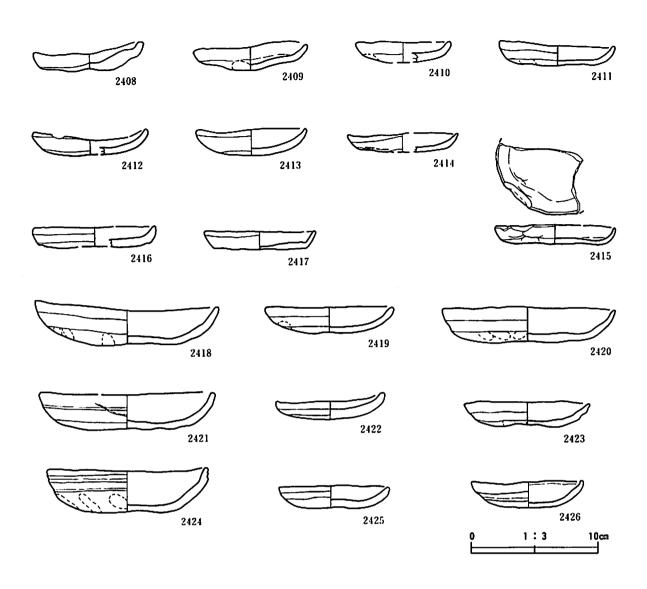
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2383	NH1 i	1 q	r d	(9.0)	(6.1)	1.7			橙	40%	
2384	IVH 1 i	1 q	r d	8.7	5.7	2.1			にぶい橙	75%	
2385	IVH1i	1 r	r d	9.1	5.3	2.0			松	80%	
2386	IVH1i	1 r	r d	8.4	(7.3)	1.8			にぶい黄橙	30%	
2387	NH1 i	1 r	r d	8.0	5.7	2.2			にぶい黄橙	70%	
2388	IVH1i	5 d	r d	8.4	5.0	2.0			にぶい黄橙	90%	口唇指押しつけ
2389	NH1 i	5 d	r d	9.8	(5.5)	1.9			浅黄橙	30%	外面段あり
2390	NH1 i	5 d	r d	9.4	(7.4)	1.6			极	20%	
2391	IVH 1 i	5 d	r d	8.5	5.8	1.7			にぶい黄橙	55%	
2392	WH1i	5 d	r d	7.8	5,2	1.9			浅黄橙	100%	
2393	NH1 i	5d 碟集中部	r d	(8.5)	(6.5)	1.5			灰黄褐	20%	
2394	NH1 i	5 d	R d 00	13.6	6.9	3.3			浅黄橙	100%	
2395	IVH1 i	5 d	R d 01	14.2	(7.1)	3.6			浅黄橙	40%	
2396	IV H 1 i	5 d	R d 01	14.0	(7.0)	3.5		すのこ痕?	にぶい黄橙	25%	

第134図 かわらけ図



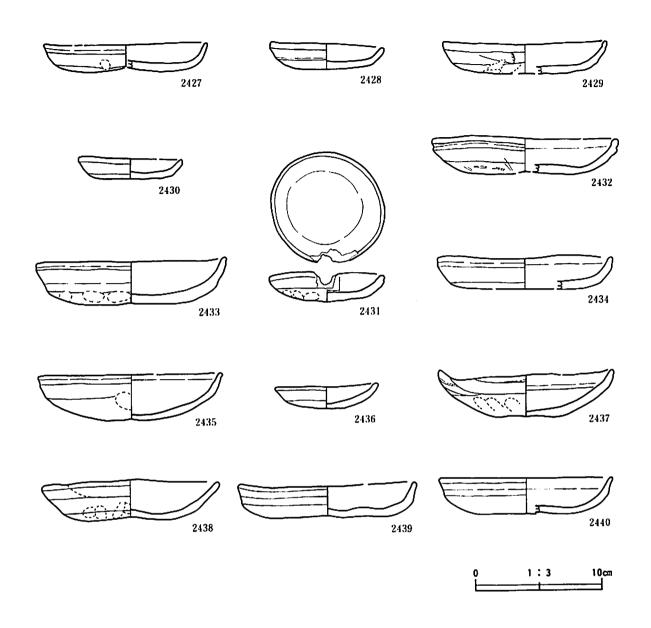
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2397	IV H 1 i	5 d	R d 10	14.1	(8.0)	3.6			橙	35%	
2398	NH1i	lq·lr	R d 22	12.8	6.3	3.5		すのこ痕	にぶい橙	75%	
2399	NH1i	1 q	R d 22	12.1	7.2	3.9		すのこ痕	にぶい黄橙	75%	
2400	NH1 i	1 r	R d 22	(13.3)	7.0	3.7		すのこ痕	にぶい黄橙	35%	
2401	IVH 1 i	5 d	R d 22	12.6	(8.4)	3.1			にぶい黄橙	20%	
2402	IV H 1 i	5d 碟集中部	R d 22	13.2	7.4	4.0			にぶい黄橙	85%	口縁部下半に焼成前の穿孔
2403	IV H 1 i	5 d	R d 23	13.4	7.2	3.1		すのこ痕	にぶい黄橙	90%	
2404	NH1i	5 d	R d 23	14.4	7.6	3.4		すのこ痕	浅黄橙	75%	
2405	NH1i	5d 碟集中部	内折れ	8.2		1.2		すのこ痕、指紋	浅黄橙	75%	
2406	IVH1j	5 d	C 3	9.1		1.4			灰黄褐	25%	
2407	NH1j	5 d	C 5	12.8		3.6			にぶい黄橙	25%	

第135図 かわらけ24



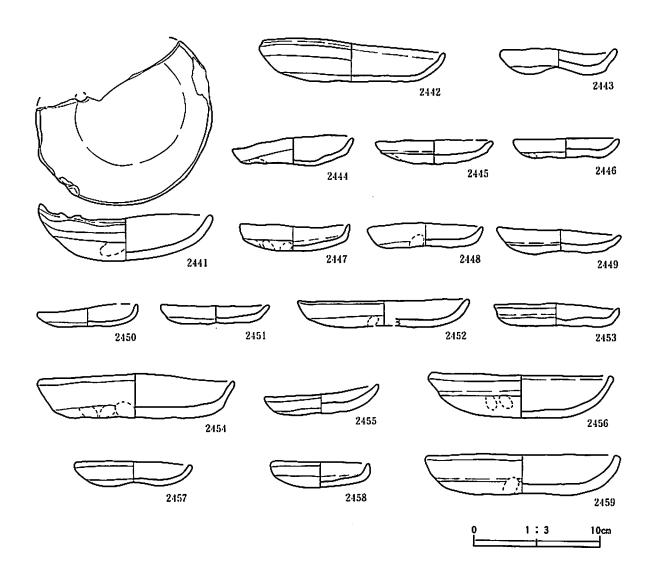
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器商	内面ナデ	外底・内面	色図	残存	伯考
2408	NH1j	6 F.	D 2	8.4		2.1	指?		浅黄橙	95%	底部凹凸あり
2409	NHlj	5 d	D 3	8.7		2.2	据?	すのこ旗、指紋	浅黄橙	100%	
2410	NH1j	5 d	D 3	7.2		(1.7)		指紋	にぶい黄橙	30%	
2411	NHlj	5 d	D 4	8.9		1.9		すのこ痕、指凹み	灰黄	80%	
2412	NH1 j	5 d	D 4	8.8		(1.9)	指	すのこ狼、指紋	没黄	45%	
2413	NH1j	5 d	D 4	8.5	_	2.0	指?	すのこ痕	没黄橙	55%	
2414	NHlj	5 d	D 4	8.5		1.5		縄状の圧痕	にぶい黄橙	35%	
2415	NHlj	5 d	D 4	(9.3)		1.6	指		庆黄	35%	ゆがみ、内質タール状物質付着
2416	NHlj	5 d	D 4	(9.4)		1.7			にぶい黄橙	30%	
2417	NH2h	1 i	D 4	8.6		1.4		すのこ痕	にぶい黄橙	50%	
2418	NH2i	lq	C 3	14.2		3.6	布?	すのこ痕、指凹み、指紋	にぶい黄橙	65%	
2419	NH2i	l q	C 3	9.9		2.1	ヘラ?	継ぎ日、指紋	没货橙	45%	内外面タール状物質少量付着
2420	NH2i	l r	C 3	13.4		2.9	指	すのこ痕、指門み、指紋	没货	80%	
2421	NH2i	l r	C 3	(13.5)		3.0	指?	指紋	厌黄	45%	
2422	NH2i	5 d	C 3	8.3		2.1	指	すのこ仏	松庆	65%	
2423	NH2i	1 i	C 3	9.6		2.0		すのこ痕	にぶい黄橙	30%	
2424	N II 2 i	1 i	C 3	12.4		3.5	ヘラ?	指門み	灰黄	75%	
2425	NH2i	l i	C 3	8.5		1.8	布?	すのこ痕	构灰	100%	
2426	NH2 i	1 i	C 3	8.6		2.1	有?	指紋	没黄橙	90%	

第136図 かわらける



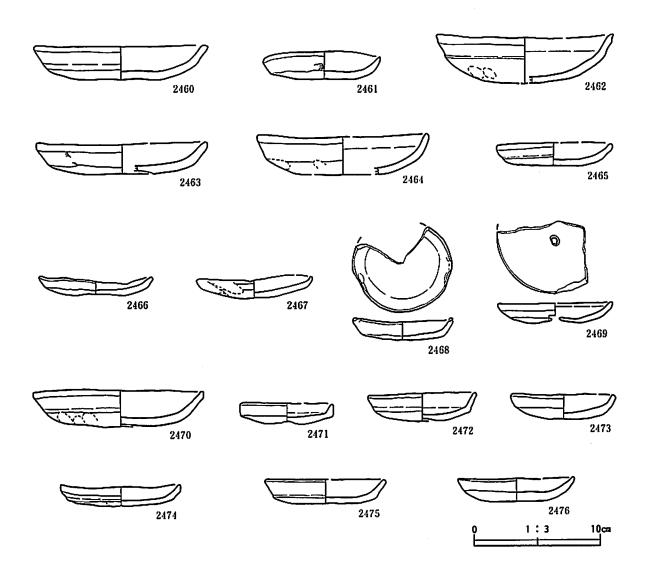
番号	出土地点	層位.	分類	口往	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2427	NH2i	l q	C 4	(12.7)		(2.3)	ヘラ?		にぶい黄橙	50%	
2428	NH2 i	l q	C 4	8.8		2.3	拊	すのこ似	浅黄	85%	
2429	NH2 i	1 q		12.7		2.6	^7?	指紋	设黄粒	45%	
2430	NH2 i	1 r	C 4	7.9		1.8	推	指紋	浅黄橙	85%	
2431	NH2i	1 r	C 4	8.8		2.4	折	すのこ痕、指凹み、指紋	にぶい黄橙	100%	焼成後口唇部打ち欠き
2432	NH2i	l r	C 4	14.3		(3.1)	ヘラ	すのこ痕?	にぶい黄橙	45%	
2433	NH2i	l r	C 4	14.8		3.8	4i?	すのこ痕、指凹み、指紋	にぶい黄橙	75%	
2434	NH2 i	5 d	C 4	13.4		2.7	^5?	指紋	にぶい黄橙	25%	
2435	NH2 i	1i - 1 q	C 4	14.3		3.6		すのこ崔	にぶい黄位	25%	
2436	NH2i	1 i	C 4	7.9		2.0	指	指紋	にぶい黄橙	60%	内面タール状物質付着
2437	NH2i	l i	C 4	13.5		3.8	ヘラ明瞭	すのこ痕、指紋	にぶい黄橙	50%	
2438	NH2i	l r	C 5	13.7		3.2	布?	すのこ痕、指凹み、指紋	浅黄橙	95%	
2439	NH2i	1 r	C 5	13.7		2.8	ヘラ明瞭	すのこ痕	にぶい黄橙	60%	外面タール状物質付着
2440	NH2 i	5 d	C 5	13.4		2.9	ヘラ明瞭	すのこ彼	灰白	30%	

第137図 かわらける



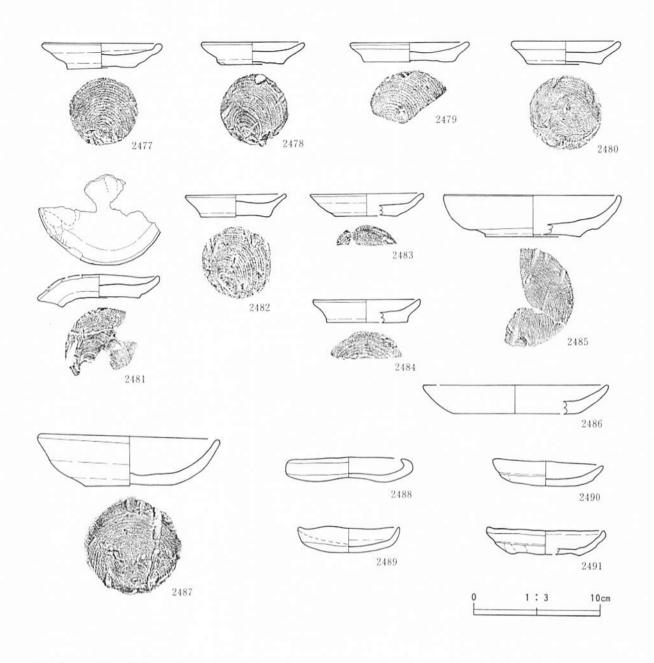
番号	出土地点	層位	分類	口往	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備老
2441	NH2 i	5 d	C 5	13.5		4.5	布?	すのこ派、指紋	灰白	75%	内外面タール状物質付着
2142	NH2 i	Li·1q	C 5	14.2		3.3	ヘラ?	指紋	灰白	100%	
2443	NH2i	1 r	D 2	8.8		2.0	ヘラ	すのこ狼	にぶい黄松	100%	
2444	WH2i	5 d	D 2	9.4		2.4		指紋	にぶい黄松	100%	
2445	NH2i	5 d	D 2	9.0		1.9		すのこ彼	にぶい黄松	45%	
2446	NH2 i	1 q	D 3	8.1		1.5	ヘラ?		にぶい黄松	25%	
2447	NH2 i	l r	D3	8.5		2.1		指紋	にぶい黄橙	100%	
2448	NH2 i	l r	D 3	8.9		1.9	折?	指門み	にぶい黄松	100%	
2149	WH2i	lr	D 3	9.5		2.2	_ 指?		拟灰	60%	
2450	NH2i	5 d	D 3	8.9		1.8			揭灰	50%	
2451	NH2i	l i	D 3	8.4		1.6	ヘラ明瞭		灰白	95%	
2452	NH2i	1 q	D 4	13.2		2.3		すのこ狼、指紋	にぶい黄椒	40%	
2453	NH2 i	<u>lr</u>	D 4	9,6		1.9	ヘラ	すのこ痕、指紋	にぶい黄橙	80%	
2151	NH2i	1 r	D4	15.3		3.5	拼	すのこ痕、指紋	にぶい黄檀	90%	
2155	NH2i	l r	D 4	8.9		2.4		すのこ似	厌黄褐	70%	
2156	NH2i	l r	D 4	14.1		3.6	ヘラ?	指紋	にぶい黄橙	100%	
2457	NH2 i	1 r	D 4	9.0		1.9	排	指紋、指凹み	灰黄褐	65%	
2458	NH2 i	l r	D 4	7.6]	2.0	lfr ?	すのこ項	浅黄橙	75%	
2459	NH2 i	1 r	D4	14.8		3.1	ヘラ?	すのこ旗、指紋	にぶい黄根	55%	

第138図 かわらけ②



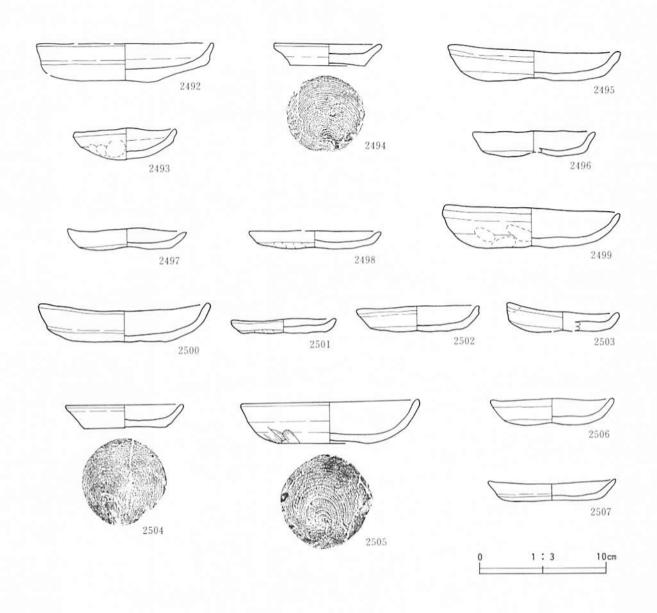
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色図	残存	但考
2460	NH2i	l r	D4	13.3		2.8	布?	すのこ似	构灰	55%	
2461	NH2i	6	D4	9.1		2.2	ヘラ	すのこ痕	後黄	100%	
2462	NH2 i	5 d	D 4	13.7		3.9		指紋	灰黄	45%	
2463	NH2i	5 d	D 4	13.2		2.5	指?	すのこ痕	にぶい黄橙	35%	内面タール状物質付着
2161	NH2i	5 d	D 4	13.2		3.2		すのこ痕	设货位	35%	
2165	NH2i	5 d	D4	8.9		1.9		すのこ彼	にぶい黄橙	85%	
2466	NH2i	5d	D4	8,8		1.6	ヘラ		にぶい質橙	50%	
2467	NH2 i	5 d	D 4	9.0		1.8	报	すのこ痕、指凹み	浅黄橙	75%	
2468	NH2 i	5 d	D4	7.6		1.8		指紋	にぶい黄橙	75%	
2469	NH2i	5 d	D 4	(8.9)		1.6			にぶい黄松	35%	中央に焼成前穿孔あり
2170	IVH2i	1 i · 1 q	D4	13.2		3.0	布?	すのこ旗、指紋	浅黄橙	85%	
2471	NH2i	1 i	D4	7.2		1.6	ヘラ?		にぶい黄松	25%	
2472	NH2i	1 i	D 4	8.4		2.3	排?		にぶい黄橙	80%	
2473	NH2 i	1 i	D 4	7.9		2.0			灰黄褐	35%	
2174	NH2i	1 i	D 4	9.3		1.7		継名目	にぶい黄根	40%	
2475	№ H 2 i	1 i	D 4	9.2		1.9		すのこ旗	にぶい黄橙	45%	
2476	NH2i	l i	D4	8.9		1.9		継ぎ目、すのこ虫	にぶい黄松	70%	

第139図 かわらけ@



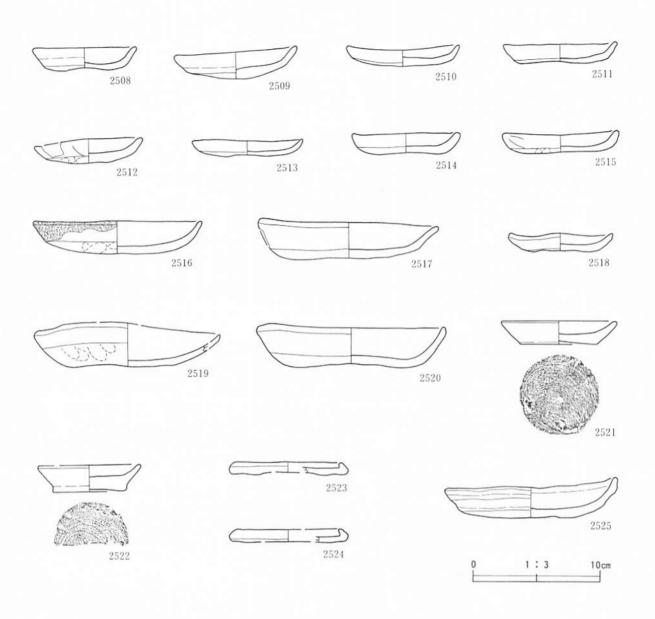
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2477	NH2 i	1 q	r d	9.2	5.3	2.1			橙	85%	海綿骨針
2478	NH2 i	1 q	r d	8.0	4.8	1.8			にぶい黄橙	80%	海綿骨針
2479	IVH2 i	1 q	r d	9.1	6.9	1.5			松	35%	海綿骨針
2480	NH2 i	5 d	r d	8.3	5.7	1.8			橙	90%	海綿骨針
2481	WH2i	1 i · 1 q	r d	(9,6)	6.3	2,3			橙	55%	大きいゆがみ、海綿骨針
2482	NH 2 i	1 i	r d	7.8	5.4	1.7			橙	95%	海綿骨針
2483	NH2i	1 i	r d	8.8	(4.9)	1.7			极	40%	海綿骨針
2484	IVH2i	1 i	r d	8.2	(6.3)	1.8			橙	30%	海綿骨針
2485	IVH2i	5 d	R d 00	13.7	7.5	3.3			极	55%	海綿骨針
2486	NH2i	1 i	R d 00	(14, 4)	(9.7)	2.2			橙	20%	海綿骨針
2487	NH2i	1 q	R d 22	14.0	7.0	4.2			にぶい黄橙	85%	内面タール状物質付着
2488	NH2i	1 r	内折れ	8.4		2.0	排	指紋	灰白	85%	
2489	NH2 j	1 q	D 2	7.9		2.0	ヘラ		浅黄橙	50%	
2490	NH2j	1 i	D 3	8.4		2.1		継ぎ目	にぶい黄橙	65%	
2491	NH2j	7 c 1	D 4	9.0		2.0		指紋	灰黄褐	35%	

第140図 かわらけ29



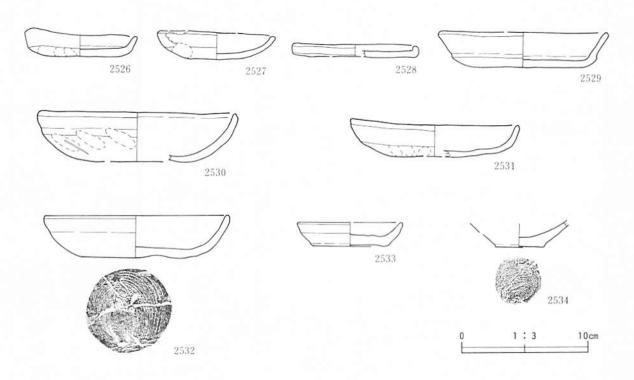
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2492	NH2j	5 d	D 4	(13.7)		3.0	布	指紋	浅黄橙	45%	
2493	NH2j	不明	D 4	7.8		2.4	指?	すのこ痕	浅黄橙	95%	
2494	NH2j	5 d	r d	8.2	6.0	1.7			检	100%	
2495	IVH3h	1 i	C 3	13.3		2.9	ヘラ明瞭	すのこ痕、指紋	浅黄橙	45%	
2496	NH3h	1 i	D 2	9.4		(1.9)			揭灰	30%	
2497	IVH3h	1 i	D 2	9.2		1.7			灰白	80%	
2498	IV H 3 h	1 i	D 3	(10.1)		1.4		継ぎ目、指紋	にぶい黄橙	70%	
2499	IV H 3 h	1 i	D 4	13.6		3.4	指?	すのこ痕、指紋	浅黄橙	60%	
2500	IV H 3 h	1 i	D 4	13.1		3.0	指?	すのこ痕、指紋	にぶい黄橙	80%	内外面タール状物質付着
2501	IVH3h	1 i	D 4	8.0		1.2	ヘラ	指紋	浅黄橙	25%	口縁部面取り
2502	NH3h	1 i	D 4	9.5		2.0			にぶい黄橙	65%	
2503	IV H 3 h	1 i	D4	8.6		(2.3)		すのこ痕	浅黄橙	55%	
2504	IVH3h	1 i	r d	9.0	6.5	1.9			橙	90%	海綿骨針
2505	IV H 3 h	1 i	R d 12	13.8	7.1	3.4		すのこ痕	にぶい橙	85%	雲母
2506	IV H 3 i	1 i	C 3	9.5		2.1		すのこ痕、指紋	にぶい黄橙	65%	
2507	IVH3 i	1 q	D 2	9.8		1.7			浅黄橙	45%	

第141図 かわらけ30



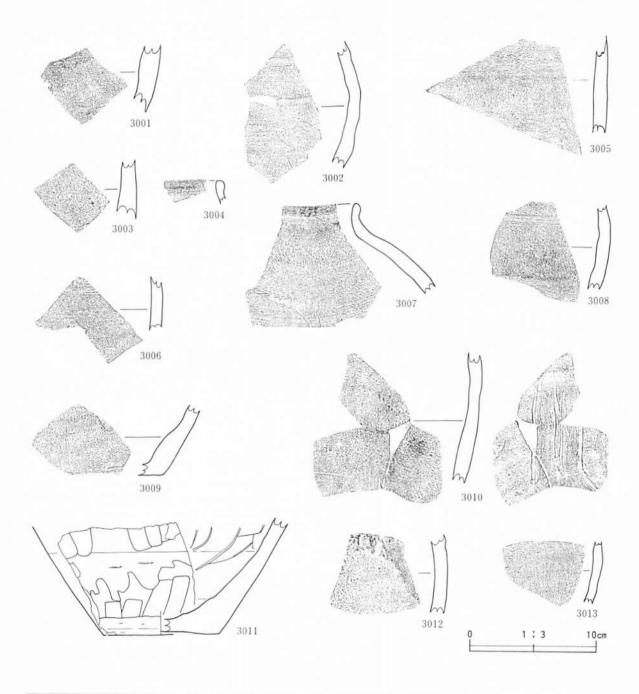
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2508	NH3i	1 q	D 2	8.1		1.8		すのこ痕	にぶい黄橙	70%	内外面タール状物質付着
2509	NH3i	1 r	D 2	9.5		2.5	指?	すのこ痕、指紋	浅黄橙	100%	
2510	IVH3 i	1 q	D 3	8.6		1.7		すのこ痕	にぶい黄橙	65%	
2511	IVH3 i	1 q	D 3	8.7		1.7		すのこ痕、指紋	浅黄橙	60%	
2512	IV H 3 i	1 q	D 3	8.3		2.0		すのこ痕、指紋	にぶい黄橙	45%	口縁部打ち欠き?
2513	IV H 3 i	1 q	D 3	8.5		1.4		継ぎ目	浅黄橙	50%	
2514	IVH3 i	1 q	D 3	8.2		1.7			灰黄	45%	
2515	IVH3 i	1 r	D 3	8.8		1.7	ハケ?	指紋	厌黄	50%	
2516	IVH3 i	1 q	D 4	13.1		2.7		指紋	浅黄橙	45%	内面全体外面口容器タール状物質付着
2517	IV H 3 i	1 q	D 4	13.9		3.4	ハケ明瞭	指凹み、指紋	にぶい黄橙	85%	細かく破砕
2518	IVH3 i	1 r	D 4	7.9		1.5	指?	すのこ痕	にぶい黄橙	35%	
2519	IVH3 i	1 r	D 4	(14.3)		3.5		すのこ痕、指紋	灰黄	70%	
2520	IVH3 i	1 r	D 4	14.6		3.4	ハケ?	すのこ痕、指紋	にぶい黄橙	55%	
2521	IVH3 i	1 q	r d	8.8	6.0	1.8			褐灰	80%	海綿骨針
2522	IVH3i	1 i	r d	7.9	5.7	2.1			橙	35%	海綿骨針
2523	IVH3 i	1 q	内折れ	8.3		1.1			褐灰	45%	
2524	IVH3 i	1 q	内折れ	8.2		1.1			褐灰	20%	
2525	IVH3j	1 q	C 5	13.2		3.2	布	すのこ痕、指紋、指凹み	淡黄	95%	内外面タール状物質付着

第142図 かわらけ③



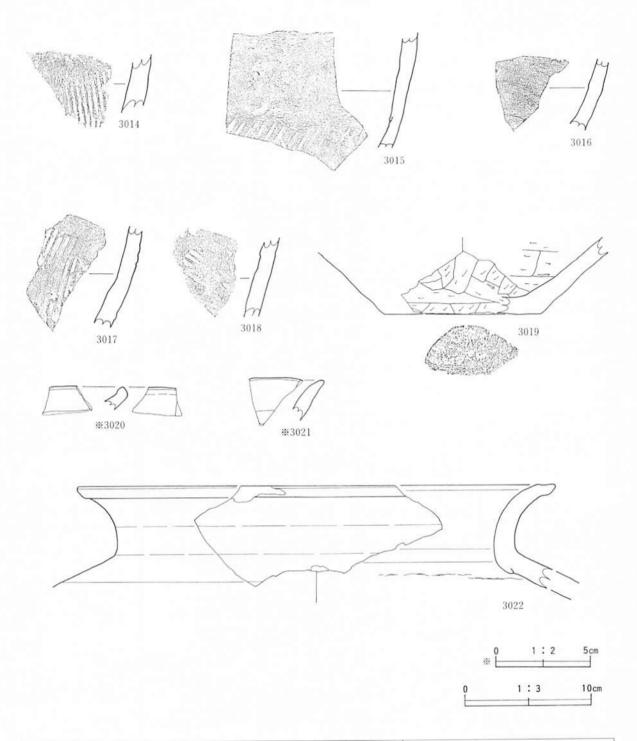
番号	出土地点	層位	分類	口径	底径	器高	内面ナデ	外底・内面	色調	残存	備考
2526	NH3j	1 q	D 2	8.7		2.2		すのこ痕、指紋	灰黄	85%	内面外面口唇部タール状物質付着
2527	NH3j	1 r	D 4	9.0		2.2	布	すのこ痕	浅黄橙	60%	
2528	NH3j	1 r	内折れ	9.4		1.1	指?	すのこ槙	にぶい黄橙	75%	内外面タール状物質付着
2529	IVH4h	1 i	D 4	13.1		2.8		すのこ痕	にぶい黄橙	40%	
2530	NH4j	1 q	D 4	15.3		3.9	指?		にぶい黄橙	40%	
2531	IVH4j	1 q	D 4	13.1		(3.0)	布?	指紋	浅黄橙	55%	
2532	IVH4j	1 q	R d 00	14.4	8.0	3.5		すのこ痕	にぶい黄橙	75%	ゆがみ
2533	IV I 1 a	7 c 1	r d	8.1	5.9	1.9			浅黄橙	30%	
2534	N I 1 a	7 c 1	r b		3.7	(2.2)		すのこ痕	浅黄	45%	底径小さい

第143図 かわらけ32



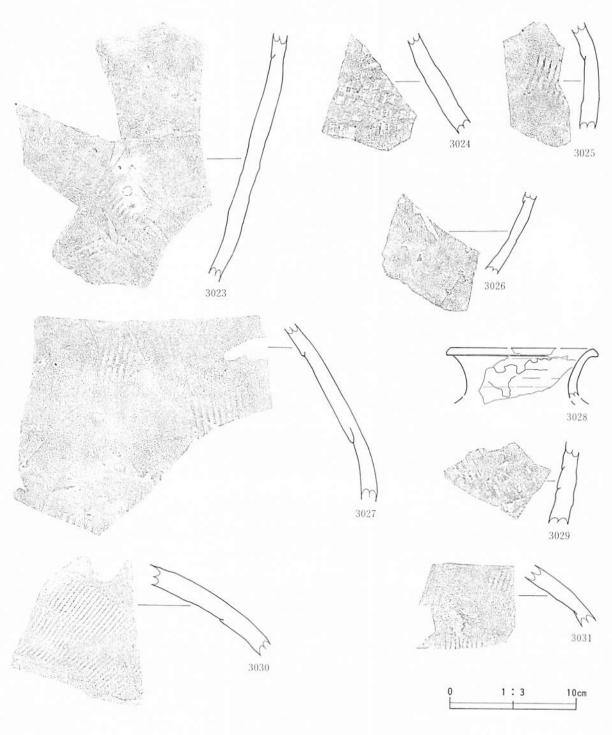
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3001	猿投	19 S E 6	碟混じり層	並	体部	灰オリーブ	12C後半
3002	猿投	ШНОд	5	並	別一体部	灰褐	12 C 後半
3003	猿投	Ⅲ H O i	5 b	並	体部	褐灰	12C後半
3004	猿投	Ⅲ H 1 g	5	短頚壷	口縁部	灰褐	12C後半
3005	猿投	Ⅲ H 2 h	5 b	笼	体部	褐灰	12C後半
3006	猿投	ШНЗg	4	壷	体部	揭灰	12C後半
3007	猿投	Ⅲ H 5 i	5 b	短頚壷	口一肩部	灰褐	3008と同一個体、12C後半
3008	猿投	Ⅲ H 6 i	5 b	壶	体部	灰褐	3007と同一個体、12 C 後半
3009	猿投	ШН9 і	5 d	壷	底部	灰黄褐	内面底部に釉、12C後半
3010	猿投	Ⅲ H 9 i	5 d	壶	体部	褐灰	内面へラによる掻き上げ痕、12 C後半
3011	猿投	IV H 1 j	5 d	壷	底部	褐灰	内面へラによる掻き上げ痕、12C後半
3012	猿投	IVH2i	1 i	壷	体部	褐灰	内面へラによる掻き上げ痕、12C後半
3013	猿投	不明	不明	衛	肩部	灰黄褐	外面に釉

第144図 猿投産陶器



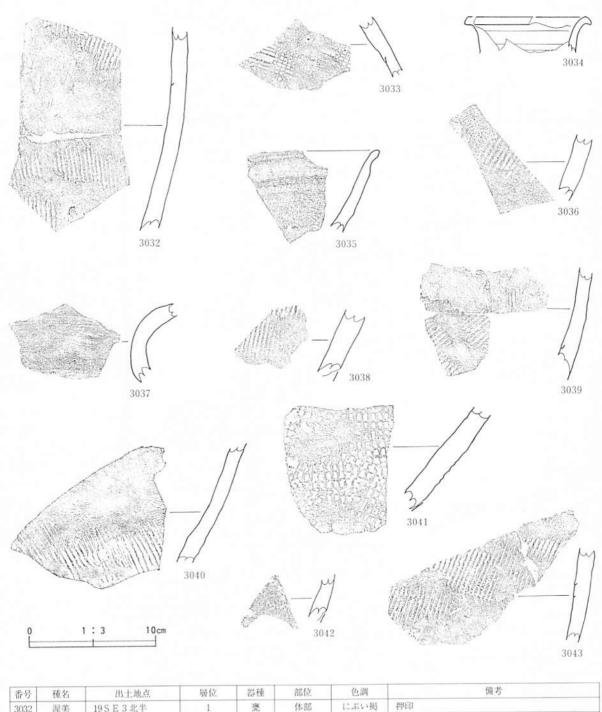
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3014	渥美	19 P 141		魙	体部	褐灰	押印
3015	渥美	19 P 312	アタリ	甕	体部	灰	押印
3016	渥美	19SD6 IIG8j		奎	体部	揭灰	
3017	渥美	19SD6 MG5j	埋土上部	35	体部	楊灰	押印
3018	渥美	19SD9 IIH6j		莞	体部	灰白	押印
3019	渥美	19SD9 IIH7j		张	原語	厌	
3020	湿美	19SD9 III H 8 j		m	口縁部	黄灰	12℃中葉
3021	渥美	19SD9 III H 9 j		甕?	口縁部	褐灰	
3022	湿美	19SD9 III H 4 j	検出面	385	口~肩部	灰	

第145図 渥美産陶器①



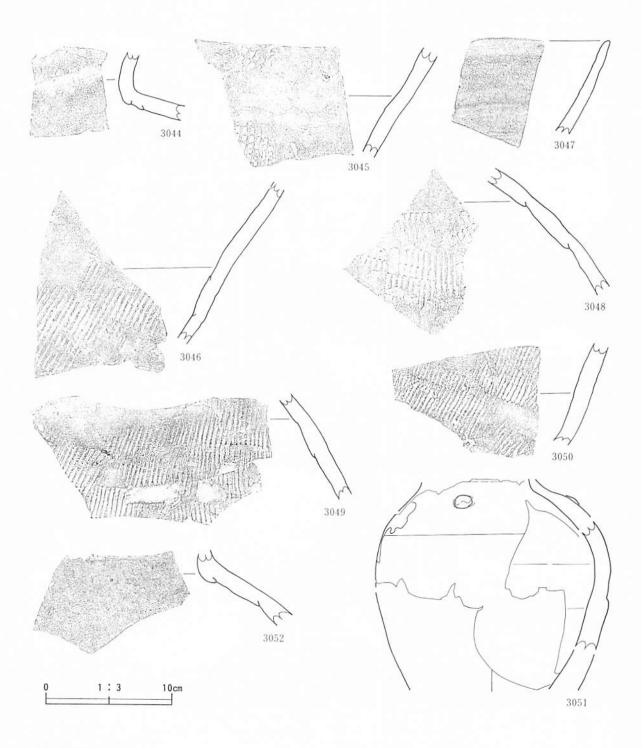
番号	種名	出土地点	層位	器桶	部位	色調	備考
3023	渥美	19SD9 WH3j		Julie LNG	体部	褐灰	釉垂下、外面に赤変部あり、押印
3024	渥美	19 S E 3 南半	1-7	売	体部	掲灰	押印
3025	渥美	19 S E 3 南半	1~7	遊	体部	暗オリーブ	外面に釉、押印
3026	渥美	19 S E 3 南半	1~7	36	体部	灰	外面にケズリ
3027	渥美	19 S E 3 南半	1~7	36	肩部	灰オリーブ	押印、釉垂下
3028	渥美	19 S E 3 南半	埋土上部	強	口縁部	褐灰	刻画文?、12C第3四半期
3029	渥美	19 S E 3 北半	1	386	体部	黄灰	押印
3030	渥美	19 S E 3 北半	1	売	肩部	褐灰	外面に釉、押印
3031	渥美	19SE3北半	1	张	肩部	オリーブ黄	外面に釉、押印

第146図 渥美産陶器②



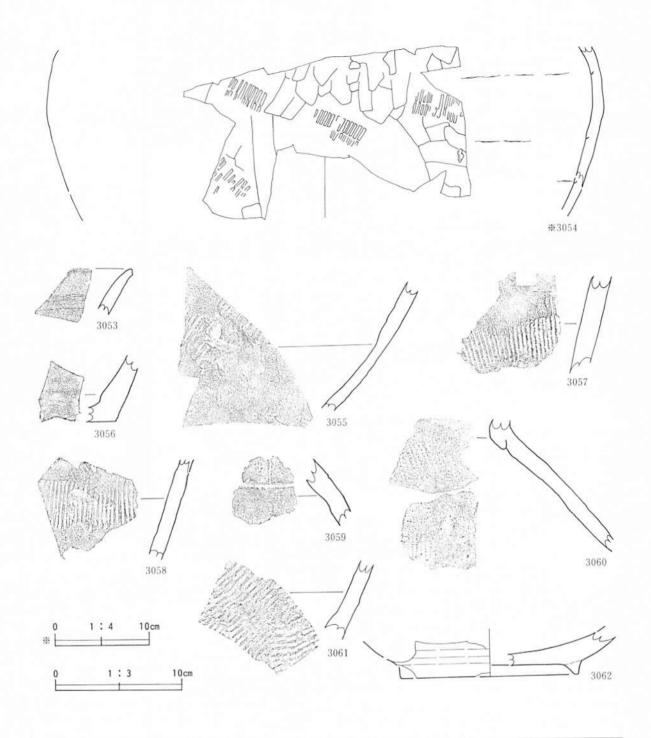
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3032	湿美	19 S E 3 北半	1	346	体部	にぶい拗	押印
3033	渥美	19 S E 3 北半	3	売	肩部	楊灰	押印
3034	渥美	19 S E 3 北半	4	並	口縁部	揭灰	内面に釉
3035	渥美	19 S E 3 北半	6	鉢	口~体部	褐灰	内面に釉
3036	渥美	19 S E 5 南半	埋土上部	號	体部	暗灰黄	押印
3037	渥美	19 S E 5 北半	1	班	到語	褐灰	内面に釉
3038	渥美	19 S E 6	碟混じり層	类	体部	褐灰	押印
3039	湿美	19 S E 6	碟混じり層	燛	体部	にぶい黄褐	押印
3040	渥美	19 S E 6 南半		笼	体部	褐灰	押印
3041	渥美	19SE6南半		遡	体部	褐灰	押印
3042	湿美	19 S E 6 南半		美	体部	灰オリーブ	外面に釉
3043	湿美	19 S E 6 南半		売	体部	にぶい黄橙	押印

第147図 渥美産陶器③



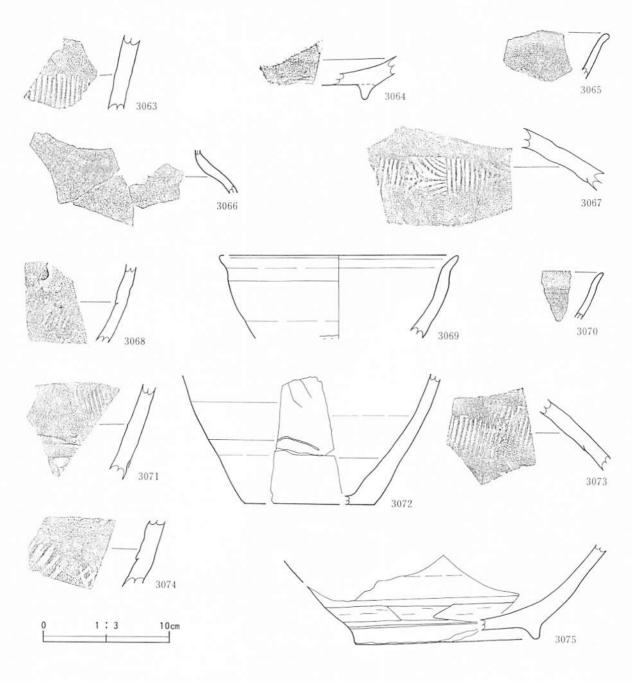
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3044	渥美	19 S X 1 南半	上面	38	頚~肩部	灰黄	外面に釉
3045	渥美	21 S X 5	焚き口覆土	35	体部	灰	押印
3046	渥美	II H 8 i		36	体部	展	押印
3047	渥美	Ⅲ H O i	5 d	鉢	口~体部	灰	内面に釉、12C後半
3048	渥美	Ⅲ H O i	5 d	売	肩部	灰オリーブ	押印、外面に釉
3049	渥美	Ⅲ H O i	5 d	悪	肩部	褐灰	押印、12C後半
3050	渥美	Ⅲ H O i	5 d	兜	体部	灰黄褐	押印
3051	渥美	Ⅲ H 0 i	1 h	並	体部	灰オリーブ	釉垂下、外面体部縞状、四耳壶
3052	渥美	ШНОј	1 e	笼	用部	灰	

第148図 渥美産陶器④



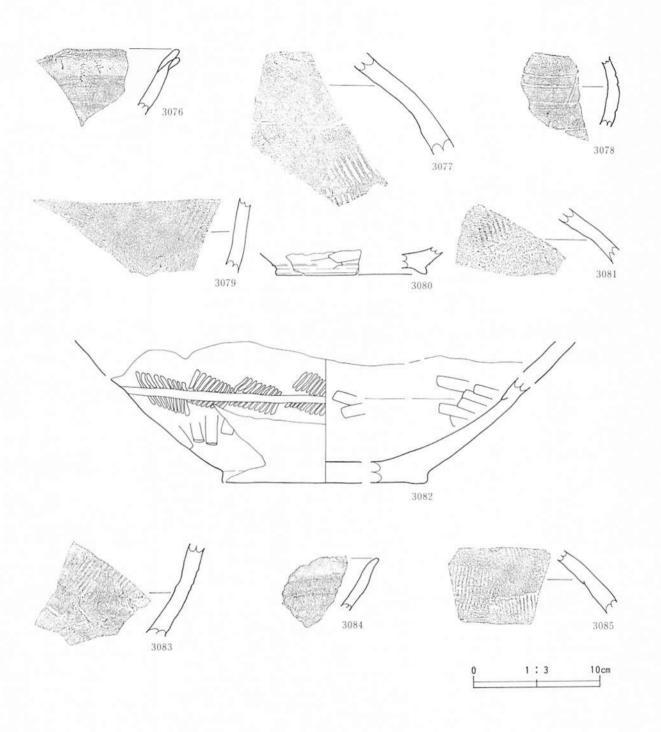
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3053	渥美	Ⅲ H 1 g	5 b	鉢	口綠部	黄灰	
3054	渥美	Ⅲ H 1 g	5 d	瓷	体部	灰	押印
3055	渥美	III H 1 g	5 d	甕	体部	灰	押印
3056	渥美	III H 1 g	5	遊	底部	褐灰	内面に釉
3057	渥美	Ⅲ H 2 f	5	亮	体部	揭灰	押印
3058	渥美	Ⅲ H 2 g	5	売	体部	灰	押印
3059	渥美	ⅢH3g付近	5	壷	肩部	暗灰黄	袈裟襻文
3060	渥美	III H 3 h	5	菱	肩部	オリープ灰	押印
3061	渥美	Ⅲ H 3 h	5	兜	体部	灰黄	押印
3062	湿美	Ⅲ H 4 g	Ш	鉢	底部	黄灰	内面摩耗

第149図 渥美産陶器⑤



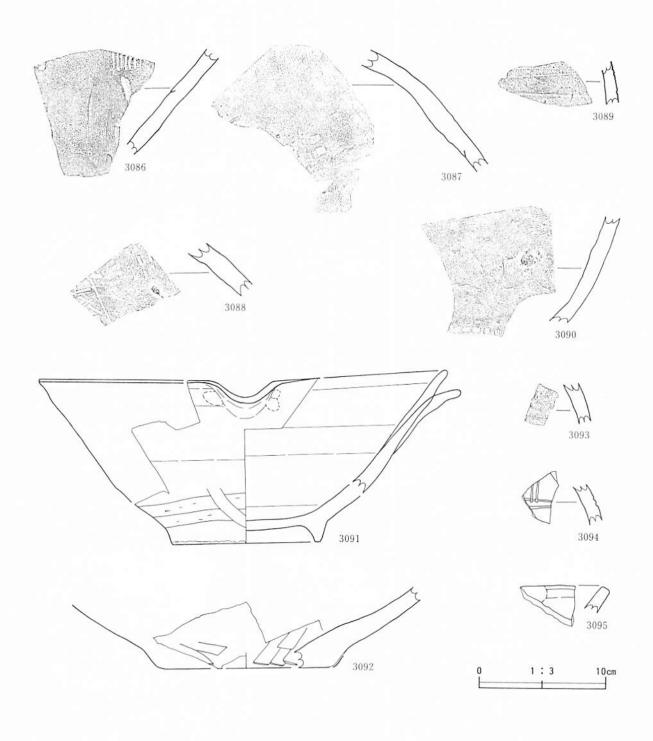
香号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3063	渥美	Ⅲ H 4 i	5 b	320	体部	褐灰	押印
3064	湿美	Ⅲ H 4 i	5 b	鉢	底部	灰	内面摩耗、内面に釉
3065	渥美	Ⅲ H 4 i	5 b	椀	口綠部	灰黄	内外而無釉
3066	渥美	■ H 4 i · 5 i	5 b	並	肩部	におい黄	外面に釉、胎土 2 種類の粘土
3067	渥美	Ⅲ H 5 i	5 b	赛	肩部	淡黄	外面に釉、複合押印?
3068	渥美	Ⅲ H 5 i	5 b	光	体部	灰オリーブ	外面に釉、押印
3069	渥美	Ⅲ H 5 i	5 d	鉢	口~体部	灰	内面に釉、12世紀第1四半期含む12世紀中葉
3070	渥美	Ⅲ H 6 i	5 b	碗	口綠部	灰白	山茶碗、内面に釉
3071	渥美	Ⅲ H 6 i	5 c	売	体部	黄灰	押印、ケズリ
3072	渥美	Ⅲ H 7 i	5 d	強	体一底部	褐灰	内面底部に釉
3073	渥美	ШН7 і	5 d	遡	体部	褐灰	押印、12C後半
3074	渥美	ШН7 і	5 d	斑	体部	灰	押印、12C後半
3075	渥美	トレンチ3	5 b	鉢	体一底部	黄灰	内面摩耗

第150図 渥美産陶器⑥



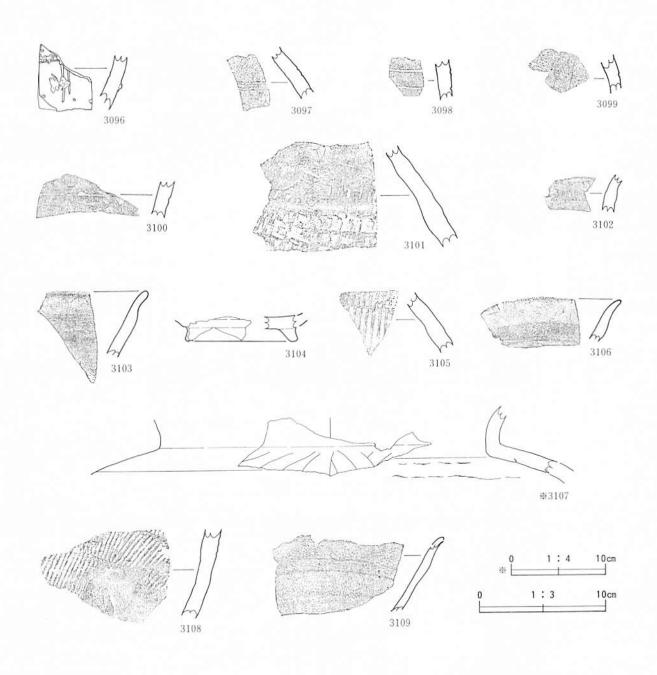
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	伽考
3076	渥美	MH8 i	5 d	鉢	口~体部	黄灰	片口、内面に釉薬、第2四半期含む12C中葉
3077	渥美	Ⅲ H 8 i	5 d	喪	肩部	灰黄	押印
3078	渥美	ШН9 с	II	壷	肩部	黄灰	蓮弁文? (袈裟襷文?)
3079	渥美	Ⅲ H 9 h	5 d	売	体部	黄灰	外面に釉
3080	渥美	MH9 i	5 b	94	底部	厌	12 C 後半
3081	湿美	Ⅲ H 9 i	5 b	燛	体部	灰オリーブ	外面に釉
3082	渥美	Ⅲ H 9 i	5 d	莞	体~底部	黄灰	押印
3083	渥美	Ⅲ H 9 i	5 d	薨	体部	褐灰	押印、ケズリ、12C後半
3084	渥美	ШН9 і	5 d	鉢	口縁部	黄灰	12C後半
3085	渥美	NH1i	1 q	売	肩部	灰オリーブ	外面に釉、押印

第151図 渥美産陶器⑦



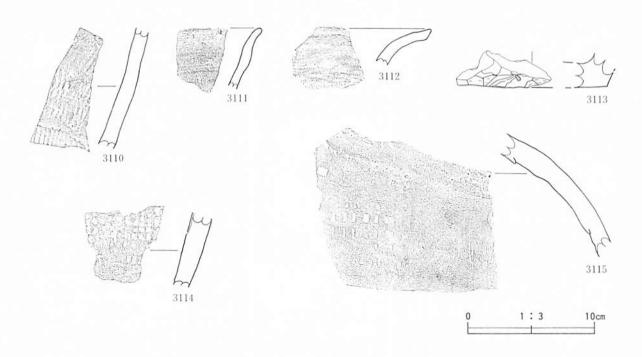
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3086	渥美	NH1i	1 r	瓷	体部	黄灰	押印、ケズリ
3087	渥美	NH1 i	l r	差	肩部	褐灰	押印
3088	渥美	NH1i	1 r	並	肩部	黄灰	押印、刻画文(絵画的文様)
3089	渥美	IV H 1 i	5d?	ओर	体部	褐灰	刻画文(細線)、外面に釉
3090	渥美	IV H 1 i	5d?	莞	体部	褐灰	外面に釉、押印、ケズリによる粘土の捲れ
3091	渥美	IV H 1 i	5 d	鉢	口~底部	黄灰	片口、内面部分的に摩耗、
3092	渥美	IVH 1 i	1 d	36	底部	黄灰	ケズリ
3093	渥美	IVH 1 i	1 d	壷	体部	暗灰黄	細線あり(刻画文?)
3094	渥美	IVH1j	5 d	並	肩部	灰オリーブ	外面に釉、袈裟欅文? (連弁文?)
3095	渥美	IV H 2 i	1 q	鉢	口縁部	掲灰	内面に釉

第152図 渥美産陶器®



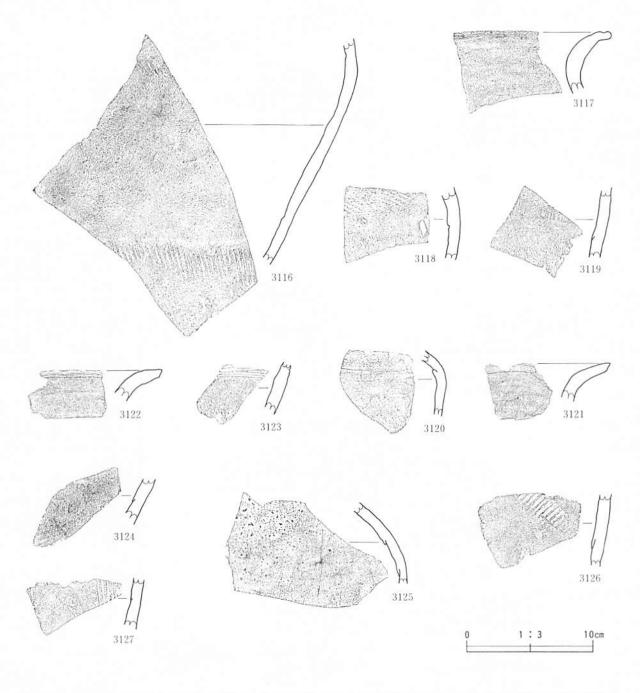
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3096	渥美	NH2i	1 q	並	体部	灰オリーブ	外面に釉、袈裟欅文? (連弁文?)
3097	渥美	NH2 i	1 q	並	体部	褐灰	竹管による平行沈線
3098	渥美	IV H 2 i	1 q	维	体部	灰	外面に平行沈線
3099	渥美	IVH2i	1 q	並	体部	褐灰	外面に釉、沈線
3100	渥美	IVH2 i	1 i	並	体部	褐灰	沈線、漆継ぎ
3101	渥美	NH2 i	1 i	38	体部	灰黄褐	押印
3102	渥美	トレンチ1	1 i	並	類部	暗灰黄	外面に釉
3103	渥美	トレンチ1	1 i	鉢	口~体部	灰	内面に釉
3104	渥美	NH2j	1 h	鉢	底部	灰白	内面摩耗
3105	渥美	IV H 3 h	1 i	350	体部	黄灰	押印
3106	渥美	NH3h	1 i	鉩	口綠部	灰	内面に釉
3107	渥美	NH3 i	1 q	売	頚~肩部	灰オリーブ	外面に釉
3108	渥美	NH3 i	1 q	莞	体部	にぶい黄褐	押印
3109	渥美	IVH3 i	1 q	鉢	口綠部	灰	内面に釉、内面摩耗

第153図 渥美産陶器⑨



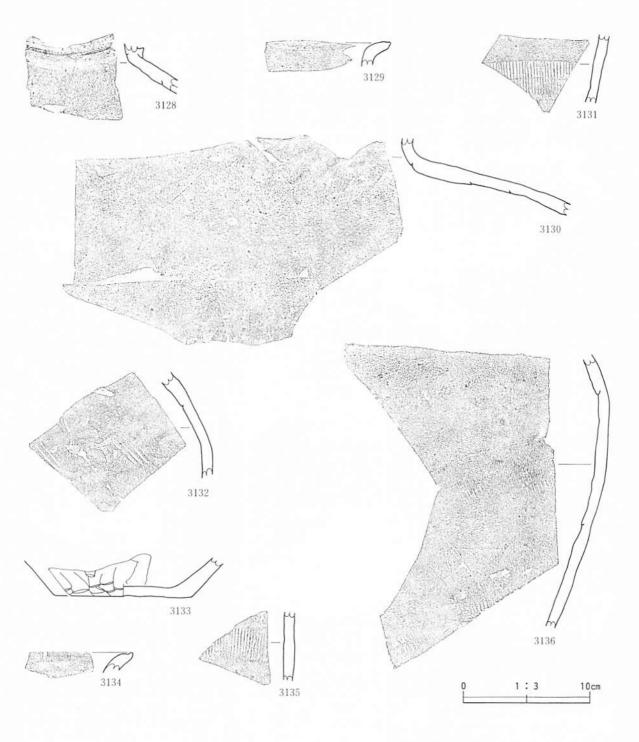
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3110	渥美	IV H 3 i	1 i	36	体部	揭灰	押印
3111	湿美	IV H 3 i	1 i	鉩	口線路	灰	
3112	渥美	IV H 3 i	1 i	売	口線部	暗灰	内面に釉
3113	渥美	IV H 4 j	1 q	発	底部	褐灰	内面底部に釉
3114	渥美	調査区南西部	盛士	蓌	体部	尿	押印
3115	渥美	トレンチ1	1 e	亮	肩部	灰	押印、外面に釉

第154図 渥美産陶器⑩



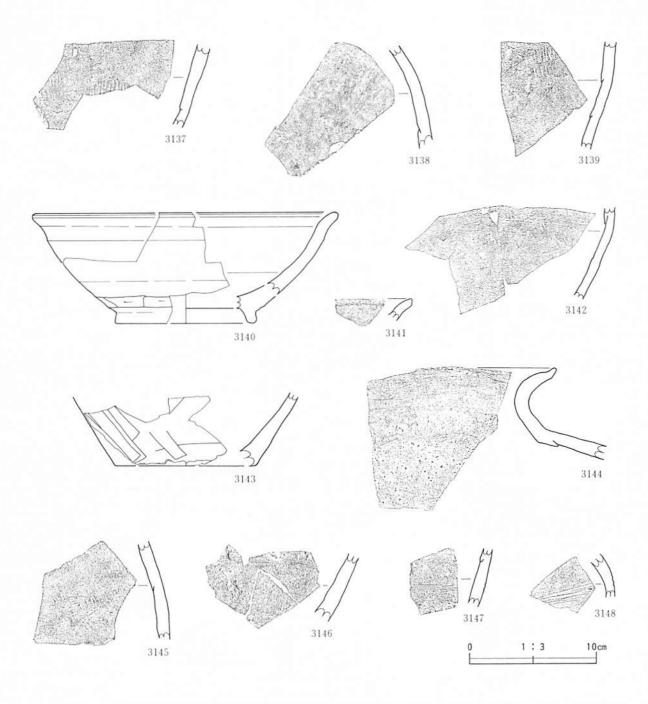
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3116	常滑2型式	19 S E 3	埋土上部	売	体部	灰褐	押印
3117	常滑2型式	19SE3南半	1~7	亮	口縁部	暗粉	口唇部に凹線、内面に釉
3118	常滑2型式	19SE3南牛	1~ 7	瓷	体部	灰褐	押印
3119	常滑2型式	19SE3北半	1	益	体部	灰褐	押印
3120	常滑 2 型式	19SE3北半	13	並	肩部	褐灰	外面に釉、三筋壺
3121	常滑2型式	19 S E 4 南半		瓷	口縁部	にぶい黄橙	内面に釉
3122	常滑 2 型式	19 S E 6	碟混じり層	売	口縁部	灰褐	内面に灰オリーブの釉
3123	常滑2型式	19 S E 6 两半		並	体部	褐灰	外面に沈線 (複線)、三筋壷
3124	常滑2型式	19SE6南半		美	体部	灰褐	押印?
3125	常滑 2 型式	19 S E 6 南半		班	肩部	灰オリーブ	外面に釉
3126	常滑2型式	19 S E 6 南半		甍	体部	黄灰	排印
3127	常滑 2 型式	Ⅲ H 0 i	5 b	Ne.	体部	灰褐	押印

第155図 常滑産陶器①



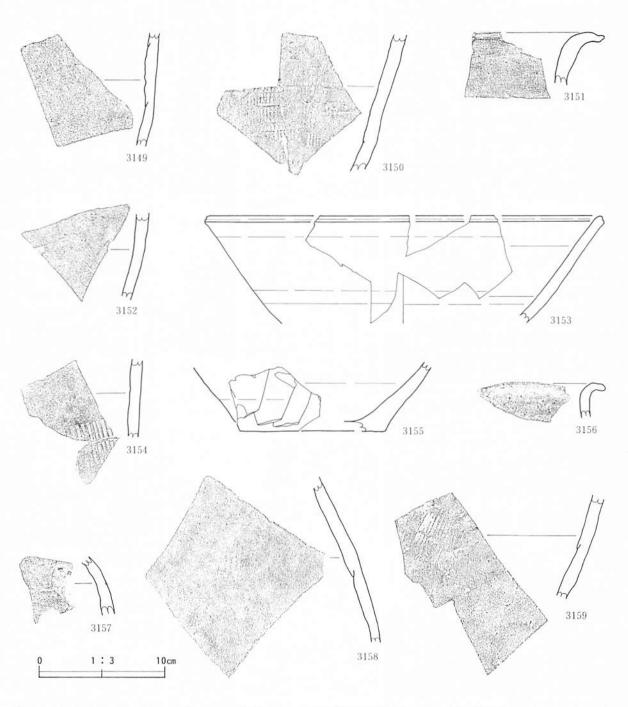
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3128	常滑2型式	Ⅲ H O i	5 d	葷	頚部	灰オリーブ	突帯文、外面に釉
3129	常滑 2 型式	Ⅲ H O i	5 d	斑	口緑部	暗褐	内面に釉
3130	常滑2型式	Ⅲ H O i	5 d	売	颈一肩部	黄灰	押印なし
3131	常滑2型式	Ⅲ H O i	5 d	355	体部	黄灰	押印
3132	常滑2型式	Ⅲ H O i	5 d	亮	肩部	にぶい赤褐	押印
3133	常滑2型式	Ⅲ H O i	5 d	美	底部	にぶい赤褐	ケズリ、3155と同一個体
3134	常滑2型式	Ⅲ H 1 f	5	死	口縁部	暗赤褐	口唇部に凹線、内面に釉
3135	常滑2型式	□ H 1 g	5 d	美	体部	灰褐	外面に押印
3136	常滑 2 型式	Ⅲ H 1 g	5 d	兜	体部	にぶい赤褐	外面に煤付着、3139と同一個体

第156図 常滑産陶器②



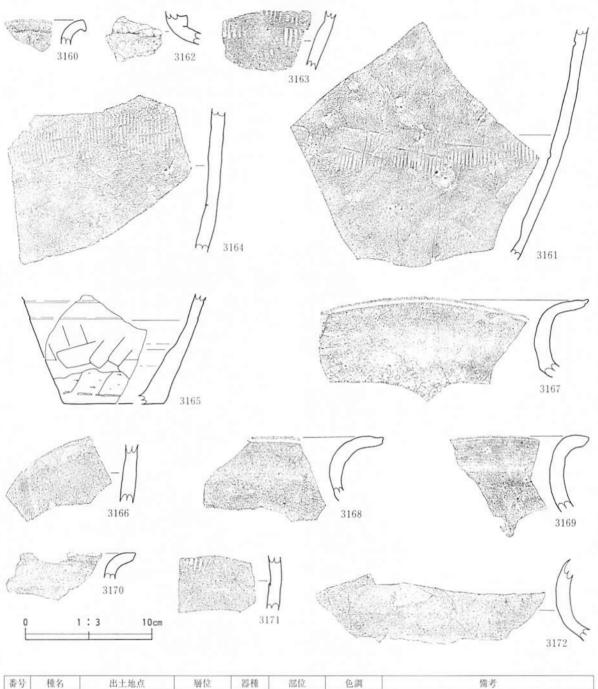
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3137	常滑2型式	Ⅲ H 1 g	5 d	奖	体部	にぶい赤褐	外面に押印
3138	常滑2型式	□ H 1 g	5	36	利部	灰オリーブ	外面に釉
3139	常滑 2 型式	□ H 1 g	5	类	体部	にぶい赤褐	外面に押印、3136と同一個体
3140	常滑 2 型式	Ⅲ H 2 g	5 b	鉢	口~底部	灰	内面摩耗
3141	常滑 2 型式	Ⅲ H 2 g	5	並	口縁部	灰オリーブ	内外面に釉
3142	常滑 2 型式	Ⅲ H 2 g	5	売	体部	褐灰	ケズリ、3143と同一個体
3143	常滑 2 型式	Ⅲ H 2 g	5	光	体~底部	にぶい赤褐	ケズリ、3142と同一個体
3144	常滑 2 型式	Ⅲ H 2 h	5 b	瓷	口縁部	灰オリーブ	外面に釉、口唇部に凹線
3145	常滑 2 型式	Ⅲ H 2 h	5 b	光	体部	にぶい赤褐	外面に押印
3146	常滑2型式	Ⅲ H 2 h	5	並	体部	灰	三筋壺、外面に複線、3147と同一個体
3147	常滑 2 型式	Ⅲ H 2 h	5	並	体部	灰褐	三筋壺、外面に複線、3146と同一個体
3148	常滑 2 型式	Ⅲ H 3 f	5	並	体部	灰	三筋壺、外面に釉、数条の沈線(竹管?)

第157図 常滑産陶器③



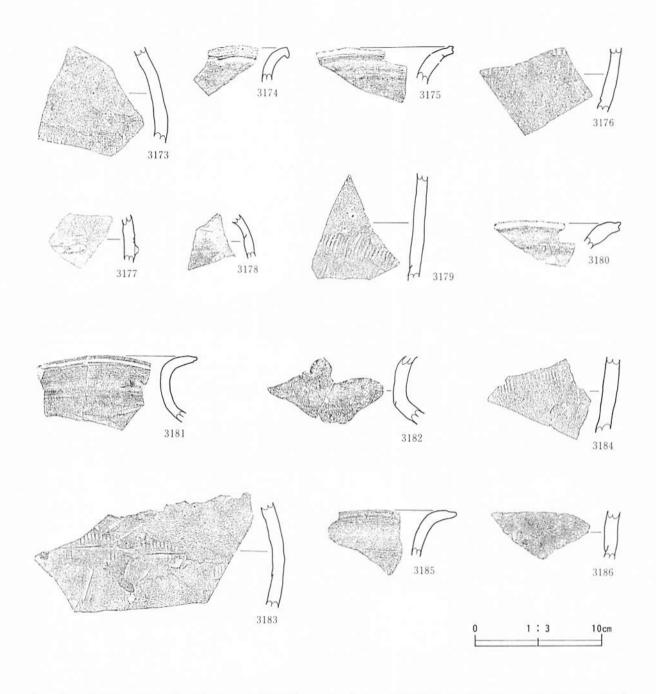
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3149	常清2型式	Ⅲ H 3 h	5 b	芸芸	肩部	灰オリーブ	外面に釉、押印
3150	常清2型式	Ⅲ H 3 h	5 b	光	体部	灰赤	押印
3151	常滑2型式	Ⅲ H 6 i	5 b	35	口緑部	褐灰	口唇部に凹線、内面に釉
3152	常滑2型式	Ⅲ H 6 i	5 d	號	体部	にぶい赤褐	ケズリ?
3153	常清2型式	Ⅲ H 8 i · 9 i	5 d	鉢	口~体部	黄灰	内外面に釉、内面摩耗
3154	常清2型式	Ⅲ H 9 i	5 d	385	体部	灰褐	押印
3155	常滑2型式	NH 1 i	1 q	兆	底部	にぶい赤褐	ケズリ、3133と同一個体
3156	常滑2型式	NH1 i	1 r	強	口縁部	灰	内外面に釉
3157	常滑2型式	NH1 i	1 r	並	体部	灰オリーブ	三筋壺、外面に複線、外面に釉
3158	常清2型式	NH 1 i	1 r	莞	体部	暗オリーブ	外面に釉、押印
3159	常滑2型式	IV H 1 i	1 r	35	体部	灰黄褐	押印

第158図 常滑産陶器④



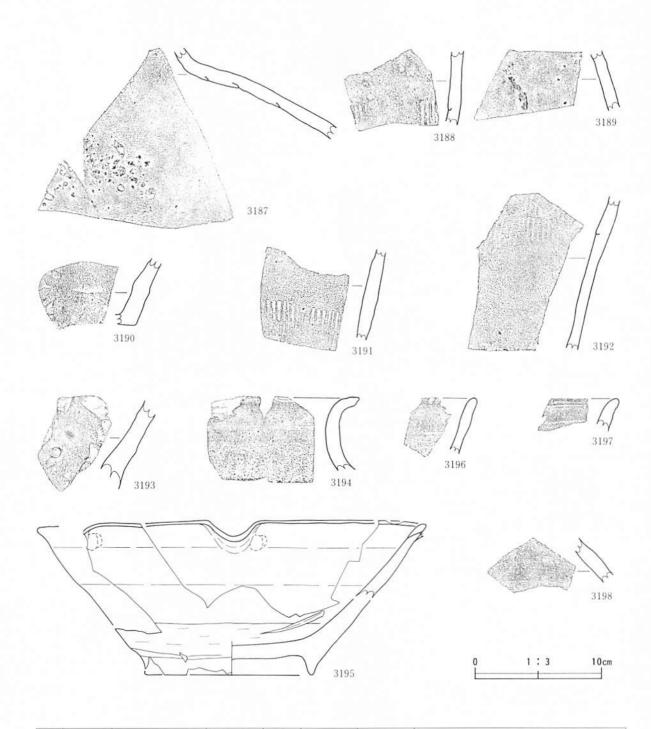
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3160	常滑2型式	IVH 1 i	5 d ?	चेंह	口縁部	褐灰	三筋壷?
3161	常滑2型式	IV H 1 i	5 d	甕	体部	褐灰	押印
3162	常滑2型式	NH1 i	1 e	強	預部	オリーブ灰	突帯文、外面に釉
3163	常滑2型式	NH1j	1 h	莞	体部	黄灰	押印
3164	常滑2型式	NH2h	1 i	悪	体部	にぶい赤褐	押印
3165	常滑2型式	NH2 i	1 i	雅	体一底部	灰	三筋壷、外面に複線?、内面に釉
3166	常滑2型式	NH2 i	1 q	施	体部	灰	灰オリーブの釉垂下
3167	常滑2型式	NH2 i	1 q	売	口縁部	灰オリーブ	口唇部の内外面に凹線、3168と同一個体
3168	常滑 2 型式	NH2 i	1 q	売	口縁部	暗褐	口唇部の内外面に凹線、3167と同一個体
3169	常滑2型式	NH2i	1 q	蹇	口綠部	褐灰	内外面に釉、3170と同一?
3170	常滑 2 型式	NH2 i	I q	兜	口縁部	褐灰	内外面に釉、3169と同一?
3171	常滑2型式	NH2 i	1 q	売	体部	褐灰	押印
3172	常滑2型式	NH2 i	1 r	亮	預部	褐灰	内外面に釉

第159図 常滑産陶器⑤



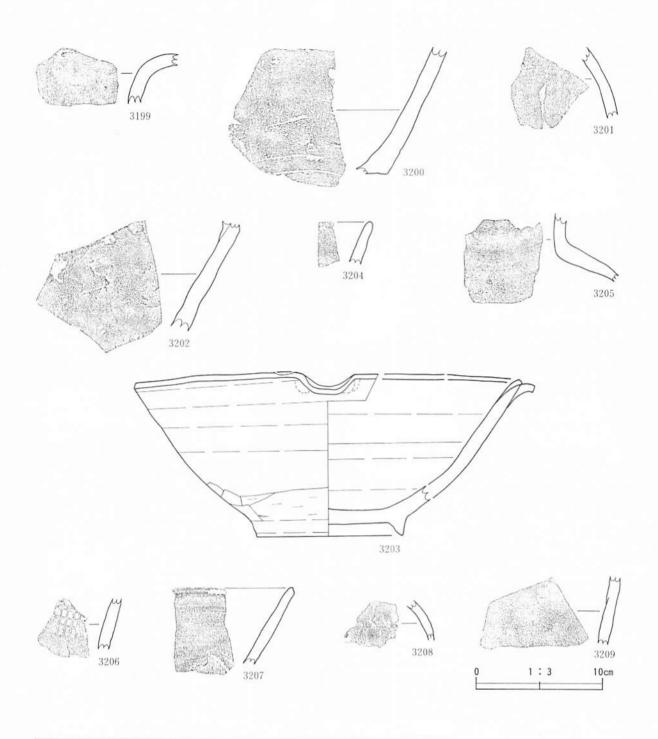
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3173	常滑2型式	NH2 i	1 r	売	肩部	黒褐色	外面に釉
3174	常滑2型式	NH2 i	1 i	遊	口綠部	褐灰	三筋壺?
3175	常滑2型式	NH2 i	1 i	遊	口縁部	祕	口唇部に凹線
3176	常滑2型式	NH2 i	1 i	类	体部	褐灰	押印
3177	常滑2型式	トレンチ1	1 i	壷	体部	灰オリーブ	耳付?三筋壺、複線、3178と同一?
3178	常滑 2 型式	トレンチ1	1 i	並	体部	灰オリーブ	三筋壺、複線、3177と同一?
3179	常滑2型式	NH2j	5 d	笼	体部	灰褐	押印
3180	常滑 2 型式	NH3h	1 i	売	口縁部	にぶい掲	口唇部内外に凹線
3181	常滑2型式	IV H 3 i	1 r	瓷	口級部	灰オリーブ	口唇部内外に凹線
3182	常滑2型式	IV H 3 i	1 i	莞	颈部	灰オリーブ	内外面に釉
3183	常滑2型式	IVH3 i	1 i	売	体部	にぶい褐	押印
3184	常滑 2 型式	IVH3 i	1 i	売	体部	にぶい赤褐	押印
3185	常滑 2 型式	IV H 3 j	1 r	売	口縁部	楊灰	内面に釉
3186	常清 2 型式	IV H 4 h	1 r	売	体部	暗オリーブ	外面に釉

第160図 常滑産陶器⑥



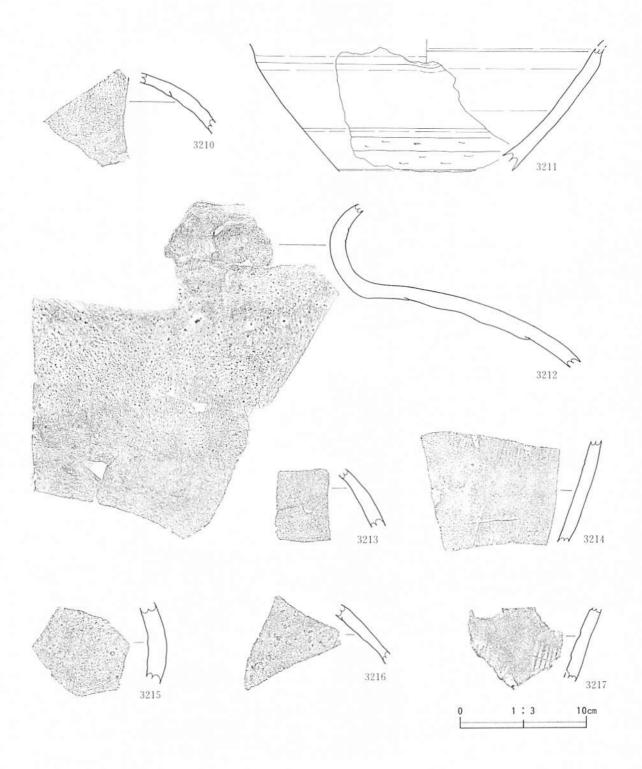
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3187	常滑 2 型式	IVH4 j	1 q	瓷	体部	暗オリーブ	外面に釉、押印、3189と同一個体
3188	常滑2型式	IV H 4 j	1 q	瓷	体部	灰褐	押印
3189	常滑2型式	IVH4j	1 q	斃	体部	暗オリーブ	外面に釉、押印、3187と同一個体
3190	常滑 2 型式	調査区北側	撹乱	壷	体~底部	褐灰	内外無釉
3191	常滑2型式	調査区北側	搅乱	386 316	体部	褐灰	押印
3192	常滑2型式	電柱西侧	不明	355	体部	にぶい赤褐	抽印
3193	常滑3型式	19 S E 6 南半		ヹ	体部	灰褐	内面に釉
3194	常滑3型式	Ⅲ H O i	5 b	塑	口縁部	褐灰	内外面に釉
3195	常滑3型式	Ⅲ H 1 g · 7 i	5 d	鉢	口縁部	褐灰	内面の一部に釉、内面摩耗
3196	常滑3型式	Ⅲ H 2 g	5	鉢	口縁部	にぶい赤褐	内面に釉
3197	常滑3型式	Ⅲ H 2 g	5	鉢	口縁部	褐灰	内面に釉
3198	常滑3型式	Ⅲ H 6 i	5 d	鉢	体部	灰	内面に釉

第161図 常滑産陶器⑦



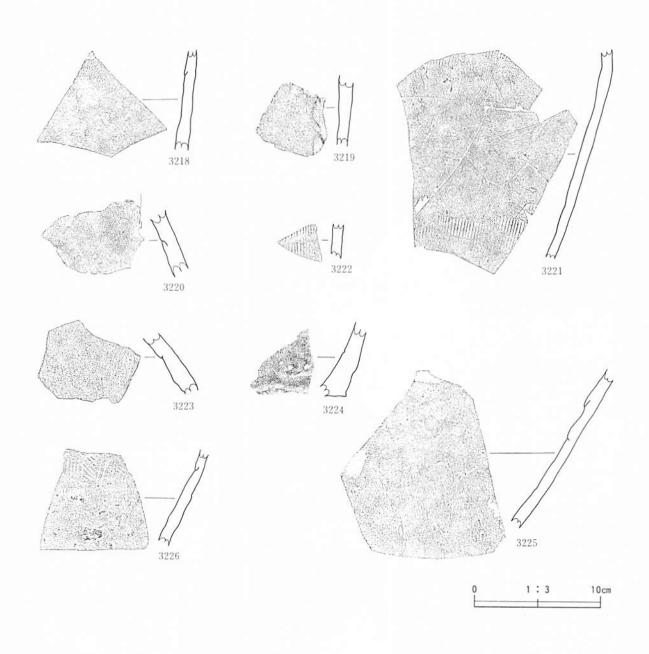
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3199	常滑3型式	Ⅱ H 7 i	5 d	並	頚部	灰褐	
3200	常滑3型式	Ⅲ H 7 i	5 d	童?	体部	灰褐	
3201	常滑3型式	IVH 1 i	5 d	壷	体部	褐灰	細線
3202	常滑3型式	IV H 1 i	1 d	光	体部	におい 福	
3203	常滑3型式	IV H 1 i ・ 1 j ほか	5 d	鉢	口~底部	灰白	内面に釉、内面摩耗
3204	常滑3型式	トレンチ1	1 i	鉢	口縁部	灰	内面に釉、内面摩耗
3205	常滑3型式	IV H 3 j	1 q	壷	頚部	黄灰	
3206	常清2~3型式	19 P 602		类	体部	にぶい樹	押印
3207	常清2~3型式	19SD9 ⅢH7j		鉢	口縁部	灰	内面わずかに摩耗
3208	常清2~3型式	19SD9 III9a	検出面	強	体部	暗オリーブ	外面釉垂下
3209	常清2~3型式	19 S E 3 南半	1~7	売	体部	灰赤	

第162図 常滑産陶器®



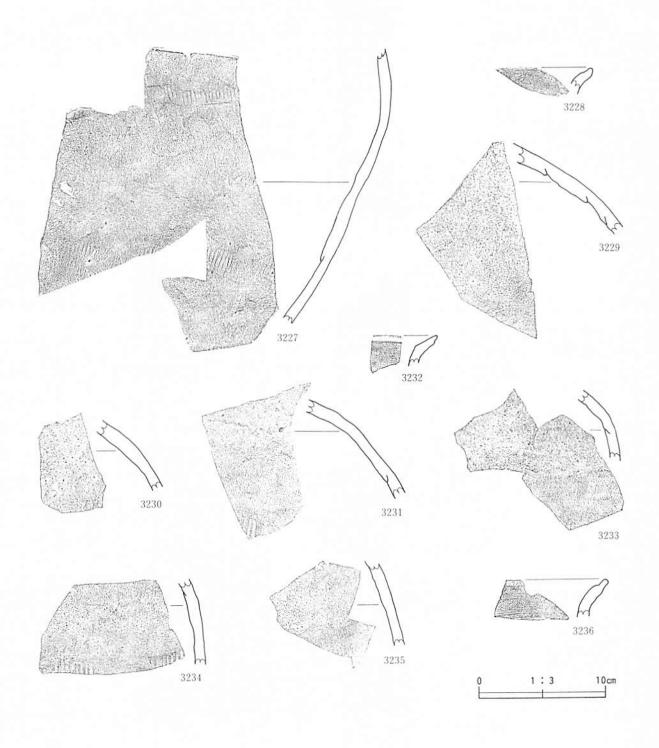
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3210	常滑2~3型式	19 S E 3 南半	埋土.	光	肩部	灰褐	外面に釉
3211	常滑2~3型式	19 S E 3 北半	1	84:	体部	物灰	内面摩耗
3212	常滑2~3型式	19SE 3 北半ほか	1	瓷	口~肩部	黄褐	外面に釉、押印、頚部に細線
3213	常清2~3型式	19SE 3 北半	1	瓷	肩部	灰褐	外面に釉
3214	常滑2~3型式	19SE3北半	1	薨	体部	灰褐	押印
3215	常滑2~3型式	19 S E 6	礫混じり層	並	体部	灰オリーブ	外面に釉
3216	常滑2~3型式	19 S E 6	碟混じり層	36	肩部?	灰オリーブ	外面に釉
3217	常滑2~3型式	19 S E 6	礫混じり層	売	体部	厌	押印

第163図 常滑産陶器⑨



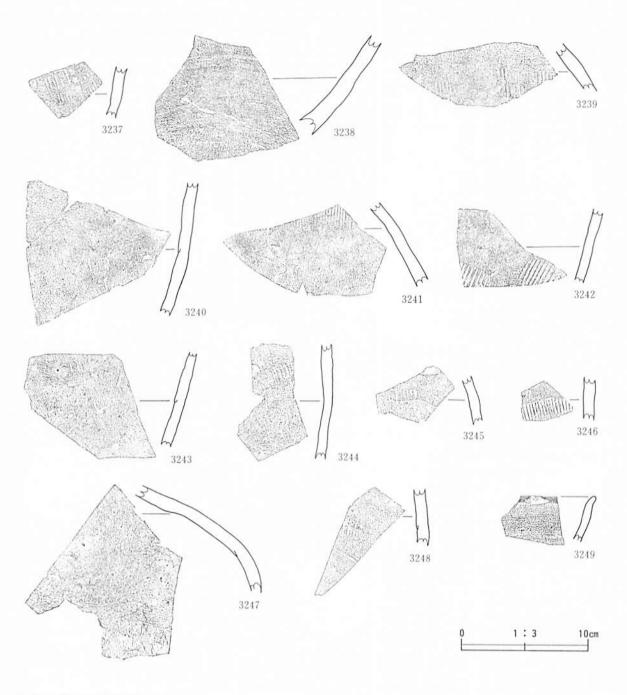
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3218	常滑2~3型式	19 S E 6	礫混じり層	355	体部	褐灰	1130-1-92
3219	常滑2~3型式	19 S E 6 南半		雑	体部	灰オリーブ	破片断而摩耗?
3220	常清2~3型式	19 S E 7	下半	恋	体部	灰オリーブ	外面に釉
3221	常滑2~3型式	ПН0 д	5	遊	体部	灰褐	押印
3222	常清2~3型式	II Н О g	5	斑	体部	褐灰	押印
3223	常清2~3型式	II H 8 a	IV	亮	肩部	灰白	外面に釉
3224	常滑2~3型式	II H 8 i	不明	遊	底部	暗灰黄	
3225	常滑2~3型式	Ⅲ H O i	5 b	36	体部	灰褐	
3226	常清2~3型式	Ⅲ H O i	7 d	売	体部	にぶい掲	押印

第164図 常滑産陶器⑩



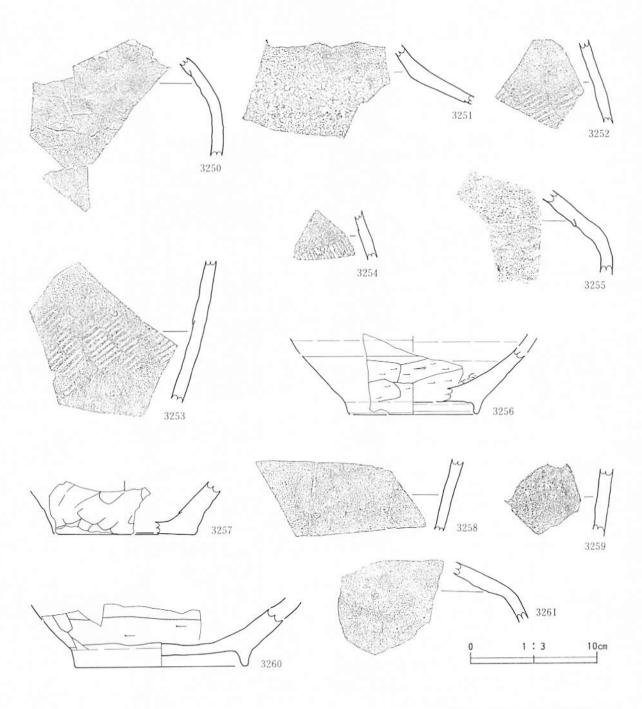
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3227	常清2~3型式	Ⅲ H 0 i	5 d	喪	体部	灰黄褐	押印、外面に釉
3228	常滑2~3型式	Ⅲ H 0 i	5 d	瓷	口縁部	灰オリーブ	内外面に釉、内面に凹線
3229	常滑2~3型式	Ⅲ H O i	5 d	斑	肩部	灰オリーブ	外面に釉、3230と同一個体
3230	常滑2~3型式	шноі	5 d	兜	肩部	灰オリーブ	外面に釉、3229と同一個体
3231	常滑2~3型式	m H O i	5 d	36	肩部	揭灰	外面に釉
3232	常清2~3型式	ШНОi	5 d	壷	口縁部	灰褐	内面に釉、外面に凹線
3233	常清2~3型式	шно і	5 d	壺	肩部	灰オリーブ	外面に釉
3234	常滑2~3型式	Ⅲ H 0 i	5 d	光	体部	揭灰	外面に釉、押印
3235	常清2~3型式	Ⅲ H 1 f	5	亮	体部	灰褐	4甲百0
3236	常清2~3型式	Ⅲ H 1 g	5 b	亮	口綠部	庆黄褐	口唇部内面に凹線

第165図 常滑産陶器①



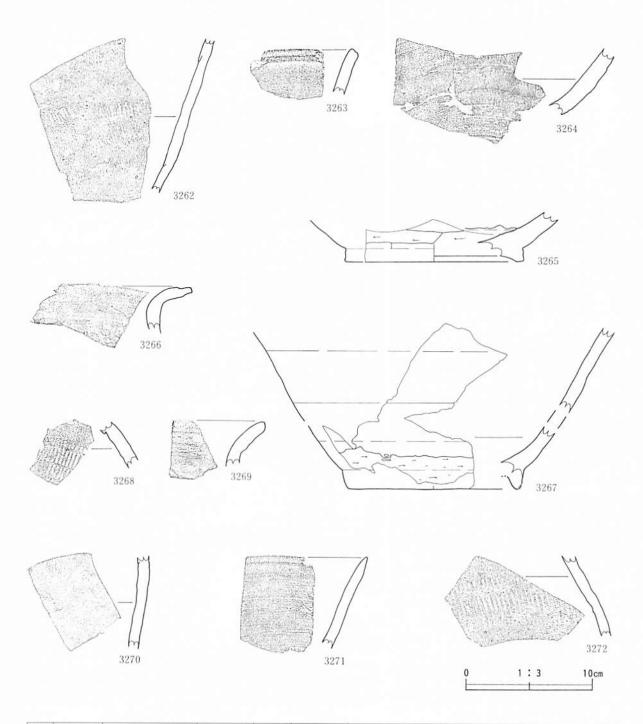
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3237	常律2~3型式	Ⅲ H 1 g	5 b	3%	体部	灰紭	外面に押印
3238	常計2~3型式	Ⅲ H 1 g	5 d	鉢	体部	黄灰	内而摩耗
3239	常滑2~3型式	Ⅲ H 1 g	5 d	売	肩部	黄灰	外面に釉、押印
3240	常滑2~3型式	Ⅲ H 1 g	5 d	筅	体部	灰赤	押印
3241	常滑2~3型式	Ⅲ H 1 g	5 d	类	肩部?	灰褐	押印
3242	常滑2~3型式	Ⅲ H 1 g	5 d	兜	体部	灰褐	押印
3243	常滑2~3型式	Ⅲ H 1 g	5 d	挑	体部	灰褐	押印
3244	會清2~3型式	Ⅲ H 1 g	5 d	光	体部	灰褐	押印
3245	常滑2~3型式	Ⅲ H 1 g	5	売	体部	灰褐	押印
3246	常滑2~3型式	Ⅲ H 1 g	5	兜	体部	灰褐	押印
3247	常滑2~3型式	Ⅲ H 2 g	5 b	逝	肩部	灰オリーブ	外面に釉
3248	常滑2-3型式	Ⅲ H 2 g	5 b	兜	体部	灰褐	押印
3249	常滑2~3型式	Ⅲ H 2 g	5	鉢	口縁部	灰	内面に釉

第166図 常滑産陶器⑫



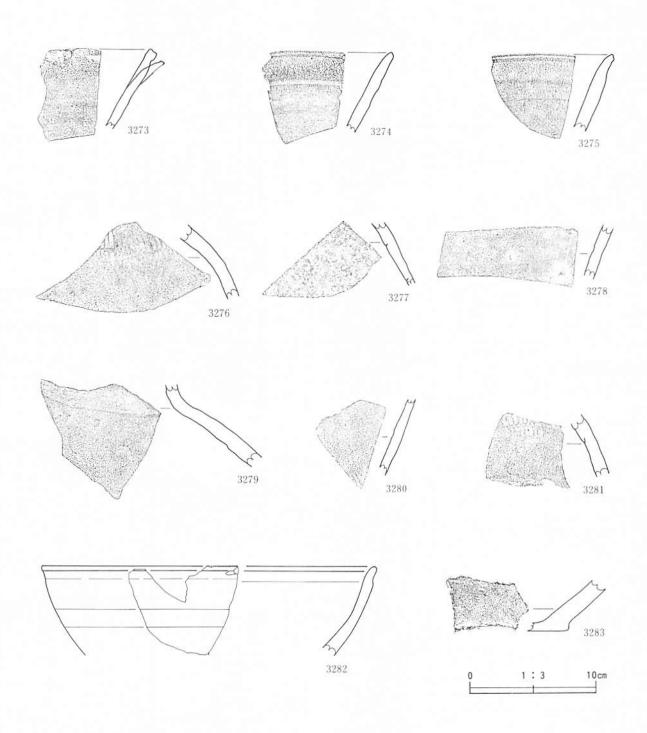
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3250	常滑2~3型式	Ⅲ H 2 g	5	और	肩部	灰褐	外面に釉、粘土のめくれ
3251	常滑2~3型式	Ⅲ H 2 h	5 b	35	肩部	灰オリーブ	外面に釉
3252	常滑2~3型式	Ⅲ H 2 h	5	瓷	肩部?	にぶい掲	押印
3253	常滑2~3型式	Ⅲ H 3 f	5	莞	肩部?	にぶい掲	押印
3254	常滑2~3型式	Ⅲ H 3 g	5	亮	肩部?	灰褐	押印
3255	常滑2~3型式	Ⅲ H 3 h	5 b	莞	肩部	灰オリーブ	外面に釉
3256	常滑2~3型式	Ⅲ H 3 h	5 b	鉢	体~底部	黄灰	内面に釉
3257	常滑2~3型式	Ⅲ H 3 h	5 b	蹇	体~底部	にぶい掲	内面に釉
3258	常滑2~3型式	Ⅲ H 3 h	5 b	瓷	体部	灰赤	
3259	常滑2-3型式	Ⅲ H 3 h		甕	体部	灰オリーブ	外面に釉
3260	常滑2-3型式	Ⅲ H 3 h · 5 i · 7 i	5 d	鉢	底部	灰	内面摩耗
3261	常滑2~3型式	Ⅲ H 4 g	5	瓷	阿部	褐灰	外面に釉

第167図 常滑産陶器(3)



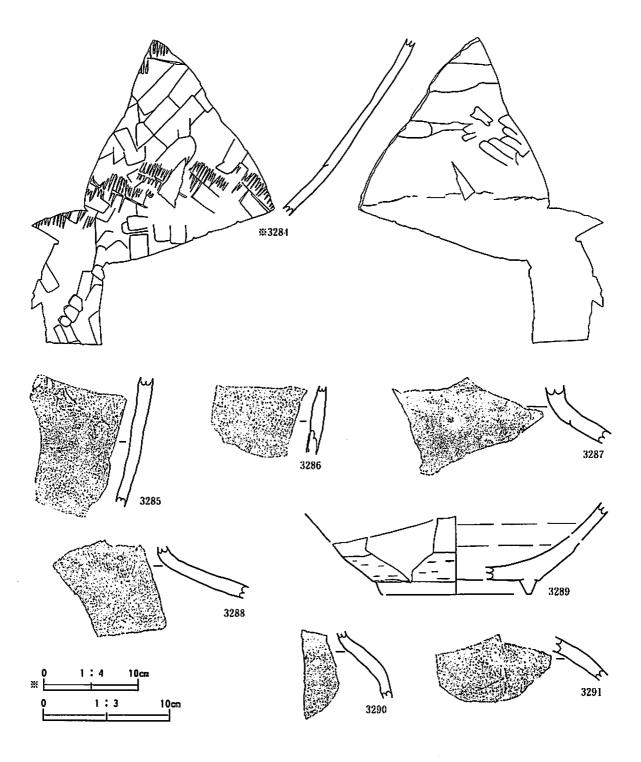
番号	種名	出土地点	層位	岩種	部位	色調	備考
3262	常清2~3型式	Ⅲ H 4 h	5 b	売	体部	灰赤	押印
3263	常滑2~3型式	Ⅲ H 4 j	5 c	鉢	口縁部	黄灰	
3264	常滑2~3型式	Ⅲ H 5 i	5 b	鉢	体部	灰褐	内面摩滅、外面被熱による変色?
3265	常滑2~3型式	Ⅲ H 6 h	III	鉢	底部	黄灰	内面に釉、内面摩耗
3266	常計2~3型式	Ⅲ H 6 i	5 b	拠	口縁部	灰オリーブ	内外面に釉、口唇部内面に凹線
3267	常滑2~3型式	Ⅲ H 6 i · 8 i · 9 i	5 d	鉢	体~底部	黄灰	内面摩耗
3268	常滑2~3型式	Ⅲ H 7 i	5 d	36	肩部?	灰黄褐	押印
3269	常滑2~3型式	Ⅲ H 8 i	5 d	亮	口縁部	展	内外面に釉
3270	常滑2~3型式	Ⅲ H 8 i	5 d	兜	体部	黄灰	押印
3271	倉滑2~3型式	Ⅲ H 9 i	5 b	鉢	口~体部	黄灰	内面摩耗
3272	常滑2~3型式	шн9 і	5 d	班	肩部	灰褐	押印

第168図 常滑産陶器⑭



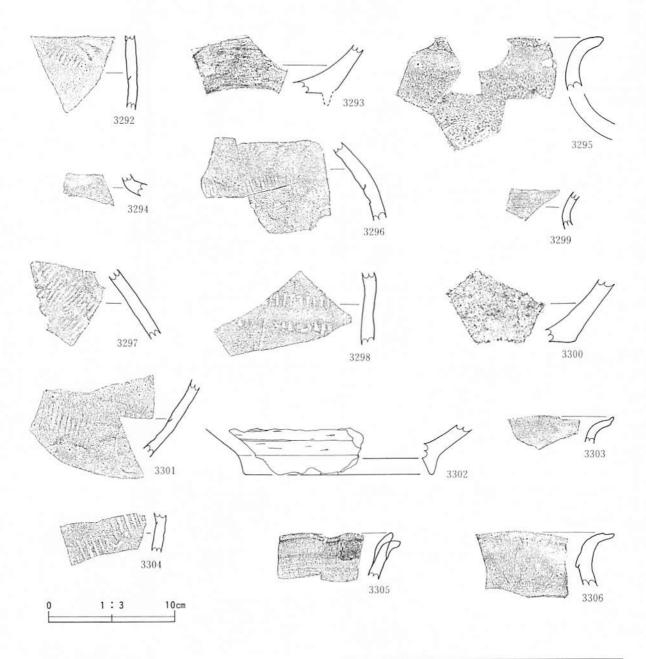
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色測	備考
3273	常滑2~3型式	Ⅲ H 9 i	5 d	鉢	口~体部	褐灰	片口
3274	常滑2~3型式	Ⅲ H 9 i	5 d	鉢	口~体部	灰白	内外面に釉
3275	常清2~3型式	Ш I 0 с	5b?	鉢	口~体部	黄灰	内面に釉
3276	常滑2~3型式	NH1 i	1 q	赛	肩部	黄灰	外面に釉、押印
3277	常滑2~3型式	NH1 i	1 r	施	肩部?	灰オリーブ	外面に釉
3278	常清2~3型式	NH 1 i	1 r	38	体部	暗赤褐	外面に釉垂下
3279	常滑2~3型式	NH 1 i	1 r	兆	肩部	黄灰	外面に釉
3280	常滑2~3型式	NH 1 i	1 e	美	体部	灰赤	押印
3281	常滑2~3型式	NH1 i	1 i	36	体部	灰黄	押印
3282	常滑2~3型式	IV H 1 j	5 d	盆本	口~体部	灰黄	内外面に釉
3283	常滑2~3型式	IV H 1 j	1 h	35	底部	初級	内外面に釉

第169図 常滑産陶器①



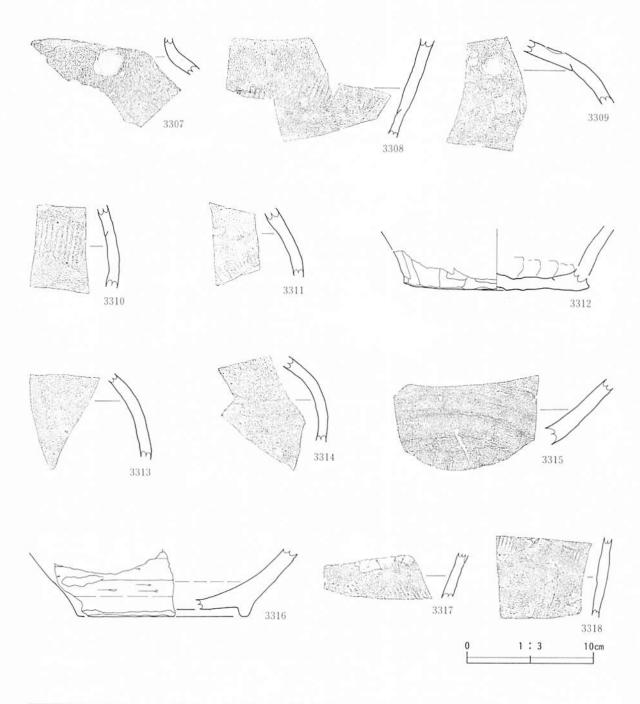
番号	極名	胡土地点	層位	器板	部位	色詞	伯书
3284	常計2~3型式	NHli・2iほか	1 r	类	体部	にぶい赤褐	押印、内面にも稿
3285	常清2~3型式	NH2 i	1 q	喪	体部	暗赤灰	
3286	常滑2~3型式	№ 11 2 i	1 q		体部	灰褐	押印
3287	常滑2~3型式	NH2 i	1 q	类	肩部	灰オリーブ	外面に釉
3288	常滑2~3型式	NH2 i	1 q	斑	肩部	灰オリーブ	外面に釉
3289	常滑2~3型式	NH2 i	l r	ŝķ	体一底部	灰	内面摩耗
3290	倉間2~3型式	NH2 i	l r	雑	用部	灰オリーブ	外面に釉
3291	窓沿2~3型式	NH2 i	1 r	斑	77部	灰オリーブ	外面に釉、押印

第170図 常滑産陶器⑯



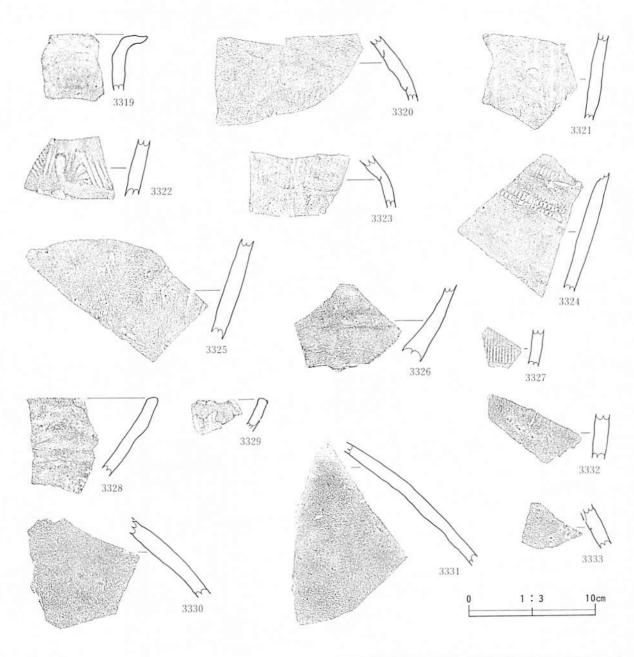
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3292	常清2~3型式	NH2 i	1 r	喪	体部	黄灰	押印
3293	常滑2~3型式	NH2 i	1 i	鉢	底部	黄灰	高台欠損、被熱による変色
3294	常滑2~3型式	IVH2 i	1 i	並	肩部	灰オリーブ	外面に釉
3295	常滑2~3型式	IVH2 i	1 i	涎	口緑部	灰オリーブ	外面に釉
3296	常滑2~3型式	IVH2 i	1 i	莞	肩部	暗オリーブ	押印
3297	常滑2~3型式	NH2 i	1 i	355	肩部?	黄灰	押印
3298	常滑2~3型式	NH2 i	1 i	遊	体部	灰赤	押印
3299	常清2~3型式	トレンチ1	1 i	壺	類部	黄灰	内外面に釉
3300	常滑2~3型式	トレンチ1	1 i	壶?	体~底部	楊灰	内面に釉
3301	常滑2~3型式	トレンチ1	1 i	蹇	体部	褐灰	押印
3302	常滑2~3型式	NH2j	1 h	鉢	底部	灰白	内面摩耗
3303	常滑2~3型式	IV H 3 h	1 i	童	口綠部	灰黄褐	内外面に釉
3304	常滑2~3型式	IV H 3 h	1 i	346	体部	楊灰	押印
3305	常滑2~3型式	IV H 3 i	1 q	鉢	口縁部	灰	片口、内外面に釉、指頭圧痕
3306	常滑2~3型式	IV H 3 i	1 q	JAC .	口綠部	オリーブ黄	内外面に釉

第171図 常滑産陶器①



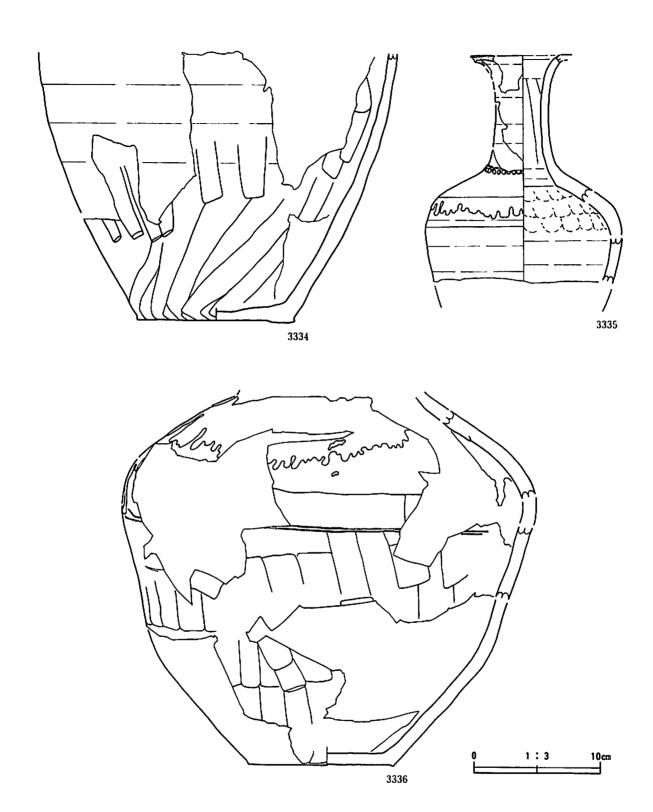
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3307	常滑2~3型式	IVH3 i	1 q	386	月部	灰オリーブ	外面に釉
3308	常滑2~3型式	IV H 3 i	1 q	兜	体部	褐灰	押印
3309	常滑2~3型式	IVH3 i	1 q	挑	肩部	黑褐	押印
3310	常滑2~3型式	IVH3 i	1 q	燛	体部	灰オリーブ	押印
3311	常滑2~3型式	IV H 3 i	1 q	36	肩部?	灰黄褐	押印
3312	常滑2~3型式	IV H 3 i	1 q	35	底部	にぶい黄褐	内面底部に釉
3313	常滑2~3型式	IV H 3 i	1 q	流	肩部	オリーブ黒	外面に釉
3314	常滑2~3型式	IV H 3 i	1 r	雅	肩部	灰黄	外面に釉
3315	常青2~3型式	IVH3 i	1 i	鉢	体部	灰	内面摩耗
3316	常滑2~3型式	IVH3 i	1 i	鉢	底部	灰	内面摩耗、外面底部に釉
3317	常滑2~3型式	IV H 3 i	1 i	班	体部	にぶい赤褐	押印
3318	常滑2~3型式	IV H 3 i	1 i	売	体部	灰黄褐	押印

第172図 常滑産陶器18



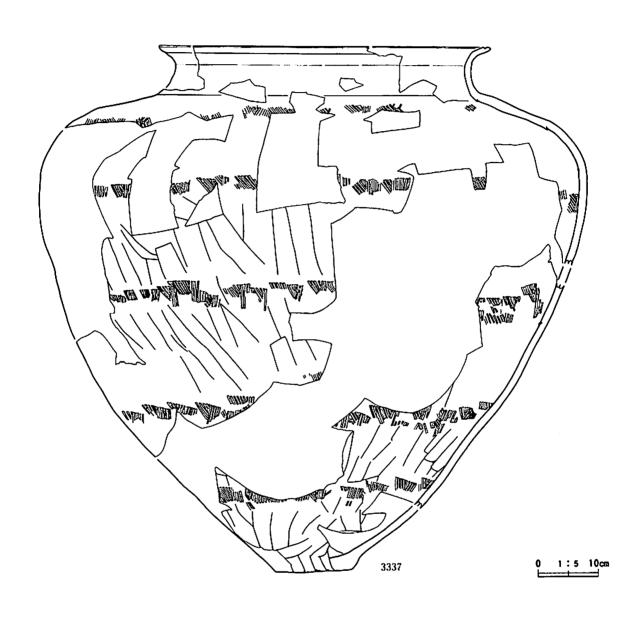
香号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3319	常清2~3型式	NH3j	1 q	並	口縁部	灰オリーブ	内外面に釉、口唇部内面に凹線
3320	常清2~3型式	NH3j	1 q	116	肩部	オリーブ黒	押印
3321	常滑2~3型式	IVH3 j	1 i	売	体部	無報	外面褐色の釉垂下
3322	常清2-3型式	IV H 4 i	1 i	3%	体部	にぶい赤褐	押印
3323	常清2~3型式	IVH4 i	1 i	売	肩部	褐灰	外面に釉、押印
3324	常清2~3型式	IV H 4 j	1 q	売	体部	灰褐	外面に釉、押印
3325	常清2~3型式	IV I 1 a	1 g	甕	体部	灰褐	外面に櫛歯状のケズリ
3326	常滑2~3型式	北半	II	鉢	体部	黄灰	内面に釉、内面摩耗
3327	常滑2~3型式	不明		董?	体部	灰褐	押印
3328	常滑7型式	19 S E 6 南半		鉢	口~体部	灰黄褐	内面わずかに摩耗
3329	常滑7型式	19 S E 6 南半		鉢	口縁部	厌	
3330	常清 (18C)	19 P 101	埋土	亮	肩部?	褐灰	3333と同一個体
3331	常清 (18C)	19SD6 IIG9j	埋土上部	売	肩部?	赤灰	
3332	常滑 (18C)	19 S D 6 II G 9 j	埋土上部	兜	体部	にぶい赤褐	
3333	常滑 (18C)	19SD6 ⅢG4j		売	肩部?	楊灰	3330と同一個体

第173図 常滑産陶器⑩



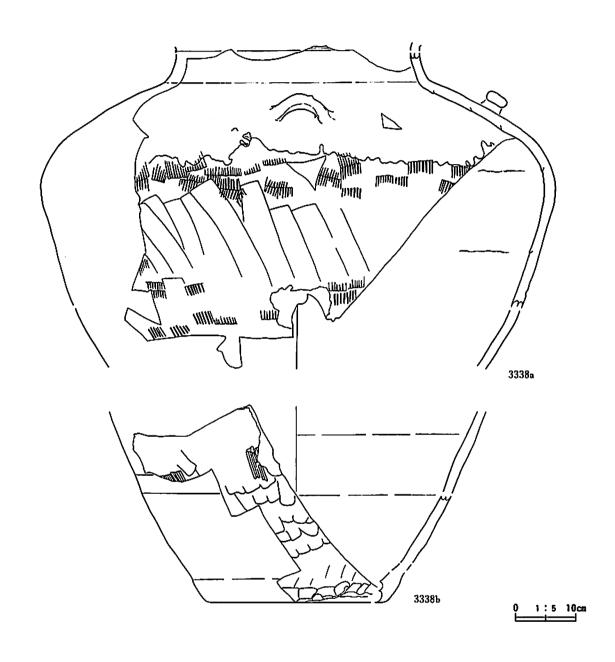
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色餌	偏考
3334	常滑3型式	19 S D 2 ?		_ 選	体~底部	揭庆	外面ケズリ
3335	常滑2型式?	19SD9 · MH8j		長頭壺	口~体部	伏オリーブ・ 掲	頚部に円形の刺突列
3336	常滑2型式	19SD9 · NH3 j		磁	「一底部	略オリーブ・灰褐	体部上位に複線?1条

第174図 常滑産陶器②



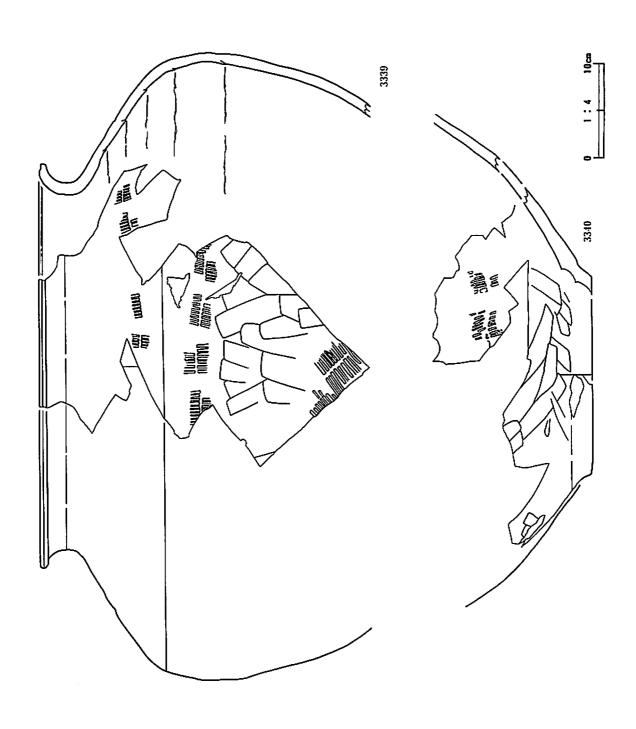
番号	植名	出土地点	層位	器板	部位	色調	偏考
3337	常滑3型式	19SD9ほか		塁	口~底部	浅黄·黑褐	押印、口唇部内面に凹線、接合破片約130点

第175図 常滑産陶器②



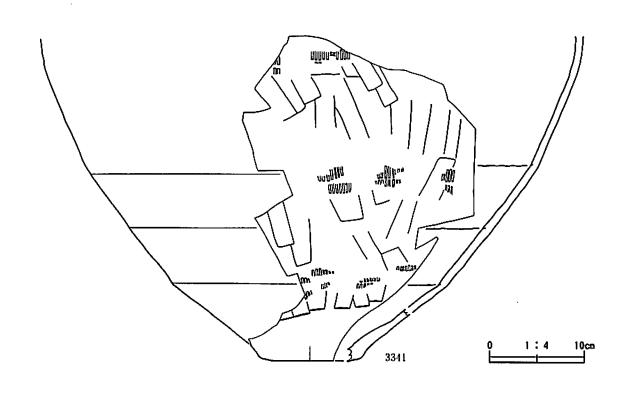
群	種名	出土地点	層位	器板	部位	色斑	相考
333	光規を指常 8	19S E 3	1~7層・3層	iži	預部~・統部	着オリーブ・新水根	a 体・b 体あり、横耳、押印、接合破片約30点

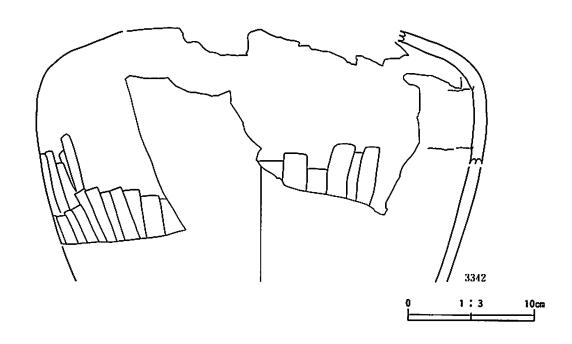
第176図 常滑産陶器②



番号	極名	出土地点	超位	器磁	ABIO	色調	旧考
3339	常街	19S E 3 南半ほか	1~7	类	口一体部	灰黄・暗赤褐	押印、口軽部内面に凹線
3340	名音2~3県式	198 E 3 前半ほか	1~7	奖	体一底部	灰褐・橙	押印、内面に特

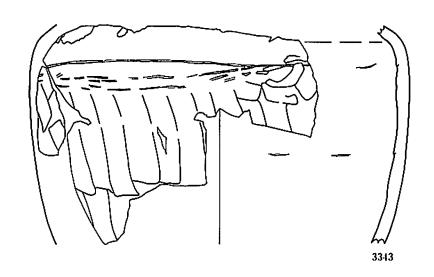
第177図 常滑産陶器②

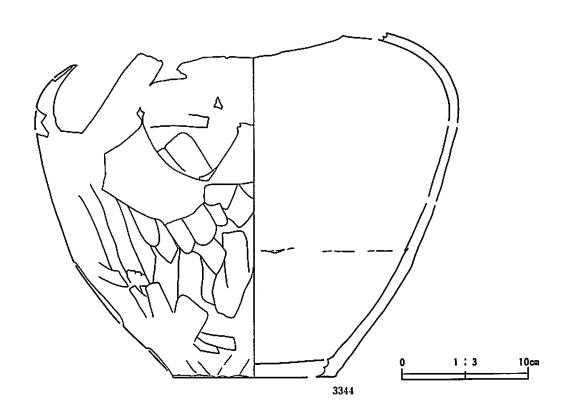




番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色鋼	俯 考
3341	常備2~3型式	ⅢHOiほか	5d	斑	体一底部	黄灰	押印、ケズリ
3342	常排3型式	M H 2 g · 3 g · 3 h	5	光	万~ 体部	灰オリーブ・視灰	外面ケズリ

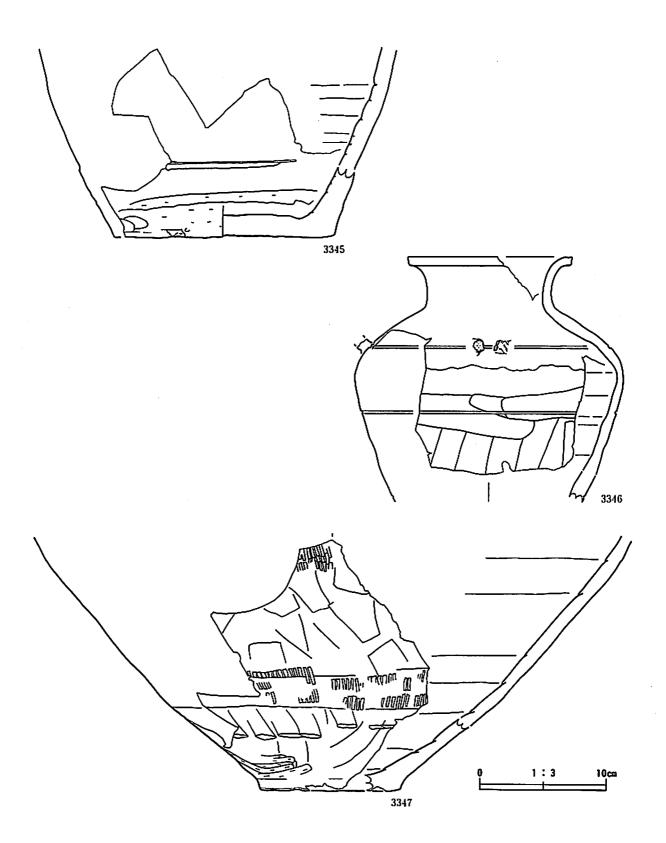
第178図 常滑産陶器図





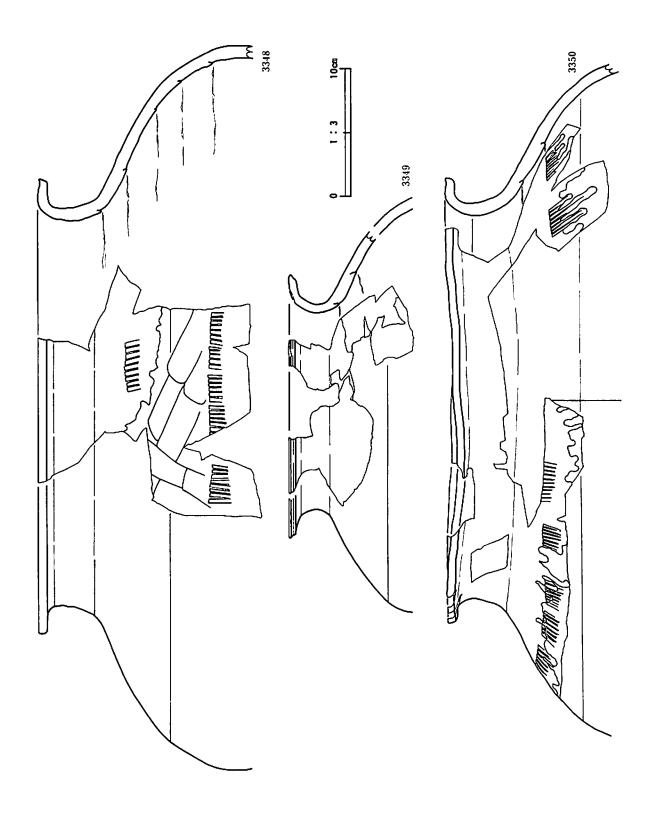
番号	極名	出土地点	層位	器種	部位	色料	伯考
3343	常滑2~3型式	MH2h・3gほか	5 b	玂	月~休部	灰松・灰オリーブ	外面に細線?、ケズリ
33/14	常計2型式	■H3h・3iほか	5	类	用一族部	視妖・妖オリーブ	外面に抑制状のケズリ、底部内面に釉

第179図 常滑産陶器圏



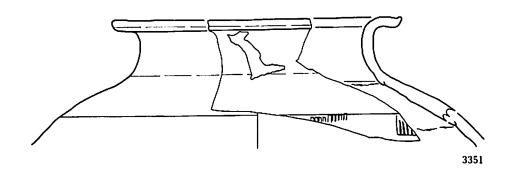
番号	極名	出土地点	層位	器碰	部位	色鋼	价号
3345	常得2~3型式	□H7i・□H0gほか	5 d	遊	体~底部	揭灰	外面ケズリ、底部内面に釉
3346	常得2~3型式	MH7i · WH2i	5 d	撤	口~体部	オリーブ賞・掲灰	横耳が付く三筋壺(単線)、口唇部内面に凹線
3347	常得2~3型式	NH2i・3hほか	lq	瓷	体一底部	黄灰	押印、ケズリ

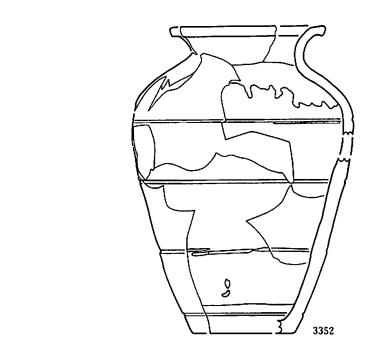
第180図 常滑産陶器@

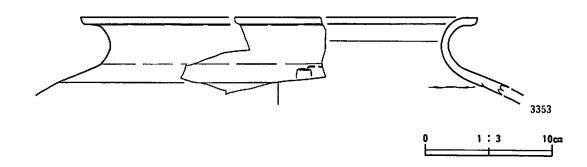


番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3348	常滑2型式	NH2i・3iほか	l r	瓷	口~月部	暗オリーブ・貴灰	押印、口軽部内面に凹線
3349	常滑2型式	NH2 i · 3 i · 3 j	1 i	奥	体部	灰オリーブ	口唇部外面に凹線
3350	常滑2型式	NH2 i · 3 i	1 i	趸	口~月部	オリーブ氏・オリーブ温	外面に釉、押印、口唇部内面に凹線

第181図 常滑産陶器②

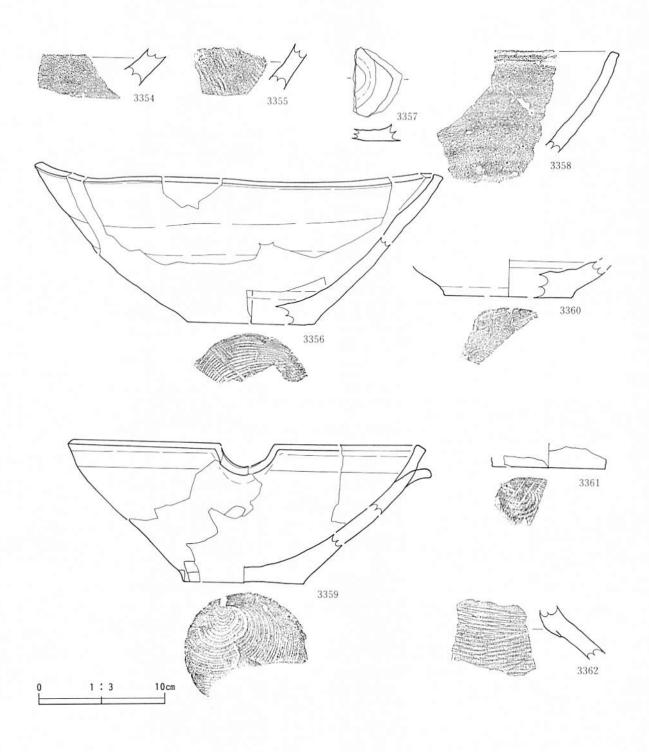






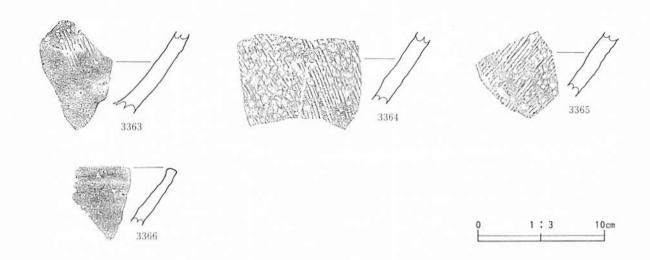
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色鋼	仰考
3351	常滑2~3型式	NH2 i · 3 i	1 q	尭	口~肩部	オリープ紙・オリープス	外面に釉、押印、口唇部内面に凹線
3352	常清2~3型式	NH2i・3iほか	l r	徽	口~底部	灰オリーブ・灰	三筋壺(単線)
3353	常清2~3型式	NH2 i · 3 j	l r	变	口格部	暗オリーブ	内外面に釉

第182図 常滑産陶器図



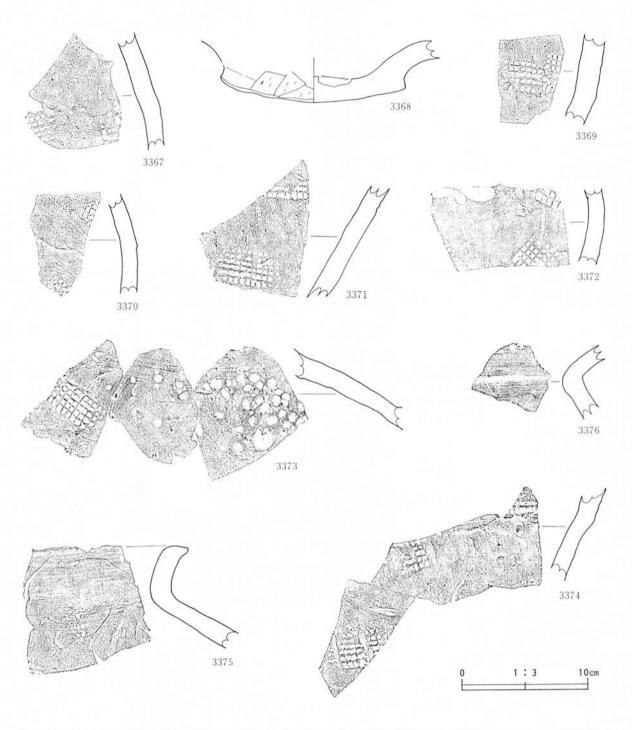
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3354	須恵器系	19 P 440		鉢	底部近く	灰	内面摩耗、12C後半以降
3355	須恵器系	19SE5南半	埋土上部	兜	体部	灰	12C後半以降
3356	須恵器系	ⅢH5iほか	5 d	鉢	口~底部	灰	底部回転糸切り痕、12C後半以降
3357	須恵器系	Ⅲ H 6 i	6	鉢	底部	厌	12C後半以降
3358	須恵器系	шн6 ј	6	鉢	口~体部	灰	外面光沢あり、12C後半以降
3359	須恵器系	Ⅲ H7iほか	5 b	鉢	口~底部	灰	片口、底部回転糸切り痕、12C後半以降
3360	須恵器系	IV H 1 i	1 d	鉢	底部	灰	内面摩滅、底部回転糸切り痕、12C後半以降
3361	須恵器系	NH2 i	5 d	鉢	底部	灰	片口、底部回転系切り痕、12C後半以降
3362	須恵器系	IV H 3 i	1 r	装	肩部	ÞE	タタキ成形、12C後半以降

第183図 須恵器系陶器①



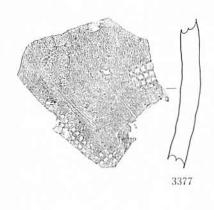
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3363	須惠器系	IV H 3 i	1 r	売	体部	灰	タタキ成形、3365と同一?、12C後半以降
3364	須恵器系	IV H 4 j	1 q	売	体部	灰	タタキ成形、12C後半以降
3365	須恵器系	NH4j	1 q	売	体部	展	外面光沢、タタキ成形、3363と同一?、12C後半以降
3366	須恵器系	不明	不明	鉢	口縁部	灰	内面に釉

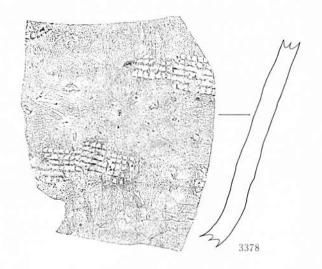
第184図 須恵器系陶器②



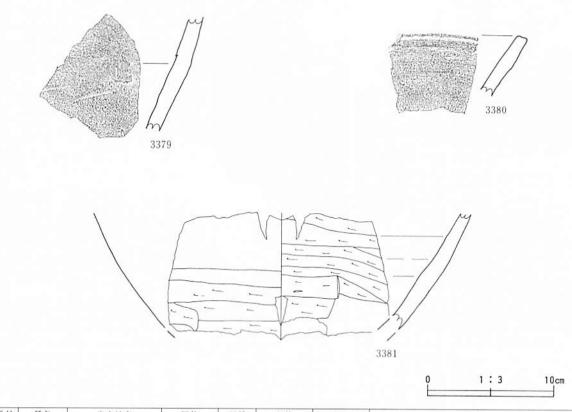
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3367	売器系(水沼産)	Ⅲ H O i	5 b	兜	肩部?	オリーブ黒	12 C
3368	瓷器系(水沼産)	Ⅲ H 6 i	5 b	悪	底部	褐灰	底部ゆがむ、12C
3369	瓷器系(水沼産)	ШН9 g	撹乱	売	体部	灰	押印、12 C
3370	瓷器系(水沼産)	IV H 1 i	1 q	3%	肩部?	灰	押印、12C
3371	瓷器系(水沼産)	IV H 1 i	1 r	売	体部	灰	押印、12 C
3372	瓷器系(水沼産)	NH 1 i	1 r	拠	体部	灰	押印、外面摩滅し滑らか、12C
3373	瓷器系(水沼産)	NH2 i	1 q	売	肩部	灰	外面に敲打痕状のあばた、押印、ケズリ、12C
3374	瓷器系(水沼産)	NH2i	1 q	莬	体部	灰	押印、12C
3375	克器系(水沼産)	NH2 i	5 d	売	口縁部	灰	内面にあばた、ケズリ (横歯状)、12℃中ごろ
3376	瓷器系(水沼産)	NH2 i	1 i	売	孤部	灰	内面にあばた、12C

第185図 水沼産陶器①



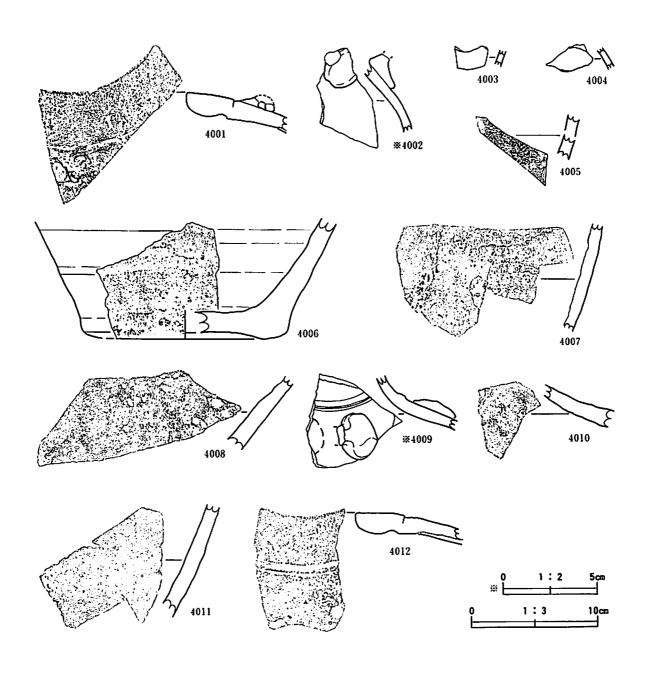


番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3377	瓷器系(水沼産)	IV H 3 h	1 i	3%	体部	厌	押印、12 C
3378	瓷器系(水沼産)	NH3 j	1 q	345	体部	オリーブ黒	押印、ケズリ、12C



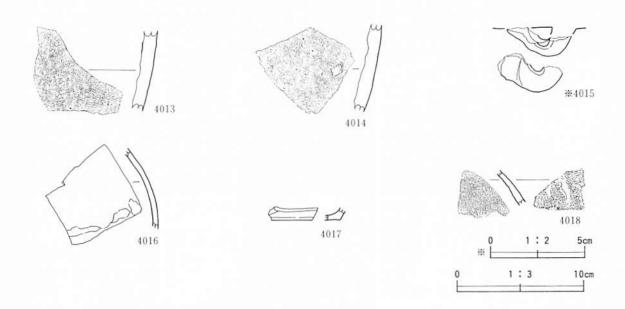
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
3379	瓷器系(宮坡産?)	19SD9 IIH2j		斑	体部	にぶい赤褐	伊豆沼産?、13C後半~14C初
3380	瓷器系(宮城産?)	19SD9 ⅢH6j		鉢	口綠部	オリーブ黒	伊豆沼産?、13C後半
3381	瓷器系(宮城産?)	Ⅲ H 6 i · 7 i	5b · 5 d	瓷	体部	褐灰	伊豆沼産?、ケズリ、13C後半~14C初

第186図 水沼産陶器②·瓷器系陶器



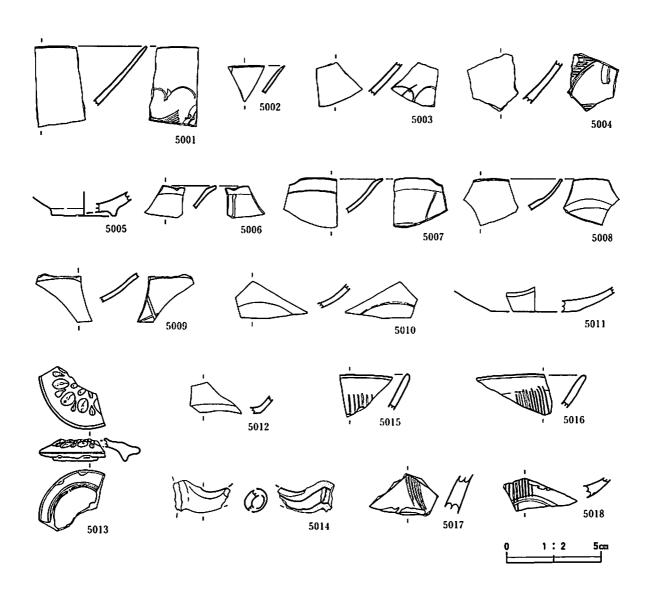
番号	極名	出土地点	層位	器植	部位	色網	須考
4001	中国産陶器	19SD9 11 H 2 j		竞	口辺部	赤灰・オリーブ目	斜めの耳付、中国南部〜東南アジア(同一個体あり)
4002	中国産陶器	19 S E 3	埋土上位	碰	州部	オリーブ貨	横耳?付、4004と同一個体、12C
4003	中国産陶器	19 S E 3	埋土上位	並	体部	灰オリーブ	4009と同一個体、12C
4004	中国産陶器	19 S E 3	理土上位	並	月部?	オリーブ黄	4002と同一個体、12C
4005	中国産陶器	19 S E 3		变	体部	掲	内面に釉、12C
4006	中国産陶器	m H O i	5 d	燢	体~底部	灰悶・灰オリーブ	中国南部〜東南アジア
4007	中国産陶器	IIHO i ほか	5 d	斑	体部	暗灰黄	内面にあばた、中国南部〜東南アジア
4008	中国産陶器	шно і	5 d	斑	体部	オリーブ黒	内面に釉、中国南部〜東南アジア
4009	中国産陶器	WH1g	5 d	弧	肩部	灰白	横耳付、4003と同一個体、12C
4010	中国産陶器	шиоь	3 d	瓷	肩部	赤灰・暗オリーブ	内面無釉、外面釉垂下、中国南部〜東南アジア
4011	中国産陶器	NH1j	5 d	类	体部	略灰黄	内面に釉、中国南部〜東南アジア
4012	中国產陶器	NH2i	l q	兗	口辺部	赤灰・オリーブ段	内面にあばた、中国南部〜東南アジア

第187図 中国産陶器①



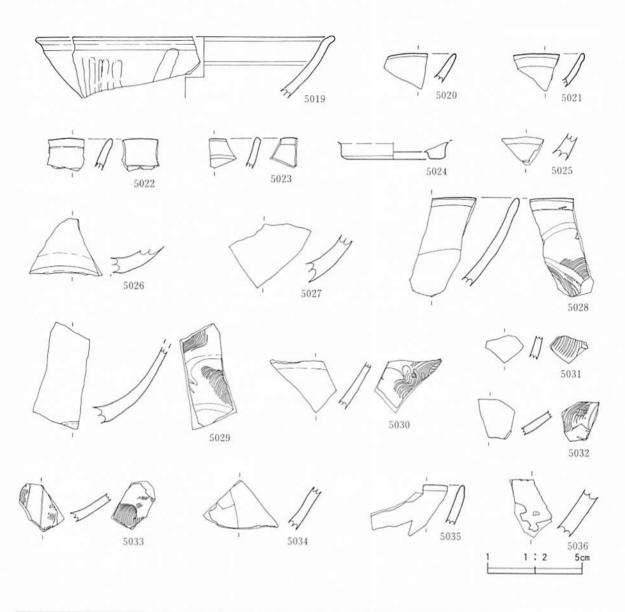
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	色調	備考
4013	中国産陶器	NH2 i	1 i	35	体部	暗灰黄	内面にあばた、中国南部-東南アジア
4014	中国産陶器	IV H 3 h	1 i	386	体部	暗灰黄	内面にあばた、中国南部-東南アジア
4015	中国産陶器	NH3 i		売	П	暗灰黄	全体に釉、中国南部~東南アジア
4016	朝鮮産陶器	19 S E 6 南半		並	肩部	オリーブ	内外面に釉、4018と同一個体
4017	朝鮮産陶器	19 S E 6 南半		並	底部	暗オリーブ	内外面に釉、16C
4018	朝鮮産陶器	不明	不明	並	肩部	オリーブ	内外面に釉、4016と同一個体

第188図 中国産陶器②·朝鮮産陶器



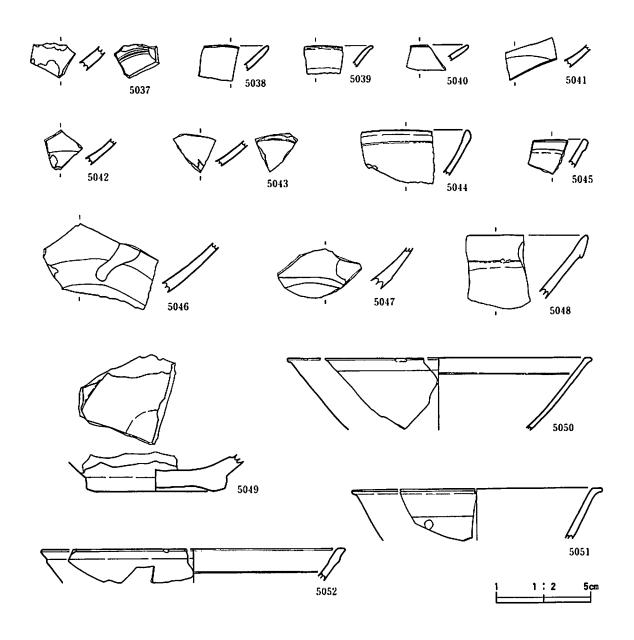
番号	種名	出土地点	層位	器位	部位	釉調	分類・年代	億考・年代
5001	青白磁	шноі	5 d	额	口袋呢~	灰白色	12世紀後半	へラと隨伏工具による文様
5002	青白磁	шноі	5 d	86	口特部	灰白色	12世紀後半	
5003	背白礁	11 H 9 i	l e	験	体部	灰白色	12世紀後半	ヘラによる文様
5004	青白磁	II H 9 i	5d	碗	体部	明緑灰色	12世紀後半	ヘラと櫛状工具による文様
5005	青白磁	NH2i	1 i	碗	底部	明緑灰色	12世紀後半	見込み釉の掻き取りなし
5006	青白磁	19SE3北牛	1m	Щ	口縁部	明緑灰色	12世紀後半	輪花、白堆線
5007	背自磁	шн6 і	5 d	Ш	山松部	灰白色	12世紀後半	輪花、白堆線
5008	青白磁	шн9 і	le/li	m	口粉靴	灰白	12世紀後半	内面に段
5009	背白磁	IV H 3 h	1 i		体部	灰白	12世紀後半	白堆線
5010	青白磁	IIH5 i	5 d	Ш	底部	灰白	12世紀後半	内面に段
5011	青白磁	NH3h	l i	m	底部	灰白	12世紀後半	貫入多い、底部高台なし
5012	青白磁	NH2 i	l i	121	体部	明緑灰	12世紀後半	外面に焼台の頂?
5013	青白磁	NH2j	1 h	小嶽	苔	明緑灰	12世紀後半	菊花文?、胎土は白色で非常に緻密
5014	背白磁	NH1 i	lq	水注	注口部分	明緑灰	12世紀後半	内面にも釉
5015	青磁	шноі	5 d	碗	口綠部	灰オリーブ	同安・槐 1 頬	外面に模描き文、12世紀末~13世紀初頭
5016	青磁	IVH3j	l r	舜	口綠部	灰オリーブ	同安・槐【類	外面に模描き文、12世紀末~13世紀初頭
5017	青磁	шнв і	5 d	號	底部付近	オリーブ灰	同安・椀1類	外面に協議き文、12世紀末~13世紀初頭
5018	许磁	トレンチ1	l i	94	底部付近	オリープ灰	回安・椀1類	内外面に櫛描き文、12世紀末~13世紀初

第189図 中国産磁器①



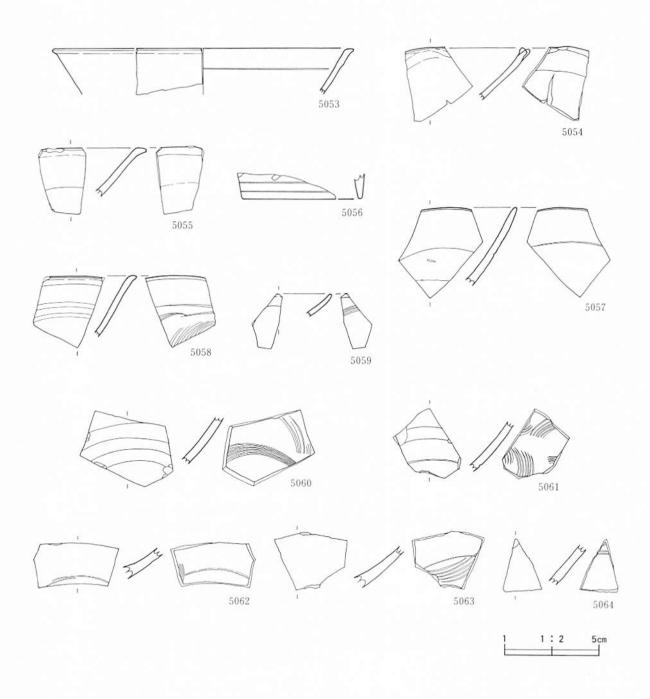
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	釉調	分類・年代	備考·年代
5019	青磁	⊞ H O i	5 d	碗	口一体部	オリープ灰	龍泉·椀 () 類 (1150~)	幅広の櫛描き、内面に片彫りの線
5020	青磁	NH2 i	1 i	m	口縁部	オリーブ灰	龍泉・皿Ⅰ類	体部屈曲
5021	青磁	不明	不明	m	口緑部	オリープ灰	龍泉・皿I類	外面に沈線
5022	青磁	IVH4j	l q	m	口綠部	灰オリーブ	龍泉・皿Ⅰ類	内面に細線
5023	青磁	旧河道部	5 b	碗	口綠部	灰オリーブ	龍泉・椀Ⅰ類	
5024	青磁	IV H 3 h	1 i	施	高台	灰オリーブ	龍泉・椀Ⅰ類	高台内の一部に釉
5025	青磁	IVH3h	1 i	Bish	体部	灰オリーブ	龍泉・椀1類	
5026	青磁	IV H 3 h	1 i	69ig	体部下半	オリープ灰	龍泉・椀12類	
5027	青磁	IV H 3 i	1 q	砂包	体部下半	灰オリーブ	龍泉・椀12類	
5028	青磁	Ⅲ H 8 i	5 d	碗	口縁~体部	灰オリーブ	龍泉・椀I 2 or I 3 類	内面に片彫り、櫛状の施文具による文様
5029	青磁	Ⅲ H 3 g	5	369	体部	オリーブ黄	龍泉・椀I2orI3類	内面に片彫り、櫛状の施文具による文様
5030	青磁	IV H 1 i	1 i	565 566	体部	灰オリーブ	龍泉・椀 I 2 or I 3 類	内面に片彫り?、櫛状の施文具による文様
5031	青磁	Ⅲ H 1 f	5	96	体部	灰オリーブ	龍泉・楠I 2 or I 3類	櫛状施文具による文様
5032	青磁	IVH2j	1 h	碗	体部	灰オリーブ	龍泉・楠I 2 or I 3類	櫛状施文具による文様
5033	青磁	Ⅲ H 9 d	表土	碗	体部	灰オリーブ	龍泉・椀 I 2 or I 3 類	外面に片彫り、内外に櫛状の施文具による文様
5034	青磁	IV H 1 j	1 h	碗	体部	オリープ灰	龍泉·椀I5b類	鎬蓮弁文、13世紀後半
5035	青磁	IVH2h	1 i	碗	口禄~体部	明緑灰色	龍泉・椀Ⅲ類	内外面釉厚い、13世紀後半
5036	青磁	調査区北西部	不明	砂瓦	体部	暗オリープ灰	龍泉窯系	釉厚い、15世紀

第190図 中国産磁器②



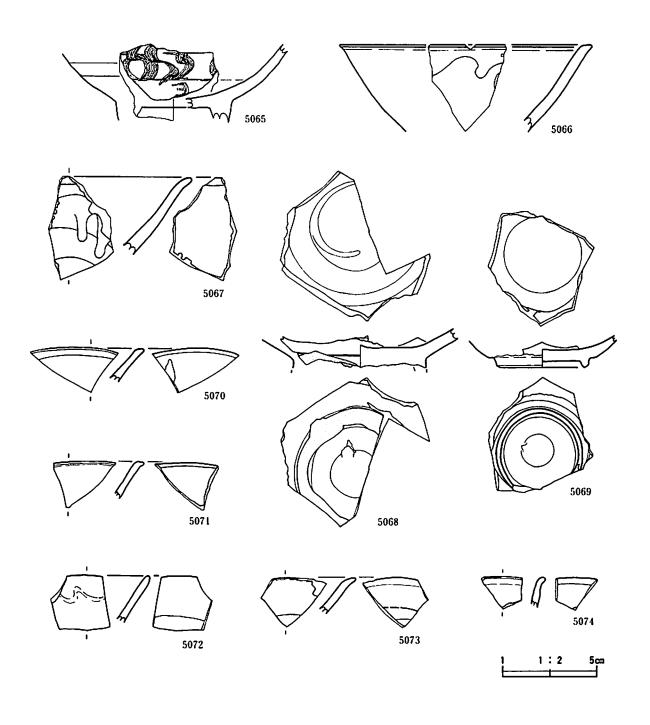
番号	極名	出土地点	層位.	器性	部位	帕网	分類・年代	偏考·年代
5037	白磁	MH8 i	5 d	m	体部	灰白	III ll or IV \$1	内面に片彫りの線
5038	白磁	NH3h	l i	m	口縁部	灰白	皿V類	12世紀前半
5039	白磁	NH2 i	3 a	m	口縁部	灰白	皿V類	化桩土?、12世紀前半
5040	白磁	ПНО с	IV	tut	口級部	浅黄	四V類	化粧土、12世紀前半
5041	白磁	NH1 i	lq	m	体部	灰白	皿V類	外面下位露胎、12世紀前半
5042	白磁	NH1j	l h	m	体部	设货	皿V類	12世紀前半
5043	白磁	Ш Н5 і	5 b	111	体部	灰白	皿V類	内面に片彫りの線、12世紀前半
5044	白磁	ШНЗд	5	碗	口縁部	灰白	椀Ⅱ類	小さな玉緑口緑、化粧土?、12世紀前半
5045	白磁	шн6 і	5 d	898	口縁部	灰白	碗Ⅱ類	小さな玉緑口緑、12世紀前半
5046	自磁	шнві	5 d	565	体部下半	灰白	執用類	化桩上?、外面下位露胎、12世紀的半
5017	白磁	шн4 і	5 b	56	体部下半	灰白	- 徳 II 類	外面下位露胎、12世紀前半
5048	白磁	NH1 i	lq	85	口級部	灰白	較以知	体部の削り粗い、玉緑口禄、12世紀前半
5049	白磁	NH3j	l r	58	底部	灰白	椀N類	底部内面に沈線状の段、12世紀前半
5050	白磁	NH2 i	lq	驗	口禄~体部	灰白	椀V類	口縁端部横に屈曲、体部内面上位に沈線
5051	白磁	NH2i	l i	碗	口核部	灰白	镜 V 類	口様婚部様に屈曲
5052	白磁	NH 1 i	l q	碗	口線部	灰白	碗V新	口縁端部長に屈曲、体部内面上位に沈線

第191図 中国産磁器③



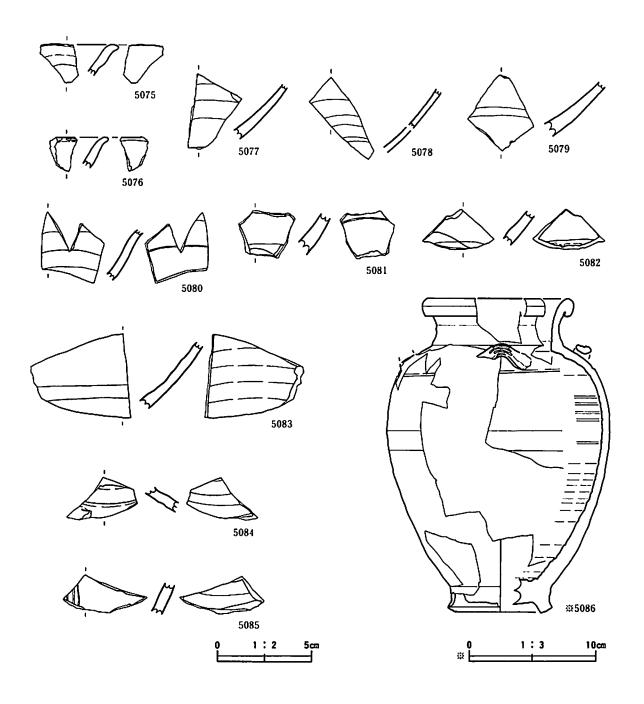
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	釉凋	分類・年代	備考・年代
5053	白磁	NH2 i	1 i	646	口縁部	灰白	植V類	口縁端部横に屈曲、体部内面上位に沈線
5054	白磁	IVH3 i	1 i	碗	口禄一体部	灰白	椀V類	口唇の一部に変形、体部内面上位に細線
5055	白磁	NH3 i	1 q	碗	口縁部	灰白	椀V類	口縁端部横に屈曲、体部内面上位に細線
5056	白磁	NH2j	5 d	碗	高台部	灰	椀V類	無釉部分、細線2条
5057	白磁	NH3 i	1 i	碗	口縁部	灰白	極V 1 類	直口縁、体部内面上位に沈線
5058	白磁	II H O g	5	碗	口縁部	灰白	椀V4類	内面に櫛描き文、口縁端部横に屈曲
5059	自磁	IVH2i	1 i	碗	口綠部	庆	椀V4類	内面に櫛描き文、口縁端部外反
5060	白磁	Ⅲ H 9 i	5 d	強	体部	灰白	椀V4類	内面に櫛描き文
5061	白磁	IVH3h	1 i	碗	体部	灰白	椀V4類	内面に櫛描き文
5062	白磁	IV H 1 i	1 r	碗	体部	灰白	椀 V 4 類[内面に櫛描き文、見込み近くに沈線状の段
5063	白磁	19 S K 4	1 e	碗	体部	灰白	椀V4類	内面に櫛描き文、化粧土?
5064	白磁	19 S E 3 北半	2	強	体部	灰白	椀V4類	内面に櫛描き文

第192図 中国産磁器④



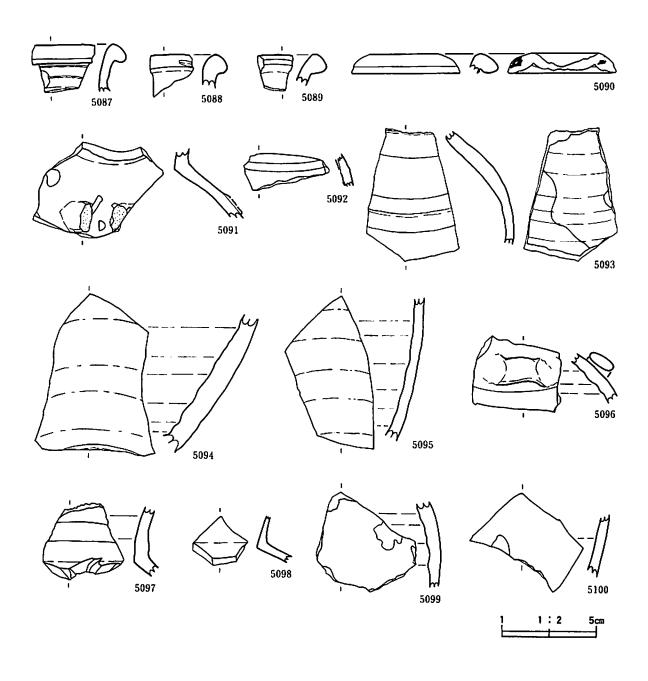
吞号	種名	出土地点	層位	器钮	部位	柏岡	分類・年代	偏考・年代
5065	白磁	ПНОв	5	碗	体~底部	灰白	64V4類	内面に倒描き文、見込みに近くに沈線状の段
5066	白磁	トレンチ1	1 i	碗	口級部	灰白	绕切频	口縁端都横に屈曲、外面箱垂下
5067	白磁	шноd	11	碗	口~体部	灰白	核四類	口縁始部換に屈曲、外面釉垂下
5068	白磁	NH3 i	l r	巍	体~底部	灰白	绕切類	見込みの箱輪状に掻き取り
5069	白磁	Ш Н 7 i	不明	碗	底部	灰白	検収類	見込みの特輪状に掻き取り、体部下位露胎
5070	白磁	NH1 i	5 d	麽	口松部	灰白	椀 Vor 短類	口縁境部換に風曲
5071	白磁	TH8 i	5 d	碗	口段部	灰	梲 Vor 笹類	口禄始郎仰に屈曲
5072	白磁	шн9 і	5 d	碗	口極部	灰白	椀 Vor 恒頻	直口縁、体部内面に細線
5073	白磁	шн9 і	5 d	颇	口線部	灰白	椀Vor垭類	口縁部外反、体部内面に根線、体部下位露胎
5074	白磁	ШНЗд	5	88	口段部	灰	稅VorU類	口縁部外反、箱厚く光沢あり

第193図 中国産磁器⑤



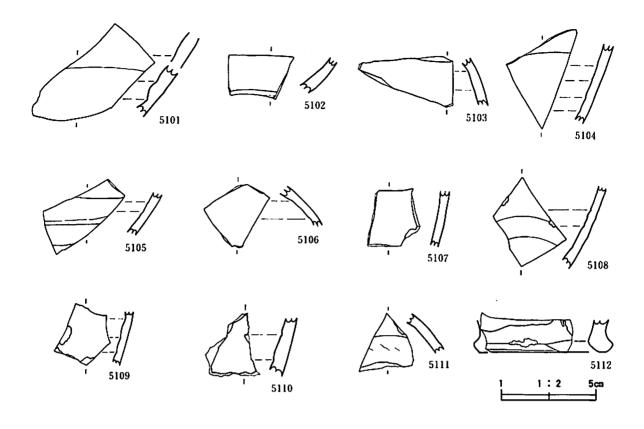
番号	植名	出土地点	層位	器植	部位	柏鋼	分類・年代	個考·年代
5075	白磁	шн6 і	5 d	廃	口称部	灰白	娘VorU類	口禄部外反
5076	白磁	19 S K 12	埋土	巍	门特级	灰白	検Vor短知	口段均部損に屈曲
5077	白磁	トレンチ1	1 i	碗	体部	灰白	椀Vor恒類	
5078	白磁	WHli	l r	碗	体部	灰白	夠VorU類	体部下位露胎
5079	白磁	шн6 і	5 d	碗	底部付近	灰白	境NorVor電類	体部下位露胎
5080	白磁	WH1 i	1 q	₩.	体部上半	灰白	例 Wor Vor 国類	内面に細い沈線状の段
5081	白磁	ШН7і	5 d	碗	体部	灰白	镇NorVor 短類	体部下位露胎
5082	白磁	шнві	5 d	碗	体部	灰白	検WorVor旧類	体部下位露胎、見込みに沈線状の段
5083	白磁	ШН9 і	5 d	碰	体部	灰白	- 登耳系	貫入多い、12世紀前半
5084	白磁	шн5 і	不明	童	Ħ	灰白	承Ⅱ寮	耳の一部あり、外面に段、12世紀前半
5085	白磁	NH2i	1 i	並	体部	灰白	遊Ⅱ系	外面に縦位の線?、内面一部施軸
5086	白磁	шнзі	5 b	遊	体部	灰白	売皿券	復原個体、接合破片多数

第194図 中国産磁器⑥



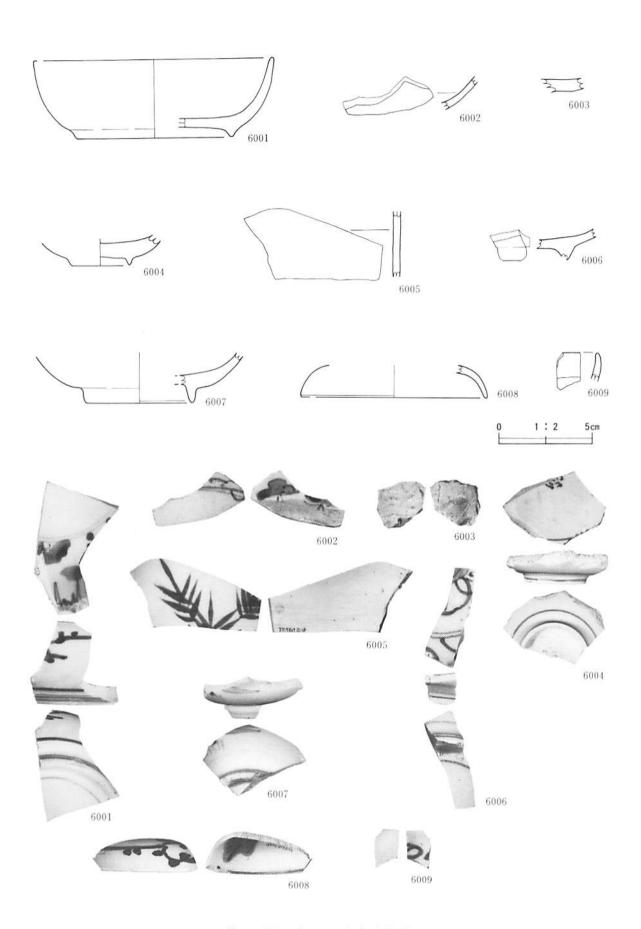
番号	種名	出土地点	層位	器種	部位	釉鋼	分類·年代	備考・年代
5087	白磁	NH4j	1 q	並	口松~頚部	明オリーブ灰	条田遼	内外面に釉
5088	白磁	NH1 i	1 i	企	口標部	灰オリーブ	杂田系	内外面に他
5089	白磁	NH1 i	1 q	遊	口級部	明緑灰	※四系	内外面に釉
5090	白磁	MH5i	5 d	萤	口唇部	明緑灰	発皿系	漆継ぎ、12世紀後半
5091	白磁	NH3h	1 i	鲎	肩部	灰白	遊皿系	耳欠損、内外面に釉
5092	白磁	NH3 i	l i	並	用部	灰白	登回系	内外面に釉、外面に積方向の沈線
5093	白磁	NH2 i	l i	遊	用部	灰オリーブ	遊田系	外面に積方向の沈線状の段、内面一部施料
5094		NH2 i	l r	逊	体部下半	明オリーブ灰	※田 系	内面も施釉、凹凸あり
5095	自磁	198 E 3 南半	3 d F	遊	体部	灰白	泰田系	内外面に釉、内面凹凸あり
5096	白磁	MH1g	5 d	既	月祁(耳)	明禄庆	登 田系	内面の一部に釉、耳付き
5097	白磁	トレンチ3	5 b	畫	類部	明緑灰	登 11 系	緑がかった透明感のある粒、外面に沈線状の段
5098	白磁	NH1j	5 d	藥	用部	明オリーブ妖	遊回系	内外面に釉
5099	白磁	NH1j	l e	W.	体部	灰白	液田系	内面無釉、凹凸あり
5100	自磁	IVH3 i	l i	ची	体部	灰白	楽田系	内外面に釉、内面細かい凹凸あり

第195図 中国産磁器⑦

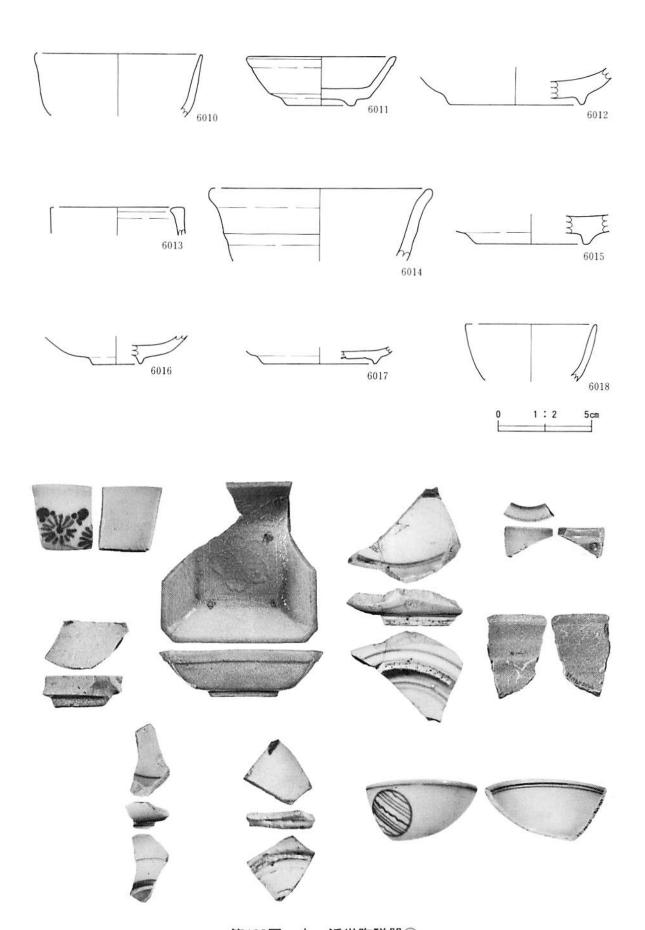


番号	极名	出土地点	層位	25 FA	部位	柏岡	分類・年代	備考・年代
5101	白磁	NH2 i	l q	遊	体部下半	灰白	敬田系	漆雑ぎ、内面の粒は底部に近い部分のみ
5102	白磁	NH3 i	l r	逾	体部	明オリーブ灰	遊山系	内外面に釉、外面に段
5103	白磁	IV H 3 h	1 i	蠻	体部	灰白	茶皿壶	内外面に釉
5104	白磁	NH1 i	1 i	钀	体部	灰白	楽田袋	内面無釉
5105	白磁	198 E 3 南半	坝土上	sút	体部	灰オリーブ	茶口遊	内外面に釉
5106	白磁	NH3 h	1 i	धी	体部	明オリーブ灰	桑田麼	内面無釉
5107	自磁	Ⅳ H 3 h	1 i	垒	体部	灰白	茶口遊	内面の一部に釉、5108と同…個体
5108	白磁	NH1 i	1 q	遊	体部	灰白	深口壺	内面の一部に釉、5107と同一個体
5109	白磁	NH4j	l q	壺	類部	灰白	※回遊	内外面に始、内面に凹凸あり
5110	白磁	19SD9 🛮 H 3 j	埋土	螢	体部	灰白	茶皿寮	内外面に陥、胎土は白く緻密
5111	白磁	NH2j	5 d	齏	体部	灰オリーブ	発田系	内外面に釉
5112	自磁	NH3 i	1 i	磁	底部	灰~灰白	楽皿系	底部外面に無軸部分あり

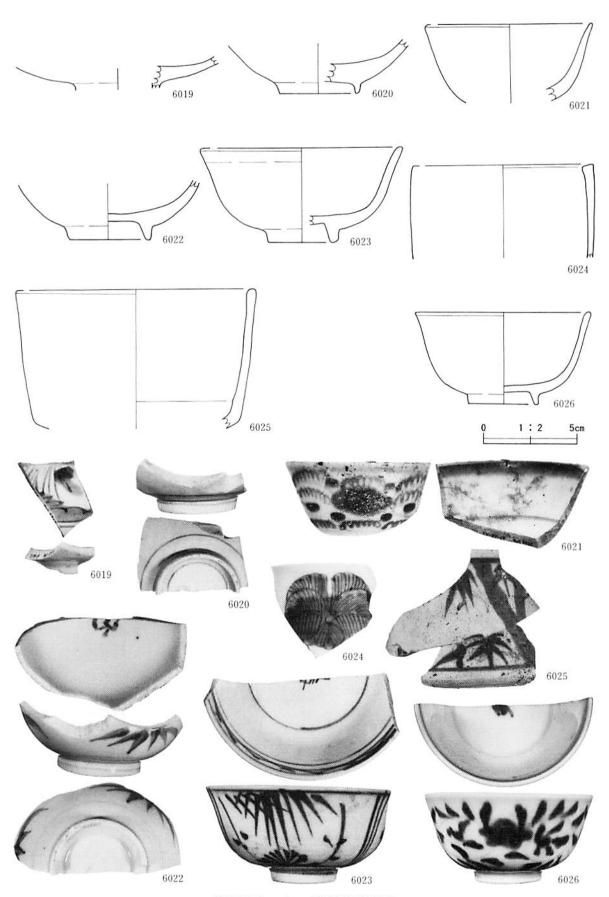
第196図 中国産磁器⑧



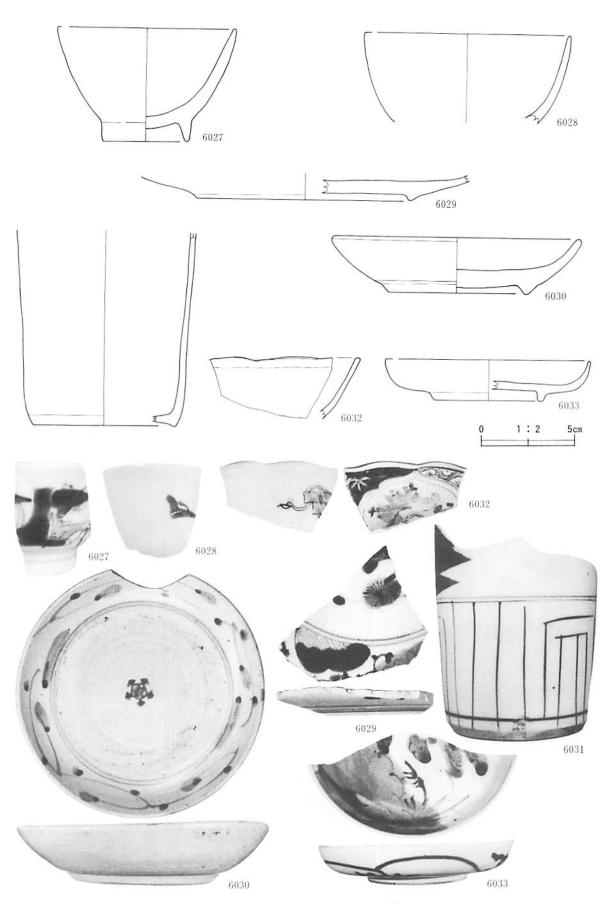
第197図 中・近世陶磁器①



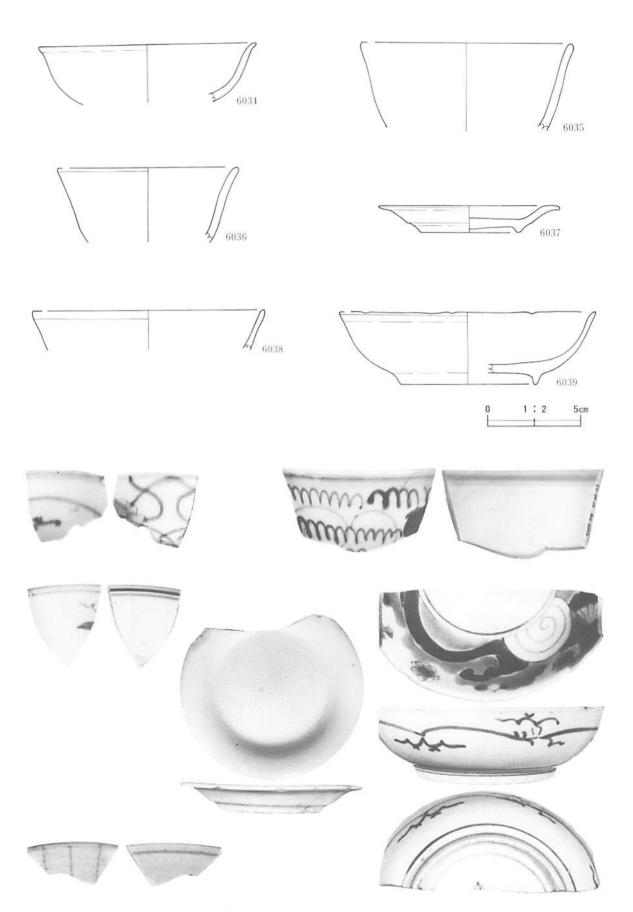
第198図 中·近世陶磁器②



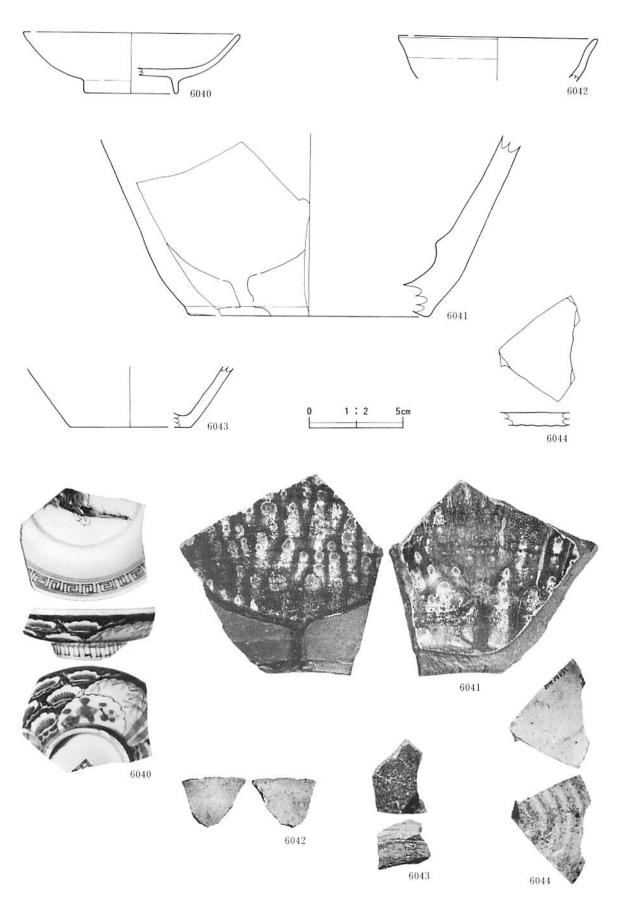
第199図 中・近世陶磁器③



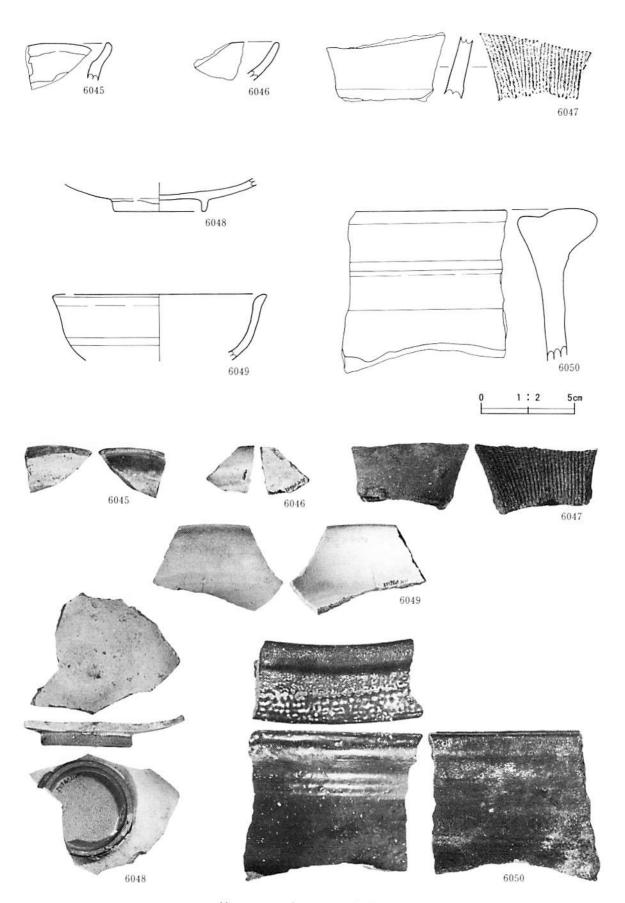
第200図 中·近世陶磁器④



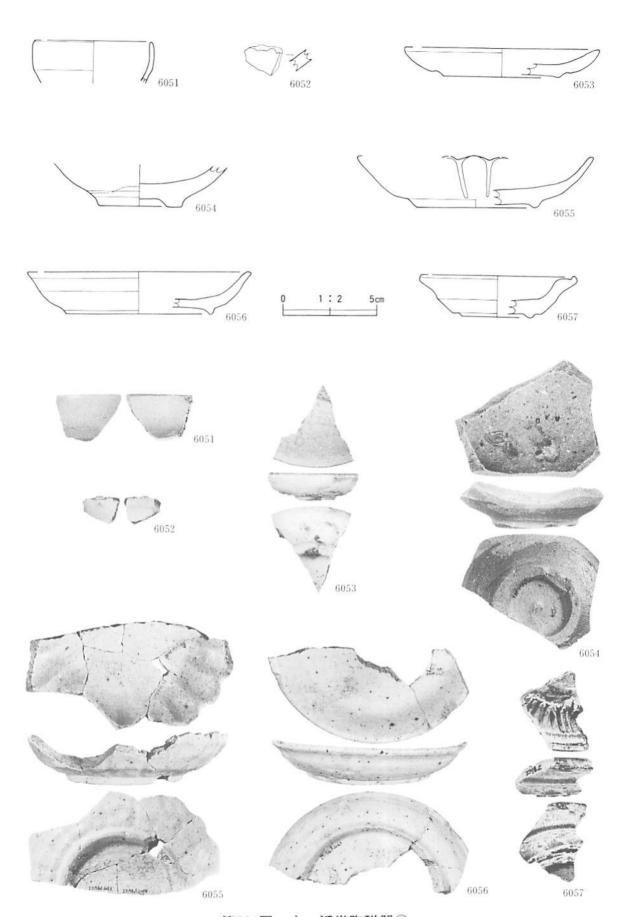
第201図 中·近世陶磁器⑤



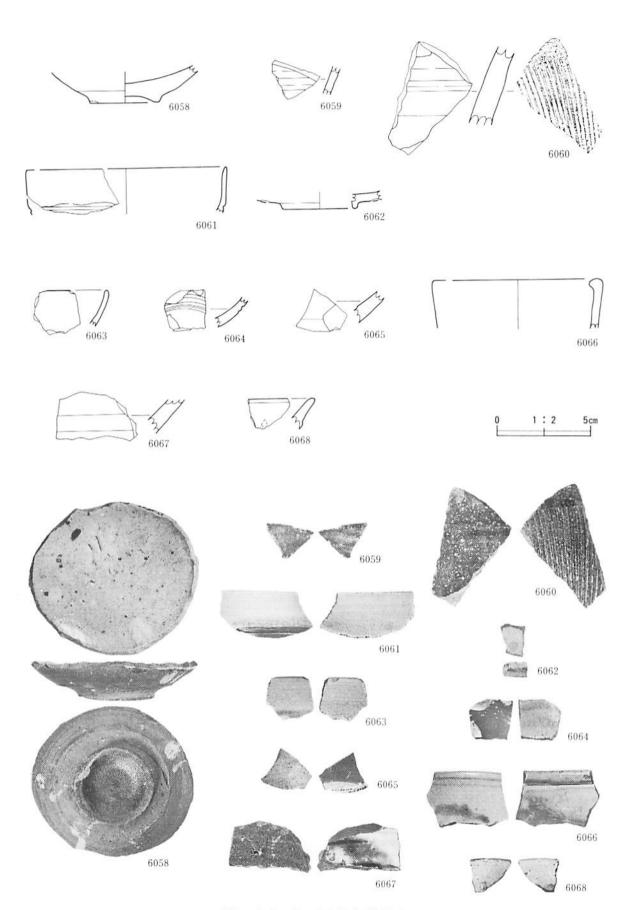
第202図 中·近世陶磁器⑥



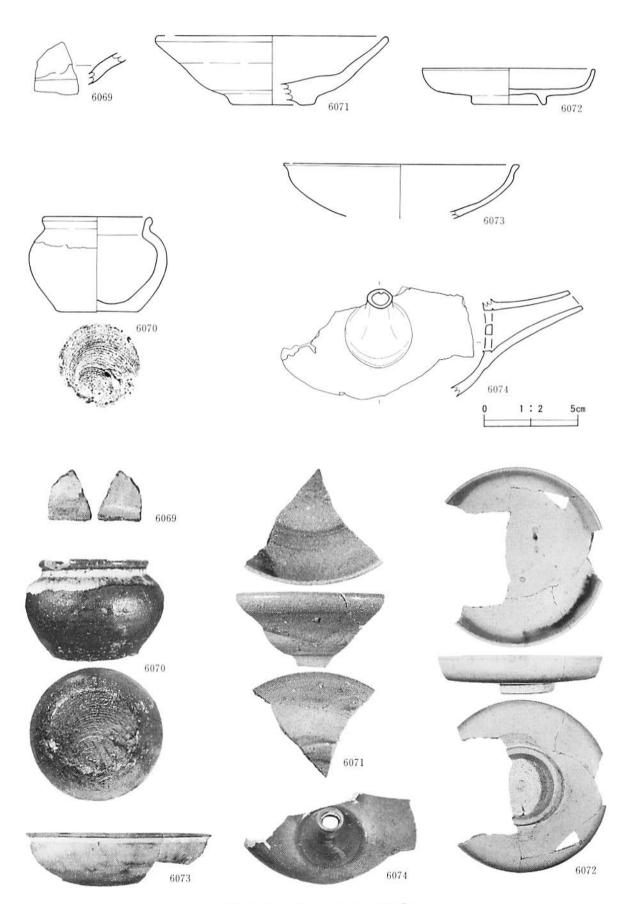
第203図 中·近世陶磁器⑦



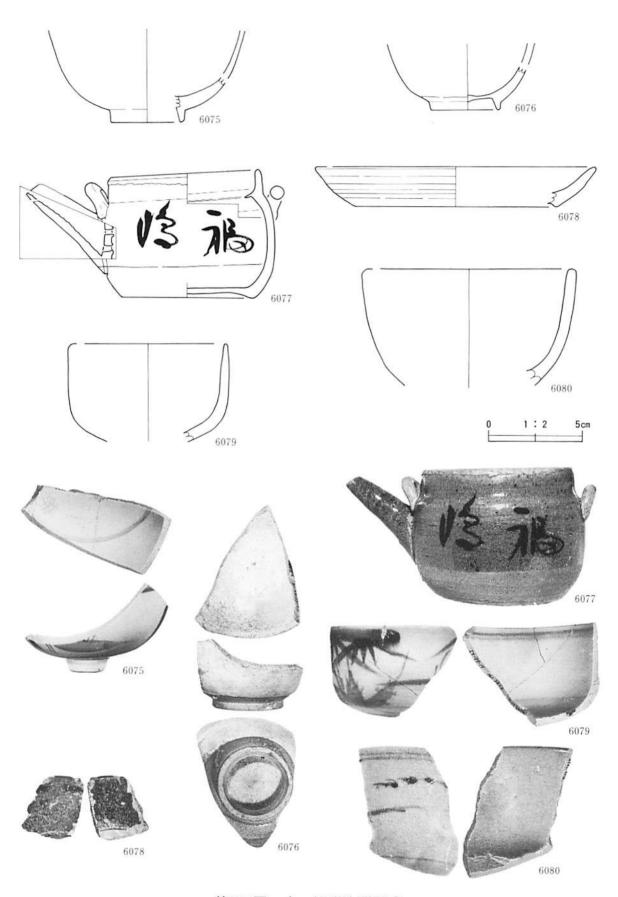
第204図 中·近世陶磁器®



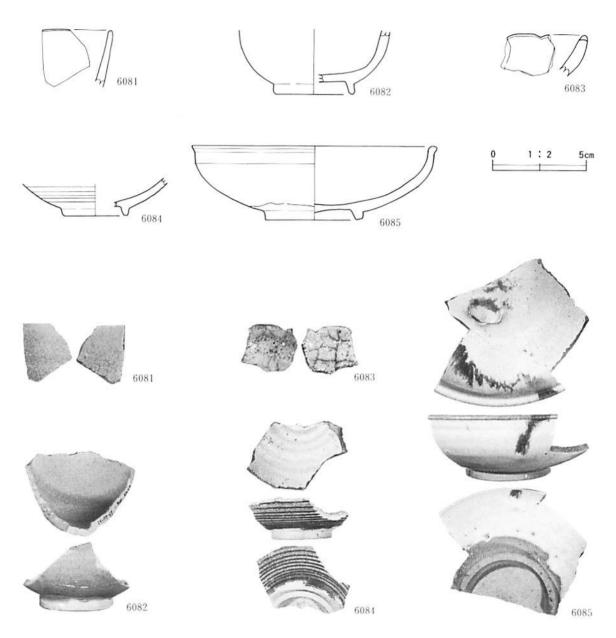
第205図 中・近世陶磁器⑨



第206図 中・近世陶磁器⑩



第207図 中·近世陶磁器①

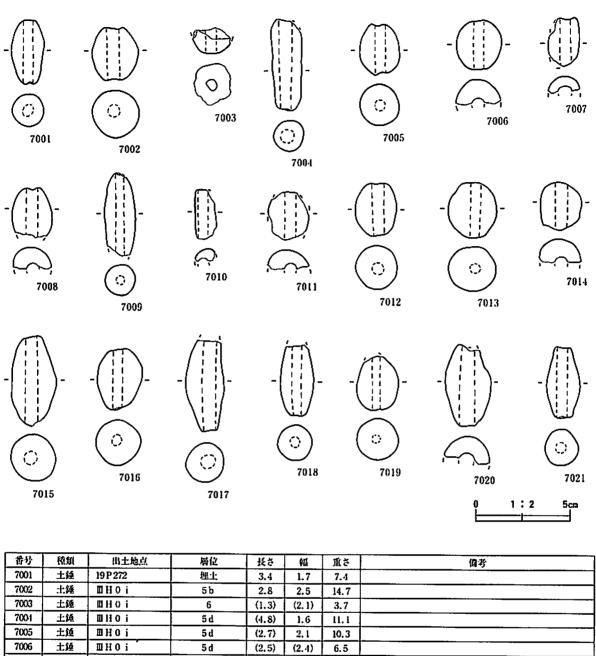


第208図 中·近世陶磁器①

表2 中·近世陶磁器観察表

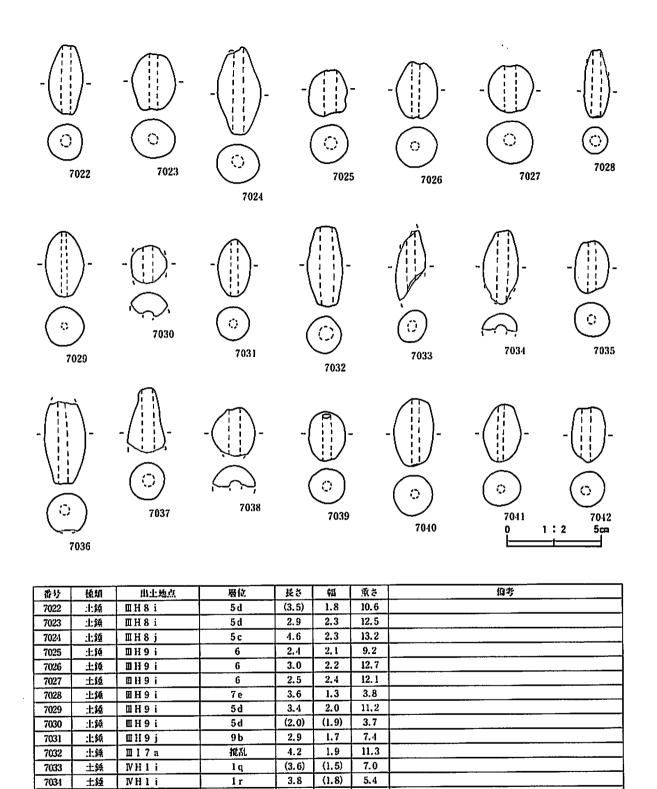
番号	製作地	出土地点	শ্ব	種別・器種	胎土・粒素	年代	口径	底径	器高	備考
6001	肥前産	19SD1 EH6d		磁器・皿	白色・染付	大橋N期 (1690~1780)	12.7	8.3	4.1	草花文
6002	肥前產	19SD6 IIG9 i		磁器·皿	白色・染付	大橋 I 期 (1630~1650)		<u> </u>		
6003	肥前産	19SD6 IIG9 i		磁器・皿	白色・染付	大橋 II 期 (1630~1650)				
6004	肥前産	19SD6 HG1 j	埋土上部	磁器・碗	白色·染付	大橋V期 (1780~1860)		3.0		
6005	肥前產?	19SD7 H H9g		磁器・徳利	白色・染付	大橋V期 (1780~1860) ?				竹笹文
6006	肥前産	19SD7 图Hg列		磁器・回	白色・染付	大橋Ⅳ朔(1690~1780)		-		
6007	東北地方在地産	19SD8 11H9d		磁器・硫	白色·染付	190中~		5.6		草花文
6008	肥前産	19SD8 III H 9 d		磁器・器	白色・染付	大橋V期 (1780~1860)	9.9			内外面に草花文?
6009	肥前産	19 S E 2		磁器・皿	白色・染付	大橋IV期 (1690~1780)				
6010	瀬戸産?	19 S K 5		磁器・碗	白色·染付	19C 前半	8.9			草花文
6011	東北地方在地産	19 S K 5		磁器・皿	灰白色	190中~	7.8	3.4	2.6	見込ハリ支え痕、型おこし
6012	肥前產	19 S K 6		磁器・皿	白色·染付	大橋N期 (1690~1780)		6.9		
6013	大堀・相馬産	19S K 6		磁器・香炉	灰白色	19C	7.0			
6014	肥前産 (唐津)	195 K 10		陶器·皿?	灰色	16C末~17C初	11.8			
6015	肥前産	19 S K 10	埋土下部	磁器・皿	灰白色・染付	大橋IV期 (1690~1780)		5.8		
6016	肥前產	19 S K 15	埋土	磁器・碗	白色・染付	大橋N期 (1690~1780)		2.6		
6017	中国産	шноь	搅乱划一括	磁器・皿	白色・染付	16C ~17C ₹0		5.9		外面の釉にムラ
6018	肥前産	ШН8ь	推乱・整地	磁器・碗	白色·染付	大橋N~V期 (18C後半~19C初)	6.8			丸文
6019	肥消産	Ⅲ H 9 d	田崎	磁器・碗	白色・染付	大橋 11 期 (1630~1650) ?	-			草花文
6020	肥前産	MH9d	N層下位	磁器·碗	灰白色・染付	大橋IV期 (1690~1780)		4.0		
6021	瀬戸産	ШН9 g	投紙	磁器・碗	白色・染付	大橋V期相当 (19C前半)	8.8			再被熱による器面荒れ
6022	東北地方在地産	ШН9 g	投紙	磁器・碗	白色・染付	19C前~中		4.3		草花文、見込手描き
6023	東北地方在地産	ШН9 g	挺乱	磁器・碗	白色・染付	19C前~中	10.6	3.5	5. 1	草花文、見込手描き
6024	肥前産	ШН9 g	投乱	磁器・香炉	白色・染付	大橋N期 (1690~1780)	9.3			内面一部結補
6025	肥前產	ШН9 g	投乱	磁器・火入れ	白色・染付	大橋N~V期 (18C後半~19C初)	12.5	9.5	7.3	竹笹文、器面荒れ、内面無軸
6026	瀬戸産	M H9h	提乱	磁器・碗	白色・染付	大橋V期相当 (19C前半)	9.2	3.5	4.8	見込手指き
6027	瀬戸産	□ H 9 h		磁器・硫	白色・染付	大橋V期相当	9.4	4.4	6.0	見込手指き
6028	肥前產	III H 9 h	投乱	磁器・碗	白色・染付	大橋IV期 (1690~1780)	10.8			
6029	肥前産	11 H 9 h		磁器・皿	白色・染付	大橋N~V期 (18C後半~19C初)		11.3		草花文
6030	肥前產	北半	11 144	磁器・皿	灰白色・染付	大橋IV期 (1690~1780)	13.1	7.4	3.0	見込五弁花、蛇ノ目釉剥ぎ
6031	東北地方在地産	調査区北個	投紙	磁器・徳利	白色·染付	19C前~中葉		7.5		内面無釉、底部欠損
6032	肥前產	調査区北側	0 層	磁器・皿	白色·染付	大橋V期 (1780~1860)				内面色絵
6033	肥前產	調査区北半	旧屬	磁器・皿	白色・染付	大低N~V期(18C後半~19C初)	10.8	5.7	2.2	草花文
6034	肥前産	調査区北半	ПЫ	磁器・銃	白色・染付	大橋N~V朗(18C後半~19C初)	11.4			網目文
6035	海戸産	調査区北西部		磁器・硫	白色・染付	大橋V期相当 (19C前半)	11.1			
6036	肥前産	調査区北西部	经止	磁器・碗	灰白色・染付	大橋N期 (1690~1780)	9.4			草花文
6037	東北地方在地産	調査区北半	挺乱	磁器・皿	白色・透明釉	19C前半、芬文皿、瀬戸産?	9.5	5.2	1.4	
6038	切込産	調査区北半	拔乱	磁器・椀	灰色・染付	19C前半	12.3			
6039	肥俏產	調査区北西部		磁器・回	灰白色・染付	大橋下期(1690~1780)	13.5	7.2	3.8	草花文、裏銘
6040	配前產	調査区北西部		磁器・皿	白色・染付	大條V期(1780~1860)	11.4	4.8	3.2	草花文、褒銘、雷文
6011	在地産	19 P 101	埋土	陶器・変	灰色・鉄釉	19C		12.6		外面無陥部分あり
6012	肥前産(唐津)?	19 P 191	埋土	陶器・皿	浅黄色・透明釉	16C末~17C初?	10.5			

- AD	Ord IA- IA-	111 J. 16 Jr	粉位	極別・器種	胎土・釉薬	年代	口径	底径	器商	In v.
番号	製作地 在地産?	出土地点 19SD1 回H7d	- AJ [V.	陶器・火入れ	初 J.・恒楽 恐灰色・透明箱	19℃以降か	LITE	6.3	EF 194	
6043		19SD1 MH7d		内部・人人化	浅黄色	17C	 	0.3	 	内面粘厚い
6044	瀬戸・美浪産			陶器·鉢?	浅黄橙色・灰釉	17C	 	 	<u> </u>	外面一部施釉
6045	瀬戸・美浪産	19SD1 IIH8d		内部·叶:	浅黄橙色・灰釉	16 C 後半	 		 	7下四一印度相
6046	瀬戸・美浪産	19SD6 IIG4 j		内部·加 内器·指針	明赤褐色・鉄釉	19℃以降	 	-	 	
6047	東北地方在地産	19SD7		内容·加 内容·加	-	19℃放降	 	4.6	 	*45
6048	大堀・相馬産	19SD7 11H8h		内器・回	灰白色・長石釉	190 前半	11.1	4.0	ļ	高台無袖
6049	和戸・美設産	19SD7 IIHg列		陶器·曼	視灰色・鉄釉	19℃前半	111.1	<u> </u>		
6050	在地産	19SD7 IIH9g	ात का का	内部·克 内器·统	にぶい黄橙色・長石釉		6.2	 -		-
6051	瀬戸・美浪産	19 S E 2	2層北半			16C末~17C初	0.2	<u> </u>	<u> </u>	
6052	瀬戸・美浪産 (志野)	195 E 4 南半	埋土上部	陶器・碗?	浅黄橙色・長石釉		10.0	6.0	1.0	-4-stz mi
6053	瀬戸・美浪産 (志野)	19 S E 6	100 231 10 to 10 107	陶器・皿	にぶい橙色・長石釉	16C末~17C初	10.2	6.2	1.6	志野 皿
6054	肥前産 (唐津)	19S E 6	飛混じり層	陶器・競	掲灰色・長石釉	16 C末~17 C初	10.4	4.3		外面下部無釉
6055	瀬戸・美浪産 (志野)		成混じり層	内路·皿	灰白色·長石釉	16C末~17C初	12.4	6.3	2.7	志野菊皿
6056	瀬戸・美浪産(志野)	195 E 6 北半	環混じり層	内器·皿	浅黄松色・長石釉	16C末~17C初	11.8	7.6	2.2	志野旦、ハリ支え復
6057	瀬戸・美浪産	19 S E 8	不明	陶器·皿	灰白色・灰釉	16C後半	8.1	3.5	2.2	Marian India
6058	肥前産 (店津)	19 S E 9	4層	内器・碗	揭灰色·長石釉	16C末~17C初	 	3.5		外面下部無釉
6059	肥前産 (店津)	19 S K 4	2	陶器·碗	にぶい橙色・鉄釉	16C末~17C初	-			
6060	在地産	19 S K 5		陶器·指鉢	にぶい赤褐色・鉄釉	19C以降				
6061	大堀・相馬産	19 S K 10	捏土下部	陶器·鏡	灰白色·灰釉/鉄釉	18C	10.6			腰錆碗
6062	大堀・相馬産	19 S K 14	埋土	陶器·皿	灰褐色・塩灰釉	19C前半		3.8		外面無箱
6063	大堀・相馬産	II H O a	提乱	陶器·碗	にぶい黄橙色・灰釉	18Cft				
6064	大堀・相馬産	□G2j	四層中	陶器·皿	灰白色·灰釉	18C				
6065	肥前產	III G 3 h	耳唇	陶器·皿		大橋 N期 (1690~1780)				外面無釉部分あり
6066	肥前産	шноь	校乱層一括	陶器・火入れ	黄灰色・染付	18C前半	8.5			陶胎染付、内面一部施釉
6067	肥前産	□ H 0 e	N層下位	陶器・鉢	掲灰色・透明轴	18C 前半	<u> </u>			
6068	瀬戸・美資産 (志野)	шнза	N格上面	陶器·皿	にぶい役色・長石釉	16C末~17C初				老野回
6069	瀬戸・美浪産(志野)	ШН7е	四層	陶器·皿	にぶい役色・長石釉	16C末~17C初				志野皿
6070	東北地方在地産	ШН7е	四村	陶器・磁	褐灰色・鉄箱	19C	5.6	4.2	5.0	なまこ釉
6071	肥前産(唐津)	ШН7е	田塔	陶器・皿	灰黄褐色・透明釉	160末~170初	12.2	4.4	3.7	外面無稿部分あり
6072	大堀・相馬産	ШН9 g	投乱	陶器・皿	灰白色・凝灰釉	19C前~中	9.1	3.7	1.9	高台無釉
6073	大堀・相馬産	MH9h	提乱	陶器・皿	灰色・葦灰釉	190 前~中	12.4			
6074	大堀・相馬産	調査区北図	投乱	陶器·急須	灰白色・銅緑箱	19C前~中				
6075	東北地方在地産	調査区北側	投乱	磁器・碗	灰白色・染付	190 前~中		3.8		草花文
6076	大堀・相馬産	两充区北半	Ⅱ層	陶器・碗	灰黄色・糞灰釉	190前~中		3.6		高台無釉
6077	産地不明	調査区北西部	ļ	陶器·瓶	褐灰色・透明釉?	20C前半、「福嶋」、灰釉?	7.8	7.0	6.8	
6078	瀬戸・英澄産	調査区北側		陶器・皿	灰白色・粒灰釉	16C前半	14.9	10,7	2.1	
6079	瀬戸産	割充区市图		陶器·皖	灰白色・染付	18C末~19C初	8.2			陶胎染付、草花文
6080	肥前産	詞在区北西部	L	陶器·晚	黄灰色・染付	18℃前半	11.1			陶胎集付
6081	肥前産	調査区北西部	<u></u>	陶器·鏡	灰白色・透明釉	18C前半				貫入
6082	大堀・相馬産	不明	l	陶器·硫	灰白色・灰釉	18Cft		4.0		高台無雜
6083	瀬戸・美浪産(志野)	不明	不明	陶器・皿	浅黄橙色・長石釉	16C末~17C初			I	志野皿
6084	大堀・相馬産	南北ベルト	挺乱	陶器・筬	灰白色・斑灰釉/鉄釉			3.3		設銷 院
6085	大堀・相馬産	南北ベルト	投机	陶器·皿	黄灰色・藁灰釉	190 前~中	12.8	4.8	3.9	高台無軸



番号	松如	出土地点	層位	長さ	φΩ	Иč	備考
7001	土錘	19 P 272	埋止:	3.4	1.7	7.4	
7002	北鋒	пноі	5 b	2.8	2.5	14.7	
7003	土錘	пноі	6	(1.3)	(2.1)	3.7	
7001	土绳	m 11 O i	5 d	(4.8)	1.6	11.1	
7005	土鱼	шноі	5 d	(2.7)	2.1	10.3	
7006	土篷	шноі	5 d	(2.5)	(2.4)	6.5	
7007	北鍾	MH3h	5 b	(2.6)	(1.7)	2.3	
7008	北鎌	III H 3 h	5	(2.6)	2.1	5.4	
7009	土錢	MH3 i	5	4.3	1.6	9.9	
7010	土姓	0H5i	5 b	(2.6)	(1,2)	2.2	
7011	土錢	MH5 i	5 d	(2.5)	(2.2)	4.3	
7012	土鏈	ШН5 ј	6	2,7	2.2	11.2	
7013	上鋒	MH6i	6	2.8	2.6	14.3	
7014	土纯	ШН7 і	6	(2.4)	(2.3)	5.8	
7015	土錢	шн7 ј	6	4,7	2.4	19.0	
7016	土经	ШН7ј	6	3.3	2.4	14.3	
7017	土錘	шн7ј	9 a	(4.8)	2.0	15.5	
7018	土錢	ШН7ј	9 a	(3.7)	1.8	9.5	
7019	上錘	□117 j	9 a	(2.8)	2.2	11.4	
7020	土姓	шн8 і	5 d	(4.3)	2.4	10.5	
7021	土鱼	ши в і	5 d	3.7	1.8	8.7	

第209図 土製品① 土錘



1.7 土製品② 土錘 第210図

1.8

2.2

(2.0)

(2.3)

1.9

2.1

1,9

9.3

19.2

7.2

4.7

7.3

13.7

10.0

7.8

G

5d

5 d

1 i

6

l q

1 q

1 q

7035

7036

7037

7038

7039

7010

7011

7012

北海

北经

上鋒

土鐘

土缝

土缝

:1:56

:1:3%

NH1 i

NH1 i

NH2 i

WH2i

NH2j

NH3i

NH3 i

N 11 3 i

2.8

(4.3)

(3.4)

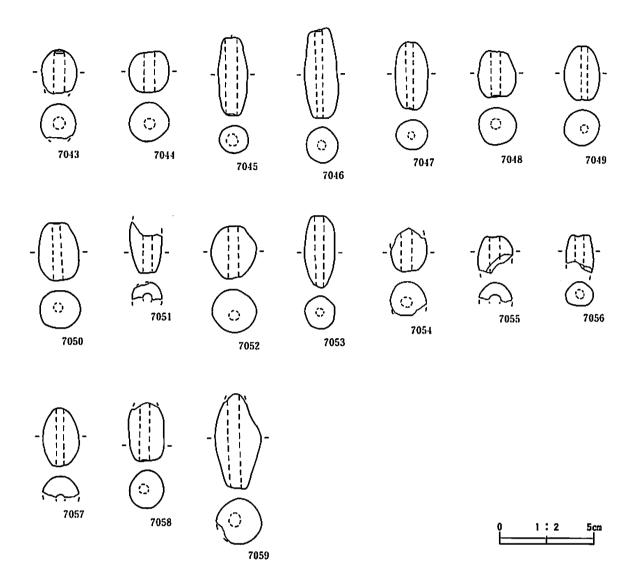
(2.5)

2.5

3.6

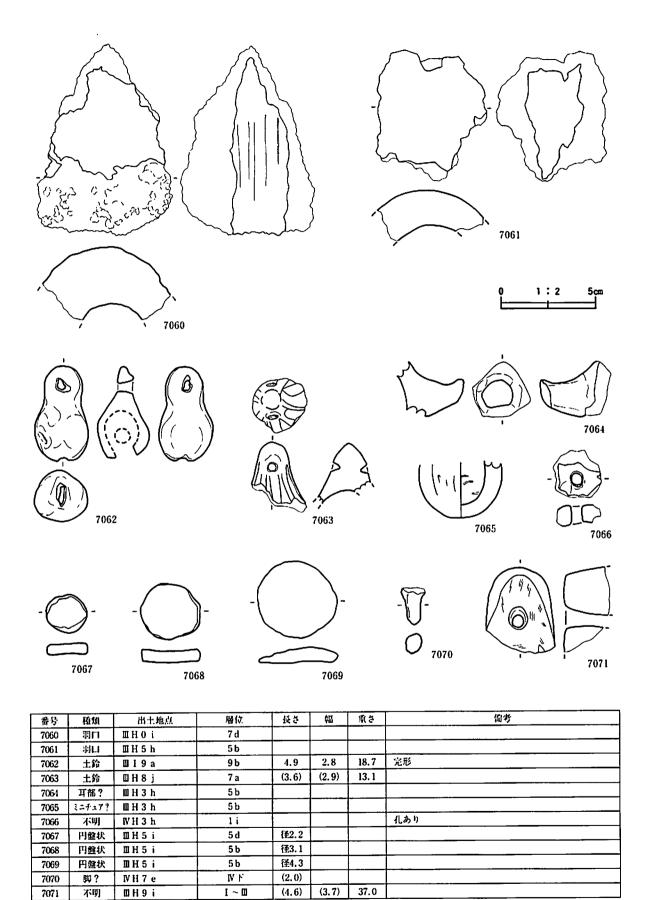
3.0

2.9

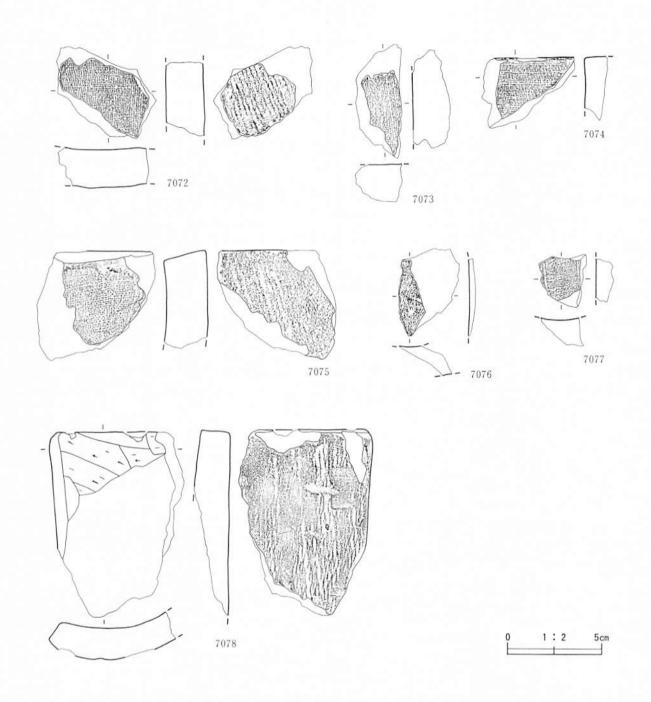


番号	極知	出土地点	層位	長さ	램	爪さ	領考
7013	土錢	NII 3 i	1 q	(2.3)	(1.9)	6.4	
7014	北鍾	NH3 i	1 q	2.1	2.1	8.4	
7045	土錘	NH3 i	l r	4.2	1.5	7.8	
7016		NH3 i	l r	4.7	1.7	14.1	
7017	土缝	NH3 i	l r	3.5	1.7	8.3	
7018	北煙	NH3 i	l r	2,5	2.0	8.8	
7019	土缝	NH3 i	1 r	2.8	1.8	8.0	
7050	土筵	NH3 i	l r	3.0	2.1	12.2	
7051	土錘	NH3 i	1 i	(2.7)	(1.7)	3,2	
7052	土姓	NH3 j	l n	2.8	2.4	12.0	
7053	:1:鋒	WH3 j	1 q	3.7	1.6	8.7	
7051	土錢	NH3j	l r	(2.3)	(1.9)	5.6	
7055	土経	NH4h	li	(1.9)	(1.8)	2.9	
7056	土錘	NH4h	1 i	(1.9)	(1.5)	3.2	
7057	土錘	NH4j	lq	(3.1)	(1.9)	6.0	
7058	土锤	NIla	7 d	(3.1)	1.9	8.9	
7059	土锤	不明	不明	(5.0)	2.4	18.0	

第211図 土製品③ 土錘

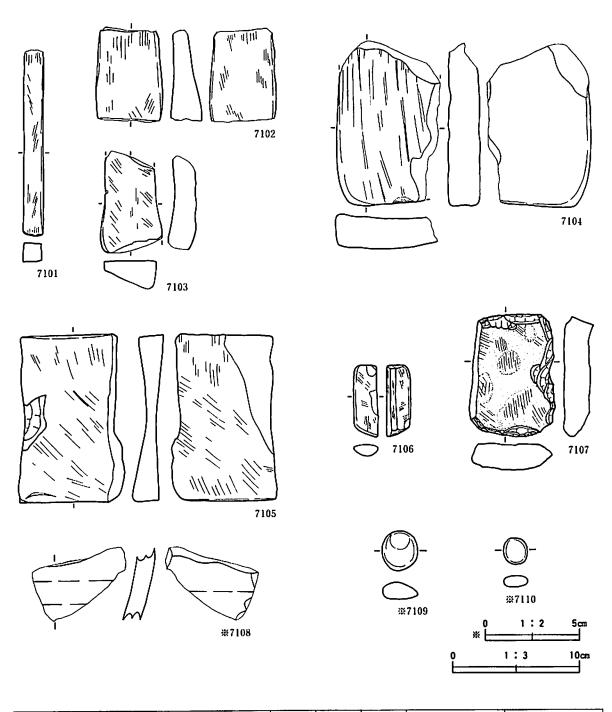


第212図 土製品④ フイゴ羽口・土鈴ほか



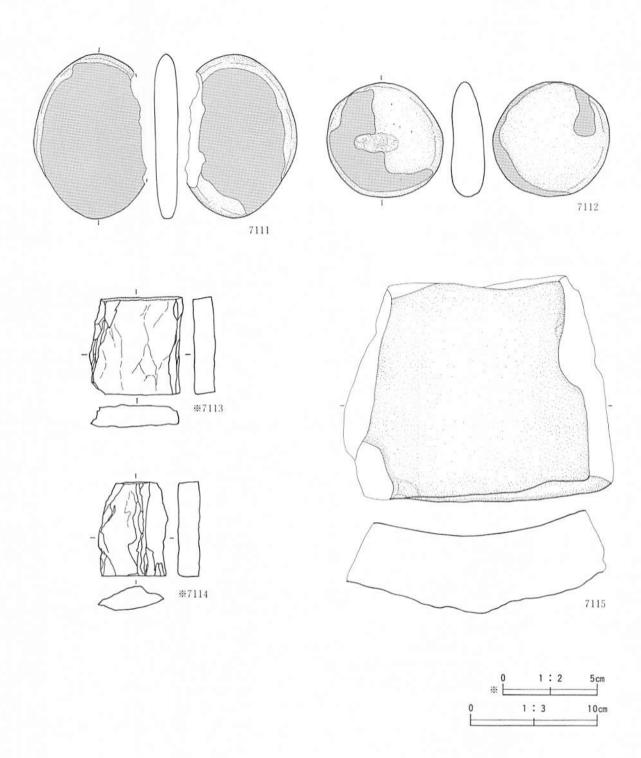
番号	種類	出土地点	層位	長さ	朝	重さ	備考
7072	瓦	19 S E 3	埋土上部	(3.8)	2.0		平瓦
7073	Æ	ⅢH0i	5 b	(5.0)			平瓦
7074	瓦	ШНОі	5 d	(3, 2)			平瓦
7075	瓦	Ⅲ H 3 f	Ⅲ層上部	(4.6)	2.2		平瓦
7076	瓦	IVH2j	1 q	(4.0)			平瓦
7077	瓦	NH2j	5 d	(2.6)			平瓦
7078	瓦	NH2i	1 q	(9.6)	1.8		平瓦

第213図 土製品⑤ 12世紀の瓦



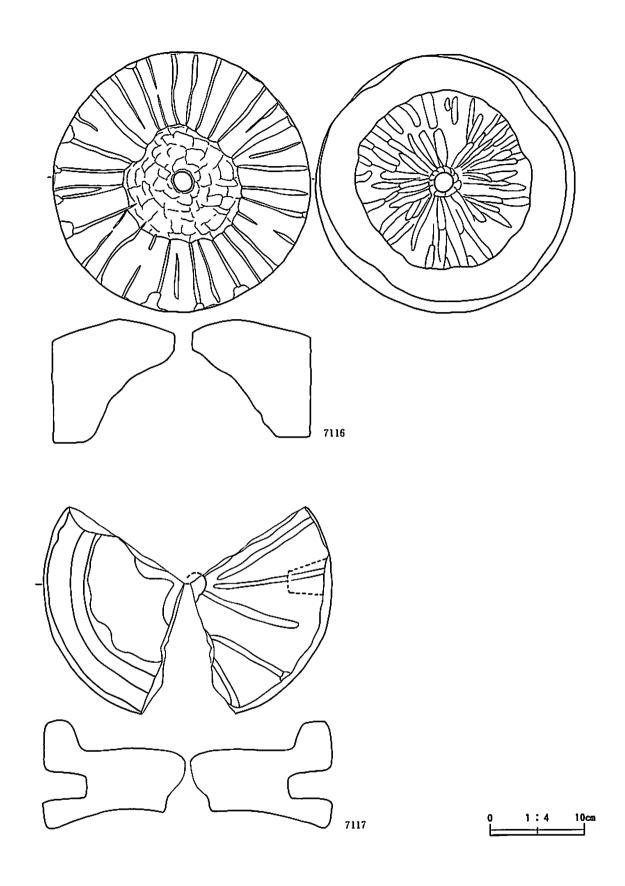
.a. D.	(1) 1. bb.de	層位	ELIX I	長さ	¢11	はな	重量	石質	廃地
番号	出土地点	ÆN.	CH AL	(cm)	(cn)	(cm)	(g)	1114	74.75
7101	198 E 3 北半	1 f	砥石?	14.5	1.7	1.4	60.1	石英安山岩	奥羽山脈
7102	NH4 i	1 q	既石	7.3	5.3	2.5	145, 1	凝灰岩	奥羽山脈
7103	NH2j	1 i	砥石	(8.0)	4.8	2.2	106.0	石英安山岩	奥羽山脈
7101	NH2j	1 q	低石	(13,0)	(7.6)	2.6	337.2	凝灰岩	奥羽山脈
7105	пнві	5 d	低石	13. 1	8,3	2.2	314.6	真岩	北上山地
7106	шноі	5 d	低石	5.7	2.0	0.9	16.2	真智	北上山地
7107	шноі	5 d	既石	9.7	6.9	2.4	254.5	頁岩	北上山地
7108	19SE3北半	lm	石鎖	(3.8)	(5.0)	1.0	24.9	滑石	北上山地
7109	IVH4h	l i	巷石?	2.1	1.9	0.85	4.7	買岩	北上山地
7110	IVH4j	1 r	排石?	1.4	1.3	0.6	1.7	μW	北上山地

第214図 石製品① 砥石・石鍋・碁石



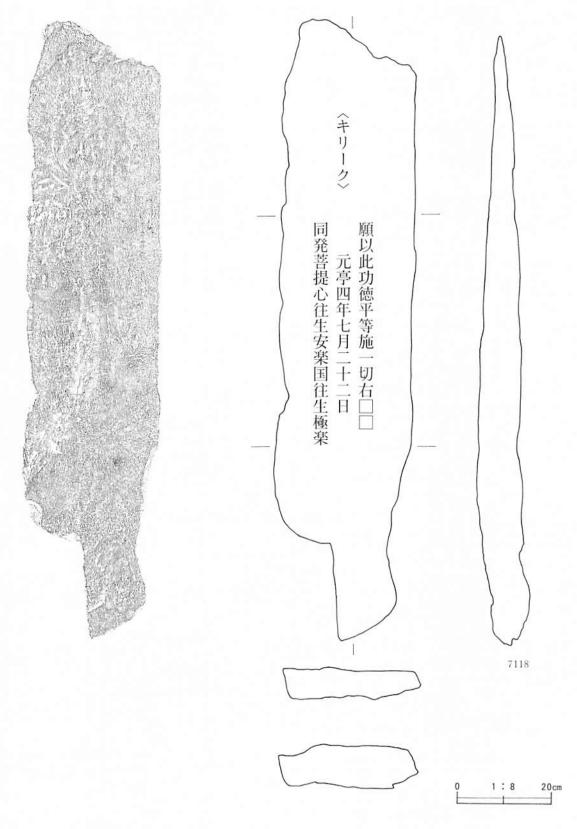
番号	出土地点	層位	種類	長さ (cm)	ф <u>П</u> (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地
7111	NH1 i	5 d	焼けた礫	12.9	8.9	1.8	298.6	安山岩	奥羽山脈
7112	NH1 i	5 d	焼けた礫	9.0	9.2	2.7	308.3	安山岩	奥羽山脈
7113	Ⅲ H 8 i	5 d	剥片状	5.0	3.7	1.3	29.1	頁岩	北上山地
7114	Ⅲ H 8 i	5 d	剥片状	5.2	5.0	1.2	58.1	頁岩	北上山地
7115	19SD6 IIG9j		碟 (凹面)	(17.0)	21.3	8.0	3081.1	安山岩	奥羽山脈

第215図 石製品② 焼けた礫ほか



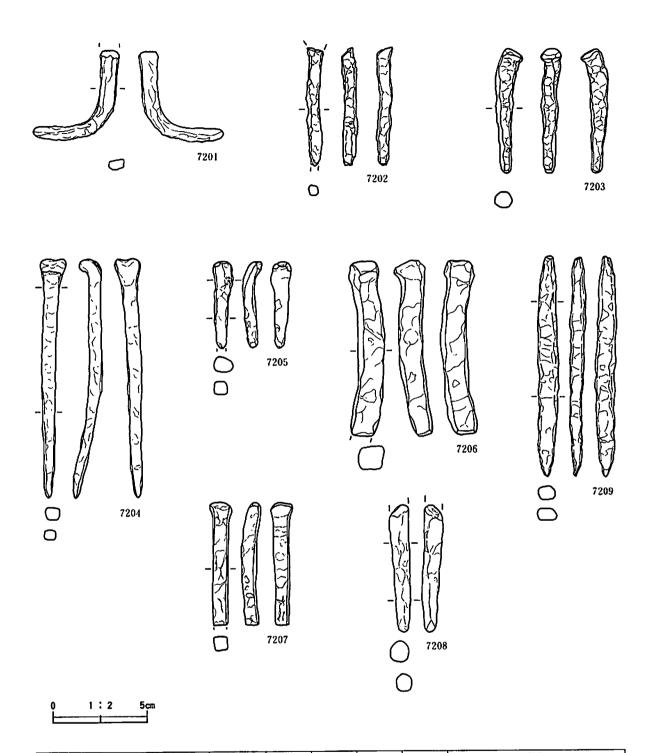
番号	出土地点	層位	租期	(ca) 托女	(G)	厚さ (ca)	派最 (g)	石質	蔗地
7116	19 P 242	埋土	石臼	径27.2		12.9	10kg	安山岩	奥羽山脈
7117	19 P 246	埋止	石臼	(15.0)		11.4	2851.2	安山岩	奥羽山脈

第216図 石製品③ 石臼



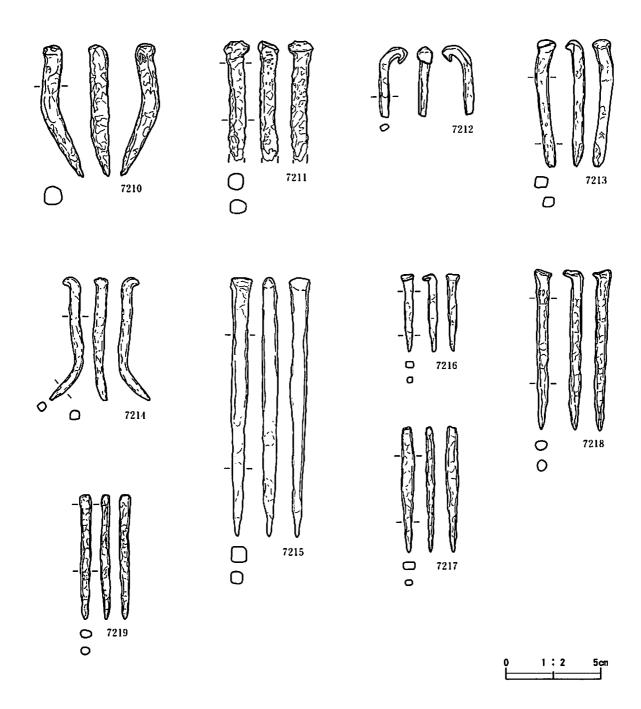
番号	出土地点	層位	種類		ФД (cm)		重量 (g)	石質	産地
7118	195 E 6 北半	埋土	板碑	128.0	29.5	0.7-9.6	52.5kg	百岩	Jr. 1-111 10

第217図 石製品④ 板碑



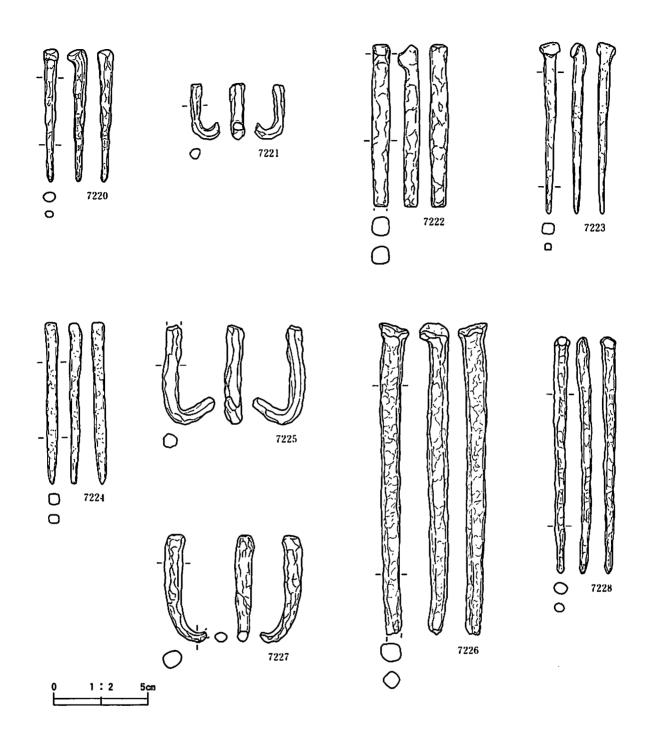
番号	出土地点	層位	種類	ほさ	41	厚さ	重量	
7201	19 S D 9	埋土	角釘	(4.7)	0.8	0.6	10.7	
7202	19 S E 3	埋土	角釘	(6.2)	0,5	0.6	5.1	
7203	19 S E 3	埋土上部	角釘	6.6	0, 9	0.8	8.8	
7204	шно і	5 d	角釘	12.5	0.8	0.7	23.2	
7205	IIII f	5	角釘	(4.5)	1.1	0.8	4.9	
7206	MHlg	5	角釘	(9.3)	1.4	1.2	33.1	
7207	□ H 3 h	5 b	角釘	(6.5)	1.3	0.7	17.9	
7208	D H 6 i	5 b	角釘	(6.7)	0.9	1.1	11.13	
7209	шн6 і	5 d	角釘	11.7	1.1	0.7	14.68	

第218図 金属製品①



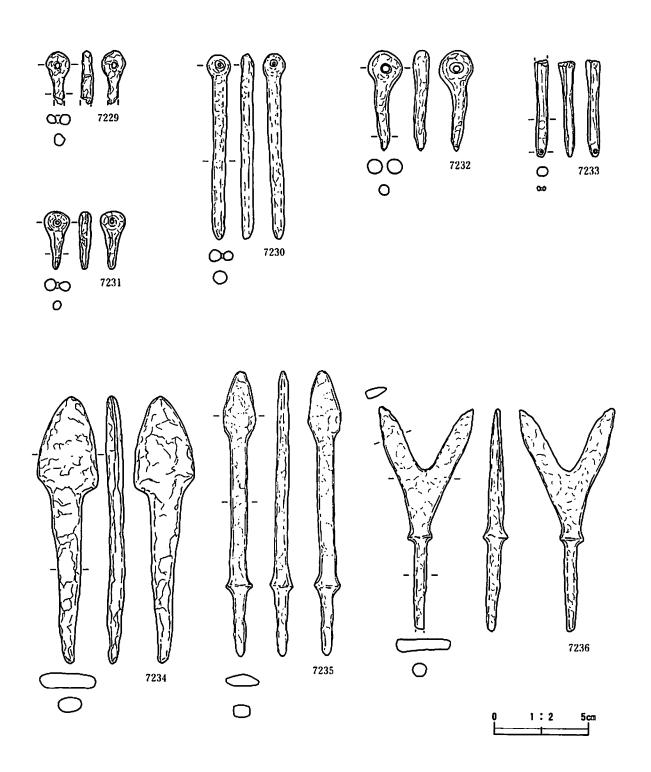
番号	出土地点	層位	種類	長さ	¢E	以さ	瓜量	伽考
7210	ШН6 і	5 d	角釘	6.9	0.9	0.9	9.3	
7211	ШН7 і	5 d	角釘	(6.3)	0.9	0.8	8.6	
7212	U H7 i	5 d	角釘	3.6	0.5	0.4	2.6	
7213	MH7 i	5 d	角釘	6.7	0.7	0.6	9.1	
7214	IV H 1 i	l r	角釘	6.5	0.5	0,5	7.7	
7215	NH1 i	l r	角釘	13.6	0.8	0.8	26.3	
7216	NHli	5 d	角釘	4.1	0.4	0.4	7.9	
7217	NH1 i	5 d	角釘	6.6	0.7	0.4	4.5	
7218	IV H 1 i	5 d	角釘	8.4	0.6	0.6	8,6	
7219	NH1 i	5 d	角釘	6.5	0.6	0.4	3, 9	

第219図 金属製品②



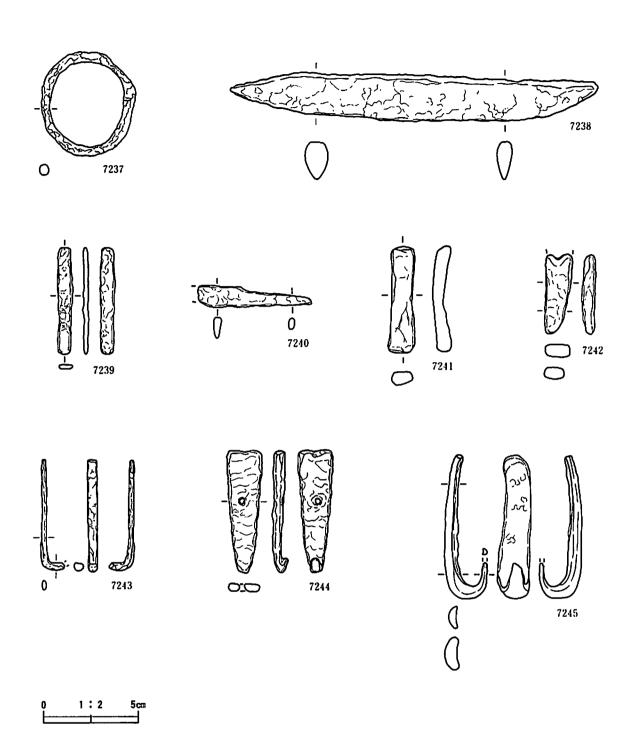
番号	出土地点	層位	植類	長さ	幅	厚さ	重量	仰考
7220	NH1 i	5 d	角釘	6.9	0.6	0.5	7.9	
7221	NHli	1 q	角釘	2.9	0.5	0.5	2	
7222	NH1j	l i	角針	(8.5)	0.9	1.1	16.6	
7223	NH2 i	1 i	角釘	8.9	0.6	0.6	9.1	
7224	NH2 i	1 q	角釘	8.5	0.6	0,6	8.8	
7225	NH2 i	l q	角釘	(5.3)	0.7	0.7	9.9	
7226	NH2 i	l q	角釘	(16.4)	1.1	0.9	35.3	
7227	NH3 i	1 q	角釘	(5.6)	1.1	0.9	10.4	_
7228	NH3 i	1 r	纠釘	12.4	0.7	0.6	15.7	

第220図 金属製品③



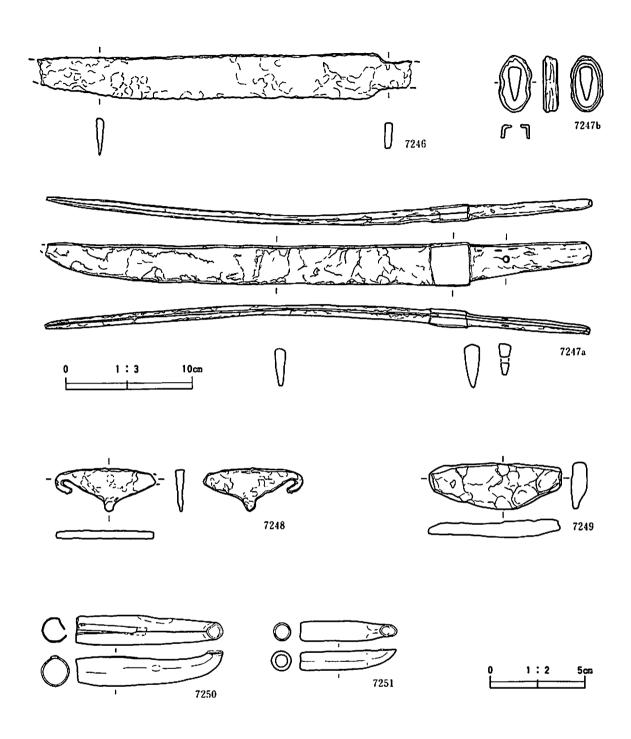
番号	出土地点	層位	種類	托건	铒	収さ	重量	備考
7229	Ш Н6 і	5 d	金具	(2.7)	1.3	0.6	2.3	
7230	NHli	l q	金具	9.6	1.2	0.7	17.7	
7231	NH1 i	5 d	金具	3.1	1.4	0.6	2.6	
7232	NH3h	1 i	金具	5.2	1.8	0.7	7.6	
7233	NH1 i	l r	針状	(5.0)	0.6	0.5	3.2	
7234	шн9 і	5 b	鉄鉄	13.9	3.1	0.8	34.7	
7235	WH1 i	1 q	鉄鏃	14.8	1.7	0.7	28.8	
7236	NH1 i	1 q	鉄鏃	(11.5)	2.8	0.7	24.6	

第221図 金属製品④



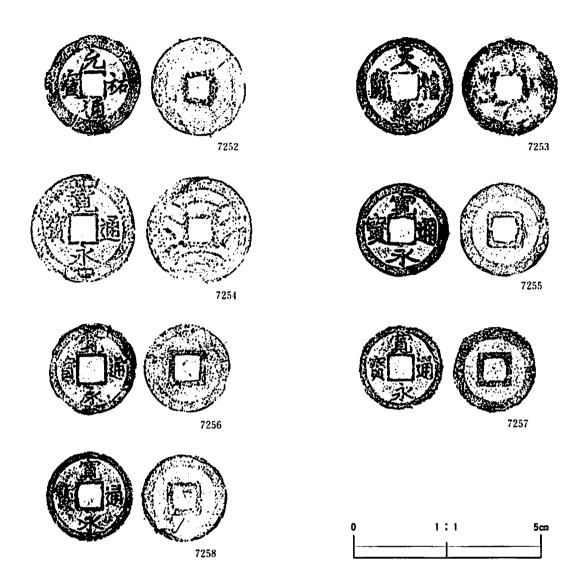
番号	出土地点	層位	種類	接き	協	厚さ	重量	偏考
7237	NH4 i	l i	環状製品	5.3	0.5	0.6	11.4	
7238	NH3h	l i	刀子	19.6	2.3	1.2	83.5	
7239	N 1 2 b	不明	不明	(5.5)	0.8	0.3	3.5	
7240	NH3i	lq	刀子?	(6.1)	1.1	0.5	4.5	
7241	19 S D08		不明	5.5	1.1	0.7	12.3	
7242	шноі	5 d	不明	(4.2)	1.3	0.7	5.3	
7243	MHlg	5 d	不明	(5.7)	0.5	0.4	1.9	
7244	NH1 i	1 q	不明	6.4	1.7	0.4	12.5	中央部に孔あり
7245	NH3h	1 i	不叨	(7.5)	1.7	0.6	13.8	

第222図 金属製品⑤



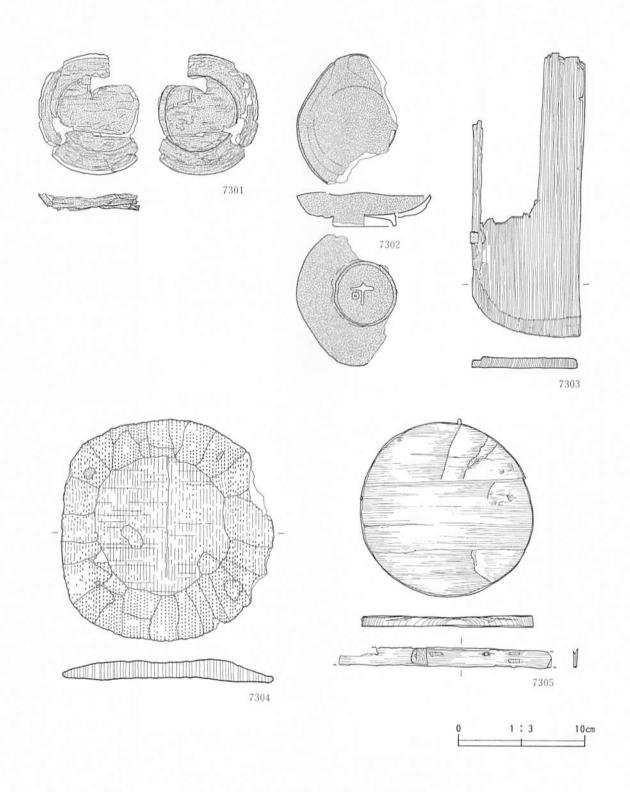
番号	出土地点	層位	抵纸	長さ	¢H	厚さ	瓜量	偏考
7246	19P I	埋土	זו	(29.8)	2.8	0.6	166.0	
7247 a	ПGОj	Ⅱ層相当	ח	43.3	3.3	1.1	318.5	
7247 b	II G O j	Ⅱ層相当	切羽	4.4	2.3	1.1	11.9	
7248	19S D 6	埋土上部	火打ち金具	(2.2)	5.2	0.4	7.8	
7249	19 S D 8		火打ち金具	2.3	7.1	0.8	26.45	
7250	調査区南西	盛上	キセル(屋育)	7.8	1.4	1.6	17.2	
7251	調査区北西	[日日	キセル(駆首)	5.2	0.9	0.9	9.8	

第223図 金属製品⑥



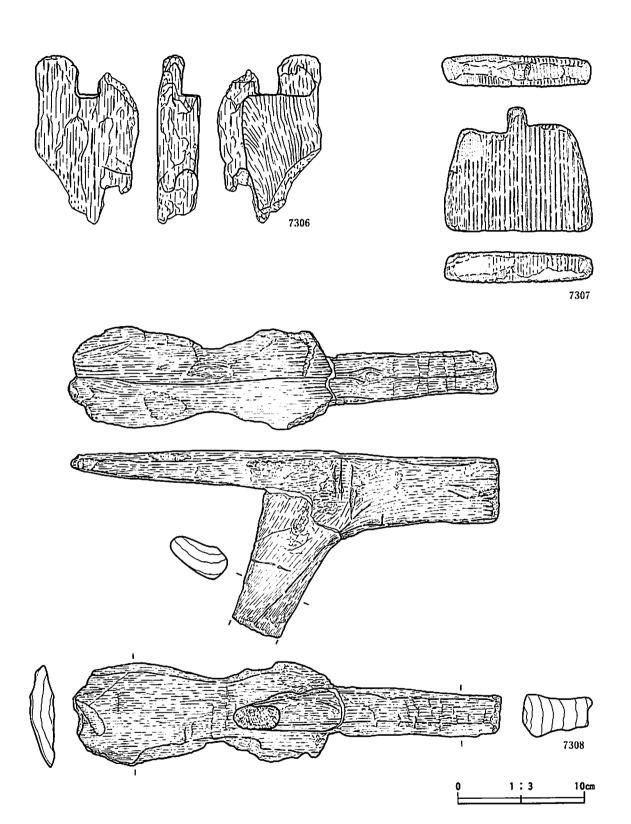
番号	出土地点	層位	種類	長さ	幅	厚さ	重量	馅考
7252	Ш Нбі	5 d	銭貨	1 €2. 5			2.8	「元祐通寶」 初鎮年1086年 北宋
7253	NH3i	l r	銀貨	₹2.5			2.4	「天喜通寶」 初鎮年1017年 北宋
7254	ШН9 g	拢乱	銭貨	怪2.7			3.9	「寛永通寶」 新寛永·四文銭
7255	II G 8 i	5	銭貨	径2.5			2.5	「寛永通寶」
7256	ШН9 g	搅乱	銭貨	径2.3			2.0	「寛永通寶」
7257	19 P 103	组出:	銭貨	译2.2			2.2	「寛永通寶」
7258	ШН9 g	投乱	剱貨	₹£2.3			2.1	「寛永通寶」

第224図 金属製品⑦



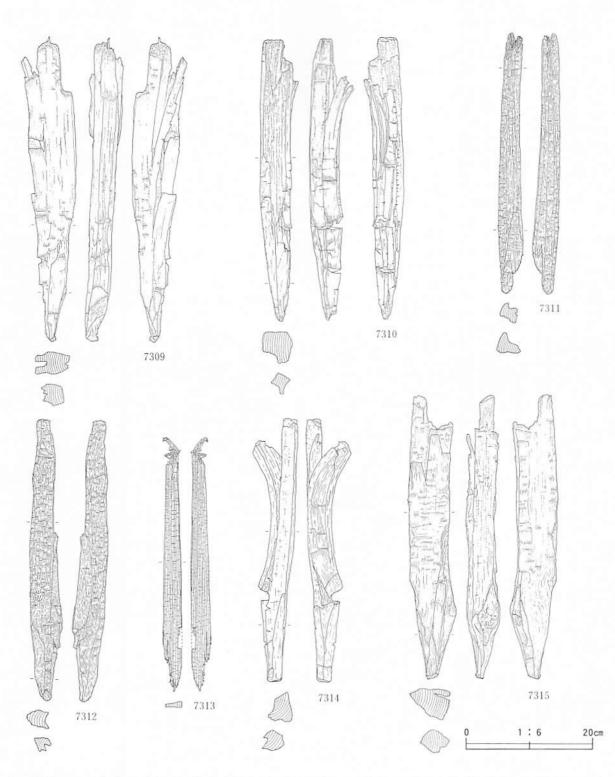
番号	種類	長さ	Q ^M	厚さ	出土地点	層位	樹種	同定番号	備考
7301	漆塗椀	(9.4)		(1.2)	ШН6 ј	7 a	ケヤキ	32	
7302	漆塗椀	(10.7)		(2.7)	19 S E 2	1 j	ブナ属	1	
7303	曲物底板	(22.0)	(8.6)	0.8	N 1 2 a	8層下	アスナロ	31	
7304	曲物	(17.3)	(16.9)	1.5	ШН7ј	9 a	ケヤキ	37	
7305	曲物・タガ	径13.5		0.8	ШН7ј	8層下	ヒノキ属	30	タガー長さ (16.9)・幅1.5

第225図 木製品①



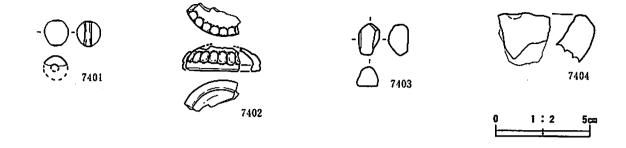
番号	種類	長さ	얦	厚さ	出土地点	層位	樹種	间定番号	備考
7306	下队台	(13.0)	(8.2)	3.3	19 S E 8	1~6日	ケヤキ	1	
7307	下駄差례	9.7	11.8	2.4	19SE 8	1~6网	クリ	5	
7308	鍬	34.0	8,0	1.4~2.9	ш н 9 ј	9 d	エゴノキ属	38	柄-幅4.2、厚さ2.3

第226図 木製品②



番号	種類	長さ	ΦЩ	厚さ	出土地点	層位	樹種	同定番号	備考
7309	木杭7	52.4	7.5		木柱列1	7 d	コナラ属	11	
7310	木杭10	43.8	6.6		木柱列1	7 d	コナラ属	12	
7311	木杭16	39.9	3.8		木柱列1	7 c 4	コナラ属	13	
7312	木杭19	43.6	4.8		木柱列1	7 c 5	クリ	14	
7313	木杭24	39.4	3.0		木柱列1	7 c 5	クリ	15	加工されず
7314	木杭29	40.9	7.0		木柱列 1	7 d	コナラ属	16	
7315	木杭38	44.0	6.6		木柱列1	7 c 5	コナラ属	17	

第227図 木杭



番号	通知	長さ	柳	収さ	出土地点	層位	備考
7401	ガラス玉	径1.3			0 H G i	5 d	承量1.7g
7402	ガラス遊	後4.2			ШН7 і	5 b	Æ3.8g
7403	琥珀	1.8	1.0		NH3i	lq	
7404	坩埚	(2.6)		1.4	шнві	5d	

第228図 その他の遺物

第3節 まとめ

本遺跡は、これまで二十数回にわたって発掘調査が行われ、12世紀都市平泉における泉屋遺跡の重要性は、 その立地等から多くの指摘があるところだが、今回の遺跡南東端の調査によって、その内容にさらに良好な 資料を追加することができた。ここでは、今回得られた遺標と遺物の内容を簡単にまとめてみたい。

1 遺構

泉屋遺跡19・21次調査で検出された遺構は、掘立柱建物17棟、柱列3条、井戸9基、土坑34基、溝12条、 古代の竪穴住居跡3棟、焼土10基、土器埋設遺構2基、カマド状遺構5基で、この他に遺跡南東端に旧河道 跡が1箇所確認された。出土遺物や遺構の確認状況などから推測される各遺構の所属年代は、(1)縄文時代

- (2) 平安時代前半期(9~10世紀)(3) 平安時代後半期(12世紀)(4)中世(13世紀~16世紀末)
- (5)近世以降(16世紀末ごろ~19世紀末)の概ね5期に分けられそうである。ここでは、それぞれの時期 における遺跡の状況と、そのあり方に大きく関わる旧河道跡の様相について記述する。

(1) 縄文時代の段階

縄文時代の遺構は、基本層序第V層・第V層で確認された土坑(19SK9・21SK1・21SK2・21SK1・21SK1・21SK2・21SK1・21SK1・21SK2・21SK1・21SK1)1・21SK1 ・ 21SK1 ・ 21S

この時期における河道は、北から南に流れる深い沢となっていたものと思われるが、河幅・深さなど規模 については確認できなかった。

(2) 平安時代前半期 (9~10世紀) の段階

この段階に属する遺構は、残存状況が思わしくない竪穴住居 3 棟 (19 S I 1・21 S I 1・21 S I 2) と土 坑 2 基 (21 S K 15・21 S K 16)、可能性があるものとして焼土 1 基 (21 S X 7) がある。本来は、もう少し多くの当該期の遺構が存在したものと思われるが、12世紀以降に壊されてしまった可能性が高い。単独の焼土として報告した21 S X 7 は、住居跡に付属するカマドの燃焼部と思われるものである。また、旧河道跡から出土した土師器・須恵器の量、木製品の存在、そして墨曹土器や土錘などがみられることから、おそらくは平安時代前半の段階で、藤原時代のベースとなる安定した生活基盤をもった集落がこの周辺に存在したものと考えられる。

この時期の河道については、火山灰が厚く二次堆積できるような状況、また火山灰を挟んで前後の土壌の 様子から、流れのある川というよりは沼地とか湿地になっていたと考えられる。

(3) 平安時代後半期(12世紀)の段階

平泉がこれまでで最も華やかであった奥州藤原氏の時代であるが、今回確認された当該期の遺檘はあまり多くはない。掘立柱建物 1 棟 (21 S B 1)、井戸 1 基 (19 S E 3)、土坑 9 基 (19 S K 12 · 19 S K 17 · 19 S K 19 · 19 S K 21 · 21 S K 3 · 21 S K 5 · 21 S K 6 · 21 S K 7 · 21 S K 14)、溝 3 条 (19 S D 3 · 19 S D 9 · 19 S D 12)が12世紀に所属する可能性のある遺桝群である。この他には旧河道内に確認された整地層があり、19 S D 12 はその整地と同時期の道路側溝となる可能性を含む溝である。何のために窪地(沼地・湿地)を整地す

る必要があったのかは、遺跡範囲外となるさらに東側の状況が気になるところであるが(思い切って言えば、川を利用した水運の舟着き場などが存在する可能性)、太田川の旧河道跡となるこの地点は、もはやこの時代の痕跡を留めてはいないかもしれない。

次ぎに、整地層の上に形成された12世紀後半の遺物を主体とする包含層についてである。これが形成された時期およびその過程は、整地された面が使われなくなった後に自然とつくられたものではなく、おそらくは藤原氏滅亡後、それほど時間を置かずにいっきに人手で埋め立てられたのではないかと考えている。明確な根拠はないが、土層の堆積状況等から、12世紀後半以降藤原氏以後の人々によって大土木工事が行われ、その際に形成されたものと思われる。その普請が必要となった理由としては、藤原時代とは異なる土地利用、新たな都市計画などが思い浮かぶが、明らかには出来ない。

最後に橋状施設の木柱列についてであるが、調査で確認できた唯一の事実は、「杭はいずれも整地層面よりも上層から打ち込まれていた」ということだけで、やはり時期を明確に述べることは出来ない。整地層と同時期に存在したものとは考えにくいが、12世紀代を含むそれ以降のものとしておく。

(4) 中世

中世 (鎌倉時代) に属する可能性がある遺構としては、16次調査区から延びる19SD2 (16SD13と同一) が挙げられる。この海は、16次調査の報告で鎌倉期の区画溝とされているもので、これと軸方向を同じくする 掘立柱建物や、これらとほぼ同時期に使用されたと思われる非戸状遺構が存在するようである。鎌倉時代に おける泉屋遺跡の様相については、羽柴直人著「鎌倉時代の平泉の様相」『紀要XXI』に詳しい。

中世以降の河道は、その堆積状況から、ほとんど埋まりきっていたものと思われる。

(5) 近世以降

19・21次調査区の北西部に展開する近世民家で、年代は概ね16世紀末~18世紀ごろと考えられる。この時期に該当する掘立柱建物は、21 S B 2・21 S B 3・21 S B 4・21 S B 5・21 S B 6 − 1 (21 S B 6 − 2)・21 S B 7 − 1 (21 S B 7 − 2) の 6 棟である。これらのうち、付属屋になる可能性があるものを考慮した民家の変遷は、21 S B 2 (付属屋21 S B 3) →21 S B 4 (付属屋21 S B 5) →21 S B 6 →21 S B 7 と想定される。近世に属するものとした井戸は、19 S E 1・19 S E 4・19 S E 6 の 3 基で、上に示した掘立柱建物の変遷 4 期のいずれかとセットになるものと思われる。それ以降、近・現代の所属としたものは、19 S E 2・19 S E 7・19 S E 8・19 S E 9 の 4 基である。

2 遺物

泉屋遺跡19・21次調査で出土した遺物の総量は、収納用コンテナ(容量40%)90箱あまりで、本報告書に 掲載した遺物の総数は2,228点に及ぶ。これまで報告したように、その種類も多岐にわたりこれまで出土例が あまり多くない遺物も存在する。ここでは、時期ごとにそれらについて触れながら、泉屋遺跡を特徴づける 12世紀代の遺物の一部を中心に記述する。

(1) 縄文時代

土器・土製品は、「早期末業~前期前業」、「後期前業~中業」、「後期後葉~晩期初頭」の時期に属するものが出土した。主体は「後期後葉~晩期初頭」である。出土した土器の総重量は201.3kgである。特筆される遺物としては、ヘビがとぐろを巻いたような意匠をもつ蓋状の土器?(803)や、接合する両者にアスファルトの付着が見られる大形の土偶(787・788)などがある。時期は、いずれも後期末葉~晩期初頭期のものと思われる。

(2) 平安時代前半期(9~10世紀)

泉屋遺跡19・21次調査で出土した土師器の年代は、坏・甕類の出土状況とその特徴から、16次調査のものと同様に9~10世紀代と考えられる。坏には酸化炎焼成で底部に再調整が施されない、いわゆる赤焼きのものが含まれている。須恵器では大甕の破片が多く、坏は4点出土したのみである。この他には、土錘・土鈴などの土製品や曲物・鍬先などの木製品が出土した。鍬先と土鈴2点は、いずれも十和田 a 降下火山灰二次堆積前の層から出土しており、今回奈良時代の遺物が全く出土していない状況から、これらは平安時代、9~10世紀前半以前に属するものと思われる。

(3) 平安時代後半期(12世紀)

今回報告した12世紀代の遺物には、かわらけ、国産陶器(猿投産・渥美産・常滑産・須恵器系・瓷器系)、中国産陶器、中国産磁器(青白磁・青磁・白磁)、土製品(瓦・坩堝)、石製品(砥石・石鍋)、金属製品(釘・金具等)、木製品(曲物等)、ガラス製品(玉・蓋?)がある。ここでは、かわらけの分類結果と中国産陶器の類例について記述する。

なお、国産陶器・中国産磁器については、出土状況および接合関係等、検討を加えて別の機会に報告する 予定である。

まず、掲載した534点のかわらけの分類結果示す。

「手づくねかわらけ」 計428点

C3類-65点 C4類-50点 C3類-33点 D2類-42点 D3類-79点 D4類-144点

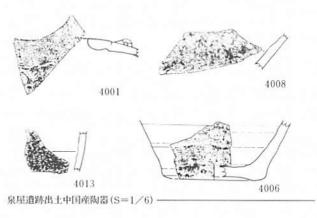
内折れ-13点 高台付1点 手あぶり形1点

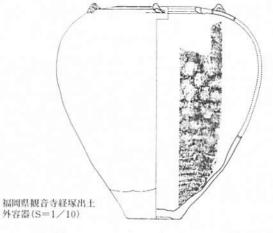
「ロクロかわらけ」 計106点

R b - 3 点 R b 01 - 1 点 R d · r d - 64点 R d 0 - 2 点 R d 00 - 2 点 R d 01 - 3 点 R d 02 - 2 点 R d 10 - 4 点 R d 12 - 1 点 R d 22 - 8 点 R d 23 - 5 点 柱状高台 - 8 点

他の不掲載となった多くのかわらけについても、このような作業をしなければ分類することに何の意味もなさないし、またこれをもって泉屋遺跡19・21次調査におけるかわらけの出土傾向などを云々することもできない。あえて言えば、「手づくねかわらけ」では1段なでと2段なでの割合は後者のほうが高く、「ロクロかわらけ」では圧倒的に皿形が多い、ということぐらいである。既述したが、これらはほとんどが12世紀後半に属し、13世紀以降のかわらけについては筆者は選び出せなかった。なお、柱状高台かわらけについては、12世紀後半を遡る可能性をもつものと思われる。

次ぎに、4001~4015に示した中国産陶器についてであるが、これらは旧河道大別層 5 層を主体と





第229図 中国産陶器の比較

して出土したもので、少なくとも2~3個体存在する。このうち、4001・4006~4008・4010・4012~4015は1個体の遺物破片と思われ、第229図に掲載した無頸の四耳付翌に類似するものである。これは、福岡県浮羽郡田主丸町に所在する石垣山観音寺境内に営まれた経塚(5号経塚)の外容器として利用されていたもので、推定高は約56cm、底径は14cmを計るものである。調査報告では、この翌の釉薬の特徴として「耳から下、底より上にかけて濁った黄褐色あるいは褐緑色に発色した釉」、胎土は「赤褐色で1mmほどの砂粒が多い」ことを挙げ、当時福岡県内における四遺跡(①太宰府市太宰府条坊跡②筑紫野市西小田地区遺跡③福岡市博多第4次調査④同第45次調査)の出土例から、12世紀前半の年代を与えている。今回泉屋遺跡から出土した破片資料には、無頸の口縁部(4001・4012)、底部付近(4006)、体部(4007・4008ほか)があり、いずれも釉薬や胎土の状態等、観音寺5号経塚の外容器と同様のものと思われる。産地については、中国南部~東南アジアのいずれかの地域との鑑定を得ているが、観音寺経塚の報告では廃地には触れていない。

(4) 中世(13世紀後半~16世紀前半)

この時期にあたる出土遺物はかなり少なくなる。国産陶器に常滑7型式(14世紀第1四半期~第2四半期)の鉢2点(3328・3329)、東北地方在地産(13世紀後半~14世紀初頭)の選類が3点(3379~3381)あるほか、瀬戸・美濃産藁灰釉(16世紀前半)の陶器皿(6078)、朝鮮産陶器壷(4017)、中国産磁器皿(6017)、板碑(7118)、北宋銭(7252・7253)がこれに属すると思われる遺物である。これまでの泉屋遺跡の調査成果から、当該期の遺物が多く出土する地域は16次調査区を含むそれより西側の地域である。

(5) 近世以降(16世紀末~19世紀末)

多くの陶磁器が出土している。産地は、肥前産、瀬戸産、瀬戸・美濃産、大堀・相馬産、切込産、東北地方在地産で、器種には碗・皿・壺・翌・香炉・徳利・火入れ・擂鉢・急須などがある。これらの時期は、大橋編年 II 期から V 期、概ね16世紀後半~19世紀末である。木製品には井戸から出土した漆器椀(7302)、下駄(7306・7307)、トイレ状遺構から出土したちゅう木(樹種鑑定した10点あまり)が、金属製品では刀(7246・7247)、火打ち金具(7248・7249)、煙管(7250・7251)、寛永通寳(7254~7258)がある。石製品には挽き臼(7116・7117)があり、いずれも柱の礎盤として再利用されていたものである。なお、現代ものではあったが、「福嶋」と銘のある汽車茶瓶(6077)も掲載した。

おわりに

今回この報告書をまとめるにあたっては、面倒な遺構、特殊な遺物に対する筆者の知識不足・認識の誤りなど様々な問題を抱えてはいたが、何とかここまで来たというのが正直なところである。ほとんど事実のみしか示せなかった本書ではあるが、今後の平泉研究の一助となれば幸いである。

努力を怠った筆者に不足する部分を、多くの方々に補っていただいたことに深く感謝いたします。

<引用・参考文献>

赤羽一郎ほか 1968 『常滑渥美』日本陶磁全集8 中央公論社

赤羽一郎 1982 『常滑焼』 ニューサイエンス社

岩手県教育委員会 2000 「柳之御所遺跡-第50次発掘調査概報-」岩手県文化財調査報告非第107集

岩手県教育委員会 2001 「柳之御所遺跡-第52次発掘調査概報-」岩手県文化財調査報告書第111集

岩手県教育委員会 2002 「柳之御所遺跡-第55次発掘調査概報-」岩手県文化財調査報告曹第113集

大橋康二 1989 『肥前陶磁』 ニューサイエンス社

金子昭彦 1991 a 「大洞 B 2 式の磨消和文について(上)-東北地方北部を中心として-」『紀要』 X I (財)岩文振埋文セン

金子昭彦 1992 b 「大洞 B 2 式の磨消縄文について(中)-東北地方北部を中心として-」「紀要」 X II (財) 岩文振埋文センター

金子昭彦 1993 d「大河 B 2 式の磨消縄文について(下) - 東北地方北部を中心として - 」「紀要」 X III(財)岩文振埋文センター

金子昭彦 1993 c【新山権現社遺跡発掘調査報告書】岩文振第188集(財)岩文振埋文センター

金子昭彦 1994 e 「東北地方北半部における楓文時代後期中葉の土器」『紀要』 X N (財)岩文振埋文センター

小林圭一 1999 「東北地方 後期(縮付土器)」「縄文時代10」

酒井宗孝 1997 『上腐生遺跡発掘調査報告書』岩文振第 集(財)岩文振埋文センター

佐々木浩一 2001 「柱穴群から建物跡へー建物跡検出から遺構変遷までー」「掘立と竪穴 中世遺構論の課題」 東北中世考古 学選書 2 東北中世考古学会

佐藤嘉広 2000 「柳之御所遺跡の暦年代」「山形考古」第6巻第4号(通巻30号) 山形考古

鈴木克彦 2001 「岩手県の後期前葉土器の樋年-蒋内A・B式、川口2式-」「岩手考古学」第13号 岩手考古学会

須藤 隆 1992 「東北地方における晩期縄文土器の成立過程」「東北文化論のための先史学論集」加藤稔先生遺暦記念会

高田 勝ほか 2001 「荒井猫田遺跡(Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区)-第12・13次発掘調査報告-」郡山市教育委員会

高柳圭一 1988 a 「仙台湾周辺の縄文時代後期後業から晩期初頭にかけての籍年動向」 『古代』 85

鈴木克彦 2001 「岩手県の後期前発土器の穏年-蒋内A・B式、川口2式-」「岩手考古学」第13号 岩手考古学会

高柳圭一 1988 b 「宮城県金剛寺貝塚の再検討」『村上徹君追悼論文集』村上徹君追悼論文集楊集委員会

手塚 均ほか 1986 【田柄貝塚 I 】 宮城県教育委員会

中野晴久 1995 「Ⅲ. 土器 9. 中世陶器 〔2〕常滑・渥美」『概説 中世の土器・陶磁器』

日本考古学協会 2001 『都市・平泉-成立とその意味-』 2001年日本考古学協会盛岡大会研究発表資料集

羽柴直人 2000 『志羅山遺跡第46・66・74次発掘調査報告書』岩文振第312集(財)岩文振埋文センター

羽柴直人 2001 「平泉遺跡群のロクロかわらけについて」 【岩手考古学】 第13号 岩手考古学会

羽柴直人 2002 「平泉の道路と都市構造の変遷」『平泉の世界』奥羽史研究叢書 3 高志書院

松本建速 1998 「柳之御所跡出土かわらけ綴年武案」『紀要』 XⅢ (財) 岩文振埋文センター

八岭 與 2001 「柱状高台考」「中世土器研究論集-中世土器研究会20周年記念論集-」

八重樫忠郎 2000 「東日本における青磁の出現時期」「貿易陶磁研究」No.20 日本貿易陶磁研究会

八重樫忠郎 2002 「平泉藤原氏の支配領域」「平泉の世界」 奥羽史研究叢書 3 高志書院

第4節 自然科学的分析

泉屋遺跡第21次調査出土材の樹種

高橋利彦(木工舎「ゆい」)

1. 試料

試料は40点(No.1~40)で、平安時代から近・現代までのものとされている木製品・加工材である(表1参照)。試料の検出された遺構は5基の井戸(19SE2・3・7・8・9)、2基の土坑(19SK4・15)、旧河道とそこを横断する木柱列である。試料の中には、第19次調査で検出されたものも一部含まれている。

遺跡は太田川の左岸(北側)の氾濫原(標高19-22m)にあり、東側には鈴沢川が南流し太田川に注いでいる。調査区は遺跡の南東隅に位置している。

2. 方法

プレパラートの作製には、筆者が遺物から採取した材片を用いた。材片は少なくとも足かけ 2年分を含み、かつできるだけ少ない量となるよう調査担当者と協議しながら採取した。「ちゅう木」は一括して取り上げられていた数十本の中から10点を選び同定試料とした。形状の異なる 2 種類のものが認められたため、それぞれから 5 点ずつを筆者が選び出した。すなわち、横断面が扇状~三角形で最大厚が 1 cm前後もある大型のもの(以下 A型と仮称No. 20-24)と横断面がほぼ長方形で厚さも数mm程度の薄型のもの(以下 B型と仮称No. 25-29)である。剃刀の刃を用い、試料の木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)3 面の徒手切片を作製し、これをガムクロラールで封入したプレパラートを、生物顕微鏡で観察・同定した。一部試料は乾燥状態にあったため、湯煎によって吸水・軟化させてから切片を作製した。併せて各分類群 1 点の顕微鏡写真図版を作成した(図版 1~5)。作製したプレパラートはすべて木工舎「ゆい」に保管されている。

3. 結果

No.6は広葉樹の3年枝であったが、手元の試料の中には該当するものが見いだせず種類は特定できなかった。残りの試料は以下の13分類群(ここでは亜科・属・亜属・節・種の異なった階級の分類単位を総称している)に同定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、科名・学名・和名およびその配列は「日本の野生植物木本 I・II」(佐竹ほか1989) にしたがい、県内での自然分布については「岩手県植物誌」(岩手植物の会1970) を参照した。また、一般的性質などについては「木の事典第1-4・6-8・12巻」(平井1979-1981) も参考にした。

・マツ属複維管東亜属(Pinus subgen.Diploxylon sp.)マツ科No. 2,40

早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は広く、年輪界は明瞭。樹脂細胞はなく、 樹脂道が認められる。放射組織は仮道管と柔細胞、エビセリウム細胞よりなり、仮道管内壁に は顕著な鋸歯状の突出が認められる。分野壁孔は窓状。放射組織は単列、1-15細胞高のもの と樹脂道をもつ紡錘状のものがある。

複維管東亜属 (二葉松類) は国内に 3 種あるが、県内ではクロマツ (Pinus thunbergii) も沿岸部の一部に生育するものの、各地で普通にみられるのはアカマツ (P.demsoflpra) である。アカマツの材は重硬で、強度は大きく、保存性は中程度であるが耐水性に優れる。建築・土木・建具・器具・家具材など広い用途がある。

・スギ (Cryptomeria japonica) スギ科 No. 9,24,25,26,27,28

早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広く、年輪界は明瞭。樹脂細胞はほぼ晩材部に限って認められ、樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみよりなる。分野壁孔はスギ型(Taxodioid)で2-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

スギは本州・四国・九州に自生する常緑高木で、また各地で植裁・植林される。国内では、 現在植林而積第一位の重要樹種であり、長寿の木としても知られる。材は軽軟で割裂性は大き く、加工は容易、保存性は中程度である。建築・土木・樽桶類・舟材など各種の用途がある。

・ヒノキ属 (Chamaecypsris sp.) ヒノキ科 No.30,35

早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭く、年輪界は明瞭。樹脂細胞は晩材部に限って認められ、樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみよりなる。分野壁孔はヒノキ型(Cupressoid)で1-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

ヒノキ属にはヒノキ(Chamaecyparis obtusa)とサワラ(C.pisifera)の2種がある。サワラは県中部地方以南に稀に自生する。園芸品種も多く、県内には自生しないヒノキとともに植裁されているものも多い。材は軽軟で割裂性は大きく、加工も容易、強度的にはヒノキに劣るが耐水性が高いため、樽や桶にするほか各種の用途がある。

・アスナロ (Thujopsis dolabrata) ヒノキ科 No. 10, 29, 31

早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭く、年輪界は明瞭。樹脂細胞はあるが樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみよりなる。分野壁孔は小型でヒノキ型~スギ型で1-6個。放射組織は単列、1-15細胞高であるが5細胞高以下のものが多い。

アスナロは本州・四国・九州に自生する日本特産の常緑高木で時に植裁される。「岩手県植物誌」には、県内に自生するのは変種ヒノキアスナロ(ヒバ)(T.dolabrata var hondai)であるとされている。材はやや軽軟で保存性は高い。建築・土木・家具・器具材など各種の用途が知られている。

・ブナ属(Fagus sp.)ブナ科 No. 1,7

散孔材で、管孔はほぼ単独、横断面ではやや丸みを帯びた多角形、管壁厚は中庸~薄く、分布密度は高い。道管はほぼ単穿孔をもつが、晩材部では段(bar)数が10前後の階段穿孔をもつものもある。放射組織は同性~異性、単列・数細胞高のものから複合組織まである。柔組織は短接線状、散在状。年輪界は明瞭。

ブナ属にはブナ(Fagus crenata)とイヌブナ(F.japonica)の2種がある。ブナは北海道南西部(黒松内低地帯以南)・本州・四国・九州に分布し、県内各地に生育していた。イヌブナ

は本県以南の主として太平洋側に分布するが、「岩手県植物誌」には記載がない。

ブナは日本の冷温帯落葉樹林を代表する樹木である。材はやや重硬で、強度は大きいが加工はそれほど困難ではなく、耐朽性は低い。木地・器具・家具・薪炭材などの用途があったが、最近では各種の用途に用いられている。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (Quercus subgen. Quercus sect. Prinus sp.) ブナ科 No. 11, 12, 13, 16, 17, 18, 19

環孔材で孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は管壁は厚く、横断面では楕円形、小道管は管壁は中庸~薄く、横断面では多角形、ともに単独で配列する。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合組織がある。

柔組織は短接線状、周囲状。年輪界は明瞭。

コナラ節は、コナラ亜属(落葉ナラ類)の中で果実(ドングリ)が開花の年に熟すグループで、カシワ(Quercus dentata)、ミズナラ(Q.crispula)、コナラ(Q.serrata)、ナラガシワ(Q.aliena)といくつかの変・品種がある。平野部で普通にみられるコナラは樹高20mになる落葉高木で、古くから薪炭材として利用され、植裁されることも多かった。材は重硬で、加工は困難、器具・機械・樽材などの用途があり、薪炭材としてはクヌギに次ぐ優良材である。

・クリ (Castanea crenata) ブナ科 No. 5, 14, 15

環孔材で孔圏部は1~多列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では楕円形~円形、小道管は単独および2-3個が斜(放射)方向に複合、横断面では角張った楕円形~多角形、管壁はともに薄い。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状~網目状となる。放射組織は同性、単(-2)列、1-15細胞高。柔組織は周囲状、短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道南西部から九州の山野に自生し、また植裁される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、榾糟木などに用いられる。

・ケヤキ (Zelkova serrata) ニレ科 No. 3, 4, 32, 34, 37

環孔材で孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じ塊状に複合し接線〜斜方向の紋様をなす。大道管は管壁は厚く、横断面では円形〜楕円形、単独。小道管は管壁は中庸〜薄く、横断面では多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-10細胞幅、1-60細胞高で、しばしば結晶を含む。柔組織は周囲状。年輪界は明瞭。

ケヤキは本州・四国・九州の谷沿いの肥沃地などに自生し、また屋敷林や並木として植裁される落葉高木で、時に樹高50mにもなる。材はやや重硬で、強度は大きいが、加工は困難でなく、耐朽性が高く、木理が美しい。建築・造作・器具・家具・機械・彫刻・薪炭材など各種の用途に用いられ、国産広葉樹材の中で最良のものの一つにあげられる。

・モクレン属 (Mognolia sp.) モクレン科 No.33,36

散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った楕円形〜多角形、単独および2-4個が放射方向に複合する。道管は単穿孔をもち、壁孔は階段状〜対列状に配列、放射組織との間では網目状〜階段状となる。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-40細胞高。柔組織はターミナル状。年輪界は明瞭。

モクレン属はホオノキ(Mognolia obovata)・コブシ(M.praecocissima)など6種が自生する。県内には3種あり、ホオノキが全域に、コブシ [「岩手県植物誌」では変種キタコブシ(M.praecocissima var. bolealis)とされる]が北・中部に、タムシバ(M.salicifolia)が奥羽山系や宮古周辺などに自生する。ホオノキの材は軽軟で、割裂性が大きく、加工はきわめて容易で欠点が少ないことから、器具・建築・家具・建具材などのほか、指物・木地・下駄歯・刃物鞘など特殊な用途も知られている。

・エゴノキ属 (Styrax sp.) エゴノキ科 No.38

散孔材で管壁は薄く、横断面では楕円形、2-4個が複合または単独で配列、年輪界付近で管径を減少させる。道管は階段穿孔をもち、段数は5前後, 壁孔は小型で密に交互〜対列状に配列する。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。柔組織は短接線状、散在状。年輪界は不明瞭。

エゴノキ属は3種あるが、県内にはエゴノキ(Styrax japonica)とハクウンボク(S.obassia)が自生する。山地や丘陵地に普通な落葉高木~低木である。材はやや重硬で割裂しにくく、加工はやや容易、旋作・器具・薪炭材などに用いられる。

・サワフタギ (Symplocos chinensis var.leucocarpa forma pilosa) ハイノキ科 No. 20, 21, 22, 23

散孔材で管壁は薄く、単独および2-3個が複合する。道管は階段穿孔をもち、段は多数。 放射組織は異性、1-2(3)細胞幅、1-20細胞高で単列翼端部が目立つ。柔組織は散在 状。年輪界は不明瞭。試料はいずれも乾燥による収縮・変形と劣化が著しい。

ハイノキ属は国内に20種ほどあるが、県内にはサワフタギのみが自生する。サワフタギは北海道から九州の山野に普通な小高木で、材は重硬・強靭で割裂しにくく、各種工具の柄や、旋作・器具・薪炭材などに用いられる。

・トネリコ属(Fraxinus sp.)モクセイ科 No.39

環孔材で孔圏部は3-4列、孔圏外で急に管径を減少させたのち漸減する。管壁は厚く、横断面では楕円形〜円形、単独または2個が複合、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔をもち、壁孔は小型で密に交互状に配列、放射組織との間では網目状〜篩状となる。放射組織はほぼ同性、1-3(5)細胞幅、1-20(40)細胞高。柔組織は周囲状、ターミナル状。年輪界は明瞭。

トネリコ属には9種あるが、県内にはヤチダモ (F.mandshurica var.japonica)・ケアオダモ (F.langinosa)・マルバアオダモ (F.sieboldiana) など6種ほどが自生する。いずれも落葉高木で、材質は種によって異なるが、一般には中庸~やや重硬で、靭性があり、加工は容易で、建

築・器具・家具・旋作・薪炭材などに用いられる。

イネ科タケ亜科(Gramineae subfamily Banbusoideae sp.)No.8 ・

中空の桿の基本組織の中に維管束が散在する不斉中心柱をもつ。

タケ亜科(タケ・ササ類)には多数の種が含まれるが、解剖学的特徴のみでは区別できない。

以上の同定結果を検出遺構や推定されている用途などともに一覧表で示す (表1)。

4. 考察

同定対象となった試料は、用途ごとに使われている樹種が限られている例が多いようである (表2)。この点には、その推定されている所属年代が大きく異なっていたり、試料数が限られていることも寄与しているようである。

「ちゅう木」は12世紀以降のものとされているが、A型としたものはサワフタギ4点、スギ1点であったのに対して、B型はスギ4点、アスナロ1点と、その形状によって用材に明らかな違いが認められた。「ちゅう木」にはおそらく他の用途に用いられていた材料が転用された、すなわち木材の二次・三次利用があった(高橋2000 a)と考えているが、割裂性に優れた針葉樹のスギやアスナロではかなりの薄さまで小割ができたものと思う。

これに対して、サワフタギは広葉樹の中でも割りにくい樹種ではあるが、そうした材でも放射方向だけには他方向より割りやすいことから試料のような形状(扇状~三角形)になってしまったものと推察する。なお、スギ・アスナロ製の「ちゅう木」は、町内の柳之御所跡(能城1995)や志羅山遺跡第74次調査(高橋2000 a)でも12世紀のものとされる遺構から検出されている。柳之御所跡試料ではスギ(121点)が総数の85%強を占め、アスナロはネズコとともに9点と少ない(クリ1点もある)のに対し、志羅山遺跡74次調査試料ではアスナロ(21点)とスギ(9点)の数が逆転している。この点は小割りする前の(板)材の大きさが反映されたもの(高橋2000 a)ではないかと思う。

杭は旧河道に桟橋状に2列に打ち込まれていたもので12世紀以降のものとされるが、対象となった9点はコナラ節(7点)とクリ(2点)が用いられていた。ともに強度や耐朽性が期待できる樹種であることから、そうした材質から選択されたものと思う。ただ、対象外とされた杭材が30本以上残されていることから「桟橋」の杭材が、こうした重硬材のみで構築されていたのか否かはわからない。

漆器は5点が対象となったが、器種と時代によってその用材に違いも認められた。椀は近・現代および近・現代?とされる2点がともにブナ属に、12世紀?とされる1点はケヤキに同定された。皿はともに12世紀のものとされるが、複維管東亜属とケヤキに同定された。泉屋遺跡第15次調査検出の近世とされるSE9と近世〜近代とされるSE16の2基の井戸跡から出土した各1点(高橋1997)と、志羅山遺跡第25次調査検出の近世〜近代とされるSE1井戸跡出土の4点(高橋1995a)の漆塗椀はいずれもブナ属に同定されている。

一方、柳之御所跡試料ではケヤキに比してブナ属の例が少ない(能城1995, 髙橋1995b)ことから、「東北地方の他の遺跡とくらべ、ケヤキが圧倒的で、トチノキとブナ属が無いかわずかである」点に柳之御所跡試料の特徴がある(能城1995)ともされている。今回の試料もこうし

表 1 泉屋遺跡第21次調査出土材の樹種(19次調査試料を含む).

表 1 永度 試料番号	検出遺構・層位など	時代	用途	種名
1	19 S E 2 10層	近・現代	漆塗椀	ブナ属
2	19SE3 13層	12世紀	.,,	マツ属複維管東亜属
3	19SE3 13層	12世紀	漆塗皿	ケヤキ
4	19SE8 1-6層	近・現代	下駄台	ケヤキ
5	195 E 8 1-6層	近・現代	下駄差歯	クリ
6	19SE7 底	近・現代		広葉樹(散孔材) 3 年枝
7	19 S K 15	近・現代?	漆塗椀	ブナ属
8	19 S K 15	近・現代?	竹	イネ科タケ亜科
9	旧河道 十和田 a 直下	平安	曲物側板	スギ
10	19 S K 15	近·現代?	木片	アスナロ
11	木柱 7	12世紀以降	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
12	木柱10	12世紀以降	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
13	木柱16	12世紀以降	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
14	木柱19	12世紀以降	杭	クリ
15	木柱24	12世紀以降	杭	クリ
16	木柱29	12世紀以降	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
17	木柱38	12世紀以降	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
18	木柱A	12世紀以降	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
19	木柱B	12世紀以降	杭	コナラ属コナラ亜属コナラ節
20	19 S K 4	12世紀以降	ちゅう木	サワフタギ
21	19 S K 4	12世紀以降	ちゅう木	サワフタギ
22	19 S K 4	12世紀以降	ちゅう木	サワフタギ
23	19 S K 4	12世紀以降	ちゅう木	サワフタギ
24	19 S K 4	12世紀以降	ちゅう木	スギ
25	19 S K 4	12世紀以降	ちゅう木	スギ
26	19 S K 4	12世紀以降	ちゅう木	スギ
27	19 S K 4	12世紀以降	ちゅう木	スギ
28	19 S K 4	12世紀以降	ちゅう木	スギ
29	19 S K 4	12世紀以降	ちゅう木	アスナロ
30	旧河道 十和田a下	平安	曲物底板	ヒノキ属
31	旧河道 十和田 a 直下	平安	曲物底板	アスナロ
32	旧河道 32層相当	12世紀?	漆塗椀	ケヤキ
33	旧河道 攪乱	平安?	板	モクレン属
34	旧河道 攪乱	不明	不明	ケヤキ
35	19SE 9	近世	曲物側板	ヒノキ属
36	旧河道 34/35層	12世紀?	板	モクレン属
37	旧河道 40層	平安	板	ケヤキ
38	旧河道 43層	平安	鍬	エゴノキ属
39	旧河道 十和田a下	平安	部材?	トネリコ属
40	19 S E 3 北半13層	12世紀	木片	マツ属複維管東亜属

た見解に当てはまる例となるのかもしれないが、試料数が限られていることから断定はできない。なお筆者の知る限りでは、複維管東亜属製の漆器の出土例は県内ではこれまでなく、全国的にもごく稀なようで(伊東ほか1987, 伊東1990)、手元の資料では石川県穴水町桜町遺跡の鎌倉時代(13世紀)とされる試料1例を知るのみである(山田1993による)。

曲物は平安時代のものとされる底板 2点(ヒノキ属・アスナロ)と側板 1点(スギ)、近世のものとされる側板 1点(ヒノキ属)が対象となったが、これまでに知られている例の大半と同じく、割裂性に富んだ針葉樹材が用いられていた。なお、アスナロ底板とスギ側板という異種材による組み合わせ(No.31とNo.9)があるが、同様の例は志羅山遺跡第66次調査試料の13世紀後半~14世紀前半とされるスギ底板とヒノキ属側板という組み合わせでも認められている(高橋2000 a)。

下駄は差歯下駄の台と歯で近・現代のものとされている。同一遺構から検出されているものの同一個体にはならないようである。台はケヤキ、歯はクリ製であった。両種とも下駄材としての用例が多い樹種であるが、県内での出土例ではこれまで、近世以降のケヤキ例は知られていなかった(高橋2000 b)。

鍬は平安時代のものとされるが、枝分かれの部分を巧みに利用した一木作りのもので、エゴノキ属製であった。割れにくく掛性のある材質を生かした用材といえよう。ただ、手元の資料では出土例の圧倒的多数をコナラ属(アカガシ亜属・コナラ節・クヌギ節)が占め、エゴノキ属は県内はもちろん、国内でも初出(かそれに近い)例となるようである(伊東ほか1987,伊東1990)。

No.6は、井戸埋めの儀式との関連らかウメではないかとされていたが、その解剖学的特徴はウメ(Prunus)には一致しなかった(*)。

表 2 泉屋遺跡第21次調査出土材の主な用途別樹種構成(19次調査 試料を含む). 所属時期は考慮していない.

分類群/用途	ちゅう木	杭	漆器	曲物	下駄	その他	合計
複維区第束亜属			1			1	2
スギ	5			1			6
ヒノキ属				2			2
アスナロ	1			1		1	3
ブナ属			2				2
コナラ節		7					7
クリ		2			1		3
ケヤキ			2		1	2	5
モクレン属						2	2
エゴノキ属						1	1
サワフタギ	4						4
トネリコ属						1	1
不明広葉樹						1	1
タケ亜属						1	1
合 計	10	9	5	4	2	10	40

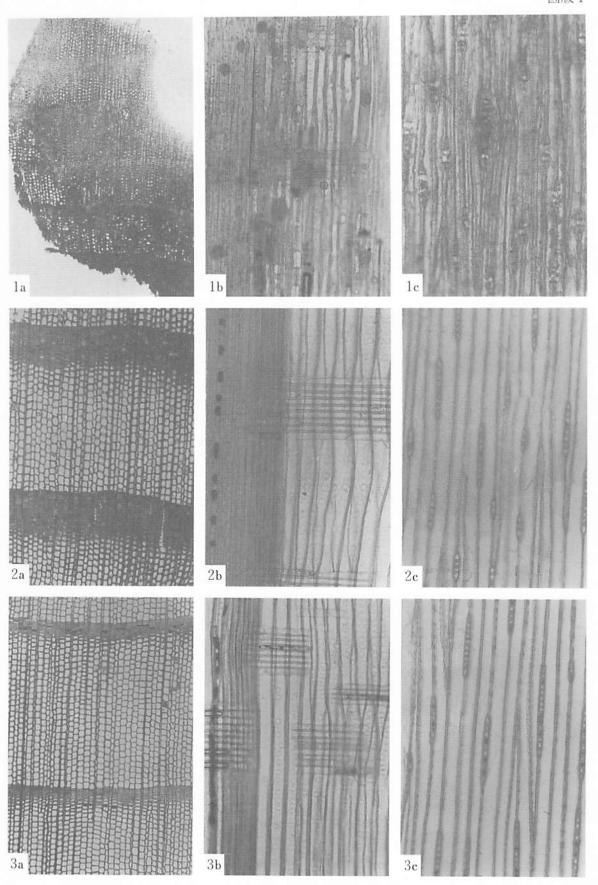
注) No.6は、道管が階段穿孔をもち、放射組織が異性で1-2細胞幅、単列翼端部と鞘状細胞をもつなどの特徴がある。

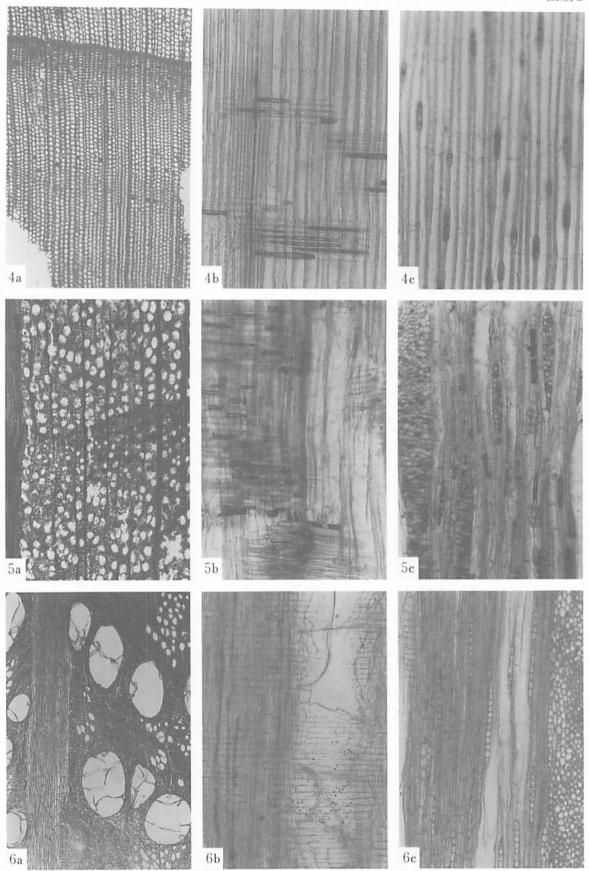
引用文献

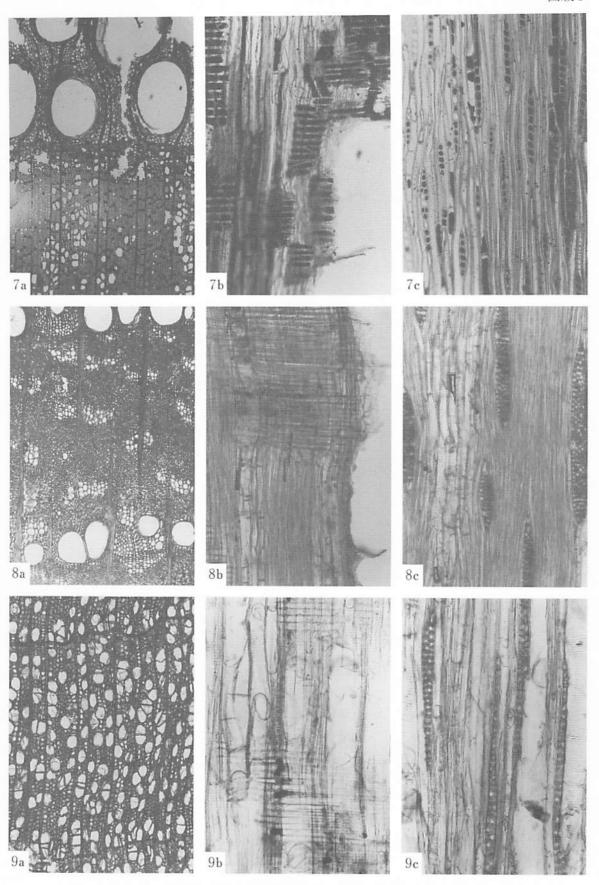
- 平井信二 1979-1981 「木の事典第1-4・6-8・12巻」, かなえ書房.
- 伊東隆夫・山口和穂・林 昭三・布谷知夫・島地謙1987日本の遺跡から出土した木材の樹種と その用途、木材研究・資料、第23号、42-210.
- 伊東隆夫 1990 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途Ⅱ,木材研究・資料,第26 号,91-189.
- 岩手植物の会 1970 「岩手県植物誌」,703pp.
- 能城修一 1995 柳之御所跡から出土した木製品の樹種,「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財 調査報告書第228集柳之御所跡一関遊水池・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・ 36・41次発掘調査 〈分冊 1 本文・図版〉」,(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,433-456.
- 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫(編) 1989 「日本の野生植物木本 I・Ⅱ」, 平凡社, 321・305pp.
- 高橋利彦 1995 a 柳之御所跡第23次・31次調査出土材の樹種,「岩手県文化振興事業団埋蔵 文化財調査報告書第228集柳之御所跡一関遊水池・平泉バイパス建設関連第21・23・28・ 31・36・41次発掘調査 《分冊 1 本文・図版》」,(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化 財センター,423-432.
- 高橋利彦 1995 b 平泉町志羅山遺跡25次調査出土材の樹種,「岩手県文化振興事業団埋蔵文 化財調査報告書第216集志羅山遺跡第14・25次発掘調査報告書一関遊水地事業関連遺 跡発掘調査」,(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,115-118.
- 高橋利彦 1997 平泉町泉屋遺跡第15次調査出土材の樹種,「岩手県文化振興事業団埋蔵文化 財調査報告書第247集泉屋遺跡第10・11・13・15次発掘調査報告書一関遊水池事業関 連遺跡発掘調査」,(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,40ト411.
- 高橋利彦 2000 a 志羅山遺跡第66次・第74次調査出土材の樹種,「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第312集志羅山遺跡第46・66・74次発掘調査報告書一関遊水池事業関連遺跡発掘調査」,(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,433一仙.
- 高橋利彦 2000 b 県内の遺跡から出土した木質遺物の樹種 I. 下駄, 「岩手考古学会第25回研究大会発表資料」(岩手考古学会編),33-35.
- 山田昌久 1993 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成一用材からみた人間・植物関係 史, 植生史研究, 特別第1号,1-242.

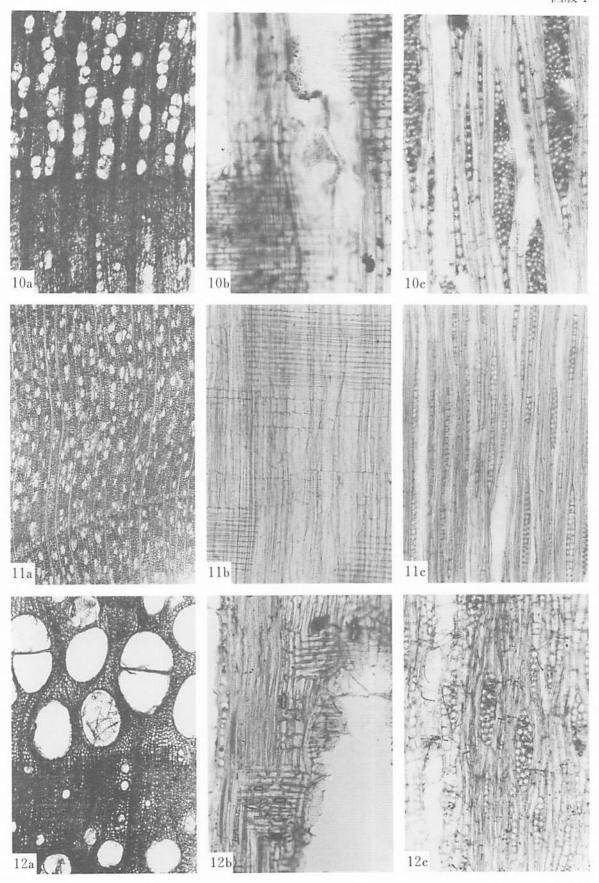
- 図版1 1. マツ属複維管東亚属 No.40
 - 2. スギ No.25
 - 3. ヒノキ属 No.30
- 図版 2 4. アスナロ No.10
 - 5. ブナ属 No.7
 - 6. コナラ属コナラ亜属コナラ節 No.12
- 図版 3 7. クリ No.15
 - 8. ケヤキ No.34
 - 9. モクレン属 No.36
- 図版 4 10. エゴノキ属 No.28
 - 11. サワフタギ No.21
 - 12. トネリコ属 No.39
- 図版 5 13. イネ科タケ亜科 No.8

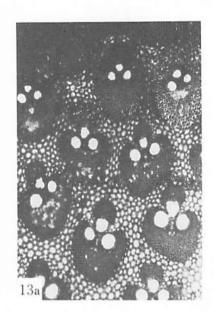
a:木口 x40 b:柾目 x100 c:板目 x100 樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上へ、柾目では左から右











泉屋遺跡出土ガラス玉の非破壊分析法による調査結果

岩手県立博物館 咲山まどか,赤沼英男

1 はじめに

平安時代に比定される泉屋遺跡19次・21次調査で確認された旧河道内の遺物包含層 (12世紀代か?)から、1点のガラス玉(小玉、半分欠損、淡緑色)が検出された。古代のガラス玉については研究者によると、6世紀ごろまでは主として背緑色のアルカリ石灰ガラスが多くみられ、7世紀末ごろからは国産の鉛ガラスの製造が行われている。その後一時衰退し、再びガラスが出現するのは11世紀の終わりから12世紀初頭であると推定されている1)~3)。ガラス玉1点についてエネルギー分散型蛍光X線分析装置 (EDS) により分析し、融剤と着色剤に関し検討したところ、鉛ガラスであり、着色剤としては鉄鉱物、銅鉱物を素材としていることが明らかとなった。以下では自然科学的調査によって得られた知見について述べる。

2 分析資料

分析した資料は泉屋遺跡から出土したガラス玉1点である。資料表面は全体に風化しており、ほぼ半分は 白色化し、紐通し様の小さなくぼみも見られる。資料の外観形状ならびに色を表1に、外観写真およびED SのX線照射位置をそれぞれ写真1、写真2に示す。

3 分析方法

蛍光X線分析法では試料にX線を照射し、試料を構成する原子から発生する蛍光X線(特殊X線)を測定するものである。非破壊で元素の定性が可能であり、試料採取が困難な文化財の分析に適している。

分析は以下の方法によった。分析対象としたガラス玉をアルコールで超音波洗浄した後、十分に自然乾燥した。資料の変色を抑制するため、EDSのX線照射範囲を0.1mm ø に絞込み分析を行った。 測定条件は以下のとおりである。

電圧30kV 電流0.3mA

4 分析結果ならびに考察

 N_0 1 (小玉・緑淡色)をEDSにより分析し、そのチャートを図1に示す。球面側の緑色部分と白色部分、裏側白色部分の3箇所を測定した。3箇所からはナトリウム (Na)のK α 線 (1.0KeV)、マグネシウム (Mg)のK α 線 (1.2KeV)、アルミニウム (Al)のK α 線 (1.5KeV)、珪素 (Si)のK α 線 (1.7KeV)、カリウム (K)のK α 線 (3.3KeV)、カルシウム (Ca)のK α 線 (3.7KeV)、マンガン (Mn)のK α 線 (5.9KeV)、鉄 (Fe)のK α 線 (6.7eV)、鍋 (Cu)のK α 線 (8.0eV)、鉛 (Pb)のL α 線 (10.6eV)が確認された。 X線照射位置および表面の色による顕著な違いは見られなかった。これらの半定量値が40%以上60%未満を「+++」、1%以上2%未満を「++」とし、結果を整理すると表2のとおりとなる。図1、表2に従えば、主原料にSi、融剤にはPbが使用されており、着色剤はFe鉱物、Cu鉱物と推定された。

ところでガラスは珪酸を主原料に、融剤にNa、Caなどのアルカリ元素を使用したアルカリ石灰ガラスと、 融剤にPbを使用した鉛ガラスに分類される。上記の分析結果からNo.1 ガラスはPbを融剤とする鉛ガラス (PbO-SiO2系)として扱うことができる。鉛ガラスは土中に長く埋没していると地下水と反応し、炭酸 鉛($PbCO_3$)および硫酸鉛($PbSO_4$)を生成し、白色の風化物で被われるが、Nold 1 ガラスは、この特徴が顕著である。さらに着色剤としてFe、Cuを含み、緑淡色を呈している。

図2に肥塚により明らかにされた弥生時代から奈良時代のガラス組成の変遷を示す 4)。今回調査を行った資料No 1のガラスは(Pb 0 - SiO₂系)鉛ガラスで、遺物包含層の年代が12世紀代と考えられており、図2の直線Fの延長上にある。直線Fが示すように6世紀後半ころから(PbO-SiO₂系)鉛ガラスが流通し始め、7世紀末ごろには国産の(PbO-SiO₂系)鉛ガラスが製造され、装飾品として多量に流通していた。その後ガラス製造は衰退し、再びガラスが出現したのは11世紀の終わり頃から12世紀頃である(図2の直線G)。この時期には中国で10~11世紀頃発明された、融剤に鉛・カリウムを多く使用している($K_2O-PbO-SiO_2$ 系)鉛ガラスが製造されている。 5 0 今回の調査により、(PbO-SiO₂系)鉛ガラスの使用が平安時代まで延びることが推定された。今後更に分析数を増やし、破壊可能な資料についてはICP(誘導プラズマ発光分光光度計)による定量分析がなされることにより、その流通の過程が明らかになること、また、同位体分析により鉛同位対比から、鉛の起源が推定されることが期待される。

誰

- 1) 富沢威他『古代ガラスの化学』「化学の領域」43
- 2) 吉武素水「ガラスの製造」・ガラス・35~73
- 3) 小林行雄『続古代の技術』塙霄房、東京
- 4) 日本の美術37「ガラス」
- 5) 肥塚隆保「文化財論叢」966 国立奈良文化財研究所

表 1 資料一覧

資料Na		肉眼観察					
	遺物番号	色形	状態	_ 直径(mm)	内径(mm)	出土地	推定年代
1	I Y00210615	緑玉	半分	9.4	4.2	泉屋(平泉町)	平安(12C頃)

表2 資料1のEDSによる分析結果

	主原料		融 剤					着色剤		
資料Na	Si	Рb	Са	N a	Αl	K	M g	Mn	Fе	Cu
1	+++	+++	+	_	+	++	_	_	+	+

表の「+++」は40%以上60%未満、「++」は1%以上2%未満、「+」は1%未満の半定量値を、「-」は検出されずを表す。

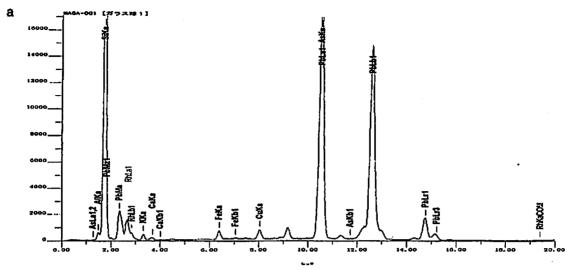


図1a 資料1の定性分析チャート (緑色部)

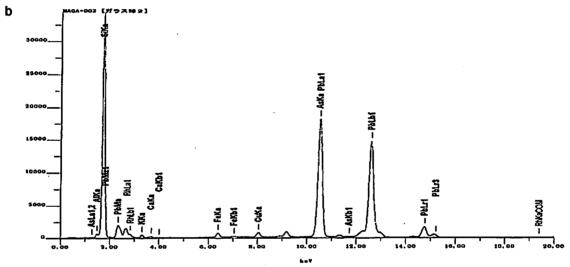
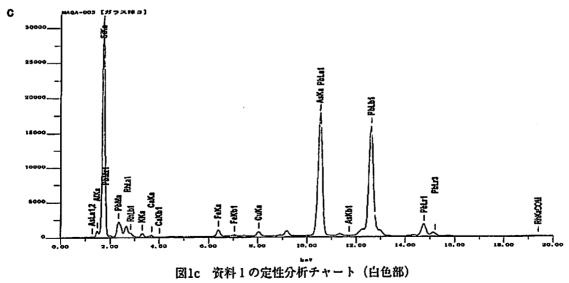
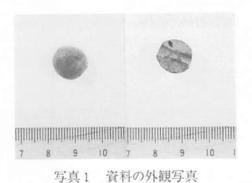
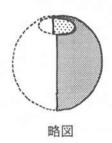


図1b 資料1の定性分析チャート (内側白色部)







a



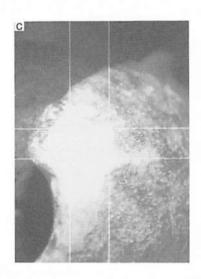


写真 2 EDSのX線照射位置

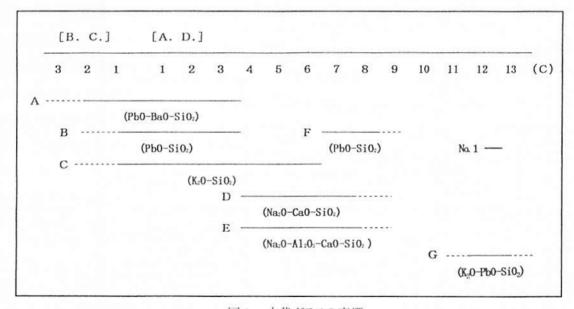


図2 古代ガラスの変遷

泉屋遺跡の火山灰分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

泉屋遺跡は、岩手県南部の平泉町に所在している。泉屋遺跡の発掘調査では、旧河道内に火山灰と推定される土層が認められた。今回の分析調査では、この土層が火山噴出物(いわゆるテフラ)に由来するものであるかを検証し、テフラであれば指標テフラとの対比を行う(テフラ分析)。また試料に火山ガラスが含まれている場合、より確実にテフラの対比を行うために、火山ガラスの屈折率を測定することとする。

これらの結果から、旧河道が埋積された年代に関する資料を得ることとする。

1. 試料

分析試料は、旧河道内に認められた灰白色の火山灰層より採取された火山灰サンプル1点である。 この火山灰層の上位および下位の土層から、土師器および須恵器が出土していることから、火山灰は 十和田 a テフラ (To- a ; 町田ほか,1981) に由来すると考えられており、またその堆積状況から 二次堆積物と推定されている。試料は、灰白色を呈する細砂質土である。

2. 分析方法

(1) テフラ分析

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象として観察し、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるY字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた繊維束状のものとする。

(2) 屈折率測定

テフラ分析用に洗い出された試料から細粒な砂分を採取し、この中に含まれる火山ガラスの屈折率 を測定する。屈折率測定には、温度変化型屈折率測定装置 "MAIOT"(古澤,1995)を用いて、火 山ガラス30片程度を目標として計測する。

3. 結果

試料中の粒子は、ほとんどが火山ガラスと軽石により構成されている。これら以外の粒子は非常に 少ないが、斜方輝石や長石等の鉱物粒が認められる。 火山ガラスは中量含まれ、無色透明の軽石型が最も多く、次いで無色透明のバブル型が多く認められる。軽石型の火山ガラスでは繊維束状のものが多く認められる。 軽石は多量に含まれており、透明がかった白色を呈し発泡がやや良好~やや不良であるものが認められる。

(2) 屈折率測定

屈折率測定結果を図1に示す。火山ガラスの屈折率は、 1.5046-1.5089である。屈折率が1.506付近にピークが あり、狭い範囲に集中して認められる。

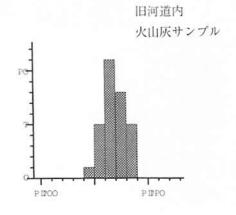


図1 火山ガラスの屈折率 横軸は屈折率、縦軸は測定個数を表す。

4. テフラの対比

今回認められた軽石と火山ガラスは、その形態と火山ガラスの屈折率、遺跡の地理的位置、町田ほか (1981) および町田・新井 (1992) 等の記載から、To-aに由来すると考えられる。To-aは A. D.915年に十和田カルデラより噴出したとされ、給源から南方の東北地方一帯に広く分布している (町田・新井,1992)。To-aに含まれる火山ガラスの屈折率は、町田ほか (1981) では1.499-1.508、町田・新井 (1992) では1.496-1.504と記載されている。

旧河道における堆積状況の詳細は不明であるが、試料採取時の所見では二次推積物と推定されている。この場合、旧河道内の火山灰層が堆積したのは、To-aが噴出したA. D.915年よりも後であると考えられる。

引用文献

古澤明(1995)火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別. 地質学雑誌, 101, P. 123-133.

町田洋・新井房夫〈1992〉「火山灰アトラス」、276 p., 東京大学出版会.

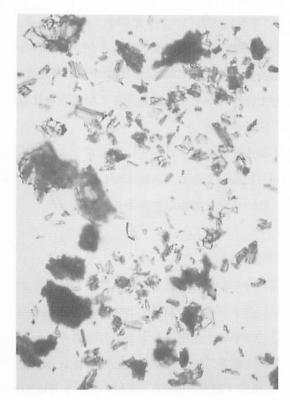
町田洋・新井房夫・森脇広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ. 科学,51, P.562-569.

図版 1 テフラ



1.To-aの軽石 (旧河道内火山灰サンプル)

1 mm



2.T o - a の火山ガラス (旧河道内火山灰サンプル)

0.5mm

番号	出土地点	層位	M	部位	備考	写真図版
1	トレンチー	5 c	ウマ	脛骨?		
2	トレンチ1	5 c	ウマ	上源遊離曲		写図145③
3	トレンチ1	5 c	ウマ	上類遊離的		
4	トレンチ1	5 c	ウマ	上顎遊離由		
5	トレンチ1	5 c	ウマ	上顎遊離歯		
6	トレンチ 1	5 c	ウマ	上類遊離術		
7	ШН7 ј	8 (To-a) if(.l:	シカ	右角座部~第1枝	落角でない	写図145②
- 8	II I 7 a	8 (To-a) 1.?	响乳類	间定できない		
9	NH3 i	5 c	ウマ	间定できない		
10	不明	不明	ウマ	同定できない		
11	NH1 i	5 a	同定不可			
12	19SD12 (NH 1 i)	検出面	同定不可		<u></u>	
13	19SD12 (WH1i)	検出面	回定不可			
14	NH3 i	4	同定不可			
15	NH3i	4	间定不可			
16	NH1 i	5 a	同定不可			
17	NH1 i	5 a	间定不可			
18	<u>III I O a</u>	9 b				
19	NH1 i	<u>5 a</u>	同定不可			ļ
20	шн9 і	<u>5</u> d	固定不可			ļ
21	NH1j	3 c	不明			
22	NH1 j	3 c	不明	骨歯		
23	NH3 i	5 a	回定不可			
24	шн7 і	5 d	回定不可			
25	шно ј	9 a	同定不可			
26	шној	9 a	同定不可			<u> </u>
27	NH2 i	<u>5 a</u>	回定不可			
28	NH3 i	5 a	同定不可			
29	MIO a	9 a	同定不可			
30	III O a	9 a	同定不可			
31	NH3 i	5 a	同定不可			
32 33	шној	9 a	回定不可			
34	NH 1 j NH 1 j	5 d	同定不可		<u> </u>	
35	IVH 1 j	3 c	ウマ?	歯		
36	NHI i	3 c	ウマ?		_	
37	NH1 j	3 c 3 c	ウマ? ウマ?			
38	NH1 j	6	ウマ			-
39	NH1 i	5 a	.,, 4	歯 (若い)		
40	19 S E 3	5 e	·r·00	=A2 HL fil		
41	IV H 3 i	5e	不明 (含) シカ	脊椎骨		-
42	19SD9 (IIH2j)	検出面	ウマ			
43	NH2 i	- 1900 m 5 a	一切マー	图:		
44	NH1 i	5 a	シカ	fíj	金属器による傷?	
45	NH3 i	4	シカ		жираг (- & O 16) (-
46	NH2 i	5 c	间定不可	F1/1		+
17	IV H 3 i	5 a	同定不可			+
48	NH1 i	4	间定不可			
49	NH1 i	不明	间定不可			
50	NH2 i	5 a	哺乳類	不明		
51	Г Н 8 а	īV	同定不可	1.71		
52	IV H 3 h	4				
53	шн8 і	5 d	ウマ	歯		写図145①
54	D H7i	5 d	ウマ	歯?	_	7 2 4 400
55		不明	ウマ	不明		
	NH3 j	11.771			Fit to the till of	+
56	NH3 j MH8 i		ウマ	MITT !	1	
		5 d 6	ウマ ウマ	頭骨 上顎遊離南	同じ頭骨? 整地層最下部	万凤1456
56	ШН8 і ШН0 ј 19SD12 (VH1 j)	5 d 6	ウマ	上顎遊離南	町し頭骨? 整地層最下部	万凤145⑥
56 57	ШН8 і ШН0 ј 19SD12 (МН1 ј) 19SD12 (ШН0 ј)	5 d		上顎遊離削 由?		
56 57 58 59 60	ШН8 і ШН0 ј 19SD12 (VH1 ј) 19SD12 (ШН0 ј) ШН0 ј	5d 6 埋土上部 埋土上部 9b	ウマ ウマ?	上顎遊離削		写図145④
56 57 58 59	ШН8 і ШН0 ј 19SD12 (МН1 ј) 19SD12 (ШН0 ј)	5d 6 埋土上部 埋土上部	ウマ ウマ? ウマ?	上顎遊離削 由?		

※本表は鑑定結果を基に濱田が作成した

平泉町泉屋遺跡から産出した植物遺体群

辻 誠一郎·辻 圭子 (国立歴史民俗博物館)

はじめに

平泉町泉屋遺跡の第21次調査終盤の2000年10月25日、主として平安時代の遺構・遺物を包含する地層の層序および十和田火山を給源とする十和田 a テフラの産状を観察する機会が与えられた。その際、大型の植物遺体群が発掘調査の際に現地で採取されていることを知り、その中に球形のヒョウタンの果実も含まれていることを知った。古代の人と植物の関係を知るのに貴重な資料となると考え、これらの植物遺体群を検討させていただくことにした。

植物遺体群は二つのグループに分けられる。一つは、発掘調査の際に各層位から直接採取された植物遺体群である。これらはモモの核やオニグルミの核など比較的大型の目につきやすいものばかりである。他は水洗選別(フローティング処理)によって得られた植物遺体群で、主に19SK4遺構(便所遺構とされる)のIV層とV層からのものである。処理に用いられた堆積物の量などは不明であるが、栽培植物の種実が多数含まれているので、種類・組成を記載しておきたい。

各層位から採取された植物遺体群

植物遺体群が採取されたのは、最下位では49層、最上位では27層であった。おおむね十 和田 a テフラの下位の40層および上位の37・36層から集中的にモモ核やオニグルミ核が採取された。時期は9世紀から12世紀におよび、十和田 a テフラは10世紀初頭と考えられているので、植物遺体群の大半は10世紀頃と考えることができる。

最下位の49層からは、モモ核、燃焼によって炭化したモモ核(図版1-7)、ネズミ類の食害痕があるオニグルミ核(図版1-6)が産出した。炭化したモモ核は半分に破砕されており、燃焼の上に破砕という人為がかかわったものである。

41層からオニグルミ核、40層からモモ核、オニグルミ核(炭化、ネズミ類の食害痕含む)、トチノキ果皮、37層~34層からモモ核(36層からは仁も)、オニグルミ核、トチノキ果皮、32・31層からモモ核のみ、27層から炭化したモモ核のみが産出した。とくに十和田 a テフラ直下の40層および直上の37層からはモモ核とオニグルミ核を主体としたたくさんの植物 遺体群が産出した(図版 1-4、5)。

40層前後(詳細な層位は不明)からはヒョウタンが単体で産出した。

以上のように現地で採取されたものは目につきやすい大型のモモ核、オニグルミ核、およびトチノキ果皮のみであった。これらのうちモモ核は人とのかかわりが認められ、とくに最下位の炭化した核は、祭祀の際に火に掛けられたものの可能性があるものである。オニグルミ核も頂部に打痕のあるものが見られ、人の利用が確認できる。それぞれ若干の形態記載を行っておきたい。

オニグルミ Juglans mandshurica Maxim. var. sachalinensis (Miyabe et Kudo) Kitamura (クルミ科):核(内果皮)が産出した。表面には粗い彫紋があり、側面観で見られる縫合線によってオニグルミと同定される。

ヒョウタン Lagenaria siceraria Stand. (ウリ科):果実が産出した。2000年10月25日に現

地で確認した際には、取り上げられた状態が観察され、ミカン状の球形をしていたが、その後乾燥保存されたため、果皮は縮小し、かつ球形の形状は破壊されてしまった(図版 1-1、2)。しかし、果実の断面に見られる細胞形態および細胞群の配列はヒョウタンの果皮のそれに一致し、ヒョウタン果実と同定できる(図版 1-3)。

モモ Prunus persica (Linn.) Batsch. (バラ科):核(内果皮)が産出した。現地で採取された試料のほとんどに含まれていた。計測した46個の核の長さは23~32mm、幅18~27mmで、大きさにかなりばらつきがある。核の表面には深い彫紋と孔点がある。縫合線は一方に顕著に見られ、他方ははっきりしたものになっていない。これらの特徴からモモの核と同定される。最下位の49層と十和田 a テフラ直下の40層からは燃焼して炭化したモモの核が産出した。

トチノキ Aesculus turbinata Blume (トチノキ科):種子が産出した。黒色の光沢のある部分と褐色の光沢のない部分とが認められることからトチノキの種皮と同定される。すべて現地で採取されたものである。

19 S K 4 遺構から産出した植物遺体群

19SK4 遺構は、平安時代の遺構が検出されるIV層で検出されており、平面では円形を呈し、深さ74cmの穴状の遺構で、形状およびちゅう木など出土遺物から便所遺構と考えられている。植物遺体群は、遺構を埋積する最下位のV層およびその直上のIV層から採取された堆積物を水洗して得られたものである。

V層とIV層の植物遺体群の組成は類似しており、共通して産出したものは、ウメ核、ヤマブドウ種子、サルナシ核、マツブサ種子、メロン種子、キイチゴ属核、ナス属種子、シソ属ーイヌコウジュ属分果、ヤマグワ種子、カナムグラ果実、キブシ種子であった。これらのうち、マツブサ種子、メロン種子、およびキイチゴ属核はV層からは多量に産出したのに対して、IV層からは少なかった。V層のみから産出したのは、カタバミ種子とグミ属果実のみであった。IV層のみから産出したのは、モモ核、イネ炭化胚、ガマズミ核のみであった。V層から多量に産出したメロンやキイチゴ属は果実が食用となるもので、その他も食用となる植物が多いことから、排泄物もしくは生ゴミに含まれた遺体群であると考えられる。ただ、マツブサ種子は、その産出がきわめて稀であり、一般には食用とはされないため、別の目的で使用されたものか、偶然この遺構内に混入した可能性がある。

水洗で得られたものは上記の同定できた種実類以外にも、木材片および燃焼して炭化した木炭片が含まれていた。これらの一部を観察したところ、木材片ではスギが、木炭片ではV層からカエデ属、IV層からエゴノキ属、コナラ亜属、クリが確認された。

同定できた種実類の若干の記載を行っておきたい。

イネ Oryza sativa L. (イネ科):炭化した胚が産出した。長さ $5.2\sim5.5$ mm、幅 $2.8\sim3.0$ mm、側面観は長楕円形、両背面はやや偏平の長楕円形で、 $2\sim3$ 本の浅い溝があり、背部が斜めに切れているためイネと同定される。

マツブサ Schisandra nigra Maxim. (マツブサ科):種子が産出した。側面観は径 $5\sim4$ mm腎形で、ヘソを中心に薄くなる。背面観は長方形である。種皮はコブ状の複雑な突起となり、密に分布する。黒褐色から褐色で光沢がないことからマツブサの種子と同定される (図版 2-5)。

ヤマグワ Morus bombycis Koidz. (クワ科):種子が産出した。長さ1.9mm、幅1.5mm、厚さ1.3mm程度の広三角形で、背面は少し角張り、腹部は稜をなす。ヘソの部分に爪状の突部が確認され、黄から茶灰褐色、光沢はなく、種子表面がでこほこしていることからヤマグワ種子と同定される。

カナムグラ Humulus japonicus Sieb. et Zucc. (クワ科):果実が産出した。長さ5.2mm、幅5.0mmで、ほぼ球形。ヘソの部分に白いハート型の隆起部があり、黒色、光沢があまりないことでカナムグラに同定される。

サルナシ Actinidia arguta (Sieb. et Zucc.) Planch. ex. Miq. (マタタビ科):核が産出した。大きさは $2.0 \sim 2.5 \, \text{mm}$ 、幅 $1.5 \sim 1.8 \, \text{mm}$ で狭倒卵形~長楕円形、偏卵形といろいろな形を呈し、側面はやや偏平な長方形で、赤褐色~黒褐色で光沢がある。種皮は幅のある稜により網目模様を呈する。稜の頂点が平らで、網目模様が結合して稜をつくっていることからサルナシに同定される(図版2-4)。

キブシ Stachyurus praecox Sieb. et Zucc. (キブシ科):種子が産出した。長さは1.8mm、幅1.3mm、厚さ1.5mm、丸みのある三角形で、背部はやや角張り、ヘソは斜めに稜をなす。 表面の細胞は均一、黄~淡褐色で光沢があることからキブシと同形される。

メロン Cucumis melo L. (ウリ科):種子が産出した。大きさはかなりばらつきがあり、長さ6.0~9.8mm、幅2.9~4.6mm、倒卵形で、中央がいくらか膨らみ、基部に行くにしたがって薄くなる。基部の一部が突出するものもあるが、種皮の細胞は縦軸に沿って縦長に並び、キュウリとは区別できる。藤下(1984)は現生のメロン種子の長さを計測し、6.0mm以下をA: ザッソウメロン型、B:6.1~8.0mmをシロウリ・マクワウリ型、C:8.1mm以上をモモルディカメロン型としている。19 S K 4 遺構の \mathbb{N} 層から産出したメロン種子の3型の割合は、A:1、B:68、C:31%であった。また、 \mathbb{N} を のものは、A:2、B:72、C:32%であった。これによれば、シロウリ・マクワウリタイプが多く、モモルディカメロンも相当量含まれることになる(図版2-1、2)。

カキノキ属 Diospyros (カキノキ科):種子が産出した。一部破損しているが、非対称 の楕円形で、薄く偏平、暗褐色を呈し、表面に不規則な大きい筋波状紋があることからカ キノキ属と同定される。

キイチゴ属 Rubus (バラ科):小核が産出した。側面観は横広三角形で、背面は長方形、腹面は直線もしくはヘソの部分が少し尖る。正中線上に稜がある。長さは $1.1\sim1.7$ mm、幅 $1.0\sim1.3$ mmで核の表面は先の尖った山形の稜で、網目模様を呈する。褐色で光沢がないことからキイチゴ属と同定される(図版 2-3)。

ウメ Prunus mume (Sieb.) Sieb. et Zucc. (バラ科):核が産出した。先の尖った卵形で、細かな孔点と稜紋があることからウメ核と同定される。

ヤマブドウ Vitis coignetiae Pulliat ex Planch. (ブドウ科):種子が産出した。大きさは3.0~5.0mm、幅2.0~3.0mmで広三角形、背面は広長方形、細長い二つの孔がある。もう一方の面には中央に円形の斉帯がある。暗茶~黒褐色を呈する。

グミ属 Elaeagnus (グミ科):果実が産出した。黒色で光沢がなく、広被針形で、基部は鈍く丸くなり、先端は鈍く尾状に尖る。表面に8本の隆起線をもつことからグミ属と同定される。

カタバミ Oxalis corniculata L. (カタバミ科):種子が産出した。大きさは1.3mm、幅1.0

mm、広楕円形、基部と先端は少し尖る。側面観では、縦に2~3本の稜線が走り、横方向には4~7列の肋骨状隆条が険しく並ぶ。黒色で光沢はない。

ナス属 Solanum (ナス科):種子が産出した。大きさは $1.2\sim1.5\,\mathrm{mm}$ 、 $3.3\sim3.5\,\mathrm{mm}$ と大きさがかなり異なる。側面観は腎形、背面観は平たい偏平で、腹面観はほぼ中央にヘソがある。ヘソの一方はくちばし状に尖る。褐色で光沢はなく、うすく透けたように見える。種皮表面はくちばし上部に収斂する。柱状の高いうねによって仕切られた網目が見られることからナス属と同定される(図版2-6)。

シソ属ーイヌコウジュ属 Perilla – Mosla (シソ科):分果が産出した。大きさは $1.5\sim2.0$ mmの縦長の偏円形で、表面には山形の稜による不規則な亀甲状の低い網目模様が見られる。網目をつくっている稜の先が尖っていて、重なり合っているいること、種皮の断面は厚く 3 層からできていること、基部の臍点が尖っていることからシソ属ーイヌコウジュ属と同定される(図版2-7)。

エゴマ Perilla frutescens (L.) Britton var. frutescens (シソ科):果実が産出した。大きさは2.0~2.5mm、側面観は楕円形で、基部が唇状に尖出し、表面はうね状の突起がなく多角形の網目模様を呈することからエゴマと同定される。

ガマズミ Vibumum dilatatum Thunb. (スイカズラ科):核が産出した。長さは4.6~4.8 mm、広楕円形で先が少し尖る。側面は薄い偏平で、背面と腹面に2本と3本の浅い溝をもつ。背面の正中線は隆起しているが、腹面はくぼんでいる。表面はでこぼこが多い。 灰茶、ガサガサしていて光沢がないことからガマズミと同定される。

引用文献

藤下典之(1984)出土遺体からみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法. 「古文化財に 関する保存科学と人文・自然科学-総括報告書. p.638-654.

写真図版の説明

図版1 泉屋遺跡から産出した現地取り上げの植物遺体群

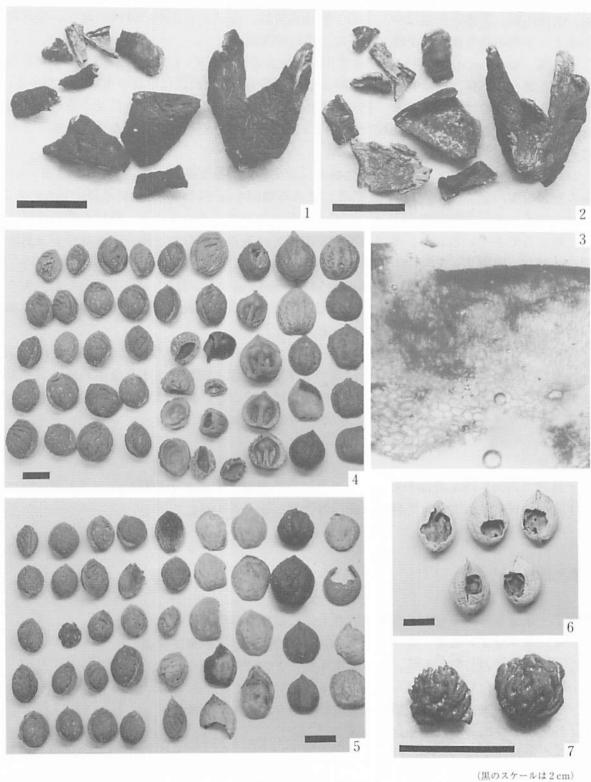
- 1、2. ヒョウタン果実 3. ヒョウタン果実の断面、上が果皮表面
- 4.37層から産出したモモ核、オニグルミ核、トチノキ種皮
- 5.40層から産出したモモ核とオニグルミ核
- 6.49層から産出したネズミ類の食害痕が認められるオニグルミ核
- 7.49層から産出した炭化したモモ核

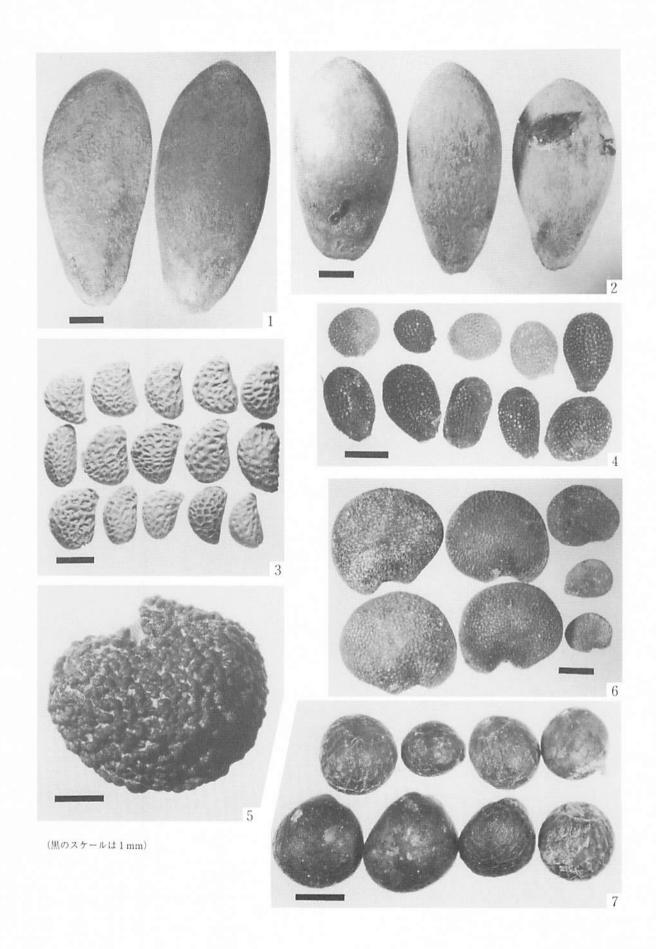
黒のスケールは2cm

図版2 泉屋遺跡の195 K 4 遺構から産出した植物遺体群

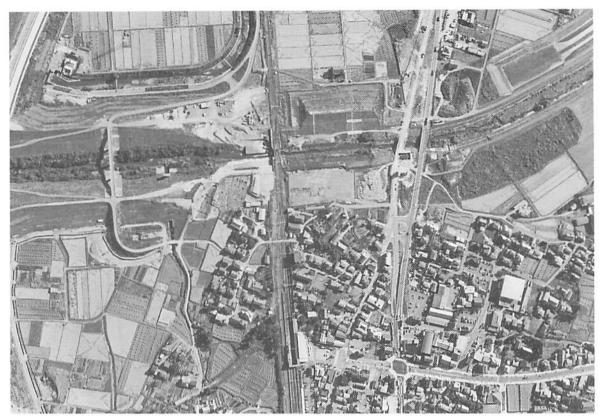
- 1、2. メロン種子 3. キイチゴ属小果 4. サルナシ核 5. マツブサ種子
- 6. ナス属種子 7. シソ属ーイヌコウジュ属分果

黒のスケールは 1 mm

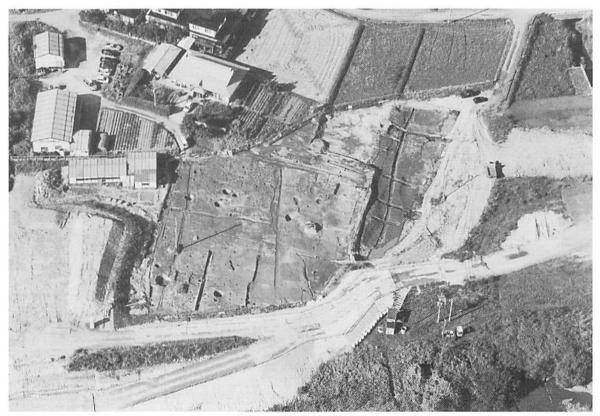




写 真 図 版



泉屋遺跡全景

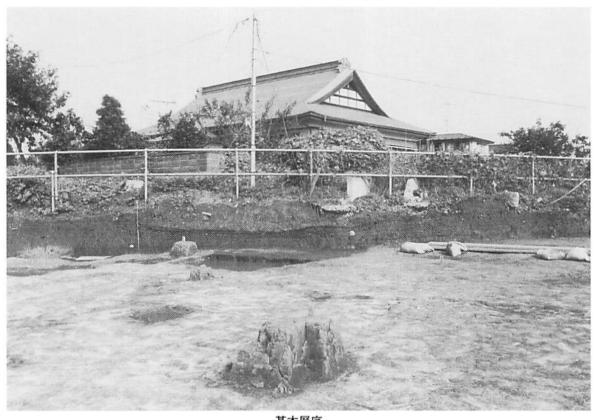


第19次調査 調査区全景

写真図版 1 空中写真



第19次調査 調査区近景 (南面→)



基本層序

写真図版 2 遺跡近景・基本層序



21 S B 10 完掘 (第19次調査)



21 S B 11・17 完掘 (第19次調査)





21 S B 7 完掘



21 S B 4 完掘

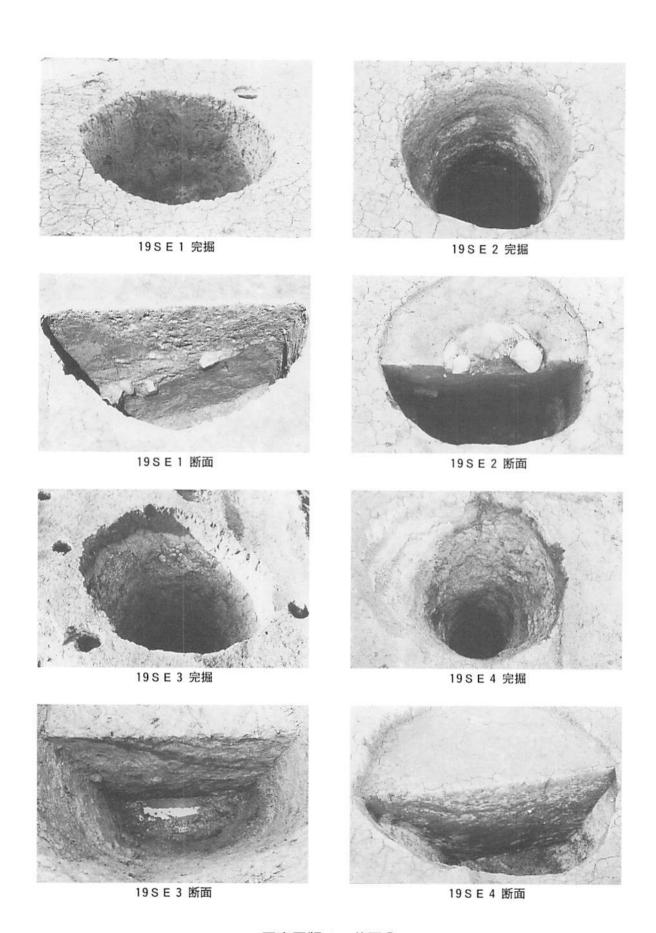


第21次調查 調查風景

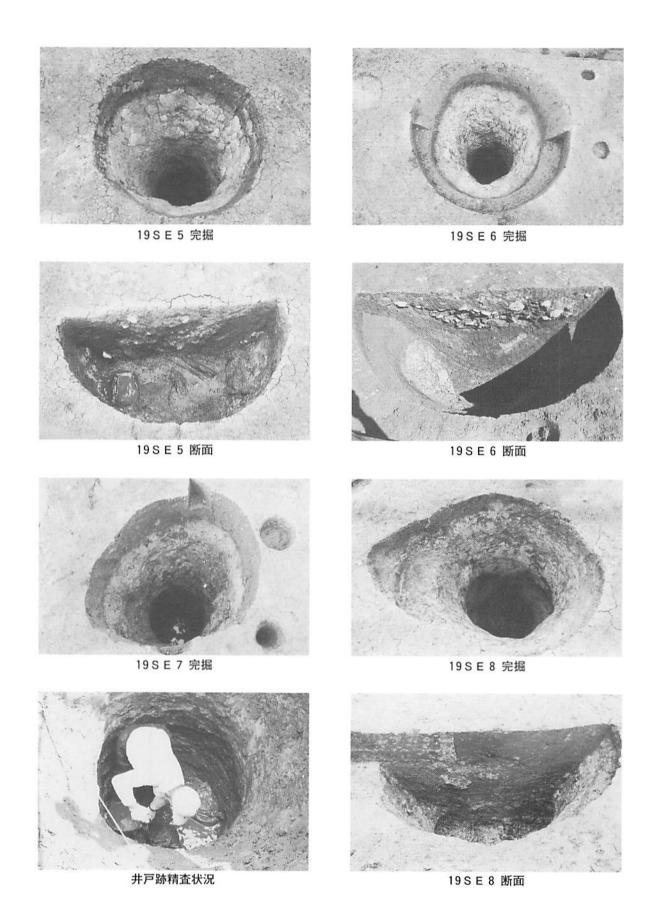


第19次調査 調査前の状況

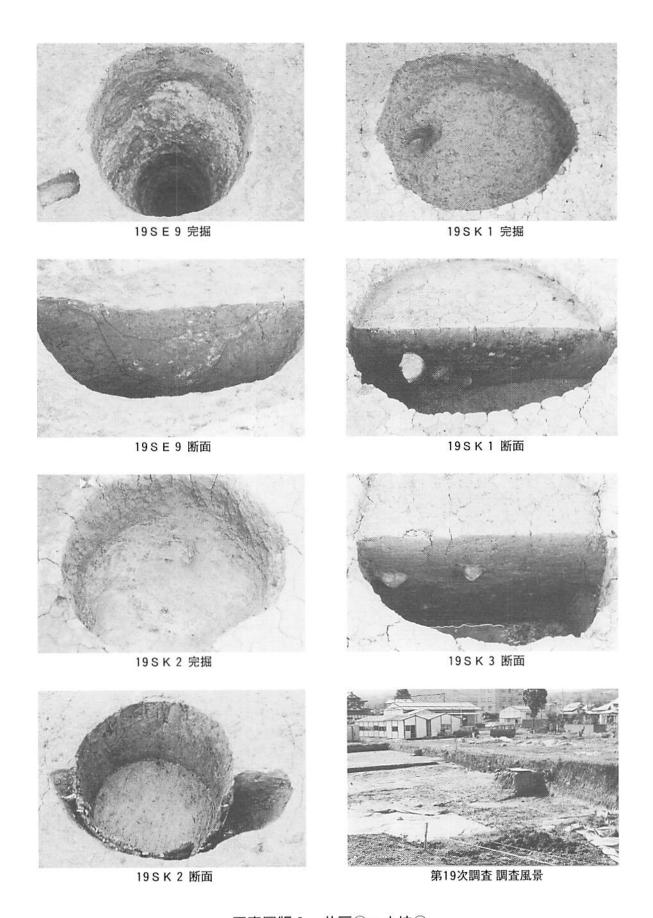
写真図版 3 掘立柱建物·調査風景



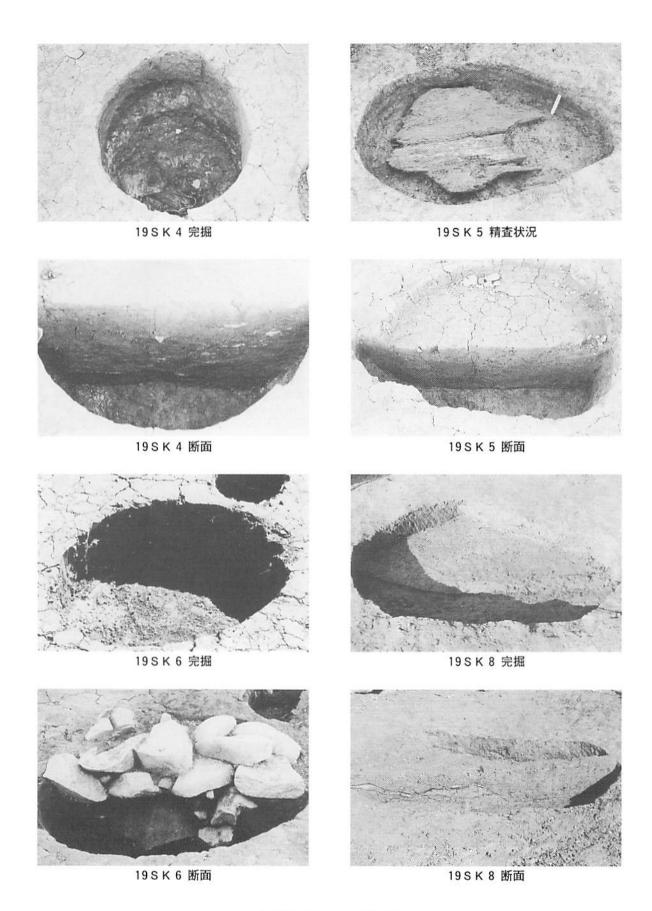
写真図版 4 井戸①



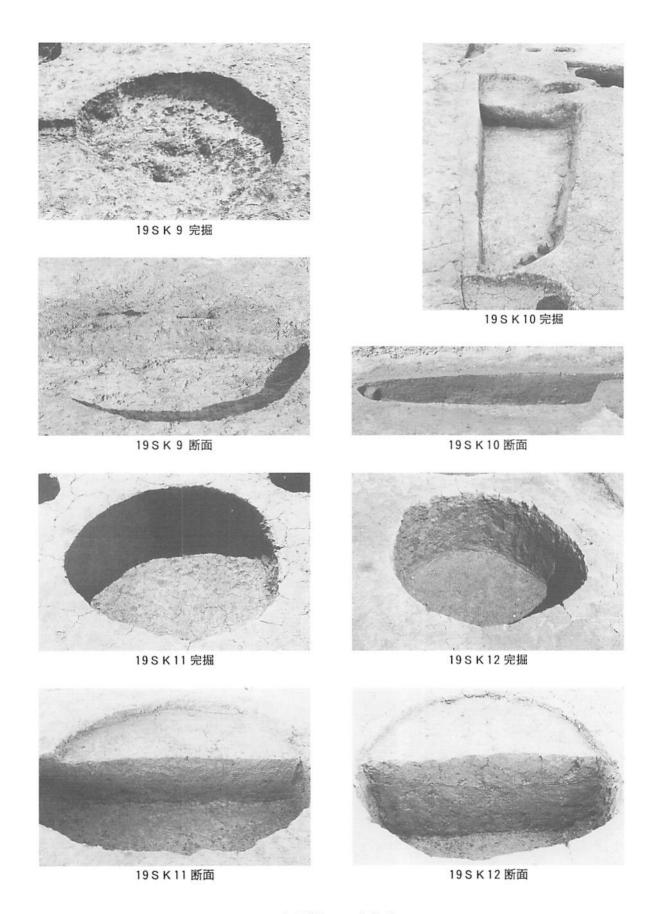
写真図版 5 井戸②



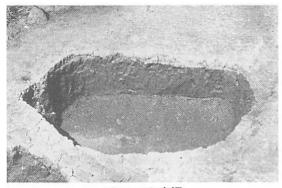
写真図版 6 井戸③・土坑①



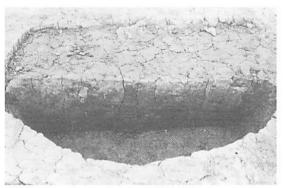
写真図版7 土坑②



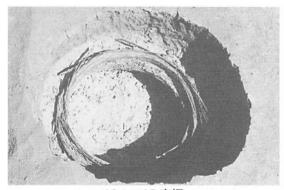
写真図版8 土坑③



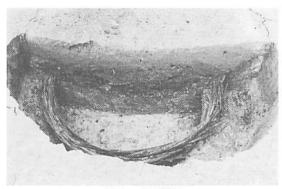
19 S K 13 完掘



19 S K 13 断面



19 S K 15 完掘



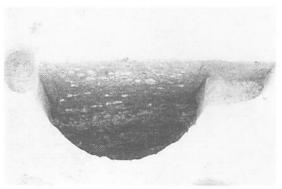
19 S K 15 断面



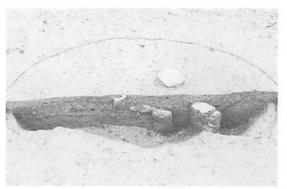
19 S K 14 完掘



19 S K 14 断面

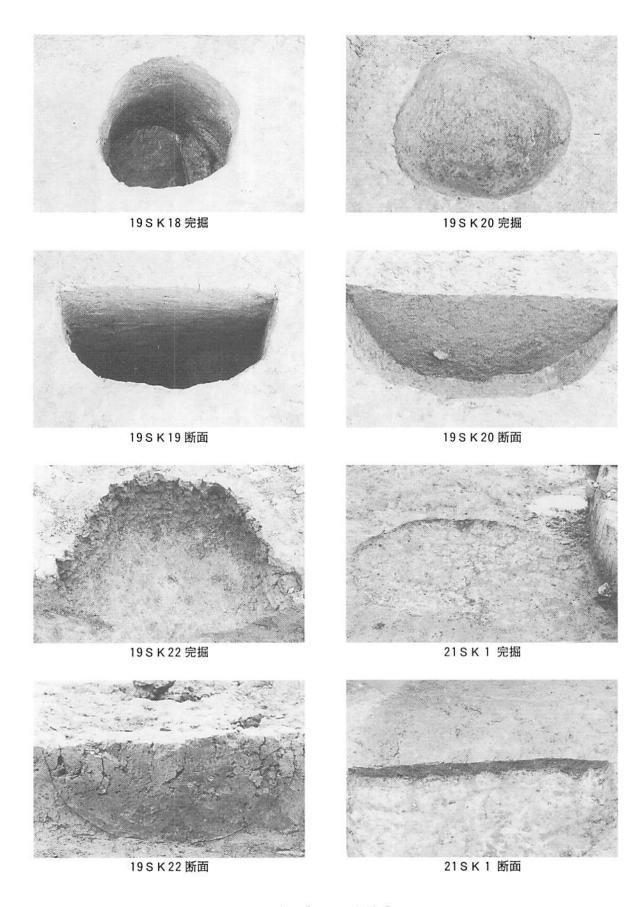


19 S K 16 断面

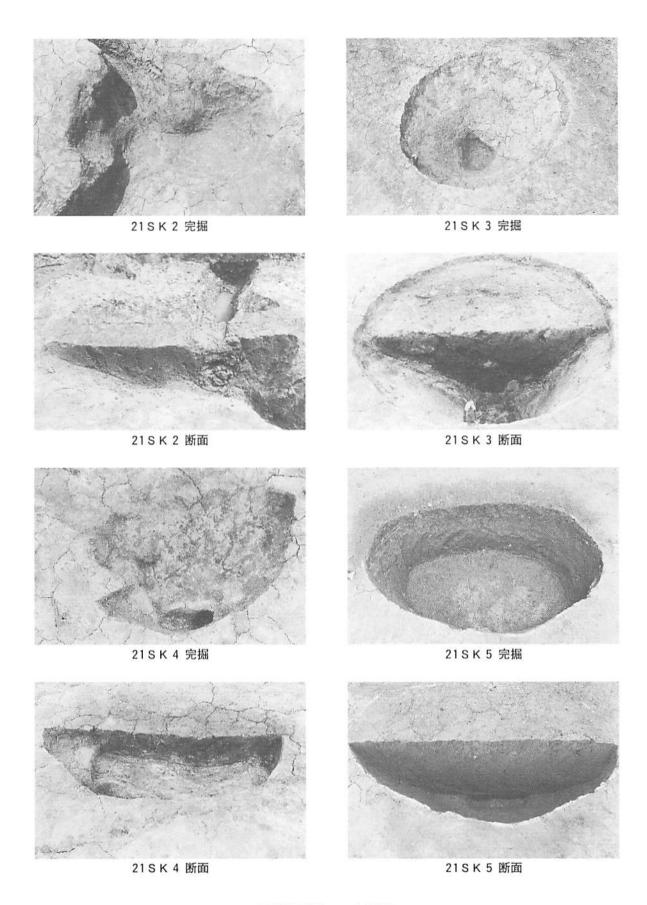


19 S K 17 断面

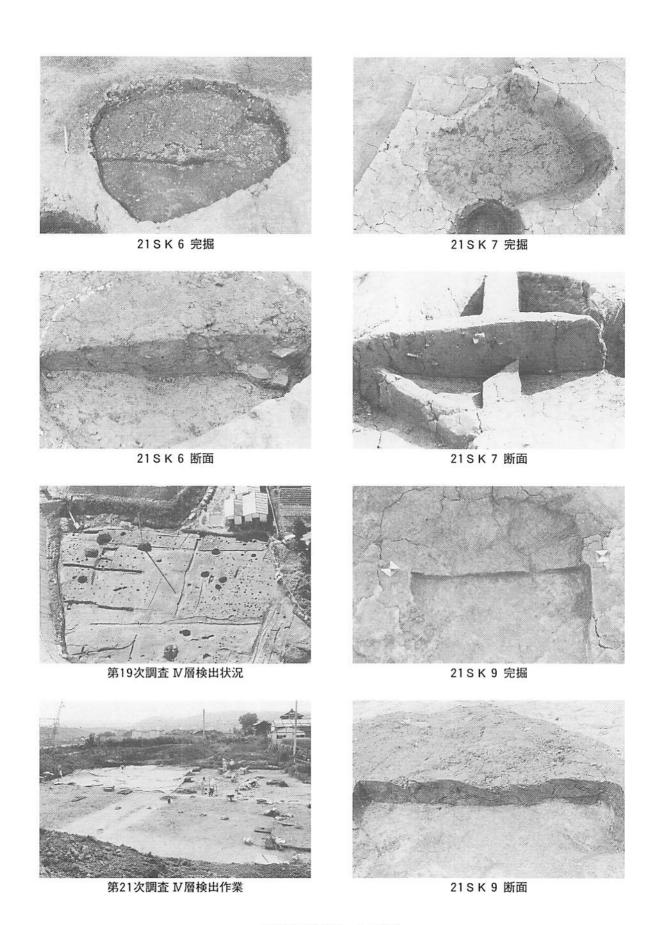
写真図版 9 土坑④



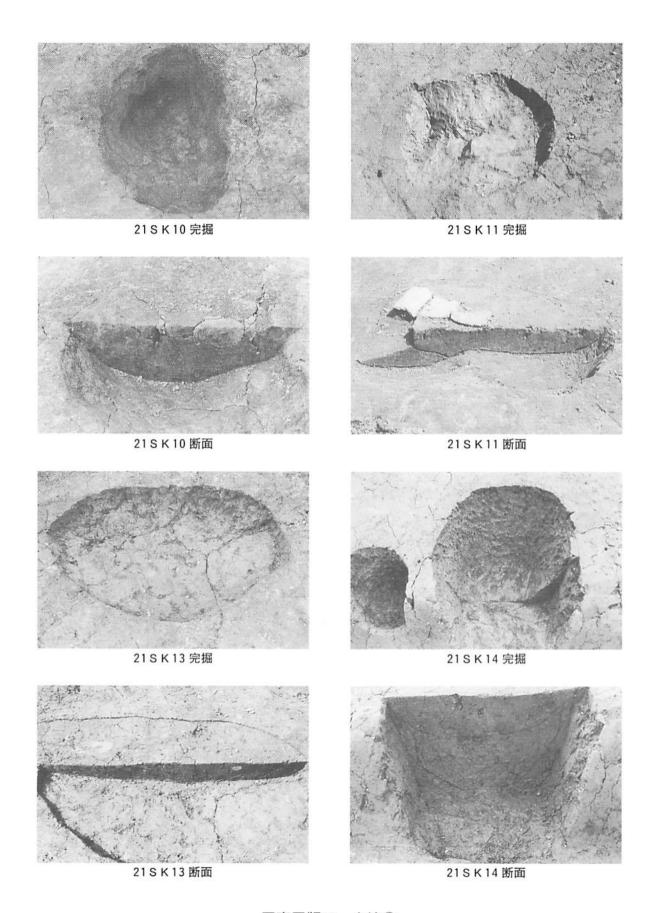
写真図版10 土坑⑤



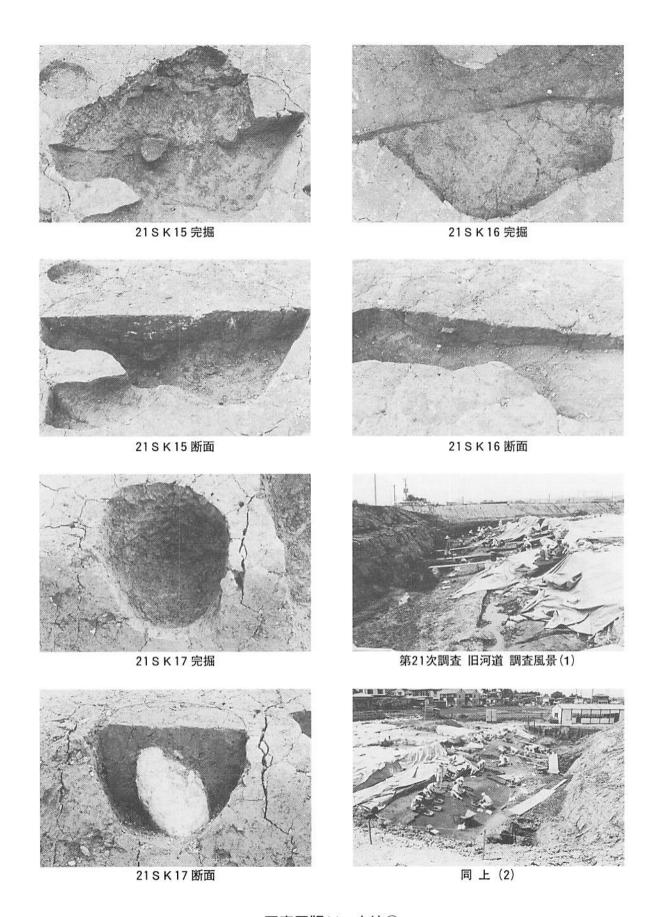
写真図版11 土坑⑥



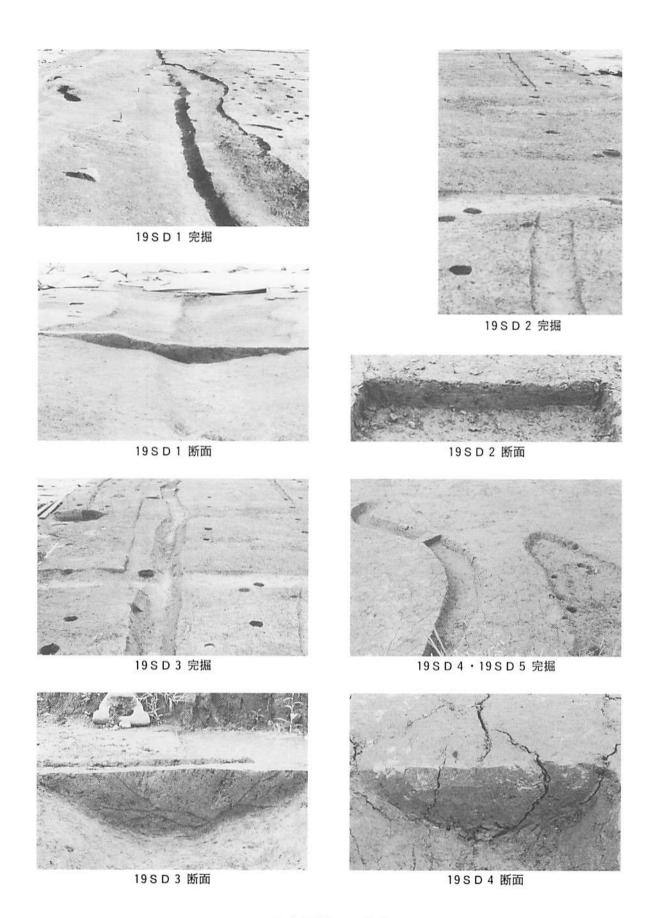
写真図版12 土坑⑦



写真図版13 土坑⑧



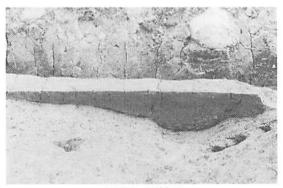
写真図版14 土坑⑨



写真図版15 溝①



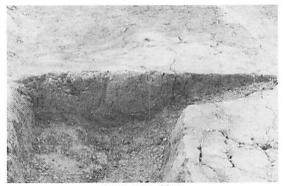
19SD6 完掘



19SD6 断面



19SD8 完掘



19SD8 断面



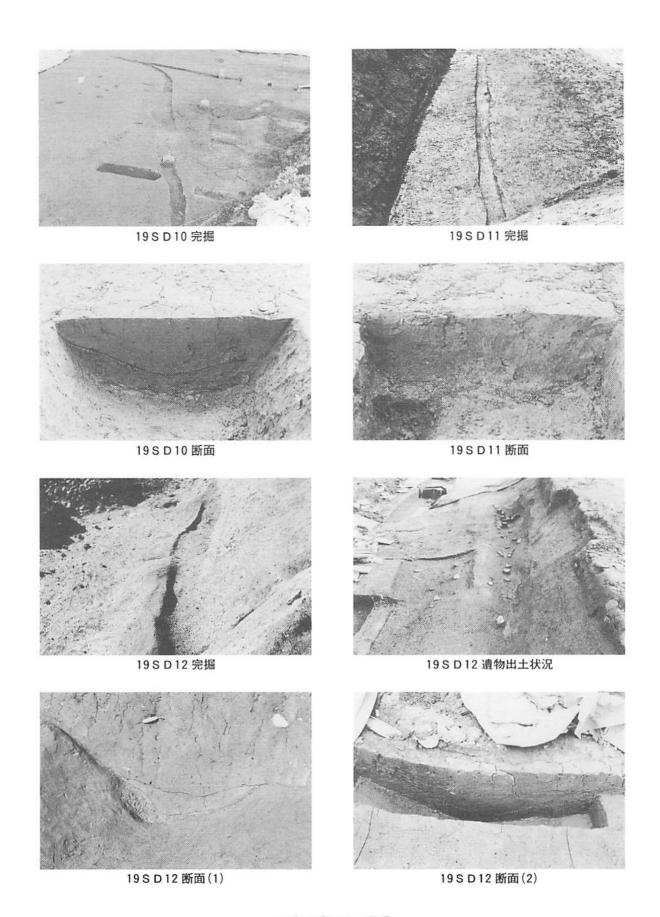


19SD9 完掘

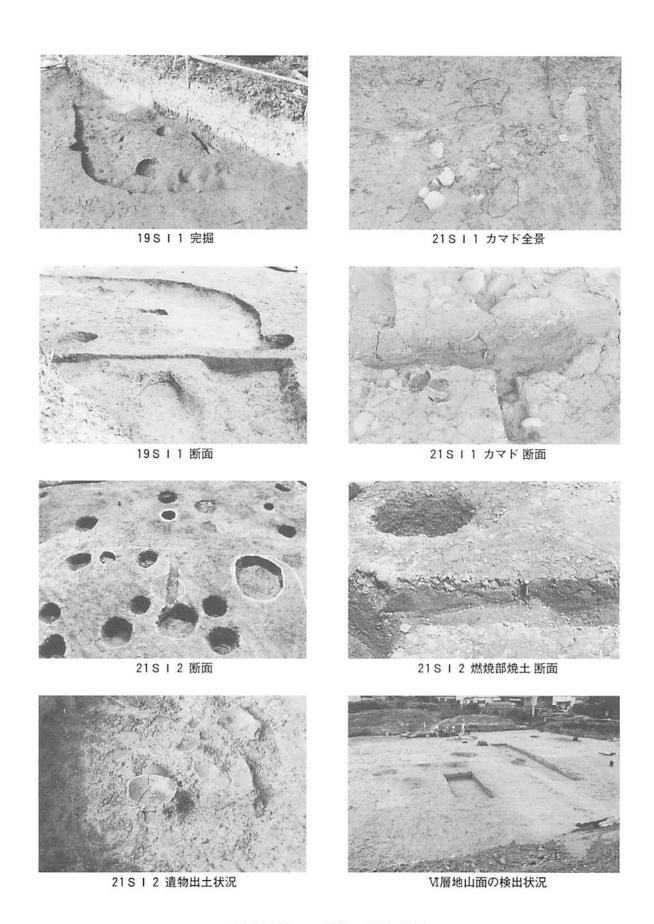


19SD9断面

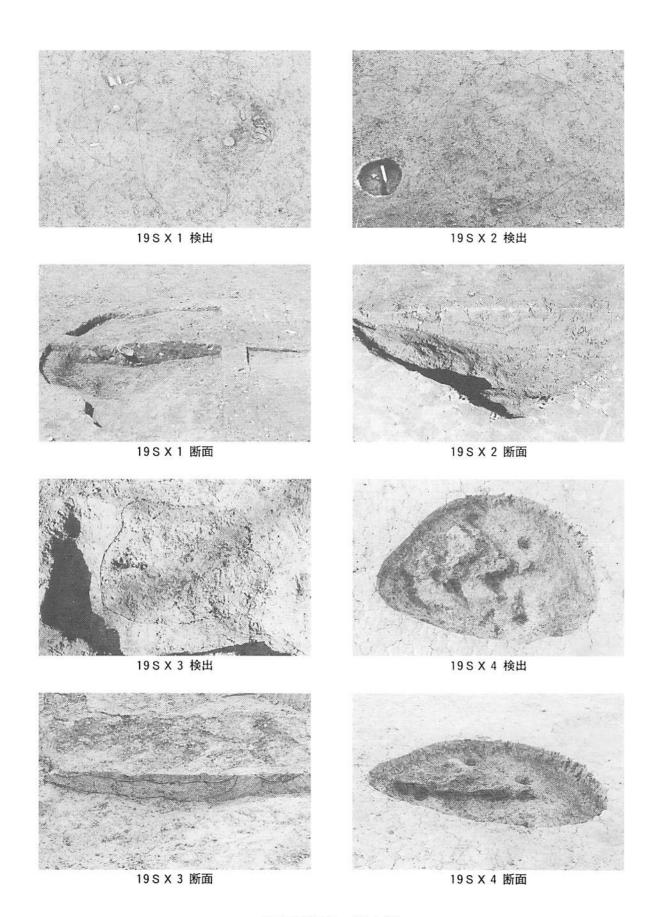
写真図版16 溝②



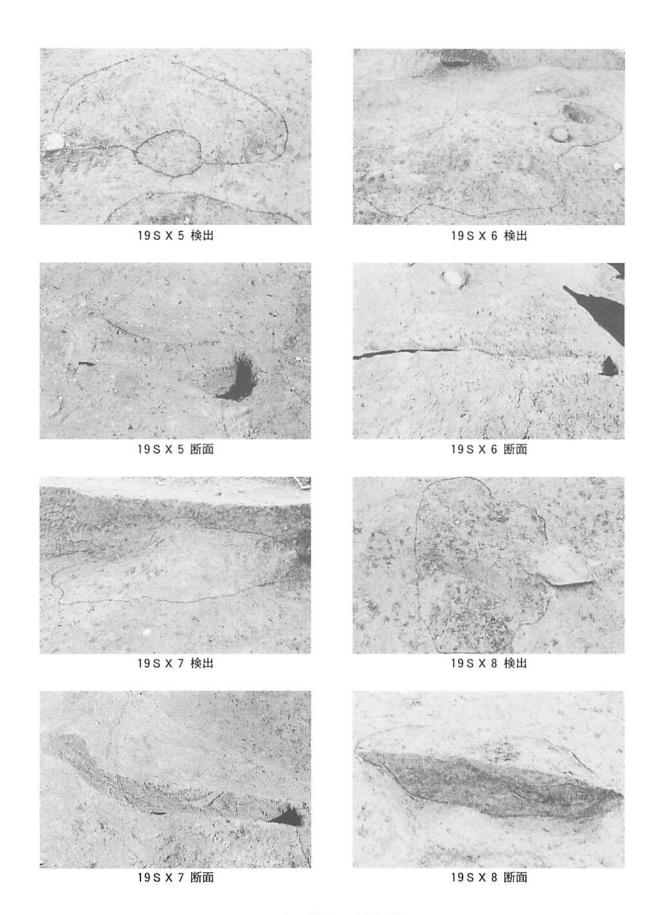
写真図版17 溝③



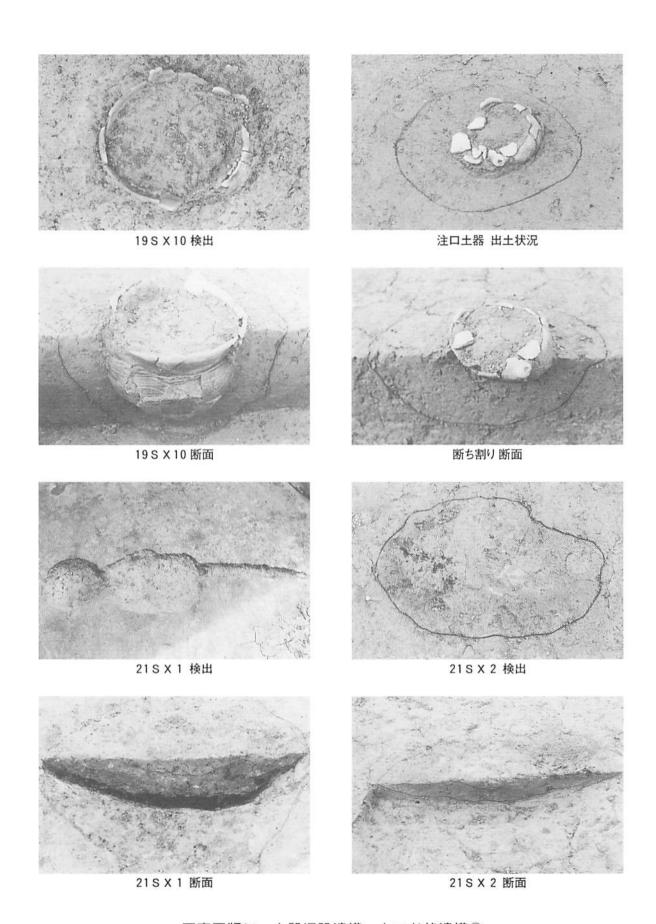
写真図版18 古代の竪穴住居



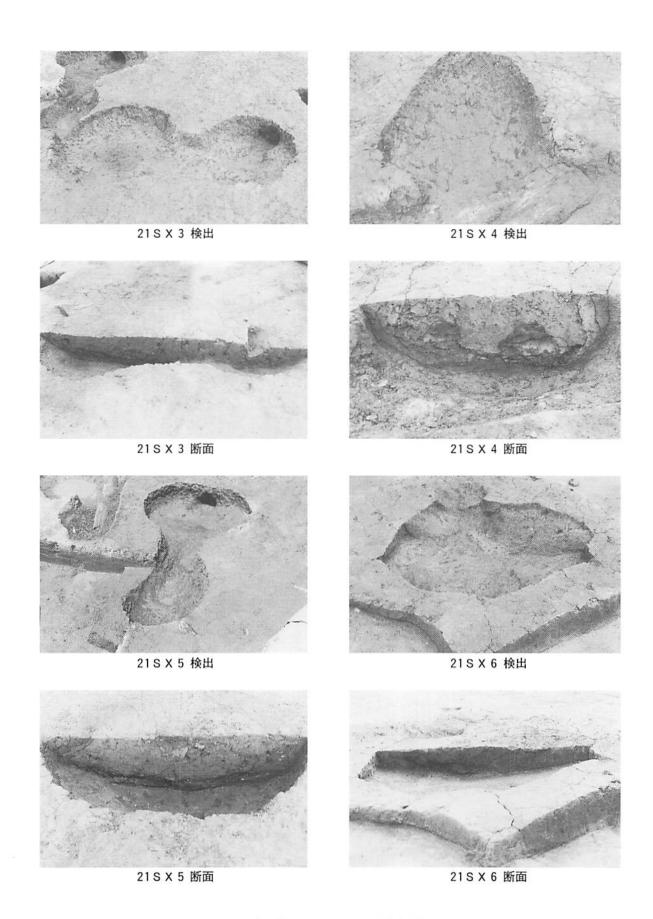
写真図版19 焼土①



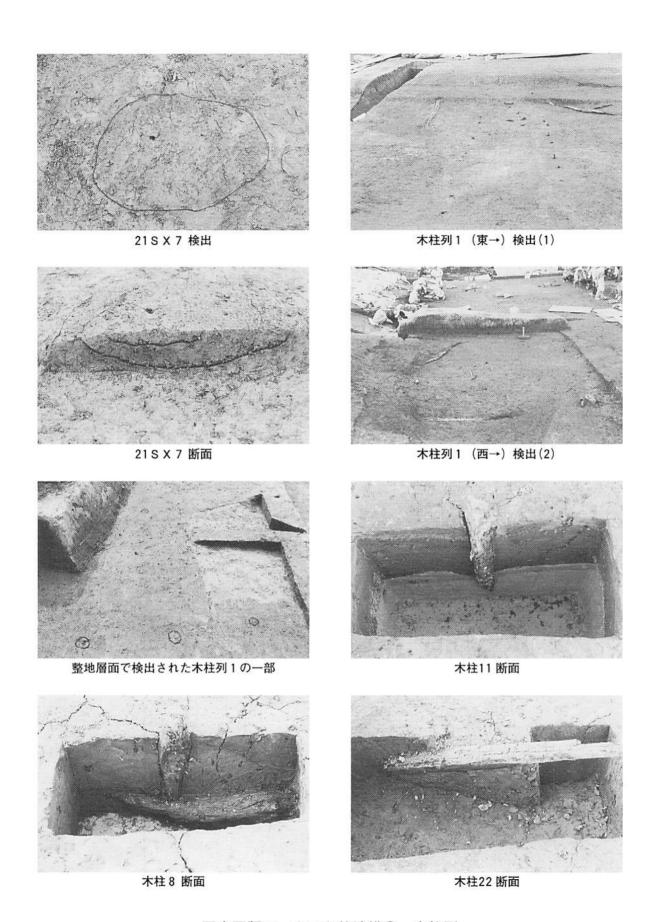
写真図版20 焼土②



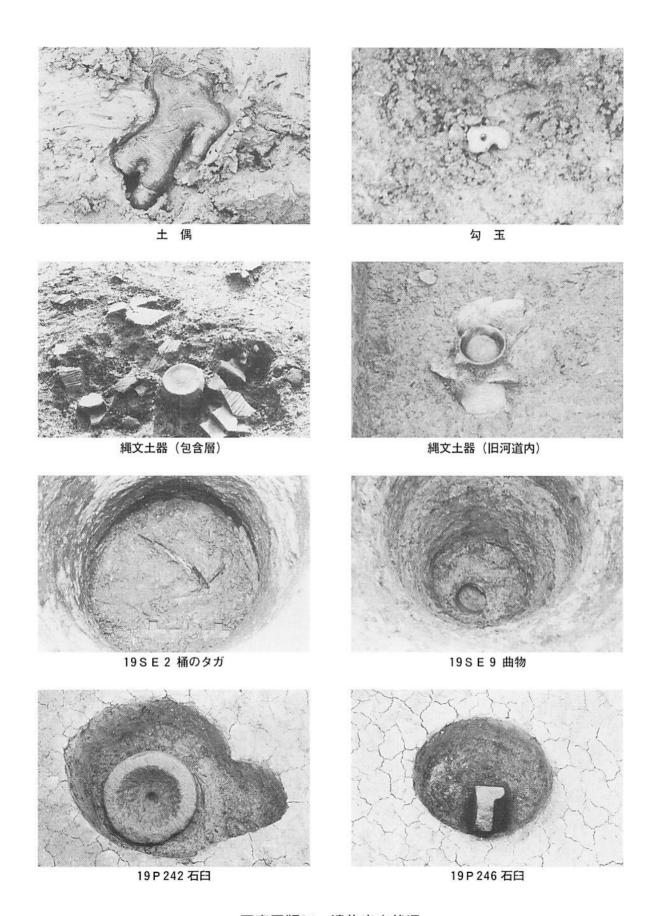
写真図版21 土器埋設遺構・カマド状遺構①



写真図版22 カマド状遺構②



写真図版23 カマド状遺構③・木柱列



写真図版24 遺物出土状況



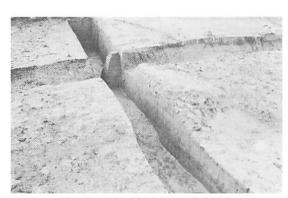
第19次調査 作業風景



第21次調查 調查開始時



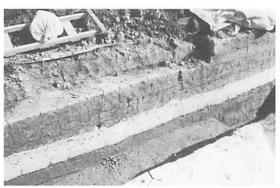
トレンチ3 断面 (第19次調査)



トレンチ2 断面 (第19次調査)



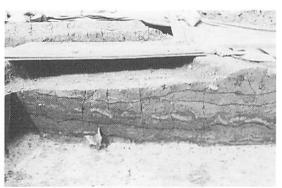
トレンチ2 断面 (第21次調査)



トレンチ1 断面 (第21次調査)

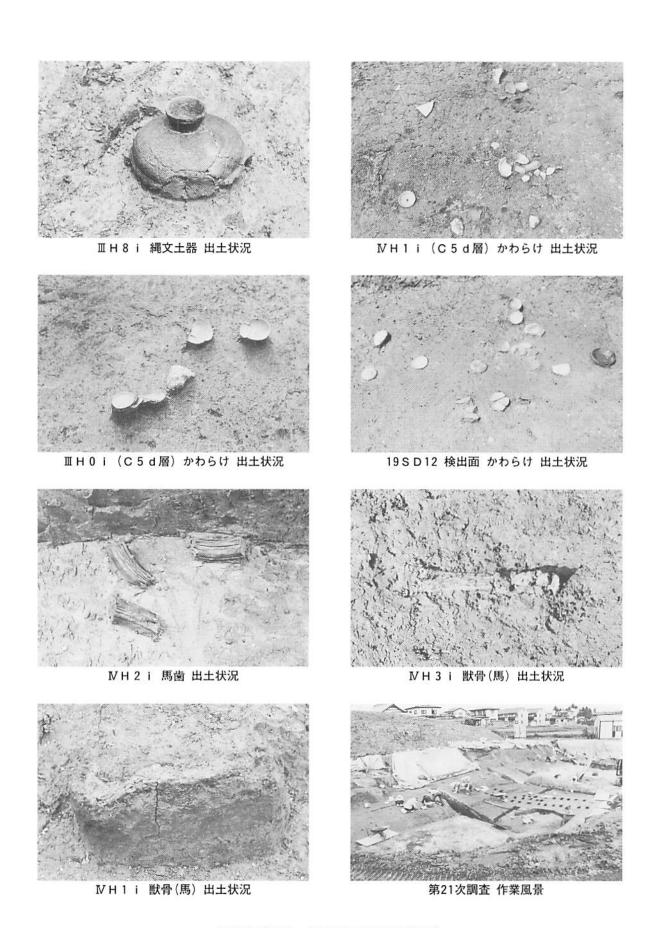


北東端 深掘り 断面



北西端 須恵器 出土状況

写真図版25 旧河道の調査状況①



写真図版26 旧河道の調査状況②

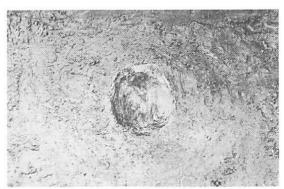


Ⅲ I 7 a 十和田 a 直上 堅果類 出土状況



Ⅲ I 9 a (C 9 b 層) 出土 土鈴





Ⅲ H 6 i (C 7 a 層) 漆器椀 出土状況

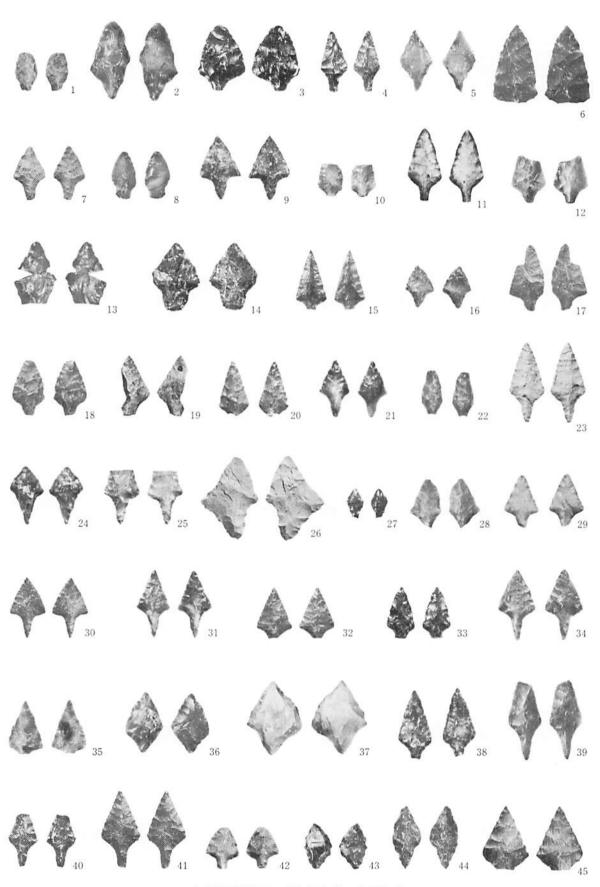


ⅢH7i 十和田a直上 曲物 出土状況

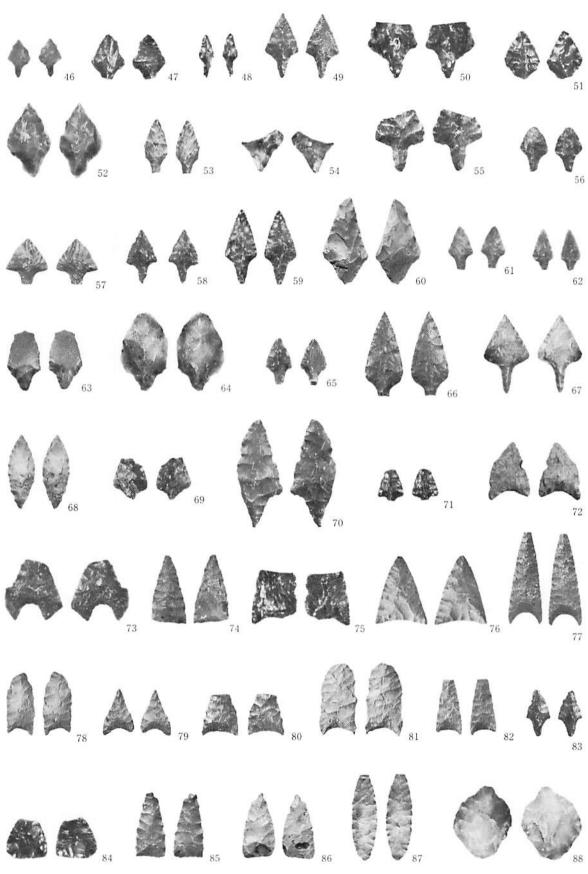


ⅢH0i 十和田a下 出土 木鍬

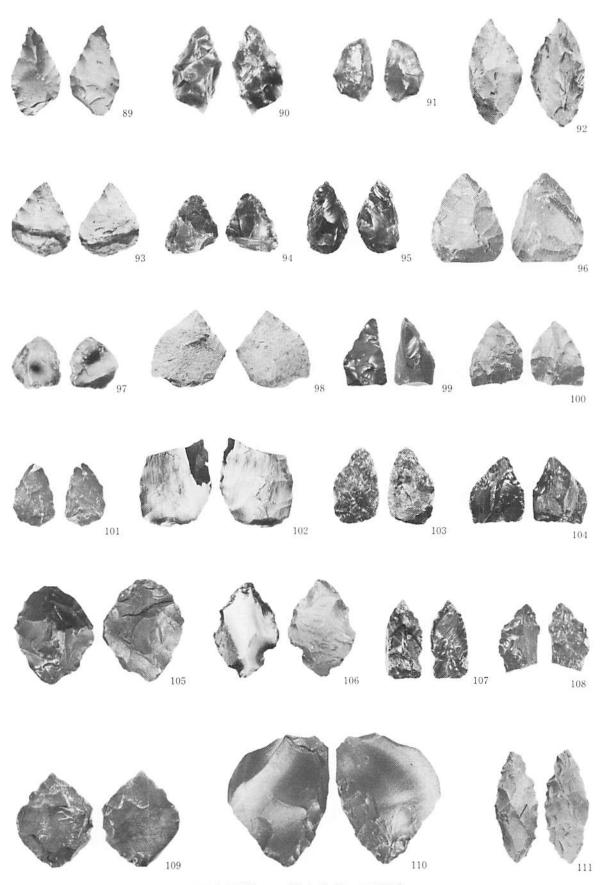
写真図版27 旧河道の調査状況③



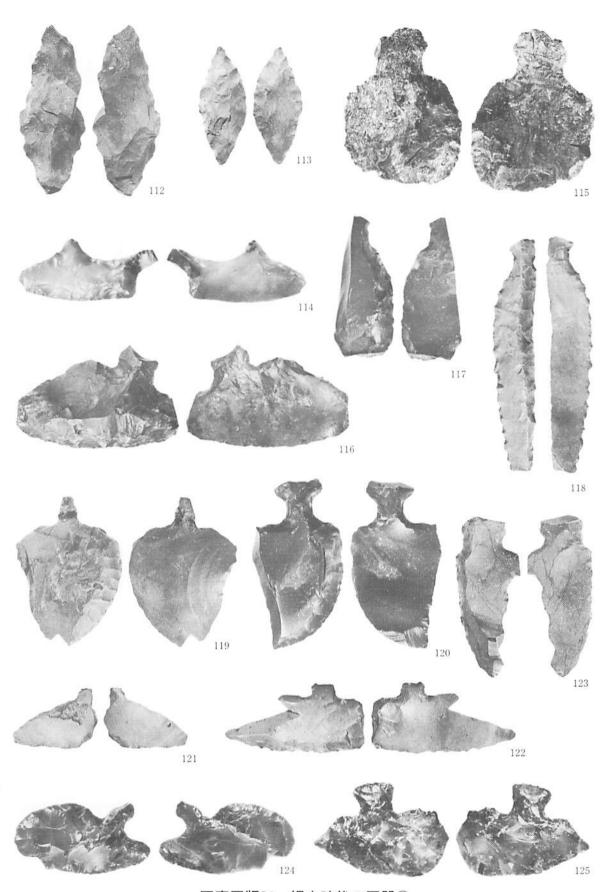
写真図版28 縄文時代の石器①



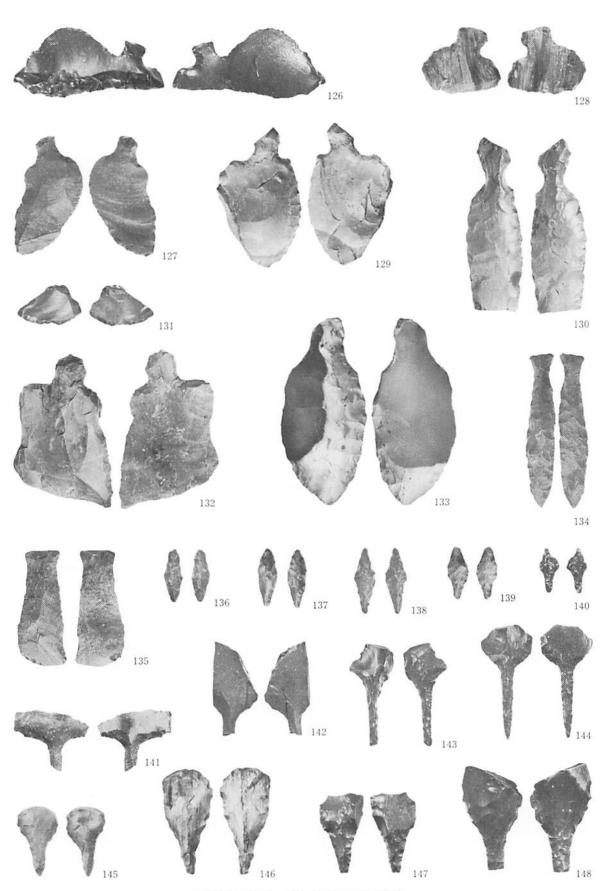
写真図版29 縄文時代の石器②



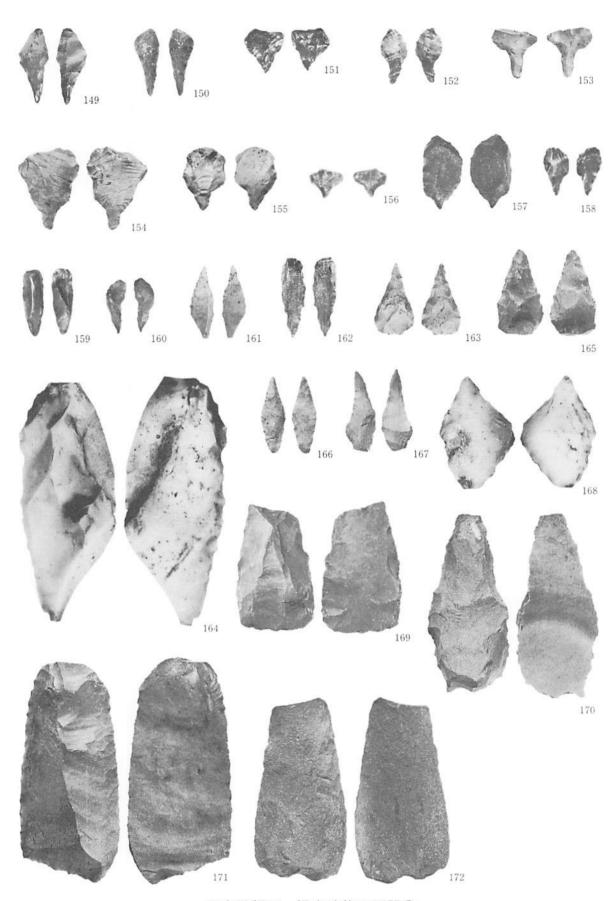
写真図版30 縄文時代の石器③



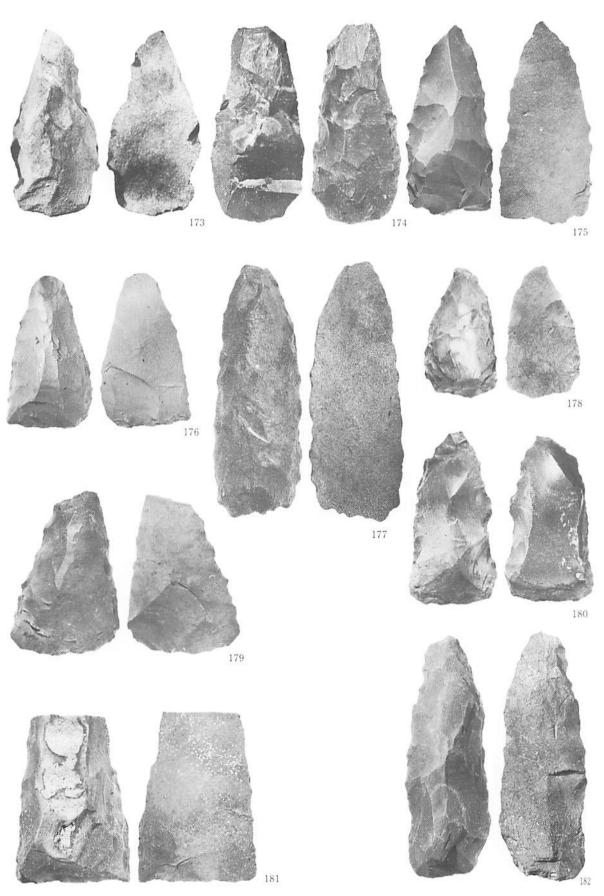
写真図版31 縄文時代の石器④



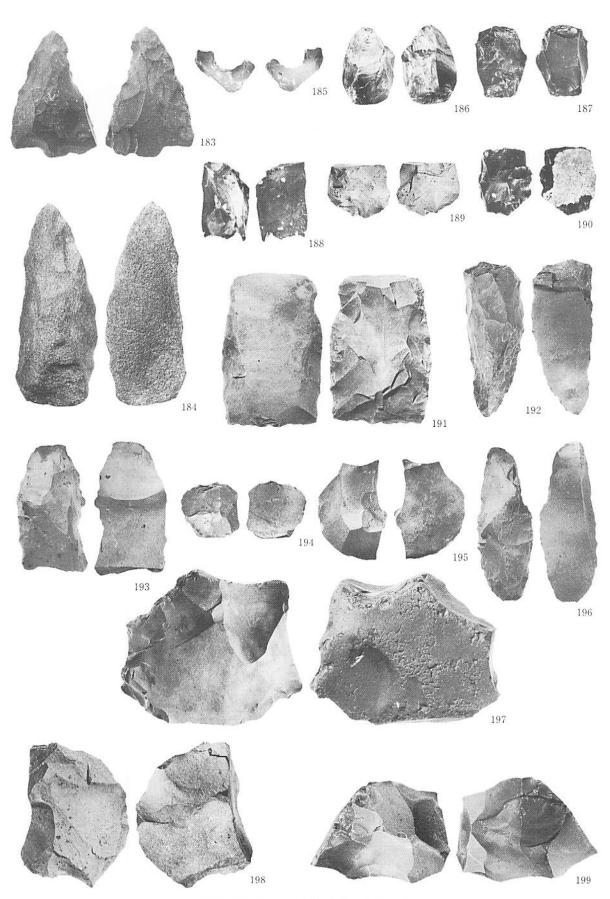
写真図版32 縄文時代の石器⑤



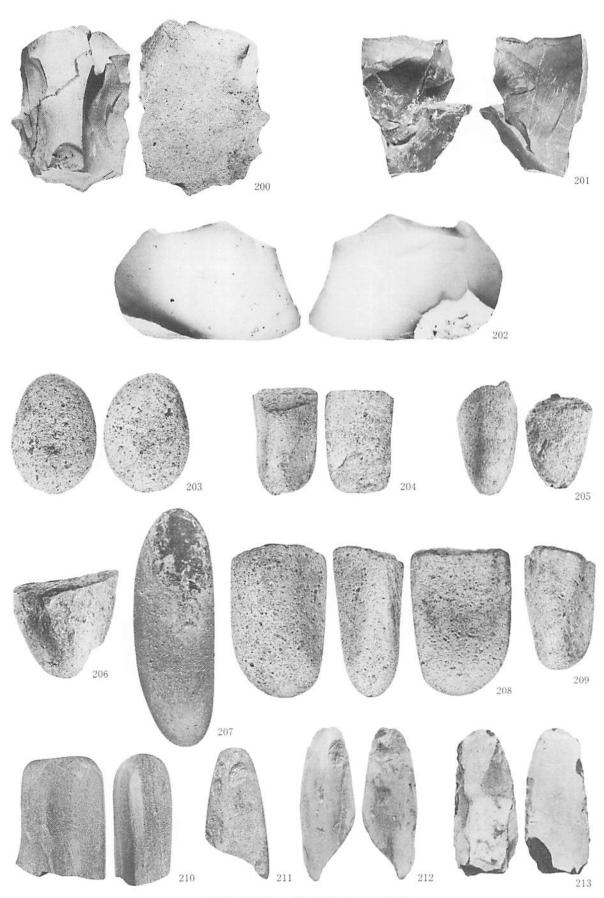
写真図版33 縄文時代の石器⑥



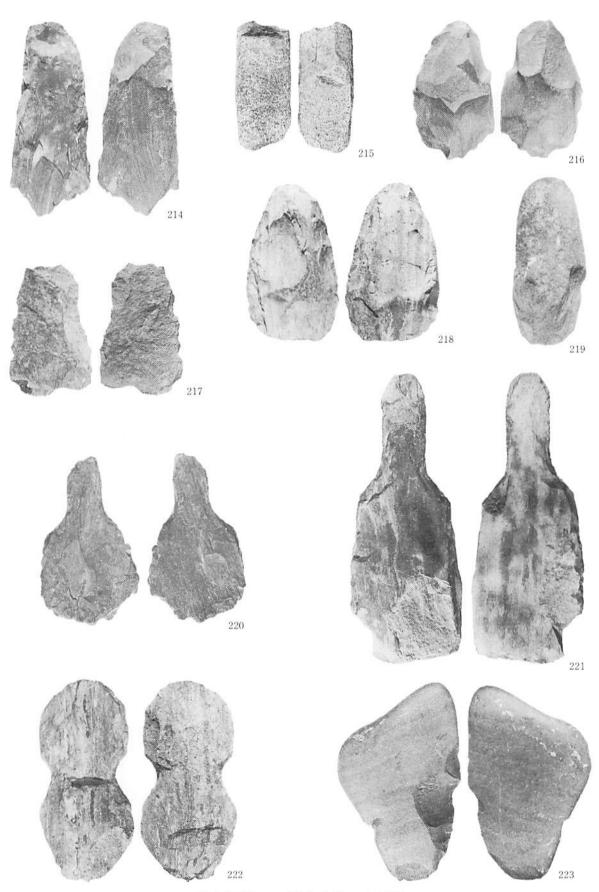
写真図版34 縄文時代の石器⑦



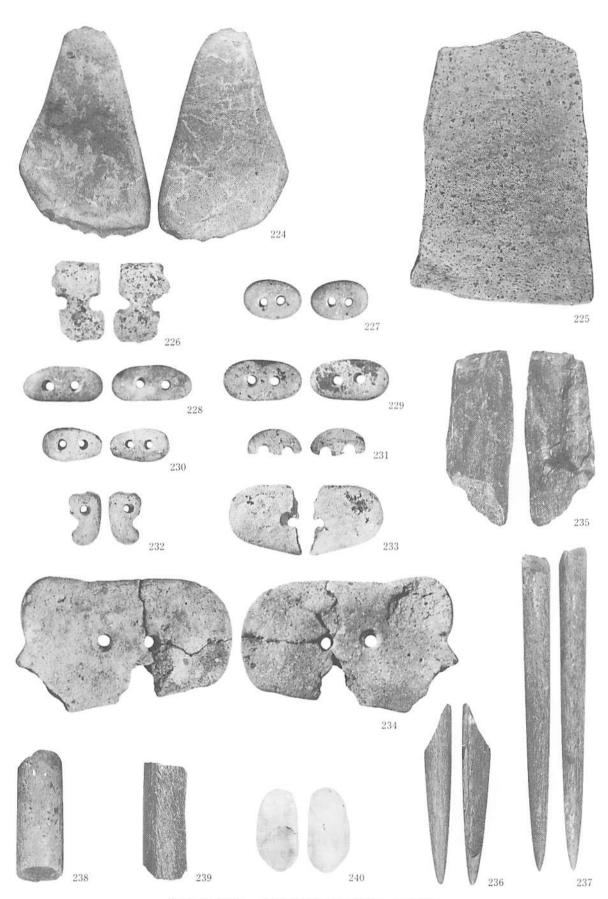
写真図版35 縄文時代の石器®



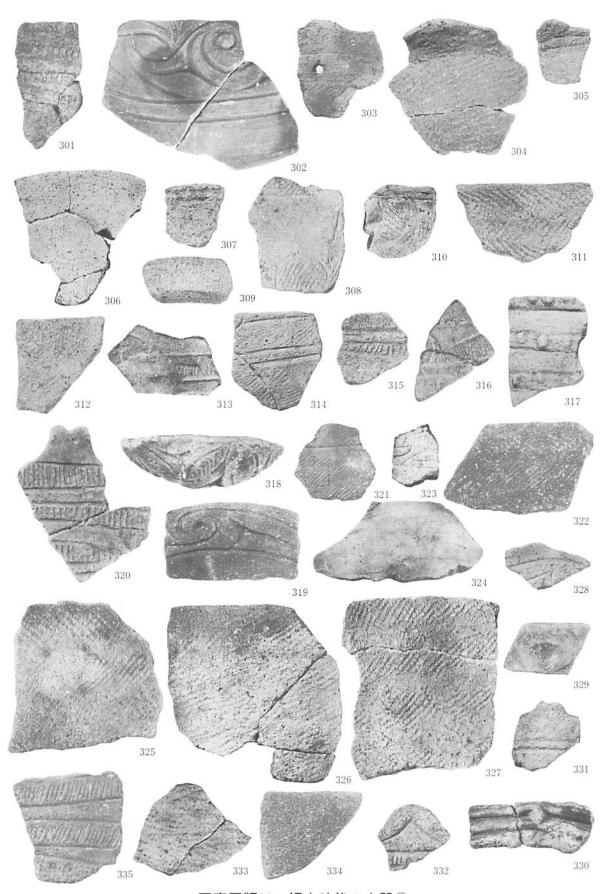
写真図版36 縄文時代の石器9



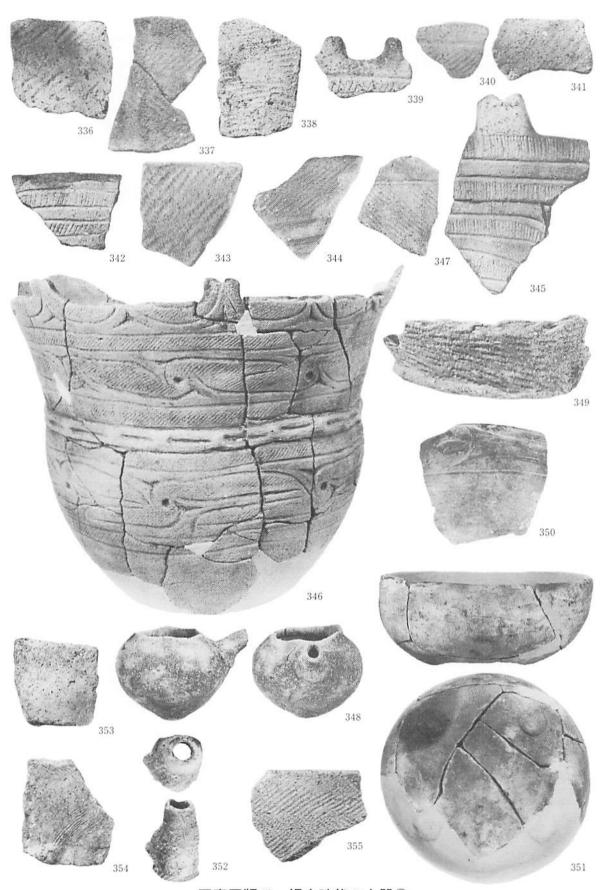
写真図版37 縄文時代の石器⑩



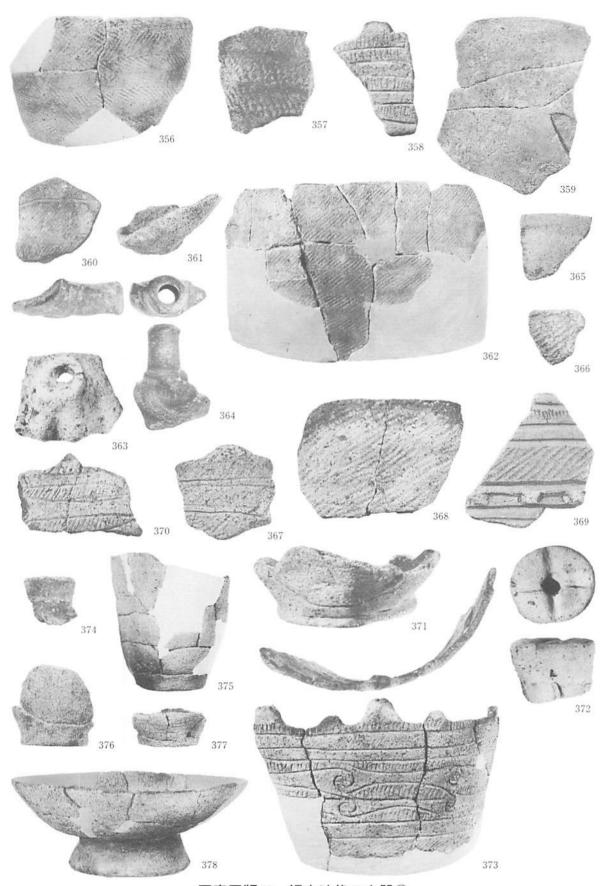
写真図版38 縄文時代の石器⑪・石製品



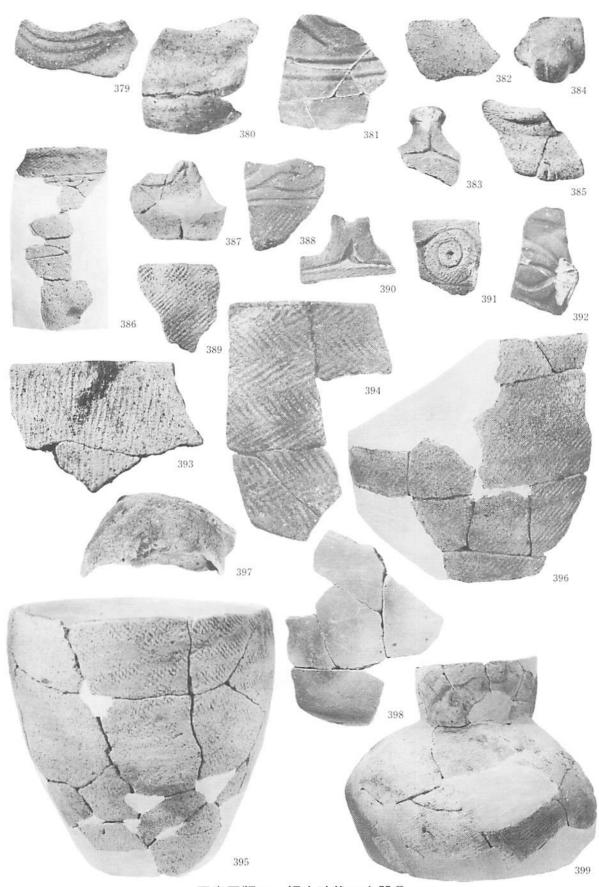
写真図版39 縄文時代の土器①



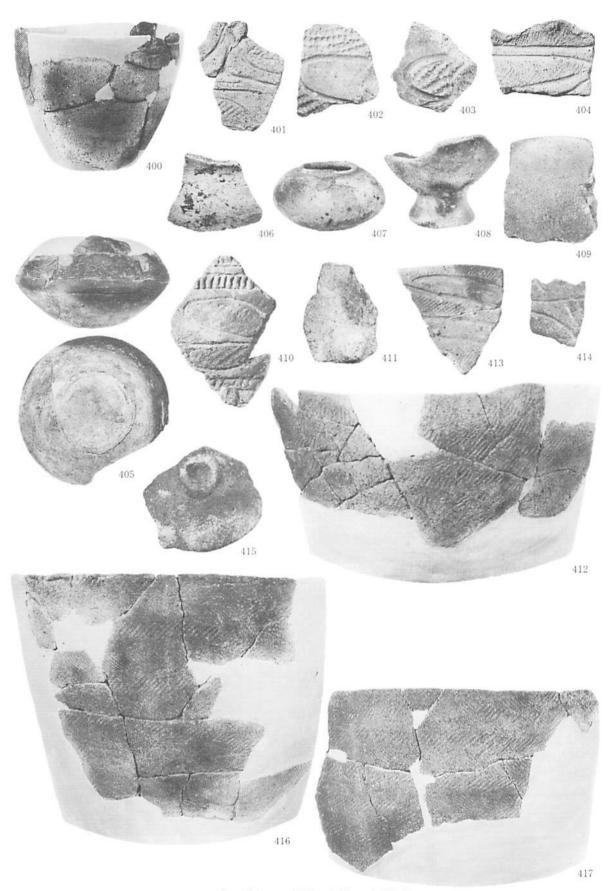
写真図版40 縄文時代の土器②



写真図版41 縄文時代の土器③



写真図版42 縄文時代の土器④



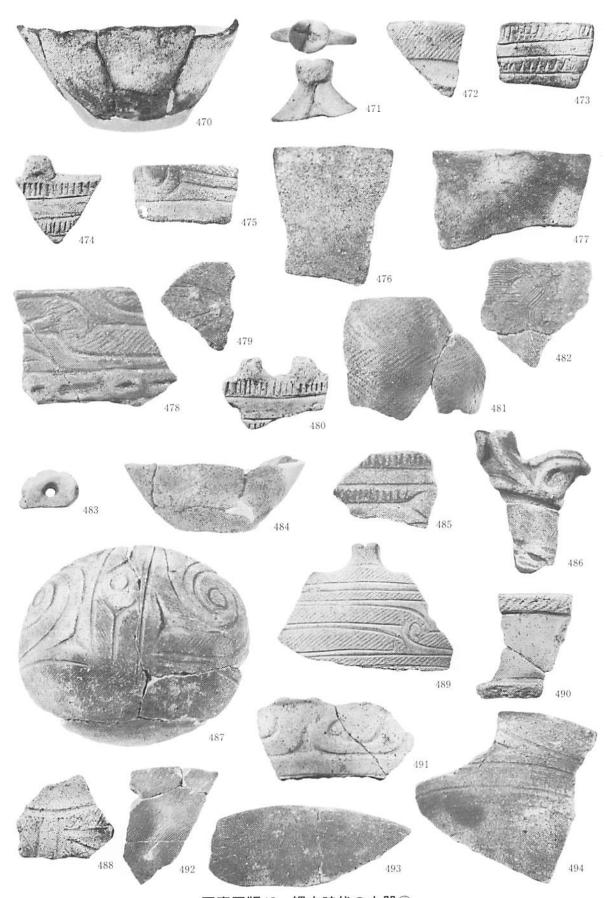
写真図版43 縄文時代の土器⑤



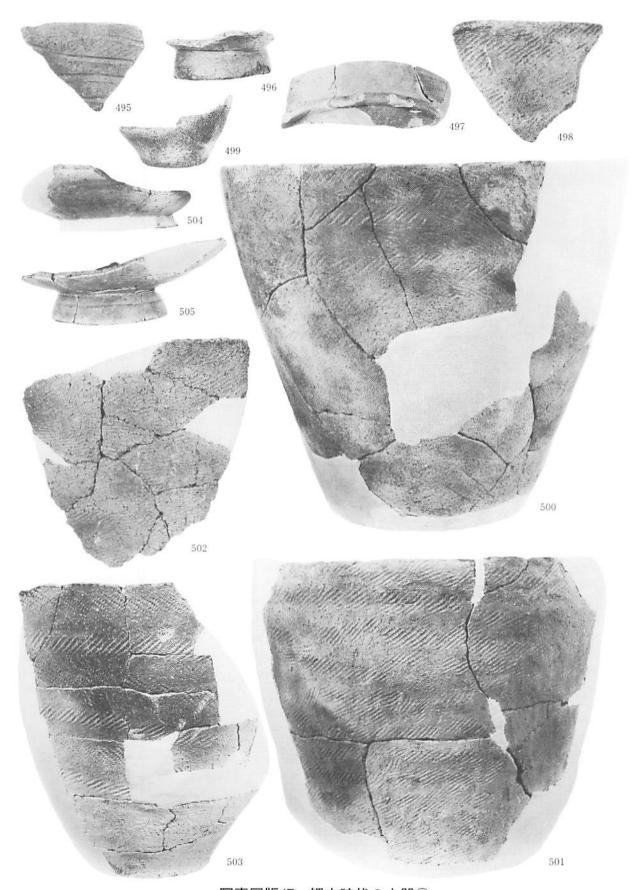
写真図版44 縄文時代の土器⑥



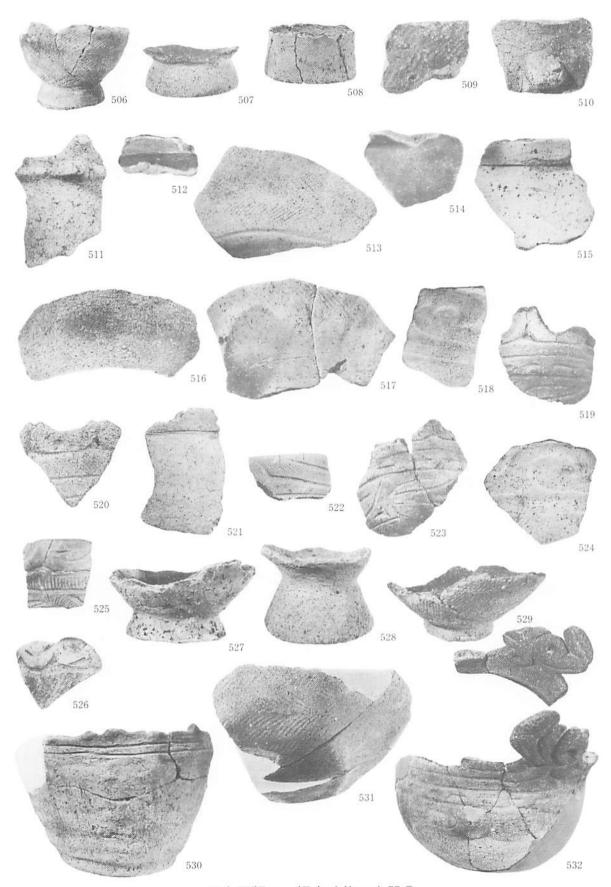
写真図版45 縄文時代の土器⑦



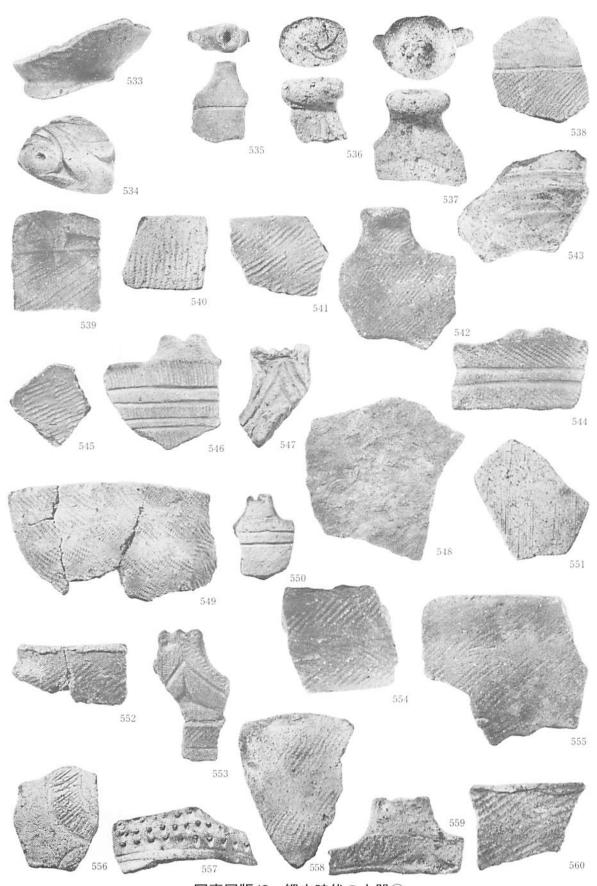
写真図版46 縄文時代の土器®



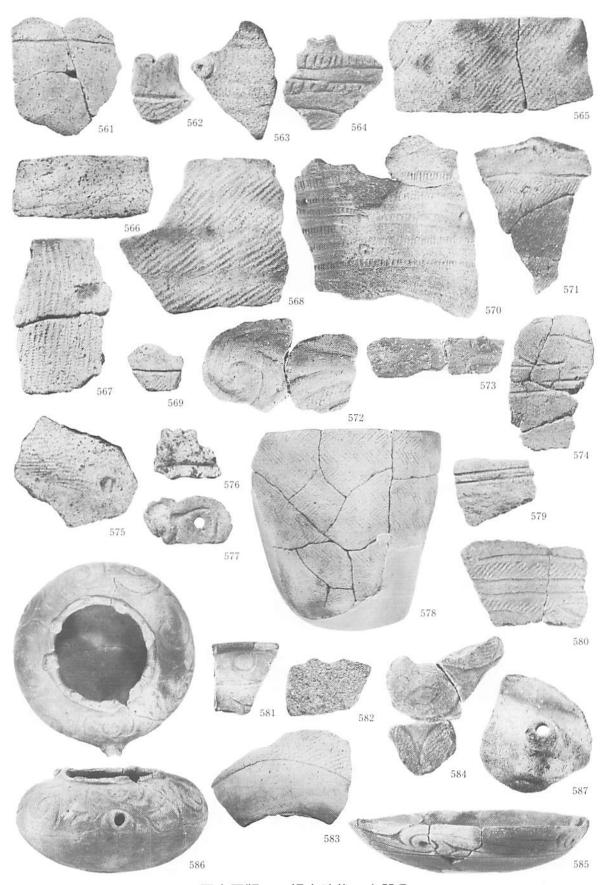
写真図版47 縄文時代の土器⑨



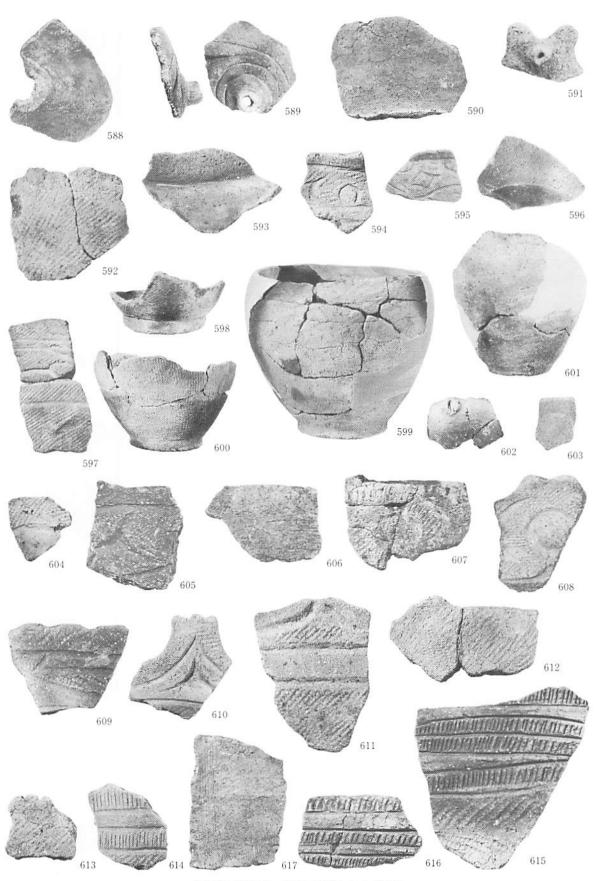
写真図版48 縄文時代の土器⑩



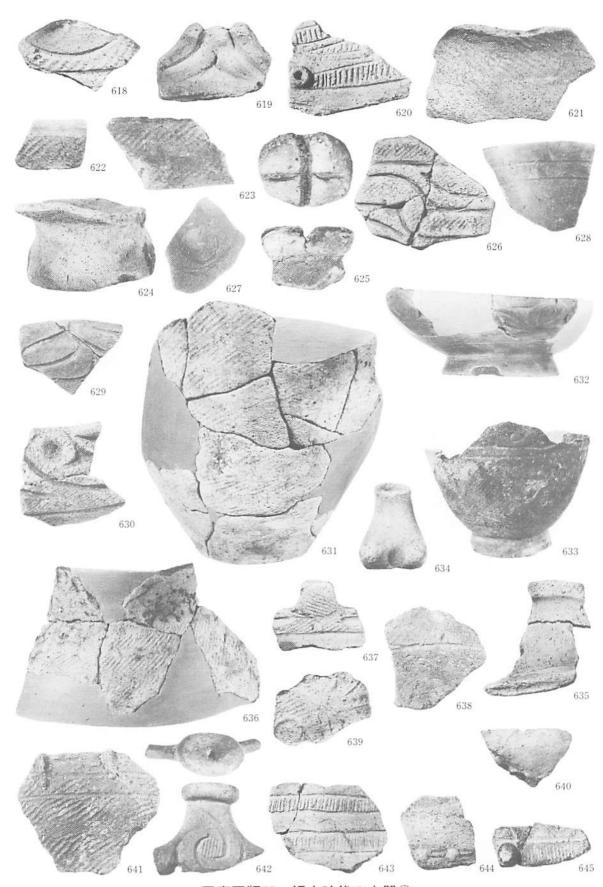
写真図版49 縄文時代の土器①



写真図版50 縄文時代の土器①



写真図版51 縄文時代の土器⑬



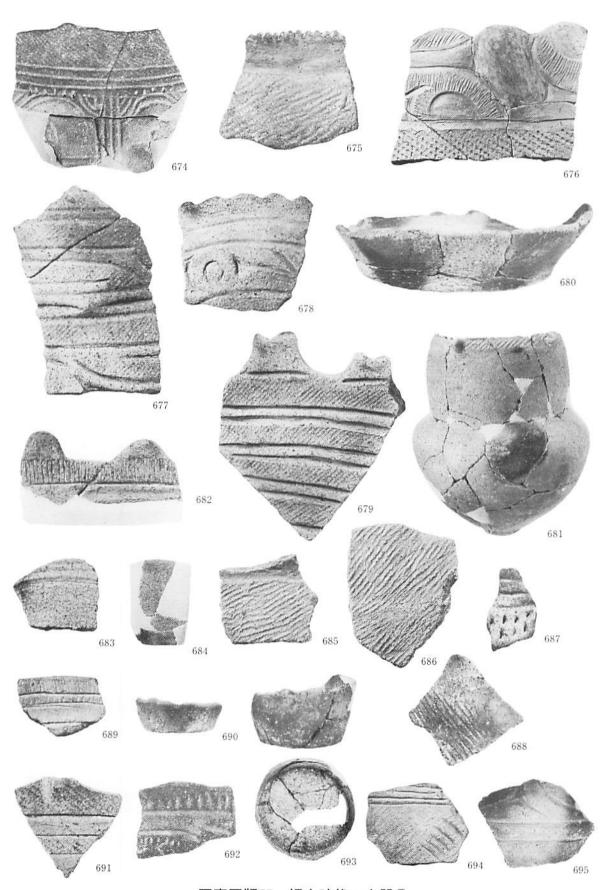
写真図版52 縄文時代の土器⑭



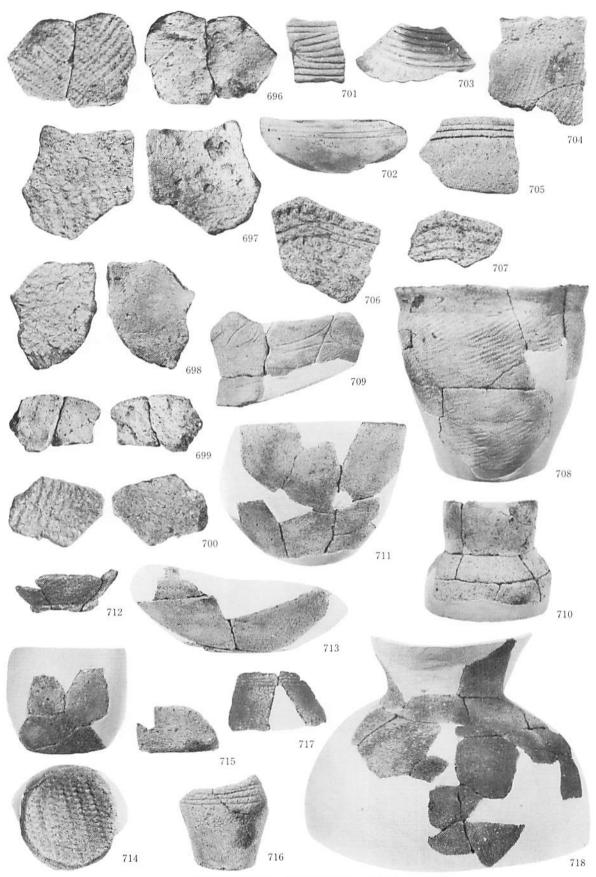
写真図版53 縄文時代の土器(5)



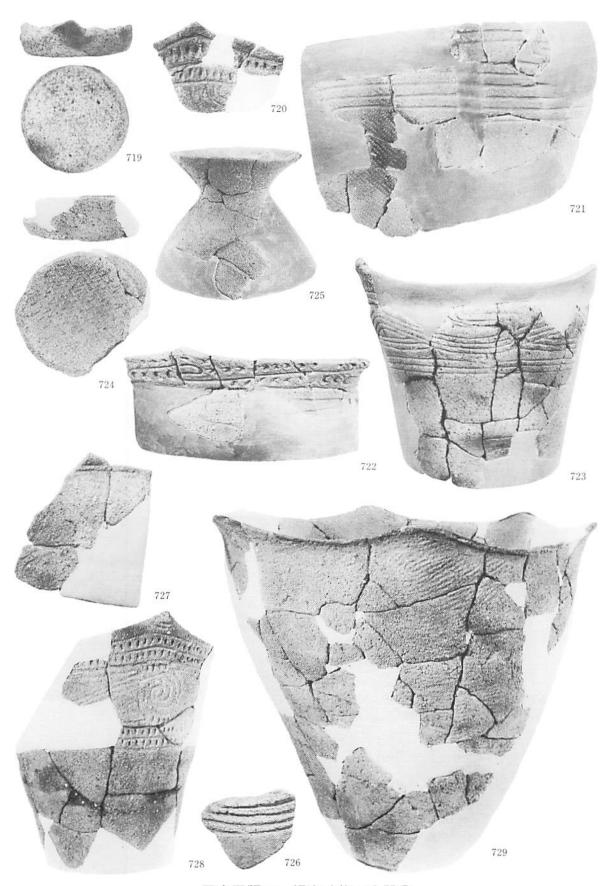
写真図版54 縄文時代の土器⑩



写真図版55 縄文時代の土器①



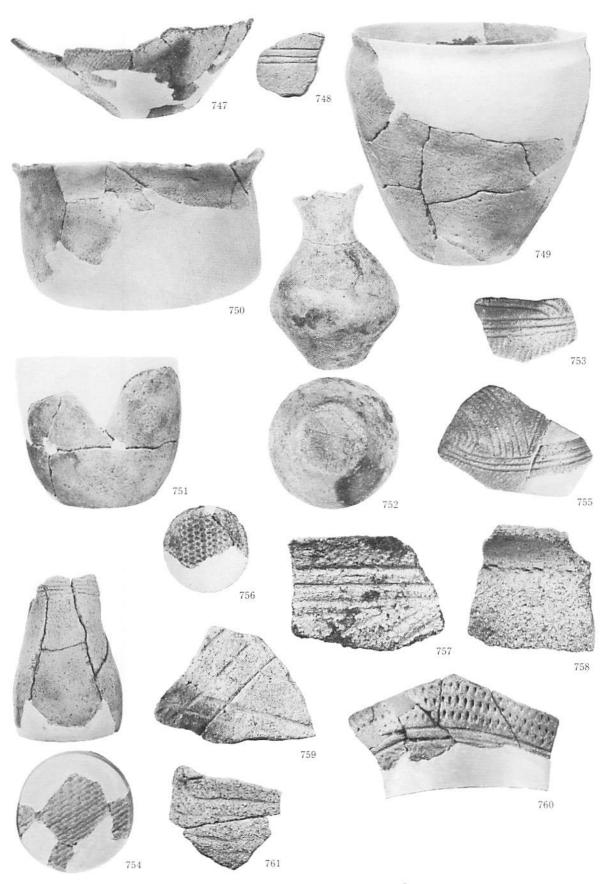
写真図版56 縄文時代の土器®



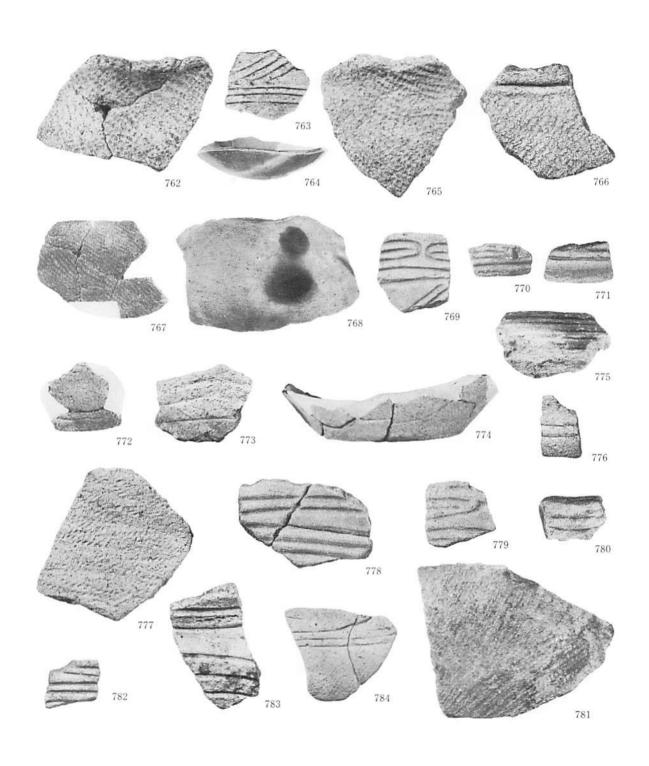
写真図版57 縄文時代の土器⑩



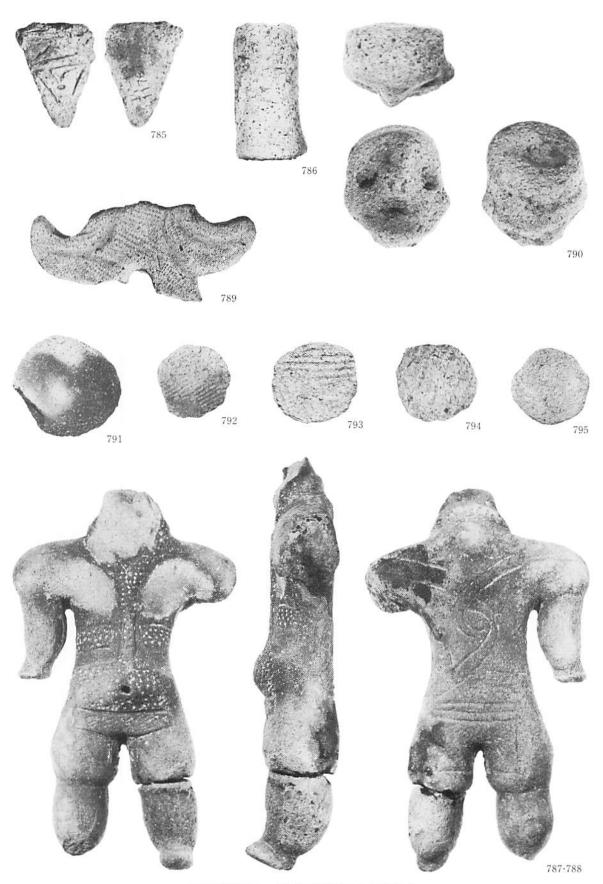
写真図版58 縄文時代の土器20



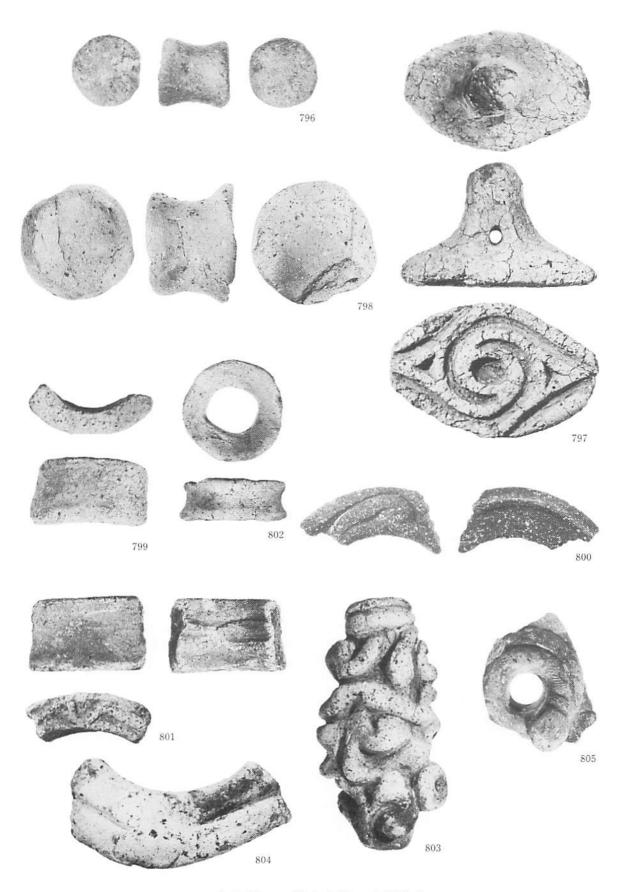
写真図版59 縄文時代の土器②



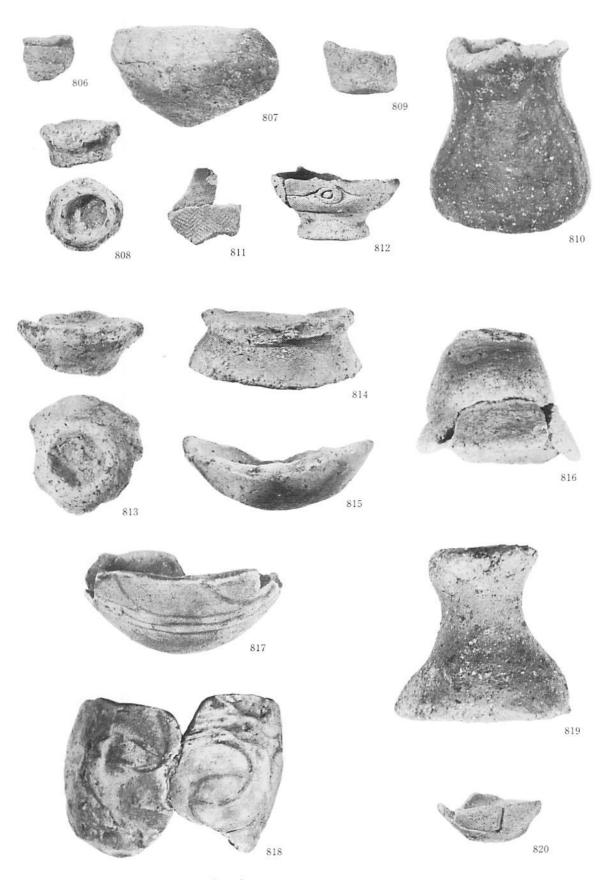
写真図版60 縄文時代の土器②



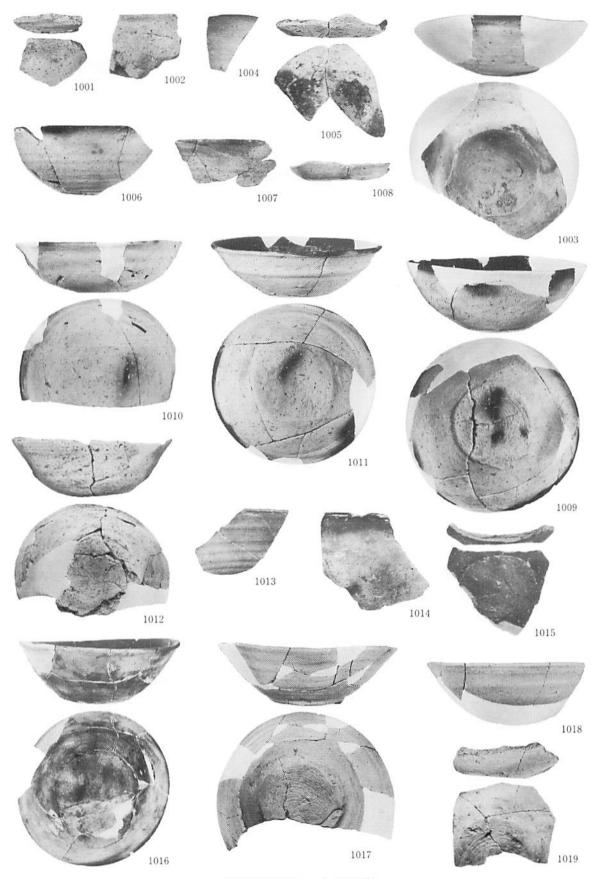
写真図版61 縄文時代の土製品①



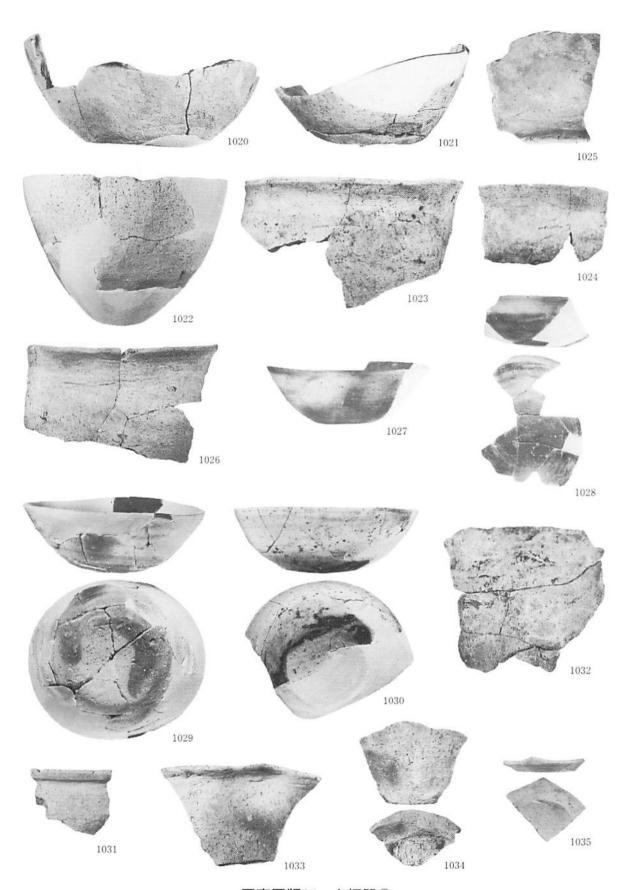
写真図版62 縄文時代の土製品②



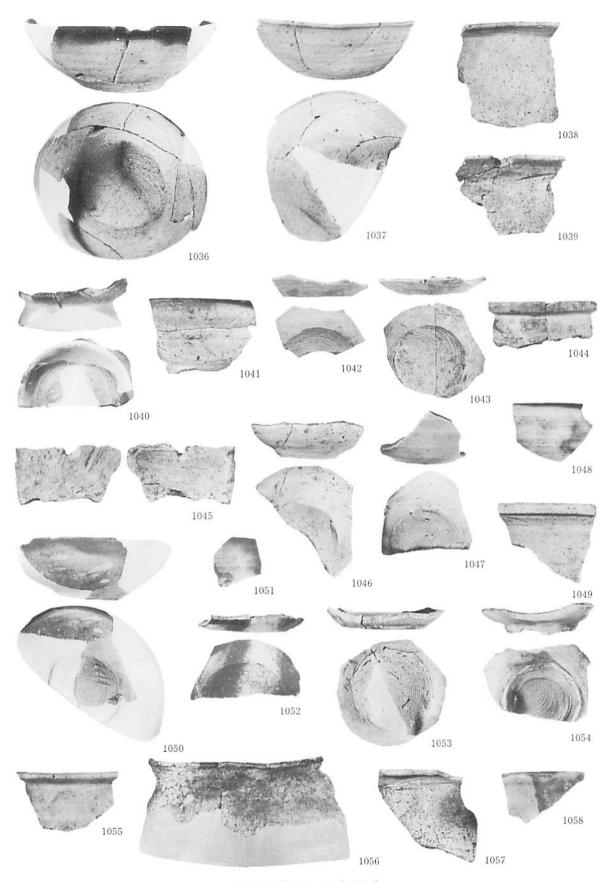
写真図版63 縄文時代の土製品③



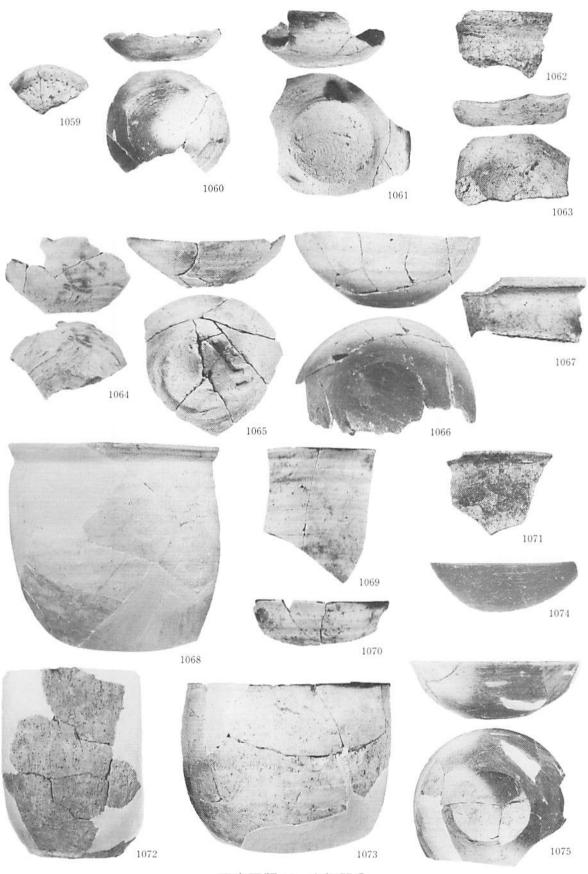
写真図版64 土師器①



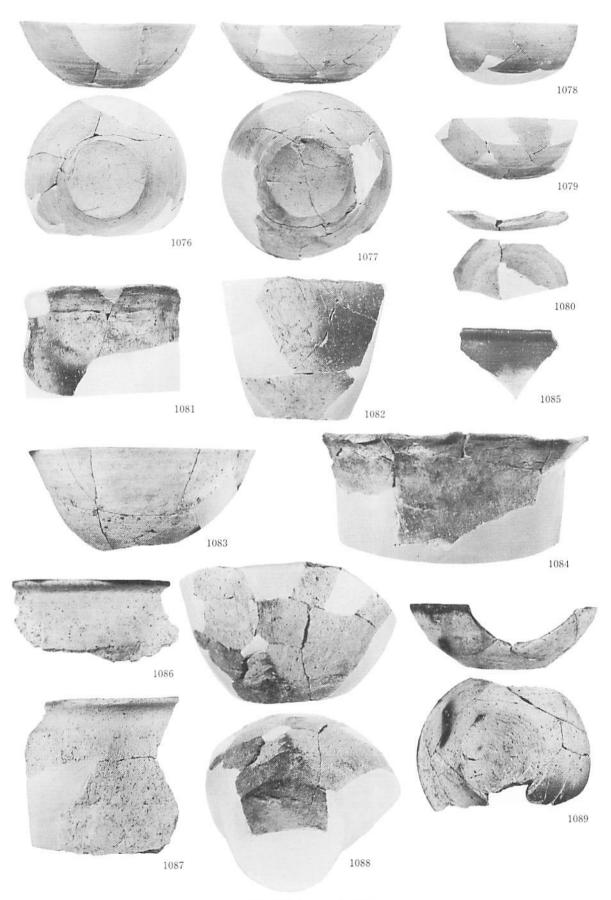
写真図版65 土師器②



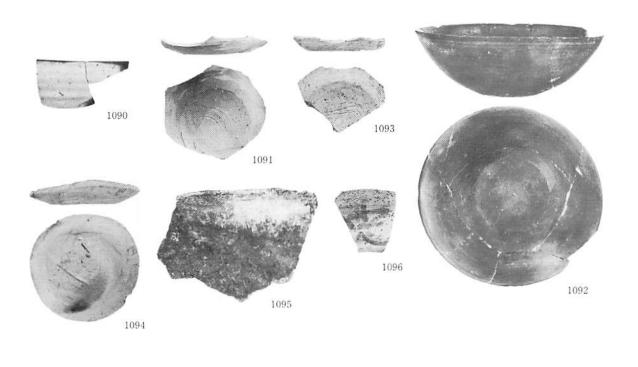
写真図版66 土師器③

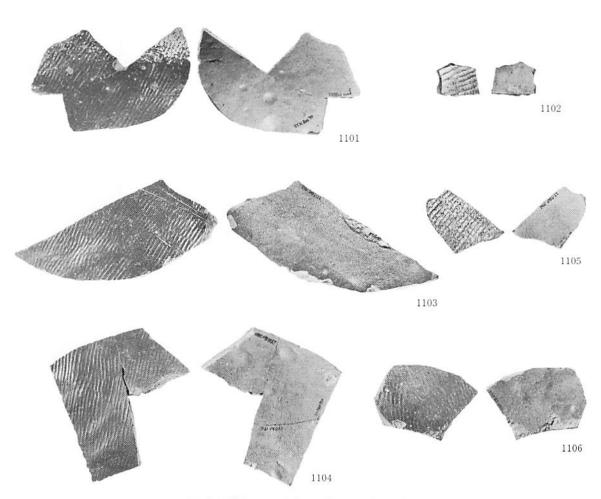


写真図版67 土師器④

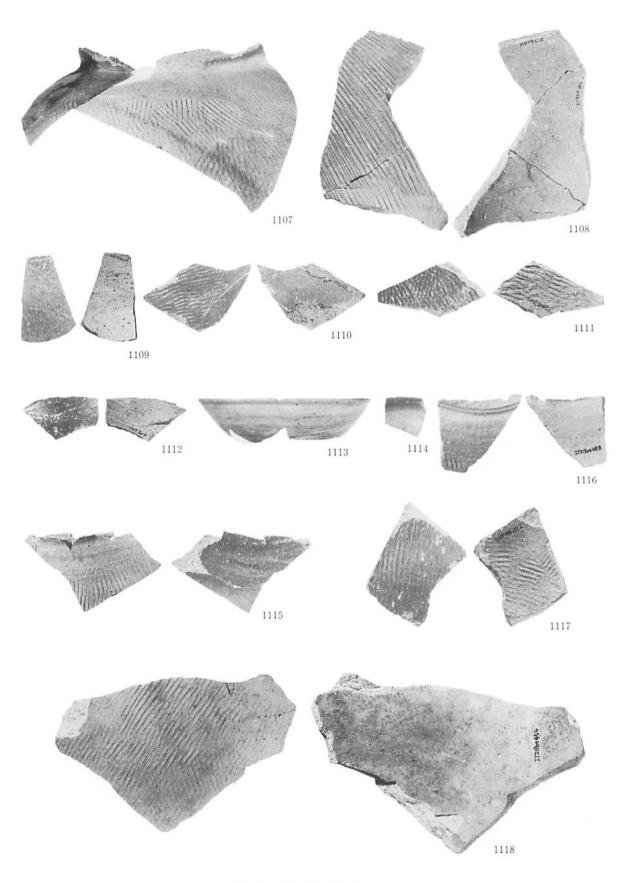


写真図版68 土師器⑤

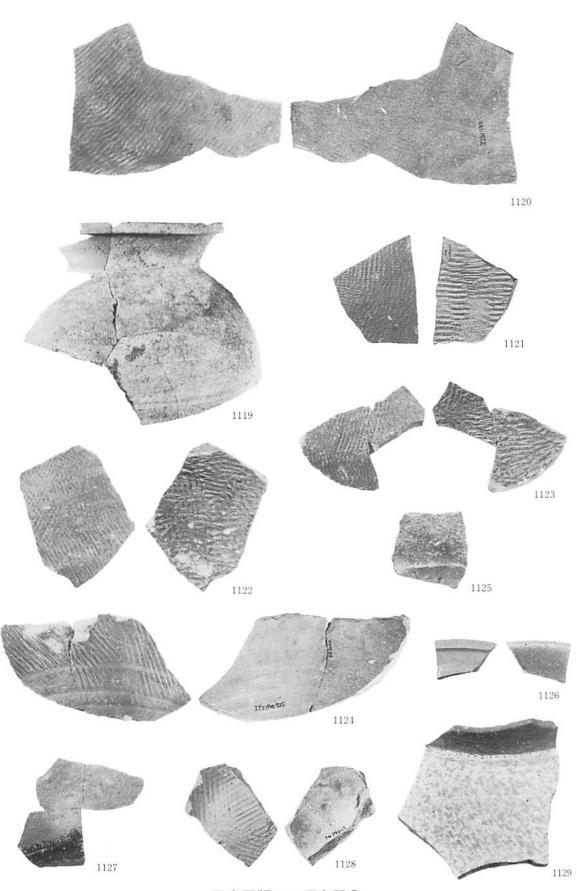




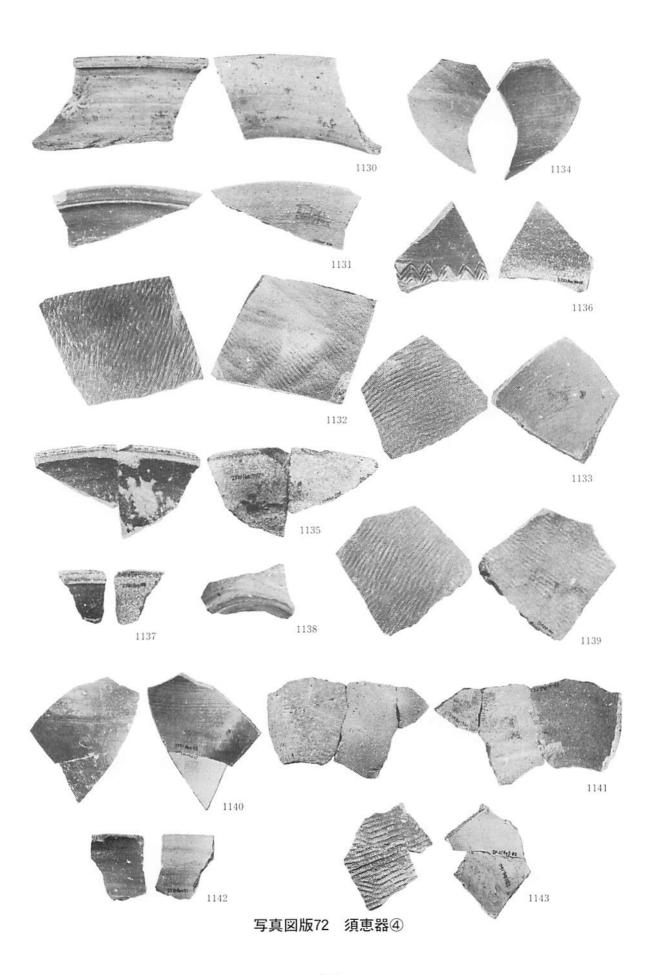
写真図版69 土師器⑥・須恵器①

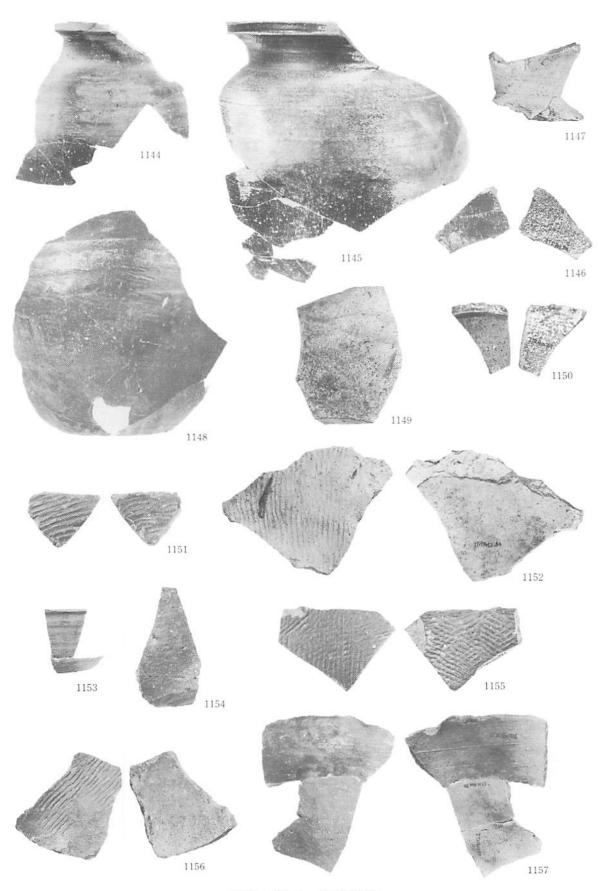


写真図版70 須恵器②

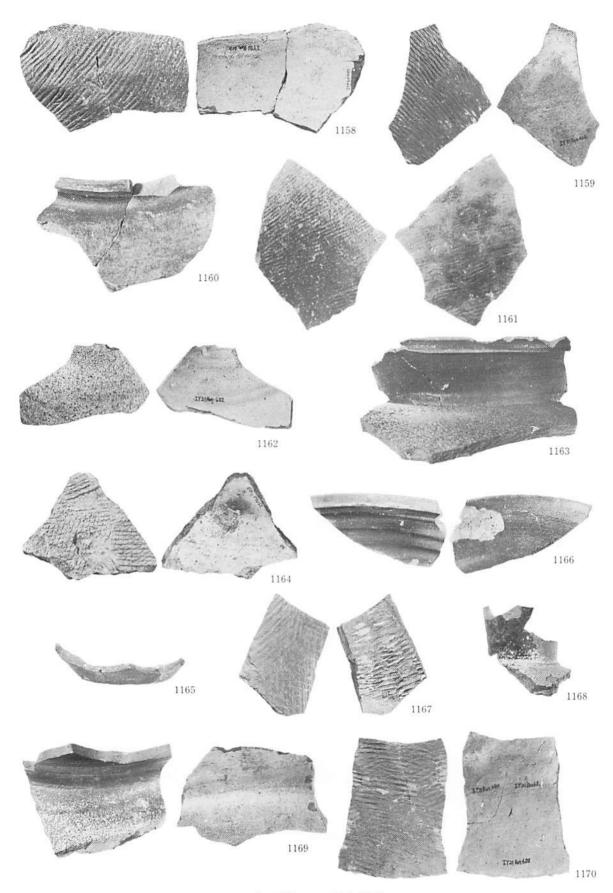


写真図版71 須恵器③

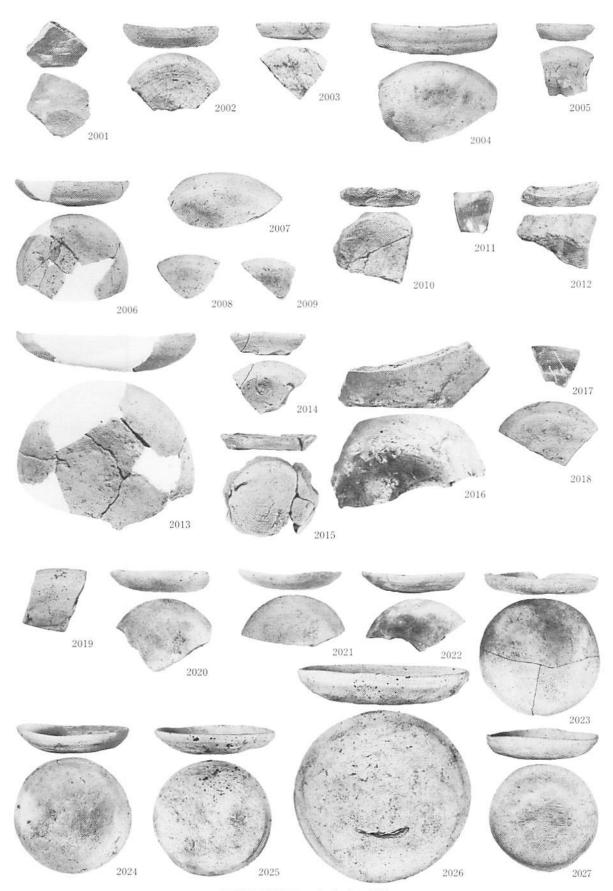




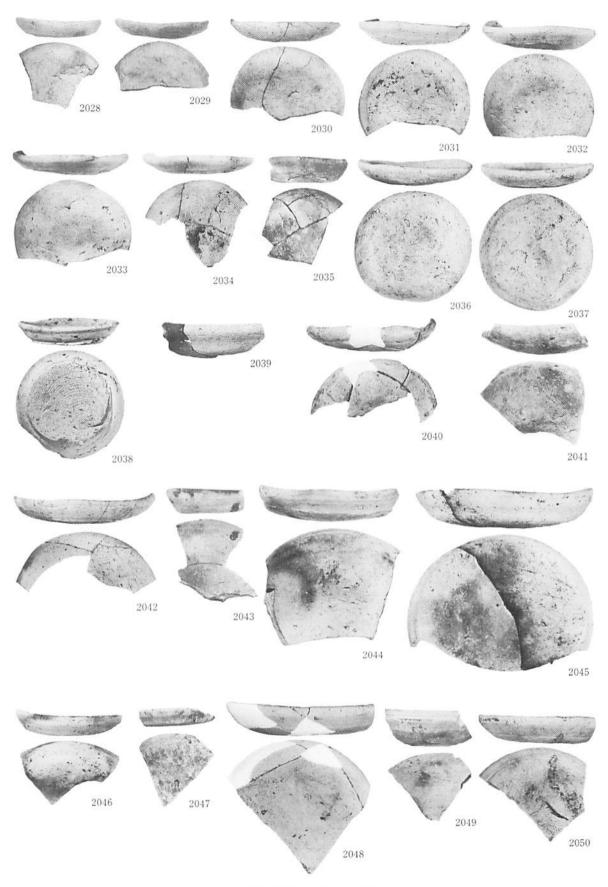
写真図版73 須恵器⑤



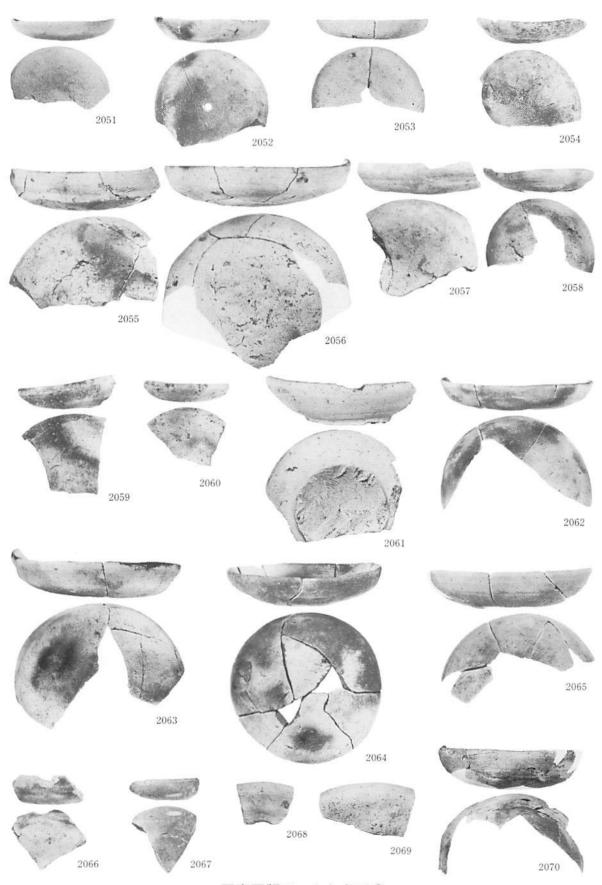
写真図版74 須恵器⑥



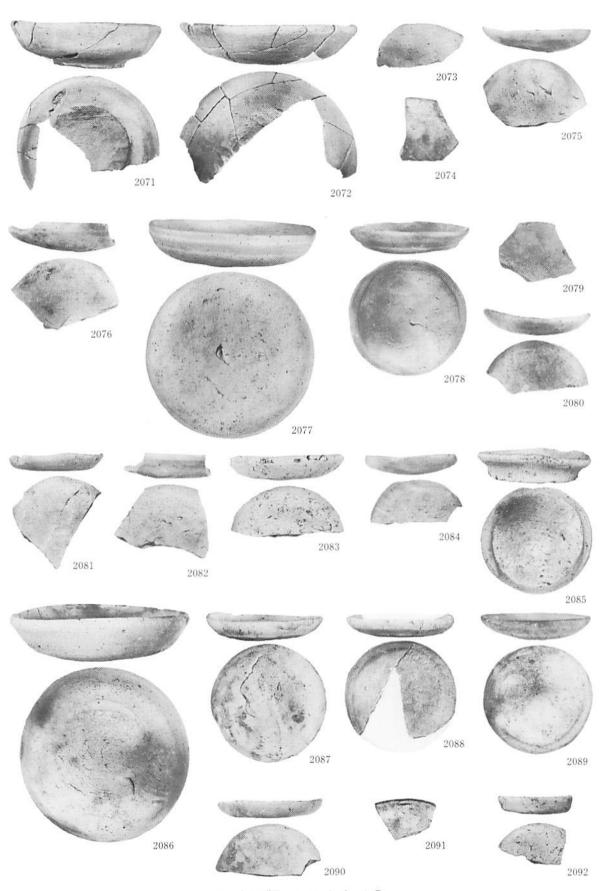
写真図版75 かわらけ①



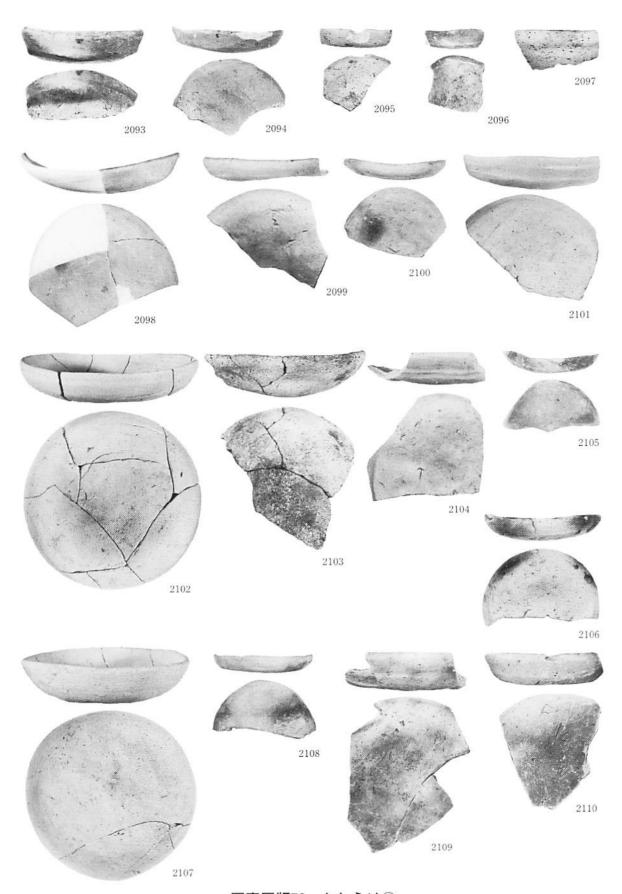
写真図版76 かわらけ②



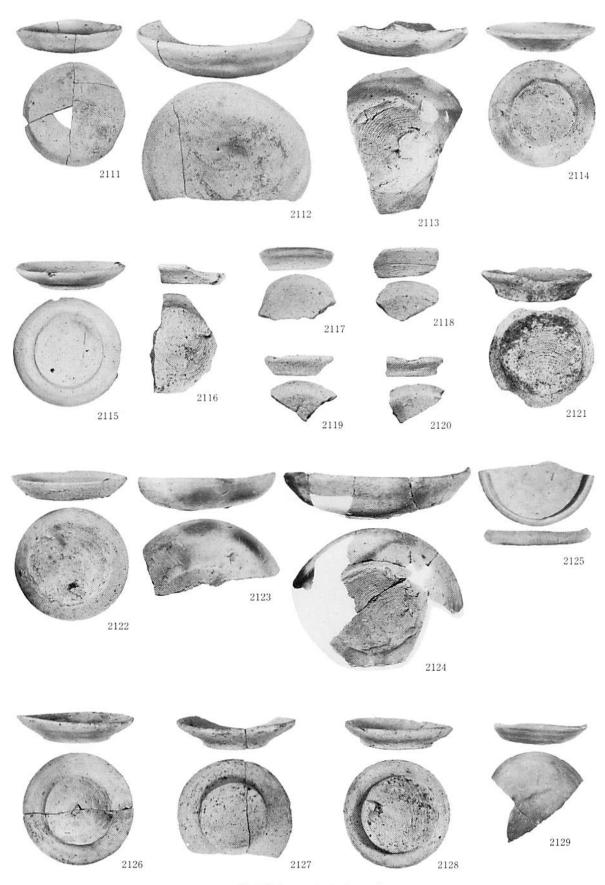
写真図版77 かわらけ③



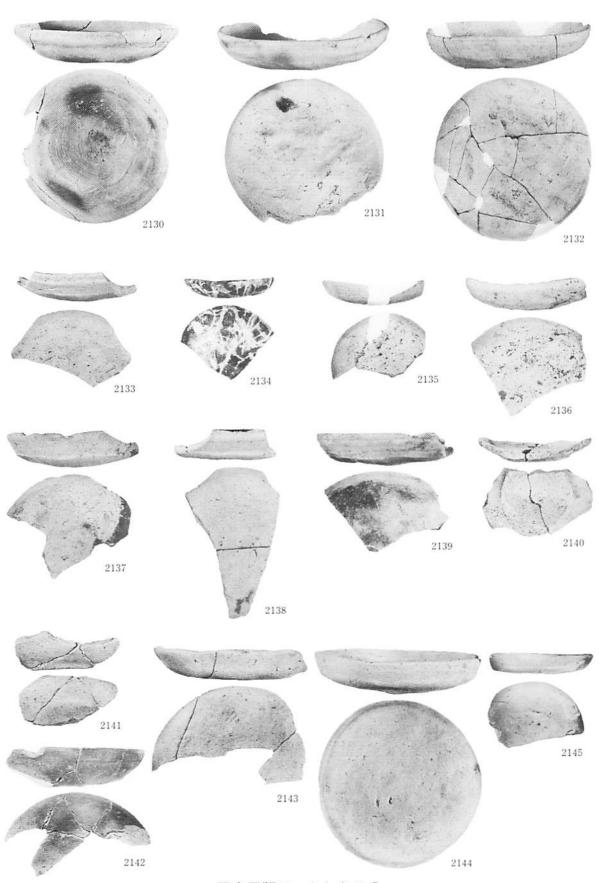
写真図版78 かわらけ④



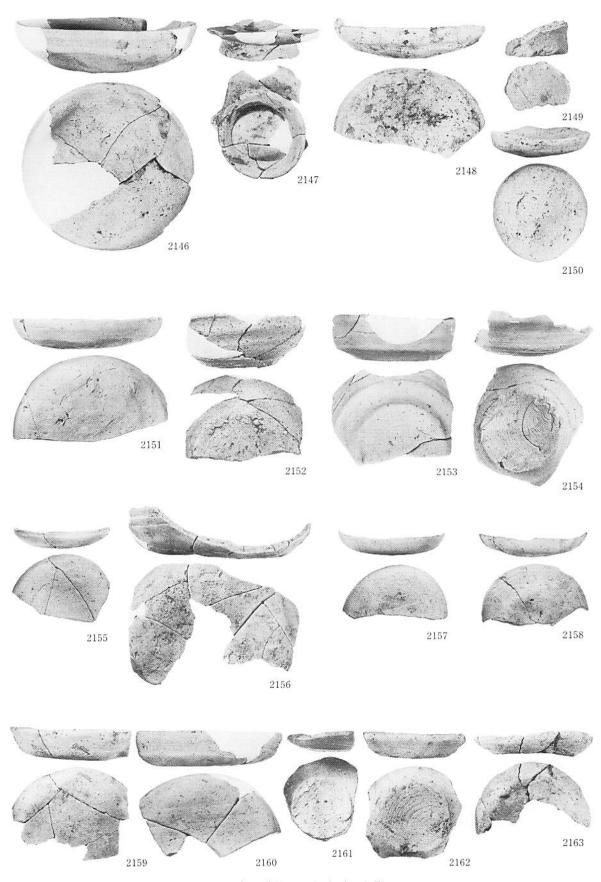
写真図版79 かわらけ⑤



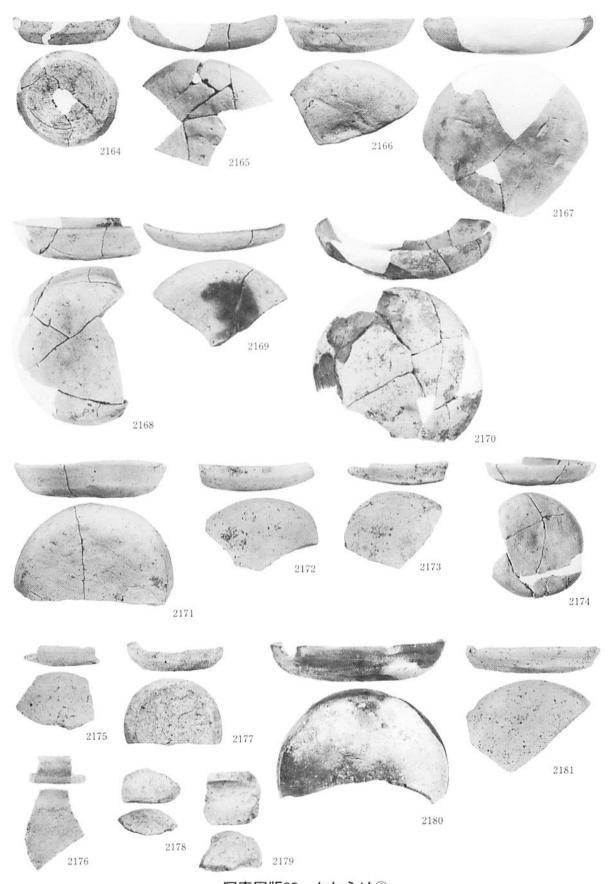
写真図版80 かわらけ⑥



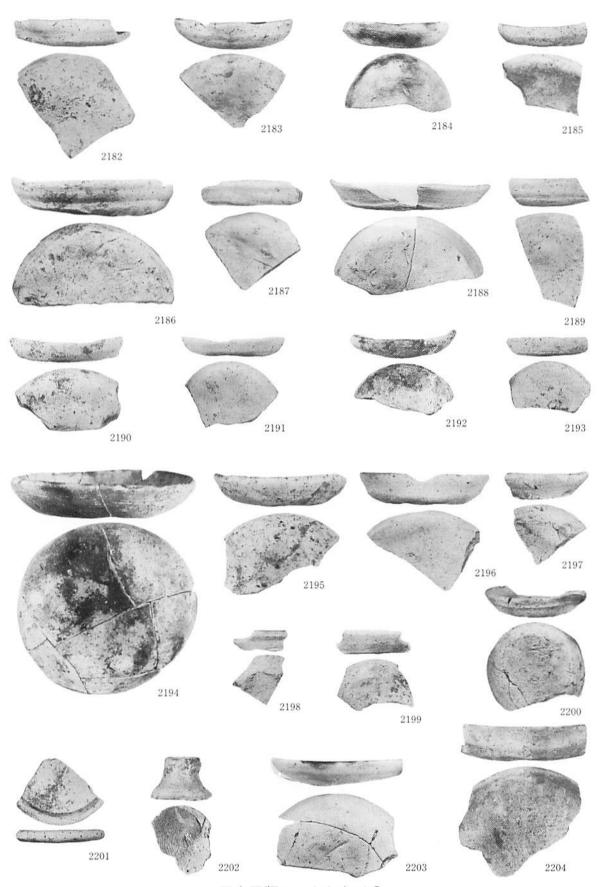
写真図版81 かわらけ⑦



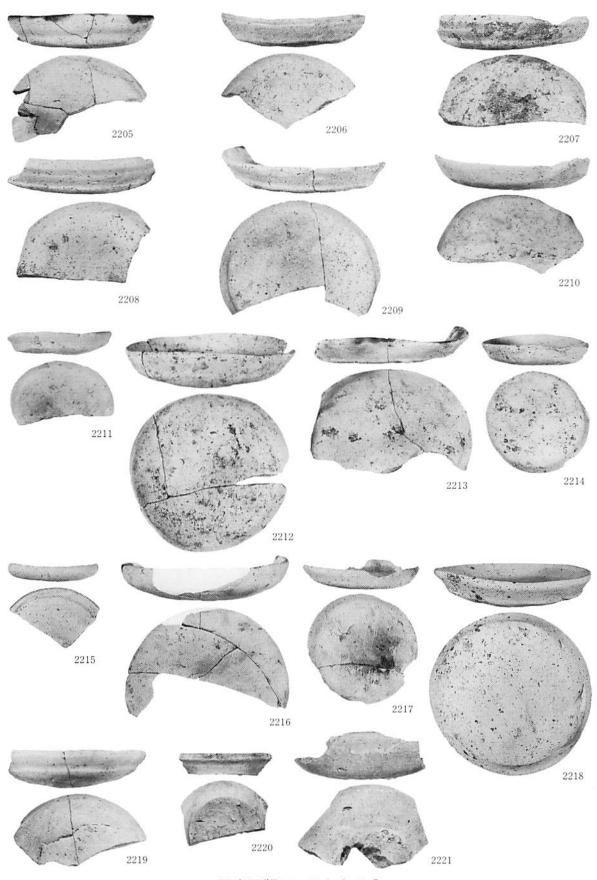
写真図版82 かわらけ⑧



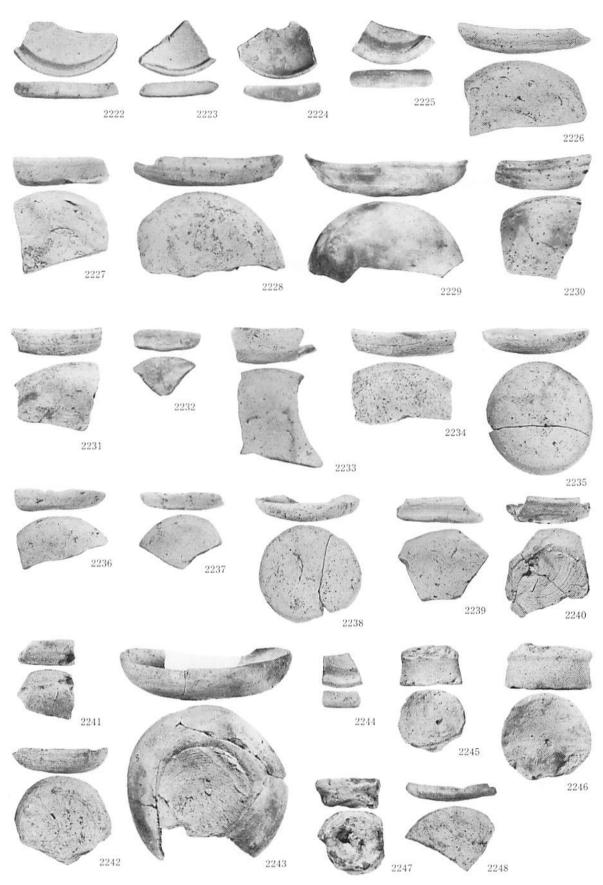
写真図版83 かわらけ⑨



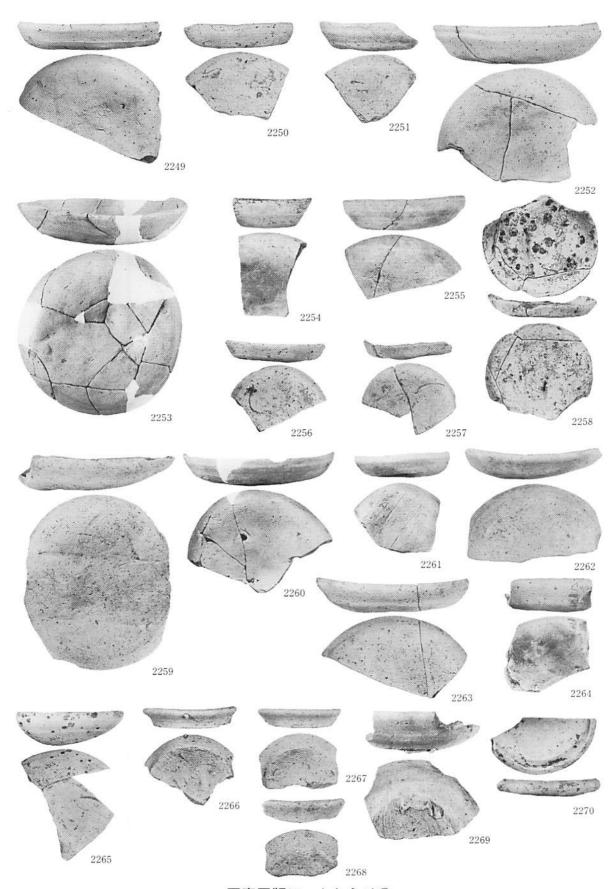
写真図版84 かわらけ⑩



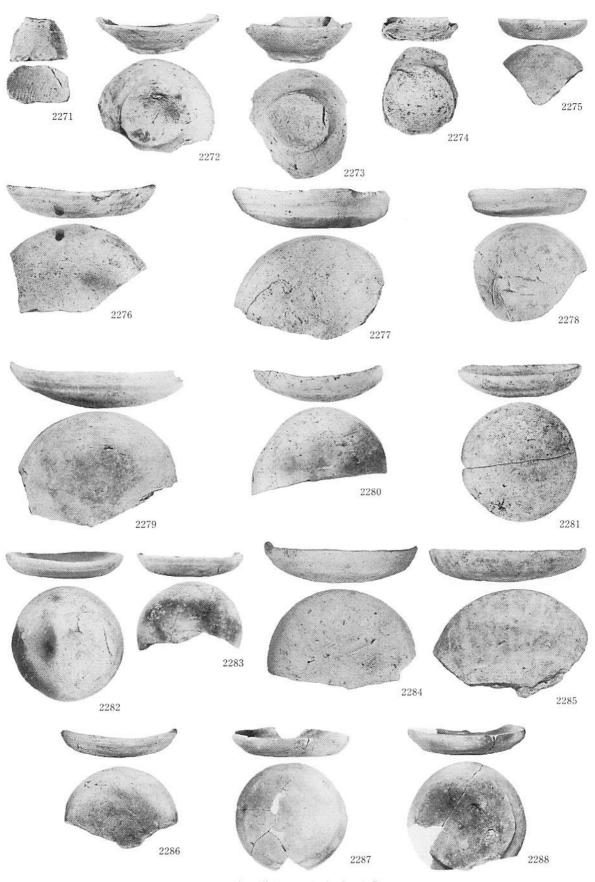
写真図版85 かわらけ⑪



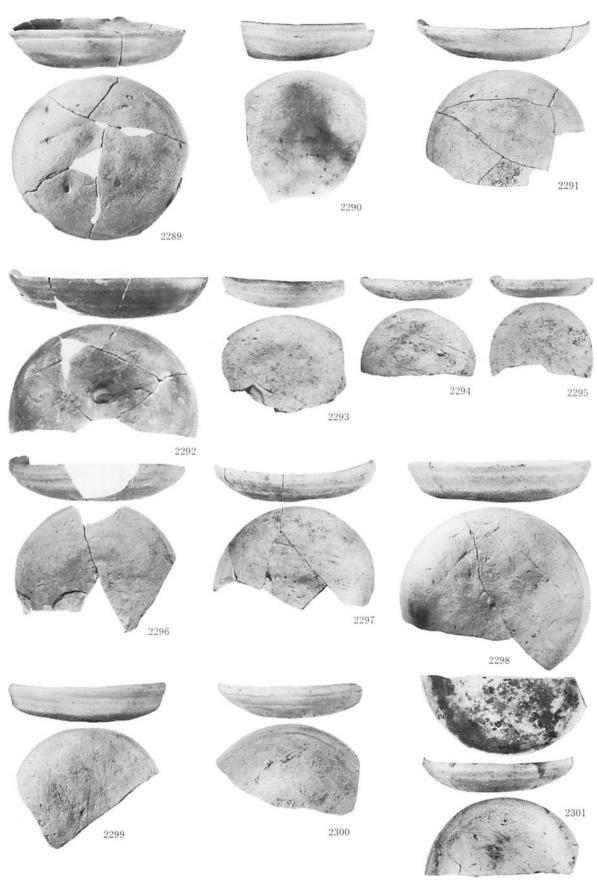
写真図版86 かわらけ⑫



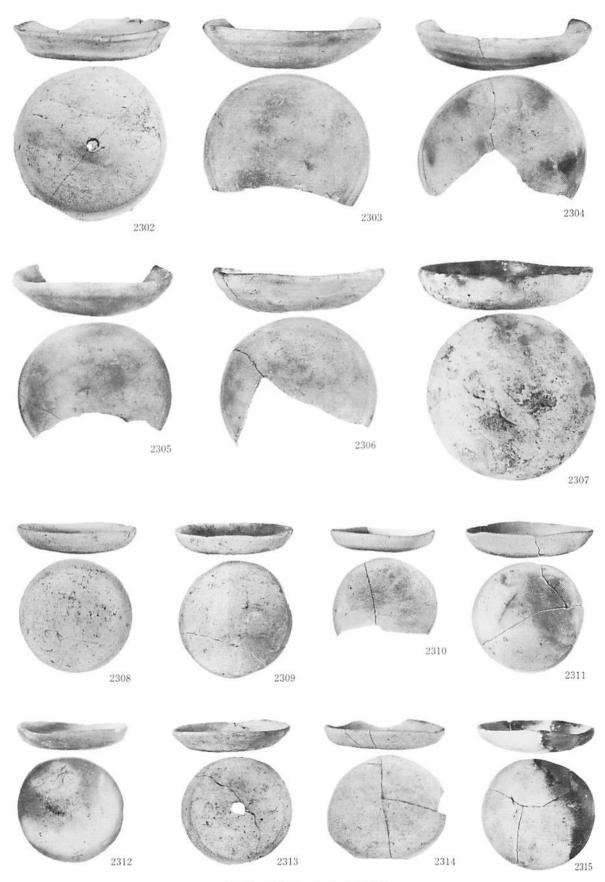
写真図版87 かわらけ⑬



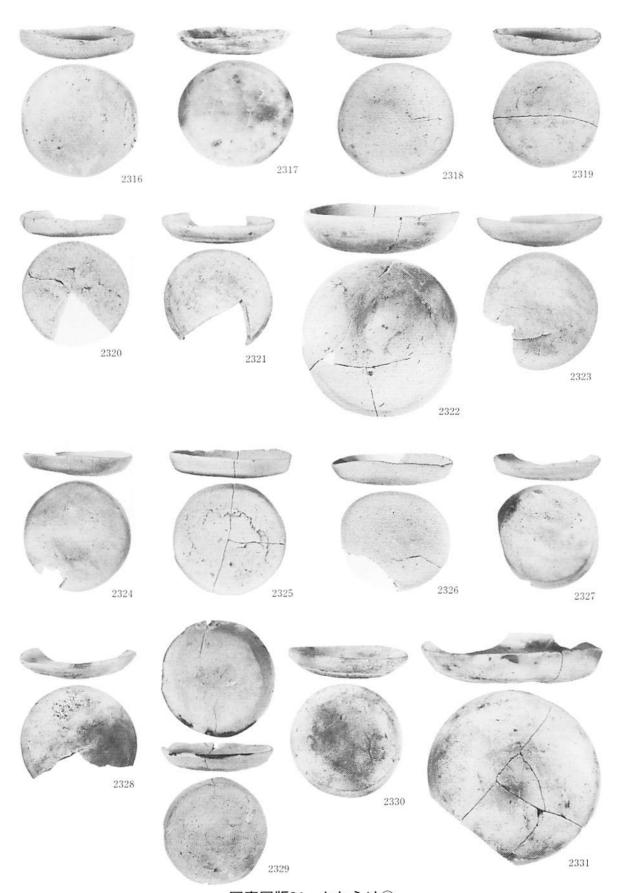
写真図版88 かわらけ⑭



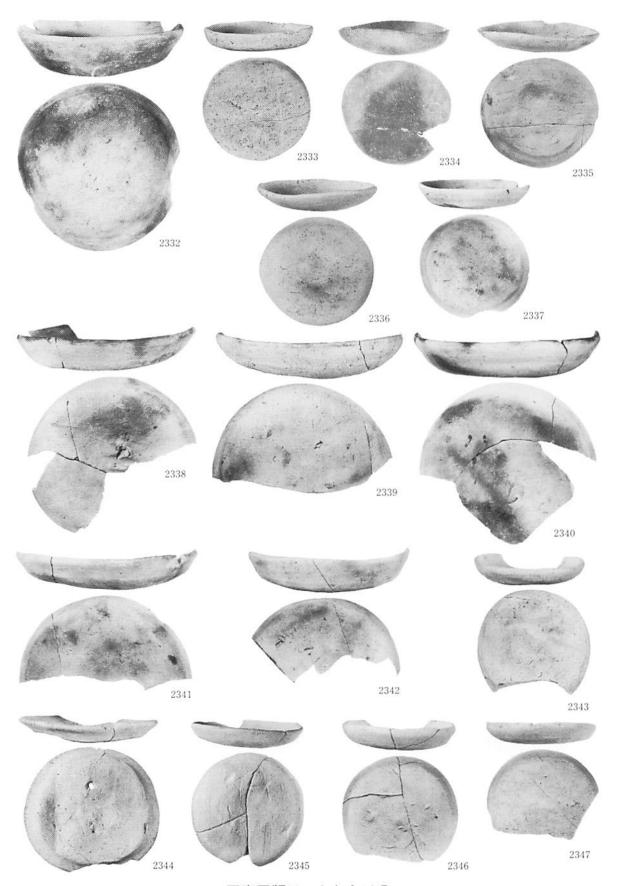
写真図版89 かわらけ⑮



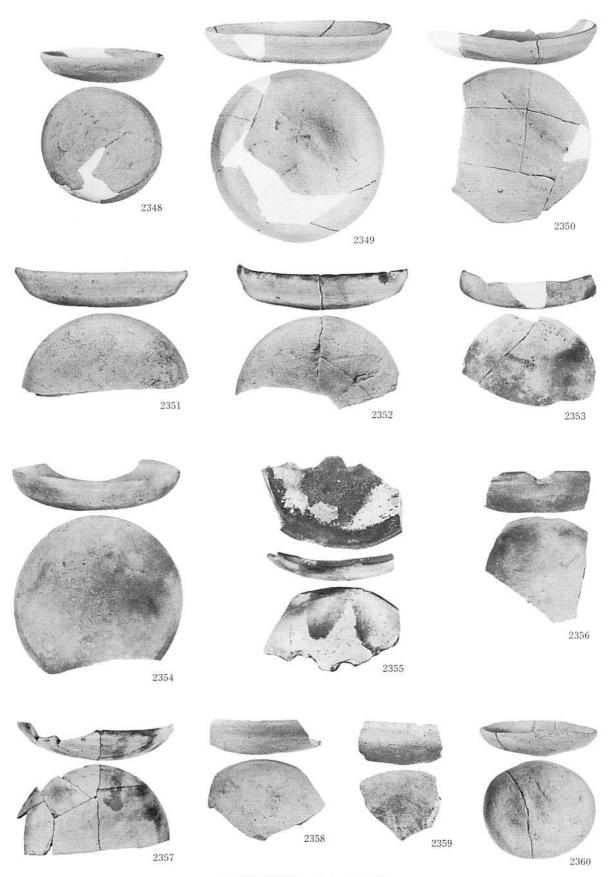
写真図版90 かわらけ⑩



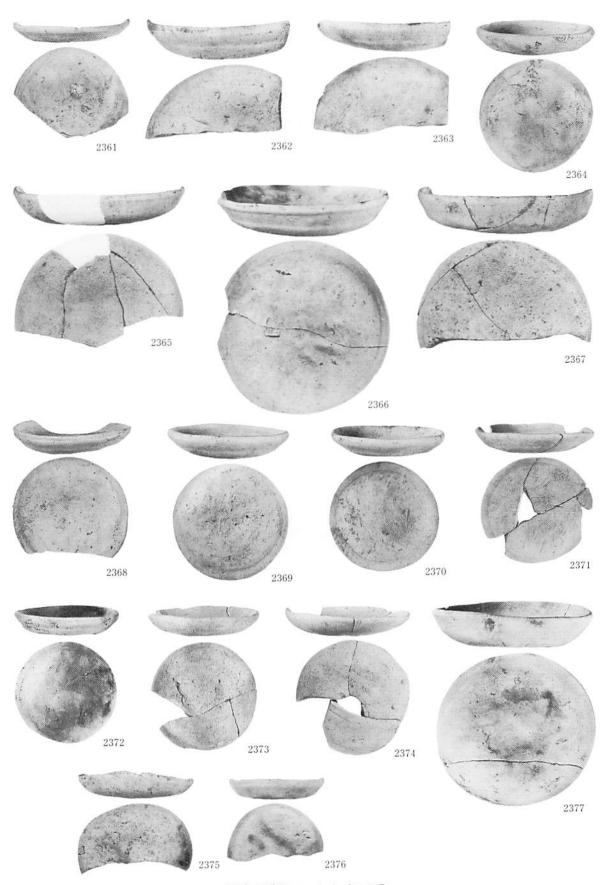
写真図版91 かわらけ⑰



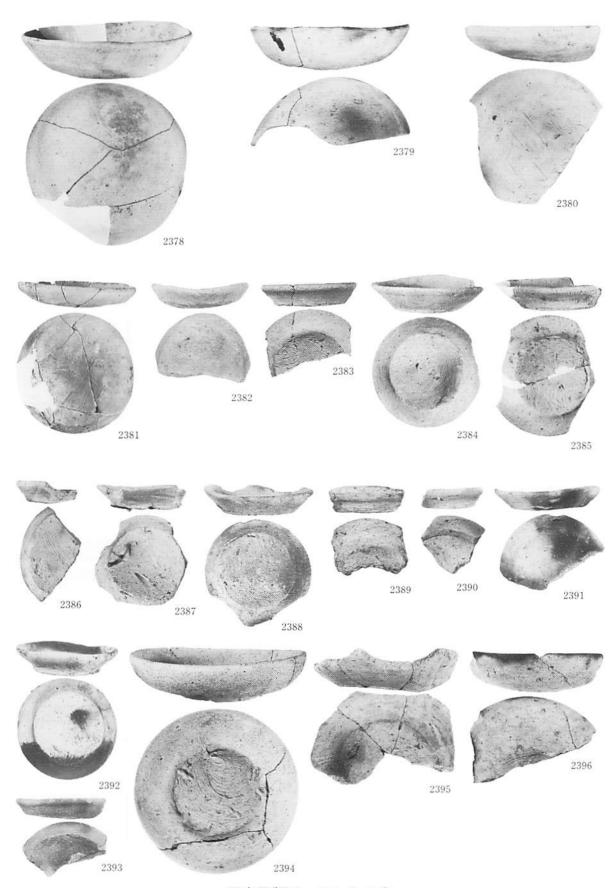
写真図版92 かわらけ®



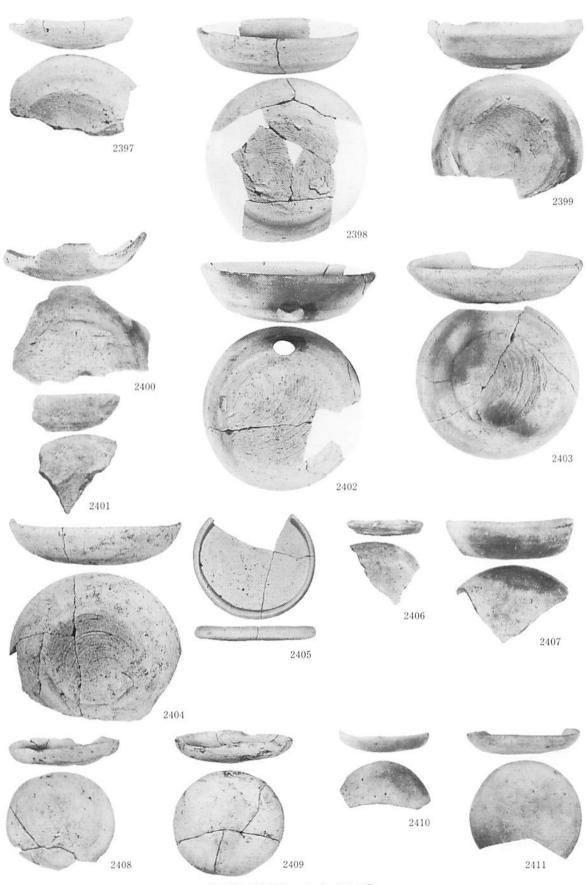
写真図版93 かわらけ⑩



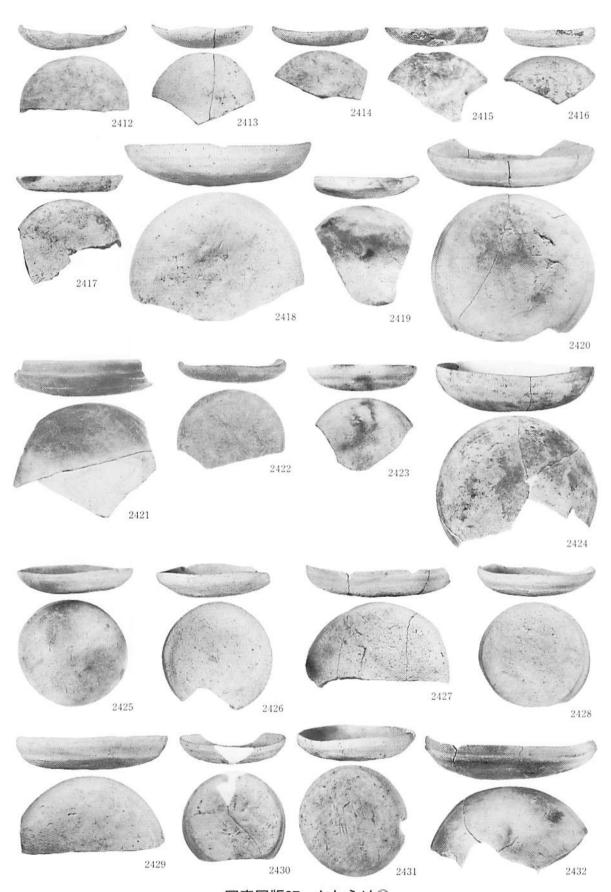
写真図版94 かわらけ20



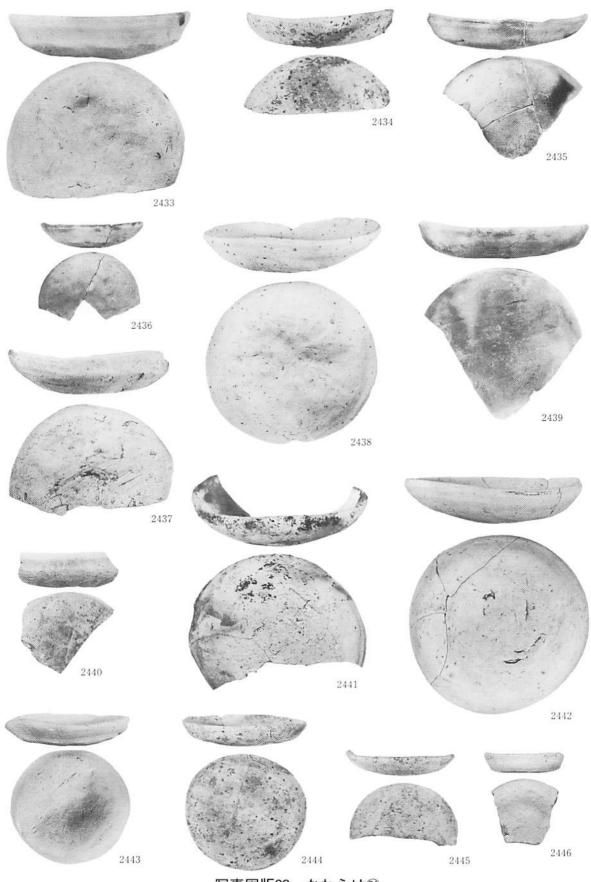
写真図版95 かわらけ②



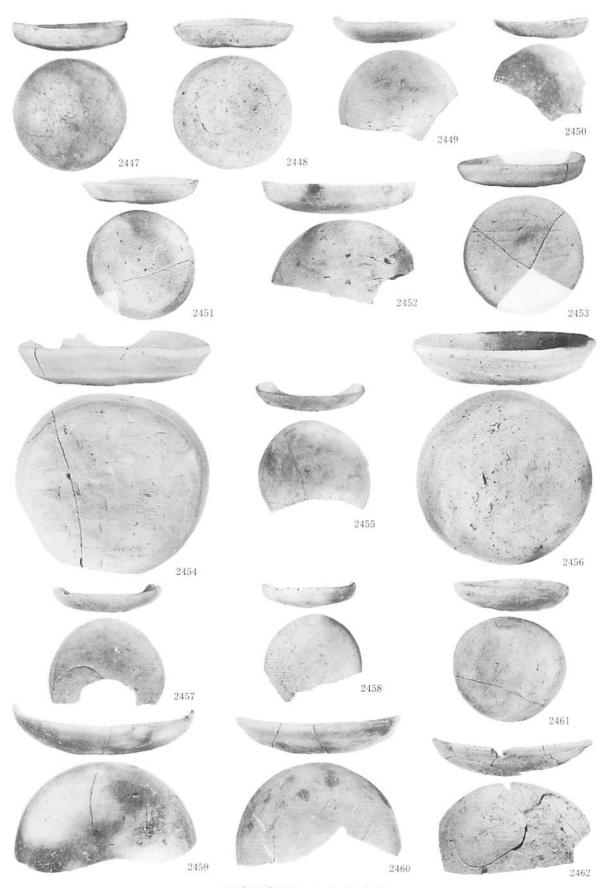
写真図版96 かわらけ◎



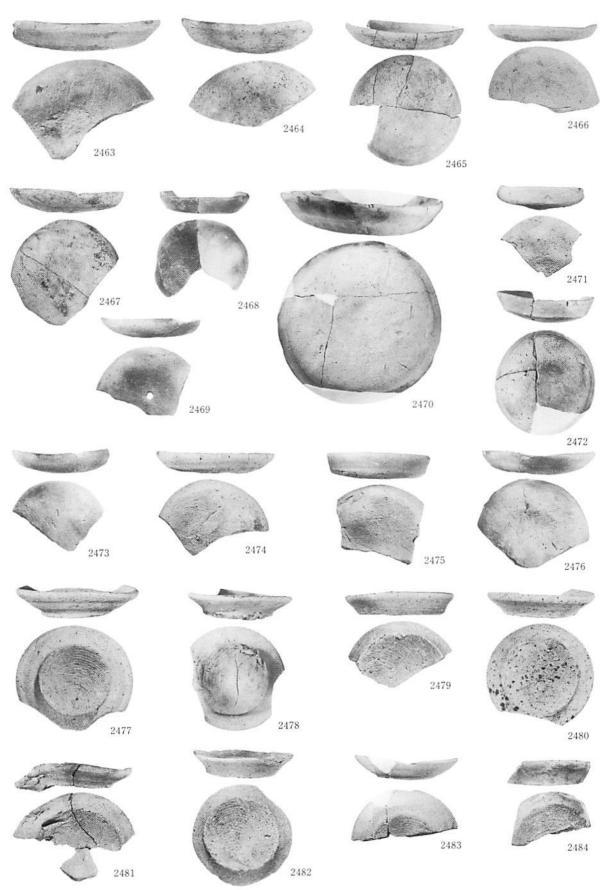
写真図版97 かわらけ②



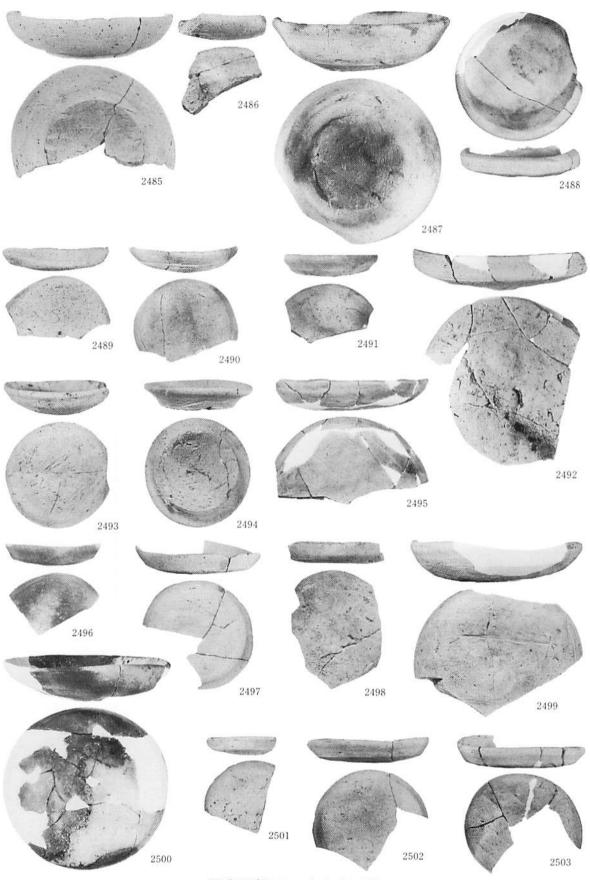
写真図版98 かわらけ29



写真図版99 かわらけ⑤



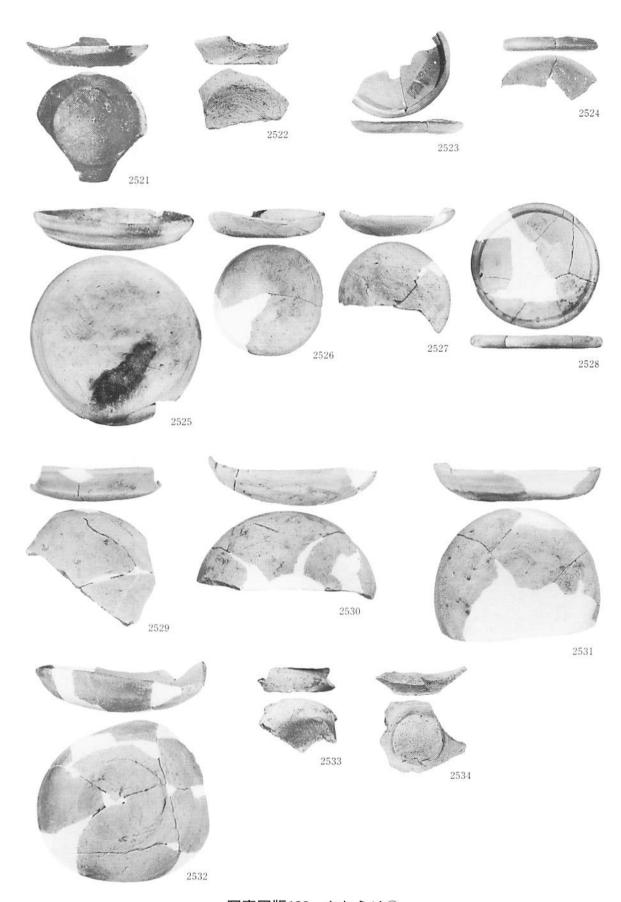
写真図版100 かわらけ⑤



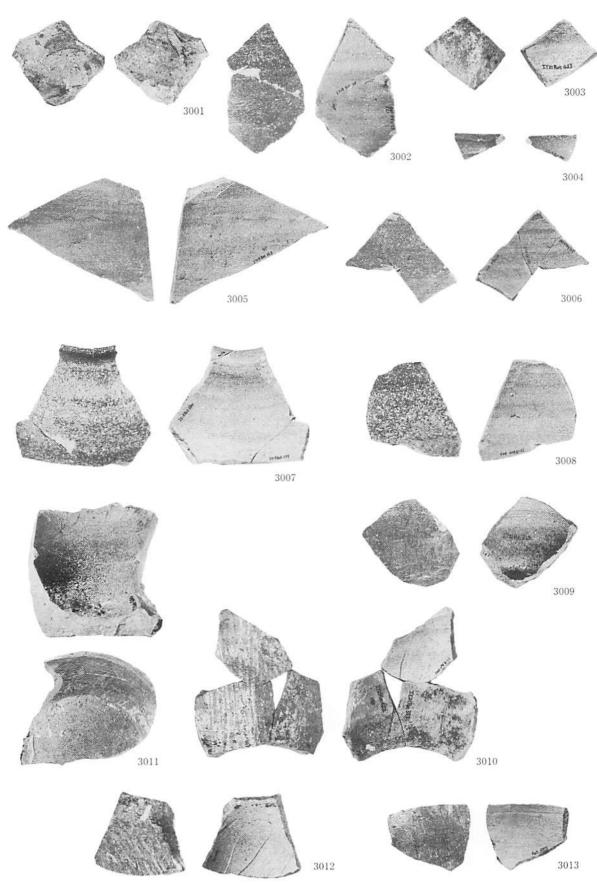
写真図版101 かわらけ②



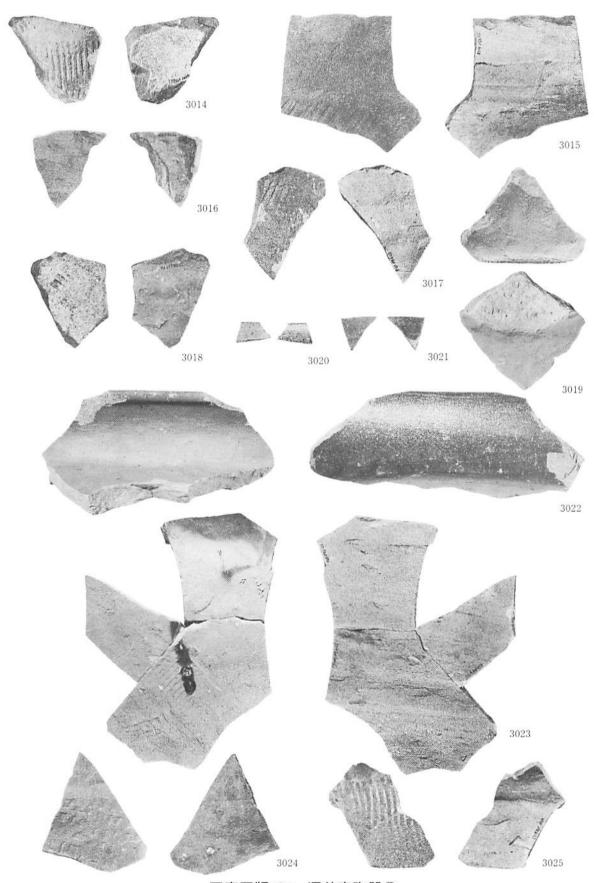
写真図版102 かわらけ28



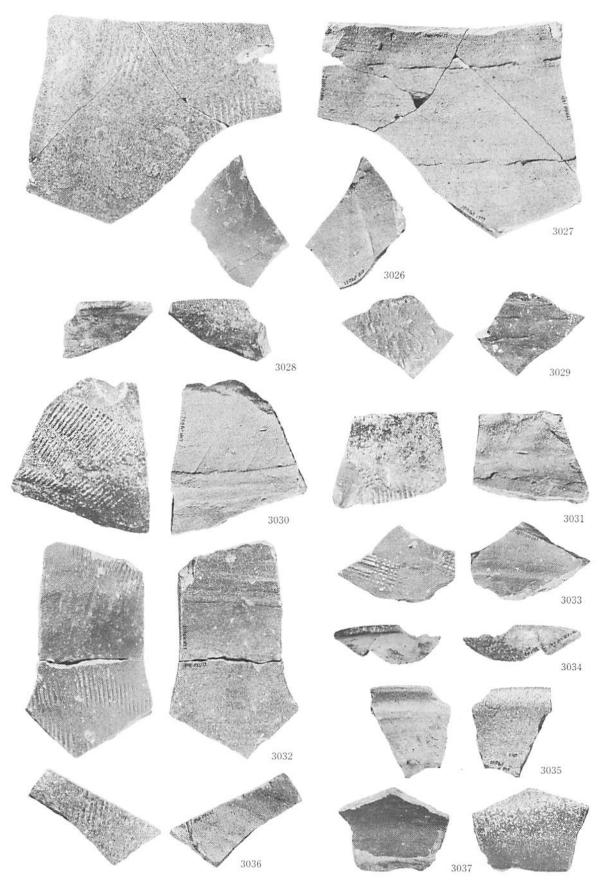
写真図版103 かわらけ29



写真図版104 猿投産陶器



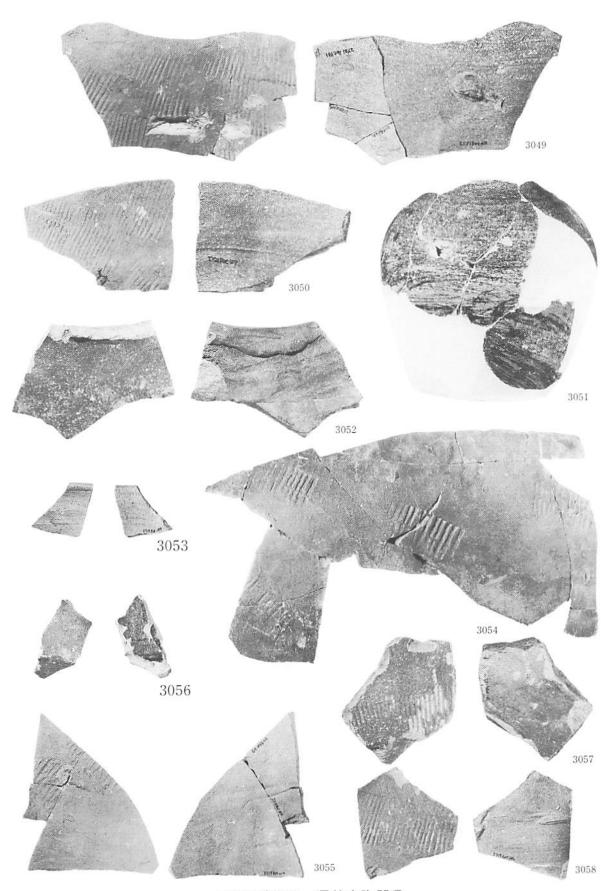
写真図版105 渥美産陶器①



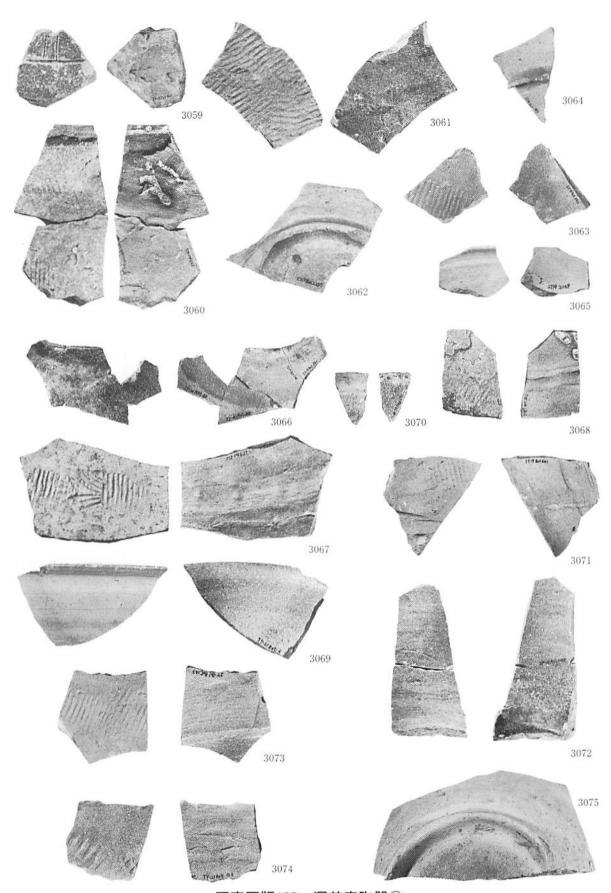
写真図版106 渥美産陶器②



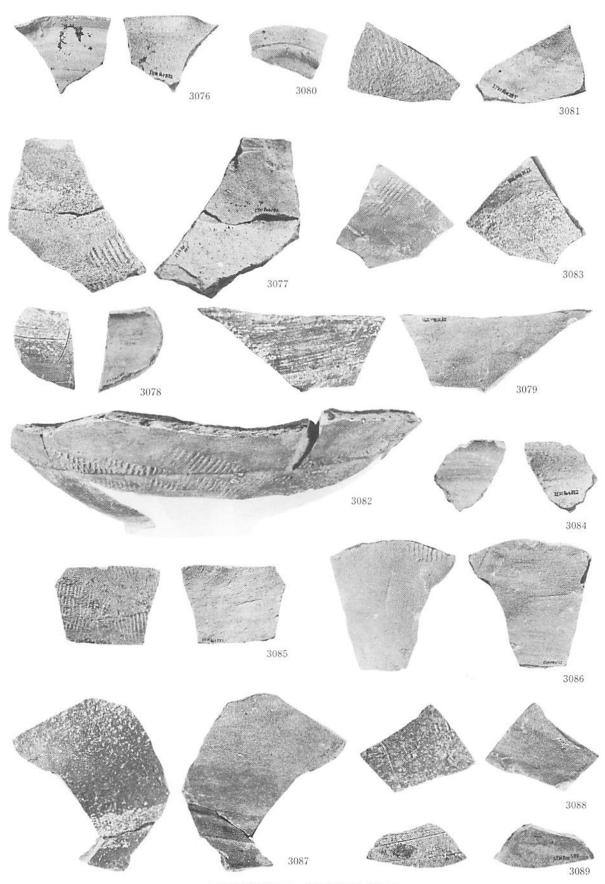
写真図版107 渥美産陶器③



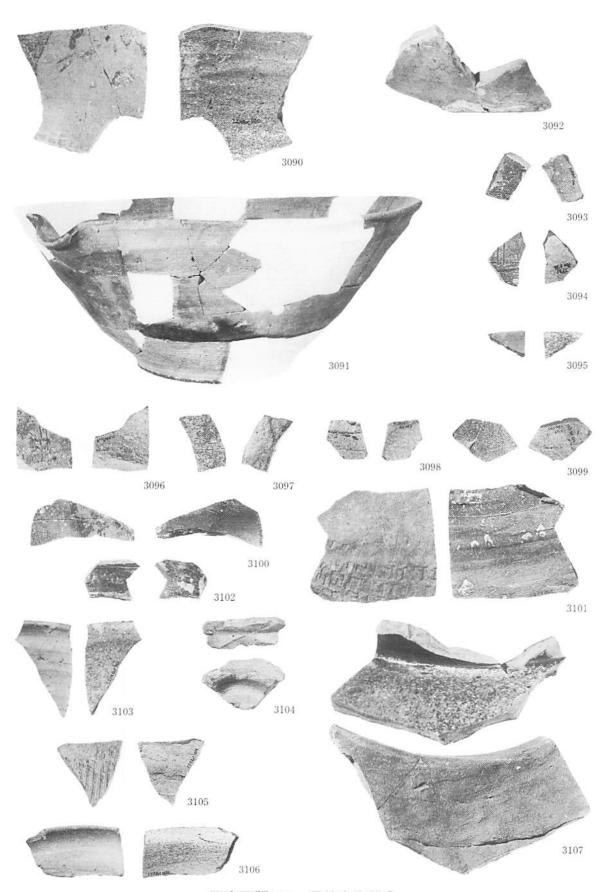
写真図版108 渥美産陶器④



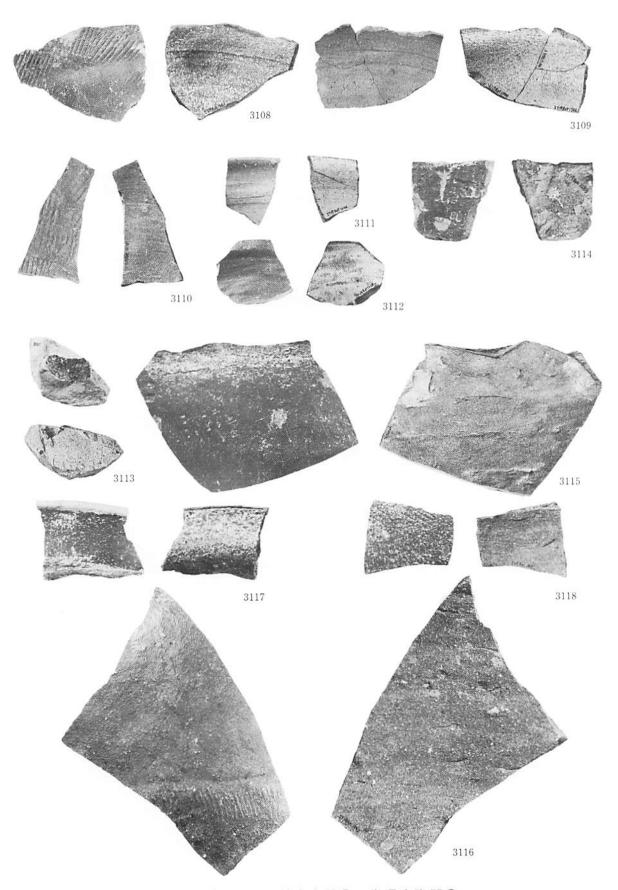
写真図版109 渥美産陶器⑤



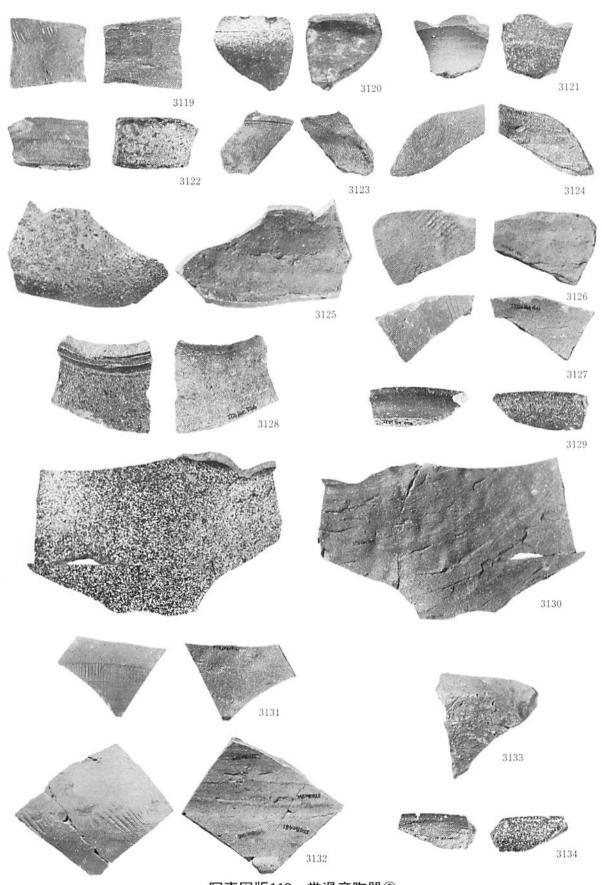
写真図版110 渥美産陶器⑥



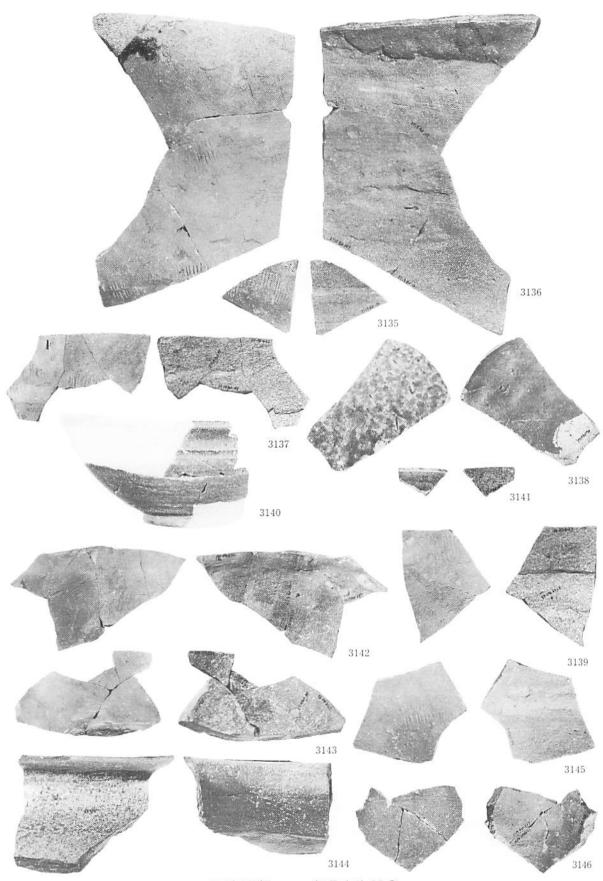
写真図版111 渥美産陶器⑦



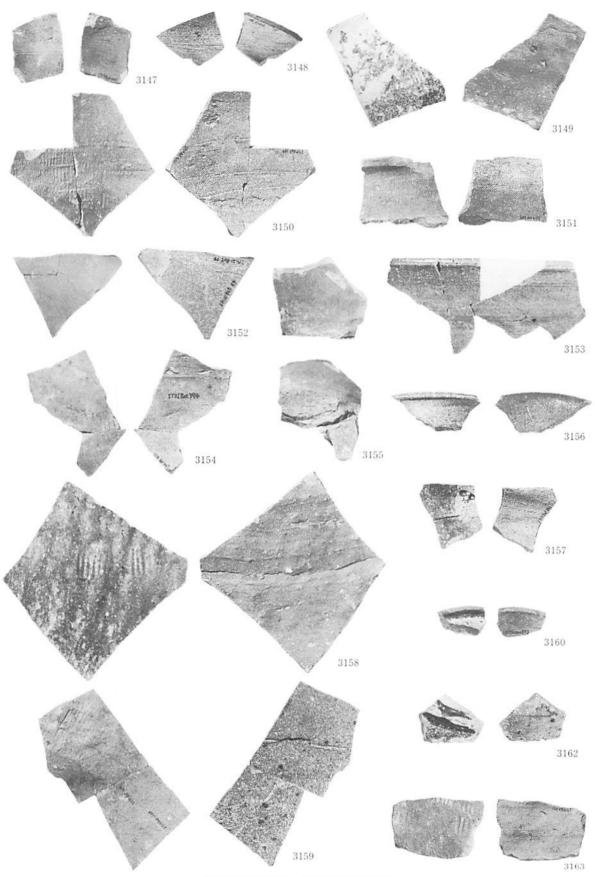
写真図版112 渥美産陶器⑧・常滑産陶器①



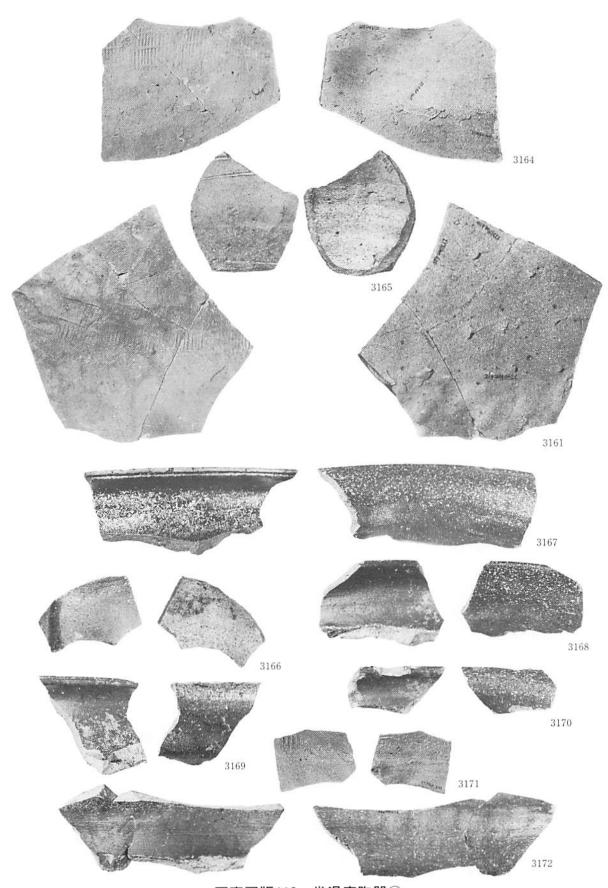
写真図版113 常滑産陶器②



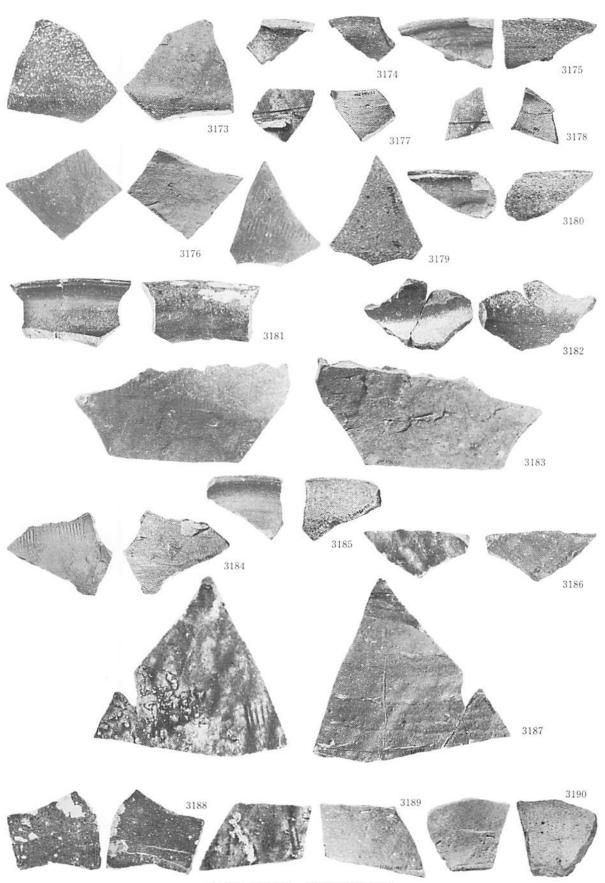
写真図版114 常滑産陶器③



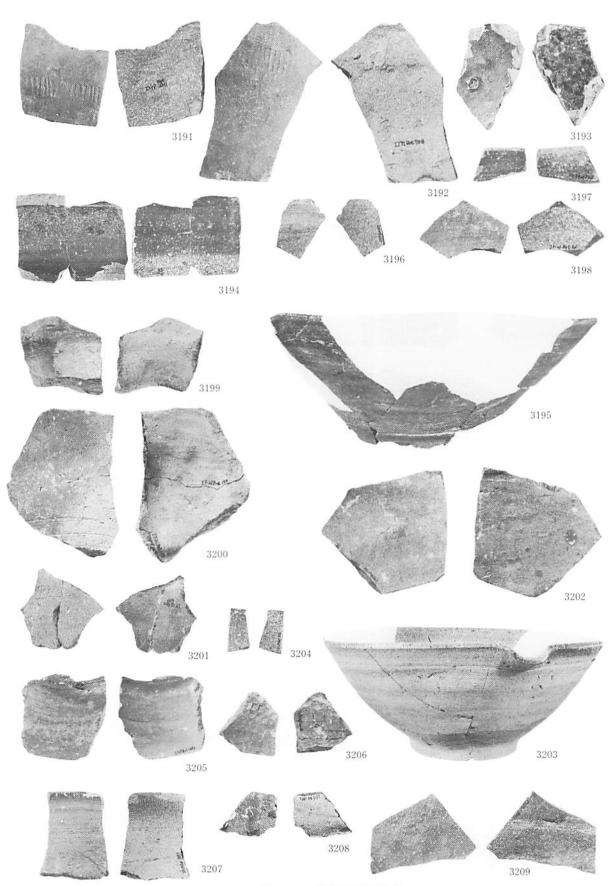
写真図版115 常滑産陶器④



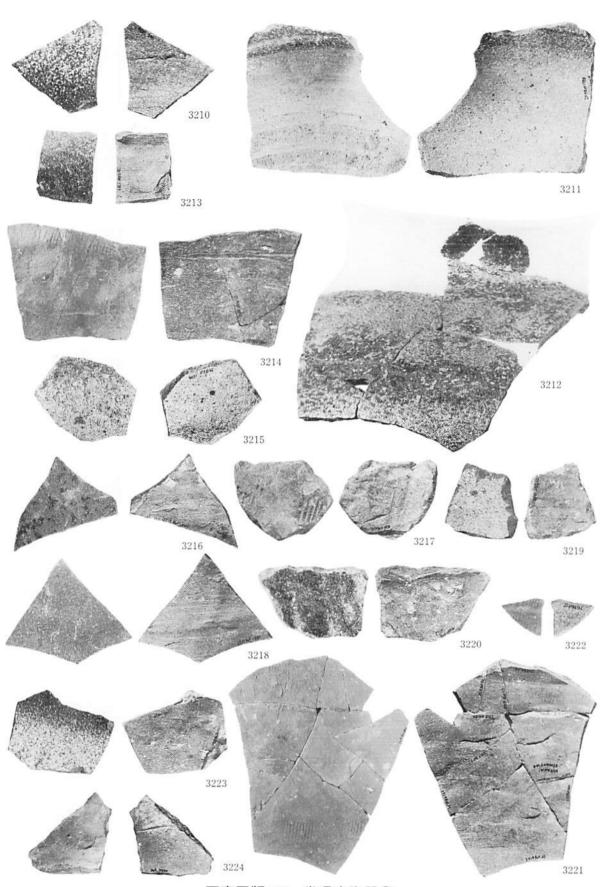
写真図版116 常滑産陶器⑤



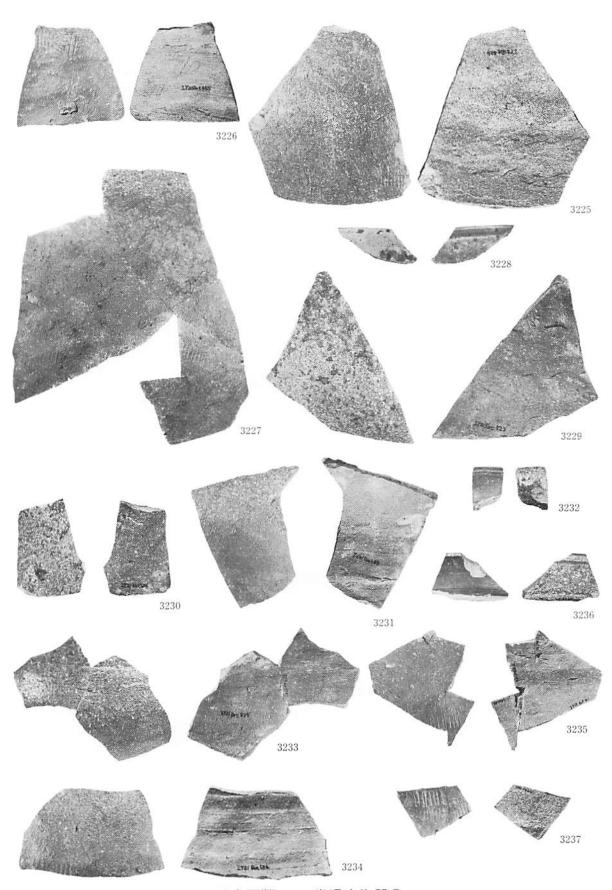
写真図版117 常滑産陶器⑥



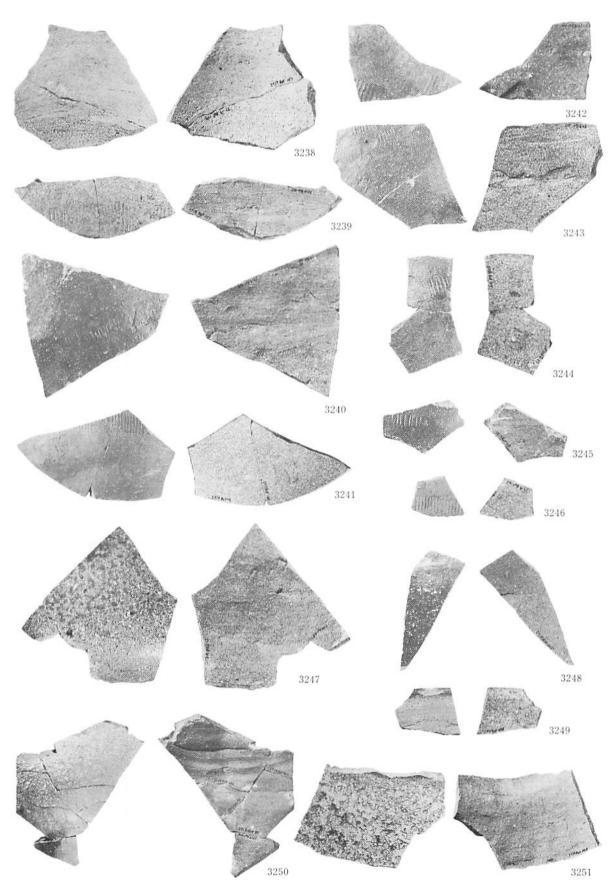
写真図版118 常滑産陶器⑦



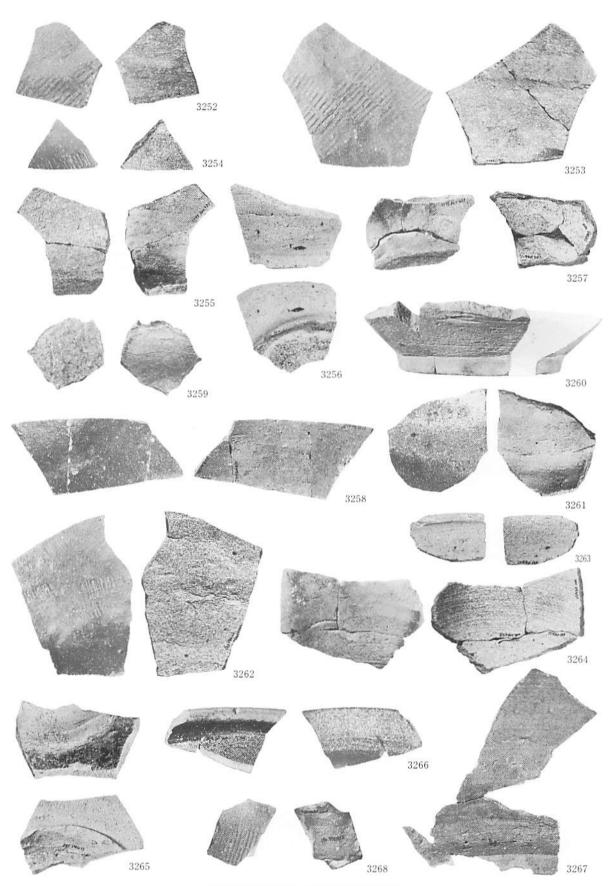
写真図版119 常滑産陶器⑧



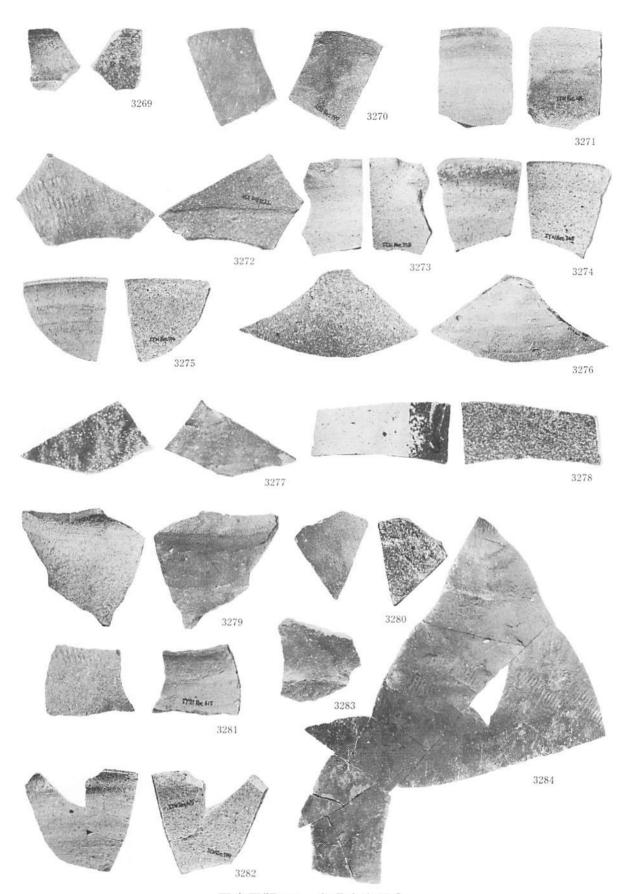
写真図版120 常滑産陶器⑨



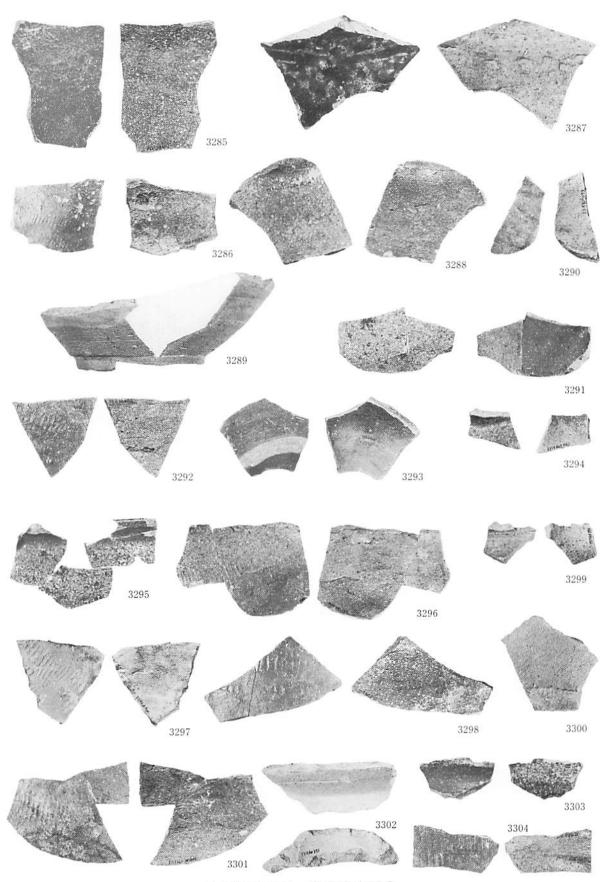
写真図版121 常滑産陶器⑩



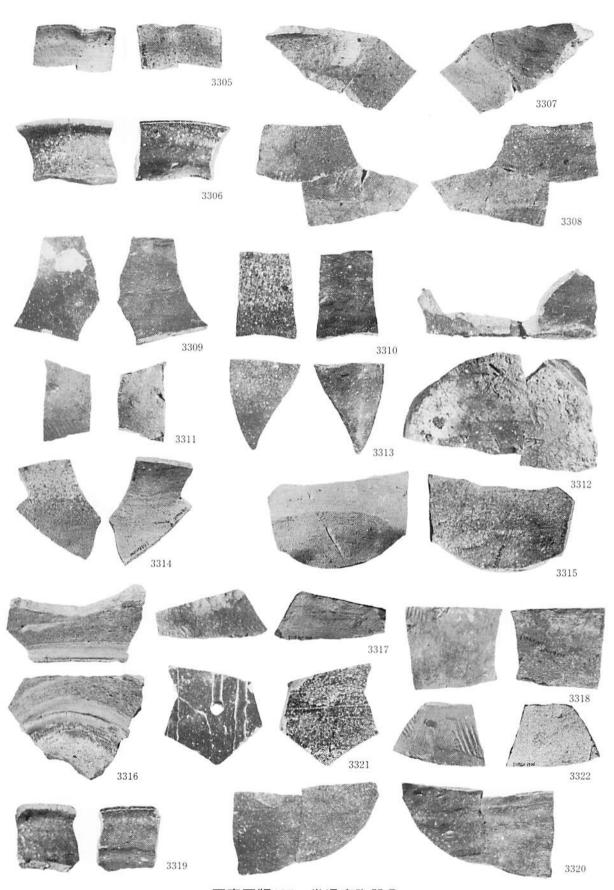
写真図版122 常滑産陶器①



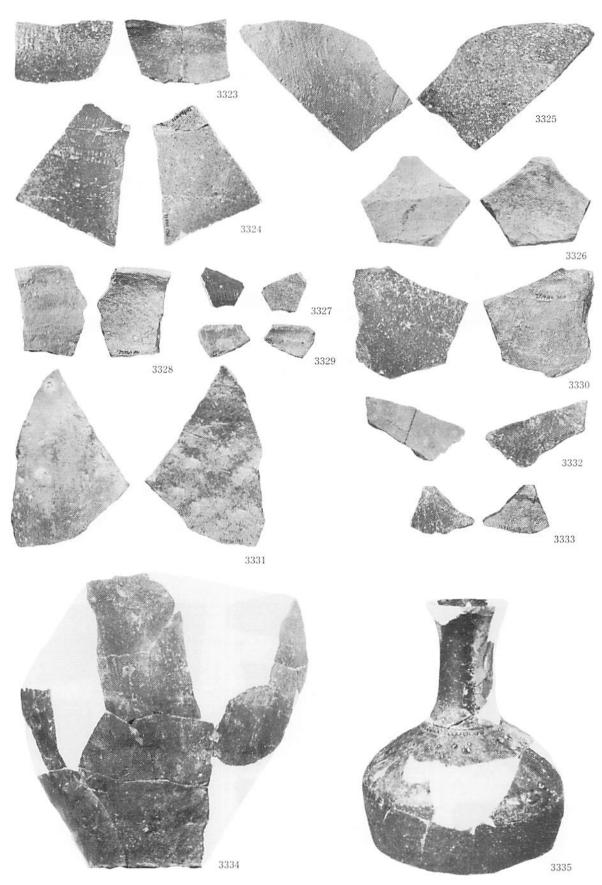
写真図版123 常滑産陶器①



写真図版124 常滑産陶器③



写真図版125 常滑産陶器⑭

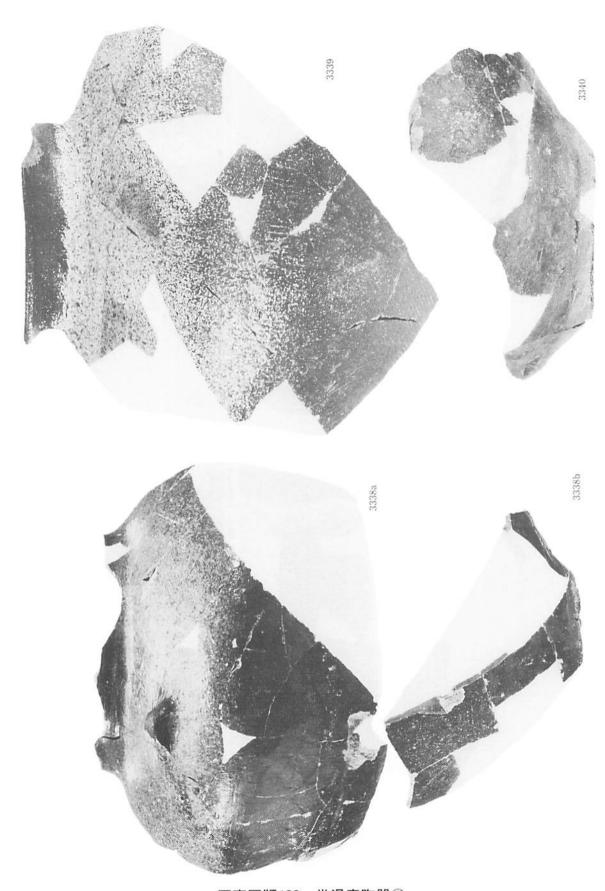


写真図版126 常滑産陶器⑤

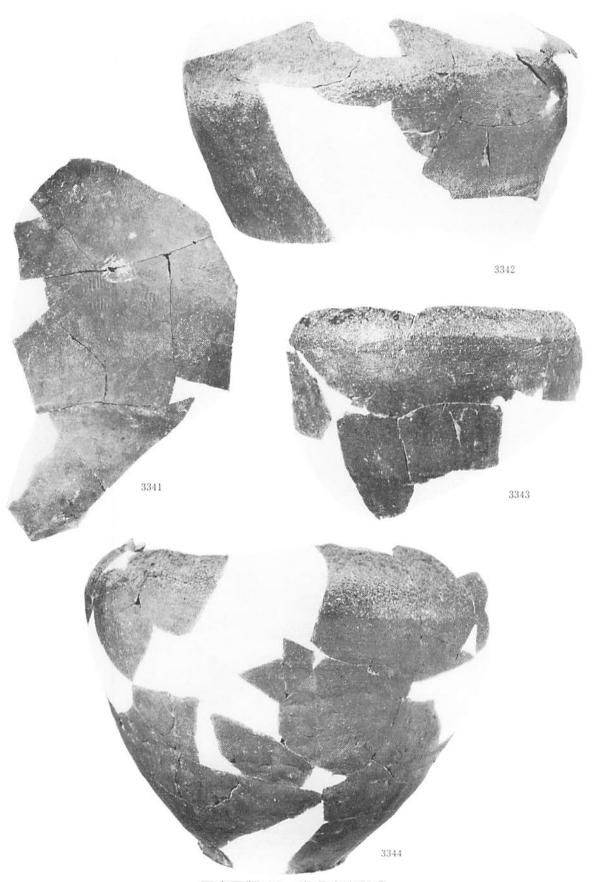




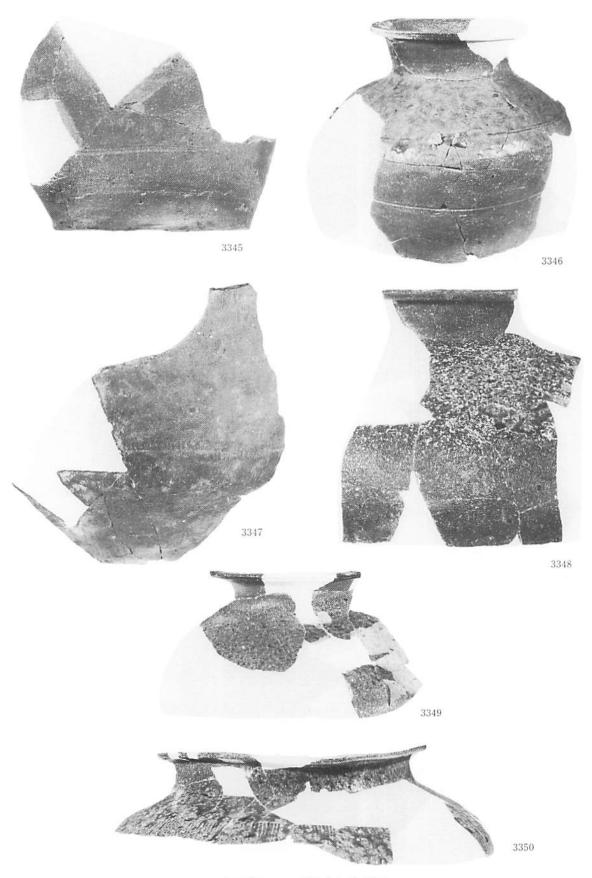
写真図版127 常滑産陶器16



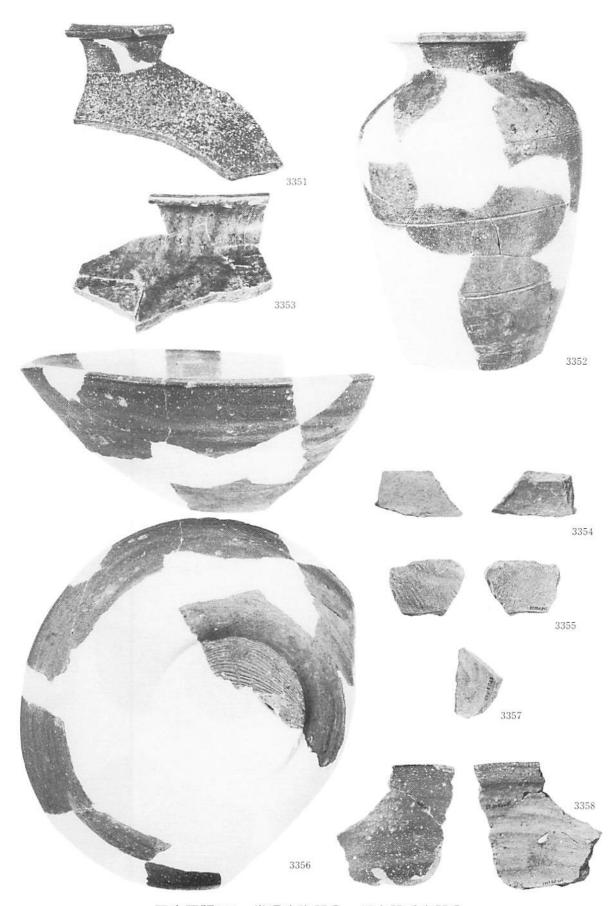
写真図版128 常滑産陶器①



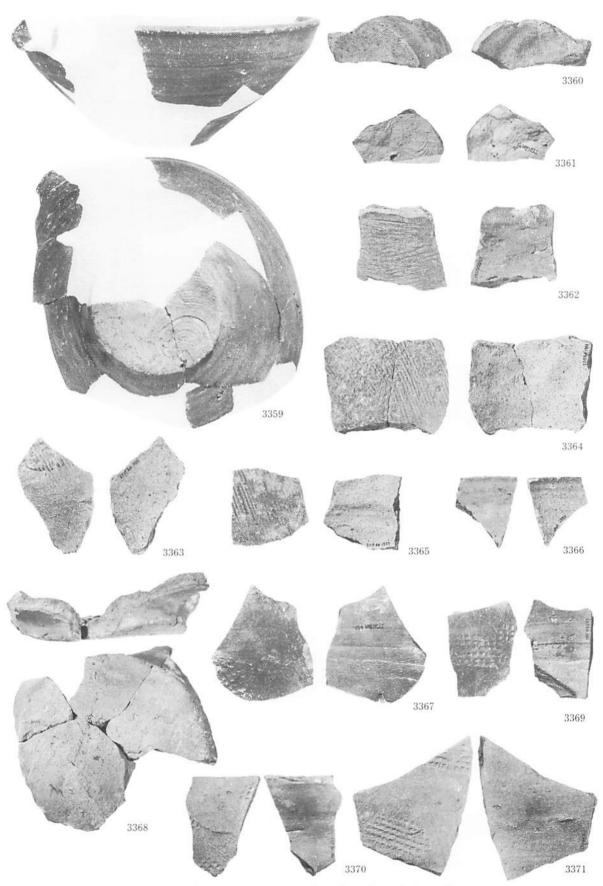
写真図版129 常滑産陶器®



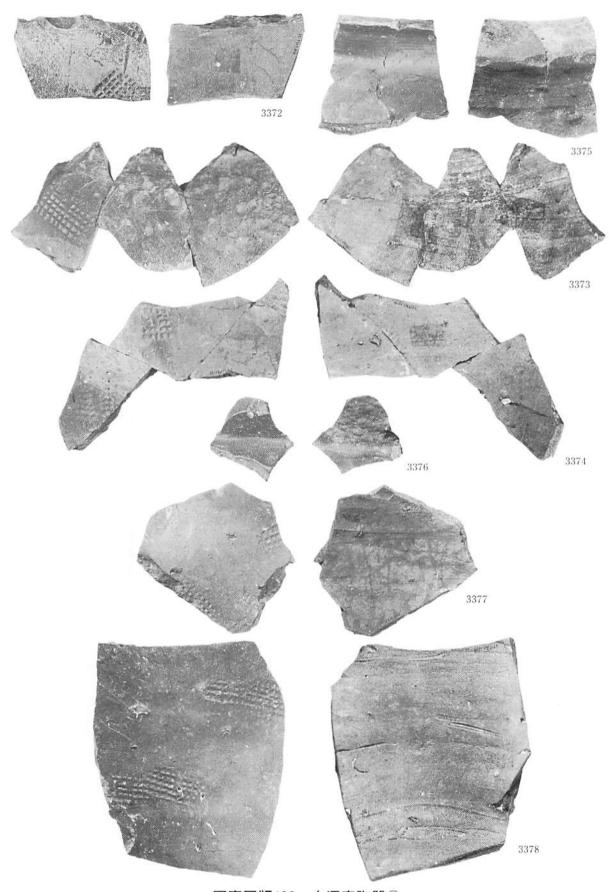
写真図版130 常滑産陶器19



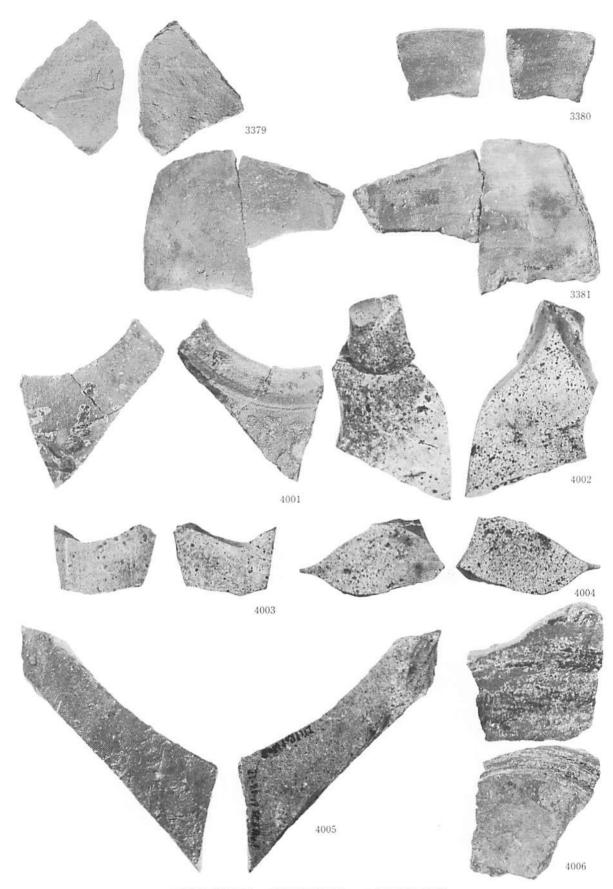
写真図版131 常滑産陶器②・須恵器系陶器①



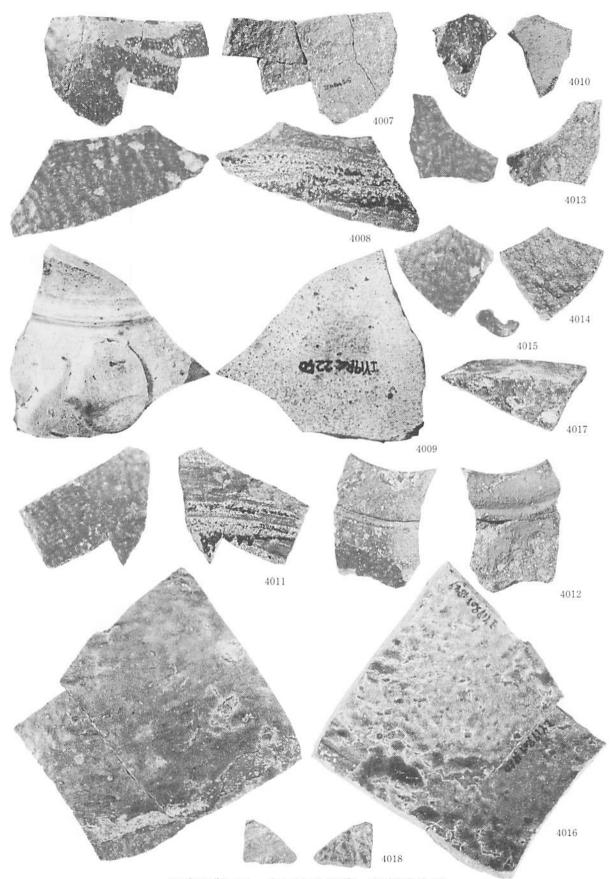
写真図版132 須恵器系陶器②・水沼産陶器①



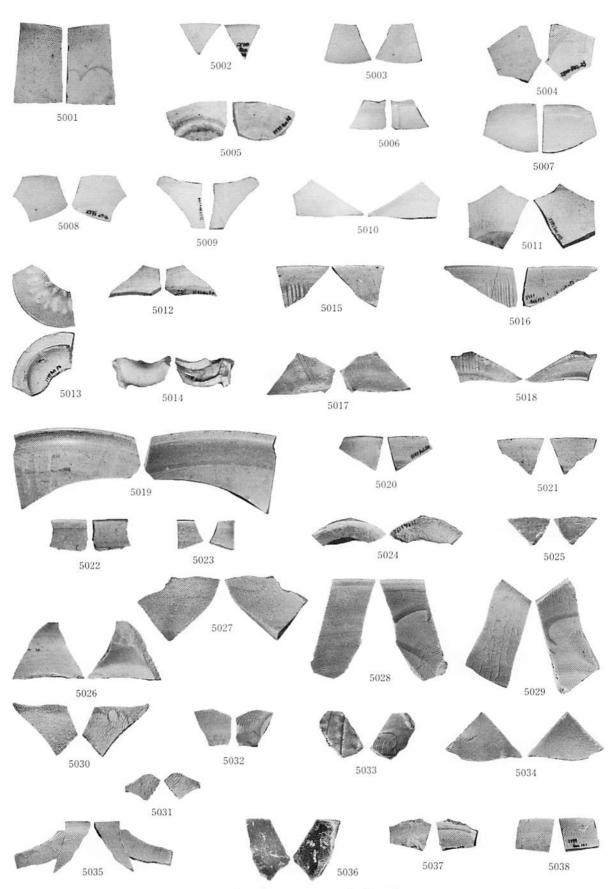
写真図版133 水沼産陶器②



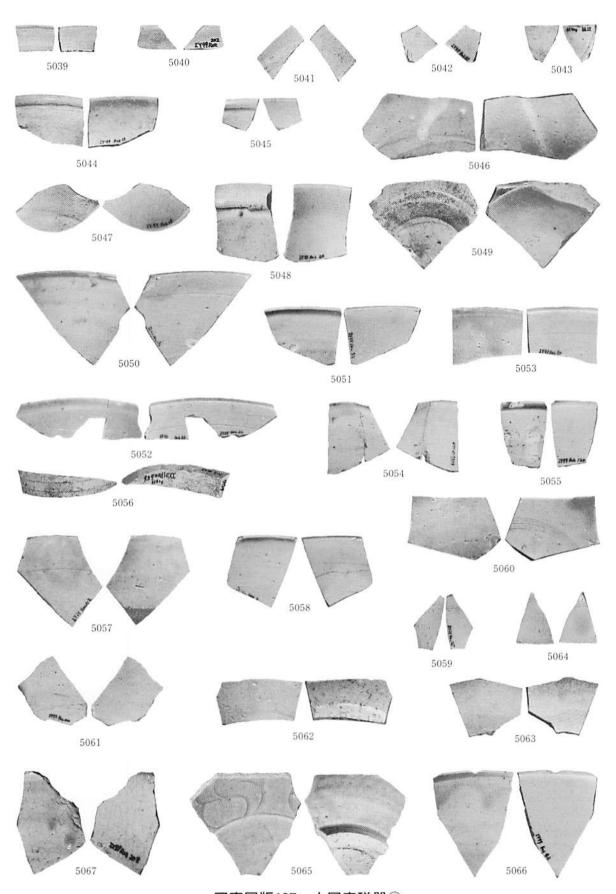
写真図版134 瓷器系陶器・中国産陶器①



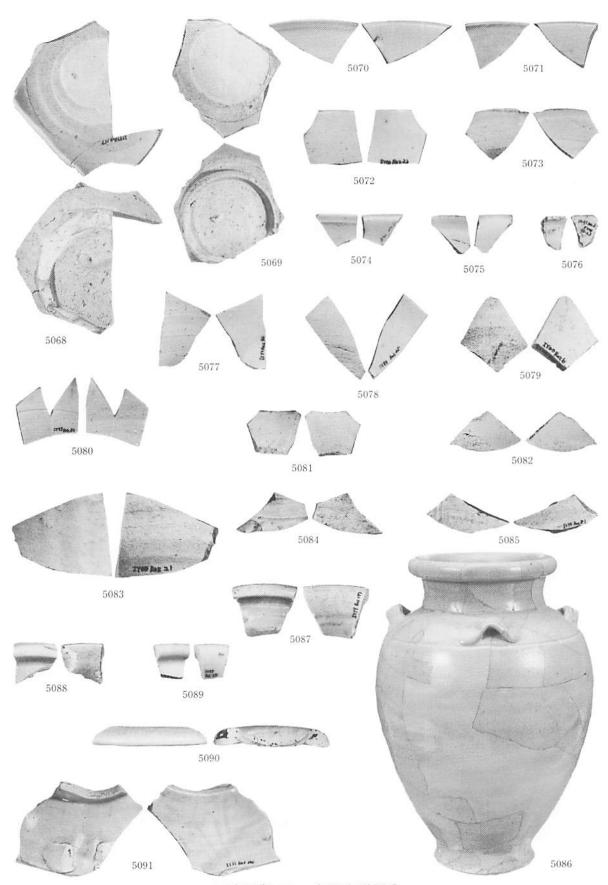
写真図版135 中国産陶器②・朝鮮産陶器



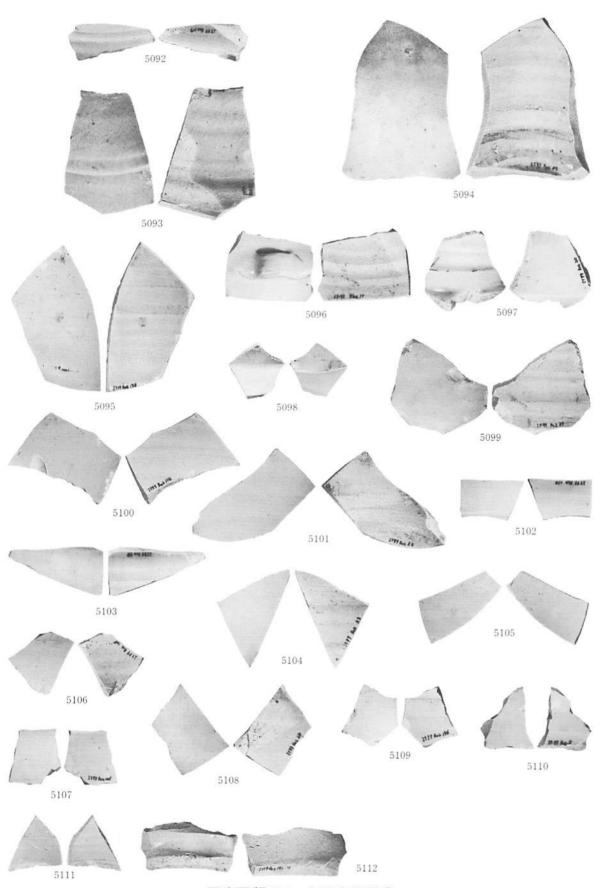
写真図版136 中国産磁器①



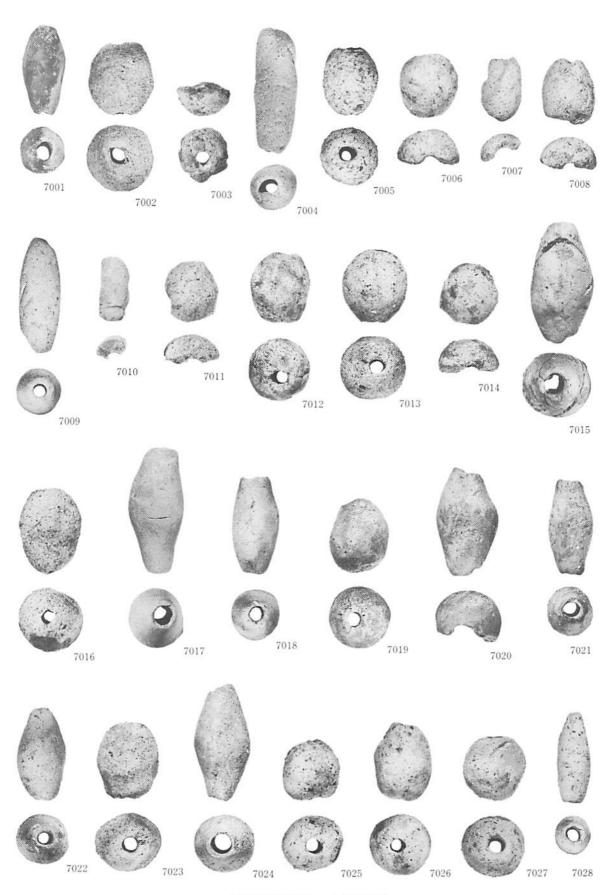
写真図版137 中国産磁器②



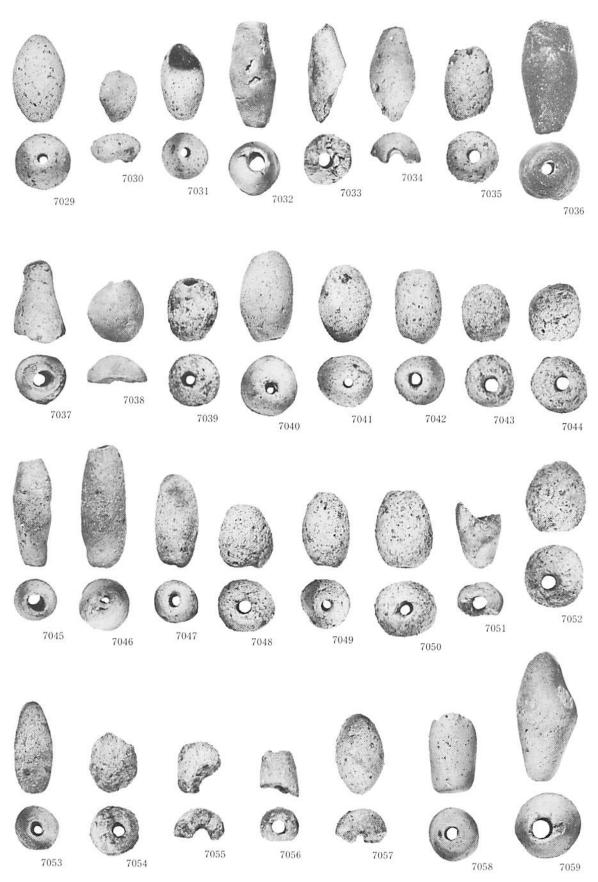
写真図版138 中国産磁器③



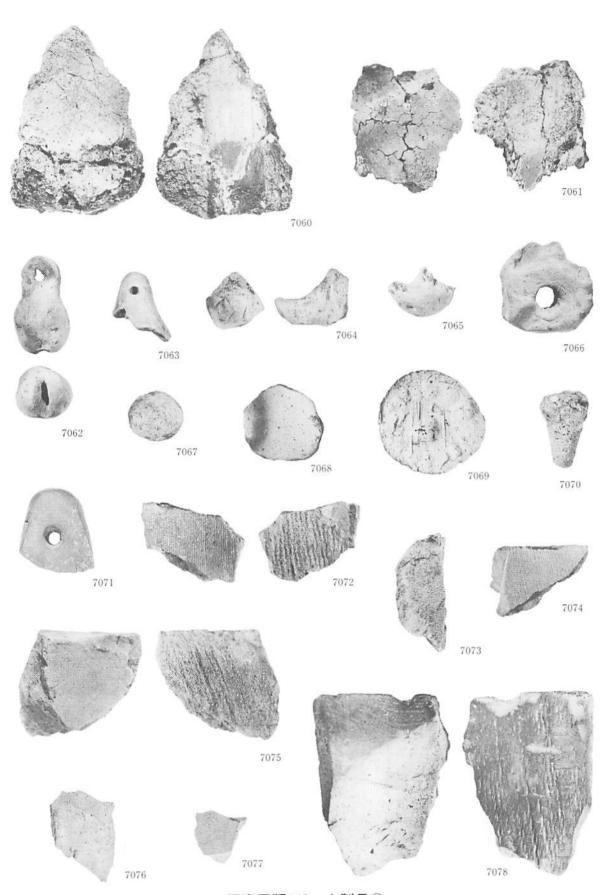
写真図版139 中国産磁器④



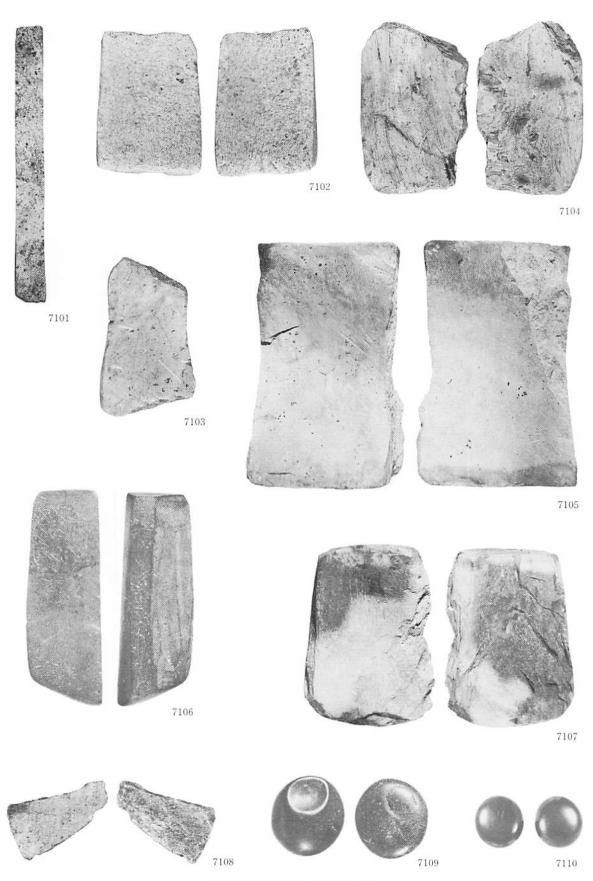
写真図版140 土製品①



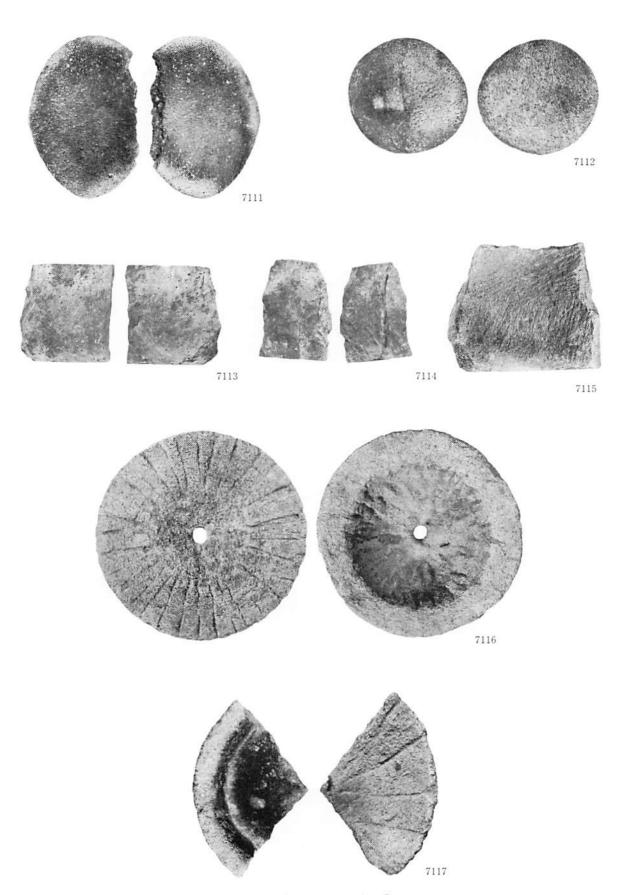
写真図版141 土製品②



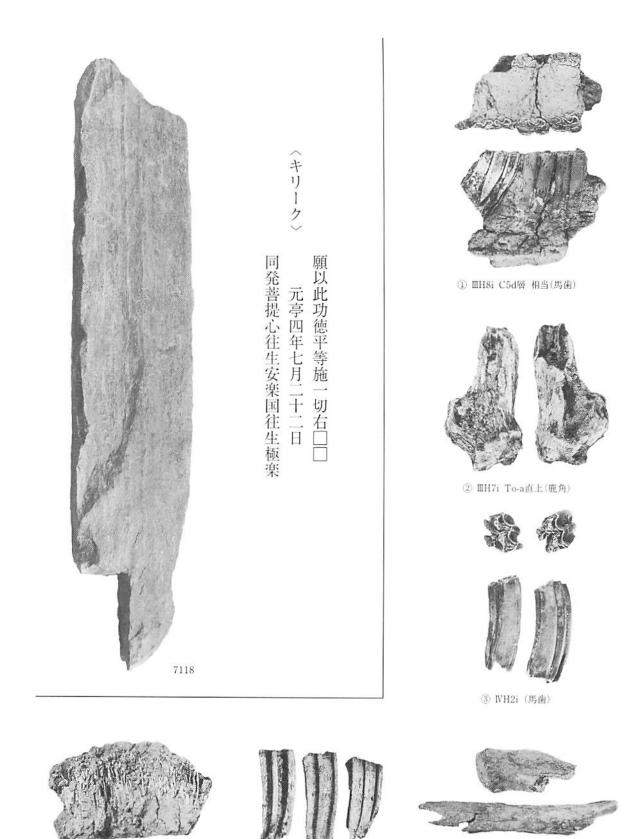
写真図版142 土製品③



写真図版143 石製品①



写真図版144 石製品②

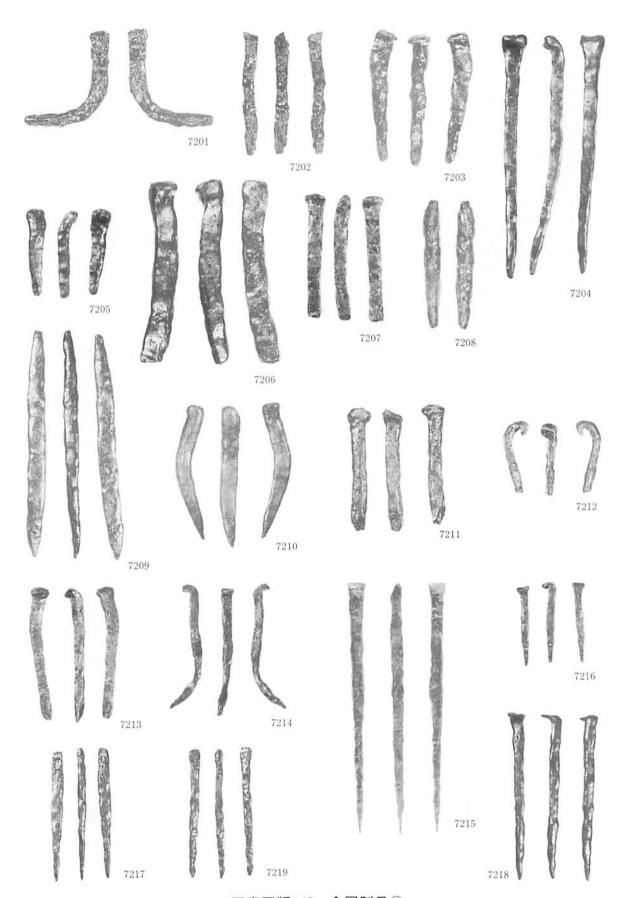


写真図版145 石製品③・動物遺存体

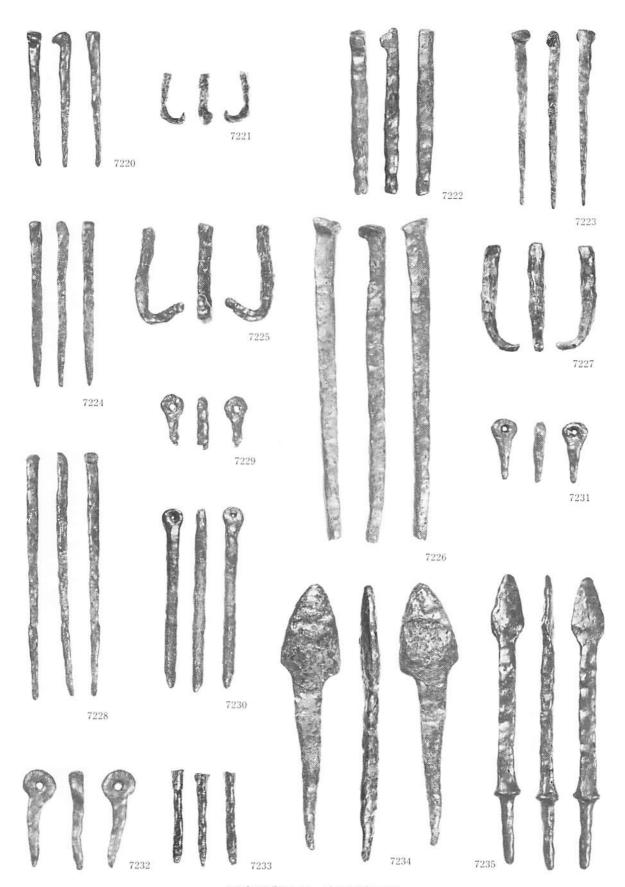
⑥ ⅢH0j C9b層(廃角)

⑤ IIHOj C6層(馬歯)

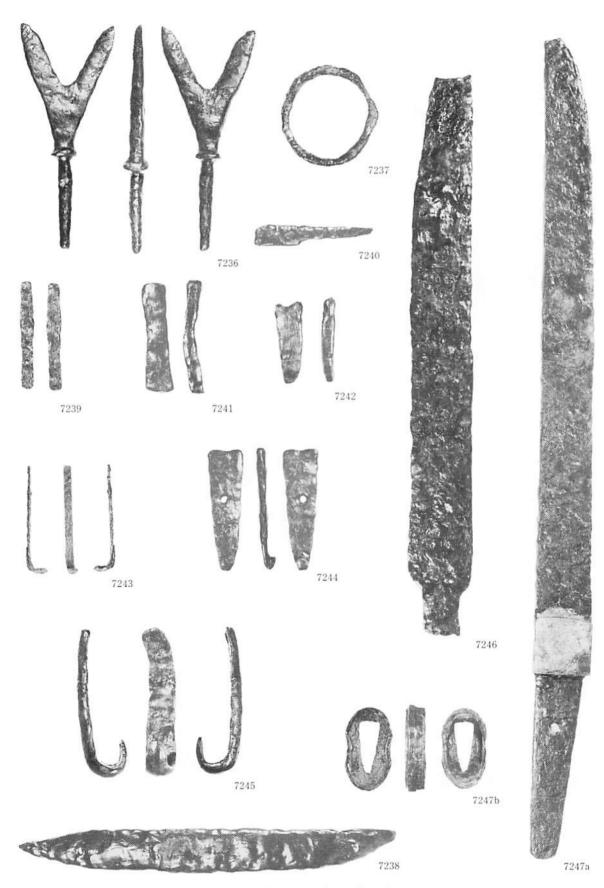
④ 19SD9埋土上部(馬歯) (ⅢH0j)



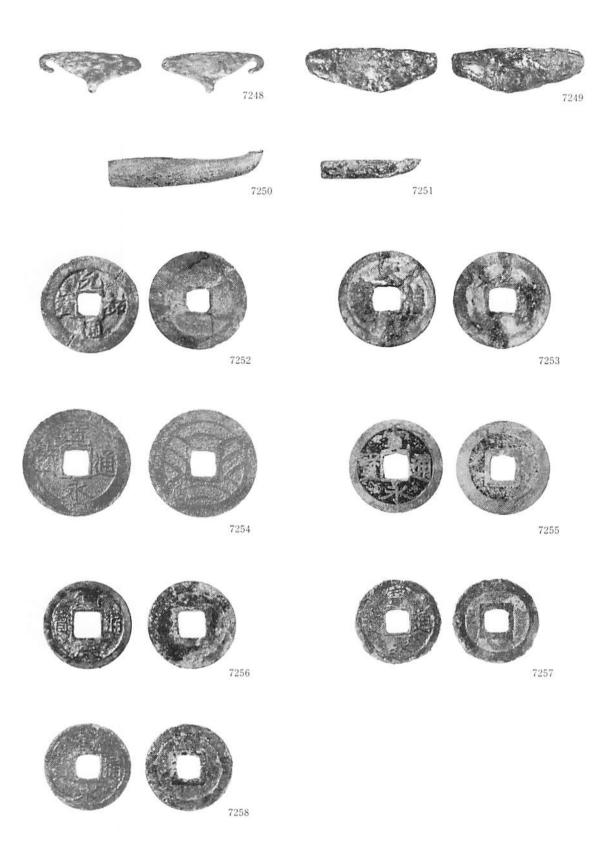
写真図版146 金属製品①



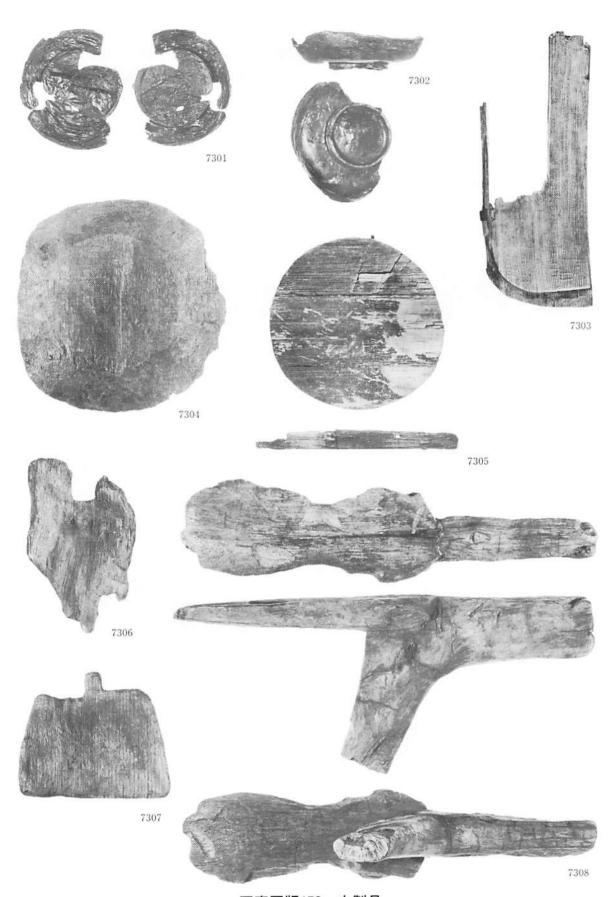
写真図版147 金属製品②



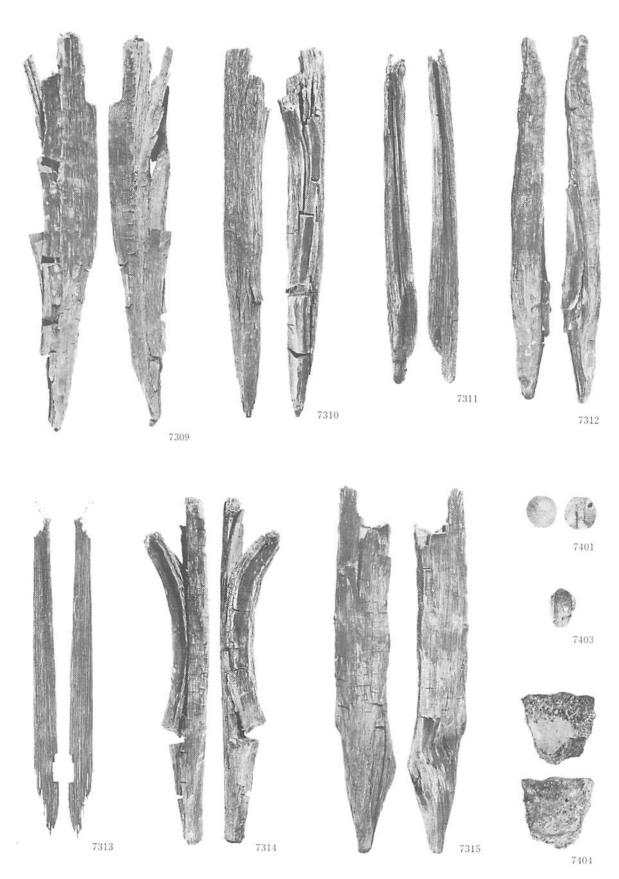
写真図版148 金属製品③



写真図版149 金属製品④



写真図版150 木製品



写真図版151 木杭・その他の遺物

報告 書抄録

	1										
ふり 7	が な	いずみやいせきだい16・19・21じはっくつちょうさほうこくしょ									
4 *	名	泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書									
副	名	中小河川改修事業関連遺跡発掘調査									
卷	次										
シリー	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書										
シリーズ番号		第399集									
粗 著 着	3 名	羽柴直人・佐々木務・濱田 宏・吉川 徹									
編集	曵 関	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター									
所 在	地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL (019) 638-9001									
発 行 年 月 日 西暦 2001年3月日											
ふりがな	な	7	コード		-de 199	con A Marino	and the total field	340 she rad 11 t			
所収遺跡名	所収遺跡名 所在地		村	遺跡番号	北భ	東経	調査期間 	調査面積	調査原因		
いずみでいまき、泉屋遺跡	おけてはないにはいかい 岩手県西磐井 は255年は1756年4 郡平泉ヤ かさいすみや 字泉屋27-8		2	NE76-1079	38度 58分 59秒	141度 7分 21秒	第16次 19960409~ 19960930 第19次 19990414~ 19991112 第21次 20000518~ 20001110	1,760 ㎡ 2,565 ㎡ 1,875 ㎡	一関遊水地事 業関連 太田川堤防工 事に伴う緊急 発掘調査		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な	遺物	特記事項			
泉屋遺跡 第16・19・21 次調査	都市	· 12世紀 · 縄文時代 (前·後· 晚期) · 9~10 世紀 · 13~14 世紀 · 16世紀 · 近世		竪穴住居跡 3 を 竪穴建物 2 を 掘建柱建物跡 86 井戸 23 土坑 94 溝跡 33 柱列 8 を 焼土 10 カマド状遺構 5 を 土器埋設遺構 2 を		国産陶器・中国産磁器 かわらけ・瓦・木製品 (曲物・木鍬ほか)・ 鉄製品(釘ほか)・漆器 土製品(土錘ほか)・ ガラス玉・中近世陶磁 器・縄文土器(前・後・ 晩期)・石器・動物依存 体・植物依存体など		 ・12世紀の大型建物 (16 S B 6)の検出 ・旧河道内に12世紀遺物包含層と整地層検出 ・旧河道内に大量の十和田 a 降下火山灰二次堆積層 ・中国産白磁四耳壷出土 ・ へどの装飾のある縄文後期末~ 晩期の遺物出土 			

(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所	长	水	村		昇	副 所 長	斑	橋	ĩF.	儀
〔管理 뙗	Ð									
課	長	韮	沢	īE	普	嘱 託	高	僑	摡	雄
課長者		山	崻	裢	光	"	加	藤	美代	子
# IC 11	ii) [:1.	Ш	景	直	关	"	湯	\mathcal{H}	邦	子
主	排	中	鹎	13		<i>"</i>	伊	糜	滋	子
± .	र्मुम									
CSER site date	AM Y					〔調査第二課〕				
〔調査第一			々木		朥	課長	高植		具右衛	iff
課			々木	iii	文	課 長 補 佐	1 1	Ш	Æ	紀
課長	甫 佐	高	楯	義	介					
"			山内		透	文化財專門員	金	十	佐知	
文化財專		吉	Ш		充	文化財調査員	赤	石		登
文化財概	查員	但			二郎	"	阿	部	眞	澄
"			々木	佄		4	飯	坂		A
"		早	坂		淳	"	鈴	木		明
"		小	松	训	也	"	久	慈		彦
"		金	野		進	"	濱	H		宏
"		野	中	笊	盛	"	安	藤	由紀	
"		金	子	113	彦	"	显			之
,		M	部	*	明	"	佐	藤	• •	-
,		阿	部	勝	則	4	*	澤		彦
		羽	柴	直	人	"	皆	Ш		香
"		高	木		晃	"	溜		浩二	
"		艮	村	兑	稔	"	丸	ılt		关
"		显		幸	文	期限付調査員	瓣	藤	麻紀	
"		杉	沢	昭力	と郎	"	吉	Ш		和
"		村	Ë	144.	拓	"	菊	池		賢
"		本	多	布-		"	立	花		裕
"		背	111	紀一	和	*	駒オ	で野		寛
"		西	澤	Æ	晴	"	原		美津	
"		村	木山	70"	敬	"	石	崎	髙	臣
"		福业	岛	Œ	和					
"		北	村	忠	昭					
"		八业	水	勝	枝					
"		米 丸	H	24-	寛					
,		北	ili H	浩	治					
,		鳥	原原	弘	勲征					
		中	村	松絵	美					
/ #0.002 / 1.560	-A+ 1.1	坂	部	忠	造					
期限付調	介 貝	奴要	地	257	川					
"		玉	ill I	健	— —					
"		古古	Ш	延 真由						
"		小	林	弘						
"		木	村村	ひか						
"		水藤	原	大	輔					
"		川	火	人	晋					
"		太田			彦					
"		江	藤		少教					
,,		立	花	公	衣志					
•		-16-	40	14	101					

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第399集

泉屋遺跡第16·19·21次発掘調査報告書

一関遊水地事業関連遺跡発掘調査

(第2分冊)

印刷 平成15年3月24日 発行 平成15年3月31日

- 発 行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
 - 〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

電 話 (019)638-9001

- 印 刷 小松総合印刷株式会社
 - 〒 020-0827 岩手県盛岡市鉈屋町15-4

電 話 (019)624-1374

